

仙台市文化財調査報告書第 281 集

洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第1分冊 本文編(1)

2005年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第281集

どう の くち
洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第1分冊 本文編(1)

2005年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市は豊かな自然に恵まれ、貴重な歴史遺産を数多く抱えた都市であります。確認されている遺跡は約800箇所のにのぼります。近年の市街地拡大に伴って周辺地域の開発が進みつつありますが、当教育委員会といたしましては皆様のご理解とご協力を得て、貴重な文化財を保存し、後世に伝えるべく努めているところであります。

本報告書は開発に先立ち実施した、洞ノ口遺跡の調査成果を収録しております。洞ノ口遺跡が位置する宮城野区岩切地区は、国史跡である岩切城跡をはじめとして、板碑群や石窟仏で著名な東光寺遺跡、鴻ノ巣遺跡、今市遺跡など中世の遺跡が密集する有数の地域として知られています。この一帯は、中世の多賀国府域に含まれるとも推測される極めて重要な地域であり、ここで実施された洞ノ口遺跡の調査成果は中世史の研究にとってきわめて貴重なものと言えましょう。

多くの研究者の注目する中で刊行されました本書が東北地方の中世史研究の一助となることを期待しておりますが、研究者のみならず市民の皆様にも大いに活用していただけますようお願いしております。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行まで多くの方々のご指導、ご協力をいただきましたことに対しまして、心より感謝申し上げます。今後とも文化財保護行政につきましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月

仙台市教育委員会
教育長 阿部芳吉

例 言

1. 本書は、仙台市教育委員会による洞ノ口遺跡第1次・第2次・第4次・第5次・第7次・第10次の発掘調査報告書である。本書の内容はすでに公開されている現地説明会資料や各種の発表会資料に優先する。

本書は第1分冊～第4分冊からなるが、各分冊の内容は以下の通りである。

第1分冊 本文編(1) 調査要項、立地と環境、第1次発掘調査1区～10区

第2分冊 本文編(2) 第1次発掘調査11区、第2次発掘調査、第4次発掘調査、第5次発掘調査、第7次発掘調査、第10次発掘調査、総括

第3分冊 写真図版編

第4分冊 自然科学分析編

2. 本書の執筆・編集は文化財課調査係（編集時は整備活用係）の平間亮輔が行なったが、自然化学分析の執筆に関しては次のように依頼した。

（第1次発掘調査）花粉分析 守田益宗、人骨分析 百々幸雄、獣骨分析 富岡直人、プラント・オパール・花粉・寄生虫卵・珪藻・種実分析 橿古環境研究所、鍛冶関連遺物・金属製品分析 川鉄テクノリサーチ株式会社、樹種同定・漆塗膜分析 ハリノ・サーヴェイ株式会社

（第2次発掘調査）人骨・獣骨分析 富岡直人

（第4次発掘調査）獣骨分析 富岡直人、火山灰・プラント・オパール・寄生虫卵分析 橿古環境研究所

（第10次発掘調査）プラント・オパール 橿古環境研究所

3. 石器・石製品の材質については東北大学名誉教授 蟹沢聰史氏に実現していただき、御教示を得た。陶器・磁器については仙台市博物館 佐藤洋氏に実現していただき、御教示を得た。瀬戸産陶器については瀬戸市埋蔵文化財センター副所長 藤澤良祐氏の御教示を得た。

4. 発掘調査および報告書作成にあたっては次の方々から御協力を受けた。

岩本貴、菅野正道、高橋あけみ、酒井昌一郎、田中則和、時枝務、藤沢典彦、横崎彰一、百瀬正恒、八重樫忠郎、仙台市岩切駅前土地区画整理組合（順不同・敬称略）

5. 本調査に係わる出土遺物・実測図・写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 土色については、「新版標準土色帖」小山・竹原：1976に準拠している。
2. 方位は真北を基準としている。
3. 座標値は平面直角座標系Xの数値で、単位はkmである。
4. 遺構の略称は以下の通りである。
SA：柱列跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：竪穴住居跡・竪穴遺構 SK：土坑
SL：土塁・土手 SM：火葬遺構 P：柱穴等のピット SR：河川跡 SX：その他の遺構
5. 遺構番号は、第1次調査については1区～11区の各區別に通し番号を付け、本文中の表記では10A-SB5や10B-SB5のように区名を入れて区別した。ただし、文中で繰り返す場合や図中の表示では区名は表記していない場合もある。また、城館に係わる大規模な堀と土塁についてはSD1001のように1000番台の番号で区別し、各区名は表記していない。なお、遺構数が少ない土手（SL）についても全区を通した番号としている。第2次調査以降は各調査次数別に通して付けた。
6. 各表中の「+」の付いた数値はそれ以上であることを示し、（ ）が付いた数値は復元推定値である。
7. 掘立柱建物跡模式図中の明朝体の数字はピット番号、ゴシック体の数字は柱間隔（cm）を示す。
8. 掘立柱建物跡計測表のピットの大きさ、深さの単位はcmである。
9. 遺物の登録記号は以下の通りである。
A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器
E：須恵器 F：丸瓦 G：平瓦 Ia：土師質土器 Ib：瓦質土器 Ic：陶器 J：磁器
K：石器・石製品 L：木製品 Na：鉄製品 Nb：銅製品・その他金属製品 P：土製品
Q：骨角製品・自然遺物
なお、登録番号は各調査次数別に付けている。
10. 遺物実測図において、中心線を一点鎖線で示したものは図上復元したことを示している。
11. 遺物実測図の上師器・瓦質土器などの黒色処理、漆やタール状の付着物、木製品の焼け焦げ、漆器の漆の色調の違いなどはそれぞれ異なる種類の網点で区別した。
12. 木製品の断面図中の弧線・同心円は年輪方向を模式的に示したもので、年輪の間隔は任意である。
13. 遺物観察表中の白針は白色針状物質（海綿状動物骨針）を意味する。

目 次

序 説		
I 調査要項	1
II 立地と環境	1
第1編 第1次発掘調査	5
第1章 はじめに	5
第1節 調査方法	5
第2節 基本層序	9
第2章 1～8区の調査	16
第1節 3a層水田跡	16
第2節 3b層水田跡	24
第3節 4a層水田跡	29
第4節 4b層水田跡	34
第5節 5a層水田跡	42
第6節 5b層水田跡	50
第7節 6a層水田跡	58
第8節 6b層水田跡	66
第9節 出土遺物	71
第3章 9区の調査	77
第1節 III層の遺構と3a層水田跡	77
第2節 IVa層の遺構(1) - IVa4期	80
第3節 IVa層の遺構(2)と4b層水田跡 - IVa3期	90
第4節 IVa層の遺構(3) - IVa2期	98
第5節 IVa層の遺構(4) - IVa1期	106
第6節 IVb層の遺構(1)と5a層水田跡 - IVb2期	107
第7節 IVb層の遺構(2)と5b層水田跡 - IVb1期	112
第8節 Va層と6a層の遺構	118
第9節 Vb層の遺構と6b層水田跡	120
第10節 VI層と7層の遺構	122
第11節 9区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	126
第4章 10区の調査	132
第1節 III層の遺構	132
第2節 IVa層の遺構(1) - IVa3・4期	155
第3節 IVa層の遺構(2) - IVa1・2期	206
第4節 IVb層の遺構(1) - IVb2期	251
第5節 IVb層の遺構(2) - IVb1期	264
第6節 Va層と6a層の遺構	270
第7節 Vb層・Vc層・VI層の遺構	276
第8節 10区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	290
第5章 11区の調査	第2分冊 1
第2編 第2次発掘調査	第2分冊 213
第3編 第4次発掘調査	第2分冊 283
第4編 第5次発掘調査	第2分冊 349
第5編 第7次発掘調査	第2分冊 361
第6編 第10次発掘調査	第2分冊 391
第7編 総括	第2分冊 401

挿 図 目 次

第1図	遺跡周辺の地形分類図	2	第48図	6Ic	4b層水田跡平面図	39	
第2図	周辺の遺跡	3	第49図	7区	4b層水田跡平面図	39	
第3図	調査区・グリッド設定図	7・8	第50図	8B区	東壁断面図	39	
第4図	基本層序柱状図	10	第51図	8Fc	4b層水田跡平面図	40	
第5図	遺跡地形図	11・12	第52図	SD1001	断面図	40	
第6図	基本層序模式図	15	第53図	8A-SK4、8C-SD1	平面・断面図	41	
第7図	1区 北壁断面図	16	第54図	1・2区	5a層水田跡平面図	42	
第8図	1・2区 3a層水田跡平面図	16	第55図	1-SK4	平面・断面図	42	
第9図	3a層水田跡全体図	17	第56図	5a層水田跡全体図	43		
第10図	1-SK1・3平面・断面図	18	第57図	3区	5a層水田跡平面図	44	
第11図	3区 3a層水田跡平面図	18	第58図	4Fc	北壁断面図	44	
第12図	4Fc	3a層水田跡平面図	19	第59図	4Lc	5a層水田跡平面図	45
第13図	4-SK1~3	平面・断面図	19	第60図	5区	5a層水田跡平面図	45
第14図	5区 3a層水田跡平面図、 5B-SK1	平面・断面図	20	第61図	5A-SD2	平面・断面図	46
第15図	6BIc	3a層水田跡平面図	21	第62図	6Fc	5a層水田跡平面図	47
第16図	7区	西壁断面図	21	第63図	7区	西壁断面図	48
第17図	7区	3a層水田跡平面図	21	第64図	7区	5a層水田跡平面図	48
第18図	7-SK3	平面・断面図	22	第65図	8区	5a層水田跡平面図	49
第19図	8C区	東壁断面図	22	第66図	8A-SK5・6	平面・断面図	49
第20図	8A-SK1・2	平面・断面図	23	第67図	1・2区	5b層水田跡平面図	50
第21図	8区	3a層水田跡平面図	23	第68図	5b層水田跡全体図	51	
第22図	8B-SB1	平面・断面図	23	第69図	2B-SK2	平面・断面図	52
第23図	2B-SD1	断面図	24	第70図	3Lc	5b層水田跡平面図	52
第24図	2区	3b層水田跡平面図	24	第71図	3A-SK1	平面・断面図	53
第25図	3b層水田跡全体図	25	第72図	3A-SD1	平面・断面図	54	
第26図	3BIc	3b層水田跡平面図	26	第73図	5Fc	5b層水田跡平面図	55
第27図	4Lc	3b層水田跡平面図	26	第74図	5CLc	東壁断面図	55
第28図	6区	3b層水田跡平面図	27	第75図	6B-SK1・2	平面・断面図	55
第29図	7区	3b層水田跡平面図	27	第76図	6区	5b層水田跡平面図	55
第30図	8C-SK2	平面・断面図	28	第77図	7Fc	5b層水田跡平面図	56
第31図	8区	3b層水田跡平面図	28	第78図	8区	5b層水田跡平面図	56
第32図	2A区	東壁断面図	29	第79図	2A区	東壁断面図	58
第33図	2区	4a層水田跡平面図	29	第80図	1・2区	6a層水田跡平面図	58
第34図	3AIc	4a層水田跡平面図	30	第81図	6a層水田跡全体図	59	
第35図	6区	4a層水田跡平面図	30	第82図	1-SX1	平面・断面図	60
第36図	6B区	西壁断面図	30	第83図	3区	6a層水田跡平面図	60
第37図	4a層水田跡全体図	31	第84図	3A-SD2	平面・断面図	61	
第38図	8A区北壁・8C区東壁	断面図	32	第85図	4Fc	6a層水田跡平面図	61
第39図	8C-SK3	平面・断面図	33	第86図	5BIc	西壁断面図	62
第40図	8C-SK1	平面・断面図	33	第87図	5Lc	6a層水田跡平面図	62
第41図	8区	4a層水田跡平面図	33	第88図	5A-SD3・4	平面・断面図	63
第42図	4区	4b層水田跡平面図	34	第89図	6区	6a層水田跡平面図	64
第43図	4b層水田跡全体図	35	第90図	7Fc	6a層水田跡平面図	64	
第44図	5BIc	西壁断面図	36	第91図	8Ic	6a層水田跡平面図	65
第45図	5区	4b層水田跡平面図	36	第92図	4区	6b層水田跡平面図	66
第46図	5A-SD1	平面・断面図	37	第93図	6b層水田跡全体図	67	
第47図	5A-SK2、5B-SK2・3	平面・断面図	38	第94図	5区	6b層水田跡平面図	68
				第95図	6A区	北壁断面図	69

第96図	6区 6b層水田跡平面図	69	第137図	9B-SD12B・25、 9C-SD7、SL9・10平面図	104
第97図	7区 6b層水田跡平面図	69	第138図	9B-SD25、SL8断面図	104
第98図	8区 6b層水田跡平面図	70	第139図	SL1001・6・9、9C-SD13断面図	104
第99図	1~8区基本層・水田跡出土遺物(1)	71	第140図	9B-SD12A・12B断面図	105
第100図	1~8区基本層・水田跡出土遺物(2)	72	第141図	9B-SD12A・12B・25出土遺物	105
第101図	1~8区基本層・水田跡出土遺物(3)	73	第142図	9B-SD14A・14B断面図	106
第102図	1~8区基本層・水田跡出土遺物(4)	74	第143図	9B-SD14A・14B・15A・15B平面図	106
第103図	1~8区の遺構出土遺物	75	第144図	9B-SD14B断面図	107
第104図	9A-SD2、9B-SD2出土遺物	77	第145図	9B-SD15A・15B断面図	107
第105図	Ⅲ層~3a層水田跡平面図	78	第146図	9A~9B区・9D区 IVb層上面平面図 (IVb2期)	108
第106図	9B~9C区西部 Ⅲ層上面平面図、溝跡断面図	79	第147図	9A-SD10・13断面図	108
第107図	SL1001、9B-SD5~7・11、9C-SD3 平面・断面図	80	第148図	9A-SK1、SD14平面・断面図	108
第108図	9A~9B区・9D区 IVa層上面平面図 (IVa4期)	81	第149図	9C区 5a層水田跡平面図	109
第109図	9A区西部・9D区 IVa層上面平面図 (IVa4期)、 9A-SD2断面図、SX1-2平面図	82	第150図	9B-SI 1、SD16~20、SK5平面・断面図	109
第110図	SL1001出土遺物	83	第151図	IVb層の遺構出土遺物	110
第111図	SD1001出土遺物(1)	84	第152図	9C-SK5平面・断面図	111
第112図	SD1001出土遺物(2)	85	第153図	9D-SK2平面・断面図	111
第113図	SD1001出土遺物(3)	86	第154図	9A~9B区・9D区 IVb層上面平面図 (IVb1期)	112
第114図	SD1001出土遺物(4)	87	第155図	9A-SF1平面・断面図	112
第115図	SD1001出土遺物(5)	88	第156図	9C区 5b層水田跡平面図	113
第116図	SD1001出土遺物(6)	89	第157図	9C-SK4平面・断面図	113
第117図	9A~9B区・9D区 IVa層上面平面図 (IVa3期)	90	第158図	9A-SB1、SA1平面・断面図	114
第118図	9C区 IVa層上面~4b層水田跡平面図 (IVa3期)	91	第159図	9B-SI 2、SK6平面・断面図	116
第119図	SD1001A・1001B断面図	92	第160図	9B-SK7・8、9C-SK9平面・断面図、 9B-SD38断面図	117
第120図	9B-SD13、9B-SK4断面図	92	第161図	9A~9C区西部、 9D区 Va層上面平面図	118
第121図	9A区東部~9C区西部 IVa層上面平面図 (IVa3期)、SL1001~SD1001断面図	93-94	第162図	9B-SD26・39断面図	118
第122図	9A-SD7・8、SL4・5平面・断面図	95	第163図	9C-SK6平面・断面図	118
第123図	9A-SD7・8出土遺物	96	第164図	9C区 6a層上面平面図	119
第124図	9A-SD4断面図	97	第165図	Va層の遺構出土遺物	119
第125図	9B-SD8~10、SX1断面図	97	第166図	9A-SD15断面図	120
第126図	9C-SD5断面図	97	第167図	9C-SK8平面・断面図	120
第127図	9A~9C区西部・9D区 IVa層上面平面図 (IVa2期)	98	第168図	9B-SD33~35平面・断面図	121
第128図	9A-SD9平面・断面図、 9A-SD11・12平面図	99	第169図	9A~9B区・9D区 Vc層・VI層・7層上面平面図	122
第129図	9A-SD9板塔婆出土状況	100	第170図	9C区 7層上面平面図	123
第130図	9A-SD9・11断面図	100	第171図	9B-SK27平面・断面図	123
第131図	9A-SD11断面図	100	第172図	9B-SD36・37平面・断面図	123
第132図	9A-SD9出土遺物	101	第173図	9A-SD16~21断面図	124
第133図	9C-SD6・7出土遺物	102	第174図	9A区西部・9D区 VI層上面平面図	124
第134図	9B-SD12A、9C-SD6、SL6~8平面図	103	第175図	Vb層・VI層・6b層の遺構出土遺物	125
第135図	9C-SD6・7断面図	103	第176図	9区基本層出土遺物(1)	129
第136図	SL1001・6・7・9・10断面図	103	第177図	9区基本層出土遺物(2)	130
			第178図	9区基本層出土遺物(3)	131
			第179図	10A区 Ⅲ層上面平面図	132
			第180図	10A-SK1平面・断面図	132
			第181図	10B区 Ⅲ層上面平面図	133

第182図	10B-SK1~3平面・断面図	133	第224図	10B区東部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)、SD1006断面図	170
第183図	10C区 III層上面平面図、10C-SK1・2平面・断面図	134	第225図	10C区西部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)	171
第184図	10D~10E区 III層上面平面図、10F-SK1~4平面図	135	第226図	SD1003軀状施設平面図	171
第185図	10A~10B区 III層上面、IVa層上面(IVa3・4期)、IVa層上面(IVa1・2期)平面図	136	第227図	SD1006出土遺物(1)	172
第186図	10C~10E区 III層上面、IVa層上面(IVa3・4期)、IVa層上面(IVa1・2期)平面図	137・138	第228図	SD1006出土遺物(2)	173
第187図	10C~10E区の遺構出土遺物	139	第229図	SD1003出土遺物(1)	174
第188図	10E-SK27平面・断面図	139	第230図	SD1003出土遺物(2)	175
第189図	10E-SK5・6平面・断面図	139	第231図	SD1003出土遺物(3)	176
第190図	10E-SK7・8平面・断面図	140	第232図	SD1003出土遺物(4)	177
第191図	10E-SK8出土遺物	141	第233図	10B-SE1・2・4~6平面・断面図	178
第192図	10E-SK5~7出土遺物	142	第234図	10C-SK7・8・17・18平面・断面図	178
第193図	10E-SK9出土遺物	143	第235図	10B-SE2・4・5出土遺物	179
第194図	10E-SK9・11・13・18・22・24平面図	144	第236図	10B-SK6・9~14・16平面・断面図	180
第195図	10E-SK9・11・13・18・22断面図	145	第237図	10B-SK14・16・17出土遺物	181
第196図	10E-SK12平面・断面図	145	第238図	SD1004B・C出土遺物(1)	182
第197図	10E-SK11出土遺物	146	第239図	10C区東部~10D区西部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)、SD1004・SD1007断面図	183・184
第198図	10F-SK13出土遺物	147	第240図	SD1004B・C出土遺物(2)	185
第199図	10E-SK22出土遺物	148	第241図	SD1004B・C出土遺物(3)	186
第200図	10E-SK10出土遺物	149	第242図	SD1004B・C出土遺物(4)	187
第201図	10E-SK10・14~16・25平面・断面図	150	第243図	SD1007出土遺物	188
第202図	10F-SK14~16出土遺物	151	第244図	10C-SE1・2、10D-SE1平面・断面図	191
第203図	10E-SK25出土遺物(1)	152	第245図	10D-SK1平面・断面図	192
第204図	10E-SK25出土遺物(2)	153	第246図	10D-SK1、SE1、ビット出土遺物	193
第205図	10E-SK23平面・断面図	154	第247図	10E-SK17・19平面・断面図	195
第206図	10F-SK23出土遺物	154	第248図	10D区東部~10E区西部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)、SD1005A・D断面図	196
第207図	10A区西部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)	156	第249図	10E区東部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)、SD1005C・1015断面図	197
第208図	10A区東部~10B区西部 IVa層上面平面図(IVa3・4期)	157	第250図	SD1005出土遺物(1)	198
第209図	10A-SK2・7・12平面・断面図、SD1008断面図	157	第251図	SD1005出土遺物(2)	199
第210図	SD1001断面図(1)	158	第252図	SD1005出土遺物(3)	200
第211図	SD1001出土遺物(1)	158	第253図	SD1005出土遺物(4)	201
第212図	SD1001断面図(2)	159	第254図	SD1015出土遺物	202
第213図	SD1001出土遺物(2)	160	第255図	SD1015、SK17出土遺物	203
第214図	SD1002出土遺物(1)	161	第256図	10D-SE4、10E-SE2・3平面・断面図	204
第215図	SD1002出土遺物(2)	162	第257図	10E-SE2出土遺物	205
第216図	SD1002出土遺物(3)	163	第258図	10A区東部~10B区西部 IVa層上面平面図(IVa1・2期)	206
第217図	SD1008出土遺物(1)	164	第259図	10B区東部 IVa層上面平面図(IVa1・2期)	207
第218図	SD1008出土遺物(2)	165	第260図	10A-SB25・30出土遺物	209
第219図	10A-SK13~29平面・断面図	166	第261図	10B-SE3、SK8平面・断面図	210
第220図	10A-SK13~15・18・24出土遺物	167	第262図	10B-SK8出土遺物	210
第221図	10B-SK17~19平面・断面図	168	第263図	10C区西部 IVa層上面平面図(IVa1・2期)	211
第222図	10A区ビット(10A-SB3)出土遺物	168	第264図	9B-SD15、10C-SD15出土遺物	212
第223図	SD1003断面図	169	第265図	10C-SK19平面・断面図	213

第266図	SD1004A土留め施設平面図、 10C-S E3・5平面・断面図	213	第304図	10A~10B区西部 IVb層上面平面図 (IVb2期)	252
第267図	10C区東部~10D区西部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、 SD1004A~C断面図	214	第305図	10B-S D3・6断面図	252
第268図	10D区 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、 SD1004A~C断面図	215	第306図	10B区東部 IVb層上面平面図 (IVb2期)	253
第269図	10C-S D15断面図	216	第307図	10C区西部IVb層上面平面図 (IVb2期)、 10C-S D18・19・21・42断面図	256
第270図	SD1004A出土遺物1)	217	第308図	10C区東部~10D区西部 IVb層上面 平面図 (IVb2期)、10C-S D18・ 22・28・30・33・35断面図	257
第271図	SD1004A出土遺物2)	218	第309図	10C-S D12・21~23・29断面図、 10C-S E4・7・8、10D-S K6平面・断面図	258
第272図	SD1004A出土遺物3)	219	第310図	10D区東部~10E区西部 IVb層上面平面図 (IVb2期)、10D-S D8~10断面図	259
第273図	SD1004A出土遺物4)	220	第311図	10D-S K4・5・7平面・断面図	260
第274図	SD1004A出土遺物5)	221	第312図	10D-S K4出土遺物	261
第275図	SD1004A出土遺物6)	222	第313図	IVb2期の遺構出土遺物	262
第276図	SD1004A出土遺物7)	223	第314図	10E区東部 IVb層上面平面図 (IVb2期)	263
第277図	10D-S E2・3・5~7平面・断面図	224	第315図	10A~10B区 IVb層上面平面図 (IVb1期)	264
第278図	10C-S E3出土遺物	225	第316図	10C~10E区 IVb層上面平面図 (IVb1期)	265
第279図	10D区東部~10E区西部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)	226	第317図	10A区東部~10B区西部 IVb層上面平面図 (IVb1期)	266
第280図	SD1005C出土遺物	226	第318図	10B区東部~10C区西部 IVb層上面平面図 (IVb1期)、 10B-S D2断面図	267
第281図	10E区東部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、 10E-S E1平面・断面図、10E-S D8断面図	227	第319図	10C区 IVb層上面平面図 (IVb1期)	269
第282図	10E-S D8出土遺物1)	228	第320図	IVb1期の遺構出土遺物	269
第283図	10E-S D8出土遺物2)	229	第321図	10A~10E区 Va層上面平面図	270
第284図	10E-S D8出土遺物3)	230	第322図	10A区東部~10B区西部 Va層上面平面図、小溝群断面図	271
第285図	10E-S D8出土遺物4)	231	第323図	10C区西部 Va層上面平面図、 10C-S K24平面・断面図	272
第286図	10E-S D8出土遺物5)	232	第324図	10D区東部~10E区西部 Va層上面平面図 10D-S K8平面・断面図	273
第287図	10E-S D8出土遺物6)	233	第325図	10E区東部 6a層上面平面図	274
第288図	10E-S D8出土遺物7)	234	第326図	Va層の遺構出土遺物	275
第289図	10E-S D8出土遺物8)	235	第327図	10A~10B区 Vb層・Vc層・VI層上面平面図	276
第290図	10E-S D8出土遺物9)	236	第328図	10C~10E区 Vb層・Vc層・VI層上面平面図	277
第291図	板塔婆・枠の復元図	237	第329図	Vb層・Vc層・VI層の遺構出土遺物	277
第292図	10E-S D8出土遺物0)	238	第330図	10A区 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、 10A-S D10~12・14断面図	278
第293図	10E-S D8出土遺物1)	240	第331図	10A区東部~10B区西部 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、 10B-S D11断面図	279
第294図	10E-S D8出土遺物2)	241	第332図	10A-S I1・2平面・断面図	280
第295図	10E-S D8出土遺物3)	242			
第296図	10E-S D8出土遺物4)	244			
第297図	10E-S D8出土遺物20 柿経(6)	245			
第298図	10E-S D8出土遺物39 柿経(5)	246			
第299図	10E-S D8出土遺物48 柿経(4)	247			
第300図	10E-S D8出土遺物7 柿経(3)	248			
第301図	10E-S D8出土遺物6 柿経(2)	249			
第302図	10E-S D8出土遺物5 柿経(1)	250			
第303図	10A~10E区 IVb層上面平面図 (IVb2期)	251			

第333図	10A-SB18・19、10B-SB33平面図	281
第334図	10B区東部 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、 10B-SB20・21・32・34、 10C-SK9平面・断面図	282
第335図	10C区西部 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、 9B-SD34・36、10B-SD10断面図	283
第336図	10C-SK10・11・21・23平面・断面図 10C-SD16・33断面図	284
第337図	10C区東部～10D区西部 Vc層・VI層上面平面図、 10C-SD35、SK5・12・15・16 平面・断面図	286
第338図	10D区東部 Vc層・VI層上面平面図	287
第339図	10D-SK9平面・断面図、 10D-SD12・14・16・17断面図	288

第340図	10E区西部 Vc層・VI層上面平面図 10E-SK39・40平面・断面図	289
第341図	10AE 基本層出土遺物(1)	291
第342図	10AE 基本層出土遺物(2)	292
第343図	10AE 基本層出土遺物(3)	293
第344図	10AE 基本層出土遺物(4)	294
第345図	10BE 基本層出土遺物(1)	296
第346図	10BE 基本層出土遺物(2)	297
第347図	10BE 基本層出土遺物(3)	298
第348図	10CE 基本層出土遺物(1)	300
第349図	10CE 基本層出土遺物(2)	301
第350図	10CF 基本層出土遺物(3)	302
第351図	10DE 基本層出土遺物(1)	303
第352図	10DE 基本層出土遺物(2)	304
第353図	10FF 基本層出土遺物(1)	306
第354図	10EE 基本層出土遺物(2)	307

挿 表 目 次

表1	周辺の遺跡地名表	3
表2	1・2区 3a層水田跡畦畔計測表	16
表3	1・2区 3a層水田跡水田区西計測表	16
表4	3A区 3a層水田跡畦畔計測表	18
表5	3区 3a層水田跡水田区西計測表	18
表6	4区 3a層水田跡畦畔計測表	19
表7	4区 3a層水田跡水田区西計測表	19
表8	5区 3a層水田跡畦畔計測表	20
表9	5区 3a層水田跡水田区西計測表	20
表10	6B区 3a層水田跡畦畔計測表	21
表11	6B区 3a層水田跡水田区西計測表	21
表12	7区 3a層水田跡畦畔計測表	21
表13	7区 3a層水田跡水田区西計測表	21
表14	8区 3a層水田跡畦畔計測表	22
表15	8区 3a層水田跡水田区西計測表	22
表16	2区 3b層水田跡畦畔計測表	24
表17	2区 3b層水田跡水田区西計測表	24
表18	3B区 3b層水田跡畦畔計測表	26
表19	4区 3b層水田跡畦畔計測表	26
表20	3B区 3b層水田跡水田区西計測表	26
表21	4区 3b層水田跡水田区西計測表	26
表22	6B区 3b層水田跡畦畔計測表	27
表23	7区 3b層水田跡畦畔計測表	27
表24	6B区 3b層水田跡水田区西計測表	27
表25	7区 3b層水田跡水田区西計測表	27
表26	8区 3b層水田跡畦畔計測表	28
表27	8区 3b層水田跡水田区西計測表	28
表28	2区 4a層水田跡畦畔計測表	29
表29	2区 4a層水田跡水田区西計測表	29
表30	3A区 4a層水田跡畦畔計測表	30

表31	3A区 4a層水田跡水田区西計測表	30
表32	6区 4a層水田跡畦畔計測表	30
表33	6区 4a層水田跡水田区西計測表	30
表34	8区 4a層水田跡畦畔計測表	32
表35	8区 4a層水田跡水田区西計測表	32
表36	4区 4b層水田跡畦畔計測表	34
表37	4区 4b層水田跡水田区西計測表	34
表38	5区 4b層水田跡畦畔計測表	36
表39	5区 4b層水田跡水田区西計測表	36
表40	6区 4b層水田跡畦畔計測表	39
表41	7区 4b層水田跡畦畔計測表	39
表42	6区 4b層水田跡水田区西計測表	39
表43	7区 4b層水田跡水田区西計測表	39
表44	8区 4b層水田跡畦畔計測表	41
表45	8区 4b層水田跡水田区西計測表	41
表46	1・2区 5a層水田跡畦畔計測表	42
表47	1・2区 5a層水田跡水田区西計測表	42
表48	3区 5a層水田跡畦畔計測表	44
表49	3区 5a層水田跡水田区西計測表	44
表50	4区 5a層水田跡畦畔計測表	45
表51	4区 5a層水田跡水田区西計測表	45
表52	5区 5a層水田跡畦畔計測表	46
表53	5区 5a層水田跡水田区西計測表	46
表54	6区 5a層水田跡畦畔計測表	47
表55	6区 5a層水田跡水田区西計測表	47
表56	7区 5a層水田跡畦畔計測表	48
表57	7区 5a層水田跡水田区西計測表	48
表58	8区 5a層水田跡畦畔計測表	48
表59	8区 5a層水田跡水田区西計測表	48
表60	1・2区 5b層水田跡畦畔計測表	50

表61	1·2区	5b層水田跡水田区画計測表	50	表87	5区	6b層水田跡畔計測表	68
表62	3区	5b層水田跡畔計測表	53	表88	5区	6b層水田跡水田区画計測表	68
表63	3区	5b層水田跡水田区画計測表	53	表89	6区	6b層水田跡水田区画計測表	69
表64	5区	5b層水田跡畔計測表	55	表90	7区	6b層水田跡水田区画計測表	69
表65	6区	5b層水田跡畔計測表	57	表91	6区	6b層水田跡畔計測表	70
表66	6区	5b層水田跡水田区画計測表	57	表92	7区	6b層水田跡畔計測表	70
表67	7区	5b層水田跡畔計測表	57	表93	8区	6b層水田跡畔計測表	70
表68	7区	5b層水田跡水田区画計測表	57	表94	8区	6b層水田跡水田区画計測表	70
表69	8区	5b層水田跡畔計測表	57	表95	1区	遺物集計表	74
表70	8区	5b層水田跡水田区画計測表	57	表96	2区	遺物集計表	75
表71	2区	6a層水田跡畔計測表	58	表97	3区	遺物集計表	75
表72	1·2区	6a層水田跡水田区画計測表	58	表98	4区	遺物集計表	75
表73	3B区	6a層水田跡畔計測表	60	表99	5区	遺物集計表	76
表74	3B区	6a層水田跡水田区画計測表	60	表100	6区	遺物集計表	76
表75	4区	6a層水田跡畔計測表	61	表101	7区	遺物集計表	76
表76	4区	6a層水田跡水田区画計測表	61	表102	8区	遺物集計表	76
表77	5区	6a層水田跡畔計測表	62	表103	9A区	遺物集計表	126
表78	5区	6a層水田跡水田区画計測表	63	表104	9B区	遺物集計表	127
表79	6区	6a層水田跡畔計測表	64	表105	9C区	遺物集計表	128
表80	7区	6a層水田跡畔計測表	64	表106	9D区	遺物集計表	128
表81	6区	6a層水田跡水田区画計測表	64	表107	10A区	遺物集計表	290
表82	7区	6a層水田跡水田区画計測表	64	表108	10B区	遺物集計表	295
表83	8区	6a層水田跡畔計測表	65	表109	10C区	遺物集計表	299
表84	8区	6a層水田跡水田区画計測表	65	表110	10D区	遺物集計表	302
表85	4区	6b層水田跡畔計測表	66	表111	10F区	遺物集計表	305
表86	4区	6b層水田跡水田区画計測表	66				

序 説

I 調査要項

遺 跡 名	洞ノ口遺跡（仙台市文化財登録番号C-304、宮城県遺跡登録番号01372）
所 在 地	仙台市宮城野区岩切字洞ノ口・洞ノ口東・児玉・青津日・分台
調査面積	第1次発掘調査 15,300㎡、第2次発掘調査 686㎡、第4次発掘調査 1,673㎡、第5次発掘調査 393㎡、第7次発掘調査 370㎡、第10次発掘調査 245㎡
調査期間	第1次発掘調査 平成4年6月29日～8月24日（試掘調査） 平成4年8月25日～平成5年1月14日（1～3・5区） 平成5年4月7日～12月20日（4・6～9区） 平成6年4月5日～12月26日（10区） 平成7年3月6日～10月9日（11区） 第2次発掘調査 平成11年9月6日～12月24日 第4次発掘調査 平成12年4月18日～12月27日 第5次発掘調査 平成13年4月12日～7月3日 第7次発掘調査 平成13年11月27日～平成14年3月11日 第10次発掘調査 平成15年8月22日～10月17日
整理期間	平成14年4月9日～平成16年3月31日
調査原因	第1次調査 土地区画整理、第2・4・5・7・10次調査 道路建設工事（泉塩釜線、利府岩切停車場線）
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
担当職員	第1次発掘調査 主任 佐藤洋（4・6～10区）、主事 平間亮輔（試掘・1～11区）、佐藤淳（10・11区） 教諭 菅原裕樹（試掘・1～3・5区）、神成浩志（2・3・5区）、熊谷裕行（4・6・8区） 豊村幸彦（11区） 第2次発掘調査 主任 工藤哲司、渡部弘美、主事 平間亮輔、文化財教諭 吉田和正 第4次発掘調査 主事 平間亮輔、文化財教諭 吉田和正、嘱託 森 剛男 第5次発掘調査 主事 平間亮輔、文化財教諭 村上秀樹 第7次発掘調査 主事 平間亮輔、文化財教諭 加藤徳明 第10次発掘調査 主任 斎野裕彦、山武考古学研究所 上生朗治、大橋忠昭

II 立地と環境

1. 遺跡の概要

平成4年から開始される調査以前、洞ノ口地区には畑の中に細長い水田や湿地が縦横に残っており、館の堀跡の痕跡が地表面で確認できる遺跡として知られていた。調査の結果、地表面で認められた堀跡の痕跡は実際に戦国時代の城館の堀跡であることが確認された。この城館は室町時代に作られた屋敷が発達したものであるが、さらに下層では鎌倉～南北朝期の屋敷、古代の居住域や畑跡、古墳時代と考えられる水田跡も確認された。一方、遺跡北東部に広がる後背湿地では古代～近世の水田跡が重層的に認められている。



第1図 遺跡周辺の地形分類図 (1/100,000)
※松本 (1994) を基に作成

■ 浜堤列
■ 自然堤防
□ 後背湿地

2. 地理的環境

洞ノ口遺跡は仙台市の北東部、JR岩切駅の北側に位置し、七北田川北岸の自然堤防上から後背湿地にかけて地味している。遺跡範囲は利府バイパスから東北新幹線の間にかけて、南西から北東方向に幅500～600m、長さ1kmに及ぶ。標高は自然堤防上が7～8m、後背湿地部分が5～7mで、南西から北東方向に向けて徐々に低くなっている。調査以前は自然堤防上が宅地と畑、後背湿地部分は水田として利用されていた。

七北田川は富谷丘陵と七北田丘陵の間の谷底平野を東流しているが、岩切地区はちょうど七北田川が谷底平野から海岸平野に流れ出る場所にあたる。現在の七北田川は岩切から下流では南西方向に流れるが、堤防が整備される以前は砂押川と共に流路が一定せず、洞ノ口遺跡の下流の地域は洪水時には常に冠水する広大な湿地帯であったと想定されている(註1)。このことを、平野の陸上交通路の視点から見ると、海岸平野を通る南北の交通路が七北田川を渡る場所は洪水の危険性の高い下流部ではなく、岩切付近が最適であると言える。また、東方の浜浜に向かう水上交通路も想定されており(註2)、この地区は陸上と水上の交通路が交差する交通の要衝であるとされてきた。

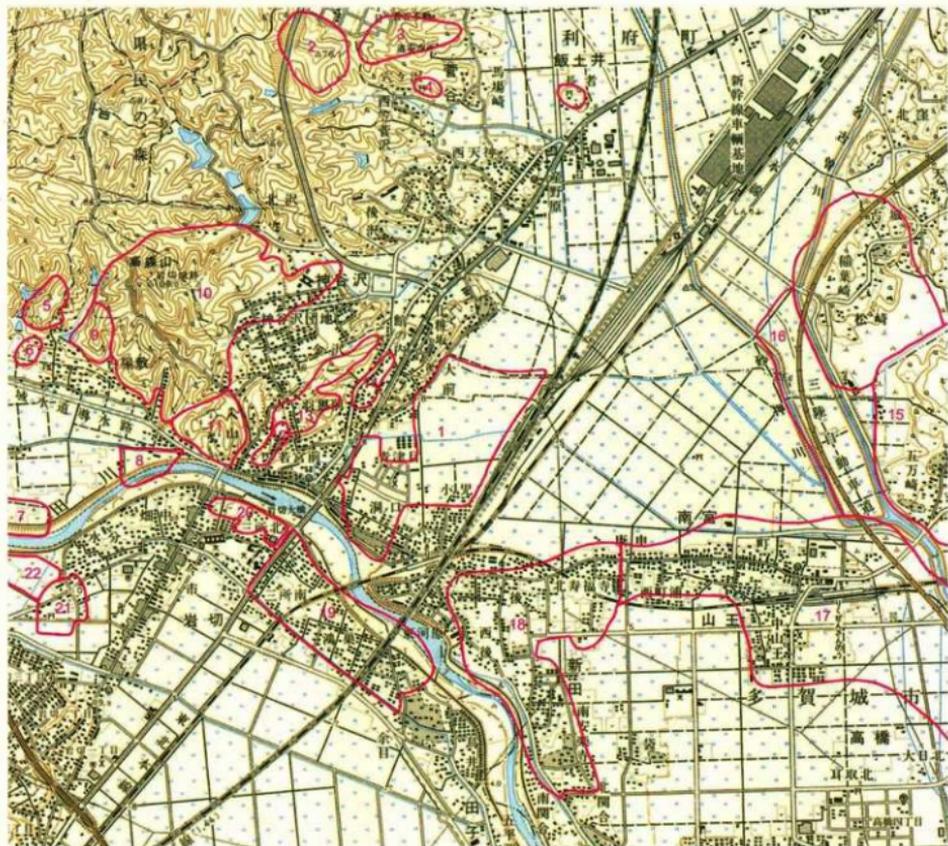
3. 歴史的環境

岩切地区は中世の遺跡が集中する地区として知られている。当遺跡も古墳時代～近世にかかる複合遺跡であるが、遺構の数は中世が最も多く、中心となる時期は中世である。次に周辺の遺跡を概観してみたい。

弥生時代の遺跡は少ないが、東方2kmに位置する山王遺跡で樹形形式の遺物や水田跡が検出されている。

古墳時代では、七北田川対岸の濁ノ巣遺跡で前期～中期の水田跡が発見されている他、中期の居住城、中～後期の畑跡などが重層的に検出されている。なお、中～後期には新田遺跡や山王遺跡でも大規模な居住城が調査されており、人々の活発な活動の様子が見て取れる。なお、七北田川北岸では西方2kmに入生沢横穴墓群、台屋敷横穴墓群が位置しており、丘陵の南側に後期の墓が集中している。

奈良時代になると、東方約3kmに多賀城が築かれる。多賀城は8世紀前半～10世紀中頃まで陸奥国の国府として機能していたと考えられているが、多賀城南面の高崎遺跡、市川橋遺跡、山王遺跡などでは平安時代になると広大な方格地割が設けられて建物が整備され、国府としての機能が強化されていったことが明らかにされている。なお、



第2図 周辺の遺跡 (1/25000)

No.	遺跡名	種別	時期	No.	遺跡名	種別	時期
1	洞ノ口遺跡	城館、集落、 水田跡	古墳～近世	13	羽黒前遺跡	散布地	中世～近世
2	菅谷館跡	城館	中世	14	化粧坂遺跡	城館	中世
3	菅谷横穴墓群	横穴墓	古墳	15	多賀城跡	官衙	奈良～平安
4	穴薬師磨崖仏 南馬場横穴墓群	磨崖仏、横穴墓	中世、古墳	16	市川橋遺跡	集落、水田跡、 水田跡	平安
5	入生沢横穴墓群	横穴墓	古墳	17	山王遺跡	集落、屋敷、 水田跡	弥生～近世
6	入生沢遺跡	散布地	平安	18	新田遺跡	集落、屋敷、 水田跡	縄文～中世
7	大正開遺跡	散布地	平安	19	鴻ノ巣遺跡	集落、屋敷	古墳～中世
8	新宿開遺跡	散布地	古代	20	今市遺跡	集落	平安～中世
9	台屋敷横穴墓群	横穴墓	古墳	21	稲荷館跡	城館	中世
10	岩切城跡	城館	中世	22	岩切畑中遺跡	集落	縄文～近世
11	東光寺遺跡	城館	中世				
12	若宮前遺跡	城館、散布地	縄文、古墳、 平安～近世				

表1 周辺の遺跡地名表

方格地割の分布は山王遺跡の東半部までで、山下遺跡の西部や新田遺跡は地割の外側となっているが、平安時代の居住域は新田遺跡でも確認されており、自然堤防上の小規模な集落と低地の水田域というあり方は洞ノ口遺跡の状況と共通している。

10世紀中頃以降、多賀城が衰退した後の状況は不明な点が多いが、洞ノ口遺跡の東側の自然堤防上には内館遺跡や新田遺跡のように溝で区画された屋敷の痕跡が認められており、また、山王遺跡八幡地区・伏石地区でも溝で区画された屋敷が調査されている。そのうち新田遺跡寿福寺地区では12世紀に遡ると考えられる屋敷の存在が明らかにされ、奥州藤原氏との関連が考えられている。その後の新田遺跡では鎌倉時代になると溝で区画された屋敷が造られ、15世紀ごろにも大溝を巡らした内部をさらに溝で区画する大規模な屋敷が存在したことが明らかにされ、留守氏との関連が考えられている（註3）。

洞ノ口遺跡の西側は、遺跡範囲の西端からおよそ500mには富谷丘陵が迫っており、丘陵の下を幹線道路である「奥大道」が通っていたと推定されている。丘陵南西側の東光寺遺跡から南東側の羽黒前遺跡にかけては鎌倉時代の13世紀後半から室町時代前半にあたる14世紀後半頃の板碑群が集中して分布していることと、14世紀前半には中世寺院東光寺が存在していたことから、このあたり一帯が信仰と供養の場であったと考えられている（註4）。なお、南北朝期には高森山の山頂に巨大な山城である岩切城が造られ、これ以後戦国時代までは軍事拠点として重要な位置を占めるようになる。そして、岩切城をひかえた丘陵裾には岩切城の登り口を押さえる位置に東光寺遺跡の東光寺城と若宮前遺跡の城館が造られ（註5）、東側の街道を押さえる位置には化粧坂城（化粧坂遺跡）が位置している。

なお、七北田川の対岸には今市遺跡、鴻ノ巣遺跡が広がっている。鴻ノ巣遺跡では溝で区画された鎌倉時代の屋敷が調査されており、市場や河川交通との関わりが想定されている。

近世になると、七北田川の南側の今市には奥州街道に沿った町並みが造られ、足軽町にもなって整備されるが、洞ノ口遺跡周辺は畑地や水田として利用され、現代に至っている。

（註1）松本秀明：1995「山王遺跡周辺の地形環境」『山王遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第167集

（註2）田中則和：1992「川沿いの屋敷群」『よみがえる中世 7』平凡社

（註3）千葉孝弥：1992「武士の屋敷の発見」『よみがえる中世 7』平凡社

（註4）田中則和：1992「丘の上の世界」『よみがえる中世 7』平凡社

（註5）註2と同じ

第1編 第1次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

1. 試掘調査と本調査に至る経緯

平成4年、区画整理事業に伴って洞ノ口遺跡の発掘調査が実施されることとなった。当時遺跡として登録されていた範囲は自然堤防である微高地のごく一部に限られていたので、区画整理事業予定地内において実際に発掘調査が必要な場所を明確にする必要性があったことと、すでに登録されている範囲内における遺構の状況を確認するために6月末から約2ヶ月間の試掘調査を実施した。

遺跡北部～東部の水田として利用されている後背湿地部分では3×10mのトレンチを20箇所、南西部の微高地部分では5×10mのトレンチを1箇所、10×10mのトレンチを6箇所設定（第3図、No.が記入してある地点）した。その結果、後背湿地部分には古代から近世の水田遺構が広範囲に広がっていることと、微高地部分では予想されていた通りに堀跡や多数のピットなどの遺構が広がっていることが確認された。当初の計画では、本調査は次年度からの予定であったが、予定地内の遺構密度と事業計画を検討した結果、急いで本調査を開始する必要があると判断し、すぐに調査可能な北部からの本調査に切り替えることとなった。

2. 調査区とグリッドの設定

本調査対象区は区画整理地内に建設される道路予定地である。遺跡北部の後背湿地部分に1～4区、東部の後背湿地部分に6区と8区、微高地と後背湿地にまたがる箇所には5区と7区、遺跡の中心と推定される微高地に9～11区を設定した。なお、各調査区のうち、比較的大きな調査区である2区・5区・8～11区については調査の効率性を高めるために2A区・2B区のように分割して掘り下げや遺構の実測・写真撮影を行なっている。また、小さな調査区が隣接する3区・6区についてもそれぞれA・Bの名称を付けて調査をおこなった（第3図）。

各調査区の面積は以下の通りである。

- 1区—220㎡
- 2区—530㎡
- 3区—350㎡（3A区—220㎡、3B区—130㎡）
- 4区—390㎡
- 5区—900㎡
- 6区—310㎡（6A区—140㎡、6B区—170㎡）
- 7区—450㎡
- 8区—1,000㎡
- 9区—2,360㎡
- 10区—5,200㎡
- 11区—3,590㎡

主として水田跡の調査となる1～8区は各調査区の方に合わせて直交する基準線を設置し、これを遺構実測の基準とした。なお、方位についてはこの基準線上の2点の座標値を測定し、図上で真北を求める方法をとった。

9～11区は、堀状の痕跡が地表面で確認できる箇所にあたり、城館に係わる遺構が広範囲に検出される可能性が高かったため、全体を網羅する基準線が必要であった。偶然この地区の計画道路の方向が推定される城館の区画の

方向とほぼ一致（真北から約30° 東傾）していたため、道路のセンター杭（9A・9C区と9B区の交点）を基準として9～11区を網羅する10mグリッドを設定した。遺構の実測はこれを基にして行い、真北は岡上で求めた。グリッドの名称は東西方向を1、2、3、などの数字、南北方向をA、B、Cなどのアルファベットとし、A3、H12などの組み合わせで表した。グリッドの名称はその北西コーナーのグリッド杭の名称とも共通している。グリッドの基準としたD11とここから50m南西の10C区中央に位置するH11の座標値は以下の通りである。

D11 : X = -188.503796km, Y = +10.749727km

H11 : X = -188.547186km, Y = +10.724881km

なお、グリッドの真北に対する正確な方向角は29° 47' 50" である。

3. 調査方法

各調査区の現況は微高地が畑、低地が水田であったが、まず重機で現水田や畑の耕作土とその直下の旧耕作土を除去し、精査はその下層から実施した。低地・微高地の区別なく全調査区において湧水があったため、調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。

水田遺構の調査となった1～8区と9C区では、3a～6b層までの精査を行った。各層の精査終了後における耕作土の除去作業が直下層の畦畔の確認作業でもあるため、常に除去作業中の層と直下層の状況を把握しながら慎重に掘り下げを行い、各層の精査を繰り返した。

9A・9B区と10・11区ではⅢ～Ⅵ層までの精査を行った。Ⅴ層まではほぼ全面の精査を行うことができたが、Ⅵ層については調査期間の制約から部分的な調査に留まっている。また、11E区においては唯一、Ⅶ層水田跡を確認しているが、これも危険防止のため調査区全面の精査は断念している。

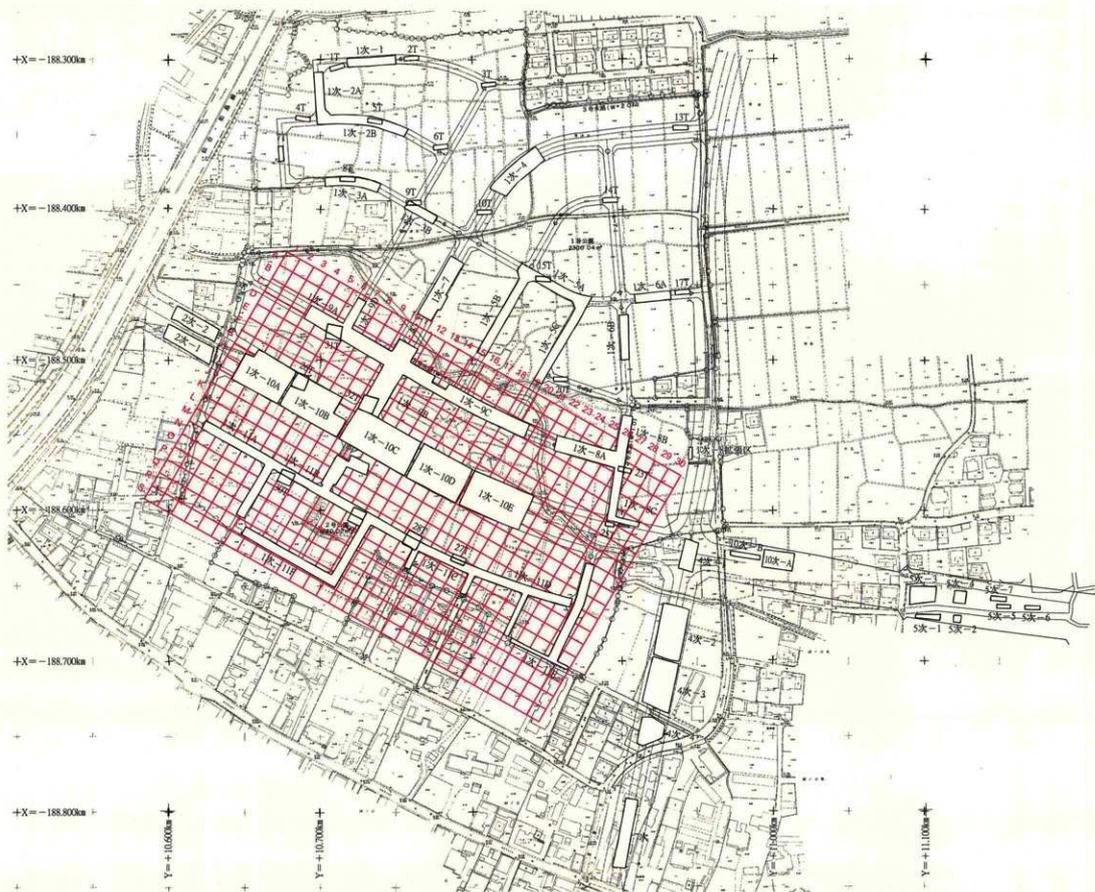
遺構の平面図は各調査区に設置した基準杭によって簡易遣り方を組み、1/40あるいは1/20で作成した。断面図は1/20で作成した。写真は35mm モノクロトリバーサル一眼レフカメラで撮影し、補助的にレンズ付フィルムも使用している。また、全景写真には6×7版や、ラジコンヘリによる6×6版も使用した。

遺物は各遺構別の堆積土ごとに取り上げたが、堆積土で区別しなかった場合もある。遺構に伴わない基本層中の遺物は層ごとに10mグリッド別に取り上げた。

なお、微高地部の調査においては各層上面や層の途中においてくり返し精査を実施したが、特にⅣa層・Ⅳb層に関しては、各層上面ですべての遺構を確認することはできなかった。規模の大きな溝跡や土坑については概ね層上面で確認しているが、掘立柱建物跡の柱穴のような小さな遺構の場合、仮に本来の掘り込み面がⅣa層と推定される場合においても全部の柱穴をⅣa層上面で確認することはできずに一部の柱穴のみの確認に留まり、残りの柱穴はⅣa層中やⅣa層下のⅣb層上面、あるいはもう1面下のⅤa層上面で順次確認できた場合が多かった。これは、Ⅳa層・Ⅳb層が黒色系の層であるため元々遺構確認が難しいことに加え、Ⅳa・Ⅳb各層の上面がある一定期間地表面であった際に土壌化が進んだことも遺構確認を困難にする要因となったと考えられる。

掘立柱建物跡の場合は複数の柱穴で構成されているので、それらのうちの1基でもある層（仮にⅣa層とする）の上面で確認されていれば、その層が本来の掘り込み面であると考えられるが、Ⅳa層上面で確認できずⅣb層やⅤa層で初めて確認できた場合の本来の掘り込み面についても、Ⅳa層上面から掘り込まれた可能性を否定せずに検討した。

したがって、本文中の記述においてはⅣa層上面から掘り込まれた可能性がある遺構についてはⅣa層の項に記載し、出土遺物や遺構の重複関係などからⅣb層やⅤa層に帰属することが明らかな場合のみ、それぞれの項に記載している。



第3図 調査区・グリッド設定図 (1/2500)

第2節 基本層序

地形の項でも述べたように、調査対象区は七北田川の自然堤防～後背湿地にかかっている。遺構に係わる深さでは、概ね自然堤防部分が砂質シルト～シルト、後背湿地部分が粘土を主としていたため、調査時における基本層序は、自然堤防部分ではⅠ・Ⅱ・Ⅲなどのローマ数字、後背湿地部分ではⅠ・Ⅱ・Ⅲなどのアラビア数字によって区別した。各調査区間において対応関係が把握できた基本層は、自然堤防部分ではⅠ～Ⅷ層、後背湿地部分ではⅠ～Ⅶ層までで、それ以下の層については各調査区で共通性はない。なお、付近の層の傾斜は南西から北東方向で、遺跡を東西方向に横断する柱状模式図（垂直方向1/40、水平方向1/2000）を第4図に示した。

1. 微高地の基本層序

自然堤防である微高地に位置する調査区は9A～9B・10・11区で、ここではⅠ～Ⅷ層まで大別8層、細別で15層を確認した。

I層 表土層である。Ⅰa層とⅠb層に細分した。

Ⅰa層 西部の10A～10B区では10YR4/3～5/4にぶい黄褐色の砂質シルト～シルト。東部の10D区ではややグライ化し、2.5Y4/2暗灰黄色のシルトとなる。砂粒を少量含む。層厚は20～25cmで、現代の畑の耕作土である。

Ⅰb層 10YR4/4褐色～10YR5/4にぶい黄褐色のシルト～砂質シルト。マンガン斑を多量に含む。層厚は10～15cmで、現代の畑の耕作土である。

Ⅱ層 表土底下の旧耕作土で、Ⅰ層よりも色調が明るい。Ⅱa～Ⅱd層に細分した。

Ⅱa層 北部の9区や西部の10A～10B区では10YR5/3～5/4にぶい黄褐色砂質シルトやシルト。東部に向かってやや色調が暗くなっていき、10D区では10YR4/3にぶい黄褐色となる。砂粒を少量、マンガン斑を多量に含む。層厚は15～20cmで、近世後半以降の畑の耕作土である。

Ⅱb層 10YR5/2灰黄褐色シルト～10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト。マンガン斑を多量に含む。層厚は5～10cmで、近世後半以降の畑の耕作土である。

Ⅱc層 10YR6/2灰黄褐色シルト。マンガン斑を多量に含む。層厚は20～30cmで、近世後半以降の畑の耕作土である。

Ⅱd層 10YR6/3にぶい黄褐色細砂で、自然堆積層である。9区や7区に部分的に遺存する他、北に離れた2区でもこのⅡd層と考えられる細砂が部分的に認められることから、Ⅱd層は自然堤防から比較的離れた場所にも到達したことがわかる。9区付近の層厚は約5cmである。

Ⅲ層 10YR3/3暗褐色シルト～10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトで、層厚は20～25cm。畑の耕作土と推定され、上面が近世前半の遺構確認面である。

Ⅳ層 Ⅲ層に比べて色調がやや暗く、粘性がある。Ⅳa層とⅣb層に細分した。

Ⅳa層 西部の10A～10B区では10YR4/1褐灰色シルト。北部の9A・9B区や東部の10D区に向かって色調が暗く、かつ粘性も強くなっていき、9A・9B区では10YR3/2黒褐色～10YR4/3にぶい黄褐色、10C～10D区付近では10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトになる。また、10C～10D区と南部の11F区では層上半部の色調がさらに暗く、10YR3/2黒褐色シルトとなっている。マンガン斑・酸化鉄斑を少量含む。層厚は10～15cmである。

上面が中世後半の遺構確認面であるが、10C～10D区や11D区のように層の上面に整地層が認められる箇所もあり、整地層上面も中世後半の遺構確認面となっている。

Ⅳb層 西部の10A～10B区では10YR3/3暗褐色粘土～シルト質粘土。北部の9A区や東部の10D区に向かって徐々に色調が暗くなっていき、10YR2/2～10YR3/2黒褐色となる。層厚は10～15cmである。

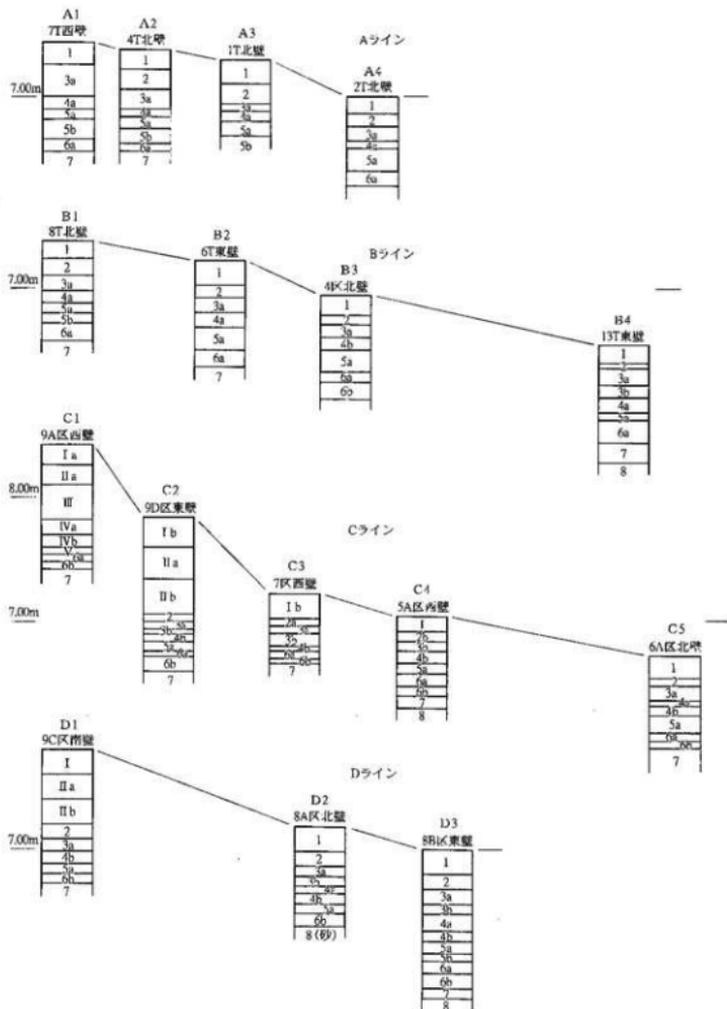
上面が中世前半の遺構確認面である。

V層 IV層に比べて色調が明るく、粘性に欠ける。Va~Vc層に細分した。

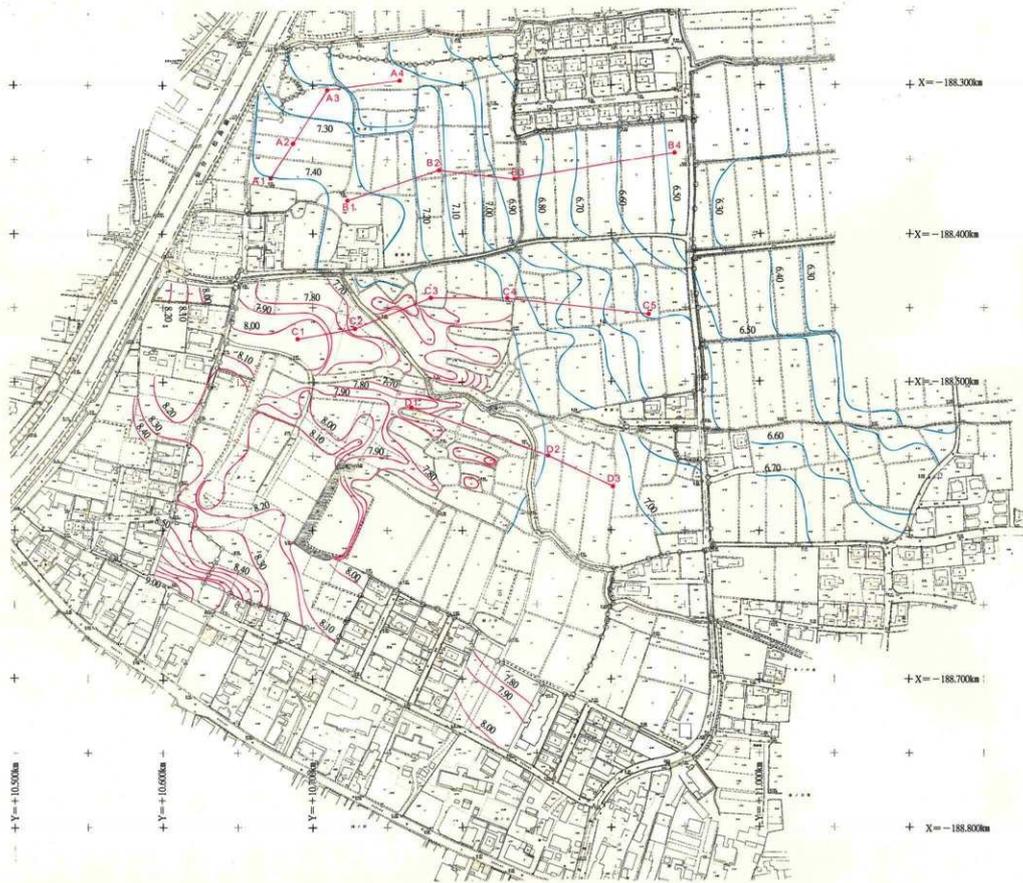
Va層 10YR5/3~5/4にぶい黄褐色シルト。下面是細かな起伏があり、直下のVb層を巻き上げているため、同層のブロックをわずかに含む。マンガン斑・酸化鉄斑を多量に含む。層厚は10~15cmである。

平安時代後半の畑の耕作上であり、直下のVb層上面に小溝状遺構群（以下小溝群と略す）を残す。

Vb層 西部では10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト。東部に向って徐々に色調が暗く、粘性が強くなり、10D区では10YR4/2灰黄褐色粘上質シルトとなる。マンガン斑・酸化鉄斑を多量に含むが、東部では少ない。部分的に層上部



第4図 基本層序柱状図



第5圖 遺跡地形圖 (1/2500)

に灰白色火山灰の小ブロックを含む。下面は細かな起伏があり、直下のVI層を巻き上げているため同層のブロックをわずかに含む。層厚は10～20cmである。

平安時代前半の畑の耕作土であり、直下のVI層上面に小溝群を残す。

Vc層 西部では10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト。10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。マンガン斑・酸化鉄斑を多量に含む。東部に向けて徐々に色調が暗く、粘性が強くなり、10D区では10YR3/2黒褐色粘土となる。なお東部では、マンガン斑・酸化鉄斑は少ない。

Vb層の畑耕作上の母材層と考えられるが、Vb層の耕作深度が深い箇所では残存しない。層厚は3～5cmで、自然堆積層である。

VI層 西部の10A～10B区では2.5Y2/1黒色粘土質シルト。東部に向けて徐々にグライ化が進み、10C区では5Y3/1オリブ黒色粘土質シルト、10D区では2.5GY2/1黒色シルト質粘土～粘土になる。部分的に10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトとの互層となる。自然堆積層である。

VII層 7.5GY4/1～10GY4/1暗緑灰色砂質シルト。マンガン斑を少量含む。自然堆積層。

VIII層 5Y2/1黒色～7.5Y3/1オリブ黒色粘土。11E区でのみ確認できた層である。層厚は5～10cm前後で、下面は起伏があり、直下層を巻き上げている。

占墳時代前～中期頃と推定される水田耕作土である。

2. 低地の基本層序

後背湿地である低地に位置する調査区は1～8区と9C区である。なお、5B区と7区は自然堤防から後背湿地への移行地点に位置しており、表土層は微高地部分と共通するものの、下層については低地の基本層と一致した。

確認した基本層は、1～7層までの大別7層、細別12層である。1～6層は水田耕作土で、自然堆積層を挟まずに直接耕作土が連続している。したがって、直上の耕作土層による攪拌などによって失われている層もあり、各層が調査対象区すべてに認められるわけではない。層厚などについても調査区によって差があるのでここでは触れず、水田跡の項で述べることとする。なお、8層以下は調査区ごとの対応が不明なため、細分はしなかった。

1層 表土層である。1a層と1b層に細分した。

1a層 自然堤防に近い2区では10YR4/3にぶい黄褐色シルトであるが、北～東部の低い場所（1区や8区）に向うにつれて色調が暗くなる（10YR4/2灰黄褐色やグライした2.5Y4/2暗灰黄色など）と共に、粘性も徐々に強くなり、シルト質粘土や粘土に漸变的に変化する。下面は細かな起伏があり、2層に起因する細砂を微量含む。酸化鉄斑を多量に含む。現代の水田耕作土である。

1b層 1区に部分的に認められる。2.5Y3/3暗オリブ褐色粘土質シルト。下面は細かな起伏があり、2層に起因する細砂を少量含む。管状の酸化鉄を多量に含む。近・現代の水田耕作土である。

2層 南～東部（5区や8区）では10YR4/2灰黄褐色～10YR6/3にぶい黄褐色の砂質シルトであるが、北東部（4区）ではややグライした2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトに漸变的に変化する。下面は緩やかな起伏があり、層上部に酸化鉄層が形成される場合が多い。近世未以降の水田耕作土である。

3層 褐色系の粘土で、3a層と3b層に細分した。

3a層 南～東部（5区や8区）では10YR4/2灰黄褐色～10YR4/3にぶい黄褐色粘土であるが、北東部（4区）ではややグライした2.5Y3/3暗オリブ褐色粘土に漸变的に変化する。下面は緩やかな起伏があり、直下層を巻き上げている。酸化鉄粒・マンガン粒をわずかに含むが、北部では管状の酸化鉄を多量に含む。

近世の水田耕作土である。

3b層 南部（2・3・7区）では10YR4/2灰黄褐色粘土であるが、北東～東部（4・6・8区）ではややグライ化または暗い（2.5Y3/3暗オリブ褐色～10YR3/2黒褐色）粘土に漸变的に変化する。下面は起伏があり、直下層を巻

き上げている。酸化鉄粒・マンガン粒をわずかに含むが、東部では酸化鉄粒子が多い。

中世末の水田耕作土である。

4層 灰色系の粘土で、4a層・4b層・4c層に細分した。

4a層 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土。東部（8区）では色調が暗く、10YR3/3暗褐色に漸的に変化する。下面は起伏があり、直下層を巻き上げている。酸化鉄粒・マンガン粒をわずかに含むが、東部では酸化鉄粒子が多い。

中世後半の水田耕作土である。

4b層 10YR4/1褐灰色～2.5Y4/1黄灰色粘土。東部（8区）では色調が暗く、10YR3/2黒褐色に漸的に変化する。下面は起伏があり、直下層を巻き上げている。酸化鉄粒・マンガン粒をわずかに含むが、東部では酸化鉄粒子が多い。

中世後半の水田耕作土である。

4c層 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト～10YR5/4にぶい黄褐色粘上質シルト。9区北部に部分的に認められ、4b層水田耕作土の母材層と推定される。自然堆積層である。

5層 黒褐色系の粘土で、5a層と5b層に細分した。

5a層 10YR4/2灰黄褐色粘土～2.5Y3/2黒褐色粘土。東部（8区）では色調が暗く、10YR2/2黒褐色に漸的に変化する。下面は起伏が激しく、直下層を巻き上げている。酸化鉄を管状・斑状にわずかに含むが、東部では管状に多く含む。

中世前半の水田耕作土である。

5b層 10YR3/1～3/2黒褐色粘土。東部（8区）では色調が暗く、10YR2/1黒色に漸的に変化する。下面は起伏が激しく、直下層を巻き上げている。管状の酸化鉄を少量含む。

中世前半の水田耕作土である。

6層 灰褐色系の粘土で、6a層と6b層に細分した。

6a層 10YR4/2灰黄褐色～2.5Y4/1黄灰色粘土であるが、東部（8区）ではグライした7.5Y4/1灰色に漸的に変化する。下面は起伏が激しく、直下層を巻き上げている。管状の酸化鉄を多量含む。

平安時代後半の水田耕作土である。

6b層 南部（5・7区）では10YR3/4暗褐色～2.5Y3/1黒褐色粘土であるが、東部（8区）ではグライした7.5Y3/1オリーブ黒色に漸的に変化する。下面は起伏が激しく、直下層を巻き上げている。管状の酸化鉄を多量含む。層上面か層上部に灰白色火山灰ブロックを少量含む。

平安時代前半の水田耕作土である。

7層 2.5Y3/1黒褐色～2.5Y2/1黒色粘土。自然堆積層。

8層以下 徐々に粒子が粗くなり、シルト→細砂→粗砂と変化していくが、この垂直方向での変化に加えて水平方向でも東部に行くにしたがって粘土層や泥炭層の発達が認められるようになっていく。

3. I～VII層と1～7層との対応関係

土壌の形成要因は基本的に七北田川の氾濫であるので、本来は自然堤防部分と後背湿地部分の基本層は同一の氾濫によって堆積した連続する層であると考えられ、全く無関係ではない。実際は自然堤防と後背湿地の土質が明確に区分できるが、これは洪水によって運ばれた土砂が自然堤防から後背湿地に向って、砂→シルト→粘土と水平方向に漸的に変化している現象を示しているとともに、その後の土地利用の違い（畑と水田）も土質の違いに影響を与えた可能性がある。

I～VII層と1～7層との対応関係については、5B区、7区、9A区、9D区、10E区などで確認された部分的な新旧関係、遺構・遺物の年代、灰白色火山灰の検出状況などからすると、以下のように考えられ、模式図で表すと第6図

のようになる。

微高地のI層と低地のI層は表土で、それぞれ現代の畑と水田の耕作土である。なお、場所によってI層はIa層とIb層、I層はIa層とIb層に細分したがそれぞれの対応関係は明確ではない。

II層はIIa～II d層に細分したが、このうちのII c層が低地の2層と最も層相が類似することからII c層と2層が対応すると考えられる。水田の2層は幕末頃を中心とした時期が想定されるので、おおよそ近世後半頃に堆積した土砂を母材層として畑のII c層と水田の2層が形成されたと推定される。II a層とII b層はそれ以降に堆積した土砂を母材層とした畑の耕作土である。

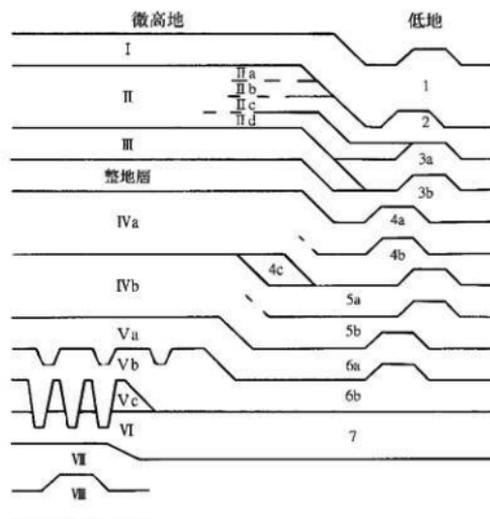
III層は畑の耕作土となっているが、上面で近世前半の遺構が確認されているので、中世の城館が廃絶して間もない近世初頭頃に堆積したと推定される。この層と対応すると考えられるのが3a層水田耕作土で、9D区ではIII層直上に3a層が乗る状況が確認できたので、3a層水田の時期はIII層堆積後の近世前半～後半頃と推定される。なお、9D区ではIII層直下に3b層水田耕作土も確認されているので、3b層水田の時期はIII層堆積時よりも古く、IVa層の直上にある整地層とはほぼ同じ頃と考えられる。

IVa層は上面で中世後半の城館が確認された層である。層の元となる土砂が堆積した時期は、直下のIVb層の遺構の下限とIVa層の遺構の上限との間に空白期があることから類推し、14世紀後半頃ではないかと推定できる。この層には4a層と4b層の水田耕作土が対応すると考えられる。なお、4b層水田耕作土の母材層と考えられる4c層が9区で部分的に確認されている。

IVb層は上面で中世前半の屋敷が確認された層で、この層の元となる土砂が堆積した時期については、直下のVa層の遺構の時期が限定できないため断定できないが、IVb層の遺構の時期からして中世以前と推定される。IVb層には、5a層と5b層の水田耕作土が対応すると考えられる。

Va層は平安時代後半の畑の耕作土で、上面では居住域も確認されている。層の堆積した時期は灰白色火山灰の降下以降で、6a層水田耕作土が対応すると考えられる。

Vb層は平安時代前半の畑の耕作土で、上面では居住域も確認されている。6b層水田耕作土が対応すると考えられる。



第6図 基本層序模式図

第2章 1～8区の調査

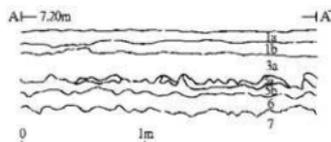
第1節 3a層水田跡

1. 水田の概要

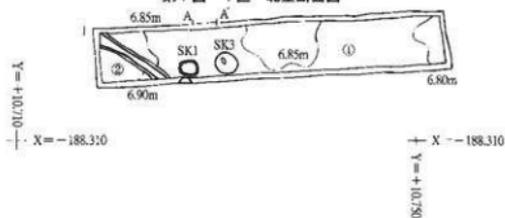
(1)検出・遺存状況 畦畔は直上層である2層下部で確認した。2層を1層(表上)と共に車轍によって除去した際に畦畔上部を削平してしまった箇所もあるが概して遺存状況は良く、特に5B区と7区では自然堆積層であるII層によって覆われた箇所があり(第16・86図)、そこでは比較的良好に遺存していた。

(2)耕作土 耕作上3a層の厚さは10～20cmである。下面は緩やかな起伏があり、直下層を巻き上げている。

(3)水田域 水田域は1～8区まで調査区全域に広がっている。また、3a層は9～11区にある城船の堀の堆積土の最上層にも認められるので、堀が埋没した後の陸地までも利用して可能な限り耕地の拡大を図ったことが窺える。



第7図 1区 北壁断面図



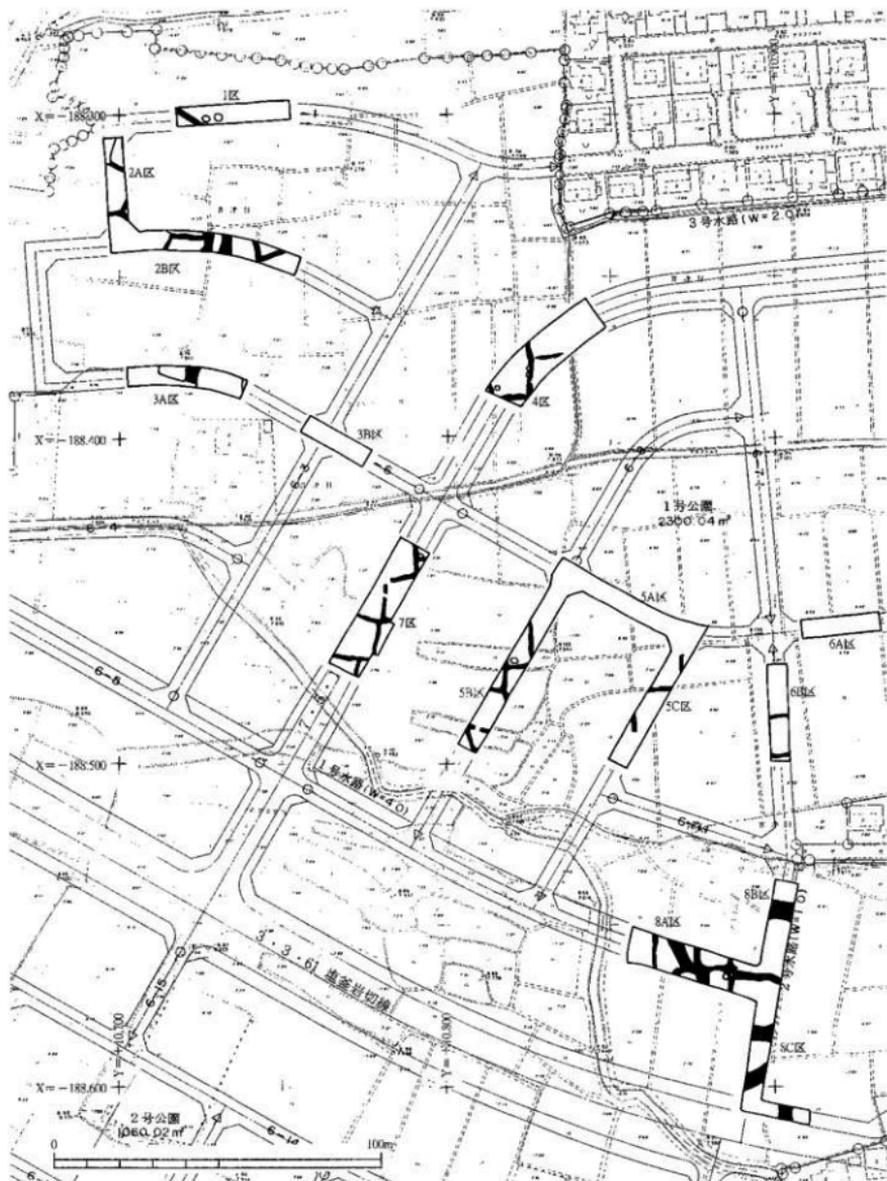
第8図 1・2区 3a層水田跡平面図

PK	Ra	方向	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	1	57°W	7.5+	48~88	116~150	3~5	
2A	1	11°E	7.0-			2	段差
2A	2	64°W	5.1-	32~54	74~90	1~5	
2A	3	18°E	3.7-	44~50	80	2~5	
2A	4	E-W	3.9-	28~8	82~90	2~4	
2A	5	49°W	2.3-	26~34	78	3~5	
2B	6	20°E	4.7-	21~6	72~90	2~5	
2B	7	98°W	2.0+	30~67	74~88	1~4	
2B	8	3°E	5.4-	98~13	197~210	5~12	大畦畔、水口あり
2B	9	3°E	5.4+	230~290	290~355	2~4	大畦畔
2B	10	19°W	5.8-	18~51	70~78	1~4	
2B	11	70°E	8.0+	24~70	72~88	2~5	

表2
1・2区
3a層水田跡
畦畔計測表

PK	Ra	標高(m)	北向き(m)	傾斜方向	東西(m)	南北(m)	北距(m)	履徳・その他
1	①	6.84~6.87	3+	?	?	?	7.51	
1	②	6.90~6.93	3+	?	?	?	7.5+	部分的に検出
2A	①	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
2A	②	7.02~7.04	2+	?	?	7.0+	5.1+	
2A	③	7.02~7.06	3+	南西→北東	(11.5)	?	3.9+	10.0-
2A	④	7.05	?	?	?	3.7+	2.3+	?
2A~2B	⑤	7.05~7.07	2+	西→東	4.7+	?	?	18.7-
2B	⑥	6.99~7.01	2+	?	?	?	12.0+	?
2B	⑦	7.00~7.04	4+	西→東	4.0+	4.4+	?	10.5
2B	⑧	6.95~6.96	1+	?	5.8+	5.4+	?	?
2B	⑨	6.92~6.95	1+	?	?	5.8+	8.0+	?
2B	⑩	6.95~6.97	2+	?	?	?	8.0+	?

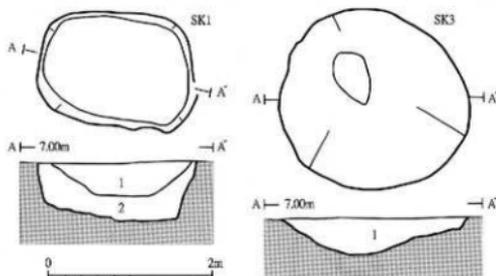
表3
1・2区
3a層水田跡
水田区画計測表



第9図 3a層水田跡全体図 (1/1500)

2. 遺構の状況

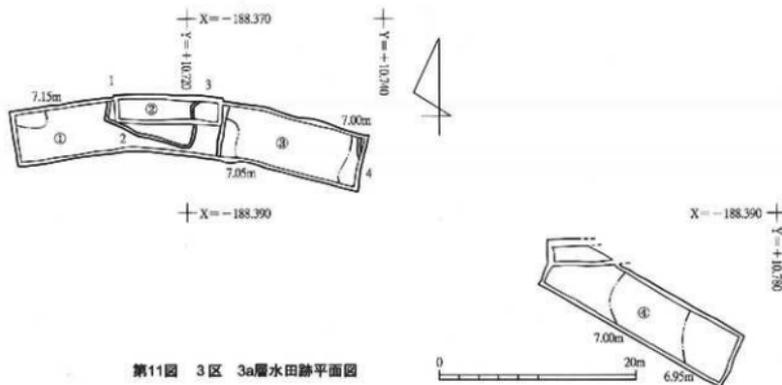
(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、3B・5A・6A区を除く調査区で検出した。2区No.8・9、3A区No.3は水路の土手で周辺の畦畔と比べて規模がやや大きく、下端幅が200~350cmある。方向は3~8°東に振れている。



層位	色調	土質	扉人物・その他
1-SK1			
1	2.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色シルト質粘土ブロック多量
2	10Y4/1 灰色	シルト質粘土	オリーブ黒色シルト質粘土ブロック多量
1-SK3			
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	濃褐色粘土ブロック・緩な鉄硬多量

第10図 1-SK1・3 平面・断面図

他の畦畔のうちNo.2・7・8・10・11・13は規模が大きく下端幅が2~3.5m前後であるが、これは下層の4b層段階から継続している状況である。4b層水田の時期はちょうど9~11区に広がる中世後半の城館が造られた時期にあたり、4a層~3b層水田



第11図 3区 3a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3A	1	8°E	1.9+	—	—	3	残差
3A	2	7°W	3.9+	—	—	4	残差
3A	3	8°E	5.5+	230	310~338	2~7	大畦畔
3A	4	1°W	2.5+	—	—	5	残差

表4 3A区 3a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
3A	①	7.16~7.17	1+	?	?	?	?	?	
3A	②	7.11~7.12	1+	?	3.6+	1.7+	8.8	?	東西8.8m
3A	③	7.00~7.05	5+	西→東	2.5+	5.5+	?	?	東西13.7m
3B	④	6.93~7.03	10+	西→東	?	?	?	?	

表5 3区 3a層水田跡水田区画計測表

の時期も城館の存続時期と重なっている。8区北端部ではこの城館北辺の外堀の延長である水路が検出されており(第51図SD1001、畦畔8は南側の土手)、城館の東辺は不明瞭ながらも8区は一応外堀の内側に位置することとなり、他の調査区とは立地が異なると考えられる。8区の畦畔が大きい理由としては城館との係わりからして道路としての機能も有していたためと考えられ、城館廃絶後の3a層水田や2層水田の時期までその機能は残っていたと推定される(註1)。

(2)水田区画 水田区画は8区③のように三角形の例もあるが、大部分は方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、一辺の長さは6～7mと10～12mが多い。ただし、8区では区画⑦・⑧のように17m、14mと大きなものも認められる。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い3A区が7.17m、最も低い6A区が約6.5mである。各水田区画内における傾斜は地形の傾きと一致しており、南西から北東方向を中心としている。区画内の比高差は、全体を検出できた区画がないため明確ではないが、傾斜方向も加味すると概ね5cm以内と考えられる。

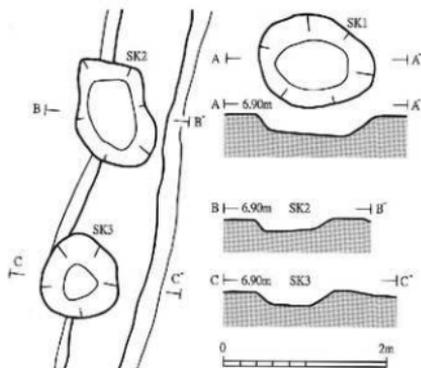
(4)水口 2B区の水路の土手の大畦畔と4区および8A区で検出している。2B区の水口は区画②から水路への排水用である。4区の水口は畦畔1に設置されたもので、区画③から②へ向う給排水用、8A区では畦畔2と7が接する箇所が細く開いており、南側の区画④から③へ向う給排水用と推定される。

(5)溝跡 2B区には下層6a層水田から踏襲される溝がある。3a層の段階では大部分が埋没して浅い窪み程度になっていて水路自体の堆積土も確認できなかったが、大畦畔2条が平行して走ることからその間が水路であると推定される。また8区でも前述したように城館の外堀SD1001の延長部分が検出されている。

(6)土坑 1区で2基、4区で3基、5B区で1基、7区で1基、8A区で2基確認したが、4区と8A区の土坑は3a層よりも上層から掘り込まれている可能性が高い。



第12図 4区 3a層水田跡平面図



第13図 4-SK1～3 平面・断面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
4	1	6°E～15°W	13.1+	52～88	117～136	1～7	水口あり
4	2	82°E	9.6+	—	40～65	—	畦畔のみ
4	3	87°E	5.9+	48～70	100～128	2～5	
4	4	6°W	1.2+	45	80	5	

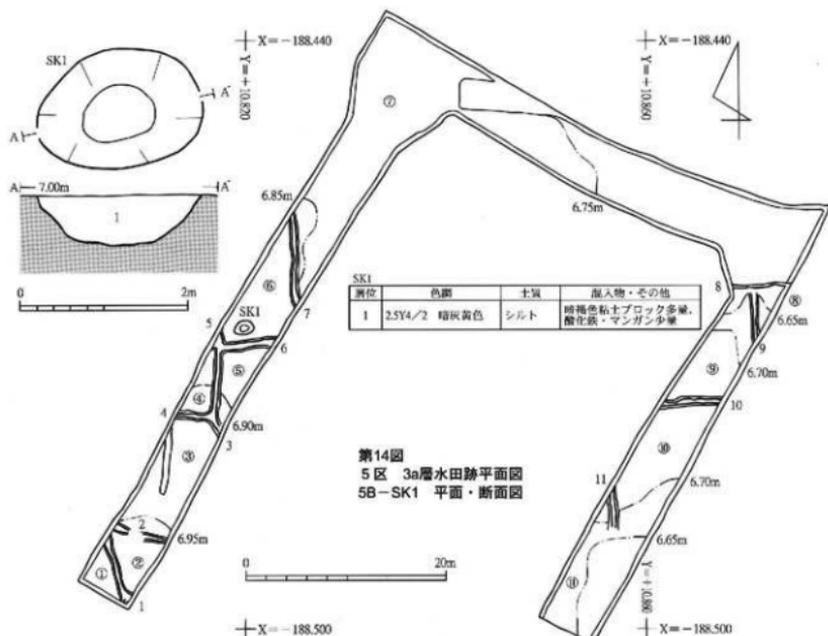
表6 4区 3a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	東横・その他
4	①	6.57～6.71	14+	西～東	?	4.0+	10.0+	?	分割される可能性
4	②	6.69～6.72	3+	西～東	?	10.0+	?	?	10.0+
4	③	6.75～6.77	2+	西～東	15.0+	1.2+	(10.0)	?	東西10.0m
4	④	6.76	?	?	?	?	?	?	5.9+
4	⑤	?	?	?	1.2+	?	?	?	部分的に検出

表7 4区 3a層水田跡水田区画計測表

1-SK1 (第10図) 大きき140×190cm の隅丸長方形で、壁はやや急角度である。深さ80cm、堆積土は2層に分層され、人為的に埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

1-SK3 (第10図) 大きき220×235cm の楕円形で、壁は緩やかである。深さ50cm、堆積土は単層で人為的に埋め戻されている。渥美産壺の破片1点が出土した。



区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
5B	1	18°W	6.5+	38~65	70	1~3	
5B	2	70°W	5.4+	38~70	65~95	2	
5B	3	32°W	1.8+	40~52	98	5	
5B	4	86°W	3.6+	70~48	88	3~8	
5B	5	4°E	7.4+	35~48	78~94	4~9	
5B	6	84°E	3.3+	52~75	85~105	2~5	
5B	7	3°W	8.9+	30~42	72~86	4~7	
5C	8	89°E	5.5+	—	—	3	段差
5C	9	N-S	4.8+	28~52	64~80	2	
5C	10	87°E	5.9+	25~42	72~99	2~6	
5C	11	4°W	3.8+	40~50	98	5~8	

表8 5区 3a層水田跡群計測表

区	No.	標高(m)	比高差(m)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
5B	①	6.96~6.98	2+	?	6.5+	?	?	?	
5B	②	6.98	?	?	?	6.5+	?	5.4+	
5B	③	6.95~6.95	2+	南→北	(11.7)	?	10.0+	3.6+	南北11.7m
5B	④	6.89~6.91	2+	南→北	6.4	?	3.6+	?	南北6.4m
5B	⑤	6.89~6.90	1+	?	?	7.3+	?	5.3+	
5B	⑥	6.85~6.89	3+	?	11.7+	?	(7.1)	?	東西7.1m
5B	⑦	6.80~6.85	6+	?	?	?	?	?	分割される可能性
5C	⑧	6.65~6.66	1+	?	?	4.8+	?	?	2.5+
5C	⑨	6.65~6.72	7+	南→北	(10.0)	?	9.5+	2.0+	南北10.0m
5C	⑩	6.64~6.72	8+	北→南	?	12.0+	?	10.5+	
5C	⑪	6.64~6.66	2+	西→東	?	?	?	?	

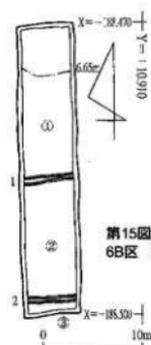
表9 5区 3a層水田跡水田区画計測表

4-SK1 (第13図) 大きき115×145cmの楕円形で、壁は緩やかである。深さ25cm、堆積土は基本層1層に類似する。SK1~SK3共に遺物は出土しなかった。

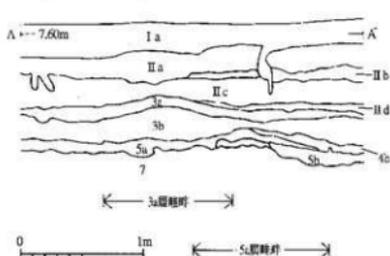
4-SK2 (第13図) 大きき95×150cmの不整楕円形で、壁は緩やかである。深さ15cm、堆積土は基本層1層に類似する。

4-SK3 (第13図) 大きき95×105cmの楕円形で、壁は緩やかである。深さ20cm、堆積土は基本層1層に類似する。

5B-SK1 (第14図) 大きき145×200cmの楕円形で、壁は緩やかである。深さ70cm、堆積土は単層で人為的に埋め戻



第15図
6B区 3a層水田跡平面図



第16図 7区 西壁断面図

区	No.	方向	長さ(m)	上壁幅(cm)	下壁幅(cm)	高さ(cm)	備考
6B	1	83°E	5.1+	28~52	62~78	2~4	
6B	2	85°E	5.0+	31~63	68	1	

表10 6B区 3a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高厚(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
6B	①	6.64~6.68	4+	?	?	?	5.1+	?	
6B	②	6.65~6.67	2+	西→東	?	?	5.0+	5.3+	南北11.5m
6B	③	6.65	?	?	?	?	?	5.0	

表11 6B区 3a層水田跡水田区画計測表



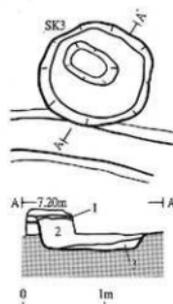
第17図
7区3a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上壁幅(cm)	下壁幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	78°E	1.4+	48	6+	1~4	
7	2	5°W	7.7+	40~55	68~82	2~6	
7	3	86°W	2.5+	35	65	1~3	
7	4	80°E	7.2+	40~78	77~104	1~6	
7	5	5°E	10.0+	30~47	66~80	3~9	
7	6	69°W	7.0+	34~52	61~82	4~11	
7	7	84°W	1.1	43	102	8	
7	8	10°E	8.9+	18~44	46~73	4~8	
7	9	86°W	9.8+	30~48	59~81	6~9	やや閉曲
7	10	15°E	5.0+	22~38	58	3~10	

表12
7区 3a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高厚(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
7	①	?	?	?	?	?	?	?	
7	②	6.94	?	?	3.7+	2.5	?	?	部分的に検出
7	③	6.93	?	?	?	2.5+	?	?	
7	④	6.92~6.96	1-	ほぼ水平	(10.2)	?	12.0+	4.1	南北10.2m
7	⑤	6.95~6.96	1-	ほぼ水平	11.3	?	7.0+	2.7+	南北11.3m
7	⑥	6.95~6.98	3+	南→北東	?	11.8	1.5-	8.2+	南北11.8m
7	⑦	6.99~7.00	5+	南→東	(10.3)	?	11.3+	6.5-	南北10.3m
7	⑧	6.99~7.01	2+	?	?	?	9.0+	?	3.0-
7	⑨	7.01~7.03	2+	?	4.5	?	?	?	7.5-
7	⑩	7.00	?	?	?	4.8+	?	?	1.5+

表13 7区 3a層水田跡水田区画計測表



されている。遺物は出土しなかった。

7-SK3 (第18図) 大きき130×135cmの円形で、壁はやや急角度である。深さ40cm、堆積土は3層に分層され2層目の厚い層が人為的な埋め土と考えられる。近世の陶器(大塚相馬)1点、銭貨(種別不明)1点、石製円盤1点が出土した。

8A-SK1 (第20図) 大きき80×90cmの楕円形で、壁は緩やかである。深さ25cm、堆積土は基本層2層で人為的に埋め戻されている。ウマの骨が出土した。

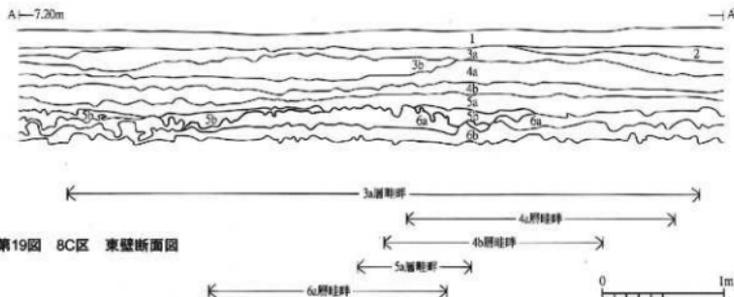
8A-SK2 (第20図) 大きき140×145cmの楕円形で、壁はやや急角度である。深さ65cm、堆積土は単層で人為的に埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

(7)掘立柱建物跡 確認面は2層上面であるので水田跡には伴わないが、便宜的にここで述べておく。

層位	色調	土層	混入物・その他
1	25Y4/2	暗灰褐色	粘土質シルト 腐化鉄少量
2	25Y4/2	暗灰褐色	粘土質シルト 3a区の水田跡のブロック多量、5a層のブロック多量
3	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト 腐化鉄多量

第18図 7-SK3 平面・断面図

8B-SB1 (第22図) 8B区南端で径10cmの柱痕跡を伴うピットを6基確認した。ピットの配置からすると門跡に塀が接続したものと考えられる。柱間は東西1間×南北1間で規模は2.1×3.6~3.8m、方向はN



第19図 8C区 東壁断面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	2°E	9.5+	20~66	64~106	1~3	
8A	2	25°W	8.5+	228~250	302~304	3~8	東端に水口
8A	3	24°E	3.9+	38~50	84	6~8	
8A	4	1°E	5.0+	48~140	140~210	4~8	
8A	5	4°E	9.4+	44~68	82~102	7	
8A	6	88°E	5.0+	20~58	88~126	4~7	
8A	7	N-S	4.5+	270~330	315~370	1~4	
8B	8	80°W	6.4+	380~440	460~475	2~7	
8A-8B	9	70~83°W	14.5+	144~154	200	1~8	
8C	10	89°W	5.5+	335~345	416	4~10	
8C	11	20°E	6.5+	315~350	395~438	4~21	
8C	12	77°W	2.8+	-	-	3~9	段差
8C	13	5°E	4.0+	248~255	325~352	3~6	

表14 8区 3a層水田跡畦畔計測表

区	No.	幅高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	5.85~5.87	2+	西→東	9.5+	?	?	?	
8A	②	5.82~5.85	3+	?	9.7+	11.0+	(8.0)	?	三角形?、東西8.0m
8A	③	6.81	?	?	5.0+	7.0+	?	?	三角形?
8A	④	6.85	?	?	2.0+	?	?	(4.5.0)	部分的に出土
8A	⑤	5.80~5.83	3+	?	2.0+	4.5+	7.0	?	東西7.0m
8A	⑥	5.82~5.87	5+	?	5.0+	3.5+	?	?	東西6.3m
8A-8B	⑦	5.76~5.80	4+	?	?	(17.0)	14.5+	16.5+	南北17.0m
8A-8C	⑧	5.80~5.84	4+	?	?	(14.0)	13.0+	14.0+	南北14.0m
8C	⑨	5.80~5.82	2+	?	?	?	6.5+	5.5+	
8C	⑩	5.73~5.75	2+	?	12.0+	?	?	12.0+	
8C	⑪	5.73~5.75	2+	?	?	4.0+	?	?	

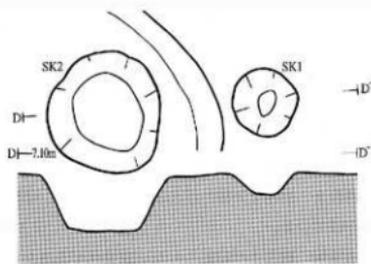
表15 8区 3a層水田跡水田區面計測表

-8°-Eである。塙が東側に取り付くことから層数は調査区の西側に広がっていると考えられる。ピット中から遺物は出土しなかった。

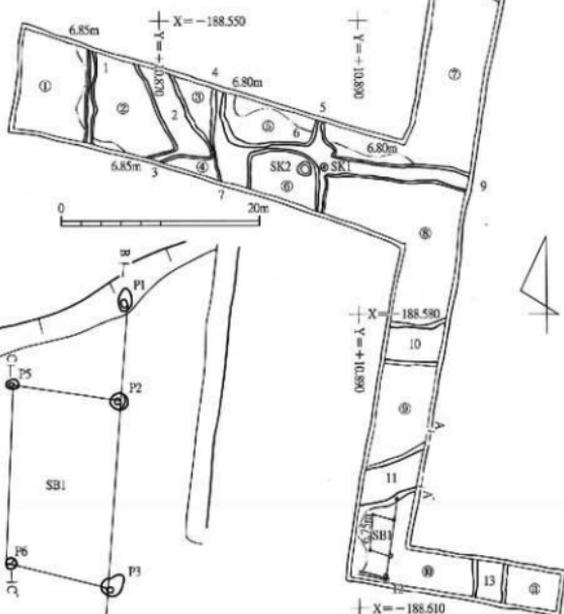
3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95～102は各区別の破片集計表であるが、これらを総合すると土師器51点、須恵器13点、赤焼土器1点、土師質土器皿類64点、その他の土師質土器5点、瓦質土器3点、中世の無軸陶器23点、中世の施軸陶器1点、近世の国産陶・磁器10点、瓦1点、金属製品9点、石製品4点、鉄滓15点となる。この他にウマの歯・骨などが多数出土している。図化できた遺物は9点と少なく(第99図5・12、第100図9、第101図6・9・10、第102図6・8・10)この水田跡に伴う遺物を限定することはできないが、農耕に関する遺物としては農具の歯(第101図9・10)が目される。

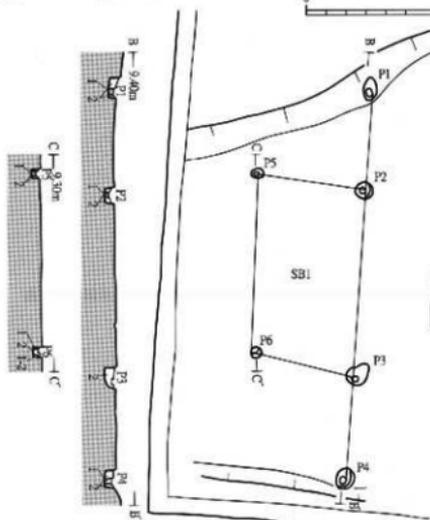
(註1) 断面観察では3a層の大畦畔が2層下に擬似畦畔Bのように残存している状況が認められたので(第19図)、2層も3a層の大畦畔を踏襲している可能性が高い。



第20図 8A-SK1・2
平面・断面図



第21図
8区 3a層水田跡平面図



第22図 8B-SB1 平面・断面図

層位	色澤	土質	埋入物・その他
1	10YR3/3 暗褐色	粘土	
2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	びい流黄褐色シルト質粘土ブロック少量、本底砂層露

第2節 3b層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 昨畔は直上層である3a層水田耕作土を削り込む途中で確認した。3a層によって擾乱されているため全体的に遺存状況が悪く、特に西部の1区・2A区・3A区と南部の5区、東部の6A区では3a層の耕作深度が深かったため遺存状況が特かなり悪く、3b層自体も確認できない場合が多かった。

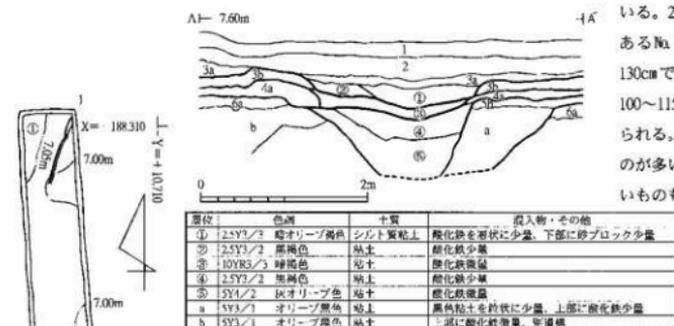
(2)耕作土 耕作土3b層の厚さは2～5cmだが、6B区では比較的厚く10～15cmある。下面是起伏があり、直下層を巻き上げている。

(3)水田域 耕作土が認められない調査区があるがそれは3a層の影響と考えられるため、本来の水田域は1～8区まで調査区全域に広がっていたと推定される。

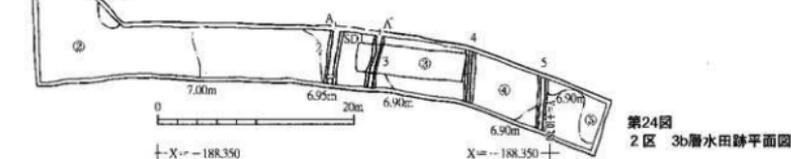
2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、西部～中央部の2B区・3B区・4区・7区と東部の6B区・8区で検出した。また2A区では直下の4a層上面で段差を確認しており、これは3b層下面の状況を反映していると推定して

いる。2B区ではSD1の上手であるNo.2・3が下端幅120～130cmでやや大きいのが、他にも100～115cm程度のもも認められる。高さは5cm前後のものが多いが、8区では10cm近いものも認められる。方向は



第23図 2B-SD1 断面図



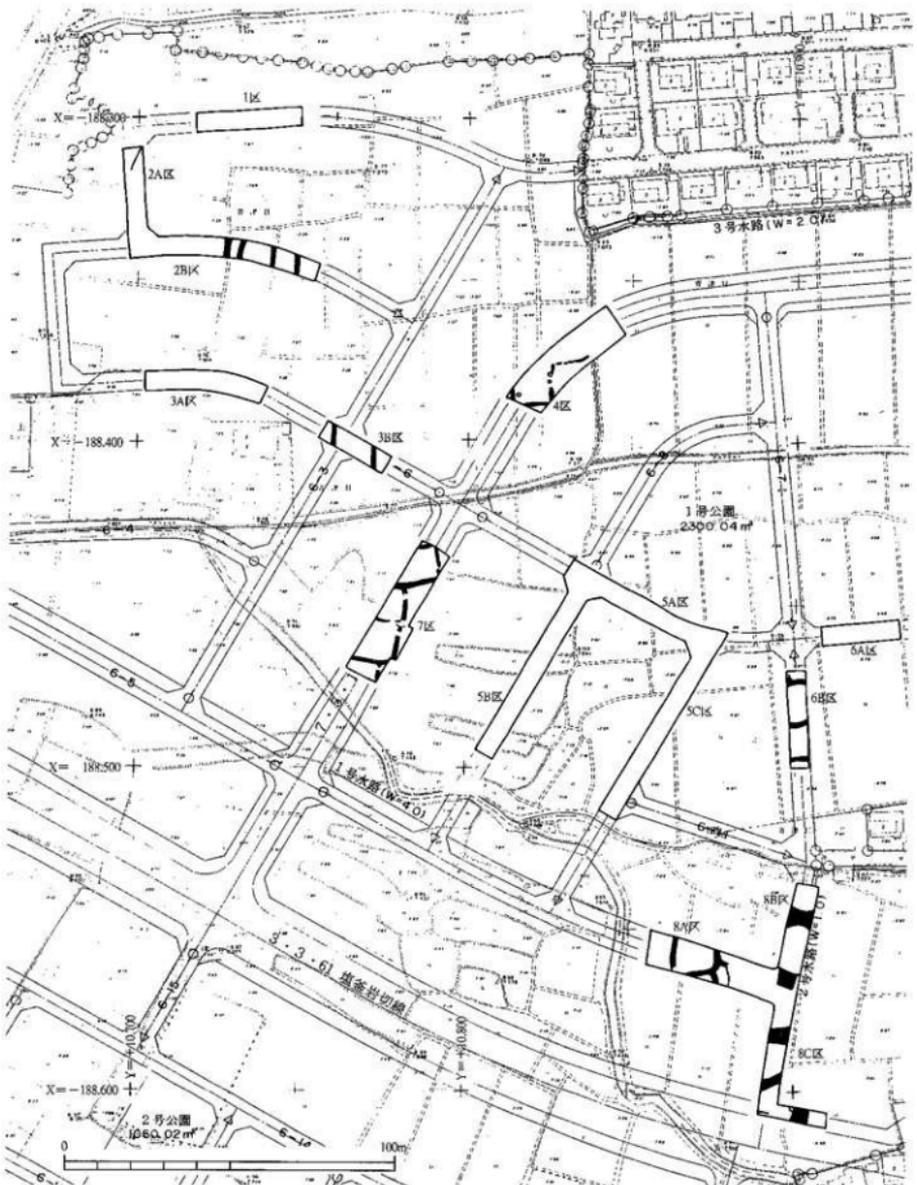
第24図 2区 3b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
2A	1	19°E	7.5+	—	—	—	段差(4a層上面で確認)
2B	2	8°E	5.4+	50～60	116～130	1～5	2B-SD1の西側土手
2B	3	11°E	3.4+	50	120	2	2B-SD1の東側土手
2B	4	4°E	5.5+	28	100	2～6	
2B	5	4°E	3.4	42～48	90～98	1～1	

表16 2区 3b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	長さ(m)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	北辺(m)	規模・その他
2A	①	7.00～7.05	3+	?	?	?	?	詳細不明
2A-2B	②	6.95～7.02	7+	西→東	?	?	?	分割される可能性
2B	③	6.88～6.90	2.1	?	5.3	5.4	?	東西9.0m
2B	④	6.88～6.90	2+	?	5.4+	5.3+	?	東西6.4m
2B	⑤	6.89～6.91	2.1	?	?	5.4+	?	

表17 2区 3b層水田跡水田区画計測表



第25図 3b層水田跡全体図 (1/1500)

3a層水田跡と同様に3~10°東傾するものが多いが、規格性は認められない。

なお、3a層と同様に8区に規模が大きな畦畔がある。№7~9・12が特に大きいがこのうち№7は城館の外堀であるSD1001の南側十手である。

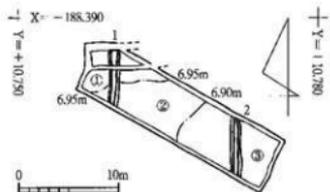
(2)水田区画 水田区画は8区に変形したものが認められるが、方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、3a層水田跡と同様に一辺の長さは6~7mと10~12mが多い。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い2A区が7.00m、最も低い6B区が6.40mである。各水田区画内における傾斜は地形の傾きと大体一致しており、南西から北東方向を中心としている。区画内の比高差は、全体を検出できた区画がないため明確ではないが、傾斜方向も加味すると概ね5cm以内と考えられる。

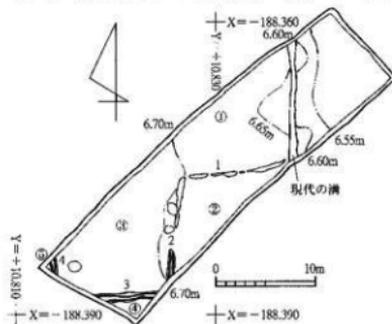
(4)水口 明確な水口が認められたのは7区の畦畔2のみで、区画③から②へ向う給排水用と推定される。

(5)溝跡 2B-SD1と8区のSD1001がある。

2B-SD1は2B区に位置する溝で、下層の6a層水田から踏襲される基幹水路である。早い時期にほとんど埋没してしまい、その後5b層の段階で深く掘りなおして改修されたことが判る(第23図)。その後も継続して使用され続け、明確に溝としての堆積土が認識できるのは3b層段階までであるが、前述したように3a層水田跡の時期にもわずかに水路としての機能が残っていたようである。ただし、3A区では5b層段階以降には2B区と同様に踏襲されていったような状況が認められないので、上流の3A区側では流路が変更されている可能性がある。なお、



第26図 3B区 3b層水田跡平面図



第27図 4区 3b層水田跡平面図

区	№	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3B	1	2°E	5.4+	42~68	98~108	3~6	
3B	2	N-S	5.8+	45~52	98~110	2~6	

表18 3B区 3b層水田跡畦畔計測表

区	№	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
4	1	81°E	9.0+	?	15~45	?	痕跡のみ
4	2	6°E	2.9・5.3-	25	64~70	3	北側は痕跡のみ
4	3	85°E	5.4+	30~52	54~102	2	
4	4	8°W	1.4+	?	56	2	

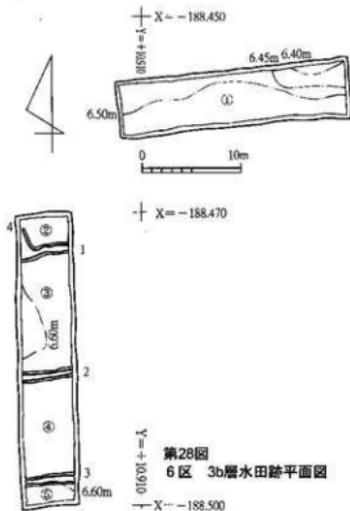
表19 4区 3b層水田跡畦畔計測表

区	№	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
3B	①	6.95~6.96	1+	?	5.4+	?	?	?	
3B	②	6.87~6.95	8.1	北西→南東	5.8+	5.4+	?	?	東西11.0m
3B	③	6.66~6.89	3+	?	?	5.8+	?	?	

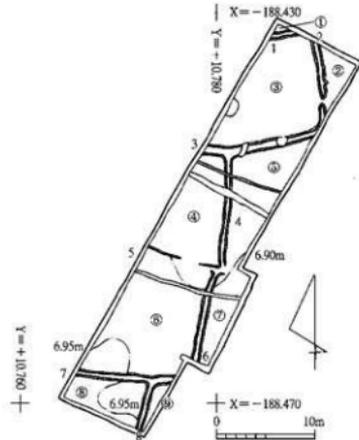
表20 3B区 3b層水田跡水田区画計測表

区	№	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
4	①	6.53~6.70	17+	西→東	?	?	9.0+	?	
4	②	6.65~6.67	2.1	?	?	9.5+	?	9.5+	
4	③	6.70~6.73	3+	?	12.0+	4.0+	(11.0)	?	東西11.0m
4	④	6.75	?	?	?	?	?	5.4+	
4	⑤	6.75	?	?	1.4+	?	?	?	

表21 4区 3b層水田跡水田区画計測表



第28図
6区 3b層水田跡平面図



第29図 7区 3b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
6B	1	80°E	4.9+	48~80	98~10	1~5	
6B	2	83°E	5.1+	45~58	90~08	1~4	
6B	3	85°E	5.0+	58~71	106~116	1~4	
6B	4	25°W	3.0+			3	段差

表22 6B区 3b層水田跡畦畔計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	51°E	2.3+	38	74	1~4	
7	2	9°W	3.1+	45~48	66~78	1~2	水口あり
7	3	80°E	11.5+	54~78	78~112	1~4	
7	4	4°E	12.0	22~48	68~76	1~4	
7	5	74°W	7.4+			1~4	段差
7	6	13°E	9.3+	48	75~78	2~5	
7	7	85°W	9.8+	40~66	68~90	3~7	
7	8	14°E	5.0+	42~47	70	4~7	

表23 7区 3b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
6B	①	6.40~6.56	16	南西→北東	?	?	?	?	碑碣不明
6B	②	6.58	?	?	?	3.0+	3.4+	?	
6B	③	6.59~6.61	2+	西→東	?	?	5.1+	4.9+	南北11.4m
6B	④	6.59	0.00	ほぼ水平	?	?	5.0+	5.1+	南北9.5m
6B	⑤	6.60~6.61	1+	?	?	?	?	5.0+	

表24 6B区 3b層水田跡水田区画計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
7	①	6.50	?	?	?	?	1.5+	?	部分的に検出
7	②	6.88	?	?	?	7.0+	?	?	
7	③	6.90~6.92	2+	?	(9.4)	?	11.3+	4.5+	南北10.0m
7	④	6.88~6.90	2+	ほぼ水平	11.3	?	7.4+	2.3+	南北11.3m
7	⑤	6.88~6.90	2+	ほぼ水平	?	11.5	1.5+	8.5+	南北11.5m
7	⑥	6.90~6.97	3+	南西→北東	(10.7)	?	1.0+	7.4+	南北10.7m
7	⑦	6.91~6.92	1+	?	?	9.4+	?	3.5+	
7	⑧	6.93~6.96	3+	西→東	4.7+	?	?	7.3+	
7	⑨	6.93	?	?	?	4.8+	?	1.8+	

表25 7区 3b層水田跡水田区画計測表

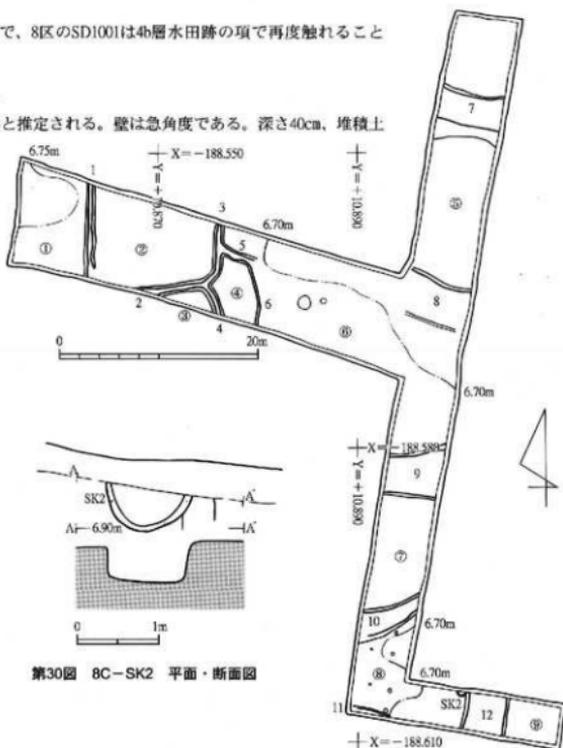
2B-SD1については6a層水田跡の項で、8区のSD1001は4b層水田跡の項で再度触れることとする。

(6)土坑 8C区北壁際で1基確認した。

8C-SK2 (第30図) 径10cmの円形と推定される。壁は急角度である。深さ40cm、堆積土は1層で3a層に類似している。遺物は出土しなかった。

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95~102の各区別の破片集計を総合すると土師器58点、須恵器24点、赤焼土器2点、土師質土器皿類70点、その他の土師質土器8点、瓦質土器2点、中世の無軸陶器23点、中世の旋軸陶器4点、中国産陶・磁器5点、近世の国産陶・磁器5点、瓦1点、金属製品8点、石製品2点、土製品3点、鉄滓13点である。またこの他にウマの歯・骨なども多数出土している。図化できた遺物は7点であるが(第99図13、第100図6・10・18・25、第102図1・17)この水田跡に伴う遺物を限定することはできない。



第30図 8C-SK2 平面・断面図

第31図 8区 3b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	1°E	9.5+	32~56	70~106	3~9	
8A	2	83°E	5.6+	45	95~105	6~9	
8A	3	3°E	6.5+	30~50	96~102	4~9	
8A	4	26°W	3.5+	35~40	95	7	
8A	5	67°W	3.9+	60	92~96	1~3	
8A	6	10°W	6.0+	—	—	2	段差
8B	7	78°W	6.5+	300~350	415~505	3~8	SD1001の南壁土手
8B	8	64°W	6.4+	370~390	435~455	2~7	
8C	9	84°W	5.7+	375~462	412~472	1~5	
8C	10	68°E	6.3+	122~220	195~265	1~6	
8C	11	77°W	4.0+	—	—	6~8	段差
8C	12	13°E	3.9+	367	432~452	3~9	

表26 8区 3b層水田跡畦計測表

区	No.	幅高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.73~6.76	3+	西→東	9.5+	?	?	?	
8A	②	6.71~6.74	3+	西→東	6.5+	9.5+	(10.5)	?	東西12.0m
8A	③	6.75	?	?	3.5+	?	?	?	部分的に検出
8A	④	6.73~6.75	2+	?	6.0+	6.0+	?	2.5	東西2.5~4.0m、六角形に近い
8B	⑤	6.63	?	?	?	?	6.4+	5.5+	
8A~8C	⑥	6.70~6.74	4+	?	?	?	5.7+	6.4+	南北11~14m前後
8C	⑦	6.73~6.75	2+	?	?	?	6.3+	5.9+	南北9~11m前後
8C	⑧	6.68~6.70	2+	西→東	(13.5)	?	11.0+	12.0+	台形?
8C	⑨	6.68	?	?	?	3.9+	?	?	

表27 8区 3b層水田跡水田区画計測表

第3節 4a層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上の水田耕作土層を削り込む途中で確認した。中央部の4区から南部の5区・7区にかけては4a層自体がほとんど確認できない場合が多かったが、西部の2B区～3区と東部の6区・8区の遺存状況は比較的良好であった。

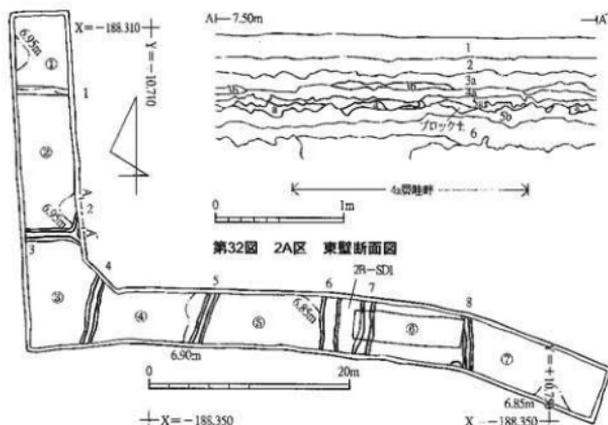
1区～5区～7区にわたる広い範囲で4a層耕作土が認められなかった理由については、4a層耕作土の母材となった土砂が全く堆積しなかったか、あるいは少なかったために3a層や3b層の耕作の影響で広範囲にわたって失われた可能性が考えられる。

(2)耕作土 耕作土4a層の厚さは5～10cmだが、3A区では比較的重く20cm前後の場所もある。下面は起伏があり、下層を巻き上げている。

(3)水田域 本来の水田域は1～8区まで調査区全域に広がっていたと推定されるが、前述のように耕作上の遺存状況が悪いため詳細は不明である。

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、西部の2B区・3A区と東部の6区・8区で検出した。2B区のSD1の土手であるNo.6・7が下端幅145～190cm程度あってやや大きく、その他3A区のNo.1が200cmを超える。その他は100～130cmのものが多い。高さは5cm前後が多いが、8区では10cm以上のものも認められる。方向はまとまりがなく規格性は認められない。



第32図 2A区 東壁断面図

第33図 2区 4a層水田跡平面図

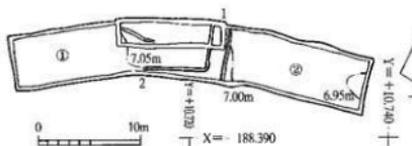
なお、8区の畦畔は3a層

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
2A	1	86°W	5.3+	—	45～94	—	換跡のみ
2A	2	14°E	1.1+	28	95	2	
2A	3	E-W	5.8-	42～60	120～128	6～10	屈曲
2A	4	12°E	6.9-	52～60	114～125	3～8	
2B	5	18°E	5.4+	46	100～114	4～7	
2B	6	3°E	5.0+	106～138	168～192	3～5	2B-SD1の土手
2B	7	7°E	5.2+	72～98	145	1～7	2B-SD1の土手
2B	8	2°W	5.1+	45～50	98	1～7	

表28 2区 4a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(ca)	横断方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
2A	①	6.93～6.95	2+	?	?	?	5.3+	?	
2A	②	6.95～6.97	2+	西→東	(13.5)	?	4.3+	8.0+	南北13.5m
2A	③	6.92～6.93	1+	?	9.5+	?	?	7.5+	
2B	④	6.90～6.93	3+	西→東	5.4+	6.9+	?	?	東西10.0m
2B	⑤	6.85～6.86	1+	?	5.4+	5.4+	?	?	東西10～11m前後
2B	⑥	6.82～6.82	1+	?	5.3+	5.2+	?	?	東西10m
2B	⑦	6.82～6.85	3+	南→北	?	5.3+	?	?	

表29 2区 4a層水田跡水田區面計測表



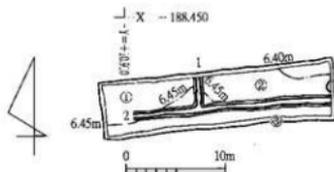
第34図 3A区 4a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3A	1	9°E	5.3	150~165	208~220	3~5	
3A	2	88°W	6.0-	-	-	4	段差

表30 3A区 4a層水田跡群計測表

区	No.	標高(m)	比高率(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
3A	①	7.01~7.09	8	?	4.5+	?	6.0+	?	
3A	②	6.95~7.00	5-	?	?	5.3+	?	?	

表31 3A区 4a層水田跡水田水面計測表



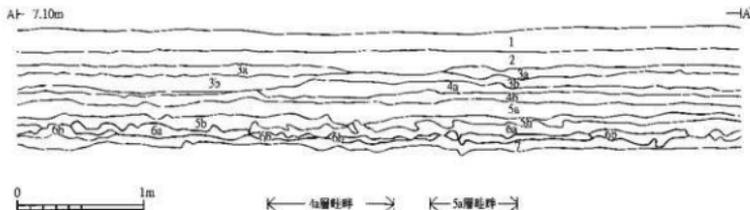
第35図 6区 4a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
6A	1	1°W	3.4	42~50	88	3	
6A	2	85°E	20.0	40~70	75~100	1~3	
6B	3	80°E	5.1	35~50	95~108	2~7	
6B	4	79°E	4.9	-	-	2~6	段差

表32 6区 4a層水田跡群計測表

区	No.	標高(m)	比高率(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
6A	①	6.41~6.45	4	?	3.4+	?	6.0+	?	
6A	②	6.40~6.45	5+	?	?	?	13.0-	?	
6A	③	6.46~6.47	1+	?	?	?	20.0+	?	
6B	④	6.46~6.48	2+	ほぼ水平	?	?	5.1+	?	
6B	⑤	6.44	0.00	ほぼ水平	?	?	4.9	5.1+	南北11.5m

表33 6区 4a層水田跡水田水面計測表



第36図 6B区 西壁断面図

や3b層ほどではないものの規模が大きく、No.6・9・12が下端幅2~3mを超えている。このうちNo.6は水路の十字である。

②水田区画 水田区画は方形を基調としている。2B区と8区では部分的ながらも規模が判明した区画があり、一辺の長さは9~11mと15~18m程度のもので多

い。面積は150㎡と300㎡程度の区画が認められる。

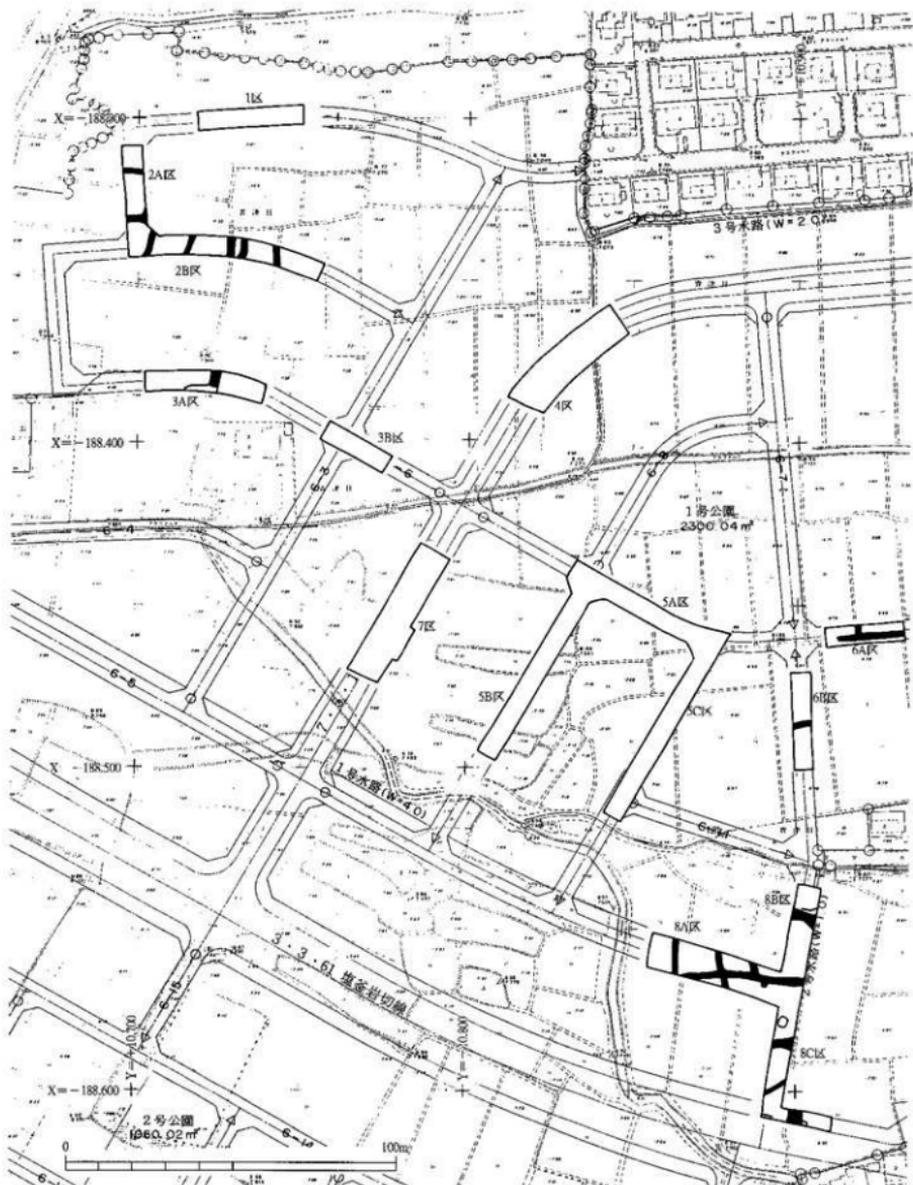
(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い3A区が7.09m、最も低い6A区が6.40mである。各水田区画内における傾斜は地形の傾きと大体一致しており、南西から北東方向を中心としている。区画内の比高差は、全体を検出できた区画がないため明確ではないが、傾斜方向も加味すると概ね5cm以内と考えられる。

(4)水口 水口は認められなかった。

(5)溝跡 前述したように2区の2B-SD1と8区のSD1001もこの4a層水田段階で機能していた水路である。

(6)土坑 8C区で2基確認した。

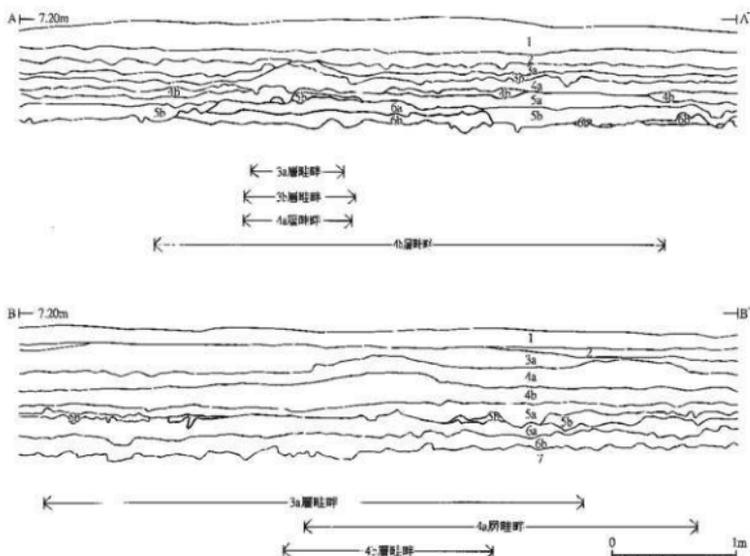
8C-SK1(第40図) 南壁跡にあり、径約180cmの円形と推定される。壁は急角度で深さ120cm、堆積上はレンズ状の自然堆積層であ



第37図 4a層水田跡全体図 (1/1500)

る。遺物は出土しなかった。

8C-SK3 (第39図) 大きさ250×330cmの長方形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは200cmである。半截作業が完了する前に崩落したため断面図は作成できなかった。堆積土は最1部の露みに4a層に類似した灰色粘土が認められたが、大部分は掘り上げた上をそのまま埋戻したようなブロック土の混合土である。遺物は出土しなかった。



第38図 8A区北壁・8C区東壁断面図

区	Nx	方向	長さ(m)	上淵幅(cm)	下淵幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	2°W	9.6	40~68	95~120	1~5	
8A-8B	2	83°E~75°W	33.0+	57~140	130~85	2~12	
8A	3	12°W	9.8+	41~88	100~12	1~5	
8A	4	8°W	2.8+	102	155	2~4	
8A	5	2°E	2.1+	102	154	2~5	
8B	6	80°W	6.4+	90~235	115~300	4~11	
8B	7	30°W	2.7+	54	83	5	
8B	8	14°E	8.0	1		5~8	段差
8C	9	86°W	5.4+	75~125	150~237	3~7	
8C	10	62°E	5.5+	35~42	92	8~10	
8C	11	76°W	4.0+	—	—	3~5	
8C	12	10°E	3.8+	29+	355~362	3~14	

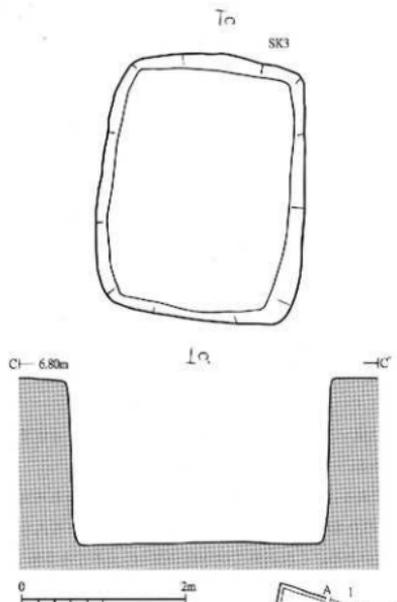
表34 8区 4a層水田跡群計測表

区	Nx	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.70~6.73	3+	西→東	9.6	?	?	?	
8A	②	6.68~6.70	2+	西→東	9.8+	10.5+	(12.5)	?	東西12.5m
8A	③	6.88	?	?	2.7	?	?	6.5+	
8A	④	6.63~6.66	3+	西→東	2.5+	2.7+	8.2	?	東西8.5m
8A	⑤	6.65	?	?	2.5+	3.0+	?	11.0	東西10.5m
8B	⑥	?	?	?	?	1.3	?	1.0+	部分的に検出
8B	⑦	6.57~6.59	2+	ほぼ水平	(17.5)	(17.5)	(17.0)	(16.0)	東西15~18m, 南北17.5m, 約300㎡
8A~8C	⑧	6.61~6.65	4+	?	?	(18.0)	(7.5)	10.5+	東西7.5~10m, 南北17.5m, 約155㎡
8C	⑨	6.66~6.69	3+	?	?	?	5.5+	5.4+	南北10~14m前後, 台形?
8C	⑩	6.61~6.65	4+	西→東	(12.0)	?	8.5+	10.0+	台形か三角形
8C	⑪	6.61~6.64	3+	?	?	3.8+	?	?	東西7.5~10m, 南北17.5m, 約153㎡

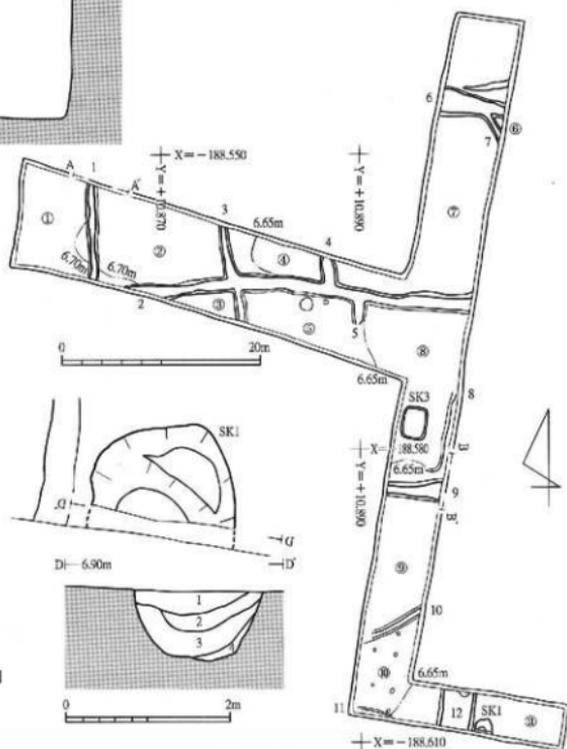
表35 8区 4a層水田跡水田区画計測表

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95～102の各区別の破片集計を総合すると土師器26点、須恵器14点、土師質土器皿類28点、その他の土師質土器3点、中世の無軸陶器16点、中世の施軸陶器3点、瓦1点、金属製品1点、鉄滓1点である。またこの他にウマの歯が出土している。図化できた遺物は2点である（第100図13・22）。



第39図
8C-SK3 平面・断面図



第40図
8C-SK1 平面・断面図

層位	色産	土質	副人物・その他
1	10Y3/2 灰黄褐色	特土	黒褐色粘土ブロック少量
2	5Y4/1 灰色	シルト質粘土	黒色粘土ブロック少量
3	5Y4/1 灰色	粘土	マリブ黒色粘土ブロック少量
4	5Y3/1 マリブ褐色	粘土	

第41図 8区 4a型水田跡平面図

第4節 4b層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上層の水田耕作土を削り込む途中で確認したが全体的に遺存状況が悪く、特に北部～西部の1～3区では4b層自体も確認できない場合が多かった。また5B区・5C区では4b層は遺存していたが畦畔は確認できなかった。

耕作土が広範囲にわたって確認できなかったのは4a層の場合と同様で、その理由についても同じようなことが考えられる。

(2)耕作土 耕作土4b層の厚さは10cm前後だが、5区では比較的厚く10～20cmある。下面は起伏があり、直下層を巻き上げている。

(3)水田域 本来の水田域は1～8区まで調査区全域に広がっていたと推定されるが、前述したように耕作土の遺存状況が悪いため詳細は不明である。

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、中央部の5A区・7区と東部の6区・8区で検出した。4区では盛り上がりは認められなかったが畦畔下部の痕跡を確認している。

規模が大きいのは5区№2で、これは5A-SD1の西側土手である。下端幅で4m以上あり、道路の機能も考えられる。8A区№1と2は並行する2本の畦畔のように検出されたが、実際は両者は同じ畦畔であるとも考えられる(第51回・下端幅約4m)。これも道路として使用された可能性がある。これ以外では2B区のSD1の土手である№2・3が下端幅120～130cmでやや大きい。他にも100～115cm程度のものが認められるので特に大畦畔として区別はできないと考える。

その他の畦畔は下端幅40～90cm程度のものが多い。高さは5cm前後のものが多いが、8区では10cm近いもの認められる。方向は3a層水田跡と同様に3～10°東傾するものが多いが、規格性は認められない。

(2)水田区画 水田区画は方形を基調としているが、規模が判明した区画が少ない。一辺の長さは6～18mとばらつきがあり、規格性は認められない。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高いのが5A区と7区で6.83～6.85m、最も低い6A区が6.40mである。各水田区画内における傾斜は地形の傾きと概ね一致しており、南西から北東方向を中心としている。区画内の比高差は、



第42図 4区 4b層水田跡平面図

区	№	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
△	1	88°E	6.5+	—	70～100	—	痕跡のみ
△	2	9°E～9°W	11.0+	—	70～105	—	痕跡のみ
△	3	81°W	5.3+	—	50～120	—	痕跡のみ
△	4	81°E	8.0+	—	100～120	—	痕跡のみ

表36 4区 4b層水田跡畦畔計測表

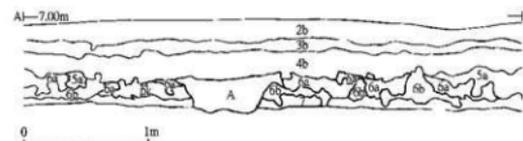
全体を検出できた区画がないため明確ではないが、傾斜方向

区	№	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
4	①	6.50～6.60	10+	西→東	?	?	?	?	詳細不明
4	②	6.80	?	?	?	?	6.5-	?	
4	③	6.62～6.69	7+	西→東	?	(11.0)	(11.0)	(11.5)	東西12m、南北11.5m、約140m
4	④	6.63～6.65	2+	?	?	6.0+	?	5.4+	
4	⑤	6.06～6.70	△-	?	8.5+	?	7.8-	?	
4	⑥	6.69～6.70	1+	?	?	?	?	7.0+	

表37 4区 4b層水田跡水田区画計測表

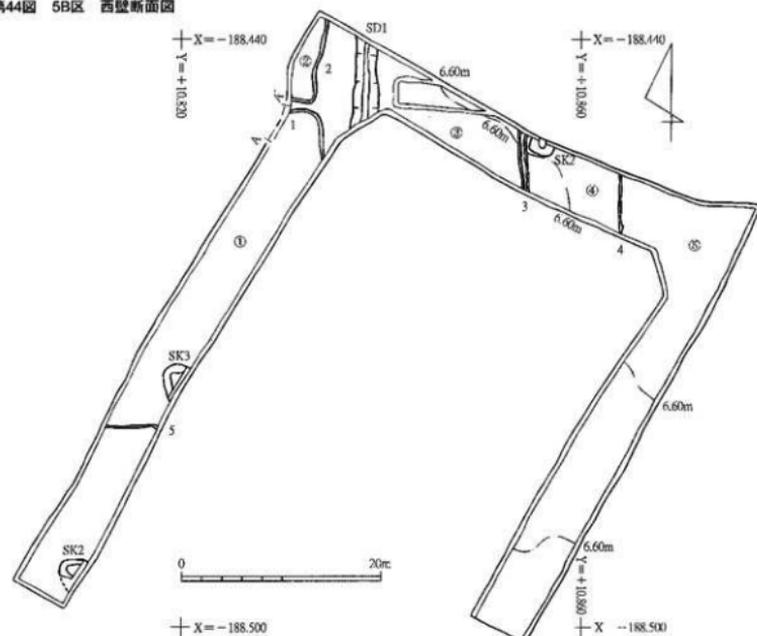
も加味すると概ね5cm以内と考えられる。

(4)水口 8区の畦畔7に不明瞭ながらも途切れる箇所が認められた。区画⑥から④へ向う給排水用と推定される。



第44図 5B区 西壁断面図

(5)溝跡 溝跡は6a層から踏襲されている2B~SD1の他に5A~SD1、8区のSD1001と8C~SD1がある。



第45図 5区 4b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上幅幅(cm)	下幅幅(cm)	高さ(cm)	備考
5B	1	84°W	2.5-	70~85	118~38	?	
5A~5B	2	3°E	11.7+	315~395	400~4'5	1~7	大群群・5A~SD1の西側上土
5A	3	2°W	5.8-	25~42	70~85	2~9	
5A	4	N-S	6.1-	-	-	?	段差
5B	5	E-W	5.7-	-	-	2~5	段差

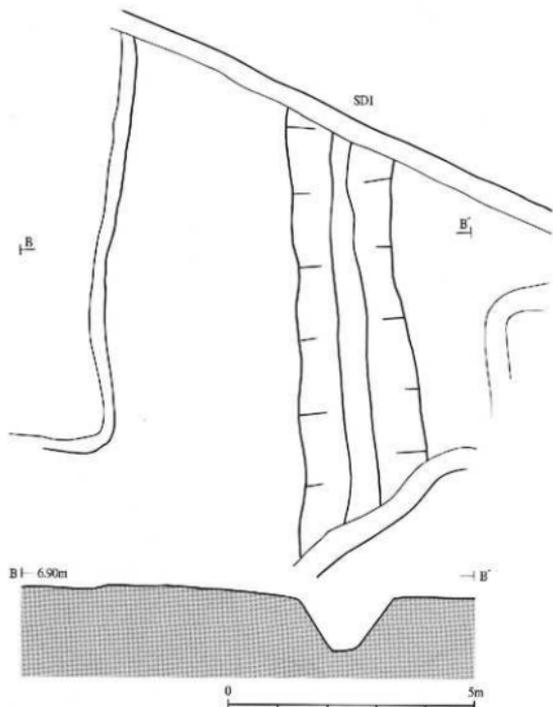
表38 5区 4b層水田跡群計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
5B	①	?	?	?	4.0-	?	?	2.5+	
5A	②	6.80~6.85	5+	?	8.5-	?	1.8-	?	
5A	③	6.60~6.66	4+	南西→北東	5.8-	6.0+	?	?	東西10~13m前後
5A	④	6.58~6.61	3+	南西→北東	6.1-	5.8+	?	?	東西8~9m
5A~5C	⑤	6.56~6.63	7+	?	?	?	?	?	分別される可能性

表39 5区 4b層水田跡水田区画計測表

5A-SD1 (第46図) 5A区西部から5B区北部にのびている。確認できた距離は短い調査区内ではほぼ真北方向を向いている。幅190～250cm、深さ110cmで、西側には幅の広い土手を伴っている。断面図を作成する予定であった調査区壁面が崩落したため詳細な断面図は掲載できなかったが、堆積土は灰黄褐色の細砂と粘土との互層で、水成堆積層と考えられる。直下の5a層水田跡に伴う5A-SD2が埋没した後に同じ場所に掘り直した水路である。遺物は出土しなかった。

SD1001 (第52図) 8B区北端部に位置する。延長部分を東に約60m離れた8区拡張区(第3図)でも確認している。南岸のみを検出している。南岸のみは不明であるが、断面観察では底面はほぼ平坦である。堆積土は砂や粘土の互層で水成堆積層と考えられる。掘削されたのは4層水田の時期で、一度埋没した後に改修されている。位置関係や方向、掘り込まれた層位、断面の形態などから



第46図 5A-SD1 平面・断面図

9区で調査された城館の外堀SD1001の延長部分と推定される(註1)。板材小片が1点出土している。

8C-SD1 (第53図) 8C区東端に位置し、南北にのびている。幅140～150cm、深さ70cmで、堆積土は4a層に類似している。赤焼土器片が1点出土している。

(6)土坑 5区で3基、8区で1基確認した。

5A-SK2 (第47図) 5A区北壁際に位置する。径240cmのやや歪んだ円形と推定される。深さ40cmで壁は急角度である。断面図を作成する予定であった調査区壁面が崩落したため詳細な断面図は掲載できなかったが、堆積土は掘り上げた土をそのまま埋め戻したようなブロック土の混合である。遺物は出土しなかった。

5B-SK2 (第47図) 5B区南端部の東壁際に位置する。径340cm以上の楕円形と推定され、深さは125cm、壁は急角度である。堆積土下層は自然堆積層であるが、上層は人為的に埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

5B-SK3 (第47図) 5B区中央部の東壁際に位置する。長軸400cm以上の楕円形と推定され、深さは140cm、底面は平坦で壁はやや急角度である。堆積土下層は自然堆積層であるが、最上層は人為的に埋め戻されている。遺物は下層から墨絵が描かれた土師質土器小皿が1点出土した(第103図3)。

8A-SK4 (第53図) 8A区中央部の南壁際に位置する。大きさ300×370cm以上の長方形で、深さは130cm、底面は平坦で壁は急角度である。半截した壁面が崩落したため詳細な断面図は掲載できなかったが、堆積土はレンズ状を呈

する自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95～102の各区別の破片集計を総合すると土師器156点、須恵器42点、赤埴土器3点、土師質土器皿類30点、その他の土師質土器6点、瓦質土器1点、中世の無軸陶器31点、中世の施軸陶器2点、中国産陶・磁器1点、瓦13点、金属製品5点、石製品2点、鉄滓12点である。またこの他にウマの歯なども出土している。園化できた遺物は7点である（第99図6、第100図8・21、第101図13・14、第102図12・16）。この水田跡に伴う遺物を限定することはできないが、5A区からは当遺跡で確認された唯一の山茶碗の破片が出土している。

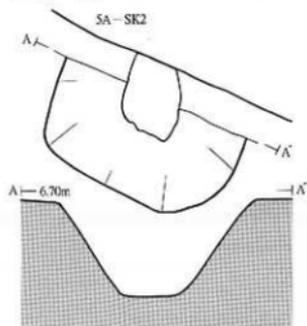
(註1) IVa層の城館に係わる遺構群はIVa1期～IVa4期までの4期に細分されるが、城館の外堀SD1001が設置されたのはIVa3期である。SD1001は4b層水田面から掘削されていることから、外堀SD1001の掘削時期はIVa3期の初期で4b層水田の存続期の最終頃と考えられる。(以下の対応を参照)

IVa4期=3b層

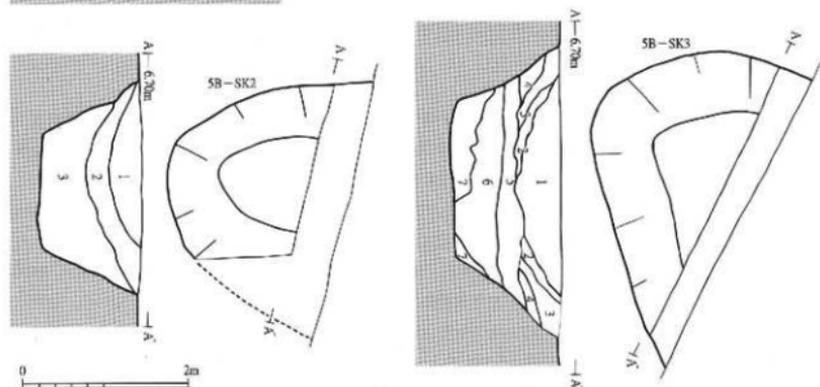
IVa3期=4b層末期～4a層

IVa2期=4b層

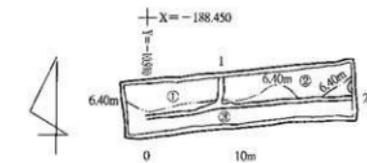
IVa1期=4b層



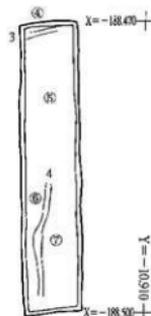
5B-SK2			
層位	色調	土質	混入物・その他
1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色細砂ブロック・灰色粘土ブロック・灰オリーブ色粘土ブロック多量、人為的な埋め土
2	5Y4/1 灰色	粘土 粘土 細砂	互層
	5Y3/1 オリーブ黒色		
	5Y2/2 オリーブ黒色		
3	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック少量、植物遺体少量
5B-SK3			
1	5Y4/1 灰色	粘土 粘土 粘土 粗砂	混合
	5Y2/1 黒色		
	7.5Y5/1 灰色		
	10Y4/1 灰色		
2	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	細砂少量
3	5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	
4	7.5Y4/1 灰色	粘土	
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物遺体少量
6	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
7	7.5Y4/1 灰色	粘土	暗灰色泥炭質粘土ブロック・オリーブ黒色細砂ブロック少量、植物土



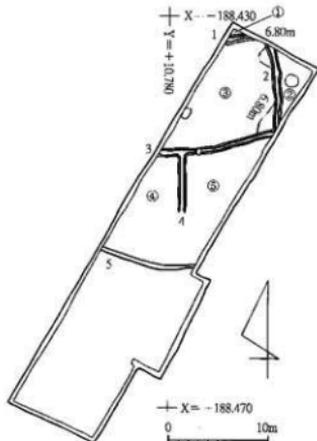
第47図 5A-SK2、5B-SK2・3 平面・断面図



第48図
6区 4b層水田跡平面図



第49図
7区 4b層水田跡平面図



区	No.	方向	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	高さ(cm)	備考
6A	1	2°E	2.6+	—	58	—	痕跡のみ
6A	2	86°E	21.1+	—	37~75	—	痕跡のみ
6B	3	74°E	3.2+	—	43~58	—	痕跡のみ
6B	4	4°E	11.4+	—	50~90	—	痕跡のみ

表40 6区 4b層水田跡畦畔計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	80°E	2.2+	27~43	82	4~6	
7	2	5°W	8.2+	32~42	75~80	1~5	
7	3	79°E	1.5+	27~52	60~72	1~5	
7	4	N-S	5.9+	48	70	3~5	
7	5	80°W	9.5+	—	—	1~5	段差

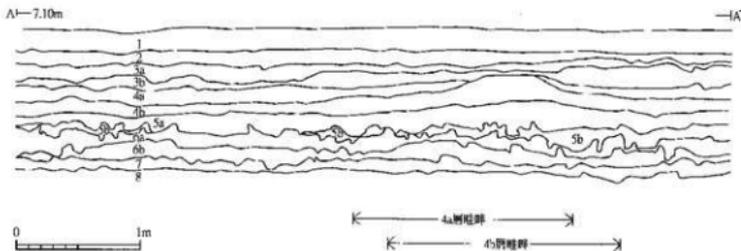
表41 7区 4b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	農機・その他
6A	①	6.37~6.40	3+	?	2.5+	?	7.0+	?	
6A	②	6.36~6.40	4+	?	?	2.5+	13.2+	?	
6A	③	6.41	?	?	?	?	21.1	?	
6B	④	?	?	?	?	?	3.2	?	
6B	⑤	6.43~6.45	2	?	?	?	?	3.2+	
6B	⑥	6.43	?	?	11.4+	?	?	?	
6B	⑦	6.41~6.42	1	?	?	4+	?	?	

表42 6区 4b層水田跡水田区画計測表

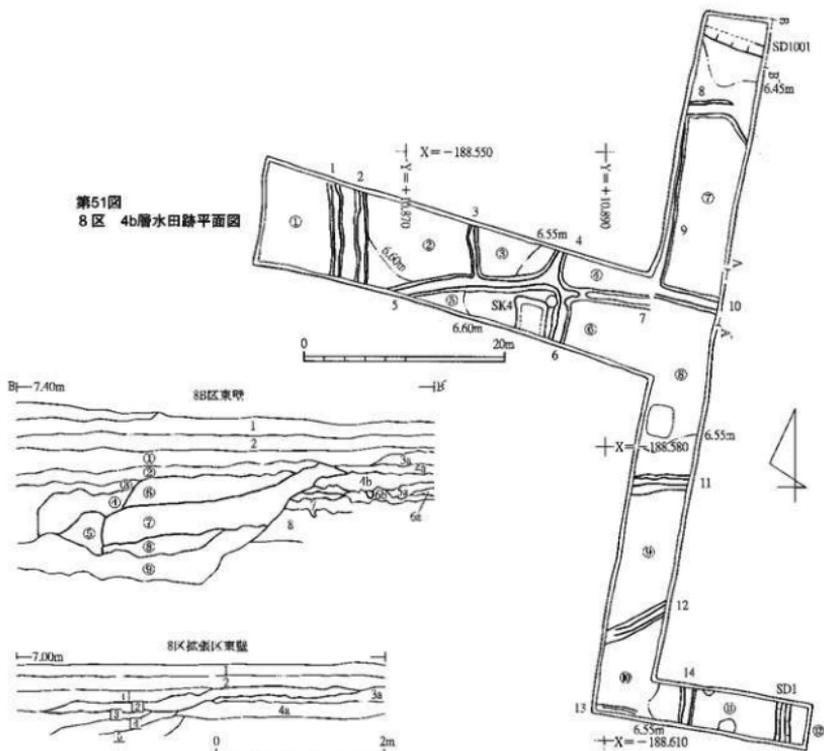
区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	農機・その他
7	①	6.80	?	?	?	?	1.5+	?	
7	②	6.76~6.78	2+	?	?	7.5+	?	?	
7	③	6.80~6.83	3+	?	(9.5)	?	11.2+	3.0+	南北9.5m
7	④	6.76~6.80	4+	?	5.7+	?	7.0+	2.0+	南北9~11m前後
7	⑤	6.80	?	?	?	?	5.7+	?	8.7

表43 7区 4b層水田跡水田区画計測表



第50図 8B区 東壁断面図

第51図
8区 4b層水田跡平面図



層位	色調	土質	遺入物・その他
8区東壁 ①	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	融合
	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	
②	2.5Y5/2 黒褐色	粘土	融合・部分 的に互層
	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
③	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	融合
	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
④	2.5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	壁の崩壊土
	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
⑤	2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土	互層
	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	
⑥	7.5Y3/2 オリーブ黒色	細砂	互層
	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト質粘土	
⑦	5Y2/1 黒色	泥炭質粘土	互層
	5Y4/1 灰褐色	粘土	
⑧	5Y3/1 黒褐色	粘土	互層
	2.5Y3/1 黒褐色	細砂	
⑨	2.5Y3/1 黒褐色	細砂	融合
	2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土	
	2.5Y2/1 黒色	泥炭質粘土	崩壊土?

8区北東壁

11	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	礫化粘粒少量
20	10YR6/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・に灰黄褐色シルトブロック多量
21	2.5Y4/1 黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・黒色粘土ブロック少量
30	10YR2/2 黒褐色	粘土	に灰黄褐色粘土ブロック少量
31	10YR3/2 黒褐色	粘土	互層
	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	

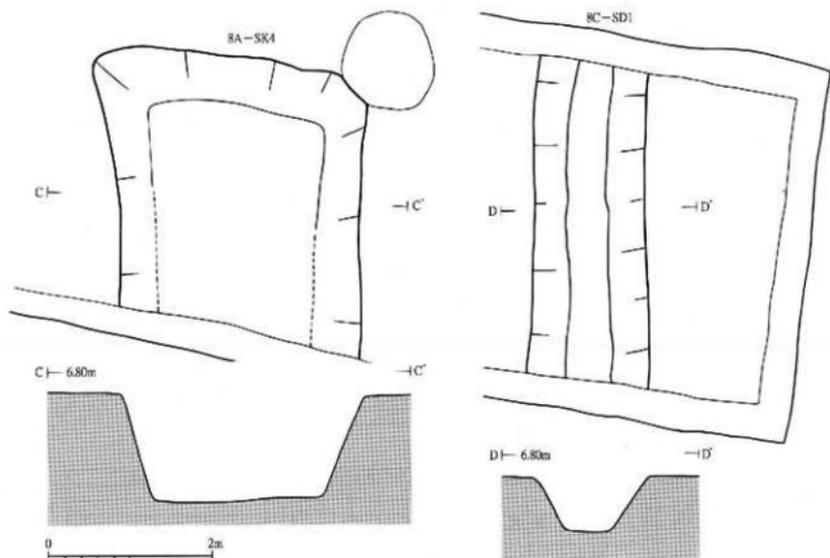
第52図 SD1001 断面図

区	No.	方向	高さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	1°W	9.3+	45~68	97~130	3~7	柱礎?と合わせて大廻り?
8A	2	N-S	9.5+	36~82	106~131	6~8	
8A	3	3°W	5.5+	34~57	67~98	2~7	
8A	4	25°E	3.0+	75	100	7	
8A	5	80~85°E	15.1+	61~104	148~173	5~13	
8A	6	10°E	5.0+	46~90	160~167	8~12	
8A	7	85°W	8.2+	52~68	130	4~13	やや不明瞭な水口
8B	8	E-W	4.3+	108	160~168	4~16	SD100の南側土手
8B	9	8°E	17.5	—	—	5~9	段差
8B	10	75°W	6.5+	76~84	140~167	7~15	
8C	11	E-W	5.5+	47~72	145~190	6~14	
8C	12	62°E	6.5+	57	130~145	8~14	
8C	13	78°W	4.0+	—	—	6~10	段差
8C	14	7°E	3.8+	68~86	130	4~8	

表44 8区 4b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.60~6.64	4+	?	9.3+	?	?	?	
8A	②	6.57~6.60	3+	?	5.5+	10.0+	(10.5)	?	東西10~10.5m
8A	③	6.54~6.56	2+	?	2.7+	5.0+	6.0	?	東西6~8m前後
8A	④	6.50~6.51	1+	?	?	3.0+	8.0	?	東西8m
8A	⑤	6.56~6.60	4+	?	5.0+	?	?	14.2+	
8A	⑥	6.55	?	?	?	4.4+	?	(7.0)	東西7m前後
8B	⑦	6.46~6.48	2+	?	?	17.0	5.5+	6.0+	南北17~18m
8A~8C	⑧	6.50~6.56	6+	?	?	?	5.5+	6.0+	南北16.5~17.5
8C	⑨	6.56~6.59	3+	?	?	?	6.5+	5.5+	南北11m前後
8C	⑩	6.54~6.56	2+	西→東	(11.5)	?	8.5+	9.0+	台形か三角形
8C	⑪	6.52~6.56	4+	?	4.0+	3.8+	?	?	東西7m前後
8C	⑫	6.52	?	?	?	3.8+	?	?	

表45 8区 4b層水田跡水田区画計測表

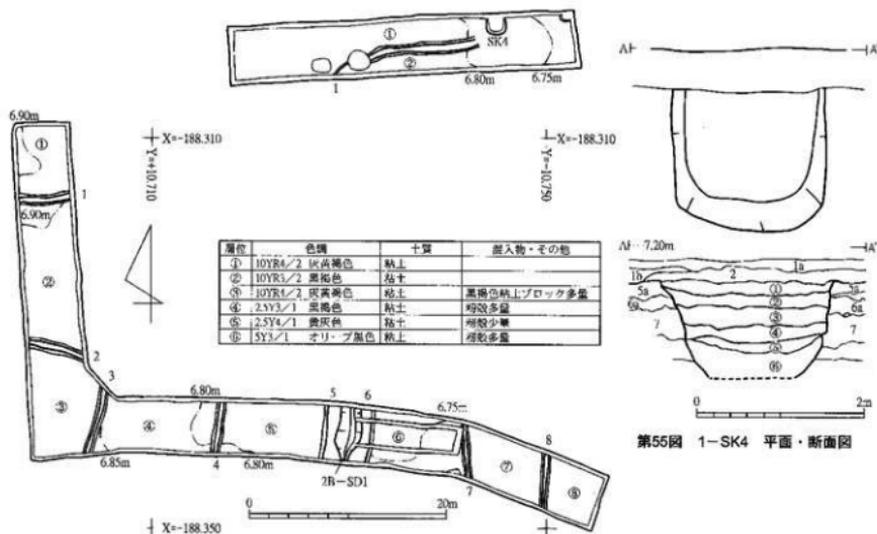


第53図 8A-SK4, 8C-SD1 平面・断面図

第5節 5a層水田跡

1. 水田の概要

- (1)検出・遺存状況 畦畔は直上層の水田耕作土を削り込む途中で確認した。全体的に遺存状況が良好である。
- (2)耕作土 耕作土5a層の厚さは5~10cm前後だが、4区では比較的厚く20cmある。下面は起伏があり、直下層を巻き上げている。
- (3)水田域 水田域は1~8区まで調査区全域に広がっている。



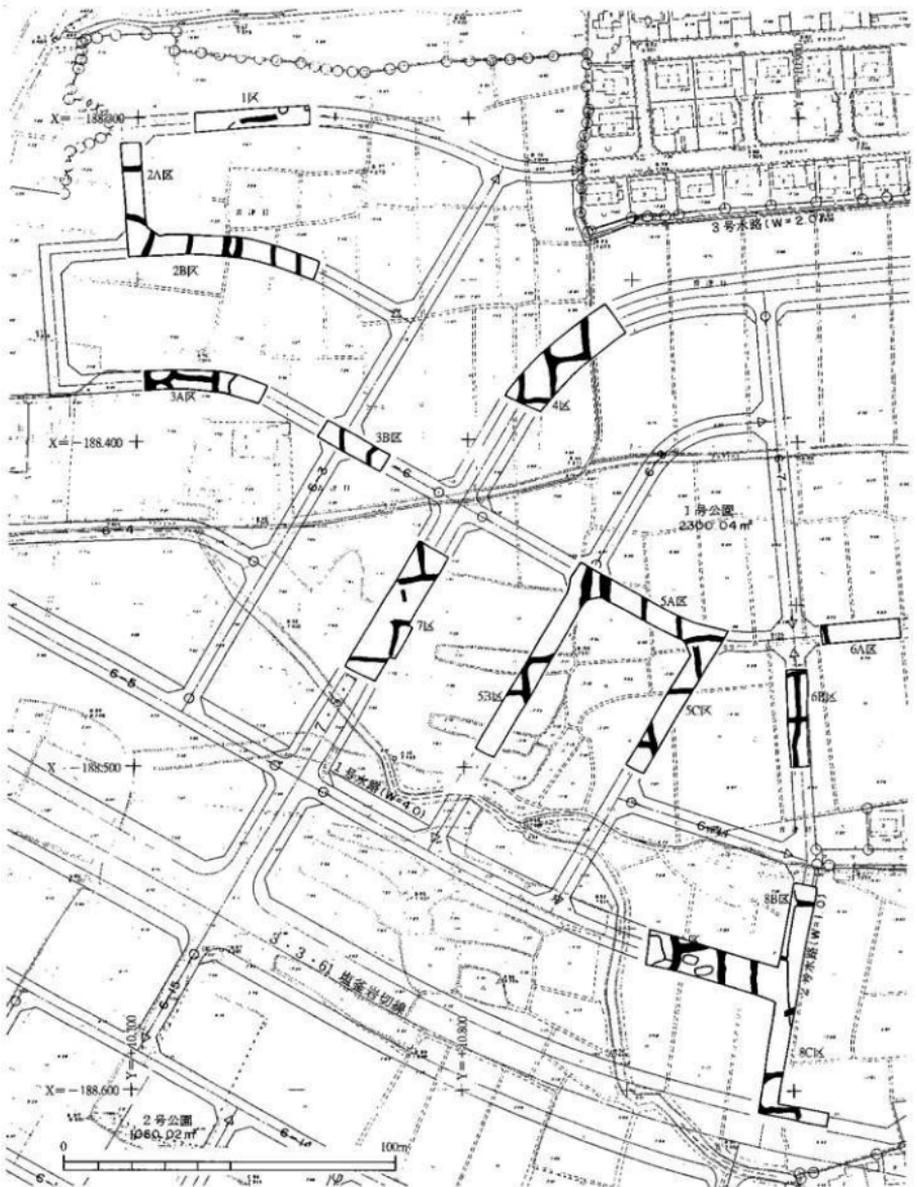
第54図 1・2区 5a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	①	64°~85°E	11.0+	42~78	108~124	?	屈曲
2A	1	85°E	5.2+	48~58	100	2~6	
2A	2	75°W	5.7+	45~52	92~118	1~6	
2A	3	16°E	6.7+	35~54	85~99	3~5	
2B	4	10°E	5.2+	47~52	88~112	1~3	
2B	5	6°E	5.5+	97~108	145~215	1~4	2B-SD1の西側土手
2B	6	11°E	5.4+	83~160	137~172	~5	2B-SD1の東側土手
2B	7	4°W	5.5-	28~50	65~82	~5	
2B	8	4°E	5.5-	34~48	70~88	~4	

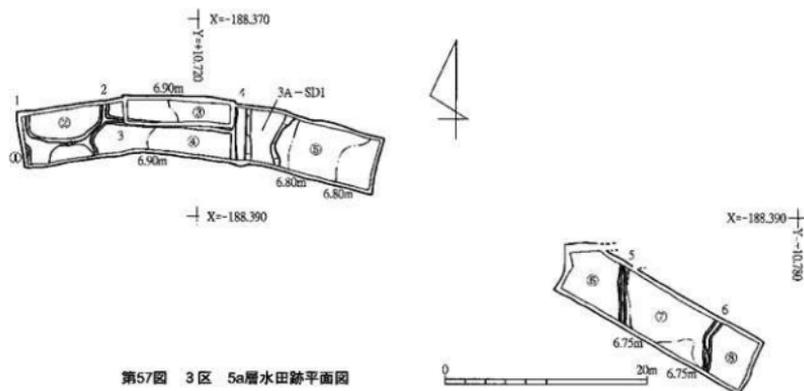
表46 1・2区 5a層水田跡詳計測表

区	No.	標高(m)	北西差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
1	①	6.75~6.82	7+	?	?	?	11.1+	?	
1	②	6.75~6.80	5+	?	?	?	?	11.1+	
2A	①	6.89~6.90	1+	西→東	?	?	5.2+	?	
2A	②	6.86~6.90	4+	?	?	?	5.7+	5.7+	南北13.5~15m前後
2A	③	6.85~6.87	2+	?	9.0+	?	?	7.5+	
2B	①	6.80~6.85	5+	西→東	5.2+	6.7+	?	?	東西11m
2B	②	6.77~6.80	3+	?	5.5+	5.2+	?	?	東西10m
2B	③	6.73~6.75	2+	?	5.5+	5.4+	?	?	東西8.5~9.5前後
2B	④	6.77~6.78	1+	?	5.5+	5.5+	?	?	東西7m前後
2B	⑤	6.78	?	?	?	5.5+	?	?	

表47 1・2区 5a層水田跡水田区画計測表



第56図 5a層水田跡全体図 (1/1500)



第57図 3区 5a層水田跡平面図

区	N _a	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3A	1	3°W	3.2+	93	152	6~12	
3A	2	3~45°E	4.2+	18~44	75~80	6~10	屈曲
3A	3	84°W	12.3	50	60~65	2~4	
3A	4	N-S	5.3+	97	190~200	10	3A-SD1の西側土手
3B	5	N-S	5.8+	20~34	60~80	1~4	
3B	6	6~39°E	5.2+	28~44	65~82	1~5	屈曲

表48 3区 5a層水田跡畦畔計測表

区	N _a	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
3A	①	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
3A	②	6.91~6.93	2+	?	3.5+	1.8+	5.0	?	東西7m
3A	③	6.89~6.92	3+	西→東	2.0-	1.2+	12.0	?	東西12m
3A	④	6.89~6.92	3+	西→東	2.5+	3.3+	?	12.5	東西13m
3A	⑤	6.76~6.82	6+	?	?	?	?	?	
3B	⑥	5.75~6.79	4+	西→東	5.8+	?	?	?	
3B	⑦	6.73~6.75	2+	?	?	5.2+	?	?	東西8m前後
3B	⑧	6.73	?	?	?	5.2+	?	?	

表49 3区 5a層水田跡水田区画計測表

2. 遺構の状況

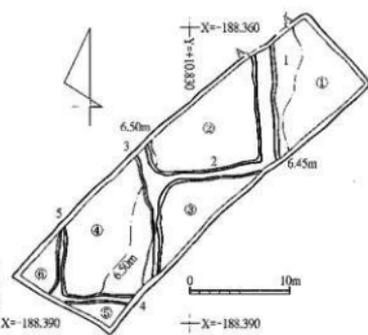
(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、全調査区で検出した。規模が大きいのは2区N_a5・6、3A区N_a4、4区N_a1、5A区N_a5・6、8A区1・2である。2区・3A区・5区のは水路の土手で、4区で検出したものは基軸の大畦畔と推定される。8A区の場合は上端幅が他の畦畔とほとんど変わらず下幅だけが広がっているが、理由は判然としない。



第58図 4区 北壁断面図

その他の畦畔は下端幅80～100cm程度のものが多い。高さは5cm以上のものが多く、中には10cm以上のものも認められる。方向は真北を中心にして西に5°前後、東に10°前後の振れがある。

②水田区画 水田区画は方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、8区では一辺8～10m×10m(約90m²)の区画と一辺7.5～9.5m×14.5×18m(約150m²)の区画が認められた。その他の区画では一辺の長さは7～14mとばらつきがあり、5B区では南北長23mの区画も認められた。



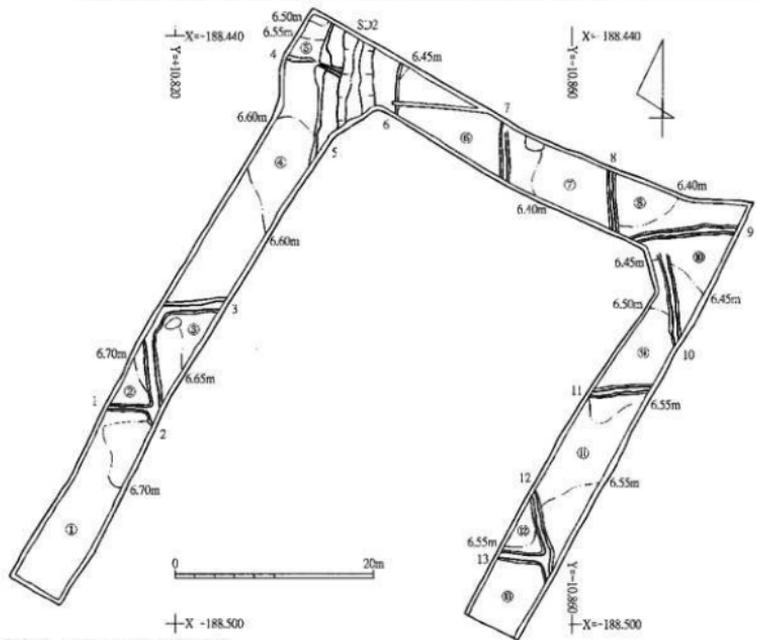
第59図 4区 5a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
4	1	4°W	11.4	150	200～230	8～18	大畦畔
4	2	81°E	11.0	80～80	98～32	6～9	
4	3	N=5～18°W	12.7	30～127	92～164	2～8	やや屈曲
4	4	18°W	7.3	32～56	ND	5～9	
4	5	3°E	6.7	30～58	68～97	2～9	

表50 4区 5a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	縦横・その他
4	①	6.43～6.46	3+	?	?	?	?	?	
4	②	6.45～6.50	5+	?	11.2+	2.8-	10.0	?	東西11m
4	③	6.45～6.46	1-	?	?	?	?	9.5+	
4	④	6.46～6.50	?	?	14.0	6.7-	(7.5)	?	東西10m前後
4	⑤	6.48	?	?	?	?	?	6.0+	
4	⑥	6.53	?	?	6.0+	?	?	?	

表51 4区 5a層水田跡 水田区画計測表



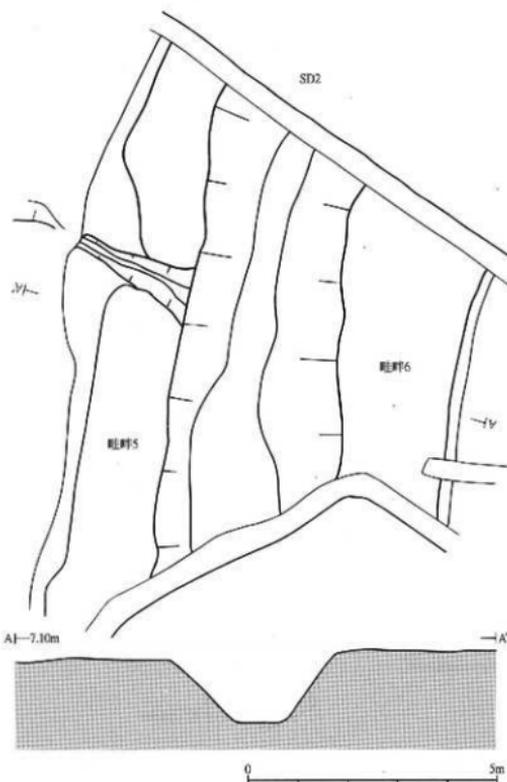
第60図 5区 5a層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
5B	1	85°W	4.8+	40	80	1~3	
5B	2	6°W	11.0+	70~80	112~140	1~8	屈曲
5B	3	85°E	6.2+	56~72	125~135	6~11	
5A	4	85°W	3.0+	—	—	4	段差
5A	5	6°E	12.0+	132~174	166~242	2~16	5A-SD2の東側土手、水口あり
5A	6	3°E	5.4+	235	275	4~8	5A-SD2の東側土手
5A	7	N-S	5.7+	42	84~94	3~7	
5A	8	3°W	6.1+	25~35	70~85	3~7	
5A	9	84°E	10.3+	40~68	68~92	3~5	
5A-5C	10	9°W	9.0+	40~70	98~108	2~6	
5C	11	85°E	6.0+	35~50	95~100	2~7	
5C	12	10~13°W	8.8+	35~50	85~100	1~4	
5C	13	83°W	4.8+	52~70	98~108	1~3	

表52 5区 5a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
5B	①	6.68~6.72	4+	西→東	?	?	?	4.0+	
5B	②	6.69~6.73	4+	?	6.5+	?	4.0+	?	
5B	③	6.64~6.67	3+	?	?	9.0+	?	5.0+	
5B	④	6.56~6.63	7+	?	(23.0)	?	13.5+	3.0+	南北23m
5A	⑤	6.50~6.57	7+	?	4.0+	?	3.0+	?	
5A	⑥	6.37~6.45	7+	西→東	5.7+	5.4+	?	?	東西10m
5A	⑦	6.37~6.41	4+	西→東	6.1+	5.7+	?	?	東西9.5m
5A	⑧	6.38~6.42	4+	?	?	6.5+	?	?	
5C	⑨	6.45~6.54	9+	?	(15.0)	?	8.5+	1.5+	南北14m前後
5A-5C	⑩	6.42~6.46	4+	?	?	10.5+	?	6.5+	
5C	⑪	6.53~6.56	3+	?	?	17.0+	?	12.0+	
5C	⑫	6.55~6.59	4+	?	5.5+	?	4.0+	?	
5C	⑬	6.52~6.54	2+	?	2.0+	?	?	4.5-	

表53
5区
5a層水田跡
水田区画計測表



(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高いのが3A区で6.93m。最も低い6A区が6.32mである。各水田区画内における傾斜は西から東方向を中心としている。区画内の比高差は概ね5cm以内のものが多いと推定されるが中には10cm近い区画も認められ、全体的には比較的大きい。

(4)水口 5区の畦畔5に認められた。区画④北東部からSD2への排水用で、水田側である西端部の幅は30cmだがSD2側では100cmに広がっている。

(5)溝跡 溝跡は6a層から踏襲されている2B-SD1の他、5A区で1条確認した。

5A-SD2(第61図) 5A区西部から5B区北部にのびている。確認できた距離は短い調査区内ではほぼ真北方向を向いている。幅300~350cm、深さ130cmで、両側には幅の広い土手を

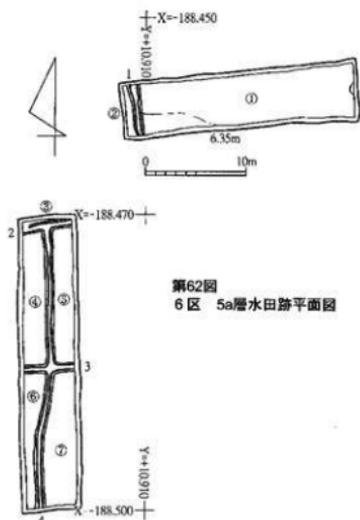
第61図 5A-SD2 平面・断面図

伴っている。断面図を作成する予定であった調査区壁面が崩落したため詳細な断面図は掲載できなかったが、堆積土は自然堆積層で黒褐色粘土層を主とし、壁際には崩落土が認められた。水田に伴う基幹水路である。遺物は在地産の無釉陶器片が1点出土している。

(6)土坑 1区で1基、8区で2基確認した。

1-SK4 (第55図) 北壁際に位置し、190×220cm以上の隅丸長方形と推定される。崩落の危険があったため完掘できなかった。深さ120cm以上で壁は急角度である。堆積土は自然堆積層で、遺物は出土しなかった。

8A-SK5-SK6 (第66図) 8A区に隣接して位置する類似した土坑である。8A-SK5は280×450cm、8A-SK6は250×500cmの長方形で大きさがやや異なるが、深さは共に130cmで壁は両者共にほぼ垂直に立ち上がる。堆積土も共通で、掘り上げた土をそのまま埋め戻したようなブロック土の混合である。遺物は出土しなかった。



第62図
6区 5a層水田跡平面図

区	Ka	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
6A	①	9°W	5.2+	40~60	80~94	1~5	
6B	②	80°W	5.0+	42~55	78~90	~3	
6B	③	85°E	5.0+	45	85~94	3	
6B	④	10°E~2°W	27.0+	35~63	73~88	2~7	

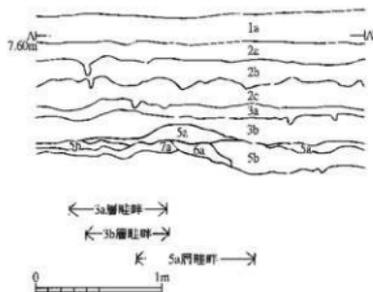
表54 6区 5a層水田跡畦畔計測表

区	Ka	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	奥辺(m)	厚辺(m)	前辺(m)	北辺(m)	規模・その他
6A	①	6.32~6.35	3+	?	?	5.2+	?	?	
6A	②	6.37	?	?	5.2-	?	?	?	部分的に検出
6B	③	?	?	?	?	?	5.0+	?	部分的に検出
6B	④	6.36~6.38	2+	?	13.5	?	2.0+	1.7+	南北13m
6B	⑤	6.35~6.38	3+	?	?	13.5	1.5+	1.8+	南北13.5m
6B	⑥	6.35~6.38	2+	?	13.5+	?	?	1.8+	
6B	⑦	6.35~6.36	1+	?	?	13.5+	?	1.8+	

表55 6区 5a層水田跡水田区画計測表

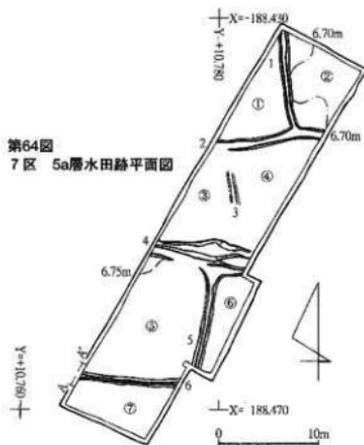
3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95~102の各区別の破片集計を総合すると上師器104点、須恵器44点、赤焼土器7点、土師質土器皿類25点、その他の土師質土器4点、瓦質土器1点、中世の無釉陶器62点、中世の施釉陶器1点、中国産陶・磁器2点、近世の陶・磁器5点、瓦2点、金属製品5点、石製品1点、鉄滓5点である。またこの他にウマの歯や骨なども出土している。同化できた遺物は7点であるが(第99図8、第100図7・11・12・17・22、第102図15)、この水田跡に伴う遺物を限定することはできない。



第63図 7区 西壁断面図

第64図 7区 5a層水田跡平面図



区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	5°W	10.2+	39~62	70~88	1~5	
7	2	83°E	9.5+	72~80	87~112	1~6	やや屈曲
7	3	9°W	3.2+	42~48	71	1~3	
7	4	86°W	9.4+	48~100	112	3~4	
7	5	12°E	9.3+	35~50	83~95	1~10	
7	6	86°W	9.8+	8~22	55~80	6~12	

表56 7区 5a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
7	①	6.70~6.73	3-	?	9.5+	?	7.3+	?	
7	②	6.69~6.75	6-	西→東	?	9.5+	2.5+	?	
7	③	6.73	?	?	(11.5)	?	8.0+	?	南北11m前後
7	④	6.74	?	?	?	(12.0)	?	?	8.5+
7	⑤	6.75~6.78	3+	?	(10.5)	?	11.0+	5.1	南北12m前後
7	⑥	6.78	?	?	?	9.5+	?	2.0+	
7	⑦	6.78	?	?	?	?	?	10.0+	

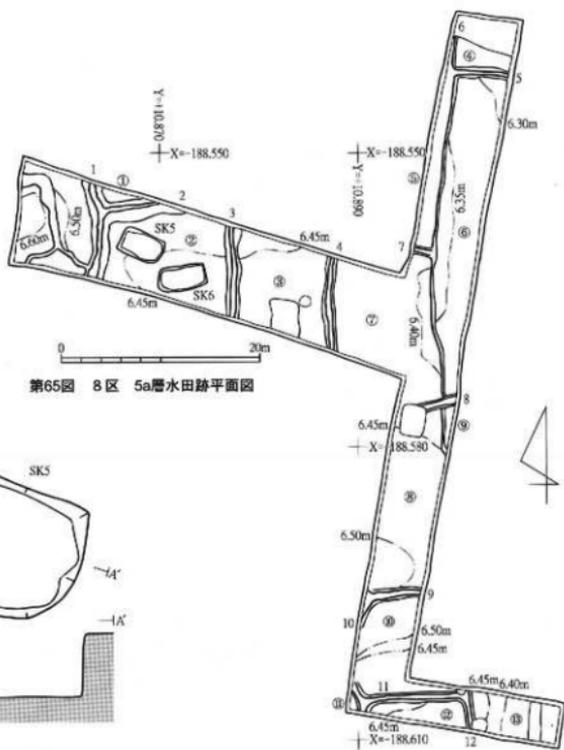
表57 7区 5a層水田跡水田区画計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	9°E~15°W	10.9-	35~90	67~192	2~12	やや屈曲
8A	2	82°E	5.6+	28~40	200~215	6~13	
8A	3	N-S	9.2+	36~58	120	3~11	
8A	4	N-S	9.4+	40~65	92~125	3~8	
8B	5	86°W	5.5+	37~48	96~105	4~11	段差、やや屈曲
8B	6	7°E~3°W	42.9+		82	2~7	
8B	7	77°W	1.7+	48		3	
8C	8	77°E	3.7-	60	73~92	1~3	
8C	9	86°E	5.6-	47~78	118~145	2~9	
8C	10	28°E~32°W	3+2.2+	50	104	5~9	一部段差、屈曲
8C	11	87°E	9.5	35~48	92~98	2~11	
8C	12	9°W	3.0+	45	91	4	

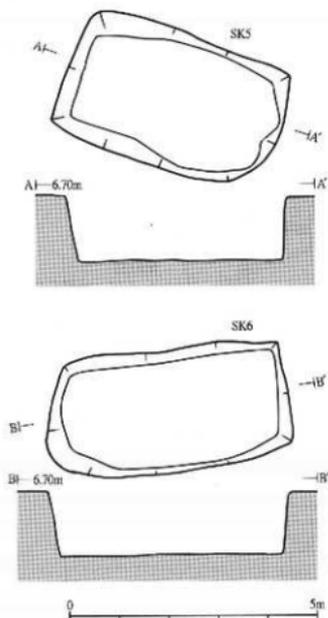
表58 8区 5a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.50	?	?	?	1.5+	3.5+	?	部分的に検出
8A	②	6.41~6.49	8+	?	11.0+	6.0+	?	(11.5)	東西12m前後
8A	③	6.41~6.47	6+	?	9.4+	9.2+	?	?	東西8.5~9m
8B	④	6.28	?	?	?	3.0+	5.5+	?	部分的に検出
8B	⑤	?	?	?	?	?	?	?	詳細不明
8B	⑥	6.28~6.38	7+	?	?	32.0+	?	?	5.0+
8A~8C	⑦	6.40~6.43	3+	?	14.5	(17.5)	(9.5)	(9.5)	東西9.5、南北14.5~17.5m、約150㎡
8C	⑧	6.43~6.51	8+	西→東	(18.0)	(17.0)	(7.5)	(0.5)	東西13~15.5、南北17~18m、約150㎡
8C	⑨	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
8C	⑩	6.43~6.52	9+	北西→南東	(10.0)	(9.0)	(9.0)	(6.0)	東西~10m、南北10m、約90㎡
8C	⑪	6.52	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
8C	⑫	6.45~6.46	1+	?	3.0-	?	?	?	東西9m前後
8C	⑬	6.36~6.46	10+	西→東	?	3.0+	?	?	

表59 8区 5a層水田跡水田区画計測表



第65図 8区 5a層水田跡平面図



第66図 8A-SK5・6 平面・断面図



8A-SK5 作業風景

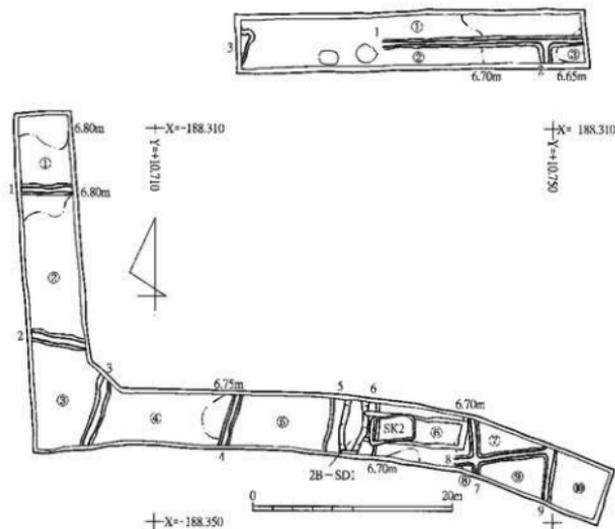
第6節 5b層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上の5a層水田耕作上を削り込む途中で確認したが中央部の4区・5区と東部の6A区は遺存状況が悪く、5b層自体がほとんど確認できなかった。

(2)耕作土 耕作土5b層の厚さは5~10cm前後だが、2区では比較的厚く10~20cmある。下層は起伏があり、直下層を巻き上げている。

(3)水田域 水田域は1~8区まで調査区全域に広がっていたと考えられるが、耕作土が確認できなかった調査区もあるので詳細は不明である。



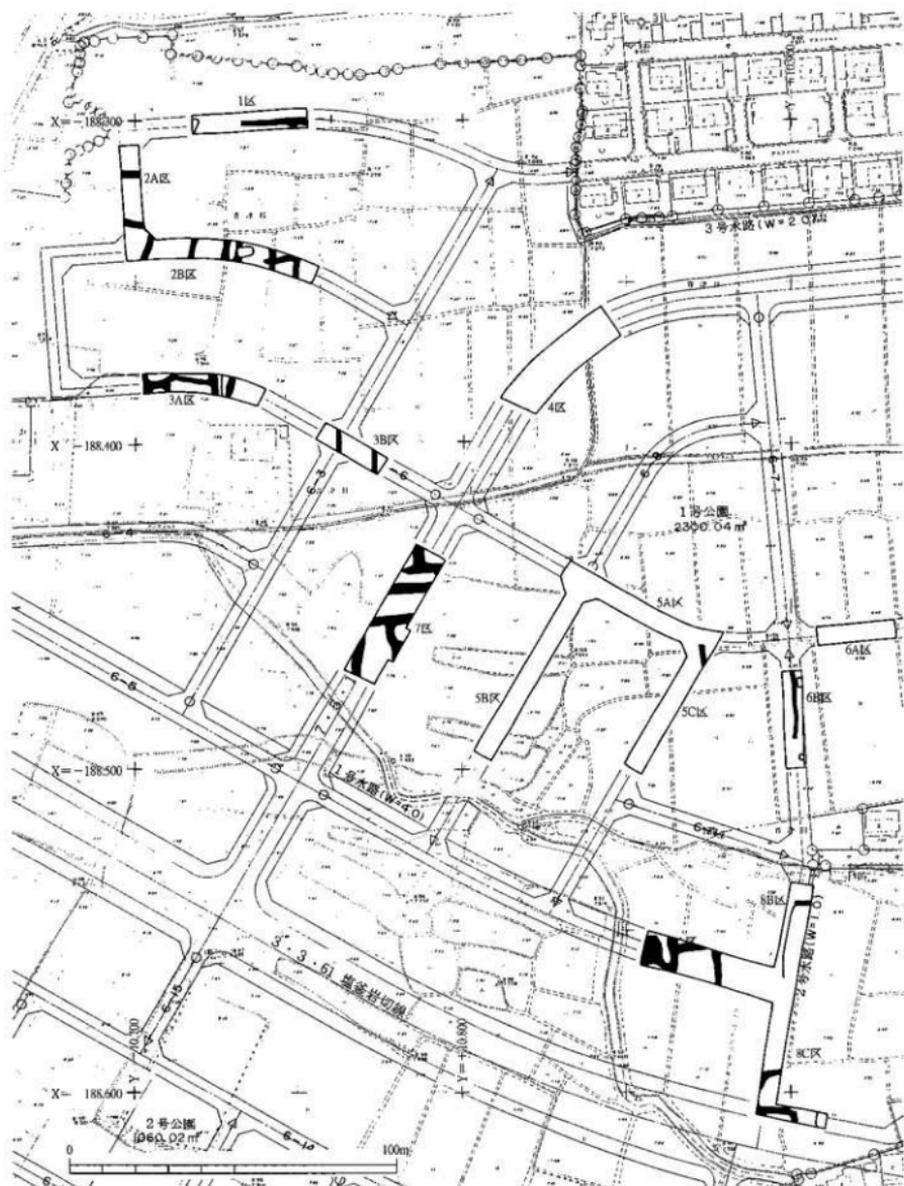
第67図
1・2区 5b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	1	89°E	20.3+	25~48	80~115	1~8	
1	2	3°W	2.3+	48~65	115~125	8	
1	3	?	3.5+			1~15	微差
2A	1	89°W	5.2+	42~56	102~112	3~9	
2A	2	79°W	5.6+	52~70	120	6~8	
2A	3	18°E	7.1+	55~65	110~155	3~7	
2B	4	16°E	5.3+	42~56	90~105	1~4	
2B	5	9°E	5.5+	83~150	125~160	2~4	2B-SD4の西側土手
2B	6	8°E	5.4+	75~135	108~172	4~9	2B-SD4の東側土手
2B	7	3°W	4.1+	52~50	75~100	1~3	
2B	8	83°E	7.2+	40~46	90~96	2~7	
2B	9	5°E	5.4~	40~48	100	1~5	

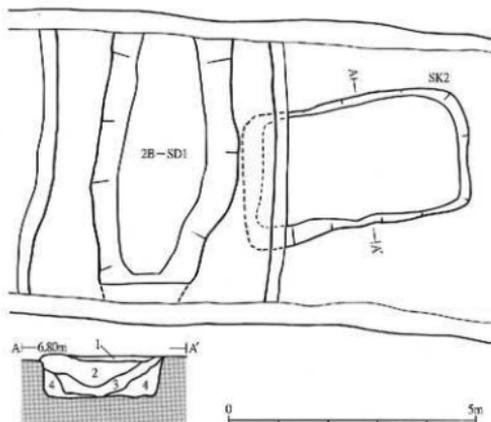
表60
1・2区 5b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
1	①	6.65~6.71	6+	?	?	?	20.3+	?	
1	②	6.66~6.71	5+	?	1.6+	?	?	15.8+	
1	③	6.63~6.65	1+	?	?	1.6+	?	3.7+	
2A	①	6.78~6.81	3+	?	?	?	5.2+	?	
2A	②	6.78~6.81	3+	?	?	?	5.5+	5.2+	南北14m前後
2A	③	6.75~6.76	1+	?	9.5+	?	?	7.5+	
2B	①	6.75~6.78	3+	?	5.3+	6.8+	?	?	東西12m
2B	②	6.71~6.75	4+	?	5.5+	5.3+	?	?	東西9m
2B	③	6.68~6.70	2+	?	3.0+	7.0+	(9.5)	?	東西8.5~9.5m
2B	④	6.75	?	?	?	3.5+	(6.5)	?	東西6.5m
2B	⑤	6.70	?	?	1.0+	?	?	?	部分的に検出
2B	⑥	6.75	?	?	4.5+	1.0+	?	?	東西6.5m
2B	⑦	6.73	?	?	?	5.4+	?	?	

表61 1・2区 5b層水田跡水田区画計測表



第68図 5b層水田跡全体図 (1/1500)

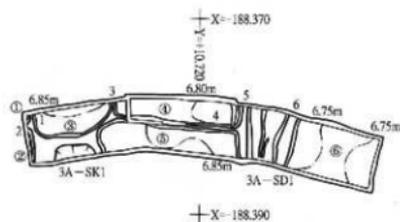


層位	色調	土質	遺人物・その他
1	25Y3/2 赤褐色	粘土	菅笹産化物少量
2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒褐色粘土ブロック多量、灰オリーブ色粘土ブロック少量
3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量、灰オリーブ色粘土ブロック少量

第69図 2B-SK2 平面・断面図

(2)水田区画 水田区画は方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、7区では一辺5~11m×18m(約145m²)の台形の区画と8区で一辺10m前後(約105m²)の正方形の区画が認められた。その他の区画では一辺の長さは4~14mとばらつきがある。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高いのが3A区で6.88m、最も低い6A区が6.20mである。各水田区画内における傾斜は8区では概ね西から東方向を中心としているが、他の調査区では明瞭な傾きは認められない。区画内の比高差は比較的小さく、5cm以内のものが多くと推定される。

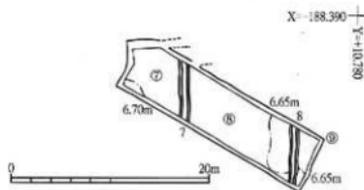


第70図 3区 5b層水田跡平面図

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、北部~中央部の1区・2区・3区・7区と東部の5C区北部・6B区・8区で検出した。規模が大きいのは2区No.5・6、3A区No.1・5・6、7区の大部分、8区No.2~4・11などである。2区No.5・6と3A区No.5・6は水路の土手である。8区の畦畔は5a層水田跡同様に上端幅が他の畦畔とほとんど変わらず下幅だけが広がっているのに対し、7区の畦畔は上端幅・下端幅共に広い。理由は判然としない。

その他の畦畔は下端幅60~100cm程度のもが多い。高さは5cm以上のものが多く、中には10cm以上のものも認められる。方向は真北を中心にはしているが、かなりばらつきがある。

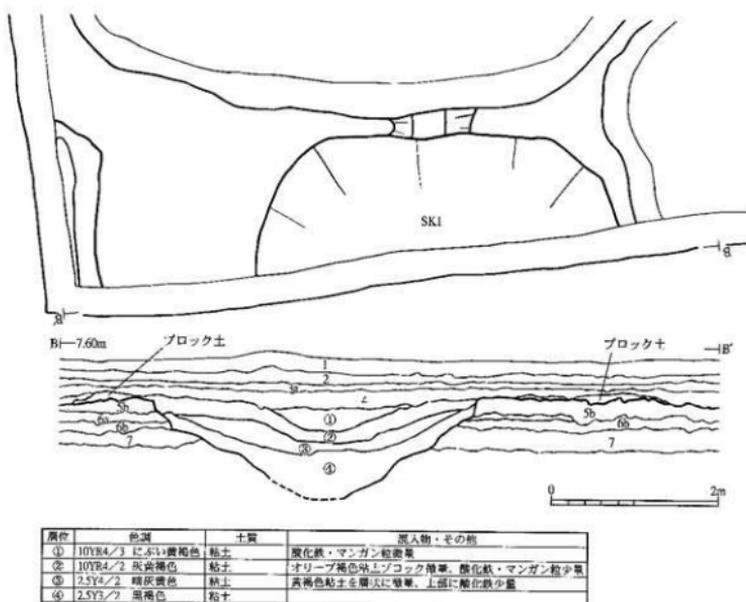


区	No	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3A	1	3°W	2.4+	38~50	75~142	6	
3A	2	?	0.5+	50	150	7	一部のみ検出
3A	3	46°E~2°W	1.5+	25	78	7	
3A	4	85°W	12.4	16~35	68~96	3~6	
3A	5	N-S	5.3+	52~96	115~165	4~10	3A-SD1の西側土手
3A	6	15°E	5.2+	95~132	150~205	2~4	3A-SD1の東側土手
3B	7	N-S	5.7+	50~60	95~105	5~9	
3B	8	3°E	5.7+	35~48	85~92	6	

表62 3区 5b層水田跡畦畔計測表

区	No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
3A	①	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
3A	②	?	?	?	3.0+	7	?	?	部分的に検出
3A	③	6.83~6.88	5+	?	1.0+	2.0+	7.6	?	東西7.5m
3A	④	6.79~6.81	2.1	?	2.0+	1.5+	12.0	?	東西12m
3A	⑤	6.83~6.86	3+	?	2.5+	2.5+	?	14.0	東西14m
3A	⑥	6.73~6.77	4+	?	?	5.2+	?	?	
3B	⑦	6.67~6.70	3+	?	5.7+	?	?	?	
3B	⑧	6.63~6.67	4+	?	5.7+	5.7+	?	?	東西10m
3B	⑨	6.64	?	?	?	5.7+	?	?	

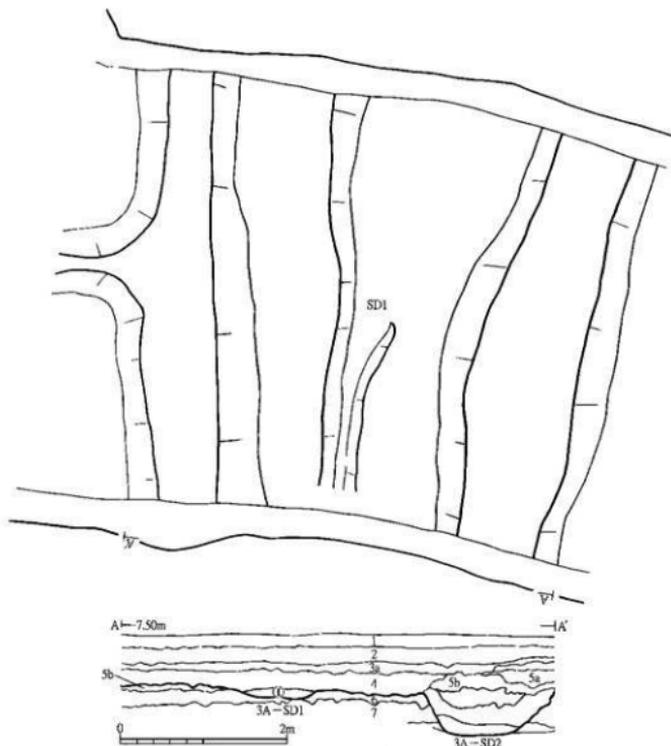
表63 3区 5b層水田跡水田区画計測表



第71図 3A-SK1 平面・断面図

(4)水口 3A区の区西③と南部の3-SK1との間の畦畔が幅90cm 途切れている。ただし、3A-SK1の性格が不明なので水口としての機能を有するかどうか断定はできない。

(5)溝跡 溝跡は6a層から踏襲されている2B-SD1があるが、3区でこれに続くと推定される3A-SD1を確認した。



層位	色相	土質	遺入物・その他
①	10YR4/1 褐色	粘土	骨状燧石片多量

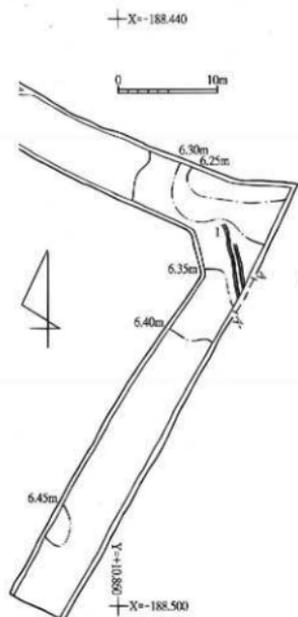
第72図 3A-SD1 平面・断面図

3A-SD1 (第72図) 3A区中央部を南北に横断する溝である。元々は6m層段階に掘られた3A-SD2が2B-SD1に続く溝であるが、2B-SD1と3A-SD2が埋没した後、2区ではほぼ同じ位置で掘りなおされ、3A区では若干西側に位置をずらして掘りなおされていると考えられる。上部を4層水田耕作土によって攪拌・削平されているが、溝底部の産みと堆積土の最下層と考えられる粘土層が残存していた。幅は100cm前後、深さは20~25cmくらいと推定される。遺物は出土しなかった。

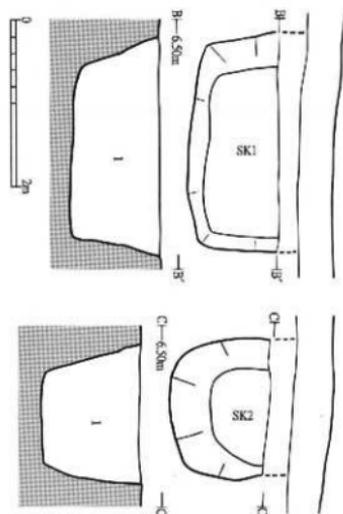
(6)土坑 2区で1基、3A区で1基、6B区で2基確認した。

2B-SK2 (第69図) 2B区中央に位置し、260×460cmの隅丸長方形である。西端部は2-SD1の東側の土手(畦畔6)の除去後に確認したので、畦畔6よりも古い遺構である。深さ80cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は自然堆積層で、遺物は須恵器片が1点出土している。

3A-SK1 (第71図) 3A区西端の南壁際に位置する。平面形は隅丸方形が長方形と推定され、一辺は440cmある。周辺には5b層の畦畔が土手状に巡り、その一部には上にブロック土が盛り上げられている。下端を検出していないの



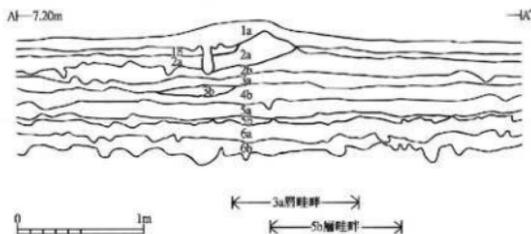
第73図 5区 5b層水田跡平面図



第75図 6B-SK1・2 平面・断面図

で深さは不明であるが調査できた最深部では120cmあり、壁は緩やかに立ち上がる。堆積上は自然堆積層で、遺物は土師器片1点の他ウマの歯が出土している。

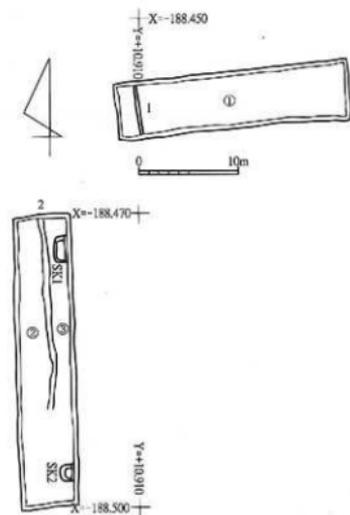
6B-SK1・2（第75図） 6B区東壁際に位置する類似した土坑である。6B-SK1は方形で1辺265cm、6B-SK2は円形または楕円形で径170cmである。平面形は異なるが、深さは共に110～120cmで壁は共に急角度で立ち上がる。堆積土も共通で、掘り上げた土をそのまま埋戻したようなブロック土の混合である。遺物は出土しなかった。



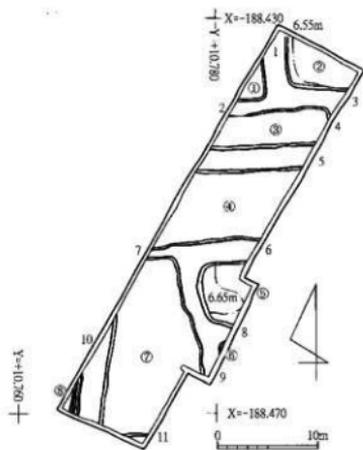
第74図 5C区 東壁断面図

区	No	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
5A・5C	1	11°W	6.9+	47	85～100	3～5	

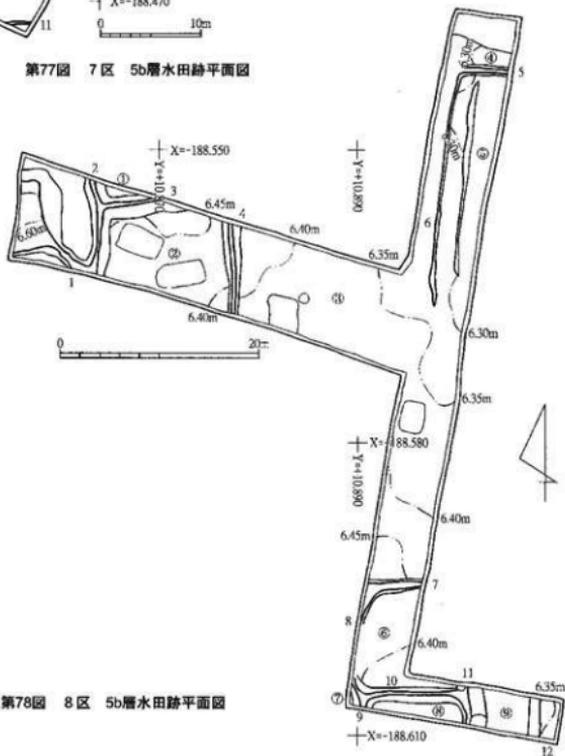
表64 5区 5b層水田跡畦畔計測表



第76図 6区 5b層水田跡平面図



第77図 7区 5b層水田跡平面図



第78図 8区 5b層水田跡平面図

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。表95～102の各区別の破片集計を総合すると上師器139点、須恵器33点、赤焼土器5点、上師質土器皿類21点、その他の土師質土器6点、中世の無釉陶器18点、須恵器系陶器1点、中国産陶・磁器1点、金属製品3点、木製品1点、土製品1点、鉄沖3点である。またこの他にウマの歯や骨なども出土している。図化できた遺物は4点のみで(第99図14、第100図16、第101図11、第102図7)、この水田跡に伴う遺物を限定することはできない。

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
6A	1	8°W	5.2+	—	—	4~6	段差
6B	2	5°W~5°E	19.4+	—	45~71	—	仏跡のみ

表65 6区 5b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
6A	①	6.30~6.22	2+	?	?	5.2+	?	—
6B	②	6.25~6.28	3+	?	?	19.4+	?	?
6B	③	6.25~6.27	2+	?	19.4+	?	?	?

表66 6区 5b層水田跡水田区画計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	6°W	4.9+	223	285	3~7	—
7	2	86°E	3.5+	118	162	1~10	—
7	3	86°E	8.2+	215	233	2~7	—
7	4	?	1.0+	—	—	2	段差
7	5	88°E	10.5+	205~225	265~272	1~8	—
7	6	86°E	8.1+	212~228	273	3~9	—
7	7	86°E	2.5+	78	125	3~9	—
7	8	?	1.2+	175	230	6	—
7	9	4°W	9.0+	135~150	225~255	7~9	—
7	10	8°E	7.2+	220~230	265	3~15	—
7	11	?	2.7+	—	—	3	段差

表67 7区 5b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
7	①	6.63	?	?	3.8+	?	2.5+	?
7	②	6.50~6.55	5+	?	?	5.0+	5.5+	?
7	③	6.65~6.69	5+	?	(3.5)	?	12.0+	10.0+
7	④	6.62~6.66	4+	?	?	?	11.0+	11.0+
7	⑤	6.62~6.65	3+	?	?	5.5	2.0+	4.0+
7	⑥	?	?	?	?	?	?	?
7	⑦	6.65~6.70	5	?	(18.0)	(18.0)	(11.0)	(5.0)
7	⑧	6.73	?	?	4.0+	?	?	?

表68 7区 5b層水田跡水田区画計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	47°W	4.3+	35~52	125~135	3~9	—
8A	2	14°W	9.6+	27~56	182~206	4~11	やや屈曲
8A	3	83°E	5.6+	23~42	220	4~9	—
8A	4	2°W	9.3+	36~43	140~192	2~10	—
8B	5	89°W	4.7+	34~52	92~104	2~5	—
8B	6	6°E	23.9+	—	—	1~3	段差
8C	7	84°E	5.6+	54~70	115	1~8	—
8C	8	28°E~23°W	(11.0)	30	102	5~9	—
8C	9	?	0.7+	64	210	10	—
8C	10	88°E	9.7	30~37	138~165	10~12	—
8C	11	N S	4.1+	55~133	240~268	13~15	—
8C	12	3°E	4.0+	—	—	2	段差

表69 8区 5b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.50	?	?	?	1.5+	3.0+	?
8A	②	6.40~6.45	5+	北西→南東	11.0+	6.5+	?	(11.0)
8A~8C	③	6.35~6.45	10+	西→東	?	36.0+	(18.5)	?
8A	④	6.30	?	?	?	?	6.0+	?
8B~8C	⑤	6.25~6.30	4+	?	?	(51.5)	?	4.5+
8C	⑥	6.39~6.44	5+	北西→南東	(10.0)	(9.5)	(8.0)	?
8C	⑦	?	?	?	?	?	?	?
8C	⑧	6.37	?	?	2.0+	1.0+	?	8.5
8C	⑨	6.35	?	?	4.0+	4.1+	?	?

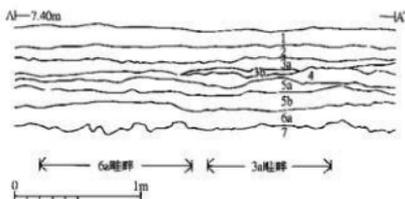
表70 8区 5b層水田跡水田区画計測表

第7節 6a層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上の水田耕作土を削り込む途中で確認した。遺存状況は全体的に比較的良好であったが、中央部の4区は遺存状況が悪く6a層が部分的に残るだけの状態であった。

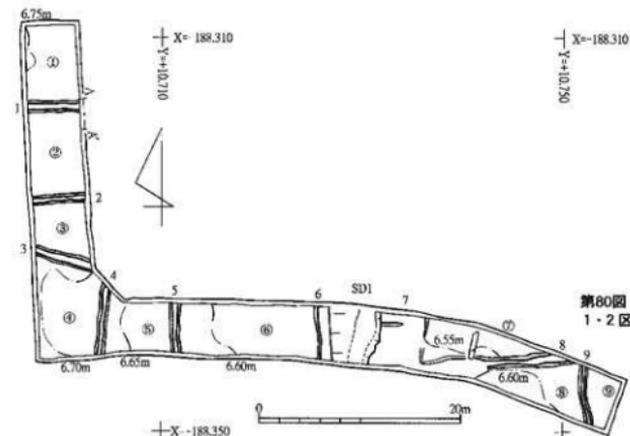
(2)耕作土 耕作土6a層の厚さは比較の厚く10~20cmある。下面是起伏があり直下層を巻き上げているが、灰白



第79図
2A区 東壁断面図



第80図
1・2区 6a層水田跡平面図



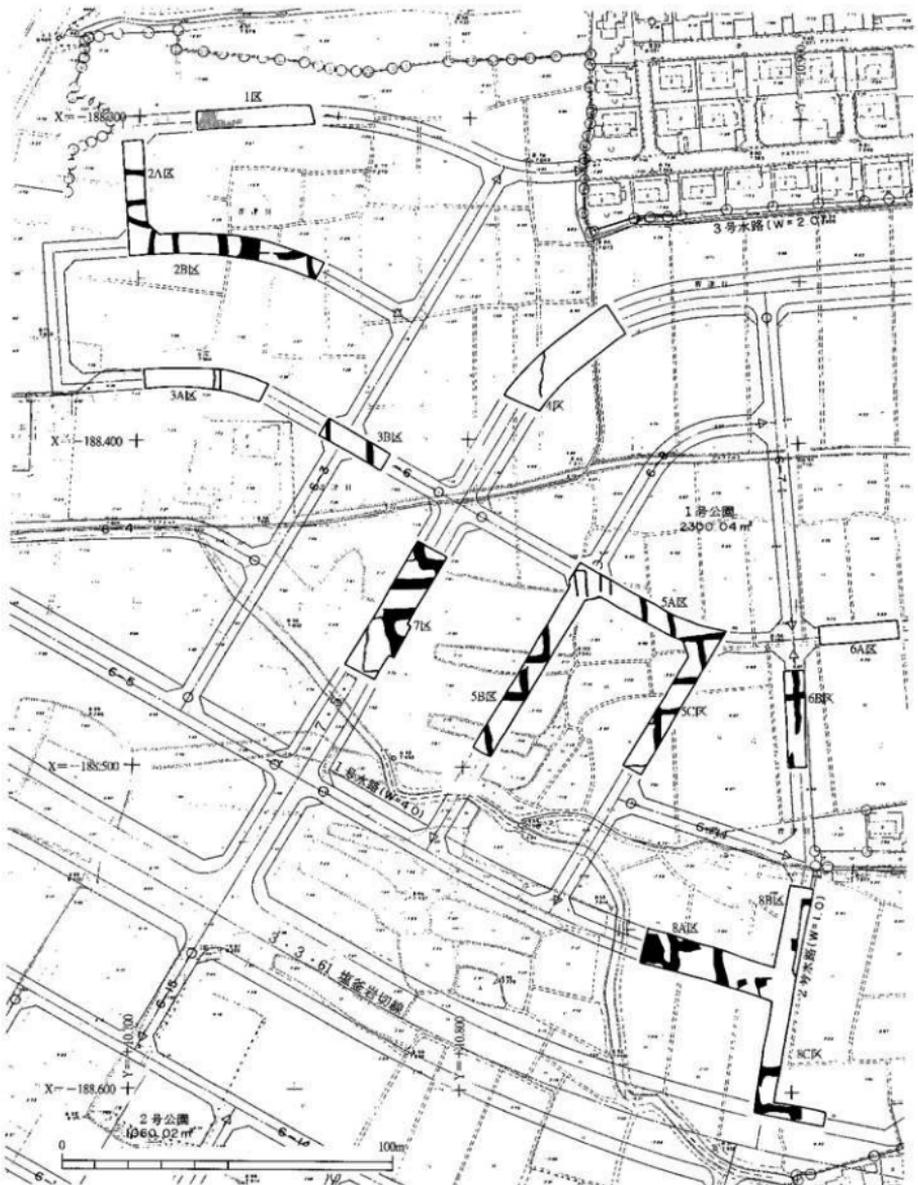
第80図
1・2区 6a層水田跡平面図

区	№	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
2A	1	88°E	5.3+	58~74	102~124	3~7	
2A	2	85°E	5.3+	32~48	90	2~4	
2A	3	74°W	5.9+	55~98	95~120	1~4	
2A	4	54°E	6.9+	38~60	83~95	1~4	
2B	5	37°W	4.9+	35~55	95~98	4~8	
2B	6	37°W	5.4+	98~112	133~148	6	2B-SD1の西側土手
2B	7	8°E	5.2+	450~500	480~540	7	2B-SD1の東側土手、大畦畔
2B	8	86°E	7.4+	40~65	105~145	3~8	
2B	9	5°W	5.8+	15~35	65~72	4~7	やや屈曲

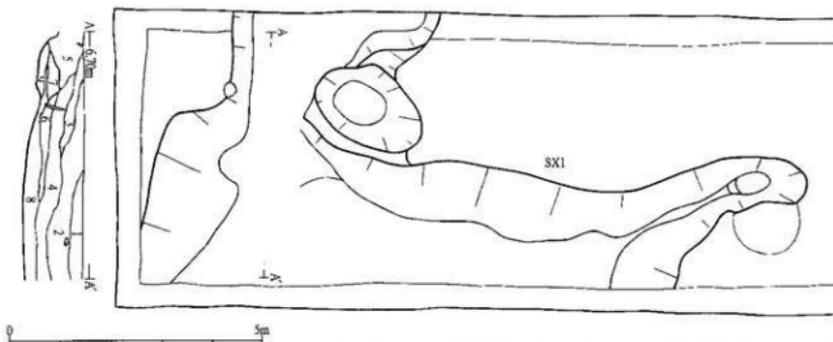
表71
2区 6a層水田跡畦畔計測表

区	№	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
1	①	6.55~6.61	6+	?	?	?	?	?	
2A	①	6.74~6.75	1+	西→東	?	?	5.3+	?	南北8m
2A	②	6.73	?	?	?	?	5.3+	?	台形Y、南北4~6m前後
2A	④	6.72~6.73	1+	?	?	?	5.9+	?	
2A	⑤	6.67~6.70	3+	西→東	8.0+	?	?	?	7.0+
2B	⑤	6.64~6.66	2+	西→東	4.9+	6.5+	?	?	東西6~6.5m
2B	⑥	6.56~6.62	7+	?	5.4+	4.9+	?	?	東西13.5m
2B	⑦	6.33~6.56	3+	?	?	4.7+	2.4+	?	
2B	⑧	6.56~6.61	6+	?	6.0+	?	?	?	10.0+
2B	⑨	6.55	?	?	?	6.0+	?	?	

表72 1・2区 6a層水田跡水田区分計測表

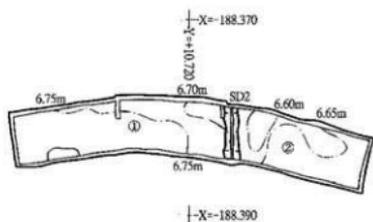


第81図 6a層水田跡全体図 (1/1500)

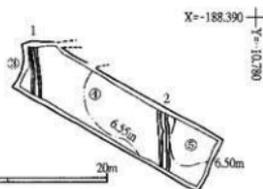


第82図 1-SX1 平面・断面図

層序	色調	土質	埋人物・その他
1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	植物遺体微量
2	2.5Y3/2 暗褐色	粘土	植物遺体・細砂微量
3	10Y3.5/2 灰黄褐色	粘土	細砂微量
4	5Y4/1 灰色	粘土	植物遺体微量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	細砂微量
6	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	植物遺体・細砂微量
7	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	
8	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	細砂少量
9	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色細砂ブロック多量



第83図 3区 6a層水田跡平面図

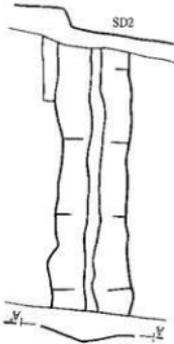


区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
3B	1	6°W	5.0+	18~52	65~72	4	
3B	2	10°W	5.8+	45~55	100~110	10~14	

表73 3B区 6a層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規格・その他
3A	①	6.70~6.79	9+	南西→北東	?	?	?	?	
3A	②	6.60~6.68	8+	?	?	?	?	?	
3B	③	6.50	?	?	5.0+	?	?	?	
3B	④	6.52~6.57	5+	?	5.8+	5.0+	?	?	東西12m
3B	⑤	6.48~6.52	4+	?	?	5.5+	?	?	

表74 3B区 6a層水田跡水田區計測表



第84図 3A-SD2 平面・断面図

層位	色調	土質	侵入物・その他
1	10YR4/1 帯灰色	粘土	黒色粘土質少量、上部に酸化鉄少量
2	10YR3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土質少量
3	5Y2/2 オリーブ黒色	シルト質粘土	黒色粘土質少量

色火山灰の小ブロックを巻き上げている箇所も認められる。

(3)水田域 水田域は1～8区まで調査区全域に広がっていたと考えられる。

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、北部の1区・2区と中央部の3B区・5区・7区と東部の6B区・8区で検出した。また、4区・6A区では畦畔は確認できなかったが段差を確認できた。規模は下端幅80～130cmのものが多いが、7区・8区は200cm以上ある場合が多い。高さは5cm以上のものが多いが7区・8区では10cm以上のものも認められる。方向は真北を中心にしては

るが、かなりばらつきがある。

(2)水田区画 水田区画は方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、7区では一辺5～10m×17m(約130m)の台形の区画と8区で一辺10m前後(約100m)の正方形の区画が認められた。その他の区画では一辺の長さは3～14mとばらつきがある。

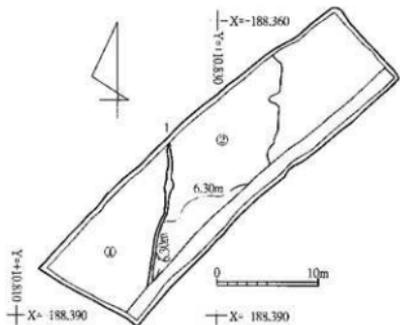
(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高いのが3A区で6.79m、最も低い6A区が6.18mである。各水田区画内における傾斜は西から東方向を中心としているが、傾斜方向が不明瞭な区画も多い。区画内の比高差は、概ね10cm以内のものが多い。

(4)水口 水口は認められなかった。

(5)溝跡 溝跡は2B区、3A区、5A区で確認した。

2B-SD1 2B区中央部に南北に横断する溝で、幅3.5～5m、深さ約1mである。3b層水田跡の項で述べたように、この溝は6a層水田に伴って掘削され、改修されながら3b層水田跡の段階まで使用された基幹水路である(第23図)。南に約35m離れた3A区の3A-SD2から北に35m離れた1区の1-SX1まで連続すると推定され、やや弧状を呈しているが全体としては南北方向に直線的に伸びている。用水は南から北に向かって流れていたと考えられる。遺物は在地産の陶器片が1点出土している。

3A-SD2 (第84図) 3A区中央部に南北に横断する溝で、このまま北に伸びて2B-SD1に連続すると推定される。



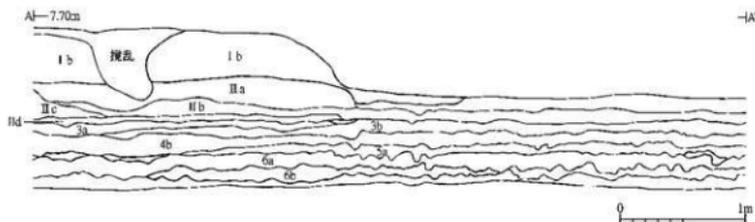
第85図 4区 6a層水田跡平面図

区	X ₁	方向	長さ(m)	上流幅(cm)	下流幅(cm)	高さ(cm)	備考
4		8°E	4.2	—	—	4～6	段差

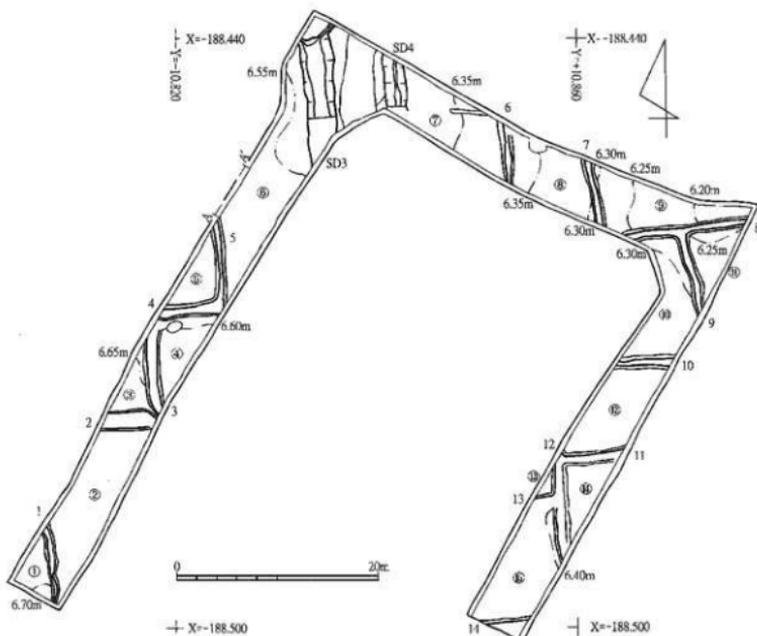
表75 4区 6a層水田跡畦畔計測表

区	X ₁	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東西(m)	南北(m)	北辺(m)	規模・その他
4	①	6.31～6.40	3	?	15.01	?	?	
4	②	6.28～6.33	5+	?	?	?	?	

表76 4区 6a層水田跡水田区画計測表



第86図 5B区 西壁断面図



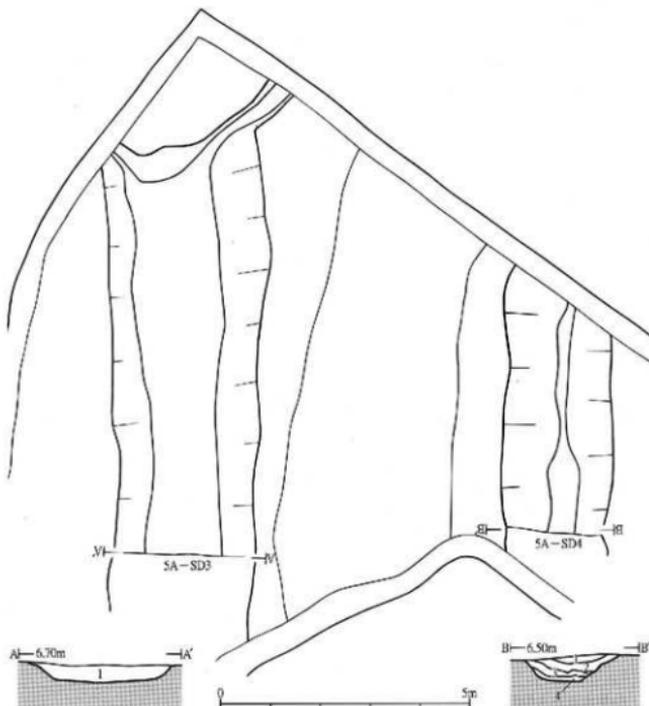
第87図 5区 6a層水田跡平面図

PK	Ka	方向	長さ (m)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	高さ (cm)	備考
5B	1	7°W	7.9	22~56	55~110	2~6	
5B	2	K-W	4.9	154~167	180~196	1~6	
5B	3	5°W	8.1	96~102	136~168	2~7	
5B	4	82°E	6.2	68~120	125~150	2~8	
5B	5	5°W	8.6	35~55	110	3~6	
5A	6	4°W	5.9	38~70	72~112	1~6	
5A	7	11°W	6.6	38~58	94~118	1~5	
5A	8	83°E	11.8+	38~62	98~116	2~7	
5A-5C	9	9~15°W	7.4+	52~74	102~125	1~6	
5C	10	88°E	5.5+	38~72	114~147	1~8	
5C	11	83°E	5.8+	60~80	116~128	1~5	
5C	12	3°W	9.0+	75~86	140~148	2~7	
5C	13	79°E	2.3+	—	—	3	採集
5C	14	83°E	4.9+	—	—	3~5	採集

表77 5区 6a層水田跡畦畔計測表

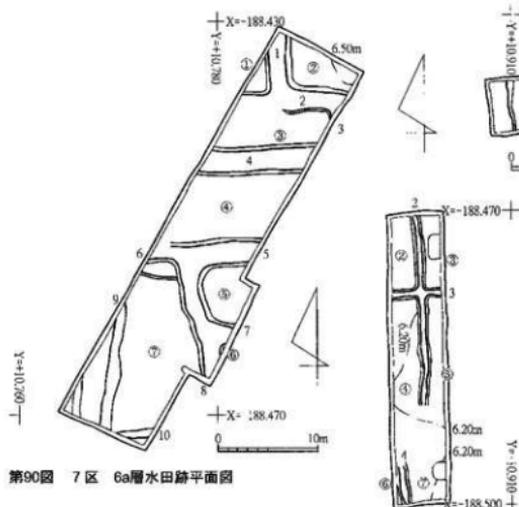
区	No.	標高 (m)	比高差 (cm)	傾斜方向	東辺 (m)	西辺 (m)	南辺 (m)	北辺 (m)	規模・その他
5B	㉑	6.68～6.70	2+	?	7.2+	?	?	?	
5B	㉒	6.65～6.69	4+	?	?	17.5+	?	11.0+	
5B	㉓	6.60～6.63	3+	?	7.0+	?	6+	?	南東コーナーに水口
5B	㉔	6.60～6.63	3+	?	?	8.5+	?	6.0+	
5B	㉕	6.58～6.60	2+	?	7.0+	?	5.0+	?	
5B	㉖	6.52～6.59	7+	?	13.0+	8.5+	?	?	東西9m前後
5A	㉗	6.33～6.40	7+	?	5.9+	6.0+	?	?	東西8m前後
5A	㉘	6.30～6.38	8+	?	6.6+	5.9+	?	?	東西7m前後
5A	㉙	6.19～6.30	11+	西→東	?	7.5+	16.5+	?	
5A・5C	㉚	6.29～6.34	5+	?	(12.0)	?	8.0+	4.0+	南北11.5～12m
5A・5C	㉛	6.25～6.26	1+	?	?	7.5+	?	5.5+	
5C	㉜	6.38～6.40	2+	?	?	(8.0)	6.2+	10.4+	南北8m
5C	㉝	6.39	?	?	2.6+	?	1.5+	?	
5C	㉞	6.37～6.40	3+	?	?	8.0+	?	4.8+	
5C	㉟	6.40～6.42	2+	?	(11.0)	?	8.7+	2.7+	南北11m

表78 5区 6a層水田跡水田区画計測表



層位	色調	土質	混入物・その他	
5A-SD5	1) SY4/1 灰色	粘土	オリブ黒色砂質シルトブロック・灰色粘土ブロック多量	
5A-SD4	1	10YR6/3 にごり・黄褐色	粘土	付状礫化体多量
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土	
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土	灰色細砂ブロック・同粒子少量
	4	10YR3/1 黒褐色	粘土	灰色細砂ブロック多量

第88図 5A-SD3・4 平面・断面図



第90図 7区 6a層水田跡平面図

第89図 6区 6a層水田跡平面図

幅1.6m、深さ60cm、堆積上は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

5A-SD3 (第88図) 5A区西部に位置し、SD4の西側に平行して南北方向に走る。幅2.7~3.3m、深さ55cmで、人為的に埋め戻されている。北端部が途切れるように幅が極端に狭くなり(約50cm)、北東方向と北西方向へと分岐するように見える。なお、この北東部の分

岐と対応するようにSD3の西側ラインも北端部が東へ曲がっているように見えるが、部分的な確認なのではっきりしない。須恵器片が4点出土した。

5A-SD4 (第88図) 幅2.0~2.2m、深さ40cmで、堆積土は自然堆積層である。

SD3とSD4は深さや堆積

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cc)	備考
5A	1	S'W	5.7	—	—	4	段差
6B	2	~S'W	19.4+	32~65	98~122	3~6	
6B	3	86'E	5.0+	15~58	88~105	1~1	
6B	4	0'W	4.2+	45~76	110~125	3~5	

表79 6区 6a層水田跡計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cc)	備考
7	1	1'W	5.7+	225	373	6~11	
7	2	84'W	5.7	188~225	250	4~13	
7	3	?	1.0+	—	—	2	段差
7	4	E'W	10.5+	205~215	288~295	8	
7	5	86'E	7.9+	218	286	6~11	
7	6	86'E	2.4+	102	180	5	
7	7	?	1.5	180	220	6~17	
7	8	7'W	12.0+	134~172	250	10~14	
7	9	8'E	13.2	—	—	12~16	段差
7	10	?	3.7+	—	—	10	段差

表80 7区 6a層水田跡計測表

区	No.	幅高(m)	北高さ(cc)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	遺構・その他
6A	①	6.5~6.19	4+	?	?	5.1+	?	?	
6B	②	6.2~6.20	2.1	?	7.2	?	2.4	?	
6B	③	6.2	?	?	?	7.5+	1.5-	?	
6B	④	6.2~6.21	3+	西→東	11.0-	?	?	2.3+	
6B	⑤	6.2	?	?	?	11.0+	?	1.5	
6B	⑥	6.2	?	<1+	?	?	?	?	
6B	⑦	6.20~6.22	2+	?	?	4.1	?	?	

表81 6区 6a層水田跡水田区画計測表

区	No.	幅高(m)	北高さ(cc)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	遺構・その他
7	①	6.0	?	?	3.5+	?	2.5+	?	
7	②	6.50~6.53	4+	?	?	4.7	5.2	?	
7	③	6.63~6.65	2+	?	3.2	?	12.0+	10.0+	南北3~3.5m
7	④	6.60~6.64	4+	?	?	?	10.5+	11.0+	南北6.5m
7	⑤	6.60~6.62	2+	?	?	5.5	2.0+	4.0+	南北6m
7	⑥	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
7	⑦	6.57~6.64	7+	?	17.0	17.0	10.0	5.0	東西5~10m、南北17m、約130㎡

表82 7区 6a層水田跡水田区画計測表

上からすると水路ではなく、平行して走ることから道路の側溝である可能性がある。上端間の間隔は約5mである。

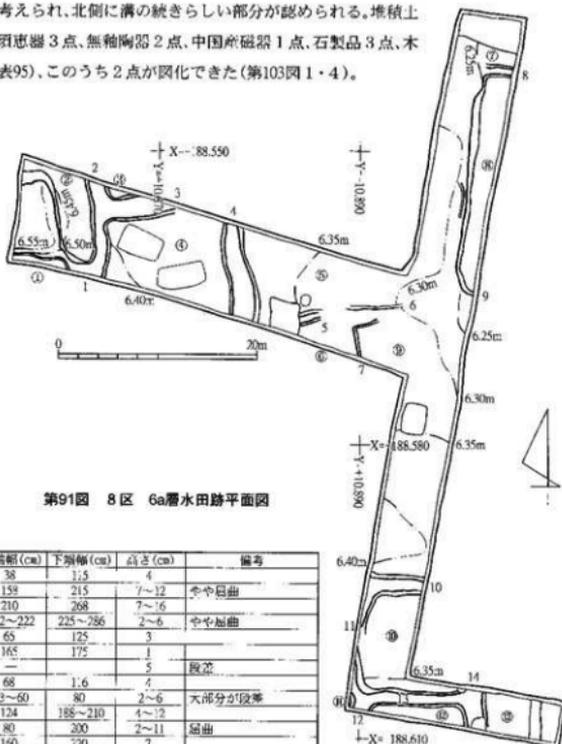
(6)その他の遺構 1区で1基確認した。

1-SX1 (第82図) 1区西部に位置する不整形の落ち込みで、最も幅広の部分で東西13mである。2-SD1の延長部分が何らかの理由で広がっていると考えられ、北側に溝の続きらしい部分が認められる。堆積土は自然堆積層で深さ120cm。遺物は須恵器3点、無軸陶器2点、中国産磁器1点、石製品3点、木製品1点、ウマの歯などが出土し(表95)、このうち2点が図化できた(第103図1・4)。

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片である。

表95～102の各区別の破片集計を総合すると土師器235点、須恵器74点、赤土土器14点、土師質土器皿類8点、中世の無軸陶器5点、中国産陶・磁器1点、瓦1点、金属製品1点、石製品1点、木製品2点である。また、この他にウマの歯なども出土している。図化できた遺物は3点のみで(第99図1・2、第102図2)、この水田跡に伴う遺物を限定することはできない。



第91図 8区 6a層水田跡平面図

区	池	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	43°W	.6	38	1.5	4	
8A	2	4°E~14°W	2.9+	154	215	7~12	やや屈曲
8A	3	82°E	5.9+	210	268	7~16	
8A	4	6°W	9.6-	112~222	225~286	2~6	やや屈曲
8A	5	71°E	2.1+	65	125	3	
8A	6	71°E	2.7+	165	175	1	
8A	7	11°W	3.3+	—	—	5	段差
8H	8	86°W	2.9+	68	1.6	4	
8B	9	8°E	22.0+	33~60	80	2~6	大部分が段差
8C	10	87°W	5.5+	124	188~210	4~12	
8C	11	20°E~10°W	10.5	80	200	2~11	屈曲
8C	12	?	0.9+	160	220	7	
8C	13	E~W	9.0	85~104	154~170	4~12	
8C	14	7°W	3.8+	165	235	7	

表83 8区 6a層水田跡畦計測表

区	池	標高(m)	北高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8A	①	6.43	?	?	1.0+	?	?	部分的に検出
8A	②	6.43~6.45	2-	?	8.5-	9.0+	2.4+	?
8A	③	6.36	?	?	?	1.0+	1.8+	?
8A	④	6.36~6.42	6+	?	10.5+	5.0+	?	12.0-
8A	⑤	6.29~6.37	12-	?	?	10.0+	(18.5)	?
8A	⑥	6.37	?	?	3.5+	?	?	4.0+
8B	⑦	6.24	?	?	?	?	3.0+	?
8B	⑧	6.20~6.25	5.1	?	?	22.0	?	2.5+
8A~8C	⑨	6.28~6.41	13+	南西→北東	?	(25.0)	5.5+	12.0+
8C	⑩	6.31~6.39	8-	?	(9.0)	9.3	(9.5)	(8.4)
8C	⑪	?	?	?	?	?	?	?
8C	⑫	6.30~6.34	4+	?	2.0+	1.0+	?	8.5
8C	⑬	6.30~6.35	5+	?	?	3.8+	?	?

表84 8区 6a層水田跡水田区画計測表

第8節 6b層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上の水田耕作土を削り込む途中で確認した。中央部～東部の4区～8区にかけての遺存状況は比較的良好であったが、北部～西部の1区～3区では6b層自体を確認できなかった。

(2)耕作土 耕作土6b層の厚さは5～15cmである。層上面には灰白色火山灰の小ブロックが部分的に認められる。下面は起伏があり直下層を巻き上げている。

(3)水田域 中央部から東部の4区～8区にかけては水田域が広がっているが、6b層が確認できなかった北部～西部にかけての区域については不明である。

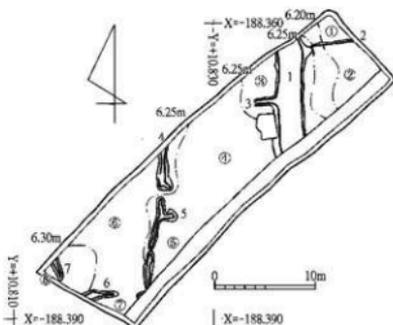
2. 遺構の状況

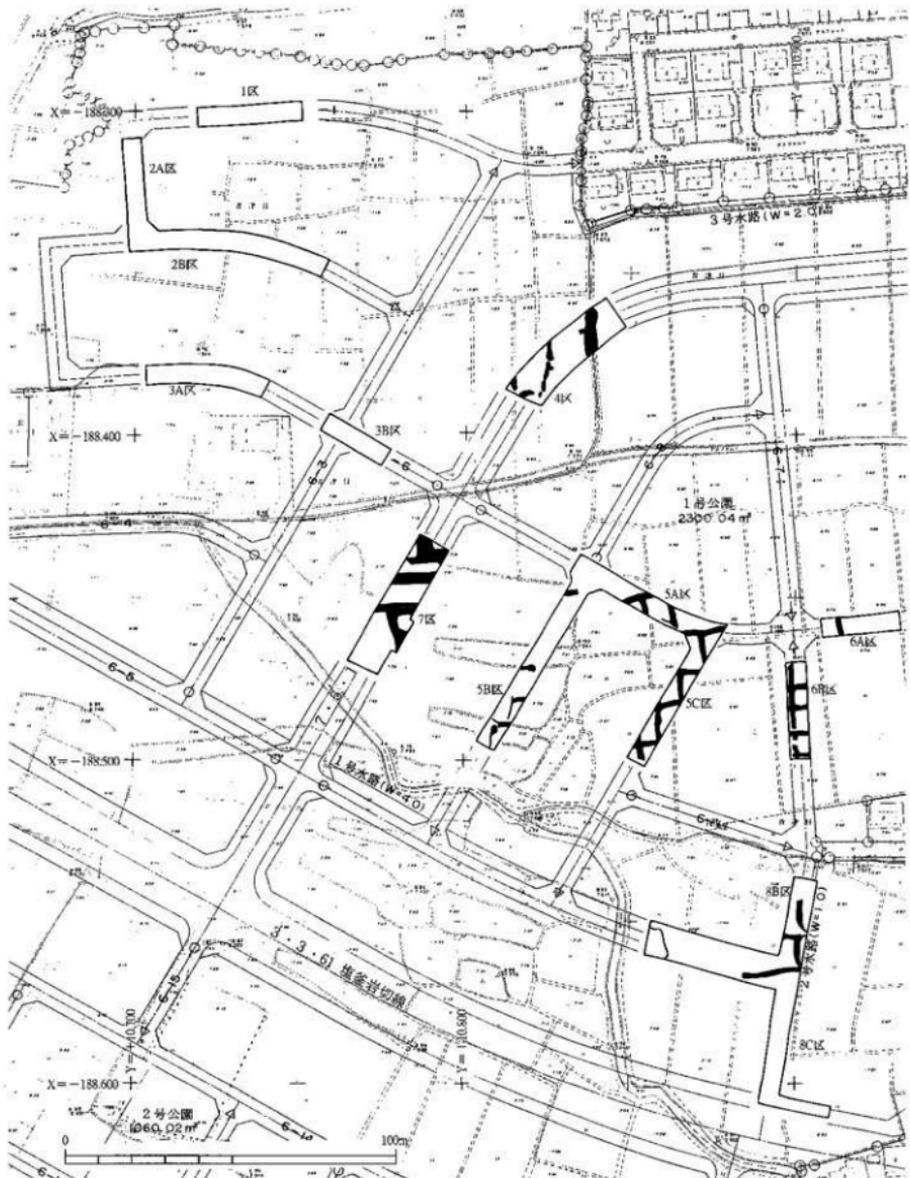
(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、4区～8区で検出した。規模は下端幅90～130cmのものが多いが、7区では200cm以上ある場合が多い。7区以外で規模が大きいのは4区のNo.1で、これは基軸の大畦畔と推定される。高さは5cm以上のものが多いが7区では20cm以上のものも認められる。方向は真北を中心にしてはいるが、やや西傾する傾向がある。

(2)水田区画 水田区画は方形を基調としている。規模が判明した区画は少ないが、4区・5区・7区では一辺11m(約120m)の正方形の区画、一辺6～9m(約60～65m)の長方形の区画、一辺5～10×17m(約130m)の台形区画などが認められた。その他の区画の全体像は不明であるが、一辺の長さは5～6mと11m前後の比較的小さい区画が多く認められる。

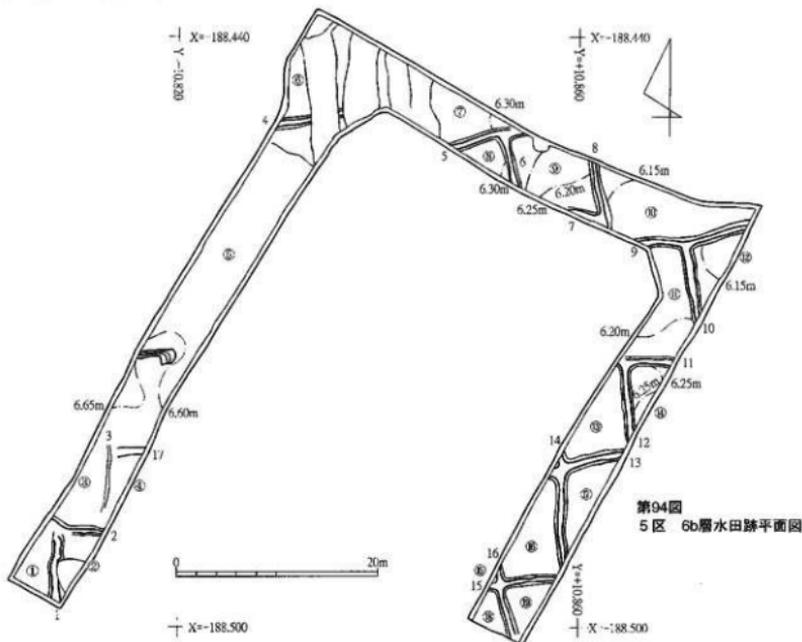
(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高いのが7区で6.65m、最も低い6A区が6.00mである。各水田区画内の傾斜は、数区画は西から東方向を中心としているが、大部分の区画の傾斜方向は不明瞭である。区画内の比高差は、4区でやや大きい概ね5cm以内のものが多い。

(4)水口 水口は認められなかった。なお、4区の畦畔が途切れているが、これは部分的に畦畔の遺存状況が悪かったためと考えられ、水口とは断定できない。





第93図 6b層水田跡全体図 (1/1500)



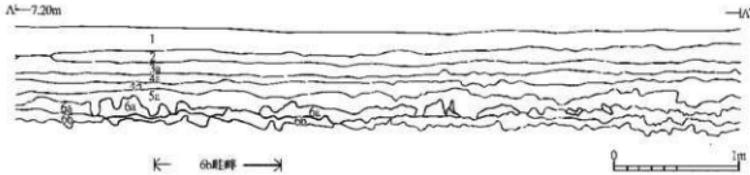
第94図
5区 6b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
5B	1	3°E	6.9+	50~78	100~112	1~5	やや屈曲
5B	2	87°W	5.4	30~38	85	2~11	屈曲、一部段差のみ
5B	3	4°E	7.0-	-	-	2	段差
5B	4	80°E	6.5-	45~55	90~122	3~5	
5A	5	74°E	6.9-	38~42	100~115	2~4	
5A	6	12°W	5.3-	42~80	100	4	
5A	7	?	3.2-	-	-	6	段差
5A	8	11°W	6.5-	38~42	85~122	1~7	
5A	9	75°E~88°W	0.6 1	36~58	100~115	2~7	やや屈曲
5A・5C	10	11°W	8.3-	48~78	100~130	2~6	
5C	11	88°E	5.3+	50~60	103	2~6	
5C	12	5°W	7.4+	52~62	92~106	1~4	
5C	13	75°E	7.3+	50~62	106~128	1~5	
5C	14	N-S	10.6 1	50~65	93~112	4	やや屈曲
5C	15	86°E	6.4+	35~58	96	3	
5C	16	17°W	6.4 1	50	92~110	2~4	
5B	17	82°E	3.0+	-	60~90	-	痕跡のみ

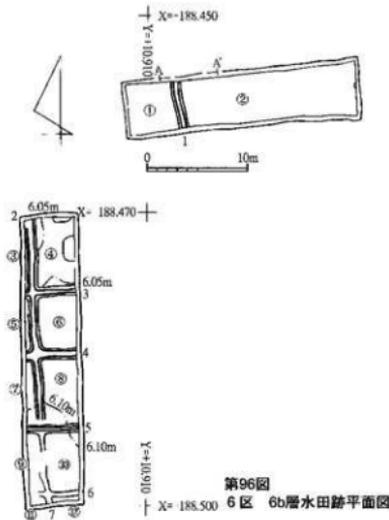
表87
5区 6b層水田跡畦計測表

区	No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	積層・その他
5B	①	6.55~6.60	5+	?	7.0	?	?	?	
5B	②	6.55~6.60	5+	?	?	7.0+	?	3.8+	
5B	③	6.55~6.60	5+	?	9.0	?	4.5+	?	
5B	④	6.60~6.64	4+	?	?	7.5	?	3.0+	南北7.5~8m
5B	⑤	?	?	?	?	?	?	?	詳細不明
5A	⑥	6.45	?	?	?	?	6.5+	?	詳細不明
5A	⑦	6.30~6.34	4+	?	?	?	6.9+	?	詳細不明
5A	⑧	6.30~6.31	1+	?	4.8	?	?	4.0+	
5A	⑨	6.18~6.29	11	北西→南東	(9.5)	(8.5)	(7.0)	(7.0)	東西7m、南北3~9m、約90㎡
5A	⑩	6.11~6.15	4+	?	?	8.2	14.0	?	
5A・5C	⑪	6.17~6.22	5+	南西→北東	(11.0)	?	7.0+	?	南北11m
5A・5C	⑫	6.13~6.16	3+	?	?	7.0	?	5.5+	
5C	⑬	6.23~6.27	2+	?	(8.2)	(9.0)	(6.0)	(6.5)	東西6.5~/m、南北8.5~9m、約90㎡
5C	⑭	6.27~6.27	4+	?	?	6.3+	?	4.0+	
5C	⑮	?	?	?	?	?	?	?	部分的に出土
5C	⑯	6.7	?	?	(9.5)	(5.5)	(7.0)	(7.0)	東西6~7m、南北10m、約55㎡
5C	⑰	6.26	?	?	?	8.5+	?	5.3+	
5C	⑱	6.30	?	?	5.0-	?	?	1.0+	
5C	⑲	6.28~6.40	2+	?	?	5.5+	?	4.7+	

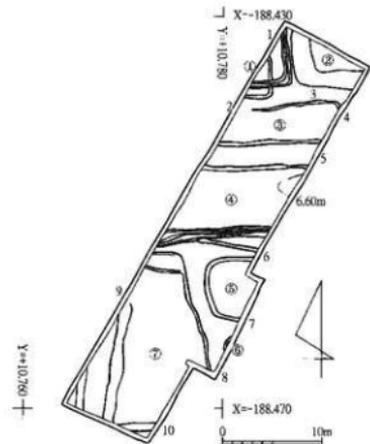
表88
5区
6b層水田跡
水田区画計測表



第95図 6A区 北壁断面図



第96図 6区 6b層水田跡平面図



第97図 7区 6b層水田跡平面図

区	No.	標高 (m)	比高差 (cm)	傾斜方向	東辺 (m)	西辺 (m)	南辺 (m)	北辺 (m)	規模・その他
6A	①	6.03~6.04	11	?	4.81	?	?	?	
6A	②	6.00~6.02	2+	?	?	4.8+	?	?	
6B	③	?	?	?	7.3+	?	?	?	
6B	④	6.03~6.05	2+	?	?	7.11	3.81	?	
6B	⑤	?	?	?	5.0	?	0.5+	0.5+	南北5.5m
6B	⑥	6.07~6.09	2+	?	?	5.0	3.5+	3.8+	南北5.5m
6B	⑦	6.10	?	?	6.5	?	1.0+	0.51	南北6.5m
6B	⑧	6.08~6.10	21	?	?	6.5	3.4+	3.5+	南北6.5m
6B	⑨	6.12	?	?	5.8	?	1.51	1.21	南北6.0m
6B	⑩	6.10~6.12	21	?	?	5.8	2.8+	3.4+	南北6.0m
6B	⑪	?	?	?	0.5+	?	?	1.5+	
6B	⑫	?	?	?	?	0.5+	?	2.6+	

表89 6区 6b層水田跡水田区画計測表

区	No.	標高 (m)	比高差 (cm)	傾斜方向	東辺 (m)	西辺 (m)	南辺 (m)	北辺 (m)	規模・その他
7	①	6.58	?	?	3.01	?	2.0+	?	
7	②	6.39	?	?	?	3.5+	3.5+	?	
7	③	6.64	?	?	(3.8)	?	12.3+	10.0+	南北2.5~3.5m
7	④	6.60~6.64	4+	?	?	?	10.51	10.51	南北6.5~8m
7	⑤	6.62~6.65	31	?	?	5.0	2.0+	<0-	南北5.5m
7	⑥	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
7	⑦	6.60~6.63	3+	?	(17.0)	(17.0)	(10.0)	(5.0)	東西5~10m、南北17m、約130㎡

表90 7区 6b層水田跡水田区画計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
6A	1	11°W	4.8+	48	94~100	4	
6B	2	3°W	20.3+	38~63	83~102	1~6	
6B	3	86°E	5.1+	37	92~98	4~8	
6D	4	85°E	5.1+	58~68	98~106	3	
6E	5	88°E	5.3+	32~42	72~80	5	
6B	6	85°E	3.9+	—	45	—	遺跡のみ
6B	7	?	3.4~3.9-	—	39~47	—	遺跡のみ

表91 6区 6b層水田跡畦畔計測表

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
7	1	3°W	6.0+	230	435	4~22	
7	2	85°E	3.3+	105	160	1~4	
7	3	E~W	8.0+	150~185	317~335	4~21	
7	4	?	0.5+	—	—	3	段差
7	5	E~W	10.4+	207~228	292~298	3	
7	6	80°W	10.4+	215~225	263~285	3~10	
7	7	?	1.6+	175	230	5	
7	8	11°W	10.6+	150~175	250	8~11	
7	9	8°E	12.0+	—	—	11~18	段差
7	10	?	2.5+	—	—	6	段差

表92 7区 6b層水田跡畦畔計測表

(5) 溝跡 溝跡は5B区と7区で小規模なものを確認したが、これらは畦畔を盛り上げる際に畦畔脇についた痕跡と推定される。

3. 出土遺物

遺物は大部分が破片で、総数は表95~102の各区別の破片集計を総合すると土師器53点、須恵器53点、赤焼土器1点、土師質土器皿類1点、中世の無釉陶器4点である。図化できた遺物は須恵器坏1点である(第99図3)。



第98図 8区 6b層水田跡平面図

区	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
8A	1	7°E~8°W	10.6+	37~53	34	2~14	中々傾曲
8B	2	89°W	3.9+	28	77~85	5~5	
8E	3	?	0.9+	30	80	5	
8B	4	2°W	8.7	35~45	90~105	5~8	
8A~8B	5	86°E	16.9+	35~60	100~115	3~11	

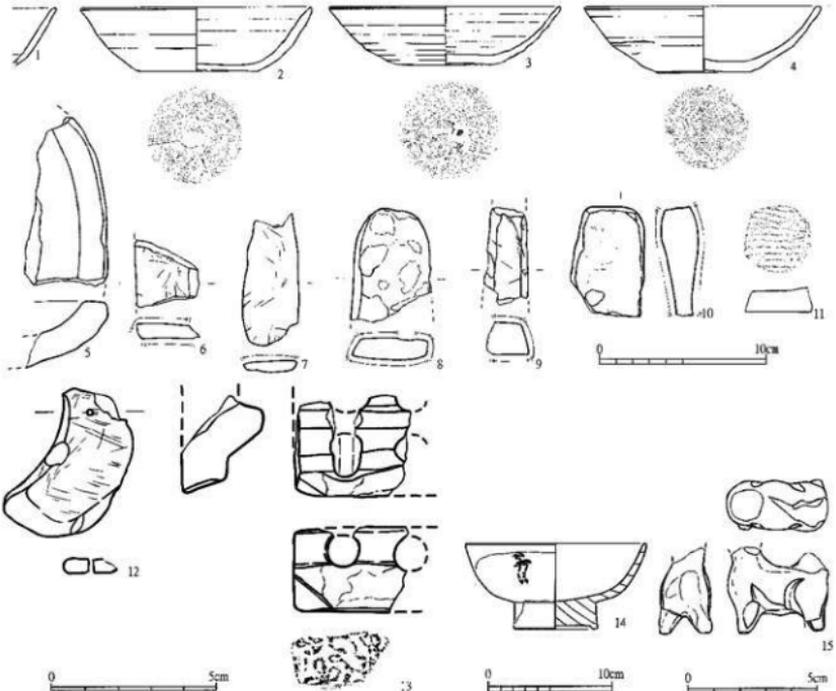
表93 8区 6b層水田跡畦畔計測表

区	No.	標高(m)	北点差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
8B	①	6.15~6.19	4+	?	11.0+	?	4.5+	?	
8B	②	6.06~6.12	6+	?	?	11.0+	?	?	
8A~8B	③	6.13~6.43	30+	西→東	9.5	?	17.0+	3.0+	南北9.5m, 分割される可能性
8B	④	6.09	?	?	?	10.0	?	2.0+	南北10.0m
8B~8C	⑤	6.11~6.32	21+	?	?	?	?	?	分割される可能性

表94 8区 6b層水田跡水田区画計測表

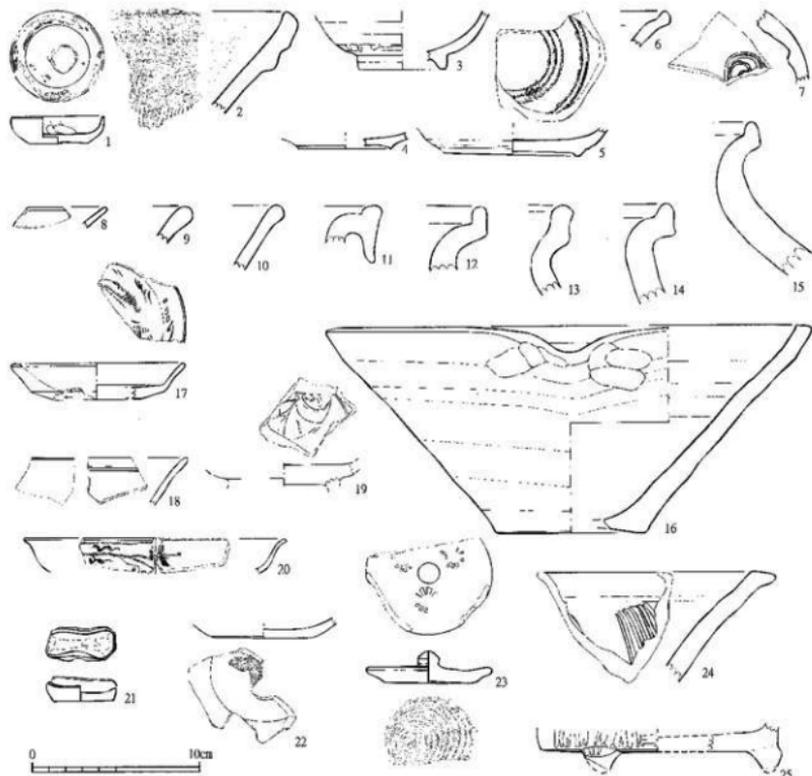
第9節 出土遺物

1～8区の調査では、精査を実施した3a～6b層水田跡の耕作土中や各層上面の遺構のほか、1～2層中からも遺物が出上している。各区の層別・遺構別の細かな集計は表95～102、区ごとの集計は表140（第2分冊85頁）に示し



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	埋合度	寸法 (cm)		調整・特徴	写真 図版	
					口径	底径			器高
1	Jc-S	5-6a層水田跡	雑形陶器・輪花輪	口縁～体部片			内面黄緑色の釉。10世紀初期 ロクロ調製、底面切縁法不明一回転ヘラ ケズリ、底縁/口径0.51	89-26	
2	B-3	4-6a・6b層水田跡	須恵器・杯	1/2	13.7	7.0	4.0	ロクロ調製、底面切縁法不明一回転ヘラ ケズリ一部ナデ、底縁/口径0.41	89-28
3	B-4	4-6a層水田跡	須恵器・杯	1/2	14.0	5.8	3.6	ロクロ調製、底面切縁法不明一回転ヘラ ケズリ一部ナデ、底縁/口径0.41	89-28
4	B-2	6-SD2	須恵器・杯	1/2	14.2	5.6	4.1	ロクロ調製、底面切縁法不明一回転ヘラ ケズリ一部ナデ、底縁/口径0.39	89-29
5	K-S	5P-3a層水田跡	石製品・茶臼下付	部分	(27.5)		4.1+	(190g 1)、安山岩	90-1
6	K-S	8A-4b層水田跡	石製品・砥石	中央部のみ	4.2+	4.0	1.0	23g±、デイスait質凝灰岩	90-3
7	K-1	1-2層	石製品・砥石	端部のみ	7.6+	3.3	0.8	32g±、デイスait質凝灰岩	90-2
8	K-1	3A-5a層水田跡	石製品・砥石	端部のみ	7.0+	4.9+	1.9	62g±、デイスait質凝灰岩	90-4
9	K-2	1-2層	石製品・砥石	中央部のみ	6.0+	2.7	2.2	47g±、デイスait	90-5
10	K-5	5B-2層	石製品・砥石	端部のみ	6.8+	4.5	2.2	91g±、デイスait質凝灰岩	90-6
11	B-1	2-2層	須恵器・円盤	完整	(4.2)		1.1	破片を利用	90-7
12	K-7	7-3a層水田跡	石製模造品・勺木	133度尖形	4.2	2.5	0.7	13g、結晶性質	90-8
13	K-9	8C-5a層水田跡	石製品・埴塗不明	部分	2.9+	2.6+	2.3	22g±、内側の穿孔2、花弁状の溝刻、結晶性質	90-9
14	J-2	1-5b層水田跡	木製品・漆器納	1/2	口径 (14.6)	(6.8)	器高7.0	内外面炭粉下地+透明漆+透明漆1赤漆 文様、フナ彫	90-10
15	B-2	1-2層	土製品・犬形	2/3	4.0+	2.0	高さ3.5	23g±	90-11

第99図 1～8区基本層・水田跡出土遺物 (1)

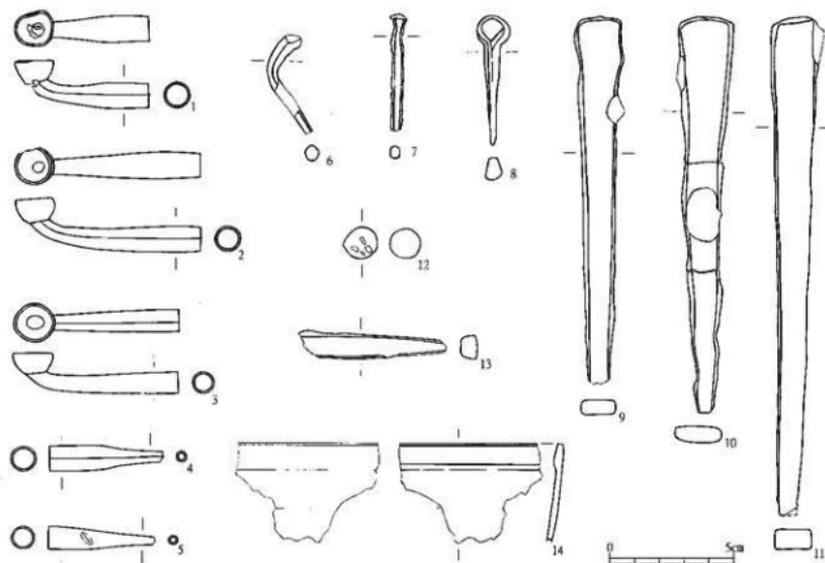


No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(所在地)	器種	遺存度	法線 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口縁	底径	器高		
1	Ic-1	1-1 割溝	陶器(塚)	灯明皿	4/5	5.6	3.5	1.7	内面・外面に割溝あり。口縁部は、内面にタテ溝の付着あり。	89-1
2	Ic-2	1-2 溝	陶器(塚)	钵	口縁部				内外面鉄銹。細かな割溝。	89-2
3	Ic-584	8-17 竪	陶器(空溝跡)	底部分片		(5.2)			断面。尾白茶柄。器高6~7割。	89-3
4	Ic-579	5B-2 溝	陶器(堀戸・東溝)	皿	底部分片	(5.6)			底面。丸皿?。大径2~3割。	89-4
5	Ic-4	2-1 溝	陶器(溝戸・東溝)	皿	底部分片	(8.2)			見込みに鉄銹の同心円文。器高1割。	89-5
6	Ic-582	7-3 水田跡	陶器(在池)	片状器	11線部小片				灰釉。中I期。	89-6
7	Ic-583	1-5 水田跡	陶器(在池)	片状器	11線部小片				灰釉。巴文。中I~II期。	89-7
8	Ic-507	5A-1 水田跡	陶器(在溝)	小皿	11線部小片				5線式。	89-8
9	Ic-578	7-3 水田跡	陶器(在池)	鉢	口縁部小片				口口調整。山菜碗蓋系。	89-9
10	Ic-585	6B-3 水田跡	陶器(在池)	鉢	口縁部小片				口口調整。山菜碗蓋系。	89-10
11	Ic-7	5-5 水田跡	陶器(東溝)	鉢	11線部小片				口口調整。6A型式。	89-11
12	Ic-10	6-5 水田跡	陶器(在池・白石)	皿	口縁部小片				口・胴部ヨコナデ。体部ナデ。	89-12
13	Ic-5	2-4 水田跡	陶器(在池・白石)	皿	11線部小片				ヨコナデ。	89-13
14	Ic-11	8-溝	陶器(在池)	皿	口縁部小片				口・胴部ヨコナデ。体部ナデ。	89-14
15	Ic-9	6-溝	陶器(在池・白石)	皿	口縁部小片				口・胴部ヨコナデ。体部ナデ。器高約1割。器底に鉄銹の付着あり。	89-15
16	Ic-3	2-5 水田跡	陶器(在池)	片状器	11線部小片	(29.5)	(9.4)	12.9	口内。断面に鉄銹の付着あり。器高約1割。口縁部に鉄銹の付着あり。	89-16
17	I-1	8I-5 水田跡	古器(阿婆堂系?)	皿	11線部小片	(10.5)	(5.3)	2.3	内面割口文。	89-17
18	I-185	7-3 水田跡	青磁(藤原堂系)	鉢	11線部小片				見込みに割口文。	89-18
19	I-183	5A-不明	青磁(藤原堂系)	鉢	底部分片					89-19
20	I-2	8-2 溝	青磁(中野)	皿	11線部1/10	(15.8)				89-20
21	D-83	7-4 水田跡	青磁土器・耳皿	皿	口縁部	4.2~2.0	1.7~2.0	7.5	手づくね。	89-21
22	Ic-2	7-4a 水田跡	土器土器・皿	皿	底部分片				口口調整。器高約1割。器底に鉄銹の付着あり。	89-22
23	Ic-1	8-溝	青磁土器・鉢	鉢	口縁部				口口調整。器高約1割。器底に鉄銹の付着あり。口縁部に鉄銹の付着あり。	89-23
24	Ic-1	8-溝	土器土器・鉢	鉢	口縁部小片	7.6		2.0	口口調整。器高約1割。器底に鉄銹の付着あり。口縁部に鉄銹の付着あり。	89-24
25	Ic-49	8-3 水田跡	青磁土器・奇形	底部分片		(14.1)			外面へタテガキ。内面ナデ。	89-25

第100図 1~8区基本層・水田跡出土遺物 (2)

た。1～8区を総合した破片数は弥生土器2点、土師器935点、須恵器376点、赤焼土器43点、土師質土器皿類536点、その他の土師質土器58点、瓦質土器16点、国内産の無軸陶器319点(註1)、国内産の施釉陶器23点、中国産陶磁器27点、その他近世の陶磁器など239点、瓦66点、金属製品74点(鉄製品38点・銅製品36点)、石製品20点、木製品6点、土製品9点、鉄滓68点で、この他に本文中で述べたようにウマの歯や骨などの他、クルマやモモの種なども出土している。

(註1) 遺物集計表の「常滑」「渾美」「東海」「在地」の他に「その他土器・陶磁器」中の須恵器系1、山皿1を含む。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)		厚さ	調整・特徴	参考図版
					長さ	幅			
1	Nb-12	1-2層	銅製品・燗管地盤	ほぼ完形	5.3	大径部1.5	小径部0.9	6g+	90-12
2	Nb-20	5-2層	銅製品・燗管地盤	ほぼ完形	7.4	大径部1.5	小径部1.0	11g+	90-13
3	Nb-11D	1-2層	銅製品・燗管地盤	完形	6.6	大径部1.6	小径部0.9	10g	90-14
4	Nb-11E	1-2層	銅製品・燗管地盤	3/4	4.5+		小径部0.9	5g+	90-15
5	Nb-13	1-2層	銅製品・燗管地盤	3/4	4.2+		小径部0.9	2g+	90-16
6	Na-26	8A-3a層水田跡	鉄製品・釘	中央部	4.1	0.7	0.5	3g+	90-17
7	Na-3	5B-1層	鉄製品・釘	4/5	4.8+	0.5	0.5	破断部0.6cm (2g+)	90-18
8	Na-19	1-樹溝	鉄製品・止め金具	完形	5.3	0.9	0.6	破断部欠損・幅1.3cm, 9g	90-19
9	Na-22	4A-3a層水田跡	鉄製品・農具の歯	先端部欠損	15.1+	0.9	0.6	破断部0.9cm (41g+)	90-22
0	Na-21	2B-3a層水田跡	鉄製品・農具の歯	完形	16.3	0.7	0.9	破断部2.3cm, 46g	90-23
1	Na-20	1-5層水田跡	鉄製品・農具の歯	ほぼ完形	20.4	0.8	0.8	破断部0.8cm, 21g	90-24
2	Na-25	8-1層	銅製品・押丸	完形	種1.3			12g、三弁水?	90-20
3	Na-24	7-4b層水田跡	鉄製品・釘	中央部	6.0	1.0	0.7	8g+	90-21
4	Na-25	4A-4b層水田跡	鉄製品・釘	1/4層部小片	4.1+	3.7+	0.4	10g+	90-25

第101図 1～8区基本層・水田跡出土遺物 (3)

層位・遺構	土層号	発見品	土質質土層		瓦器	陶器		土器		石製品	骨製品	土器片	鉄片	その他
			瓦器	土器		土器	土器							
1層			1	1										
2層			2	13	2	1	1	1	3					瓦の面
3層			5	6	1	2			1					瓦の面
3a層水田跡	5	1	25						1					瓦の面
3b層水田跡	3	1	12	1	2			1	2					瓦の面
3c層水田跡	4	1	7			1			7					瓦の面
3d層水田跡	8	5	3					1	5					瓦の面
3e層水田跡	7	5	1	1			1		1			2	1	瓦の面
3f層水田跡														
3G1														
3G2														
総数	33	29	6	82	4	2	8	0	2	0	4	23	2	
総重量 (g)	39	132		144	9	12	566	0	33	636	19	95		54

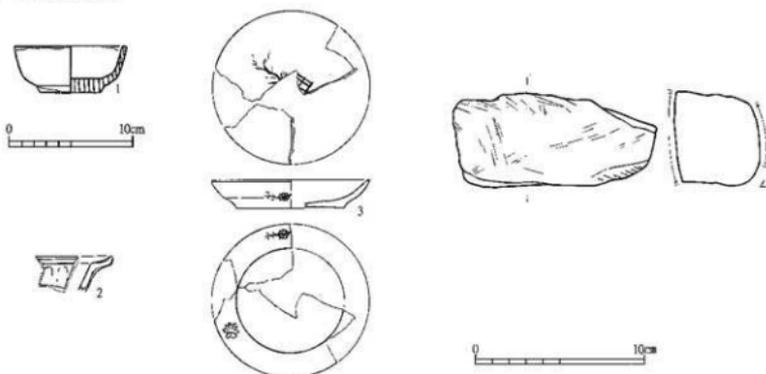
表96 2区遺物集計表

層位・遺構	土層号	発見品	土質質土層		瓦器	陶器		土器		石製品	骨製品	土器片	鉄片	その他
			瓦器	土器		土器	土器							
1層			11	1										
2層			5	4	2				4					
3層			7	1		2								瓦の面
3a層水田跡	7	1	4	3										瓦の面
3b層水田跡	8	4	15			1			1	2				瓦の面
3c層水田跡	10	1	1			2				1				瓦の面
3d層水田跡	11	8	5			2				1				瓦の面
3e層水田跡	33	17												瓦の面
3f層水田跡														
3G1														
3G2														
総数	103	36	1	32	3	0	0	6	0	0	0	1	6	2
総重量 (g)	342	233		71	21	0	273	0	0	0	326	50	0	70

表97 3区遺物集計表

層位・遺構	土層号	発見品	土質質土層		瓦器	陶器		土器		石製品	骨製品	土器片	鉄片	その他
			瓦器	土器		土器	土器							
1層			2											
2層			1											
3層			8	3		1	7							瓦の面
3a層水田跡	6	1												瓦の面
3b層水田跡	3													
3c層水田跡	5	28	1			2								
3d層水田跡														
3G1														
3G2														
総数	26	44	0	4	1	0	11	0	0	0	0	3	0	1
総重量 (g)	130	250		16	23	0	245	0	0	0	158	0	4	

表98 4区遺物集計表



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	高さ		
1	L-1	1-SX1	木製品	漆塗椀	1/2	(3.0)	(4.8)	3.8	内外面黒色・赤漆文様が部分的に残る、ブナ属	90-43
2	J-184	7-SK1	青磁(輝気集系)	皿	11	15	5			90-45
3	Ia-1	5B-SK3・6層	土師質土器	小皿	2/3	9.3	6.2	1.7	口は調整、回転糸切・ナデ、白針塗。体部外面に墨絵(梅花?) 2箇所。見込みに墨絵(樹・樹木)	90-46
4	K-3	1-SX1	石製品	砥石	完形	長11.3	幅5.5	厚5.0	550g、アイサイト質凝灰岩	90-41

第103図 1～8区の遺構出土遺物

第3章 9区の調査

第1節 III層の遺構と3a層水田跡

1. 遺構の概要

9区は微高地から低地への移行地点にあたり、9A・9B・9D区が微高地、9C区が低地に位置している。9A・9B・9D区ではI～II層の直下でII層を確認したが遺構は確認できなかった。なお、9A区東半部にはIII層は分布しない。

9A区西部から9B区中央部にかけては、城館の外堀であるSD1001が埋没した跡が幅10m以上の溝状の痕みとなって残っており、その南側の9B区中央から9C区西端部にかけては土塁SL1001の高まりも残存していた。9B区や9C区西部では土塁を切る溝を数条確認している。9C区の大部分では3a層水田跡を確認した。

2. III層の遺構と遺物

(1)溝跡 7条検出した。SD1001は城館の外堀であるのでこの時期には伴わないが、大部分が埋没した後の浅い窪みに3a層水田耕作土が認められたので、この時期は水田として利用されたことが判る。幅は11～12mである。その他の溝もII層が分布しない箇所を確認されたものであるが、II層直下の確認なのでここで記述する。

9B-SD1・9C-SD4 (第106図) SL1001の盛土を切って、SL1001に沿って掘られている。幅25～60cm、深さ5～20cm、堆積土はII層最下部のII d層に類似している。遺物は合わせて4点出土した(表104・105)。

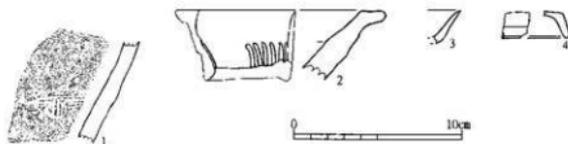
9B-SD2 (第106図) SL1001の南にあり、下層の9B-SD12が埋没した跡のほぼ同じ場所に位置する。遺物は上石器・須臾器を中心に約70点出土し、中国産の白磁皿など2点が図化できた(表104、第104図3・4)。

9B-SD3 (第106図) SD1001北側の整地層を南北に横断する小規模な溝で、SD1001内部を利用した3a層水田からの排水用と推定される。遺物は出土しなかった。

9C-SD1・2 (第106図) SD1001南側のSL1001を切って南北に横断し、SD1001内部の3a層水田とSL1001南部の3a層水田を結んでいる。堆積土はII a層に類似するので比較的新しい遺構である可能性が高い。遺物は9C-SD2から13点出土した(表105)。

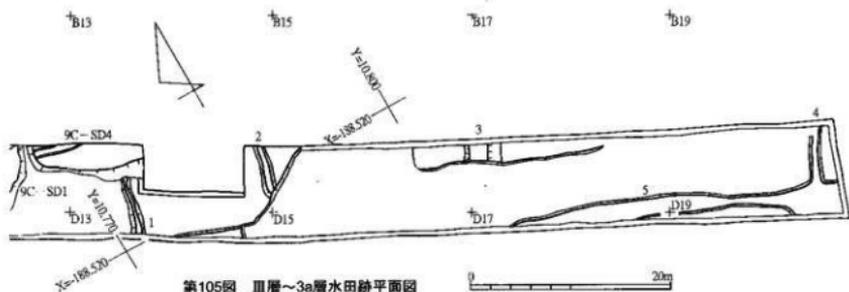
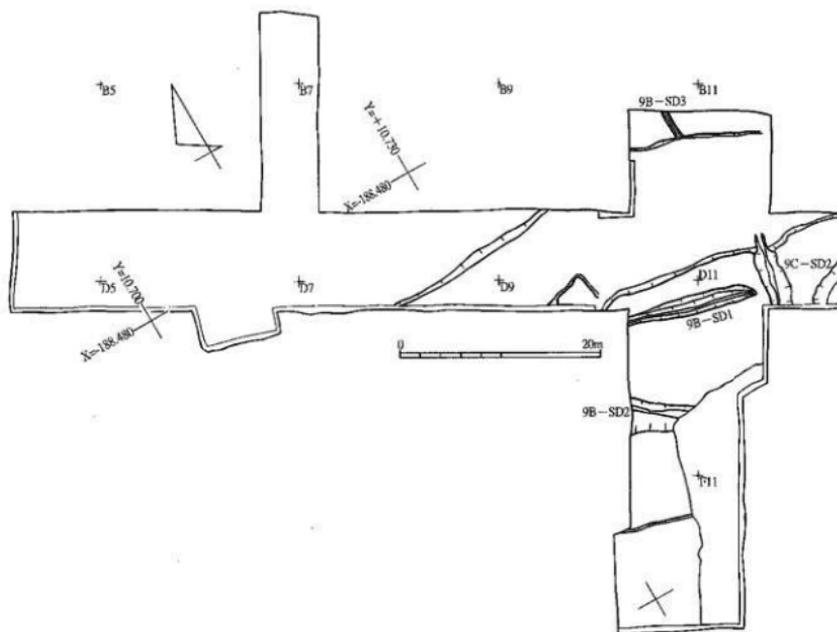
3. 3a層水田跡と出土遺物

(1)水田の概要 畦畔は直上層である2層下部で確認したが、2層によって攪拌・削平を受けているためか遺存状況は悪い。耕作土3a層自体の遺存状況も悪く、耕作上の厚さは5cm前後である。前述したように、城館の外堀SD1001がほぼ埋没した後の浅い窪みにも3a層水田耕作土が認められたので、この時期は耕作可能な箇所大部分は水田として利用されていたと考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図取
					口徑	底径	器高		
1	Is-17	9A-SD2	陶器(高津) 甕	腰部小片				ナデ、外面に彫刻押印	93-1
2	Is-3	9A-SD2	瓦質土器・漆鉢	11腰部小片				口縁口調整、朝日	93-2
3	J-11	9B-SD2	白磁(中国) 皿	口縁部小片					93-3
4	J-2	9B-SD2	白磁(中国) 蓋	11腰部小片					93-4

第104図 9A-SD2、9B-SD2出土遺物



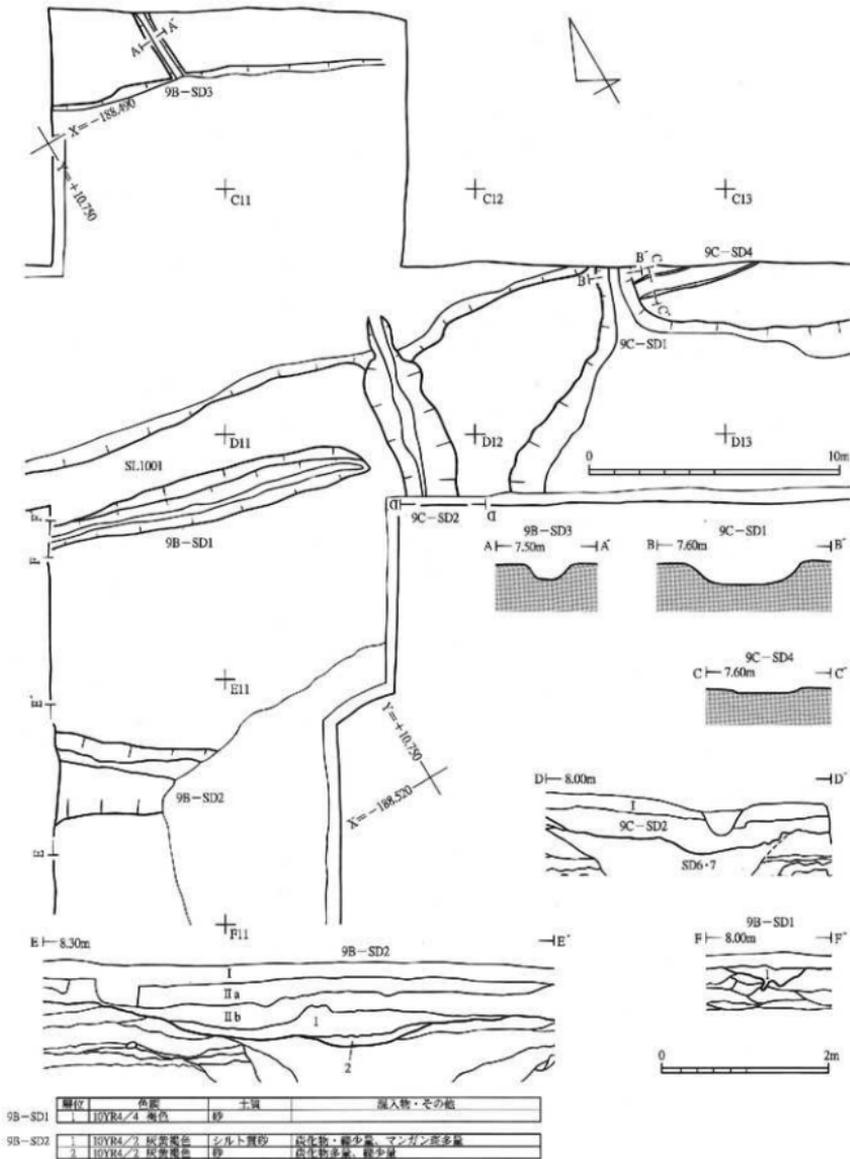
第105図 Ⅲ層～3a層水田跡平面図

(2)遺構の状況

畦畔は耕作上を盛り上げて造られており、南北方向のNo.1～4と東西方向のNo.5を検出した。規模はNo.3が下端幅360cm、No.5が広い箇所では200cm以上あるが、他は1～8区と同様に下端幅は100cm以下である。また、東西方向の段差も検出しているが1層の水田の影響である可能性もあり、不明な点が多い。

水田区画は、畦畔1・2・3の間隔から1辺13～18m程度と推定され、これも1～8区と同様の状況である。

なお、水田面の標高や傾斜などについては遺存状況が悪いため不明である。



第106図 9B~9C区西部 Ⅲ層上面平面図、溝跡断面図

第2節 IV a層の遺構(1)―IVa4期

1. 遺構の概要

9A・9B・9D区ではⅢ層の直下でIVa層を確認したが、9A区東半部ではIVa層ではなく整地層が分布していた。整地層は大別して2層に分層できるが、ここではその上層の遺構が該当する。

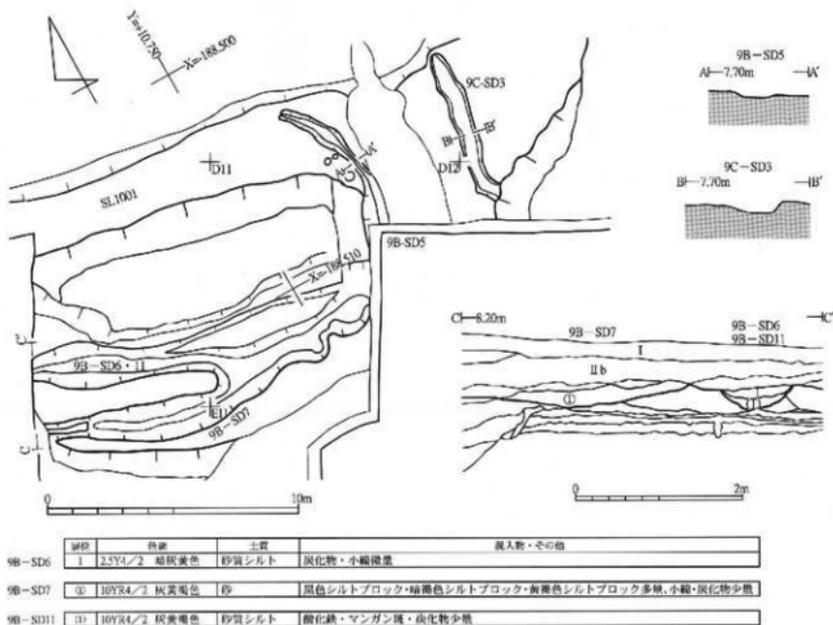
9A区から9C区西部にかけては城館の外堀であるSD1001と土塁SL1001が残存し、西側の9A区には整地層を盛り上げた土手と南北方向の溝が確認されている。また9A区西端と9B区南部ではピットや小規模な土坑が数基確認されている。

2. 遺構と遺物

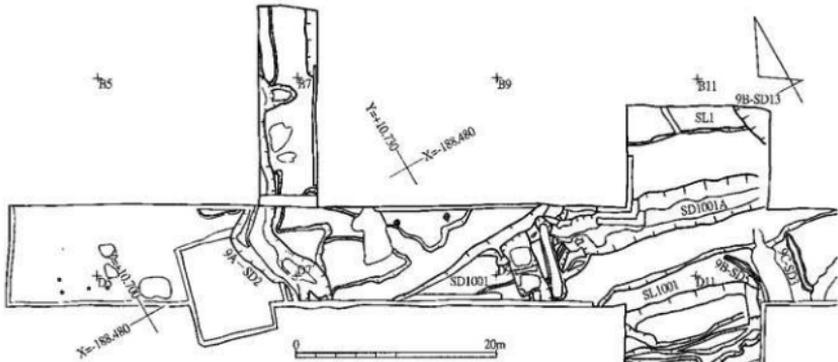
(1)溝跡 城館の外堀SD1001とこれから北方に分岐すると推定される溝2条、土塁SL1001を切る小規模な溝5条を確認した。

SD1001A (第119・121図) SD1001は城館北辺の外堀で、9A区西部から9B区中央部にかけて東西方向に走る。新田2時期に大別でき、新しい時期をSD1001A、古い時期をSD1001Bとした。このIVa4期にはSD1001Aが相当する。

9B区では土塁に近い南側に古いSD1001B、北側に位置をずらして新しいSD1001Aがあり、溝底面には両者の間の基本層が土手状に残存していた。断面図(第121図右)から復元すると、SD1001AはSD1001Bから約4m北にずらして掘削されているが、その際SD1001Bと重複する箇所についてはSD1001Bの堆積土の下半分はそのまま残し、上半分のみを再び掘り上げている。その結果、新たに掘削した部分の深さは約160cmあるがSD1001Bを再掘削した箇所は60cm



第107図 SL1001、9B-SD5～7・11、9C-SD3 平面・断面図



第108図 9A～9B区・9D区 IVa層上面平面図 (IVa4期)

ほどしかない。幅は両者を合わせた幅となり、土塁を含めると7～8.5mある。

9A区では9B区のようにA・Bの明確な重複の痕跡が認められなかったため、遺構の詳細は不明であるが、9A区では調査区南壁の観察により、9B区と同様に土塁側に古いSD100B、反対側にSD100Aがあることが確認できた。9A区東端では溝の両岸から掘り残された部分が幅1.0～1.5m、長さ1.0～1.5mほど張り出しているため、この部分の溝幅は約6mに狭まっている。張り出し西側の溝の底面には細長い土坑状の掘り込みが2箇所ある。このように、溝幅が狭くなる箇所の脇に土坑状の掘り込みがある例は、11E区のSD1014 (第2分冊63頁) と11E-SD1 (第2分冊70頁) に認められ、SD1014の場合は横脚が遺存していたので出入口口に特有の施設であると考えられる。9A区では横脚は確認できなかったが、張り出し部分に橋がかけられ、城館の内外を結ぶ出入口であった可能性がある。

堆積土は自然堆積層で、大部分が粘土と砂の互層であるので水成堆積と考えられる。

遺物は破片で約4,300点出土した。一部に近世の陶磁器が含まれているが60%が土師器・須恵器などの古代の土器で、残り40%が中世の遺物である(表104)。また、多数のウマの骨・歯の他、クミなどの種子も出土している。

図化できたのは143点(第111～116図)である。第111・112図は常滑・瀬美産の甕・片口鉢・壺と東海地方の山茶碗窯系の鉢で、常滑の甕は4～6h型式(13世紀代)のものが大部分であるが、Ic-41(第111図34)は9型式(15世紀)と考えられる。なお、Ic-47(第111図35)には2条、Ic-58(第111図36)には1条の沈線が認められ、三筋壺と考えられる。押印は「菊花形」・「菱形」・「農状」などの他、「花卉」のような形態のIc-514(第111図39)も認められる。

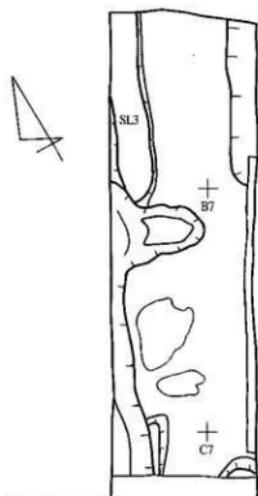
第113図は在地・古瀬戸産の陶器と中国産の磁器である。磁器は劃花文や蓮弁文の青磁碗が多いが、J-14青白磁梅瓶(34)やJ-23白磁四耳壺(36)なども認められる。

第114図は土師質土器・瓦質土器・土師器・須恵器等の土器類で、瓦質土器には内外面にヘラミガキが施された「瓦器」皿が2点認められた(Ib-4・Ib-5、第114図7・8)。

第115図は石製品・土製品・瓦である。F-1～3(8～10)が中世の瓦で、東光寺遺跡との関連が予想される。

第116図は金属製品と木製品で、溝の確認面からは近世の遺物(煙管)も出土している。

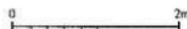
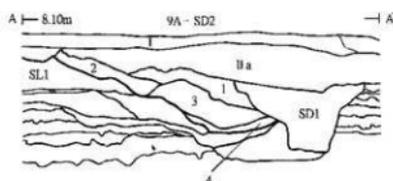
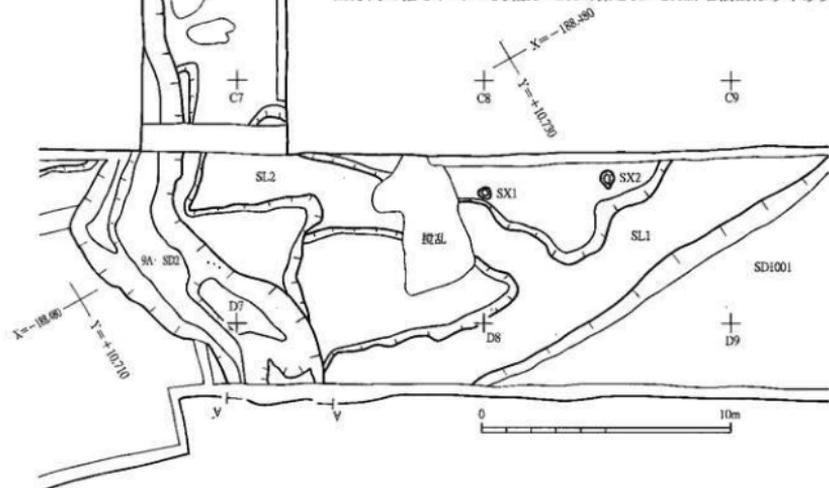
9A-SD2(第109図) 9A区中央から9D区内壁際まで蛇行する溝で、9A区の外側にSD1001に接続していると推定される。幅1.5～2.0m、深さ1.1～1.2mで、堆積土は自然堆積層である。最下層に水成堆積層が認められることから水路



と考えられ、SD1001から北方の水田(4a~3b層水田)へ給水する基幹水路と推定される。なお、埋没後ほぼ同じ場所に掘りなおされた溝9A-SD1があるが(第109図下部の断面図)、SD1の平面図は掲載しなかった。SD2の遺物は約80点出土し(表103)、4点が図化できた(第104図)。

9B-SD13(第120・121図) 9B区北西部で部分的に確認したもので、深さは1.8mあるが幅や方向は不明である。堆積土は砂や粘土の互層であるので水成堆積と考えられ、そのためSD1001から分岐する溝(水路)であると推定している。遺物は土師器、須恵器、中世陶器片計6点で(表104)、図化はできなかった。

9B-SD6・7・11(第107図) SL1001の基底部付近にSL1001にむった東西方向に掘られている。幅35~90cm、深さ10~20cm。堆積土は砂や砂質



層位	色調	土質	遺入物・その他
1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘上	黄褐色シルトブロック・黒褐色粘土ブロック・灰オリーブシルトブロック少量
2	2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・黄褐色シルトブロック多量
3	2.5Y3/2 黒褐色	粘上	黒褐色粘土ブロック・黄褐色シルトブロック多量
4	2.5Y3/1 暗褐色 2.5Y4/2 暗灰褐色	粘上 粘土	互層

第109図 9A区西部・9D区 IVa層上面平面図(IVa4期)、9A-SD2断面図、SX1・2平面図

シルトの単層である。遺物は土師器、須恵器、瀬戸産の陶器など計12点出土した(表104)が、図化はできなかった。

9B-SD5、9C-SD3(第107図) 土塁を南北に横断する浅い溝で、土塁よりも新しい可能性がある。遺物は9B-SD5から土師器片などが10点出土した(表104)。

(2)土塁・土手 9B区中央から9C区西端部にかけては城館の土塁(SL1001)が遺存していた。また9A区東部の整地層上面には小規模な土手が造られている。

SL1001(第121図) 9B区から9C区西部にかけて確認された土塁である。上部は失われていて基底部だけが残存している。SD1001の南側に沿って東西方向に延びているが、9C区西端部では南に向う別の土塁が取り付けられている。確認された長さは38mで、残存する上端幅は2.7~4.7m、下端幅10.3m、高さ0.6mである。4層水田耕作土の上にシルト系のブロック土を積み上げて構築されているが、版築などは認められなかった。遺物は破片で約250点出土したが80%以上が古代の土器類で残りが中世の遺物である(表104・105)。図化できたのは5点(第110図)で、このうちIc-91常滑産甕(2)とNb-41永楽通寶(5)が土塁の構築時期をある程度限定できる遺物と考えられる(註1)。

SL1~3(第109図) SD1001北岸から9A-SD2の間で確認された土手で、周辺の整地層を盛り上げて作られており、高さは5~10cmである。SL1はSD1001の北岸に沿った幅1.5~2.5mのもので、長さ16m分が確認された。SL2は幅120~180cmで、部分的であるのでSL1を補完する補助的なものと考えられる。SL3は9D区北部にあり、9A-SD2の東側の土手である。

(3)焼土遺構 9A区整地層上面、SL1・SL2の北側で2基確認した。

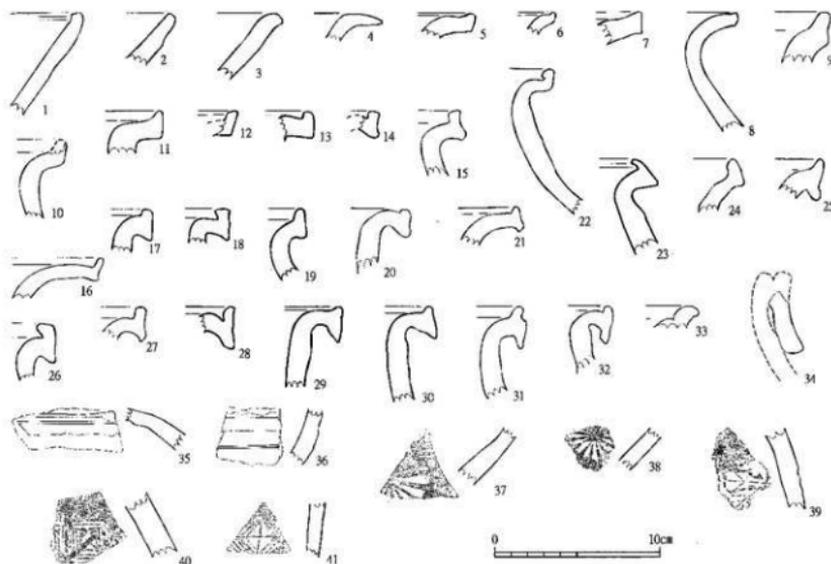
9A-SX1・SX2(第109図) 大きさが20~40cmの不整形円形をしており、焼けた硬化面の上に黒色の灰層が薄く堆積していた。

(註1) 常滑産甕は9型式なので15世紀前半、永楽通寶の初鋳年は1408年であり、土塁の構築時期はこれらの遺物の年代よりも後となる。



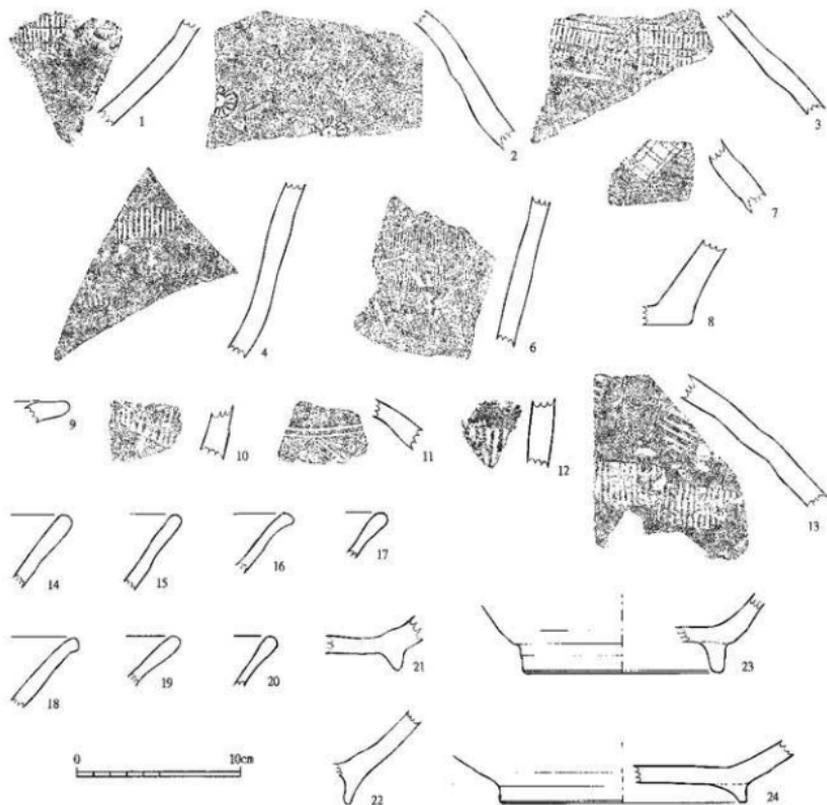
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(発地) 器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Ic-89	9B-SL1001	陶器(常滑)片口鉢	口縁~体部片				口縁口調整、内面に菊灰色の自然釉、6型式	98-1
2	Ic-91	9B-SL1001	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナ字、9型式	98-2
3	Ic-90	9B-SL1001	陶器(在地・白石)片口鉢	口縁部小片				口縁口(回転台)調整	98-3
4	K-20	9C-SL1001	石製品・砥石	中央部のみ	4.8+	3.0+	1.3	21g±、デイサイト質凝灰岩	96-4
5	Nb-41	9B-SL1001	銅製品・錢貨	完形	径2.5		重量2.7g	永楽通寶(明・初鋳1408年)	98-5

第110図 SL1001出土遺物



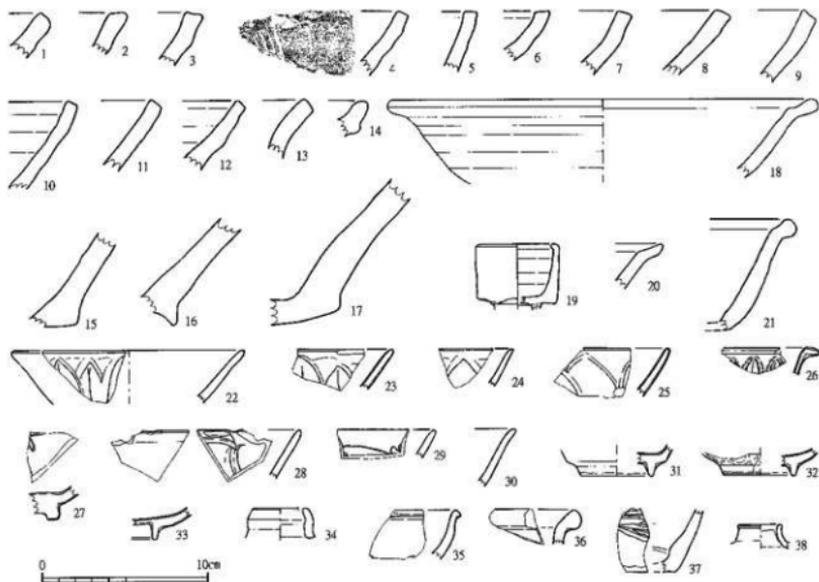
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存皮	法量 (cm)		刺鏝・特徴	写真図版
						口径	底径		
1	Ic-67	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁~体部片			口縁部ロク口調整、体部ナデ、6a型式	94-1
2	Ic-508	9A-SD1001・上層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片			ロク口調整、内面灰白色の自然釉	94-2
3	Ic-65	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片			ロク口調整、5a型式	94-3
4	Ic-23	9B-SD1001・1層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、口縁部内面に灰白色の自然釉、2型式	94-4
5	Ic-517	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、内外面に灰白色の自然釉、4型式	94-5
6	Ic-511	9B-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、4型式	94-6
7	Ic-81	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、4型式	94-7
8	Ic-24	9A-SD1001・2層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、内外面に灰白色の自然釉、2型式	94-8
9	Ic-53	9A-SD1001・2層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、内外面に灰白色の自然釉、4型式	94-9
10	Ic-30	9B-SD1001・1層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-10
11	Ic-42	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-11
12	Ic-513	9A-SD1001・7層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-12
13	Ic-44	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、5a型式	94-13
14	Ic-516	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-14
15	Ic-32	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-15
16	Ic-45	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、口縁部内面にオリーブ色の自然釉、5型式	94-16
17	Ic-31	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、内面に灰白色の自然釉、6a型式	94-17
18	Ic-38	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-18
19	Ic-28	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-19
20	Ic-20	9B-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-20
21	Ic-34	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、内面にオリーブ色の自然釉、6a型式	94-21
22	Ic-25	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、外周面にオリーブ色の自然釉、5型式	94-22
23	Ic-26	9B-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、外周面にオリーブ色の自然釉、5型式	94-23
24	Ic-35	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、5a型式	94-24
25	Ic-36	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-25
26	Ic-27	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-26
27	Ic-37	9A-SD1001・最上層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-27
28	Ic-39	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-28
29	Ic-43	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-29
30	Ic-76	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6a型式	94-30
31	Ic-40	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、6b型式	94-31
32	Ic-22	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、1層面にオリーブ色の自然釉、6a型式	94-32
33	Ic-510	9A-SD1001・7層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ	94-33
34	Ic-41	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片			ヨコナデ、リ型式	94-34
35	Ic-77	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)	三脚釜	体部小片			内面にナデ、外周面に刺鏝、オリーブ色の自然釉	94-35
36	Ic-50	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)	三脚釜	体部小片			内面にナデ、外周面に刺鏝、オリーブ色の自然釉	94-36
37	Ic-57	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	体部小片			ナデ、刺鏝押印	94-37
38	Ic-51	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	体部小片			ナデ、刺鏝押印	94-38
39	Ic-514	9A-SD1001・7層	陶器(常滑)	甕	体部小片			ナデ、花弁・お形押印	94-39
40	Ic-46	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)	甕	体部小片			ナデ、刺鏝押印	94-41
41	Ic-50	9B-SD1001・5層	陶器(常滑)	甕	体部小片			ナデ、刺鏝押印	94-40

第111図 SD1001出土遺物 (1)



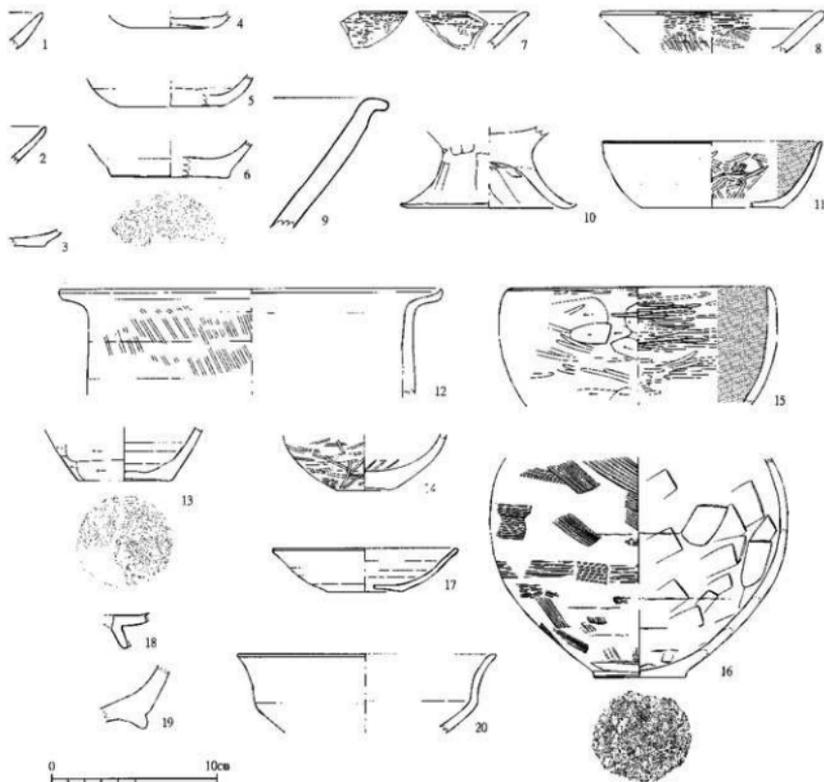
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ic-49	9B-SD1001・6層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	9a-42
2	Ic-52	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、菊花形押印	9a-43
3	Ic-56	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	9a-44
4	Ic-53	9A-SD1001・4層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-1
5	Ic-48	9A-SD1001	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印、写真のみ	95-2
6	Ic-55	9A-SD1001・最上層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-3
7	Ic-54	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-4
8	Ic-68	9A-SD1001・最下層	陶器(常滑)片口鉢	底部小片				内面口クロ調整、外面ナデ	95-5
9	Ic-57.5	9A-SD1001・7層	陶器(高梁)甕	口縁部小片				口ナデ	95-6
10	Ic-70	9B-SD1001・確認層	陶器(高梁)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-7
11	Ic-80	9A-SD1001・3層	陶器(常滑)甕	底部小片				ナデ、平行波線	95-8
12	Ic-82	9B-SD1001・5層	陶器(高梁)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-9
13	Ic-83	9A-SD1001・最下層	陶器(高梁)甕	底部小片				ナデ、捺状押印	95-10
14	Ic-115	9A-SD1001・3層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-11
15	Ic-114	9A-SD1001・7層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-12
16	Ic-111	9A-SD1001・7層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-13
17	Ic-110	9B-SD1001・3層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-14
18	Ic-112	9B-SD1001・4層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-15
19	Ic-109	9A-SD1001・7層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-16
20	Ic-113	9B-SD1001・4層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				口クロ調整、山菜碗窯系	95-17
21	Ic-119	9A-SD1001・4層	陶器(東海)鉢	底部小片				口クロ調整、内面調整、山菜碗窯系	95-18
22	Ic-118	9A-SD1001・7層	陶器(東海)鉢	底部小片				口クロ調整、内面調整、山菜碗窯系	95-21
23	Ic-116	9A-SD1001・7層	陶器(東海)鉢	底部小片	(12.1)			口クロ調整、内面調整、山菜碗窯系	95-19
24	Ic-117	9A-SD1001・上層	陶器(東海)鉢	底部小片	(14.9)			口クロ調整、山菜碗窯系	95-20

第112図 SD1001出土遺物 (2)



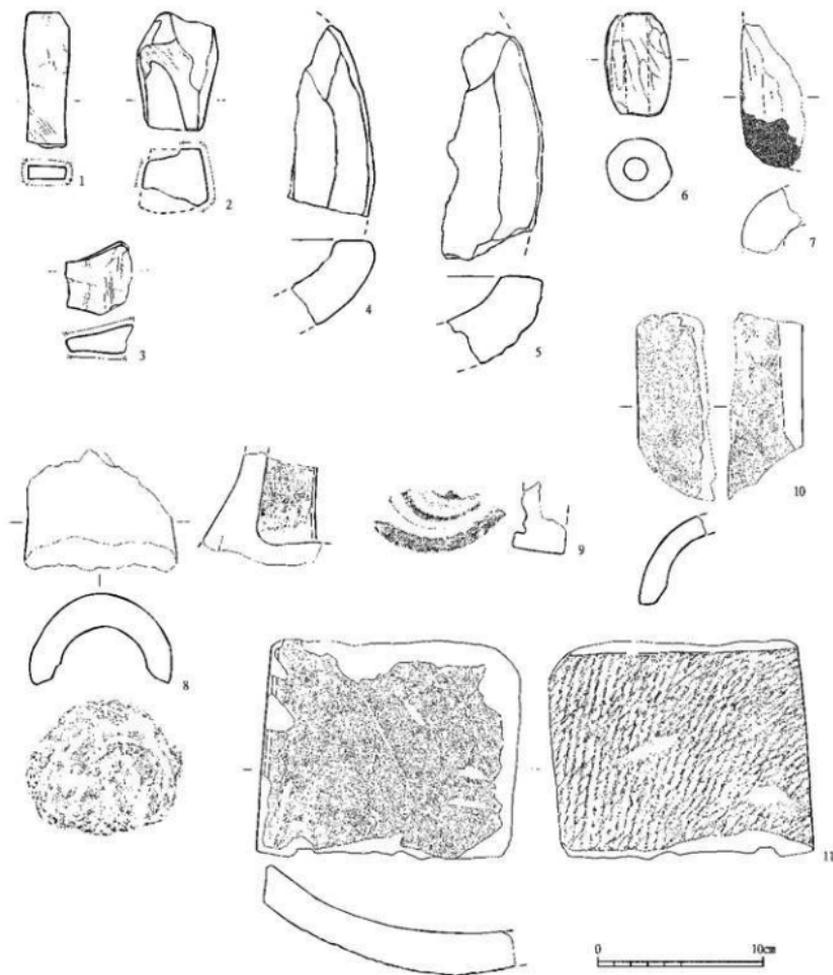
No.	登録No.	地区・遺構・層位	探別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図取
						口径	底径		
1	lc-71	9A-SD1001・最下層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-22
2	lc-61	9A-SD1001・3層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-23
3	lc-75	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-24
4	lc-59	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-25
5	lc-62	9B-SD1001・5層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-26
6	lc-69	9A-SD1001・最下層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整、口縁端部～内面 灰白色の自然焼	95-27
7	lc-63	9B-SD1001・5層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-28
8	lc-78	9B-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-29
9	lc-534	9A-SD1001	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-30
10	lc-60	9B-SD1001・1層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-31
11	lc-72	9A-SD1001・最下層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-32
12	lc-70	9A-SD1001・最下層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-33
13	lc-73	9A-SD1001・最下層	陶器(在産・白石)	片口鉢	口縁部小片			口クロ(回転台)調整	95-34
14	lc-512	9B-SD1001・上層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			ヨリナリ	95-35
15	lc-74	9A-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	底部小片			口クロ(回転台)調整、内面磨漚	96-2
16	lc-77	9A-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	底部小片			口クロ(回転台)調整、内面磨漚	96-3
17	lc-64	9A-SD1001・4層	陶器(在産・白石)	片口鉢	底部1/6			ナリ	96-4
18	lc-121	9A-SD1001	陶器(在産)	片口鉢	1/12	(26.3)		灰種、中非層	96-6
19	lc-123	9A-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	1/2	(5.)	(2.8)	灰種、大塚3段～1段層	96-4
20	lc-120	9A-SD1001・7層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-5
21	lc-122	9A-SD1001・7層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-7
22	lc-116	9A-SD1001・6層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部1/8	(14.0)		灰種、中1層	96-8
23	lc-115	9B-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-9
24	lc-117	9A-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-10
25	lc-119	9C-SD1001・60層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-11
26	lc-22	9B-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-12
27	lc-24	9B-SD1001	陶器(在産)	片口鉢	底部小片			灰種、中1層	96-14
28	lc-20	9B-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-13
29	lc-21	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-15
30	lc-118	9A-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-16
31	lc-25	9B-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	底部1/6	(4.4)		灰種、中1層	96-17
32	lc-26	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	底部1/6	(4.4)		灰種、中1層	96-18
33	lc-27	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-19
34	lc-114	9A-SD1001・4層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部1/4	(3.4)		灰種、中1層	96-20
35	lc-29	9A-SD1001・7層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-21
36	lc-23	9B-SD1001・3層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-22
37	lc-28	9A-SD1001・7層	陶器(在産)	片口鉢	口縁部小片			灰種、中1層	96-23
38	lc-506	9B-SD1001・5層	陶器(在産)	片口鉢	口・底部1/4	(2.6)		灰種、中1層	96-24

第113図 SD1001出土遺物(3)



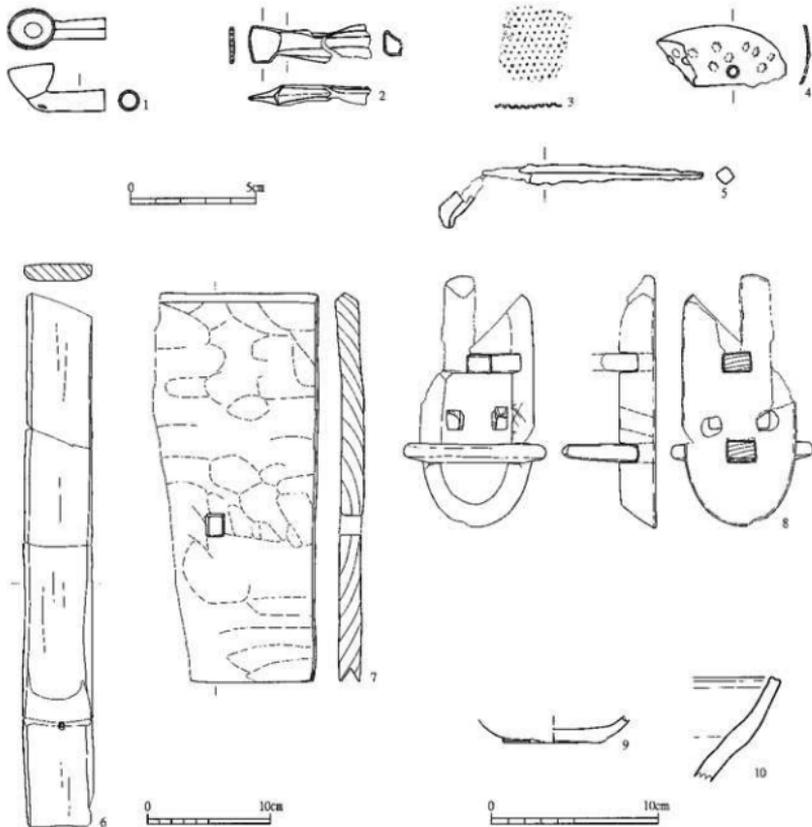
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写真図版
					口径	底径	器高		
1	Ia-9	9B-SD1001・5層	土師甕土器・小皿?	口縁部小片				ロクロ調整	96-25
2	Ia-14	9A-SD1001・7層	土師甕土器・小皿?	口縁部小片				ロクロ調整、白針微塵	96-26
3	Ia-13	9A-SD1001・7層	土師甕土器・小皿	底部小片				ロクロ調整、回転糸切	96-27
4	Ia-12	9A-SD1001・4層	土師甕土器・小皿	底部1/4		(5.0)		ロクロ調整、磨滅強い	96-28
5	Ia-11	9A-SD1001・4層	土師甕土器・小皿	底部1/5		(6.2)		ロクロ調整、回転糸切、滑り子、白針微塵	96-29
6	Ia-10	9B-SD1001・5層	土師甕土器・小皿	底部1/2		(6.8)		ロクロ調整、回転糸切、白針微塵	96-30
7	Ib-4	9B-SD1001・4層	瓦器・皿?	口縁部小片				内外面ヘラミガキ、白針微塵	96-31
8	Ib-5	9A-SD1001・7層	瓦器・皿	口縁部1/9	(13.6)			ロクロ調整、内外面ヘラミガキ	96-32
9	Ib-6	9A-SD1001・3層	瓦器・土器・細鉢	口縁部小片				子子、内面磨た、磨白微塵、白針多量	96-33
10	C-6	9A-SD1001・3層	土師甕・高杯	脚部2/5		(9.0)		磨た内面ヘラミガキ、底面磨た、白針微塵	96-34
11	D-6	9B-SD1001・7層	土師甕・杯	1/6	(13.0)	(8.6)	4.1	ロクロ調整、底面磨た、内面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ・磨白微塵、白針微塵、底径/口径比	96-35
12	D-3	9A-SD1001・3層	土師甕・壺	口縁部1/5	(23.0)			ロクロ調整、外面にタタキの痕跡、白針微塵	96-38
13	D-5	9B-SD1001・5層	土師甕・壺	体～底部3/5		(5.6)		ロクロ調整、回転糸切、体部下端手持ヘラケズリ、白針微塵	96-37
14	C-7	9B-SD1001・3層	土師甕・壺	1/4		3.2		外面ヘラケズリ→粗いヘラミガキ、内面ヘラミガキ、白針微塵	96-36
15	C-8	9B-SD1001・7層	土師甕・筒	1/6	(15.8)			外面ヘラケズリ→粗いヘラミガキ、内面ヘラミガキ・磨白微塵、白針微塵	96-39
16	C-1	9B-SD1001・3層	土師甕・壺	体～底部3/5		5.4		体部内面ヘラミガキ、底面磨た、内面ヘラミガキ、白針微塵	96-40
17	D-78	9A-SD1001	赤褐色土器・杯	1/4	(11.2)	(4.5)	2.7	ロクロ調整、回転糸切、内面にタタキ、底径/口径比	96-41
18	E-16	9A-SD1001・4層	赤褐色土器・高台杯	小片				ロクロ調整	96-42
19	E-15	9A-SD1001・4層	赤褐色土器(大戸) 瓶?	底部1/8		(6.4)		ロクロ調整	96-43
20	E-14	9A-SD1001・7層	赤褐色土器・高台杯?	1/7	(15.6)			ロクロ調整、高台欠損、白針微塵	96-44

第114図 SD1001出土遺物 (4)



No.	登録No.	地区・遺構・測位	種別(産地)	副種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版	
						長さ	幅	厚さ			
1	K-23	9A-SD1001・最上層	石製品	砥石	3/5	8.4+	2.7	1.0	40g+, デイサイト質凝灰岩	97-6	
2	K-14	9A-SD1001・3層	石製品	砥石	柄部のみ	7.0+	4.6	3.6+	150g+, デイサイト質凝灰岩	97-7	
3	K-24	9A-SD1001・4層	石製品	砥石	柄部のみ	4.1+	4.5	1.8	47g+, デイサイト質凝灰岩	97-8	
4	K-22	9A-SD1001・最下層	石製品	茶臼下口	部分	径 (25.8)		高さ2	230g+, 安山岩	97-9	
5	K-21	9A-SD1001・最下層	石製品	茶臼下口	部分	径 (34.0)		高さ5.6-	400g+, 安山岩	97-10	
6	P-5	9A-SD1001	土製品	土埴	厚縁完形	6.4		径4.0	98g	97-11	
7	P-4	9A-SD1001・3層	土製品	羽口	部分	8.9+		径 (5.5)	90g+	97-12	
8	F-1	9B-SD1001・5層	瓦	軒丸瓦	1/5	6.2+		8.6	2.0	瓦の裏面・筋の凸凹, 瓦の裏に粘土質の塗布層あり, 瓦の裏に 瓦当部 (10.2cm), 出文, 筋目ナシ	97-13
9	F-3	9B-SD1001・5層	瓦	軒丸瓦	瓦当部1/3	3.0+				瓦の裏に 瓦当部ナシ, 出文非目録, 筋・筋目あり, 出文, 筋目ナシ	97-14
10	F-2	9B-SD1001・3層	瓦	丸瓦	1/10	11.1+		6.5+	1.5	凸筋ナシ, 出文非目録, 筋・筋目あり, 出文, 筋目ナシ	97-15
11	G-1	9A-SD1001・7層	瓦	平瓦	1/5	13.5+		5.3+	2.5	凸筋あり, 出文非目録, スリケン, 筋目ヘックス?	97-16

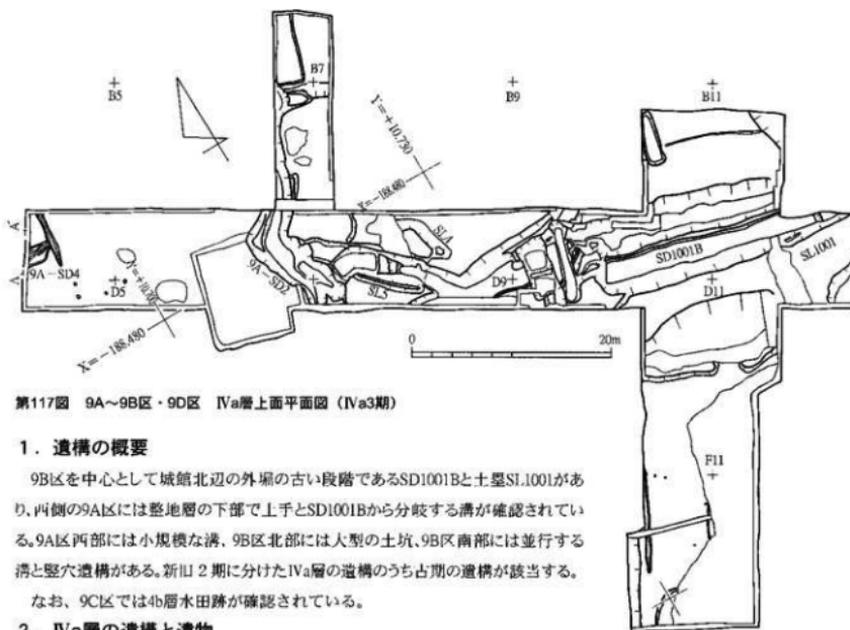
第115図 SD1001出土遺物 (5)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(所在地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	NS-40	9B-SD1001・埋藏面	銅製品・棒状首首	筒形	3.8	未定	小口径0.8	5g		97-1
2	NS-56	9A-SD1001・表下層	銅製品・用途不明	棒部のみ	4.3+	1.5	0.8+			97-2
3	NS-32	9A-SD1001・4層	銅製品・用途不明	部分	3.3+	2.7+	0.04			97-3
4	NS-35	9A-SD1001・表下層	銅製品・用途不明	部分	5.2+	2.4	0.08			97-4
5	Na-27	9A-SD1001A・表下層	鉄製品・釘	一部欠損	11.3	0.7	0.7	屈曲。(9g 1)		97-5
6	L-4	9A-SD1001・6層	木製品・板寄せ	下部2/3	63.9	5.4	1.4	釘穴(箇所残存)		97-18
7	L-3	9A-SD1001	木製品・根材	部分	32.0	13.4+	1.9	方形の穿孔1、片側側面を三角形に削り出し、反対側を三角形に切り欠き		97-17
8	L-29	9B-SD1001B	木製品・帯面下駄	2/3	20.8+	9.2	高7.5	帯面幅11.5、右側		97-19
9	1a-15	9A-SD1001B・1層	土師質土器・小皿	底部1/3		(5.8)		口タロ調整、凹縁糸切、内針位置		97-21
10	1c-25	9B-SD1001B・1層	陶器(花巻・白G)片口鉢	口縁～体部片				口タロ(凹縁糸切)調整		97-20

第116図 SD1001出土遺物 (6)

第3節 IV a層の遺構(2)と4b層水田跡—IVa3期



第117図 9A～9B区・9D区 IVa層上面平面図(IVa3期)

1. 遺構の概要

9B区を中心として城館北辺の外堀の古い段階であるSD1001Bと土塁SL1001があり、西側の9A区には整地層の下部で上干とSD1001Bから分岐する溝が確認されている。9A区西部には小規模な溝、9B区北部には大型の土坑、9B区南部には並行する溝と堅穴遺構がある。新旧2期に分けたIVa層の遺構のうち古期の遺構が該当する。

なお、9C区では4b層水田跡が確認されている。

2. IVa層の遺構と遺物

(1)溝跡 城館の外堀SD1001Bと、ここから北方に向う溝が4条ある。9B区南部では南北方向に走る溝3条を確認した。このうち9A-SD2と9B-SD13については先に述べた。

SD1001B(第121図) 城館北辺の外堀で、新旧2時期あるうちの古期段階のものである。

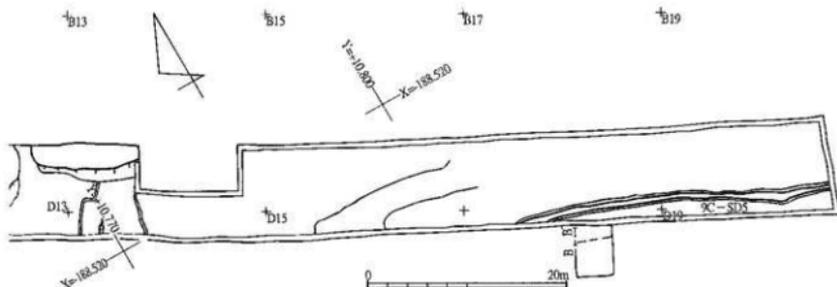
9B区では北側の肩をSD1001Aによって壊されているが、断面図(第119図、121図右)から復元すると、土塁を含めた幅は5m、北側の城外からの深さは約1.3mであるが、土塁の現存面からの深さは1.7mほどになる。底面は水平であるが比較的凹凸が激しい。土塁側の南壁は下半部が55°の角度で立ち上がり、上半部は約40°とやや緩やかになって上壁へ続いている。西端部は南からの張り出しによって寸断されるように止まっているが、9A区へどのように繋がっていたのかは不明である。

9A区は前述したように、上壁に近い南側にSD1001Bがあることは確認できているが、詳細な状況については不明である。

堆積上は自然堆積層で、最下層に上壁の崩落上らしいブロック土が認められたがその他は粘土と砂の互層であり、大部分は水成堆積層と考えられる。

確実にSD1001Bとして区別できたのは9B区だけであることと、SD1001Aによって大部分が壊されていることなどの理由により遺物は少ない。破片で約90点出土したが(表104)、図化できた遺物は3点のみである(第116図8～10)。

9A-SD7・8(第122図) SD1001と9A-SD2を連結する水路で、南北に土手(SIA・5)を作っている。9A-SD7が古く、9A-SD8は新たに掘りなおされたものである。SD7とSD8は大部分が重複しているため古いほうのSD7の形態は



第118図 9C区 IVa層上面～4b層水田跡平面図 (IVa3期)

不明瞭であるが、直線的に9A-SD2につながっていたと考えられる。

SD8は幅約190cmで深さ90cm、東部から中央部はSD7と同位置であるが西部で角度を変えて9A-SD2に接続している。堆積土下層は自然堆積層であるが、上層は人為的に埋め戻されている。東端部近くのSD1001に近い箇所に杭列、西端部の9A-SD2の壁際に杭や横木を組み合わせた土留めの施設が認められた。これらは埋め戻した土がSD1001や9A-SD2側に流入するのを防ぐためのものと考えられ、その意味ではこのSD8の虎絶後の施設である。遺物は土器片約20点が出土した他、土留めに使用した杭や木材が約20点ある(表103)。このうち10点が図化できた(第123図)。

9B-SD8～10 (第121・125図) 9B区南部で確認した南北に平行する溝である。SD8とSD10は片方の層しか検出できなかったため幅が不明である。深さはSD8が30cm以上あるがSD10は浅い。SD9は幅が狭くて浅い。なお、南に隣接する10C区ではSD8とSD9の延長部分が土手になっていることから、2本の溝の間の幅1～1.5mの部分にも土手が存在した可能性がある。遺物は合計で約10点出土した(表104)。

(2)土塁・土手 9B区中央から9C区西端部にかけては城館の上塁SL1001があり、9A区東部の整地層上面では9A-SD7と8に伴う土手が造られている。

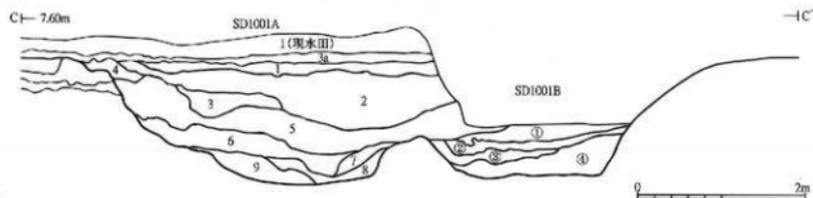
SL1001 (第121図) 遺構の詳細は先に述べた通りである。なお、上部は後世の削平などのためにかなり崩落していると推定される。第121図では上塁上に掘られた小規模な溝(9B-SD6・7・11)を除いて図化したが、ちょうどRライン付近にある土手状の高まりが土塁南端の残存部分に相当すると考えられる。

SL4・5 (第122図) 9A-SD7・8に伴う土手で整地層を盛り上げて造られており、高さは30～45cmある。南側のSL5は幅130cmの整然とした感じであるが、北側のSL4は幅が一定せず崩れた印象を受ける。

(3)土坑

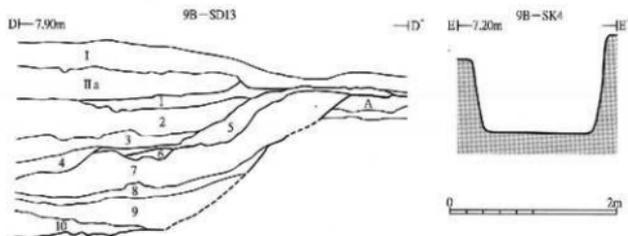
9B-SK4 (第120・121図) 9B区北西部に位置する長方形の土坑で、長軸方向はSD1001に直交し、南端はSD1001から約3m離れている。大きさは5.7×1.8m、深さ1.2mで、堆積土は掘りあげた土をそのまま戻したようなブロック土の混合である。遺物は出土しなかった。

(4)その他の遺構 9B区南部に竅穴状の性格不明な遺構(9B-SX1)がある。大部分が現代水田による攪乱のために



層位	色調	土質	混入物・その他	
SD1001A	1	2.5Y4/2 暗黄褐色 5Y3/2 オリーブ黒色	粘土 細砂	混合
	2	5Y2/2 オリーブ黒色 10YR5/4 にぶい黄褐色 5Y5/1 灰色	粘土 細砂	粗い互層 にぶい黄褐色粗砂を層状に散見。黒色粘土ブロック散見
	3	5Y3/1 オリーブ黒色 5Y4/1 灰色	粘土 細砂	互層
	4	2.5Y4/2 暗黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック散見
	5	5Y3/1 オリーブ黒色 5Y4/1 灰色	粘土 細砂	混合
	6	5Y3/1 オリーブ黒色 5Y4/2 灰オリーブ色	粘土 細砂	互層
	7	5Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト	
	8	5Y4/2 灰オリーブ色 5Y3/2 オリーブ黒色	砂質シルト 粗砂	互層
	9	5Y4/1 灰色 5Y4/2 灰オリーブ色	粘土 粗砂	混合
SD1001B	①	2.5Y3/3 黄褐色 2.5Y3/6 黄褐色 2.5Y4/3 オリーブ褐色	細砂 細砂 細砂	粗い互層
	②	2.5Y3/3 黄褐色 2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土 砂質シルト	粘土の混入
	③	5Y2/2 オリーブ黒色 5Y4/1 灰色	粘土 粗砂	混合
	④	5Y5/1 灰色 5Y2/2 オリーブ黒色 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 砂質シルト 粘土	70%程度 土質の軟弱土

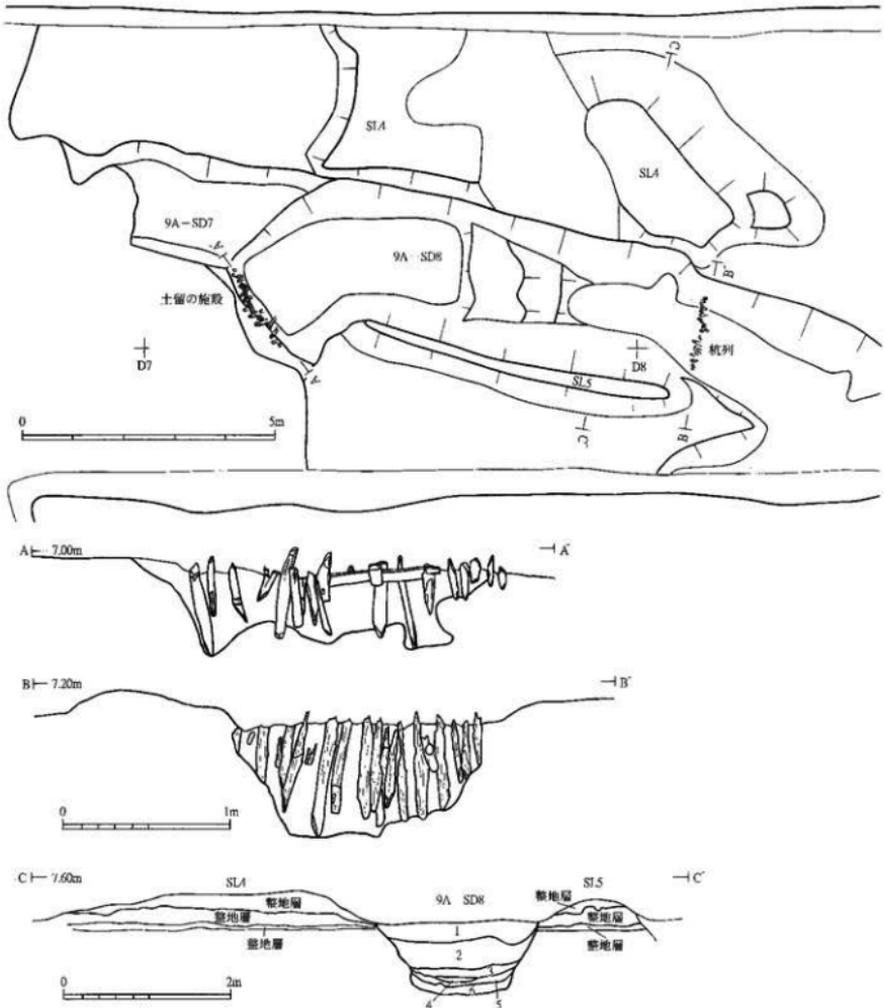
第119図 SD1001A・1001B 断面図



9B-SD13

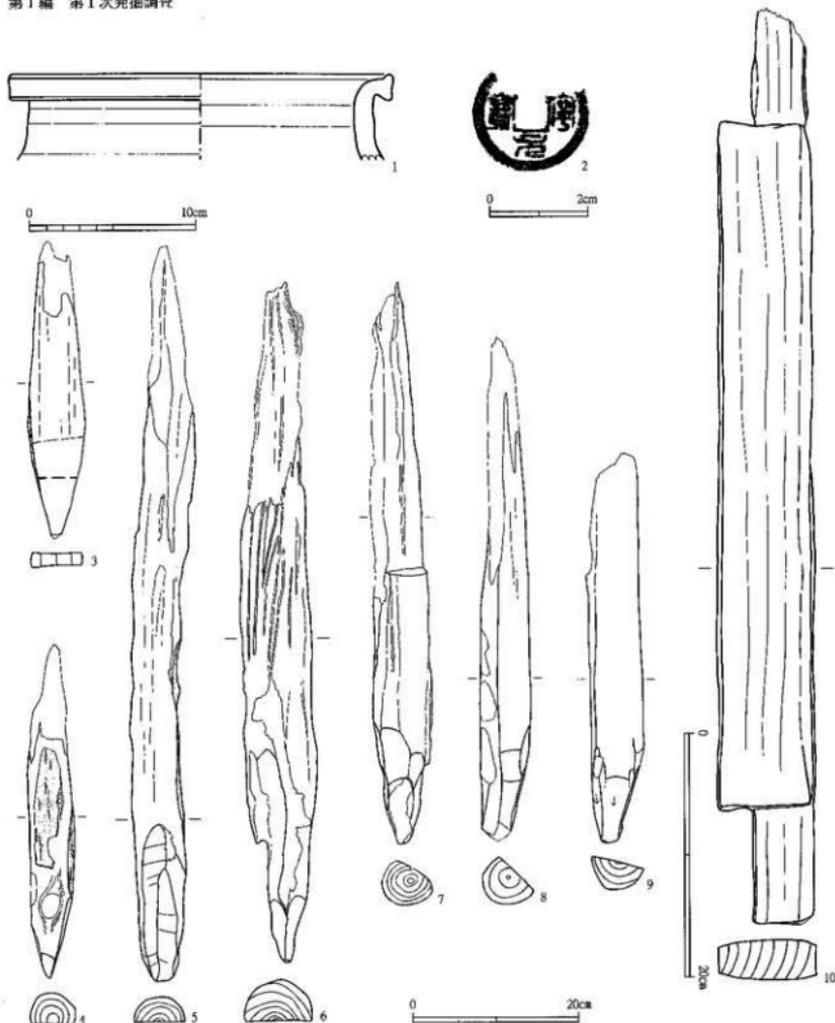
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土	管状酸化鉄少量
2	2.5Y4/2 暗黄褐色 5Y4/1 灰色 2.5Y3/2 黄褐色	細砂 粘土 粘土	混合 黒色粘土ブロック散見。管状酸化鉄少量
3	2.5Y3/3 黄褐色 2.5Y4/1 灰色	砂質シルト 細砂	互層
4	5Y3/1 オリーブ黒色 2.5Y4/1 灰色	砂質シルト 細砂	互層
5	10YR6/3 にぶい黄褐色 2.5Y3/3 黄褐色 10Y3/1 オリーブ黒色	粘土 粘土 粘土	70%程度
6	2.5Y4/1 灰色	粗砂	互層
7	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・オリーブ黒色粘土ブロック少量
8	5Y2/2 オリーブ黒色 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 粘土	互層
9	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック多量
10	2.5Y2/1 黒色	泥炭質粘土	
A	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト・粗砂を層状に散見

第120図 9B-SD13、9B-SK4 断面図



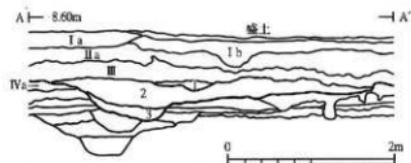
層位	色調	土質	侵入物・その他
1	10YR3/3 暗褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック少量
2	2.5Y3/1 黒褐色 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土・粘土 混合	
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒褐色砂質シルトブロック少量
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック少量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	B1#03層
5	5Y2/2 オリーブ黒色	凝灰	黒褐色粘土ブロック・黄褐色砂ブロック少量

第122図 9A-SD7・8、SL4・5 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
					口径	底径	器高		
1	1c-16	9A-SD7	陶器(常滑) 甕	上部1枚	(23.0)			ヨコナズ、口縁部内外面に灰緑色の自然釉、6a型式	93-8
2	Nb-33	9A-SD7	銅製品・鏡背	3枚	径2.4			1.6g±、○痕? 鍍	93-9
3	T-6	9A-SD7	木製品・柄?	下部	36.4+	6.2	1.8	板材	93-10
4	L-5	9A-SD7	木製品・柄?	下部	41.0+	5.4	3.9	分別材	93-11
5	L-23	9A-SD7	木製品・柄	下部	88.0+	6.2	3.1	分別材	93-12
6	L-22	9A-SD7	木製品・柄	下部	81.2+	8.2	4.8	分別材	93-13
7	L-24	9A-SD7	木製品・柄	下部	98.4+	7.0		丸木、上部面取り	93-14
8	L-7	9A-SD7	木製品・柄?	下部	51.8+	6.0	4.8	分別材	93-15
9	L-9	9A-SD8	木製品・柄?	下部	47.6+	6.2	3.4	分別材	93-7
10	T-25	9A-SD8	木製品・板材	端部欠損	75.5+	8.0	3.3	両端にホノ状の削り出し	93-5
11	L-8	9A-SD8	木製品・柄	下部	51.9+	6.0	3.8	分別材、写真のみ	93-6

第123図 9A-SD7・8出土遺物



層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/4 褐色	シルト	にぶい黄褐色細砂を量状に混入、木炭粒少量
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	砂粒少量、木炭粒微量
3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	

第124図 9A-SD4 断面図(平面図は第117図)

失われており、平面形は不明である。堆積土は単層で壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

3. 4b層水田跡と出土遺物

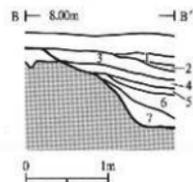
(1)水田の概要 8区の4b層水田跡の項で述べたように、城館IVa3期の外堀SD1001は4b層水田跡の終末期に造られたと推定され、城館IVa3期の4b層水田跡の終末期～4a層水田跡と対応する。9C区では4a層水田跡は確認できなかったが、4b層水田跡は確認されている。しかし遺構の遺存状況が悪く、東部で畦畔1条と溝1条を確認したほかは西部で段差を数箇所確認したのみである。

(2)遺構の状況

畦畔は東西方向のものを1条確認したのみであるが、これは9C区南壁跡を東西方向に走るSD5の北側の土手である。耕作土を盛り上げて造られていて、長さ32mにわたって検出した。SD5は壁際に位置するためほとんど調査できなかったが、南側の一部を拡張して断面観察を行った。幅は推定2m、深さ90cm、堆積土は自然堆積で水路と考えられる。遺物は土器片3点とウマの骨などで、図化できたものはない。

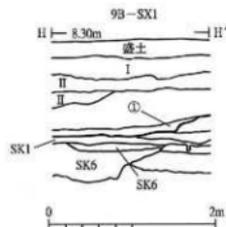
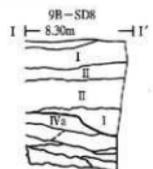
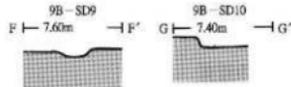
(3)出土遺物

土師器・須恵器などを中心に約460点出土したが(表104～106)、図化できたのは数点である(第176～177図)。



層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄・マンガン質多量
2	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄少量
3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	砂粒多量、マンガン質・炭化物少量、機微混
4	10YR/2 灰褐色	粘土	砂粒・炭化物少量
5	10YR/2 灰褐色	粘土	植物遺体(根・茎)少量
6	10YR2/2 黒褐色	粘土	植物遺体(根・茎・葉)多量
7	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	砂粒・植物遺体(根・茎・葉)多量

第126図 9C-SD5 断面図(平面図は第118図)



層位	色調	土質	混入物・その他
I	10YR4/2 灰黄褐色	硬質シルト	腐植質・炭化物少量
II	10YR4/2 灰黄褐色	硬質シルト	炭化物微量

第125図 9B-SD8～10、SX1 断面図(平面図は第121図)

第4節 IV a層の遺構(3)―IVa2期

1. 遺構の概要

城館の外堀SD1001や上墨SL1001が造られる以前の遺構群である。9A区中央部で溝跡が2条確認されている。9B区～9C区西端部にかけては城館北辺の溝跡と土手が一体になっていて、2時期の変遷が確認された(第134・137図)。

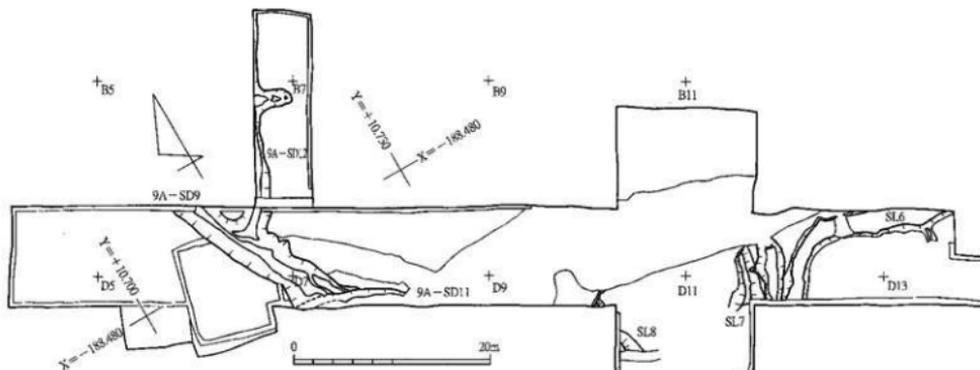
2. 遺構と遺物

(1)溝跡

9A-SD9(第128図) 北西から南東方向に延びる溝跡で、幅3.0～4.5m、深さ0.9mである。9D区の西壁沿いに北に延びる細い溝(9A-SD12)が合流している。堆積土は粘土と砂が互層になった自然堆積層で水成堆積と考えられ、調査区内の底面のレベルは北側が約30cm低いので南から北に向かって流れていたと推定される。

南部の東壁際に外から倒れこんだ状態(第129図)で板塔婆7点が出土している。板塔婆は頭部を五輪塔形に成形したもので、塔婆7枚とその外側に竹の杵1本が並べられ、裏面には横木2本が鉄釘で打ち付けられていた。遺存状態が悪く、塔婆は取り上げて図化できたが(第132図)竹と横木は図化できなかった。同種の遺物で保存状態が良好なものが10E-SD8から出土しているが、それによると本来竹杵は塔婆の両側にあったと考えられる。他には土器片約50点が出土したが(表103)、図化できたのは木製の編み具2点である。

9A-SD11(第128図) 調査区南壁付近で9A-SD9を切っているが、部分的に確認できただけであるので全容は不明である。堆積土は自然堆積層で、水成堆積と考えられる。遺物は破片で14点出土した(表103)。

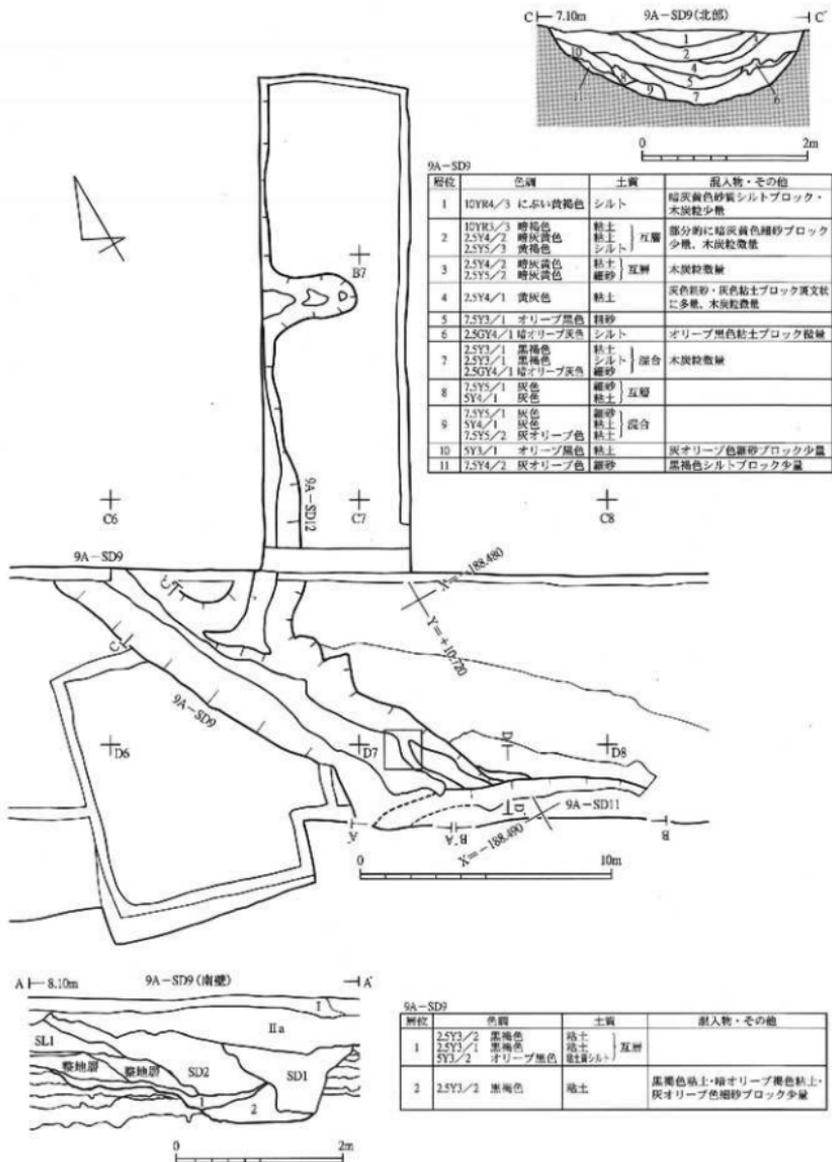


第127図 9A～9C区西部・9D区 IVa層上面平面図(IVa2期)

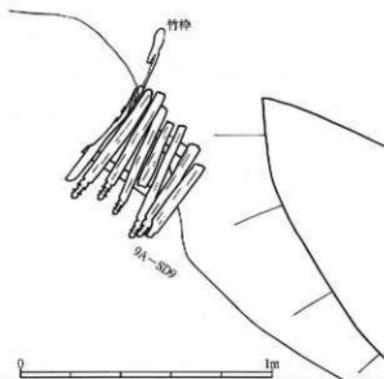
9B-SD12A・12B(第134・137・140図) 9B区を東西に横断する溝である。ほぼ同じ場所で再掘削されており、新しい溝跡をA、古い溝跡をBとした。9A-SD9やSD11・12との関連は不明である。

SD12Aは西側の幅は4mあるが東側では約2m、深さは1.0mである。堆積土は粗砂を中心とした自然堆積層で、水成堆積と考えられる。

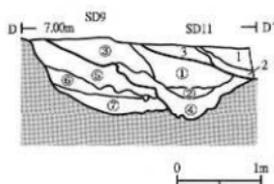
SD12Bは幅4.2～5.0mであるが、部分的に両側に広がる箇所も



第128図 9A-SD9平面・断面図、9A-SD11・12 平面図 (D7東側の□は第129図の範囲を示す)



第129図 9A-SD9 板樁壁出土状況



第130図 9A-SD9・11 断面図
(平面図は第128図)

ある。深さは1.8mで、堆積土は粘土を主体とした自然堆積層である。遺物はA・B合計で100点近い破片が出上したが(表104)、図化できたものは3点である(第141図)。

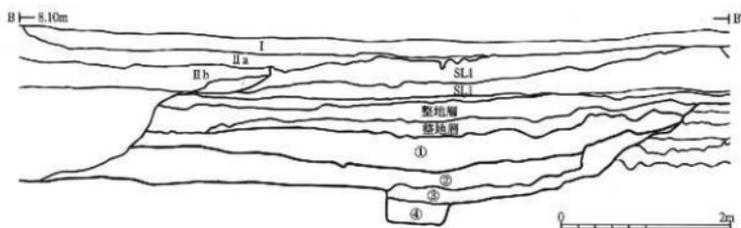
9C-SD6・7 (第134・135・137図) 9C区西端の南壁際に位置する。北側をSD1001に切られているため部分的に確認できただけである。同じ場所でも再掘削されており、新しい溝跡をSD6、古い溝跡をSD7とした。SD6は北側のSD1001近くで底面が浅くなる箇所があり、そこには杭列が造られていた。また、部分的に西側に張出して平坦面を造り出しており、そこには上留めの施設のような杭列が認められた。遺構の断面形は古いSD7が箱形で、新しいSD6が浅い「U」字形をしているため、SD7の上半分はSD6掘削の際に失われている。このためSD6の幅は1.7~2.7mほどであるがSD7の幅は不明である。深さはSD6が1.0m、SD7が1.5mである。

9A-SD11

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック多量
2	2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y4/1 黄灰色	粘土 シルト	互層
3	2.5Y4/1 黄灰色 2.5Y3/1 黒褐色	粘土 シルト	互層

9A-SD9

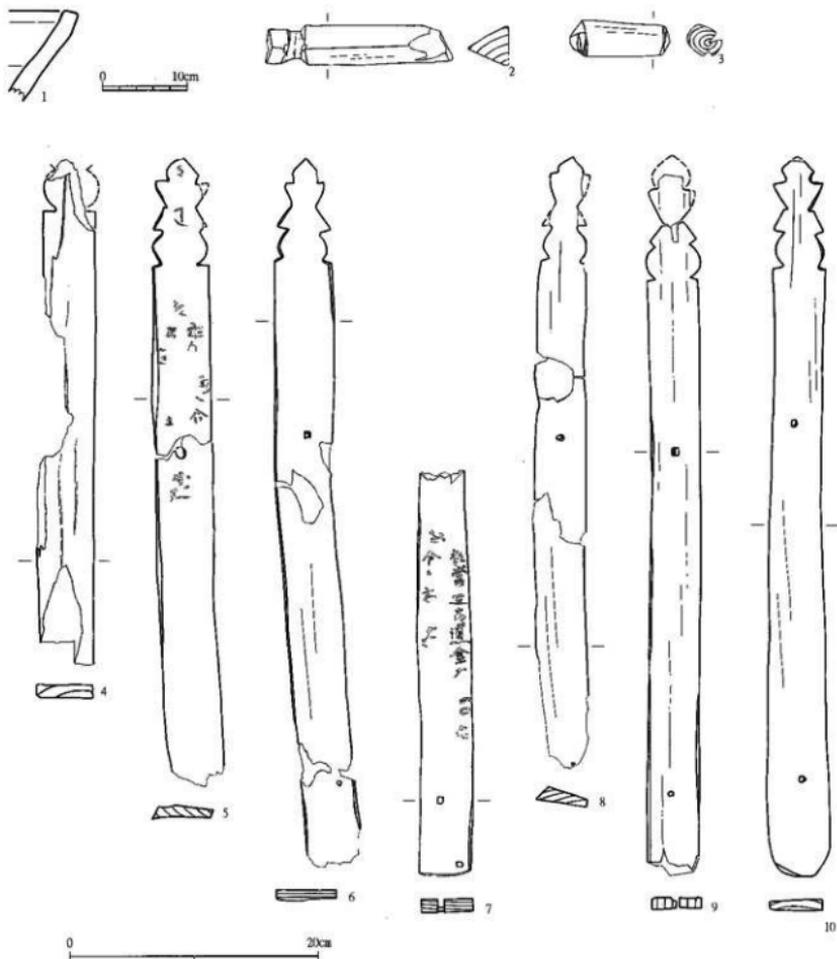
①	5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	黄色粘土ブロック多量、灰色粘土ブロック少量、木炭粒少量
②	5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	木炭粒少量
③	5Y3/2 灰青色 5Y4/1 灰青色	オリーブ黒色 粘土 シルト	互層 灰オリーブ色粘土ブロック・オリーブ黒色粘土ブロック少量
④	5Y3/1 灰青色 5Y4/1 灰青色	オリーブ黒色 粘土 シルト	互層 オリーブ黒色粘土ブロック塊状に散在、木炭粒少量
⑤	5Y3/1 灰青色 5Y4/1 灰青色	オリーブ黒色 粘土 シルト	互層 木炭粒少量
⑥	7.5Y3/2 灰オリーブ黒色 7.5Y4/2 灰オリーブ黒色 7.5Y3/1 灰青色	オリーブ黒色 粘土 シルト 泥砂	互層
⑦	7.5Y3/2 灰青色 5Y4/1 灰青色	オリーブ黒色 粘土 泥砂	互層



9A-SD11

層位	色調	土質	埋入物・その他
①	2.5Y3/2 黒褐色 5Y3/2 灰オリーブ黒色 5Y4/2 灰オリーブ黒色	粘土 シルト質粘土 粗砂	互層 部分的に黒褐色粘土小ブロック・オリーブ灰色粘土小ブロック多量、植物遺体(小枝等)少量
②	7.5Y4/1 灰青色 2.5Y3/2 黒褐色 5Y3/1 灰青色	粗砂 粘土 泥砂	互層 黒褐色粘土ブロックを層状に積層
③	5Y3/2 灰オリーブ黒色	シルト質粘土	灰オリーブ色シルト・黒褐色粘土を層状に散在
④	2.5Y3/1 黒褐色 5Y3/2 灰オリーブ黒色	粘土 粘土	互層

第131図 9A-SD11 断面図 (平面図は第128図)



No	登録No	地層・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量(cm)			測望・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Lc-18	9A-SD9	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				口クロ(同転台)調整	98-6
2	L-10	9A-SD9	木製品・櫛	端部欠損	15.0+	3.2	3.3	断面三角形、端部直くに狭り	98-7
3	L-19	9A-SD9	木製品・櫛	端部欠損	8.0+	径2.8			98-8
4	L-17	9A-SD9	木製品・五輪形板指	中央部欠	41.2+	4.5	1.1	スギかヒノキ科	98-12
5	L-16	9A-SD9	木製品・五輪形板指	上部欠	51.4+	4.8	1.0	文字、釘孔1、モミ	98-9 196-2
6	L-11	9A-SD9	木製品・五輪形板指	基部欠損	57.9+	4.8	1.0	釘孔2、サクラ	98-15
7	L-18	9A-SD9	木製品・板指	上部欠	33.2	4.2	1.1	文字、釘孔2、モミ	98-11
8	L-12	9A-SD9	木製品・五輪形板指	上部欠	50.0+	4.2	1.5	釘孔1、クリ	98-14
9	L-14	9A-SD9	木製品・五輪形板指	基部・基部欠損	57.3+	4.2	0.8	釘孔2、クリ	98-10
10	L-15	9A-SD9	木製品・五輪形板指	ほぼ完形	57.7	4.0	0.9	釘孔2、クリ	98-13 196-1

第132図 9A-SD9出土遺物

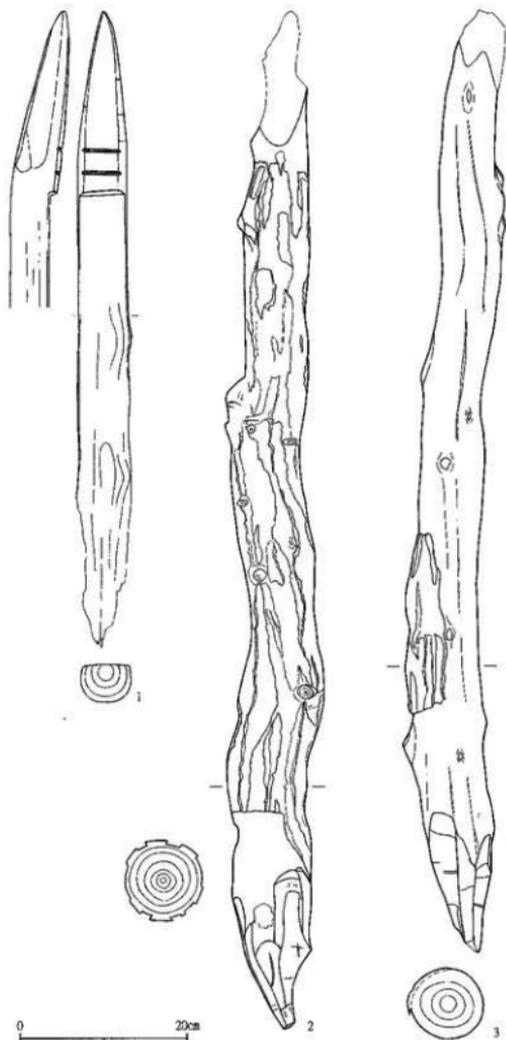
堆積土はSD7とSD6の下層は粘土を主体とした自然堆積層であるが、SD6の上層は上層SL1001構築の際に埋め戻されている。遺物は杭以外では土師器片などが18点出土した(表105)。北側の杭2点と西側の杭に転用されていた塔婆1点が図化できた(第133図)。塔婆は、丸木の側面に平坦面を削り出し、頭部は一段高く削り残して先端を尖らせ、平坦面に2本の平行沈線を入れて「板碑形」に造ったものである。

(2)土手 溝と同じく2時期ある。9C-SD7の両側にあるSL9とSL10が最初に造られ、9C-SD6の両側にあるSL6・7と9B区西端のSL8はその上に新しく造りなおされたものである。

SL6~8(第134図) SL6とSL7は9C-SD6の両側の土手で、高さは20~30cmである。それぞれ古い段階のSL9とSL10の上に盛上をして新しく造りなおしたものである。SL8は9B区西端部で部分的に確認したもので、全容は不明である。

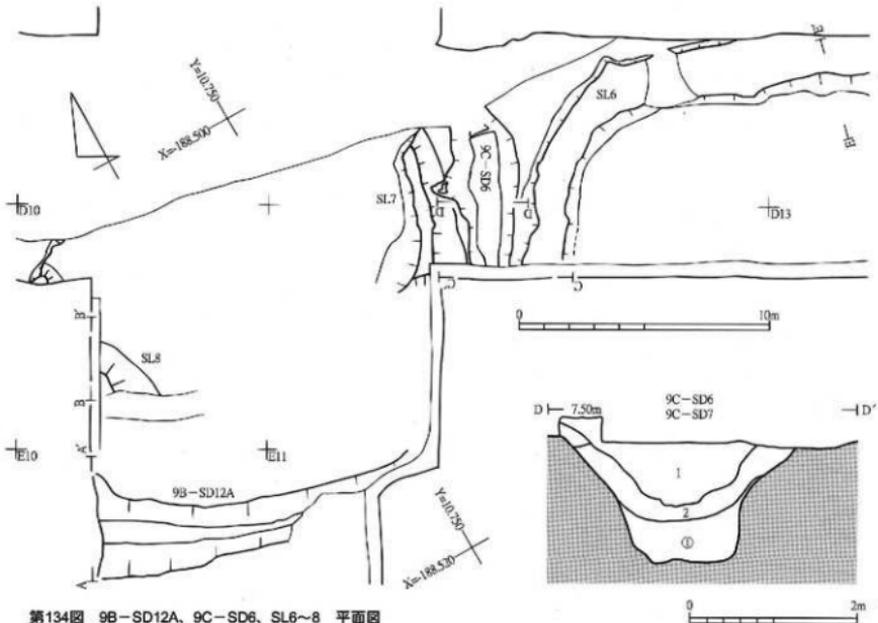
SL9・10(第137図) 9C-SD7に伴う古い段階の土手である。SL9は東に屈曲し、SL10は西に屈曲して9B-SD12Bの北側の上手も兼ねている。SL9は幅1.5~2.5m、高さは20~30cm、SL10の幅はやや狭く50~80cm程度で、高さは20~30cmである。なお、9B-SD25はSL10構築の際に脇の土をかき上げた痕跡と考えられる。

SL6~9からは土師器片を中心として60点の遺物が出土したが(表104・105)、図化できたものはない。



No.	発掘No.	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-27	9C-SD6-7,西側土留め	木製品・板碑形塔婆	上部3/5	77.5+	6.0	4.6	丸木,頭部杭状・2本線刻み,以下面取り,クリ	99-1
2	L-26	9C-SD6-7,北側横列	木製品・杭	頭部欠損	723.5+	径9.4		丸木	99-2
3	L-28	9C-SD6-7,北側横列	木製品・杭	頭部欠損	1115.0+	径9.1		丸木	99-3

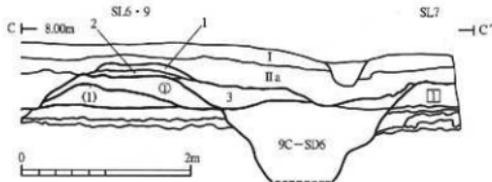
第133図 9C-SD6・7出土遺物



第134図 9B-SD12A、9C-SD6、SL6~8 平面図

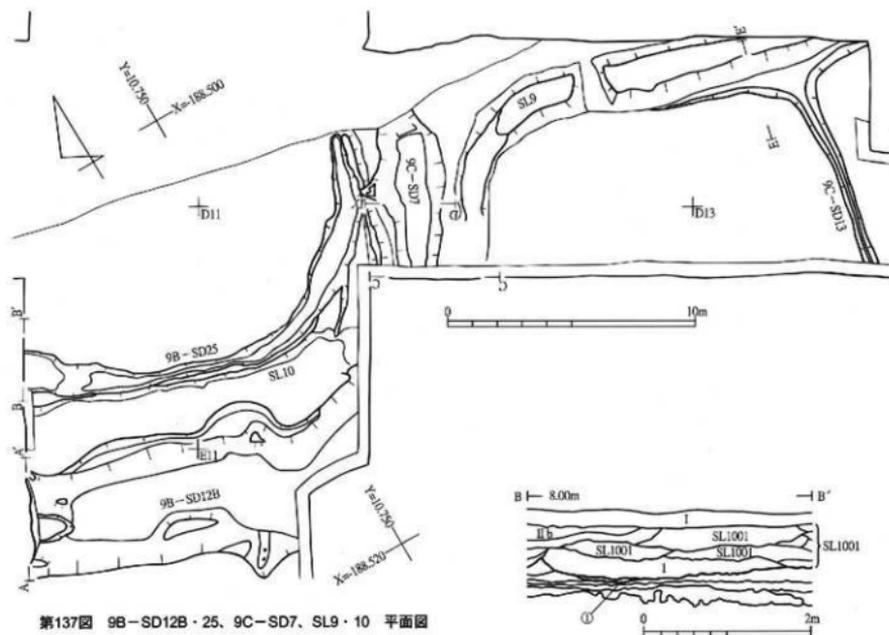
層位	色調	土質	混入物・その他
9C-SD6	1 10Y3/1	オリーブ黒色 粘土	オリーブ黒色シルトブロック・黒色粘土ブロック多量・炭化草少量・人糞の類多
	2 5Y2/2	オリーブ黒色 粘土	炭化物・植物遺体少量、磨砂を細状に微量
9C-SD7	① 10Y2/1	黒色 粘土	褐色粘土ブロック・黒色粘土ブロック少量、砂粒・植物遺体多量

第135図 9C-SD6・7 断面図

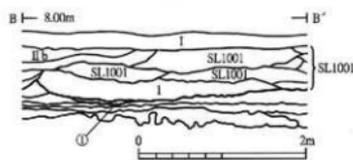


層位	色調	土質	混入物・その他
SL1001	1 10YR4/3	にぶい黄褐色 粘土質シルト	砂粒・木炭粒微量
	2 10YR3/3	暗褐色 粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト小ブロック、にぶい黄褐色シルト小ブロック・砂粒微量
	3 10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	砂粒微量
SL6	① 10YR4/3	にぶい黄褐色 シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト小ブロック微量、灰黄褐色シルトブロック・植文状炭化草少量
SL9	① 10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック微量、灰文状炭化草少量
SL7	① 10Y3/2	黒褐色 粘土	マンガング粒多量

第136図 SL1001・6・7・9・10 断面図

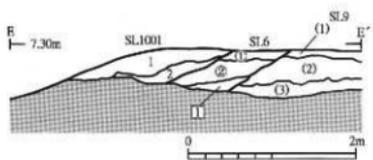


第137図 9B-SD12B・25、9C-SD7、SL9・10 平面図



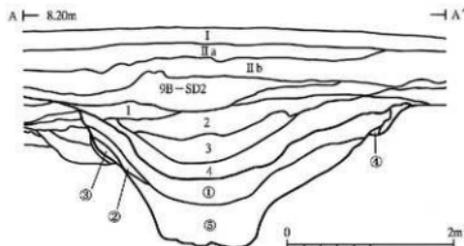
層位	色調	土質	混入物・その他
SL8	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・マンガン質・酸化鉄少量
9B-SD25	① 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・マンガン鉄多量

第138図 9B-SD25、SL8 断面図



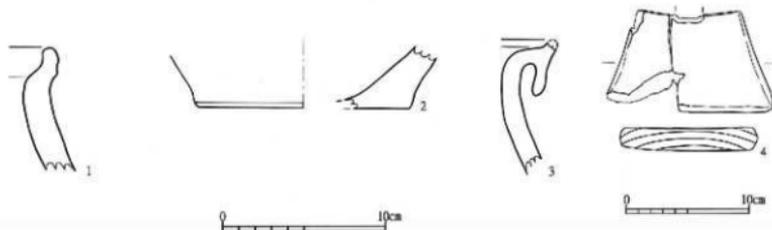
層位	色調	土質	混入物・その他
SL1001	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック・にぶい黄褐色砂質シルトブロック・にぶい黄褐色シルトブロック多量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・黄褐色砂質シルトブロック少量
SL6	① 10YR5/6 黄褐色	シルト	
	② 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土小ブロック・マンガン粒・酸化鉄少量
SL9	① 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	② 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土を混入に少量
	③ 10YR3/3 暗褐色	粘土	マンガン鉄多量
9C-SD13	④ 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、マンガン鉄多量

第139図 SL1001・6・9、9C-SD13 断面図



層位	色調	土質	炭化物・その他
9B-SD12A			
1	10YR4/3 灰褐色色	粘土	砂粒多量、炭化物少量
2	2.5Y4/6 オリーブ褐色	重砂	炭化物少量、下部に土層崩落土を層状に少量
3	2.5Y4/4 オリーブ褐色	重砂	炭化物微量
4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	重砂	下部に粘土を層状に少量
9B-SD12B			
①	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・炭化物少量、上に砂粒を混じり混雑、炭化物②少量
②	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	砂粒多量、炭化物少量
③	10YR2/3 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・炭化物微量
④	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	炭化物微量
⑤	5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	植物遺体(枝・草)少量

第140図
9B-SD12A・12B 断面図
(平面図は第134・137図)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-97	9B-SD25	陶器(在地)	甕	口縁～体部片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ	99-4
2	Ic-92	9B-SD12A	陶器(在墓・白石)片口井	底部15		(13.2)			口縁ヨコナデ調整、体部内面下平～底面磨滅し、磨れる	98-17
3	Ic-93	9B-SD12B	陶器(常用)	甕	口縁～体部片				ヨコナデ、内外面抜熱で割断、7版式	98-16
4	L-21	9B-SD12B・⑤層	木製品	差面下駄	差面のみ	幅13.3+	高さ8.2+	厚1.9		98-18

第141図 9B-SD12A・12B・25出土遺物



9C-SD7 杭列

第5節 IVa層の遺構(4)―IVa1期

1. 遺構の概要

IVa層に伴う最も古い遺構群で、9B区南部で屋敷内部を区画する東西・南北に直交する2時期の溝が確認された。

2. 遺構と遺物

(1)溝跡

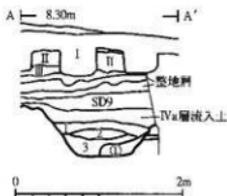
9B-SD14A・B (第143図) 東西方向に直線的に延びる溝で、方向はN-66°-Wである。ほぼ同じ場所で掘りなおされているので新しいほうをA、古いほうをBとした。それぞれ9B-SD15Aと9B-SD15Bに対応する。

9B-SD14Aは幅40~80cm、深さ60cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物はSD14B共に土師器・須恵器を中心とする破片で(表104)、図化できたものはない。

9B-SD14Bは幅90~140cm、深さ60cmで、底面の数箇所が土坑状に窪む。堆積土は自然堆積層を主とするが、部分的に人為的な埋土が認められる。

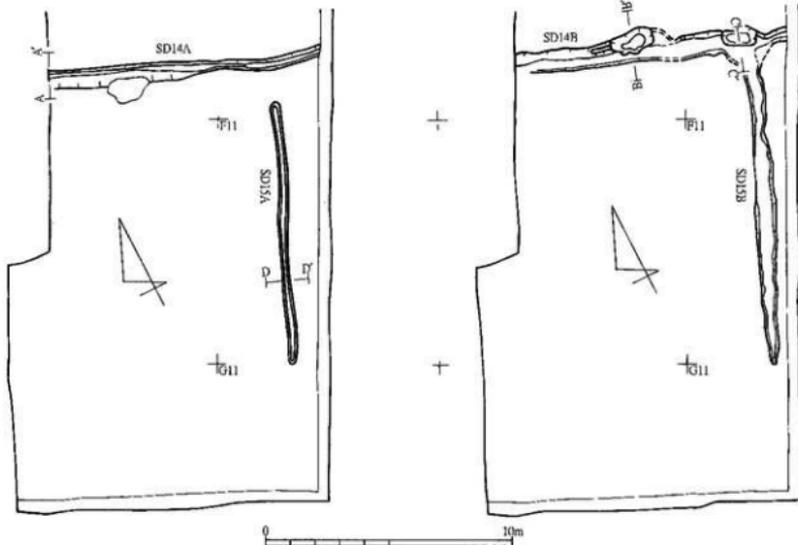
9B-SD15A・B (第143図) 南北方向に直線的

に延びる溝で、9B-SD14A・Bと「T」字状に接する。方向はN-26°-Eである。ほぼ同じ場所で掘りなおされているので新しいほうをA、古いほうをBとした。それぞれ9B-SD14Aと9B-SD14Bに対応する。

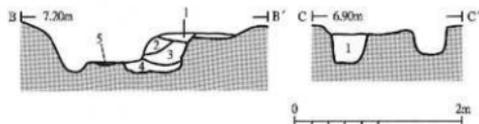


9B-SD14A			
層位	色相	土質	混入物・その他
1	2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化痕少量
2	5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	磁ナリブ鉄粘土ブロック少量
3	7.5Y2/1 緑黒色	粘土	
9B-SD14B			
①	5Y2/1 オリーブ黒色	粘土	焼緑褐色粘土ブロック少量、人為的な埋込土

第142図 9B-SD14A・14B 断面図



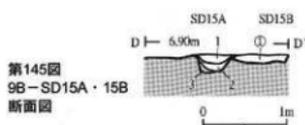
第143図 9B-SD14A・14B・15A・15B 平面図



9B-SD14B			
層位	色調	土質	器入物・その他
1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	磁化鉄少量
2	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	暗オリーブ色シルトブロック多量、炭化物・砂粒少量
3	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	暗オリーブ色シルトブロック多量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	炭化物少量
5	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	

9B-SD14A			
層位	色調	土質	器入物・その他
1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・オリーブ灰色粘土ブロック・磁化鉄少量

第144図 9B-SD14B 断面図



第145図
9B-SD15A・15B
断面図

9B-SD15A			
層位	色調	土質	器入物・その他
1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	上部に砂粒少量、炭化物・磁化鉄少量
2	10Y3/1 黒褐色	粘土	
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	磁粒多量

9B-SD15B			
層位	色調	土質	器入物・その他
①	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・オリーブ灰色粘土ブロック多量、下部に砂粒少量、人為的な埋土

第6節 IVb層の遺構(1)と5a層水田跡—IVb2期

1. 遺構の概要

9A区中央には南北方向の区画溝があり、その東側の9A区東部・9D区・9B区北部・9C区には5a層水田跡が広がっている。9B区南部のIVb層上面では溝跡・竪穴遺構・土坑などが検出された。

2. IVb層の遺構と遺物

(1)溝跡

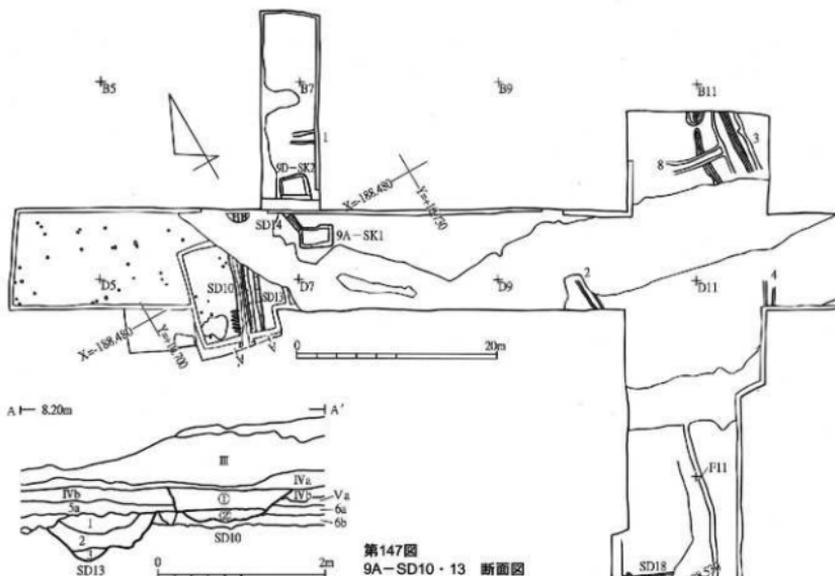
9A-SD10 (第146・147図) 9A区中央のIVb層上面で確認した。北部を9A-SD9に切られている。南北方向に直線的に延び、屋敷内の区画溝と考えられる。方向はN-20°-Eである。幅1.5m、深さ40cmで堆積土は自然堆積層である。遺物は数点であるが(表103)、常滑産の甕と在地産の片口鉢が図化できた(第151図2・4)。

9A-SD13 (第146・147図) 9A区中央の5a層水田耕作土下面で確認した。一部を9A-SD9に切られている。南北方向に直線的に延び、方向はN-20°-Eである。幅1.5m、深さ60cmで堆積土下層は自然堆積層であるが、上部は人為的に埋め戻されている。5a層水田耕作土がSD13の上に被っているのでSD13は5a層水田跡には伴わないが、5a層水田耕作土がSD13の東側にのみ分布しSD13の西側には認められないことから、SD13は5a層水田の経営以前から存在した地割の溝で、溝が埋め戻された後も地割そのものは耕作域と非耕作域との境界として意識されたと考えられる。平面では確認できなかったがちょうどSD13の直上に5a層に類似した盛土が認められることから、直上に境界の大畦畔があった可能性もある(註1)。遺物は陶器片2点である(表103)。

9B-SD16・17・20 (第150図) 9B区南部で確認した南北方向の小規模な溝である。遺物は出土しなかった。

9B-SD18 (第146図) 9B区南部で確認した東西方向の溝で、SD17・20に切られている。遺物は土師器、土師質土器皿類などが出土している(表104)。

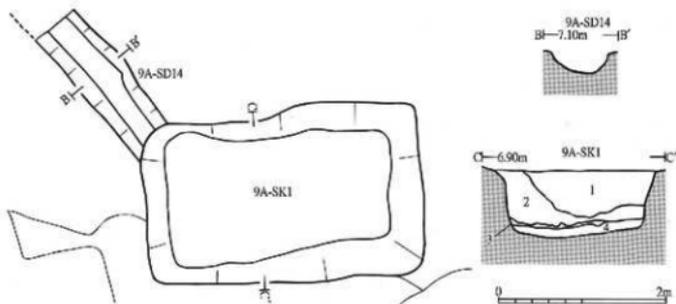
9B-SD19 (第150図) 9B区南部で確認した南北方向の溝で、SD16に切られている。堆積土は単層である。遺物は土師器・須恵器など15点が出土した(表104)。



第147図
9A-SD10・13 断面図

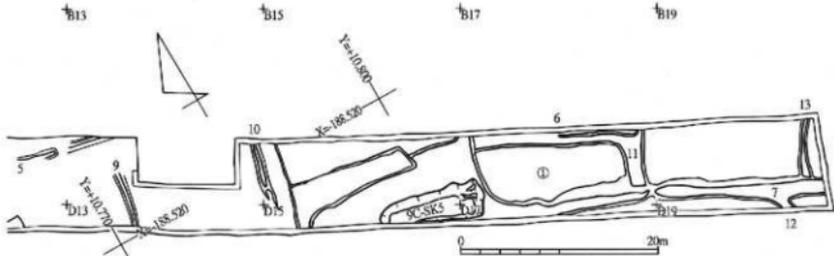
層位	色調	土質	埋入物・その他
9A-SD10	① 10YR3/3 暗褐色	粘土	木炭粒多量、マンガン粒少量、鉄土粒散見
	② 2.5Y4/1 黄褐色	粘土	木炭粒散見
9A-SD13	1 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリブ黒色粘土ブロック多量
	2 5Y3/1 オリブ黒色	粘土	部分的に灰色粘土ブロック散見
	3 5Y2/2 オリブ黒色	粘土	

第146図 9A~9B区・9D区
IVb層上面平面図
(IVb 2期)

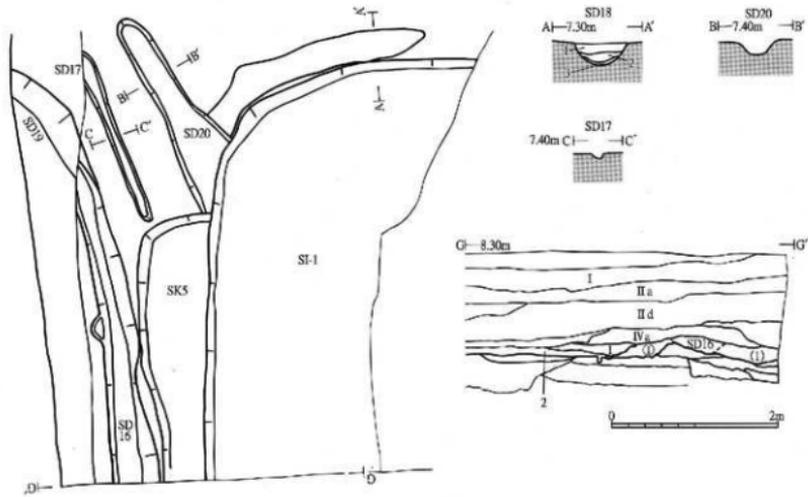


層位	色調	土質	埋入物・その他
9A-SK1	1 2.5Y2/1 黒色 2.5Y3/2 黒褐色 10Y3/1 オリブ黒色 5Y4/1 灰色	シルト質粘土 粘土 粘土 粘土 粘土	ブロックの遺存 部分的に黄褐色重砂ブロック散見、人為的な埋め土
	2 10Y5/1 灰色	粗砂	黒色シルト質粘土・黒褐色粘土・灰色粘土ブロック多量、人為的な埋め土
	3 5Y4/1 灰色 2.5Y3/1 灰色	粘土 粗砂	細かな瓦片
	4 10Y4/2 オリブ灰色	粗砂	灰オリブ色粘土ブロック多量、黒褐色シルト質粘土ブロック少量、面砂上?

第148図 9A-SK1, SD14 平面・断面図



第149図 9C区 5a層水田跡平面図



第150図 9B-S11, SD16~20, SK5 平面・断面図

層位	色澤	土質	投入物・その他
9B-S11 1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・マンガン痕少量
9B-S11 2	10YR3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄・マンガン痕少量

(2) 竪穴遺構

9B-S11 (第150図) 南壁際で部分的に確認したので大きさは不明であるが、南北5m以上ある。壁は緩やかで、深さは10~15cmである。SK5を切っている。遺物は土師器・須恵器などが出土した(表104)。

9B-SK5 ①	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄・マンガン痕少量
----------	-------------	--------	-----------------

9B-SD19 ①	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄・マンガン痕少量
-----------	-------------	--------	-----------------

9B-SD18 1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物少量
9B-SD18 2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量、木炭、焼土ブロック少量
9B-SD18 3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄少量

(3) 土坑

9B-SK5 (第150図) 南壁際で確認したが大部分をSIIによって切られているため全容は不明である。南北3.6m以上で深さは約20cmである。遺物は土師器片が3点出土している(表104)。

3. 5a層水田跡と出土遺物

(1)水田の概要

水田域は9A-SD10やSD13付近から東に広がっている。南側の境界ははっきりしないが5a層自体は9B区の基準線Fラインから北で認められる。畦畔は9A-9B区ではIVb層か4c層の下部で確認したが、遺存状況は良くなく、断片的に確認できたのみであった。9C区では4b層水田耕作土の下部で畦畔を確認できたが、水田面は4b層水田の耕作によってかなり攪拌されている。

(2)遺構の状況

畦畔13条と段差、方形の土坑、溝を確認している。

畦畔はNo.1～13までのうち9B区北部の南北畦畔3は幅が約3mあって規模が大きい。この他では9C区東部の東西畦畔6・7と南北畦畔11・12の規模が大きく、幅1.5～2mある。その他の畦畔幅は0.8～1.0mである。

水田区画は①が15.0×3.5～5.5mで東西に細長い。その他は東西13～16mの区画が多いようであるが部分的な検出に留まっているものが多いため不明な点が多い。

溝は9A区中央で確認した9A-SD14の他、9B区北部の畦畔No.2・3下の5a層中でも並行する小規模な溝跡2条がある。9B区北部の溝は古い段階の畦畔に伴う可能性が高い。

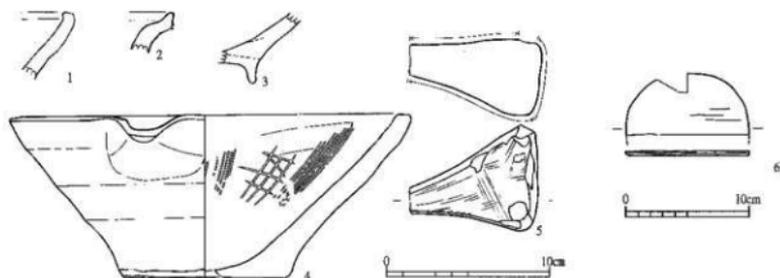
9A-SD14 (第148図) 5a層下面で確認した溝で、9A-SK1に接続する。幅60cm、深さ25cmで堆積土は5a層である。遺物は出土しなかった。

土坑は水出域の西端で9A-SK1と9D-SK2、9C区で9C-SK5を確認している。

9A-SK1 (第148図) 5a層下面で確認した。2.2×3.4mの長方形で、深さ80cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土下部に自然堆積層があるが、大部分が人為的に埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

9D-SK2 (第153図) 5a層下面で確認した。一辺3.0mほどの方形と推定され、深さ130cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土下部に自然堆積層があるが、大部分が人為的に埋め戻されている。遺物は砥石が1点出土した(第151図)。

9C-SK5 (第152図) 5a層上面で確認した。東西11.0m、南北3.5mの長方形で、深さ1.1mである。堆積土最下層と



No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Ic-9c	9B-SD38	陶器(常滑) 片口鉢	口縁部小片				ロク口調整、内面に麻オリブ色の自然釉、6a型式	100-3
2	Ic-20	9A-SD10	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、緑茶褐色の自然釉、4b型式	99-5
3	Ic-126	9C-SK5	陶器(東海) 鉢	底部1/5				ロク口調整、体部外面下層回転ヘラケズリ、内面磨成、山茶碗窯系	99-8
4	Ic-21	9A-SD10	陶器(在産) 片口鉢	2/3	24.6	10.1	10.1	片口、8本単位の脚口、体部内面の磨成が濃く底部に穴があく	99-6
5	K-19	9D-SK2	石製品・砥石	端部欠損	長8.1+	幅6.5	厚4.7	250g±、デイスait	99-9
6	Ic-20	9A-SK1・下層	木炭・炭物	底版1/2	1径(10.0)		厚0.4		99-7

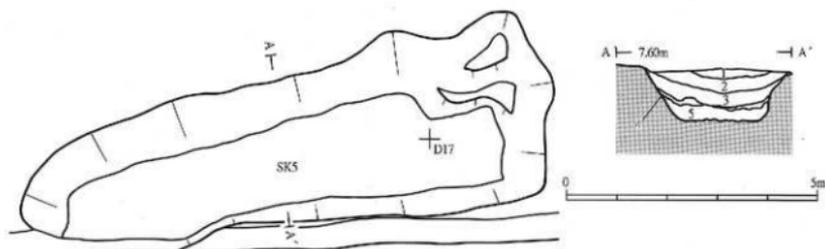
第151図 IVb層の遺構出土遺物

最上層の竊みは人為的に埋め戻されているが、その他大部分は自然堆積層である。遺物は土師器、中世陶器、中国産磁器など5点とウマの歯・骨などが出土し(表105)、1点が図化できた(第151図3)。

(3)出土遺物

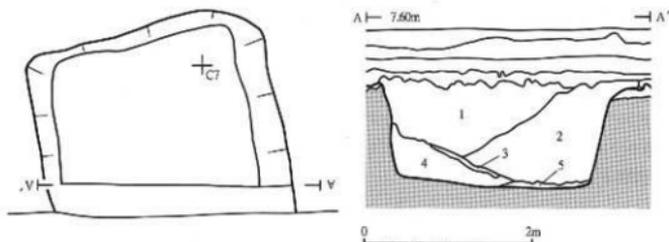
9A区の集計の際に他の層と合わせてしまったため総数は不明であるが、9B区～9D区では土師器・須恵器を中心に約760点出土した(表104～106)。図化できたのは中世陶器、中国産磁器(龍泉窯系青磁碗)、須恵器、石製品、鉄釘、銭貨など17点(第176～178図)である。

(註1) IVb層上面のほぼ同じ場所に9A-SD10があることから、ここに比較的長期間にわたって地割線が存在した可能性が高い。



層位	色調	土質	産人物・その他
1	10YR4/1 褐色	粘土	暗緑灰色粘土ブロック・黒色粘土ブロック・植物遺体少量、人為的な埋め土
2	7.5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	植物遺体(根・茎)多量
3	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物遺体少量
4	2.5Y3/1 緑オリーブ灰色	粘土	植物遺体少量
5	7.5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	緑オリーブ灰色粘土ブロック多量、黒色粘土ブロック・植物遺体少量、人為的な埋め土

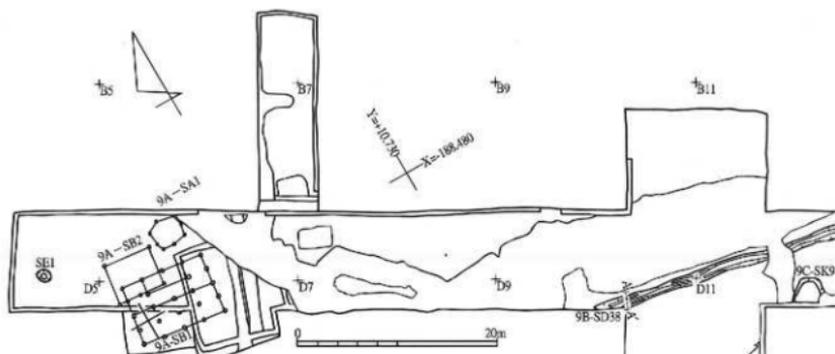
第152図 9C-SK5 平面・断面図



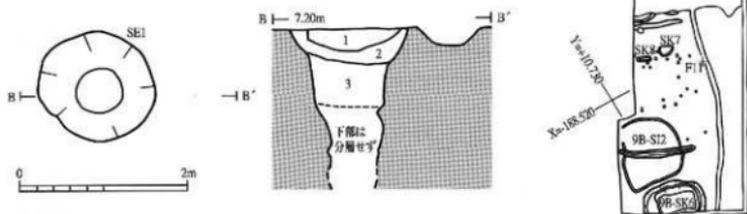
層位	色調	土質	産人物・その他
1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土ブロック	オリーブ灰色砂質シルトブロック多量、黒色粘土質シルトブロック少量、人為的な埋め土
2	2.5Y4/1 黄灰色	粘土 砂質シルト 砂質シルト 粗砂	人為的な埋め土
	10Y4/2 オリーブ灰色		
3	2.5Y4/1 黄灰色 2.5Y4/2 暗黄灰色	粗砂 粗砂	
4	2.5Y4/1 黄灰色 2.5Y4/2 暗黄灰色	粗砂 粗砂	黒褐色粘土ブロック多量
5	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	

第153図 9D-SK2 平面・断面図

第7節 IVb層の遺構(2)と5b層水田跡—IVb1期



第154図 9A～9B区・9D区 IVb層上面平面図 (IVb1期)



第155図

9A-SB1 平面・断面図

層位	色調	土質	混入物・その他
1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	木炭粉微量
2	2.5Y2/1 黒色	粘土	木炭粉微量
3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物遺体微粉

1. 遺構の概要

9B区中央から9C区西部にかけて東西方向の区画溝があり、その北側の9A区西部では区画溝と方向を合わせた掘立柱建物跡2棟や井戸跡1基が検出された。建物跡のうちの1棟は堂宇の可能性がある。なお、区画溝南側の9B区南部では竪穴遺構や土坑などが検出されている。9C区では5b層水田跡が広がっている。

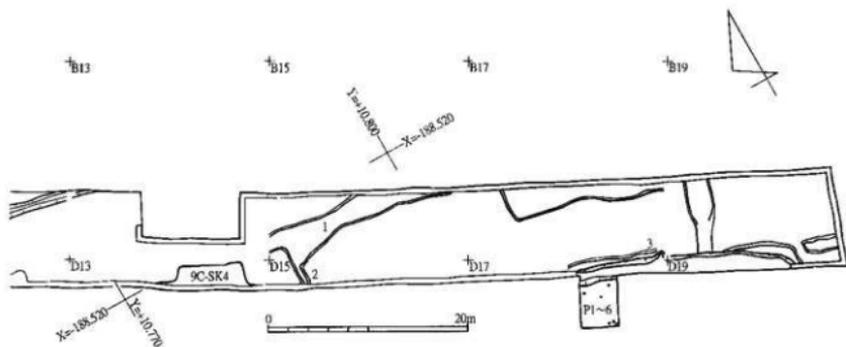
2. IVb層の遺構と遺物

(1) 溝跡

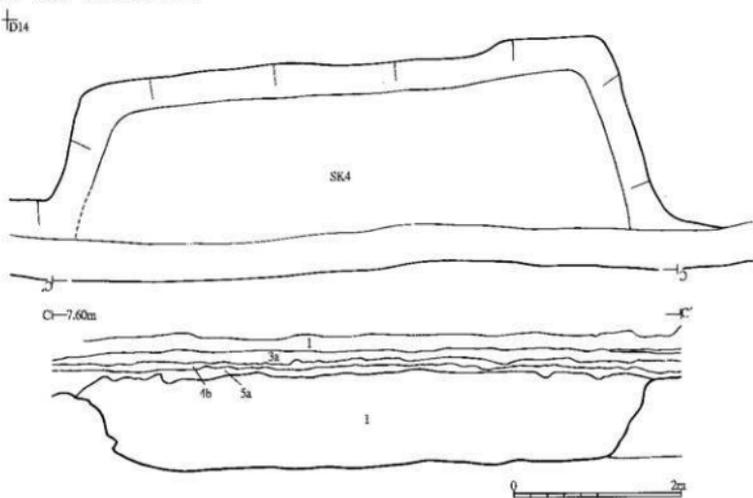
9B-SD38 (第154・160図) 確認面は6a層上面であるが、堆積土が5b層に類似するので5b層水田の経営期間中に掘られた溝と推定される。幅80～140cm、深さ55cmで、9B区中央から9C区西部にかけて約32mにわたって直線的に延びる。方向はN-79°-Wである。確認面や堆積土は水田耕作土に関連するが、方向が直線的であることと掘立柱建物と方向がそろうことなどから、居住域にかかわる区画溝である可能性が高い。遺物は土器器片が多いが(表104)、常滑産の鉢が1点図化できた(第151図1)。

(2) 掘立柱建物跡

9A-SB1 (第158図) 当初は6a層上面の確認だったが、建物の全容を確認するため調査区南側を拡張した際にIVb層上面から掘り込まれていることを確認した。桁行4間(総長8.6m)、梁行4間(総長6.2m)の東西棟で、柱間は東



第156図 9C区 5b層水田跡平面図

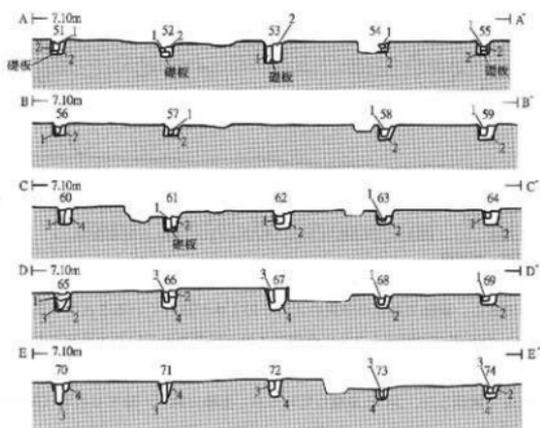
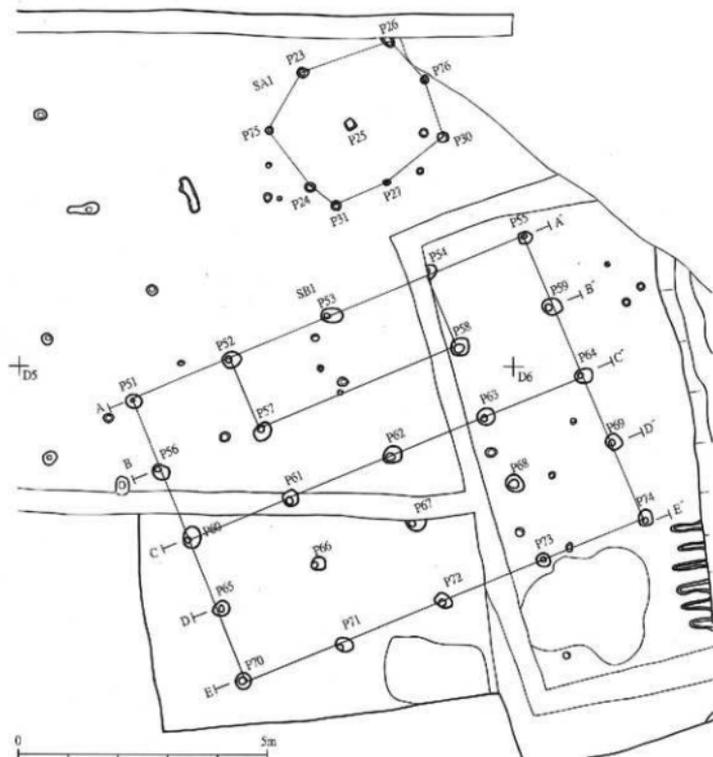


層位	色調	土質	器入物・その他
1	7.5Y2/1 オリーブ褐色	粘土	暗オリーブ灰色粘土ブロック・黒色粘土ブロック多量。人間的な埋め土。

第157図 9C-SK4 平面・断面図

西2.1～2.2m、南北1.5～1.6mである。総柱であるが中央の北寄りの1本が抜けていることから堂宇の可能性が考えられ、柱のない部分を中心とした北側が内陣で、さらに南側に外陣が配置されていると推定される。なお、柱痕跡の最上層から在地産の甕の破片が出土している（表103）。

9A-SB2（第154図）6a層上面で確認した。SB1と重複しているが、主軸方向が一致するので（真北から8°東傾）ご



第158圖
9A-SB1-SA1
平面・断面圖

SB:			
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR2/2 黒褐色	粘土	木炭粒多量、焼土粒微量
2	10YR8/4 褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量
3	5Y1/1 オリーブ黒色	粘土	灰色粘土ブロック・木炭粒少量
4	2.5Y5/1 黄オリーブ灰色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック少量、木炭粒微量

9A-SB1

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
51	6a	33	30	?
52	6a	38	28	15
53	6a	42	45	15
54	6a	34	21	15
55	6a	30	29	13
56	6a	38	32	15
57	6a	40	35	15
58	6a	40	33	18
59	6a	44	39	15
60	IVb	43	47	13
61	6a	35	45	15
62	6a	42	36	15
63	6a	35	29	13
64	6a	36	32	13
65	IVb	34	40	13
66	IVb	28	41	13
67	IVb	43	46	13
68	6a	35	29	17
69	6a	35	34	15
70	IVb	35	41	15
71	IVb	35	43	13
72	IVb	35	54	13
73	6a	30	53	11
74	6a	33	39	13
規模	東西2.6m	南北2.2m		
	掘り4箇	梁行4箇		
柱間	2.1~2.2m	1.5~1.6m		
掘幅	53.3m	幅さ	8°	片
備考	P51~53・55・61に礎板、堂宇?			

9A-SB2

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
22	6a	20	25	10
32	6a	25	22	13
25	6a	40	32	13
36	6a	22	28	?
39	6a	46	26	?
規模	東西4.8m	南北4.1m		
	2箇	1間?		
柱間	2.3m・2.5m			
掘幅	19.7m	幅さ	8°	片

9A-SA1

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
25	6a	21×18	24	?
23	6a	24	16	?
26	6a	20	20	?
28	6a	16	19	?
30	6a	25	26	?
27	6a	15	17	?
31	6a	22	15	?
34	6a	20	16	?
75	6a	16	14	?
規模	東西3.2m	南北2.8m		
備考	多角形の棚列、P25は中心に位置し、方庇			

く近接した時期の建物である可能性がある。東西2間（総長4.8m）、南北1間以上（総長4.1m）の小規模な建物で、柱間は2.3~2.5mである。

9A-SA1 (第158図) 9A-SB1の北側に位置する。方形のピットを中心として周りを八角形に囲む柱列である。規模は東西3.2m、南北2.9m、中心に位置する方形のピットの大きさは21×18cmである。掘り方と柱痕跡との区別ができなかったので明確ではないが、中心の方形のピットは塔婆のような角柱の痕跡の可能性がある。

(3)井戸跡

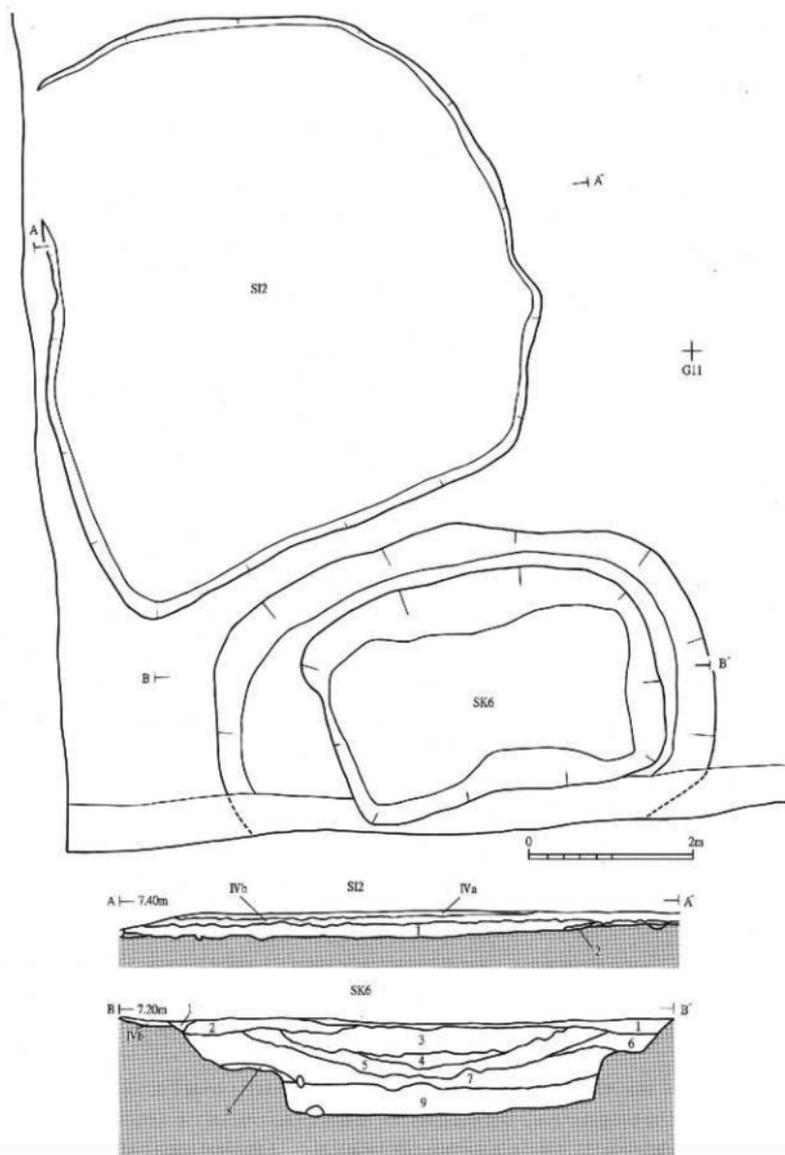
9A-SE1 (第155図) 6a層上面で確認したが、位置関係からするとSB1やSB2と同時期で、IVb層上面から掘りこまれていた可能性がある。上端では径130~145cmの楕円形であるが、下部では径60cmほどに狭くなる。堆積土は自然堆積層で、深さ1.7mまで掘り下げたが、崩落の危険があったため完掘はできなかった。遺物は須恵器片多数と中世陶器、木製品が出土したが（表103）、図化できたのは血物の底板1点である（第151図6）。

(4)竪穴遺構

9B-S12 (第159図) 9B1南側に位置する。確認面はIVb層下部であるのでこの時期よりも古く、Va層まで遡る可能性がある。6.3×6.7mの壺丁方形で、深さは15cm、壁は緩やかで、堆積土は単層である。遺物は土師器・須恵器を中心に70点以上出土したが（表104）、図化できたのは常滑産の鉢1点（第165図3）である。

(5)土坑

9B-SK6 (第159図) 9B区南端、9B-S12の南側に位置する。確認面はS12と同じくIVb層下部であるのでこの時期よりも古く、Va層まで遡る可能性がある。平面形は長軸6.3m、短軸推定4.5mの楕円形であるが、中央部が4.0×2.8mの長方形に窪む。底面は平坦で、下部の長方形の部分の壁は垂直に近く、上部の楕円形部分の壁は緩やかに立ち上る。深さは1.2m、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器・陶器など他にウマの骨が出土したが（表



第159図 9B-SI2, SK6 平面・断面図

層位	色調	土質	混入物・その他
9B-SI2	1 10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物少量
	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン混少量
9B-SK5	1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン混多量、炭化物・砂粒・雜少量
	2 2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土	黄褐色シルト粘多量、酸化鉄・炭化物少量
	3 2.5Y3/2 黒褐色	粘土	酸化鉄・炭化物・植物産体少量、木炭少量
	4 10YR3/2 黒褐色	粘土	植物産体多量、炭化物少量
	5 2.5Y3/2 黒褐色	粘土	植物産体多量、炭化物少量、黄褐色シルト質粘土を層状に微量
	6 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	酸化鉄・炭化物少量
	7 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	圓かな礫物産体片多量、炭化物少量
	8 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物産体・炭化物・砂粒少量
	9 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	植物産体少量

104)、図化できたのは常滑産の甕と在地産の鉢である(第165図1・2)。

9B-SK7・8(第160図) 9B区中央にある浅い土坑で、SK7は不整形であるがSK8は60×135cmの長方形である。SK7か

ら常滑産の甕の破片等が出土している(表104)。

9C-SK4(第157図) 9C区南壁際に位置し、東西7.5mの長方形と推定される。深さは1.0m、底面は平坦で壁は比較的急角度で立ち上がる。堆積土は掘った土をそのまま埋め戻したようなブロック土の混合である。土師器・須恵器等の土器片やウマの骨が出土した(表105)。

9C-SK9(第160図) 9C区西端部の南壁際にある不整形な土坑で、東西2.5~3.2m、南北2.4m以上ある。深さ1.1m、底面は平坦で壁は急角度で立ち上がる。堆積土は掘った土をそのまま埋め戻したようなブロック土の混合である。土師器片・中世陶器片やウマの骨が出土した(表105)。

3. 5b層水田跡と出土遺物

(1)水田の概要

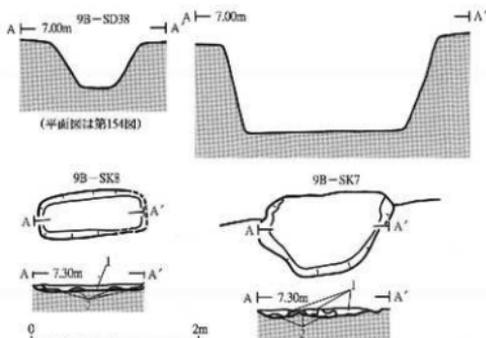
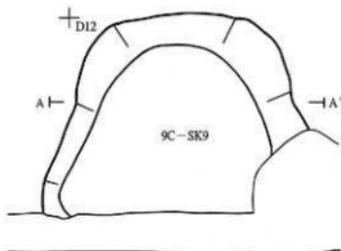
水田域は9C区を中心とするが、9A区や9B区における水田域と居住域との境界ははっきりしない。耕作土5b層の遺存状況はあまり良くなく、畦畔は一部で確認できたのみである。

(2)遺構の状況

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、東西方向のNo.1・3と南北方向のNo.2が確認できた。No.1は幅2.0~3.5m、高さ5~8cmで、No.2・3はやや幅が狭く0.5~1.7mで高さは3~10cmである。水田区画については明瞭な区画が認められなかったため詳細は不明である。

(3)出土遺物

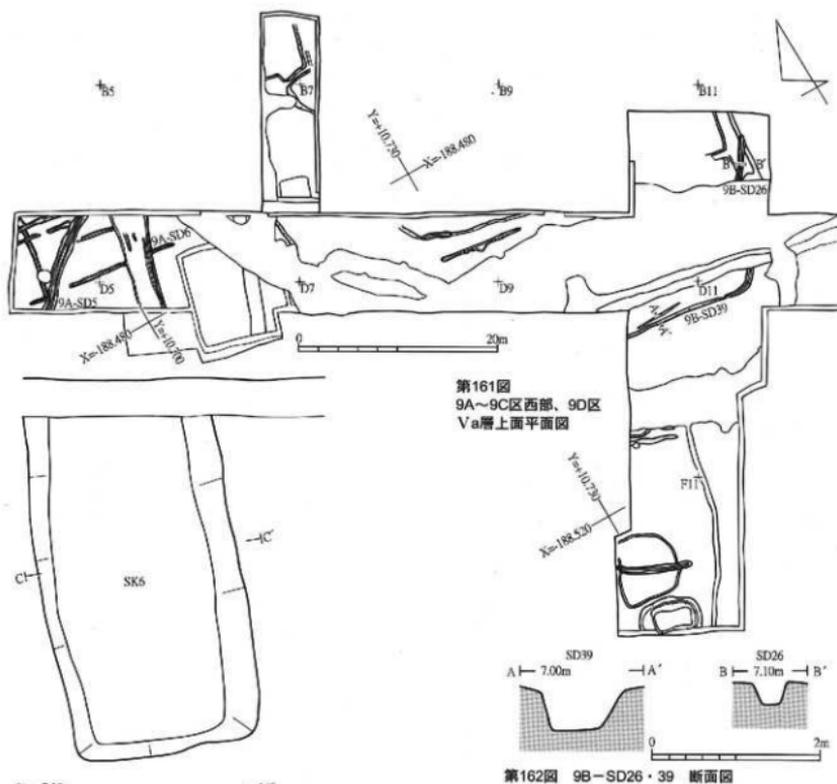
遺物は破片で123点あるが土師器・須恵器が多く、地区別では9B区が多い(表104・105)。図化できたのは瀬美産の壺1点(第176図16)である。



層位	色調	土質	混入物・その他
9B-SK7	1 10YR2/2 黒褐色	シルト	マンガン混少量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・マンガン混・酸化鉄少量
9B-SK8	1 7.5YR2/1 黒色	シルト	マンガン混少量
	2 10YR3/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック多量、砂粒・酸化鉄少量

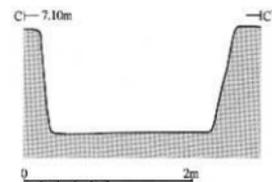
第160図 9B-SK7・8、9C-SK9 平面・断面図、9B-SK38断面図

第8節 Va層と6a層の遺構



第161図
9A～9C区西部、9D区
Va層上面平面図

第162図 9B-SD26・39 断面図



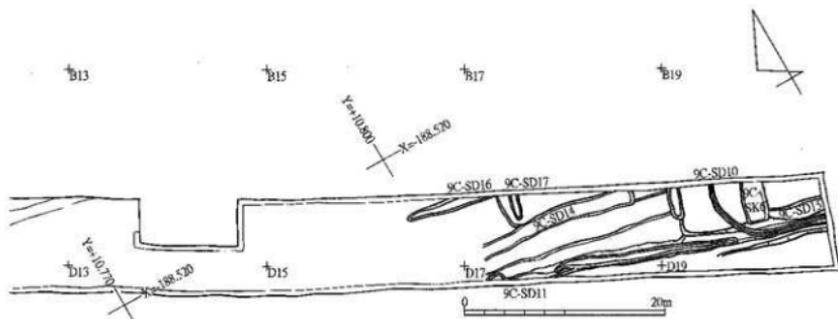
第163図 9C-SK6 平面・断面図

1. 遺構の概要

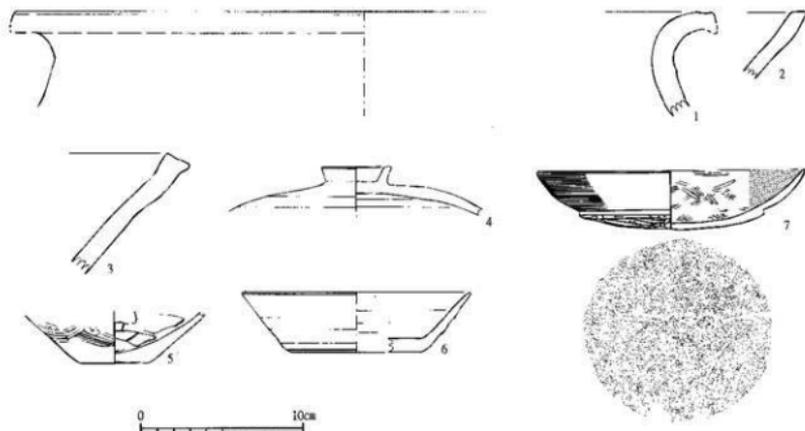
Va層と6a層はほぼ同時期に形成された層であるが、9A区から9B区北部にかけてはIVb層の下に6a層が確認され、この6a層上面で複数の溝が検出された。一方、9B区南部には6a層が分布せず、前項で述べた堅穴遺構や土坑がVa層上面で検出されている。9B区から9C区には6a層水田跡が広がっているが、6a層の畦畔等は確認できず、直上の5b層水田跡に係わる溝や土坑が検出されている。

2. Va層の遺構と遺物

9A区から9B区北部にかけて検出された溝のうち、幅が狭く、複数が並行・直交するものは畑の耕作上下面で認められる耕作痕であると考えられる。この場合の耕作土に相当するのは直上層であるIVb層である。比較的規模が大



第164図 9C区 6a層上面平面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法費 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ic-106	9B-SK6	陶器(常滑)甕	上部1/9				ヨコナデ、外面にオリーブ灰色の自然釉、5型式	100-7
2	Ic-96	9B-SK6	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ロクロ(回転台) 調整	100-8
3	Ic-95	9B-SI 2	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片				口縁部ロクロ調整、体部ナデ、7~8型式	100-2
4	E-5	9A-SD6	瀬戸器・蓋	1/3				ロクロ調整、白針微塵	100-1
5	C-10	9C-SD10	土師器・甕	1/4		4.4		外壁ヘラケズリヘラミガキ、内面ヘラナデ、白針微塵	100-9
6	B-13	9B-SD39	瀬戸器・杯	1/4	(34.2)	(8.0)	3.8	ロクロ調整、底部切磨法不明ナデ	100-4
7	C-9	9C-SD14	十師器・杯	3/5	(16.4)	11.4	3.7	有段・丸底、口縁部ヘラケズリヘラミガキ、内面ヘラナデ、白針微塵、底面ヘラケズリ・ヘラミガキ、×、内面ヘラミガキ・黒色肌理、白針少量	100-10

第165図 Va層の遺構出土遺物

きな溝は9A-SD5・SD6と9B-SD26・SD39であるが性格は不明である。遺物は土師器・須恵器が大部分で(表103・104)、須恵器2点が図化できた(第165図4・6)。

3. 6a層の遺構と遺物

6a層水田跡は耕作土6a層の遺存状況が悪く、畦畔は確認できなかった。

9C区東部の6a層上面では幅1.0~3.5m、深さ5~15cmの溝が多数確認された(9C-SD11・SD14-17)。堆積土が直上の5b層であるので5b層水田跡に伴うものと考えられる。また幅1m前後でSK6の脇で湾曲する9C-SD10も同様に5b層水田跡に伴う可能性が高い。これらの溝の遺物は土師器・須恵器とウマの歯で(表105)、土師器2点が図化できた(第165図5・7)。

北壁跡では9C-SK6を確認した。長軸4.2m以上、短軸2.4mの長方形で深さは1.3m、底面はほぼ平坦で壁は垂直に近く立ち上がる。堆積土は掘った土をそのまま埋め戻したようなブロック土の混合である。遺物は出土しなかった。

第9節 Vb層の遺構と6b層水田跡

1. 遺構の概要

Vb層と6b層はほぼ同時期に形成された層である。9A区から9C区にかけては6b層が確認され、このうち9A区から9C区西部にかけては細い溝が数条検出された。9C区では一部で畦畔が確認され、水田域であったことが判る。一方、9B区南部には6b層ではなくVb層が認められ、層上面で溝が3条検出されている。

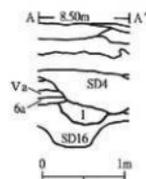
2. 遺構と遺物

9A区西端で9A-SD15、9D区で9D-SD2、9C区西端で9C-SD18を確認したが、すべて東西方向の細い溝である。

9A区から9C区西端にかけては直上に6a層があるが、この6a層(この付近では水田ではなく畑の耕作土?)の耕作に伴う耕作痕である可能性がある。9D-SD2から土師器片など数点が出土した(表106)。

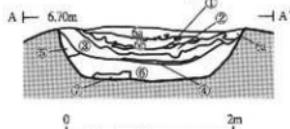
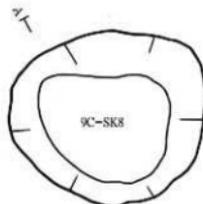
9B区南部のVb層上面では南北方向に並行する溝跡3条を確認した。9B-SD33は幅1.5~1.7m、深さ70cm、9B-SD34は幅0.9~1.0m、深さ30cm、9B-SD35は推定幅1.3m、深さ25cmで、堆積土はすべて自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器片16点が出土した(表104)。

9C区では6b層を盛り上げた畦畔1条と段差を確認した。畦畔は長さ11m、幅1.8m、高さ4~9cmである。確認した畦畔が部分的なので水田区画等については不明であ



層位	色調	土質	混入物・その他
I	10YR4/1 濃灰色	粘土	

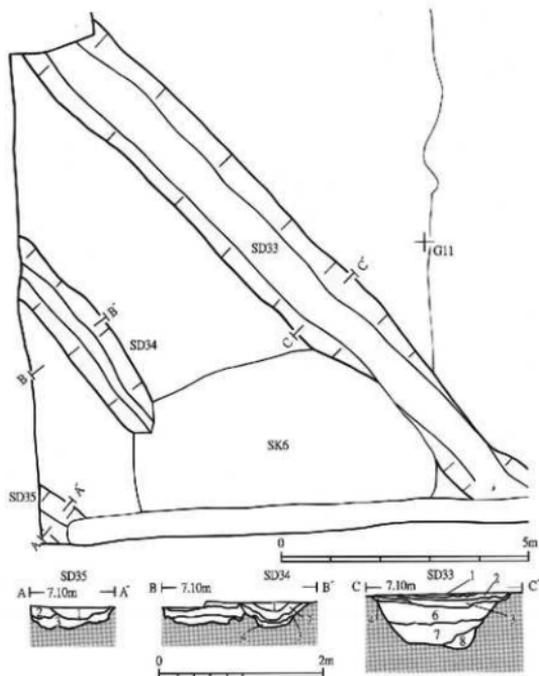
第166図
9A-SD15 断面図
(平面図は第169図)



層位	色調	土質	混入物・その他
6a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	管状器生痕多量、粗砂粒微量、(6a層水田耕作土)
6b	2.5G7.5/1 黄オリーブ灰色	粘土	灰白色火山灰粒子・ブロック少量、(6b層水田耕作土)
①	2.5Y3/3 黒褐色	粘土	
②		火山灰	灰白色火山灰
③	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
④	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土	
⑤	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	粗砂粒多量
⑥	10YR2/2 黒褐色	粘土	
⑦	2.5Y4/2 灰オリーブ色	膠砂	黒褐色粘土ブロック少量

第167図 9C-SK8 平面・断面図

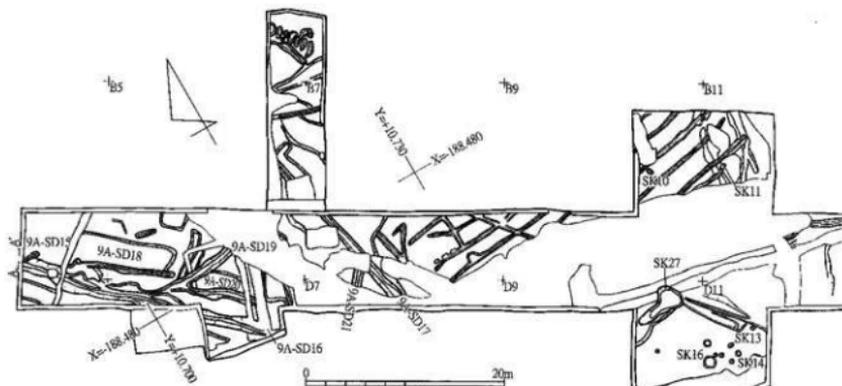
る。また、9C区東部では6層上面で土坑(9C-SK8)を確認した。2.2×2.4mのやや垂んだ円形で深さは65cmである。堆積土は自然堆積層で、層上部には灰白色火山灰の層が認められた。遺物は土師器・須恵器片が94点とウマの骨が出土し(表105)、接合した2個体が固化できた(第175図2・3)。



層位	色調	土質	混入物・その他
9B-SK33	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック・酸化鉄・マンガン屑・風化物・火山灰ブロック少量
	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	上部に火山灰を混状に少量、酸化鉄少量
	3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄・マンガン屑少量
	4 10YR3/2 暗褐色	シルト	砂粒多量、酸化鉄少量
	5 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄多量、マンガン屑少量、燧石屑
	6 7.5Y3/1 暗緑灰色	粘土	砂粒少量、酸化鉄微量
	7 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	下部に黒褐色粘土ブロック微量
	8 5GY4/1 緑オリーブ灰色	砂	灰色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック少量
9B-SD34	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	酸化鉄・マンガン屑・風化物少量
	2 10YR7/3 にぶい黄褐色	火山灰	灰白色火山灰
	3 2.5Y3/2 黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄多量、マンガン屑少量
	4 2.5Y3/1 暗オリーブ灰色	シルト	酸化鉄少量
9B-SD35	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄多量、砂粒・燧石少量
	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	砂粒多量、燧石屑・火山灰ブロック少量
	3 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック・火山灰ブロック少量

第168図 9B-SK33~35 平面・断面図

第10節 VI層と7層の遺構



第169図 9A～9B区・9D区 Vc層・VI層・7層上面平面図

1. 遺構の概要

9A区・9B区ではVI層、9C区では7層が確認されているが、両者はほぼ同じ自然堆積層と考えられる。9A区から9B区北部にかけては多数の溝が集中し、9B区では9A区につながる可能性がある溝跡が2条確認された。また、9Bには10坑が集中している。9C区では細い溝が5条と広い溝が1条検出されている。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡 幅が広い溝跡にのみNoを付けて区別した。

9A-SD16 (第173図) 9A区西端から南壁に向って直線的に延びる。確認できた長さは26.5mで、幅50～70cm、深さ30～50cmである。堆積土の下半は自然堆積であるが最上部は人為的に埋め戻されていた。

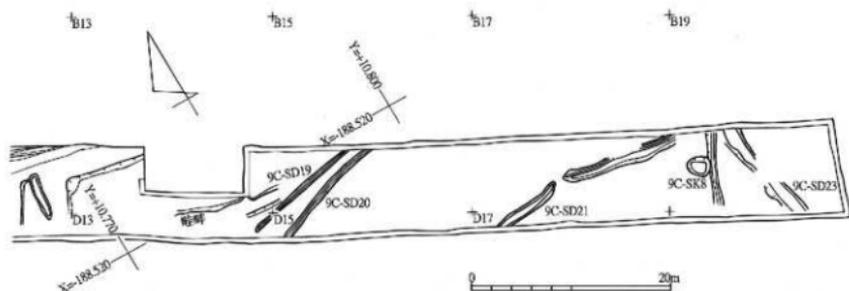
9A-SD17 (第173図) 9A区南端から9D区西壁に向って直線的に延びる。確認できた長さは18mで、幅70～140cm、深さ15cmである。堆積土は直上の6b層が入り込んでいた。

9A-SD18～21 (第173図) SD16とSD17の間に位置し、幅50～120cm、深さ10cm前後である。堆積土は直上の6b層が入り込んでいた。

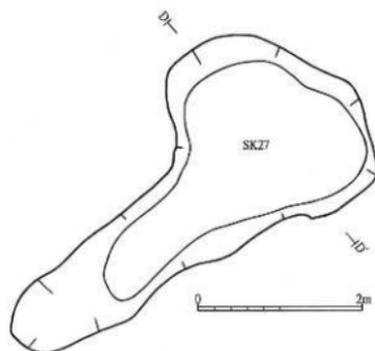
9A区西部と9D区には上記の溝跡の他にも段差や小規模な溝跡が認められたが、すべて6b層が入り込むものである。方向は9A-SD16やSD17に一致するものや直交するものがある。9D区北部には長さ1.0～1.8m、幅50～80cm、深さ5～10cmの短い溝が並ぶ。

9A-SD17から東側には多数の小溝が東西方向に並行し、それに数本の小溝が交わっている。これらは幅30～40cm、深さ5cm前後で、堆積土は直上の6b層が入り込んでいた。

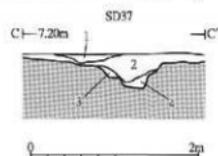
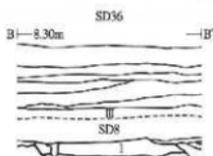
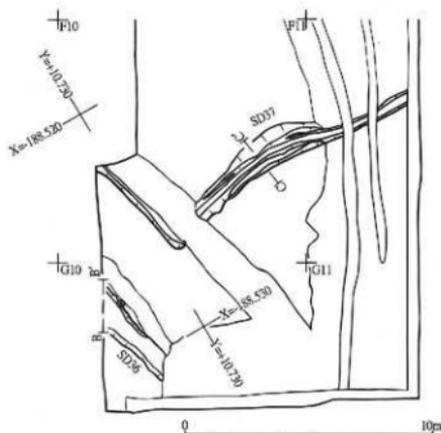
SD17から東の9A区から9B区にかけての小溝群は畑の耕作土下面の耕作痕と考えられる。また、9D区北部の短い小溝も同様に畑の耕作痕の可能性が高い。9A区西部については、規模が大きい9A-SD16は区画の溝と考えられるがその他は区画溝と畑の耕作痕が混在している可能性がある。



第170図 9C区 7層上面平面図



第171図 9B-SK27 平面・断面図

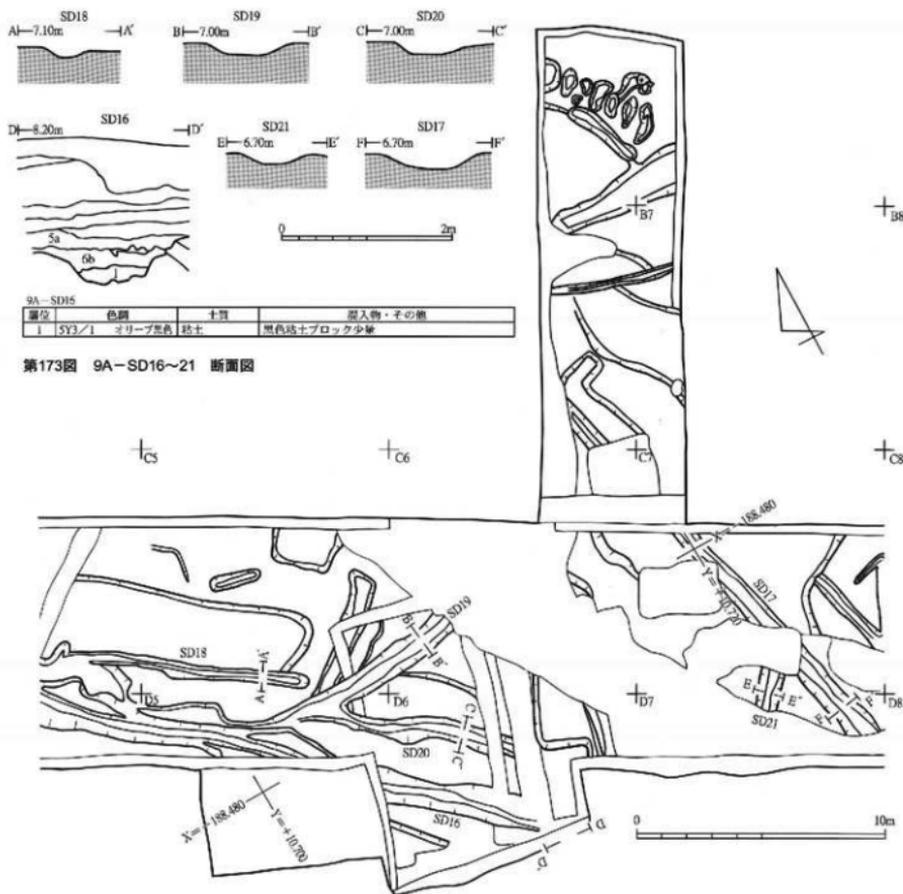


層位	色調	土質	埋入物・その他
9B-SD36	1 30YR4/4 褐色	シルト	酸化鉄多量
	2 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト質粘土	酸化鉄多量
9B-SD37	1 30YR3/2 黒褐色	粘土	砂粒多量、炭化物微量
	2 2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂	酸化鉄少量、炭化物微量
	3 30Y2/1 黒色	シルト	砂粒多量
	4 10GY2/1 緑褐色	砂	炭化したブロック状

第172図 9B-SD36・37 平面・断面図

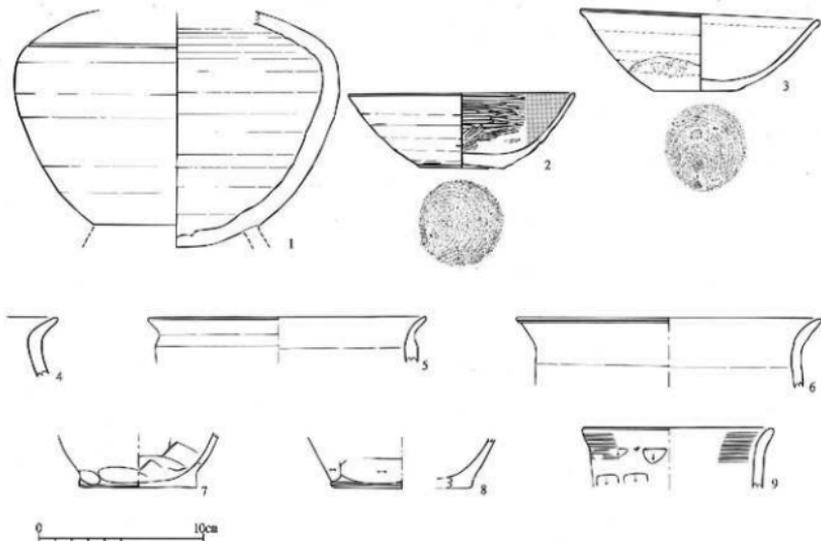
9B-SD36・SD37は幅1.0~1.7m、深さ40cm前後で、堆積土はVa層を主とした自然堆積層である。区画溝と考えられ、SD36は9A区へ、SD37は屈曲して9A区や9C区へ延びている。遺物は土師器・須恵器片で(表104)、SD36北壁際のビット状の部分から出土した須恵器瓶が図化できた(第175図1)。

9C区の溝は幅0.8~1.8m、深さ10cm前後で、堆積土は直上の6b層耕作土である。これらの溝のうちCD15グリッド付近の溝は9B-SD37に繋がる区画溝である可能性がある。東部の溝については区画溝か6b層の耕作痕かは断定できない。



第173図 9A-SD16~21 断面図

第174図 9A区西部・9D区 VI層上面平面図



No	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	E-12	9B-SD36・2層	須恵器・甌	1/3				ロクロ調整	100-11
2	D-7	9C-SK8	土師器・杯	2/3	13.8	5.2	4.6	ロクロ調整, 回転系切, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針微量 底径/口径0.38	100-5
3	E-18	9C-SK8	須恵器・杯	2/3	14.7	5.2	4.8	ロクロ調整, 回転系切, 体部外面に黒書(判読不能)	100-6
4	C-3	9B-SK12	土師器・甕	口縁部小片				口縁部ヨコナデ, 体部外面ヘラナデ	100-12
5	D-1	9B-SK15	土師器・甕	口縁部1/10	(16.8)			ロクロ調整, 白針少量	100-13
6	D-2	9B-SK17	土師器・甕	口縁部1/10	(18.6)			ロクロ調整, 白針微量	100-14
7	C-4	9B-SK13	土師器・甕	体~底部1/4		(7.2)		体部外面下縁ナデ, 底部未染成, 内面ヘラナデ, 白針微量	100-16
8	C-2	9B-SK17	土師器・甕	体~底部1/3		(8.2)		体部外面ヘラケズリ, 内面黒染, 白針微量	100-17
9	C-5	9B-SK24	土師器・甕	口縁部1/4	(11.6)			口縁部ヨコナデ, 外面体部ヘラケズリ, 白針微量 2B-SD1出土破片と接合	100-15

第175図 Vb層・VI層・6b層の遺構出土遺物

(2)土坑 9B区北部に9B-SK10・11, 中央に9B-SK12~17・23~27が集中している。

9B-SK16 径1.4mの円形で深さ15cm, 堆積土はVb層に類似した単層である。土師器片が出土している(表104)。

9B-SK27 2.7×5.2mの不整形で深さ90cm, 堆積土は自然堆積層である。

その他の土坑は40~70cmの円または楕円形で深さは5~15cmで, 堆積土はVI層に類似した単層である。9B-SK12~17・24・25からは非ロクロ調整の土師器片が155点出土し(表104), 6点が図化できた(第175図4~9)。

第11節 9区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

9区の個別の遺構や水田跡の遺物については前節までで述べたので、ここでは9区全体を通した遺物の出土傾向と基本層中からの出土遺物について触れる。なお、9区出土遺物の層位・遺構別の集計表は表103～106、9A～9D区にまとめたものは表140（第2分冊185頁）である。

1. 9区全体の出土遺物

9区全体の遺物数は、縄文・弥生10点、土師器4,596点、須恵器1,297点、赤焼土器68点、土師質土器皿類474点、その他の土師質土器205点、瓦質土器15点、中世の無釉陶器1,963点（註1）、中世の施釉陶器68点、中国産陶磁器101点、その他近世の陶磁器など24点、瓦88点、金属製品109点（鉄製品91点、銅製品18点）、石製品26点、木製品53点、土製品56点、鉄滓233点で、この他にウマの歯や骨、クルミやモモの種子なども出土している。

各種遺物のうち古代以降の土器類に限ってみると、古代5,961点（68%）、中世2,826点（32%）、近世24点で、古代の土器が2/3、中世の土器が1/3となっている。中世の上器2,826点の内訳は土師質土器679点（24%）、瓦質土器15点（0.5%）、無釉陶器1,963点（69%）、施釉陶器68点（2%）、中国産陶磁器101点（4%）で、土師質土器と無釉陶器で9割以上を占めている。最も量が多い無釉陶器の内訳は常滑・瀬美・東海地方産が1,366点（70%）、在産（註2）が597点（30%）で常滑・瀬美・東海地方産が圧倒的に多い。なお、土器類については破片数に加えて重量も計測しており（表140の下半分）、それによると常滑・瀬美・東海地方産が43,388g（62%）、在産が26,332g（38%）で、数量と比べると在産の比率がやや上がる。

2. 基本層からの出土遺物

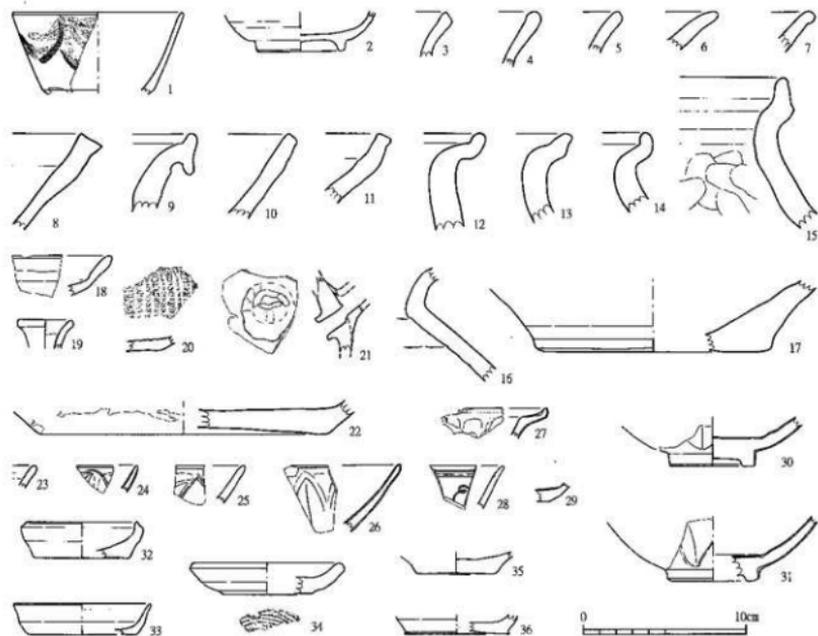
基本層からの出土遺物のうち図化できたのが第176～178図である。

第176図は国内産の陶器と中国産磁器、土師質土器で、磁器は龍泉窯系の蓮弁文陶が多い。土師質土器はa～4～8はすべてクロコ調整、このうち4点は小皿で切り離し技法が判る3点は回転糸切無調整である。

第177図は土師器・須恵器・石製品・土製品で、II層中から出土している碗と刺形の土製品は近世の所産と考えられる。

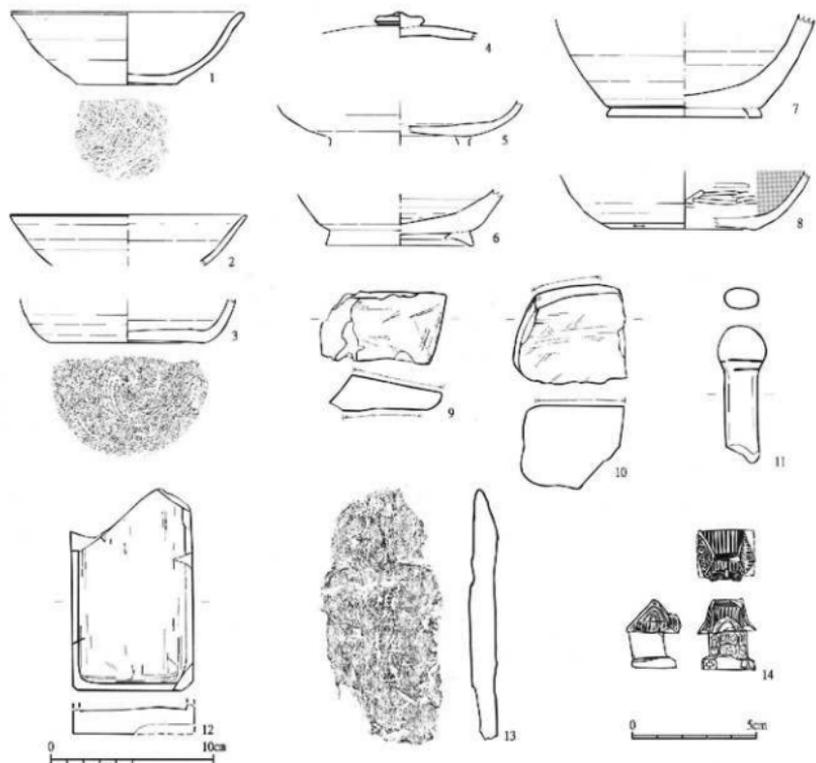
第178図は金属製品・石器・石製品で、銭貨8点のうち5点が北宋銭（16～20）、2点が明銭（21・22）、1点が無文銭（23）である。

層位・遺構	土師器	瓦質土器	赤焼土器	土師質土器 皿類 他	須恵器	中国産 磁器	近世 陶器	その他 陶器	瓦	金属製品	石製品	木製品	土製品	鉄屑	その他
I～IV層	53	19	5	52	21	4	1	48	3	3	6	94	3		
遺上層	12	6	1	11		1	4	4		4					陶の骨・骨
遺中層	9	4	7	2		4	1	9		1	1				骨の歯・骨
遺下層	8	6	9	4		11		5	1	2					陶の骨・骨
IVa層						1	20	4	2	6	71	4	5		陶の骨・骨
IVb層							2			2					陶の骨・骨
IVc層							4	2		6			3		陶の骨・骨
IVd層	121	33	1	61	18		1	2	1	1					陶の骨・骨
IVe層							1	1		1					陶の骨・骨
IVf層							1	1		1					陶の骨・骨
IVg層							1	1		1					陶の骨・骨
IVh層							1	1		1					陶の骨・骨
IVi層							1	1		1					陶の骨・骨
IVj層							1	1		1					陶の骨・骨
IVk層							1	1		1					陶の骨・骨
IVl層							1	1		1					陶の骨・骨
IVm層							1	1		1					陶の骨・骨
IVn層							1	1		1					陶の骨・骨
IVo層							1	1		1					陶の骨・骨
IVp層							1	1		1					陶の骨・骨
IVq層							1	1		1					陶の骨・骨
IVr層							1	1		1					陶の骨・骨
IVs層							1	1		1					陶の骨・骨
IVt層							1	1		1					陶の骨・骨
IVu層							1	1		1					陶の骨・骨
IVv層							1	1		1					陶の骨・骨
IVw層							1	1		1					陶の骨・骨
IVx層							1	1		1					陶の骨・骨
IVy層							1	1		1					陶の骨・骨
IVz層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaa層							1	1		1					陶の骨・骨
IVab層							1	1		1					陶の骨・骨
IVac層							1	1		1					陶の骨・骨
IVad層							1	1		1					陶の骨・骨
IVae層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaf層							1	1		1					陶の骨・骨
IVag層							1	1		1					陶の骨・骨
IVah層							1	1		1					陶の骨・骨
IVai層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaj層							1	1		1					陶の骨・骨
IVak層							1	1		1					陶の骨・骨
IVal層							1	1		1					陶の骨・骨
IVam層							1	1		1					陶の骨・骨
IVan層							1	1		1					陶の骨・骨
IVao層							1	1		1					陶の骨・骨
IVap層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaq層							1	1		1					陶の骨・骨
IVar層							1	1		1					陶の骨・骨
IVas層							1	1		1					陶の骨・骨
IVat層							1	1		1					陶の骨・骨
IVau層							1	1		1					陶の骨・骨
IVav層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaw層							1	1		1					陶の骨・骨
IVax層							1	1		1					陶の骨・骨
IVay層							1	1		1					陶の骨・骨
IVaz層							1	1		1					陶の骨・骨
IVba層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbb層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbc層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbd層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbe層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbf層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbg層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbh層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbi層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbj層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbk層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbl層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbm層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbn層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbo層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbp層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbq層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbr層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbs層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbt層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbu層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbv層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbw層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbx層							1	1		1					陶の骨・骨
IVby層							1	1		1					陶の骨・骨
IVbz層							1	1		1					陶の骨・骨
IVca層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcb層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcc層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcd層							1	1		1					陶の骨・骨
IVce層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcf層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcg層							1	1		1					陶の骨・骨
IVch層							1	1		1					陶の骨・骨
IVci層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcj層							1	1		1					陶の骨・骨
IVck層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcl層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcm層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcn層							1	1		1					陶の骨・骨
IVco層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcp層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcq層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcr層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcs層							1	1		1					陶の骨・骨
IVct層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcu層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcv層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcw層							1	1		1					陶の骨・骨
IVcx層							1	1							



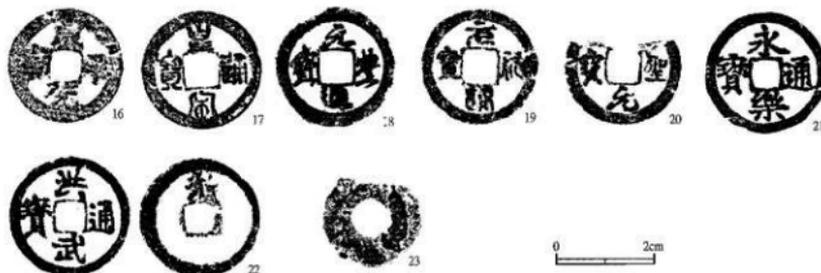
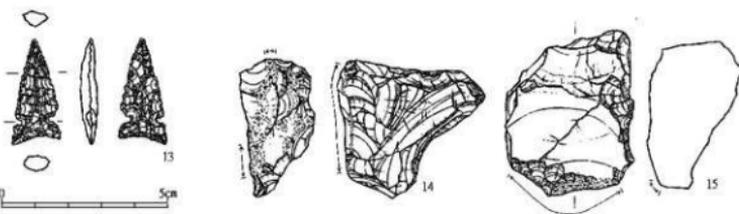
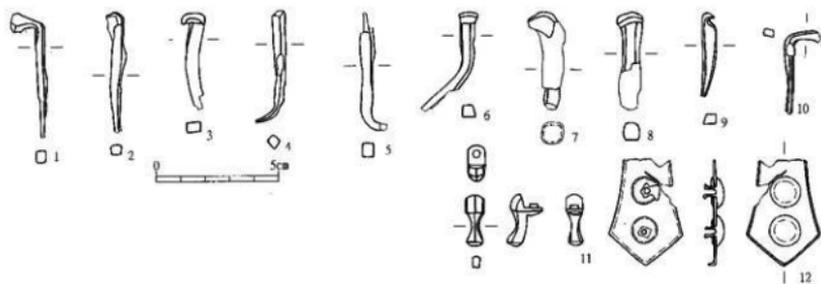
No.	登録No.	地区・遺構・層位	器種(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			圖型・特徴	写真 図取
						口径	底径	器高		
1	lc-102	9A-C.D10・II層	陶器(大塚相模)	碗	口縁部1/4				縹色、草履6期	91-1
2	lc-101	9A-C.D 6.7・II層	陶器(瀬戸)	碗	底部1/2	(5.4)			ロク口調碗、山菜輪草系	91-2
3	lc-98	9A-D.3・IV層	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				ロク口調碗、山菜輪草系	91-3
4	lc-99	9A-C.7・5a層	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				ロク口調碗、山菜輪草系	91-4
5	lc-105	9A-C.D 8.9・5a層	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				ロク口調碗、山菜輪草系	91-5
6	lc-100	9A-C.8・5a層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調碗、内面褐色の自然釉、3高式?	91-6
7	lc-87	9B-E10・5a層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調碗、2高式?	91-7
8	lc-14	9A-C.D 8.9・5a層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調碗、体部ナデ、7~8型式	91-8
9	lc-12	9A-C.D 4・II層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ、内外褐色白色の自然釉、6a高式	91-9
10	lc-13	9A-C.D 4・II層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調碗	91-10
11	lc-86	9B-C.D11・5a層	陶器(在地・白石)	片口鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調碗	91-11
12	lc-15	9A-C.D 4・IV層	陶器(在地・白石)	鉢	口縁部小片				白縁部ヨコナデ、体部ナデ、外面灰白色の自然釉	91-12
13	lc-84	9B-C11・II層	陶器(在地)	碗	口縁部小片				ロ・草毛ヨコナデ、体部ナデ、内・外面に灰白色の自然釉	91-13
14	lc-19	9A-C.11 8.9・5a層	陶器(在地・白石)	鉢	口縁部小片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ	91-14
15	lc-128	9D-A.6・5a層	陶器(在地)	鉢	口縁~体部片				口・体部ヨコナデ、体部外面ナデ、内面オヤシ	91-15
16	lc-88	9B-C.D10・5b層	陶器(湯沢)	鉢	口縁部小片				ナデ、裏面に野印、外面に褐色台の自然釉	91-16
17	lc-85	9B-B11・5b層	陶器(湯沢)	鉢	高部1/5	(14.6)			赤釉、後中期	91-17
18	lc-103	9A-C.D 5.6・III層	陶器(古瀬戸)種	小皿	口縁部1/2	3.2			灰釉、11~II期	91-18
19	lc-08	9B-C.D11・5a層	陶器(古瀬戸)	広花瓶	口縁部1/2				灰釉、後期	91-17
20	lc-04	9A-C.D 5.6・III層	陶器(古瀬戸)	細瓶	底部小片				灰釉、後期	91-18
21	lc-107	9B-D10・5a層	陶器(古瀬戸)	水注	体部小片				灰釉、中期	91-20
22	lc-127	9C-C.D20・5a層	陶器(古瀬戸)形	漆塗	底部1/4	(17.6)			灰釉、中期	91-19
23	1-3	9A-D5・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片					91-23
24	1-6	9A-C.D.7・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				割弁文	91-24
25	1-5	9A-C.D4・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				割弁文	91-25
26	1-4	9A-C.D5・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				割弁文文	91-26
27	1-9	9A-IVa層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				割弁文	91-27
28	1-8	9A-C8・5a層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				割弁文	91-28
29	1-10	9A-C.D7・5a層	白磁(中国)	皿	底部小片				11高?	91-29
30	1-31	9A-A.6.7・5a層	青磁(龍泉窯系)	碗	底部1/2	5.2			割弁文文、割弁磨削	91-30
31	1-7	9A-C.7.8・5a層	青磁(龍泉窯系)	碗	底部1/4	(5.0)			割弁文文、割弁磨削	91-31
32	1-7	9B-B10・5b層	土師青土器・小皿	1/5	(6.9)	(5.9)	2.3		ロク口調碗、割弁表切	92-1
33	1a-c	9B-E.10・IV層	土師青土器・小皿	1/10	(8.4)	(6.7)	2.0		ロク口調碗、割弁表切	92-2
34	1a-8	9B-層不明	土師青土器・小皿	1/4	(9.5)	(5.5)	2.0		ロク口調碗、回転表切、割弁少量	92-3
35	1a-4	9A-層不明	土師青土器・皿?	底部1/4			4.7		ロク口調碗、割弁表切	92-4
36	1a-5	9A-C.D5a・II層	土師青土器・小皿	底部1/3	(6.4)				ロク口調碗、回転表切	92-5

第176図 9区基本層出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	図種	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版	
						口径	底径	器高			
1	E-6	9A-C 6・割溝	須恵器・杯	1/3	1/3	(14.2)	6.0	4.5	ロクロ調整、1枚無柄、白針織量、裏径/口径4/2	92-6	
2	E-11	9B-C D10・5a 6層	須恵器・杯	1/8	1/8	(14.4)			ロクロ調整	92-7	
3	E-8	9B-B11・5a 層	須恵器・杯	底部1/2			9.4		ロクロ調整、底面切磨法不明→底面ヘラケズリ、高台欠損、白針織量	92-8	
4	E-10	9B-C D11・5a 6層	須恵器・壺	小片					ロクロ調整	92-10	
5	E-9	9B-C, D11・4b, 5a 層	須恵器・高台杯	底部1/4					ロクロ調整、底面切磨法不明→同輪ヘラケズリ、高台欠損、白針織量	92-9	
6	E-7	9A・Ⅲ層	須恵器(大戸) 蓋?	底部1/4		(9.0)			ロクロ調整	92-11	
7	E-17	9C-C, D15・5a 層	須恵器(大戸) 蓋?	1/8		(9.4)			ロクロ調整、底面ナデ	92-12	
8	D-4	9C-C, D14・4b 層	土師器・杯	1/4		(8.6)			ロクロ調整、底面切磨法不明→底面へ体部回転ヘラケズリ、内面ヘラミガキ・黒色染付、白針織量	92-13	
9	K-15	9C-C D17・6層水田跡	石製品・礫石	4辺不完形		長さ	7.4	4.3	2.3	98g、デイスait質凝灰岩	92-15
10	K-17	9C-C D17・6層水田跡	石製品・礫石	端部のみ		長さ	6.6+	6.0	5.2	35g+、デイスait	92-16
11	K-18	9C-C D19・5a 層水田跡	石製品・陶物?	端部のみ		長さ	8.0+	3.0	1.3	42g+、頁岩	92-16
12	K-13	9B-C 11・Ⅱ層	石製品・硯	4/5		長さ	12.5+	7.5	1.5	235g+、頁岩	92-17
13	K-11	9A-C D7・整地層	石製品・焼物不明	上部		長さ	15.5+	7.6	1.6	240g+、焼青「□釜□□□」、頁岩	92-18
14	P-3	9A-C D10・Ⅱ層	土製品・刺器	4/5		高さ	2.9	2.4	奥行2.2	10g+	92-19

第177図 9区基本層出土遺物 (2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	図簡	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-28	9A-C8・5層	鉄製品・釘	中央部	5.7+	0.5	0.4	屈曲, 頸部幅0.7cm, 3g+	92-21	
2	Na-34	9A-C.D5・IV層	鉄製品・釘	4/5	4.9+	0.5	0.4	92-22	92-22	
3	Na-29	9A-C.D5・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.0+	0.6	0.4	頸部幅1.0cm, 3g	92-23	92-23
4	Na-33	9A-C.D5・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	4.6+	0.5	0.5	2g+	92-24	92-24
5	Na-30	9A-C.D5・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.9+	0.6	0.4	2g+	92-25	92-25
6	Na-36	9A-C.D4・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.7+	0.6	0.5	屈曲, 頸部幅0.7cm, 4g+	92-26	92-26
7	Na-32	9A-C.D4・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.2+	0.9	0.9	5g+	92-27	92-27
8	Na-31	9A-C.D4・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	2.0+	0.7	0.7	頸部幅1.0cm, 6g+	92-28	92-28
9	Na-37	9A-C.D4・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全部	3.4+	0.5	0.4	3g+	92-29	92-29
10	Nb-35	9A・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.2+	0.4	0.3	屈曲, 2g+	92-30	92-30
11	Nb-38	9B-D10・4b層	銅製品・水倉杓	脚のみ	2.1	0.7	1.3	4.5g	92-31	92-31
12	Nz-435	9A-D6・耳層	鉄・銅合金(用途不明)	ほぼ完全部	4.3	3.0	0.1	板厚: 2cm・厚さ: 0.2cm, 5g	92-31	92-31
13	K-12	9B-D10.11・耳層	石製品・石鏃	葉形	3.2	1.5	0.6	1.4cm, 7.4方式石鏃, 古鏃	92-32	92-32
14	K-16	9C-C20・4層水田跡	石製品・火打石	定形	4.5	4.3	2.2	3.9g, 古鏃	92-33	92-33
15	K-10	9A-C8.9・整地層	石製品・火打石	定形	5.0	3.9	3.1	7.3g, 玉鏃	92-34	92-34
								重鉄		
16	Nb-37	9B-E10・4b層	銅製品・銭貨	定形	2.4		2.6g	成平元貨(北宋・初鑄1084年)	92-35	92-35
17	Nb-39	9B-D11・心層	銅製品・銭貨	定形	2.4		2.5g	皇宋通寶(北宋・初鑄1099年)	92-36	92-36
18	Nb-34	9A・II層	銅製品・銭貨	定形	2.4		2.0g	元豐通寶(北宋・初鑄1078年)	92-37	92-37
19	Nb-27	9C-5a層水田跡	銅製品・銭貨	定形	2.4		2.6g	元祐通寶(北宋・初鑄1086年)	92-38	92-38
20	Nb-29	9C-4b層水田跡	銅製品・銭貨	3/4	2.4		1.8g+	紹聖元貨(北宋・初鑄1094年)	92-39	92-39
21	Nb-28	9C-4b層水田跡	銅製品・銭貨	完全部	2.5		2.9g	水滸通寶(明・初鑄1408年)	92-40	92-40
22	Nb-31	9D・II層	銅製品・銭貨	定形	2.5		2.3g	洪武通寶(明・初鑄1368年), 背文字あり	92-41	92-41
23	Nz-30	9C-5a層水田跡	銅製品・銭貨	ほぼ定形	1.9		1.0g+	無文銭	92-42	92-42

第178図 9区基本層出土遺物 (3)

第4章 10区の調査

第1節 III層の遺構

1. 遺構の概要

10区は微高地に位置するが、東端の10E区は低地への移行地点にあたる。10A～10D区ではI・II層の直下にIII層が分布し、10E区南部では一部でIII層上面に乗る整地層が認められた。10E区北部は南部よりも一段低くなっている近世の水田耕作土3a層が分布している。

10A～10D区では城館の堀跡が埋没した跡が帯状の窪みとなって残り、窪みの最上層には3a層水田耕作土が認められた。

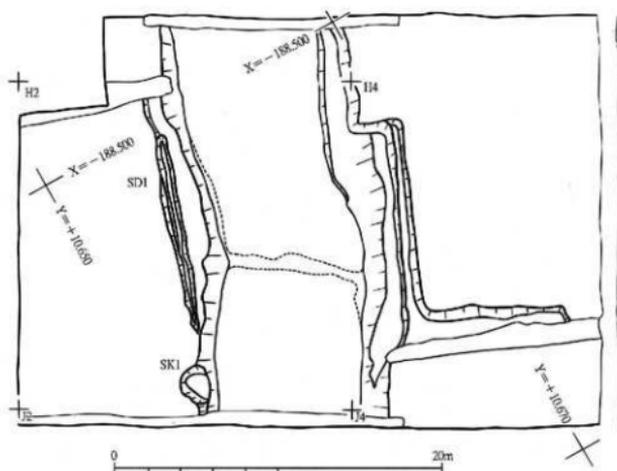
なお、この窪みはそのまま10E区北部の一段低い場所につながっている。堀跡以外のIII層上面では遺構は少なく、溝跡や土坑が散在する程度であるが、10E区南部の整地層上面～III層上面にかけては近世の墓坑が集中している。

2. 10A～10D区の遺構と遺物

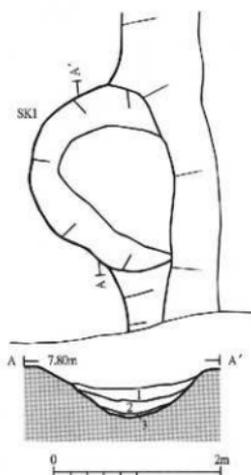
(1) 溝跡 10A区西側では10A-SD1が検出され、土師器片や中世陶器片などが出土した(表107)。10C区中央部には溝跡が集中するが、このうち10C-SD8は直下のSD1003が埋没した跡の窪みである。他の溝10C-SD1～7・10はIII層に類似した堆積土で、III層の畑の区画に関係する溝と考えられる。これらの溝跡からは土師器片や中世陶器片などが約40点出土し、2点が図化できた。10D区の10D-SD1・2はIII層に類似した堆積土、SD3はブロック土である。遺物は土師器片・須恵器片・土師質土器皿類・中世陶器片・金属製品などで、1点が図化できた(表108～109、第187頁4・4・6)。

(2) 土坑 10A区西側で10A-SK1、10B区南部では浅い土坑10B-SK1～3が検出され、土師器片や中世陶器片などが出土した(表107・108)。

10C区南部では10C-SD5～7に切られて10C-SK1がある。2.5×



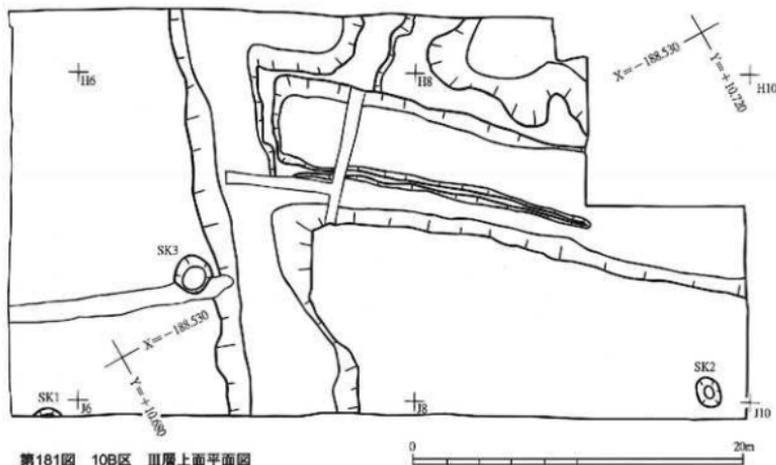
第179図 10A区 III層上面平面図



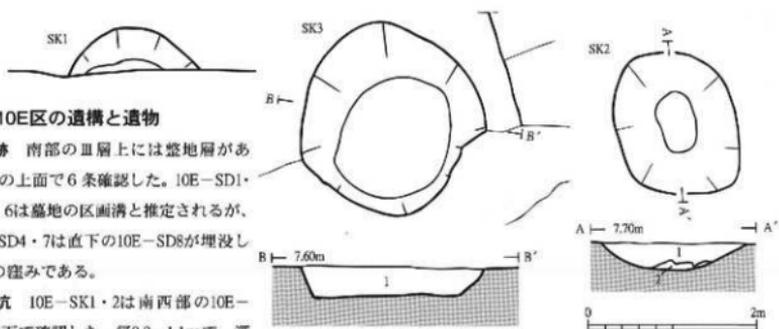
第180図 10A-SK1 平面・断面図

層位	色調	土質	混入物・その他
3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	
2	2.5Y6/2 暗灰黄色	粘土	
3	2.5Y6/2 暗灰黄色	粘土	砂粒多量

6.8mの長楕円形で、深さ25~35cm、底面は平坦であるが東半部が一段低くなっている。一段低い部分の堆積土下部は埋め戻したように水平になっていて、西側底面に続いている。遺物は土師器片・中世陶器片・金属製品などが出土し、2点が図化できた(表109, 第187図1・2)。SK1の西側には10C-SK2がある。部分的に検出した不整形な土坑で、土師器片など数点が出土した(表109)。



第181図 10B区 Ⅲ層上面平面図



10B-SK2

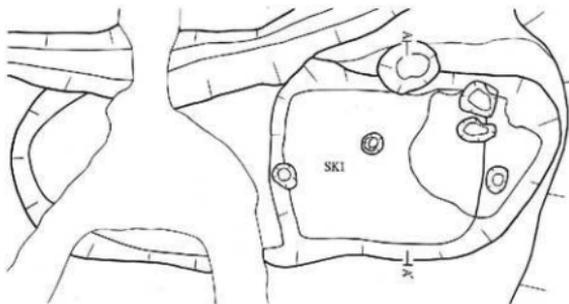
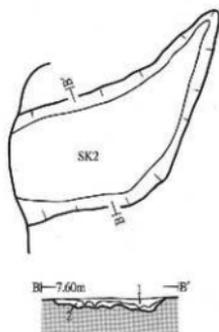
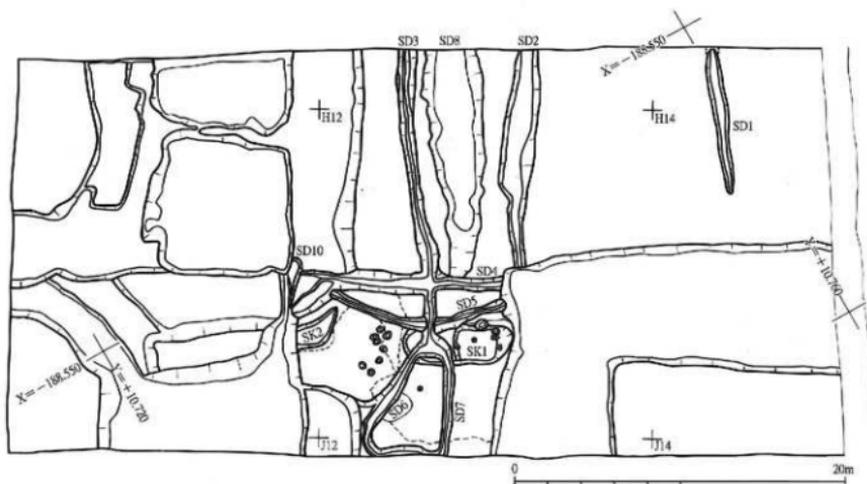
層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量, 炭化物微量
2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック少量
10B-SK3			
1	2.5Y4/1 黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量

第182図 10B-SK1~3 平面・断面図

3. 10E区の遺構と遺物

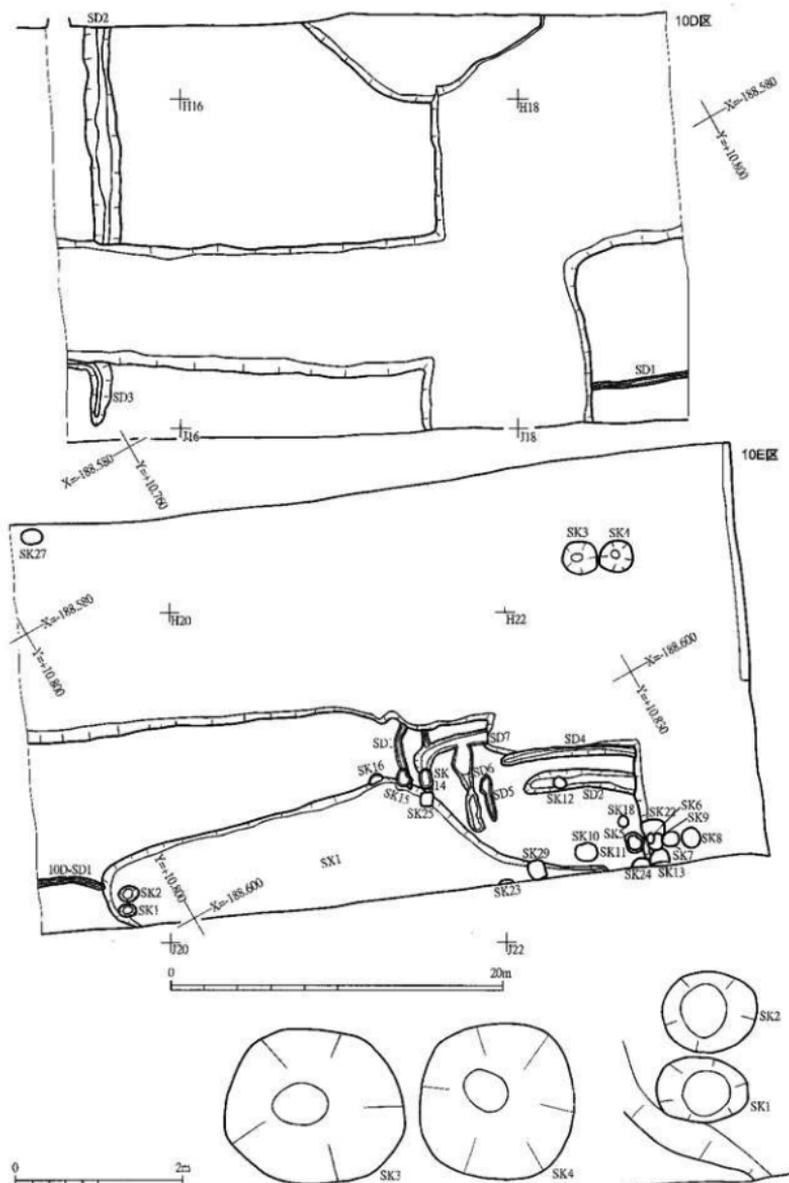
(1)溝跡 南部のⅢ層上には整地層があり、その上面で6条確認した。10E-SD1・2・5・6は墓地の区画溝と推定されるが、10E-SD4・7は直下の10E-SD8が埋没した跡の窺みである。

(2)土坑 10E-SK1・2は南西部の10E-SK1底面で確認した。径0.8~1.1mで、深さ35cm、堆積土は暗褐色の粘土である。10E-SK3・4・27は3a層水田面で確認した。SK3・4は径1.8~2.2mで、深さはSK3が60cm、SK4が90cm、壁は緩やかに立ち上る。中世陶器片や近世の陶磁器類が出土した(表111)。

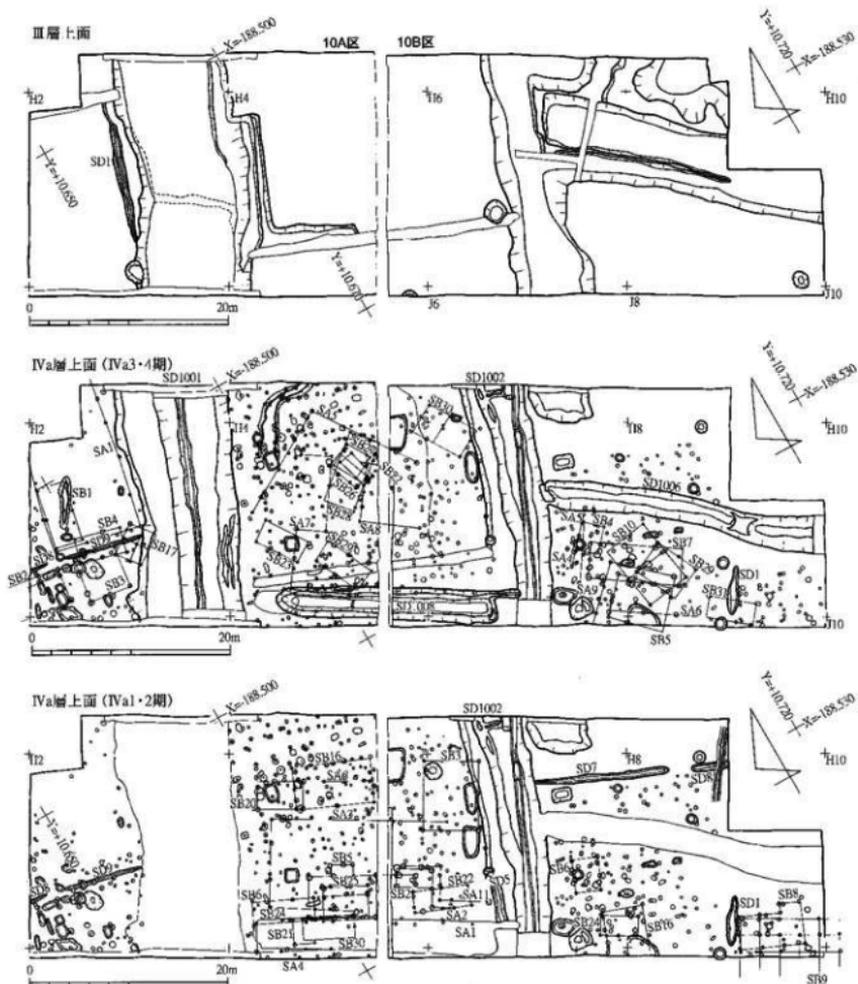


	層位	色澤	土質	混入物・その他
10C-SK1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物・小礫・砂粒多量、煎餅屑の十少量
	2		木炭層	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	砂粒多量、炭化物少量
	4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
10C-SK2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂	黒色シルトブロック・小礫少量
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物・小礫少量

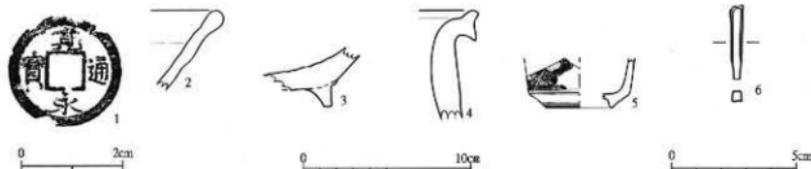
第183図 10C区 III層上面平面図、10C-SK1・2 平面・断面図



第184図 10D~10E区 Ⅲ層上面平面図、10E-SK1~4 平面図



第185図 10A～10B区 III層上面、IVa層上面 (IVa3・4期)、IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		銅量・特徴	写真 図版
						口徑	底徑		
1	Nb-72	10C-SK1	新製品・銭貨	ほぼ完整	径2.2		量1.2+	寛永通寶(新寛永銭)	108-5
2	lc-243	10C-SK1	陶器(東海)鉢	口縁部小片				ロクコ調製, 灰白色の自然釉, 山茶碗属系	108-4
3	lc-242	10C-SD4	陶器(東海)鉢	底形小片				ロクコ調製, 灰緑色面影アヘケスリ, 内縁欠ける, 由88球属系	108-2
4	lc-244	10C-SD5	陶器(東海)鉢	口縁一休部片				ロクコ調製, 外面灰青リブ色の自然釉, 6割式	108-3
5	J-75	10E-SK1	鉄器(東海) 陶茶碗	底部1/4		(3.9)			108-7
6	Nb-168	10E-SD2	鉄器品・釘	中央部	長3.0+	幅0.5	厚0.4	(2g+)	108-6

第187図 10C~10E区の遺構出土遺物

(3)近世墓

10E-SK5(第189図) 墓域東部の

整地層上面で確認した。10E-SK11を切っている。棺は一辺40~45cmの木箱で、改葬されたものである。木箱の下半分には人骨が遺存していた。骨の鑑定結果では、性別は不明だが成人段階と推定されている。掘り方はSK11とほぼ重複し、95×120cmの歪んだ楕円形で、深さは35cmである。

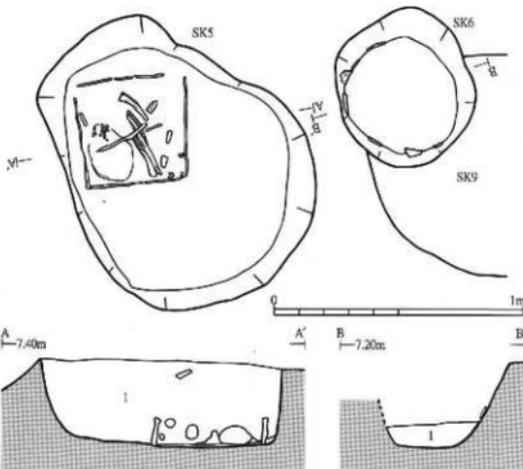
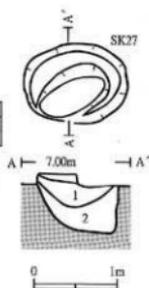
副葬品は煙管4点(雁首2・吸口2)、銭貨6点であるが、銭貨は錆が激しいため種別は不明である。この他に木箱の部品の鉄釘28点、土師質土器などがあるが、土器類は混入品と考えられる。(表111、第192図1~9)。

10E-SK6(第189図) 墓域東部の整地層~3a層上面で確認した。10E-SK5に隣接し、10E-SK9-SK22を切っている。大部分が削平されていて遺存状態は悪い。残存する掘り方は55×65cmの楕円形で、棺はわずかに桶の破片が認められたので木桶と推定される。人骨は遺存していなかった。

副葬品は煙管2点(雁首1・吸口1)が確認された(表111、第192図

層位	色調	土質	混入物・その他
1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・黄灰色砂ブロック多量
2	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	

第188図 10E-SK27 平面・断面図

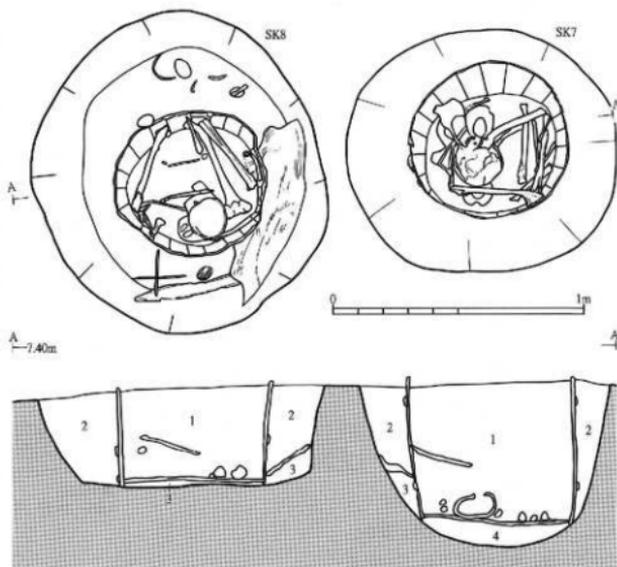


層位	色調	土質	混入物・その他
SK5 1	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒砂多量, 炭化物・塵少量
SK6 1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂ブロック少量

第189図 10E-SK5・6 平面・断面図

10・11)。

10E-SK7(第190図) 島城東部の一段低い3a層下面で確認した。10E-SK8に隣接し、10E-SK9を切っている。掘り方は径100~105cm、残存する深さは65cmである。棺は木桶で、最上部は腐食していたが遺存状態は比較的良好である。底径約57cm、高さは推定65cm、側板は24枚ある。蓋の一部が内部に落ち込んでおり、棺内には人骨が遺存していたと推定される。鑑定結果は、女性の可能性が高く、壮年程度の個体と推定されている。

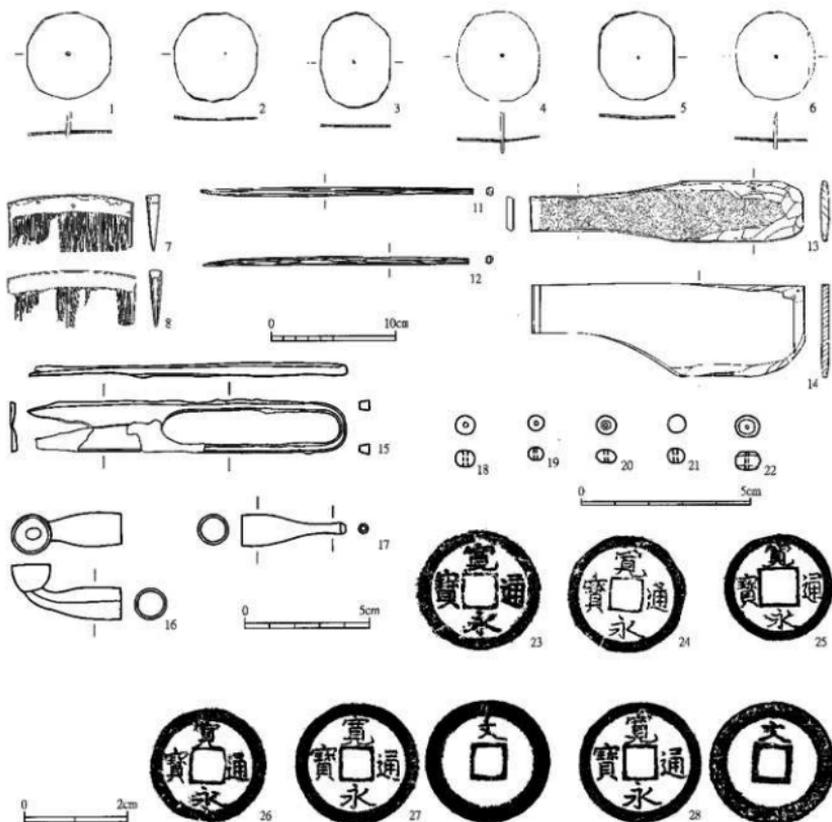


第190図
10E-SK7・8 平面・断面図
(平面図は下が北)

部位	品類	土質	遺品物・その他
SK8	1 5Y1/1 ナリブ黒色	粘土	砂粒・炭化物少量
	2 5Y1/1 黒褐色	粘土	炭化物・ブロック多量
	3 7.5Y2/1 暗緑灰色	砂	
SK7	1 5Y1/1 黒褐色	粘土	炭化物・土ブロック・砂粒・炭化物少量
	2 5Y1/1 黒褐色	粘土	炭化物・土ブロック多量
	3 5Y1/1 ナリブ黒色	粘土	炭化物少量
	4 7.5Y2/1 暗緑灰色	砂	高土ブロック多量

No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	副種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 採取
						長さ	幅	厚さ		
1	L-187	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	7.2	0.2		多角形状の細い円形、中心に木釘残存(径2.0)	109-9
2	L-188	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	7.3	0.2		多角形状の細い円形、中心からずれた位置に穿孔	109-10
3	L-189	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	5.6~7.7	0.2		多角形状の細い円形、中心に穿孔	109-11
4	L-190	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	6.6~7.5	0.2		多角形状の細い円形、中心に木釘残存(径3.3)	109-12
5	L-191	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	6.1~7.2	0.2		多角形状の細い円形、中心に穿孔	109-13
6	L-192	10E-SK8・掘り方	木炭品・梃釘?	炭板のみ	径	(6.4)~7.1	0.2		多角形状の細い円形、中心に木釘残存(径3.0、穿孔径)	109-14
7	L-178	10E-SK8・棺内	木炭品・櫛	1/2		9.7	4.6	1.0		109-15
8	L-181	10E-SK8・棺内	木炭品・櫛	1/2		10.0	4.6	1.0		109-18
9	L-179	10E-SK8・棺内	木炭品・櫛	1/2					写真のみ	109-16
10	L-180	10E-SK8・棺内	木炭品・櫛	1/2					写真のみ	109-17
11	L-185	10E-SK8・掘り方	木炭品・箸	完形		21.9	0.8	0.6		109-20
12	L-186	10E-SK8・掘り方	木炭品・箸	完形		21.3	0.7	0.6		109-19
13	L-184	10E-SK8・掘り方直下	木炭品・しゃもじ	完形		21.9	4.9	0.7	折敷底板を加工し、木釘・残存、片面と裏面方に軸直状溝刻、片面互動物傷多量	109-21
14	L-183	10E-SK8・掘り方直下	木炭品・包丁	完形		22.0	7.6	0.6	折敷底板を加工し、木釘・残存、片面と裏面方に軸直状溝刻、片面互動物傷多量	109-22
15	Nb-186	10E-SK8・棺内	銅製品・鏡	ほぼ完形		12.7	2.0	0.6	(径)	109-23
16	Nb-145①	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		4.4	水直径4.6	小径1.3	8g	109-24
17	Nb-145②	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		4.2	破口径4.0	小径1.3	5g	109-25
18	2/1	10E-SK8・棺内	ガラス製品・数珠	完形		0.6	0.5	0.3g	半透明	
19	2/2	10E-SK8・棺内	ガラス製品・数珠	完形		0.5	0.4	0.2g	やや褐色がかった半透明	
20	2/3	10E-SK8・棺内	ガラス製品・数珠	完形		0.6	0.4	0.2g	灰色	110
21	2/4	10E-SK8・棺内	ガラス製品・数珠	完形		0.5	0.5	0.3g	緑色	3~7
22	L-182	10E-SK8・棺内	木炭品・鏡	完形		0.7	0.6		他に、同様のもので完形が6点、破片が5点ある	
23	Nb-148	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.5		3.2g	雲水通貫(新宮水鏡)、六通鏡	109-26
24	Nb-147	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.4		2.8g	雲水通貫(新宮水鏡)、六通鏡	109-27
25	Nb-149	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.2		2.2g	雲水通貫(新宮水鏡)、六通鏡	109-28
26	Nb-151	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.1		2.5g	雲水通貫(新宮水鏡)、六通鏡	109-29
27	Nb-150	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.5		3.3g	雲水通貫(新宮水鏡)、文鏡、六通鏡	109-30
28	Nb-146	10E-SK8・棺内	銅製品・鍔首	完形		2.5		3.1g	雲水通貫(新宮水鏡)、文鏡、六通鏡	109-31
29	L-232	10E-SK8	木炭品・棺蓋	船板1枚					写真のみ	110-1
30	L-233	10E-SK8	木炭品・棺蓋	船板のみ					写真のみ	110-2

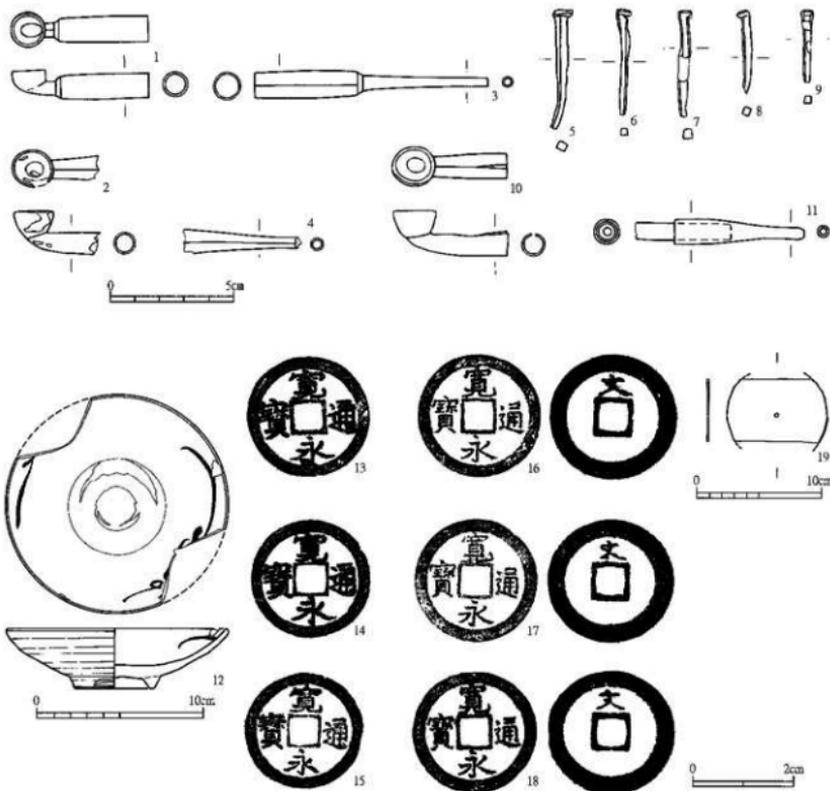
(第191図 遺物観察表)



第191図 10E-SK8 出土遺物

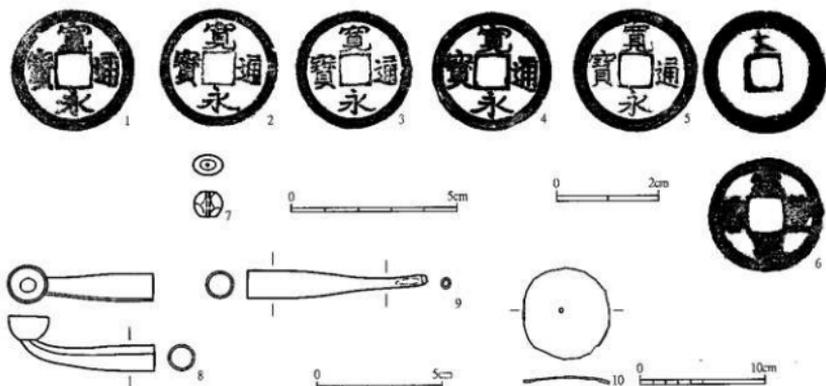
棺内の副葬品は口縁部2箇所を打ち欠いた肥前産染付皿1点・寛永通寶6点である。この他に掘り方からは提灯の底板と考えられる多角形の板1点と籠の残片が出土し、籠の下には多量の初穀が認められた(表111、第192図12~19)。

10E-SK8(第190図) 墓域東部の一段低い3a層下面で確認したが、上部は削平されている。10E-SK7の東側に隣接している。掘り方は径120~130cm、残存する深さは40cmである。棺は木棺で下半部が遺存し、底径約52cm、蓋の一部が内部に落ち込んでおり、棺内には人骨が遺存していた。座臥屈葬で南面していたと推定される。骨の鑑定では男性で、壮年程度と推定されている。なお、棺を包むように籠が部分的に確認されている。



No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(産地)器種	遺存状況	寸法 (cm)			調査・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Nb-123	10E-SK5・木箱内	銅製品・鍍金首飾	完形	5.5	大直径2.4	小口径1.0	13g	108-8
2	Nb-124	10E-SK5・木箱内	銅製品・鍍金首飾	2/3	3.4+	大直径2.4		2g+	108-10
3	Nb-125	10E-SK5・木箱内	銅製品・鍍金首飾	完形	9.4	径口φ8.1	小口径1.0	11g	108-9
4	Nb-126	10E-SK5・木箱内	銅製品・鍍金首飾	完形	4.3+			2g+	108-11
5	Nb-182	10E-SK5	鉄製品・釘	9/10	4.8.1	0.4	0.3	頭部幅0.8cm, 2g+	108-12
6	Nb-185	10E-SK5	鉄製品・釘	頭~中央部	4.3+	0.4	0.3	頭部幅0.6cm, 1g+	108-13
7	Nb-184	10E-SK5	鉄製品・釘	頭~中央部	4.3+	0.4	0.4	頭部幅0.5cm, 2g+	108-15
8	Nb-181	10E-SK5	鉄製品・釘	4/5	3.4+	0.4	0.3	頭部幅0.5cm, 1g+	108-14
9	Nb-183	10E-SK5	鉄製品・釘	中央部	3.0+	0.3	0.3	頭部幅0.5cm, 1g+	108-16
10	Nb-159(4)	10E-SK6	銅製品・鍍金首飾	完形	4.6	大直径1.7	小口径1.0	7g	108-17
11	Nb-159(2)	10E-SK6	銅製品・鍍金首飾	完形	5.2	径11(径5)	小口径1.0	6g, 竹製の環が一部残存	108-18
12	J-85	10E-SK7・箱内	染付(彫刻)皿	4/5	口径3.4	底径5.4	高さ3.7	見込み彫/目録刺痕, 11輪部(蓋)所有欠欠	109-1
13	Nb-154	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.4			重量	
14	Nb-155	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.4			3.2g	寛永通寶(古寛永銭), 六通銭
15	Nb-152	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.4			3.6g	寛永通寶(古寛永銭), 六通銭
16	Nb-157	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.5			4.2g	寛永通寶(新寛永銭), 文銭, 六通銭
17	Nb-153	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.5			3.6g	寛永通寶(古寛永銭), 文銭, 六通銭
18	Nb-156	10E-SK7・箱内	銅製品・鍍金	完形	2.5			3.9g	寛永通寶(新寛永銭), 文銭, 六通銭
19	L-177	10E-SK7・掘り方	銅製品・鍍金?	底径2/3	8.1			厚0.2	多角形時の掘り内形
20	L-231	10E-SK7	木製品・棺桶	底板のみ					写真のみ
21	L-302	10E-SK7	木製品・棺桶	側板24枚	(5)~(65)	4~12	0.7~1.0		写真のみ

第192図 10E-SK5~7出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存数	法量 (cm)		調整・特徴	石高 取版
						径	重量		
1	Nb-139	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.7g	寛永通寶(古寛水銭)、六造銭	110-10	
2	Nb-146	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.4	2.9g	寛永通寶(古寛水銭)、六造銭	110-11	
3	Nb-140	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.3	3.1g	寛永通寶(古寛水銭)、六造銭	110-12	
4	Nb-142	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.6g	寛永通寶(古寛水銭)、六造銭	110-13	
5	Nb-143	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.3g	寛永通寶(新寛水銭)、文銭、六造銭	110-14	
6	Nb-141	10E-SK9・棺内	銅製品・銭貨	ほぼ完形	2.3	1.9g	文字磨滅・種別不明、六造銭	110-15	
7	L-193	10E-SK9・棺内	木製品・数珠	完形	0.6~0.9	厚0.8	他に破片1点	110-19	
8	Nb-158-1	10E-SK9・棺内	銅製品・煙管置き	完形	5.8	大直径16 小口径11	8g	110-8	
9	Nb-158-2	10E-SK9・棺内	銅製品・煙管吸口	完形	7.1	大直径16 小口径11	6g	110-9	
10	L-194	10E-SK9・掘り方	木製品・提灯?	底板のみ	径8~7.5	0.2	多角形状の粗い楕円形、中心に穿孔1	110-16	
11	L-234	10E-SK9	木製品・棺桶	底板のみ			写真のみ	110-18	
12	L-235	10E-SK9	木製品・棺桶	側板2枚			写真のみ	110-17	

第193図 10E-SK9出土遺物

棺内の副葬品は寛永通寶6点、柳4点、鉄1点、煙管2点(雁首1・吸口1)、数珠玉(26点以上)である。掘り方からは箸2点、提灯の底板? 6点、筵の下からしゃもじ1点、木製の扨丁1点が出上している(表111、第191図)。

10E-SK9(第194・195図) 墓域東部の一段低い3a層下面で確認したが、上部は削平されている。10E-SK13・22を切り、SK6・7に切られている。掘り方は径95~105cm、残存する深さは50cmである。棺は木桶で下半部が遺存し、底径約55cm、蓋の一部が内部に落ち込んでおり、棺内には人骨が遺存していた。座臥屈葬と推定される。骨の鑑定では、性別の判定は難しいが年齢は壮年以上と推定されている。

棺内の副葬品は寛永通寶5点、種別不明の銭貨1点、数珠玉2点、煙管2点(雁首1・吸口1)である。掘り方からは提灯の底板? 1点が出上している(表111、第193図)。

10E-SK10(第201図) 整地層上面で確認した。掘り方は120×140cmの歪んだ円形であるが下端は方形で、深さ55cmである。棺は42×71cmの木箱で下半部が遺存し、深さは約30cmと推定される。木箱の蓋は内部に落ち込んでおり、内部には改葬された人骨が遺存していた。骨の鑑定では成人以上の男性と推定されている。

副葬品は寛永通寶6点である(表111、第200図1~6)。

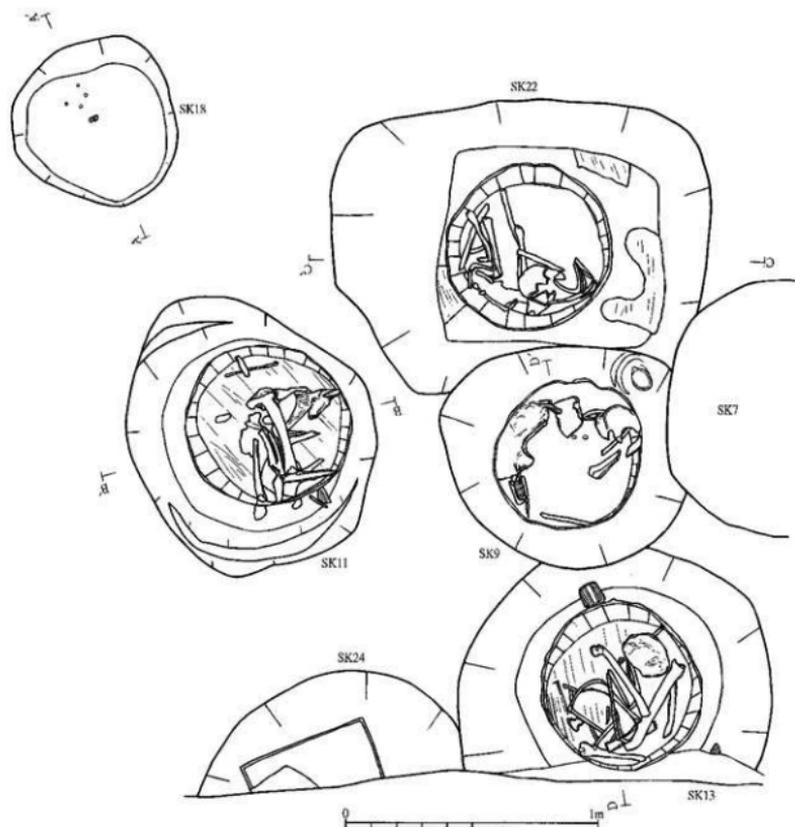
10E-SK11(第194・195図) 整地層上面で確認した。10E-SK5に上半分を切られている。掘り方は径90~100cmの円形で、深さは60cmである。棺は木桶で下半部が遺存し、底径約60cm、蓋の一部が内部に落ち込んでおり、棺内には人骨が遺存していた。座臥屈葬である。骨の鑑定では男性で、年齢は成人段階と推定されている。

棺内の副葬品は銭貨6点(錆化が激しく種別不明)、煙管2点(雁首1・吸口1)、柳2点、数珠玉(89点以上)である。掘り方からは提灯の底板? 1点が出上している。同化できたのは煙管など7点である(表111、第197図)。

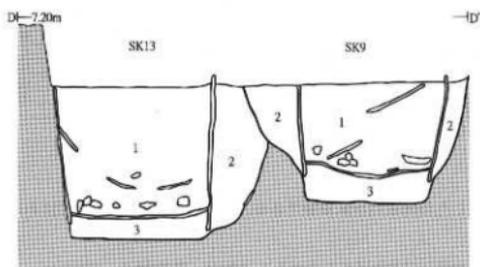
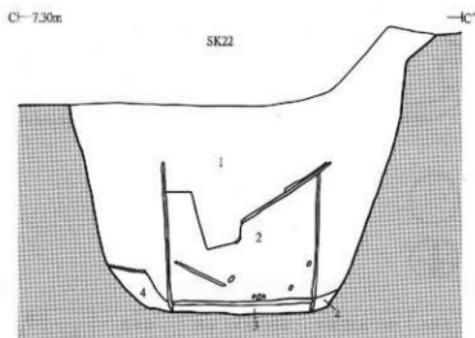
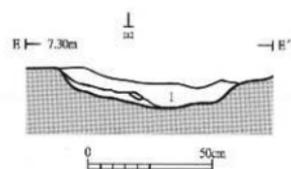
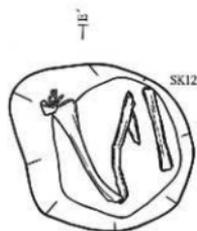
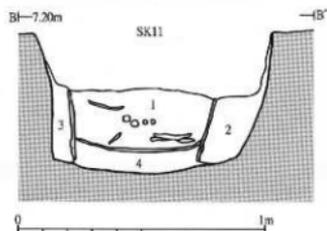
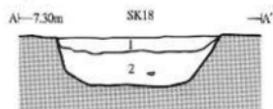
10E-SK12 (第196図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。墓地の区画溝10E-SD2に切られている。棺は確認できなかったので上坑墓と推定される。墓坑は70×80cmの楕円形で、残存する深さは15cmである。人骨は四肢骨と歯が遺存していたが、副葬品は認められなかった。

10E-SK13 (第194・195図) 整地層上面で確認した。10E-SK9に北端部を切られている。掘り方は径120cmの円形で、残存する深さは65cmである。棺は木桶で上部は失われている。底径約57cm、側板は20枚で、蓋の一部が内部に落ち込んでおり、棺内には人骨が遺存していた。座臥屈葬である。骨の鑑定では男性の可能性が高く、壮年程度と推定されている。

棺内の副葬品は寛永通寶6点で、掘り方からは提灯の底板と考えられる板2点が引出ししている(表111, 第198図)。
10E-SK14 (第201図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。掘り方は80×120cmの楕円形で、深さ35cmである。棺は40×70cmの木箱で、深さは25cmと推定される。木箱の蓋は内部に落ち込んでおり、改葬された人骨が遺存していた。



第194図 10E-SK9・11・13・18・22・24 平面図



層位	色調	土質	炭化物・その他
SK18	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色細砂多量、炭化物少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・砂少量
SK11	1 10YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
	2 2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物少量
	3 2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
SK22	1 2.5Y3/1 黒褐色	シルト	灰オリーブ色砂ブロック多量
	2 10YR3/1 黒褐色	粘土	暗オリーブ灰色砂ブロック少量
	3 7.5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	
	4 5Y2/1 黒色	粘土	産砂多量
SK13	1 7.5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	褐色シルトブロック・炭化物少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土	
	3 10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	産砂多量
SK9	1 7.5YR3/1 黒褐色	粘土	濃褐色粘土・黒色粘土ブロック・炭化物少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	産砂多量
	3 10YR3/2 黒褐色	粘土	暗緑灰色砂ブロック少量

第195図 10E-SK9・11・13・18・22 断面図

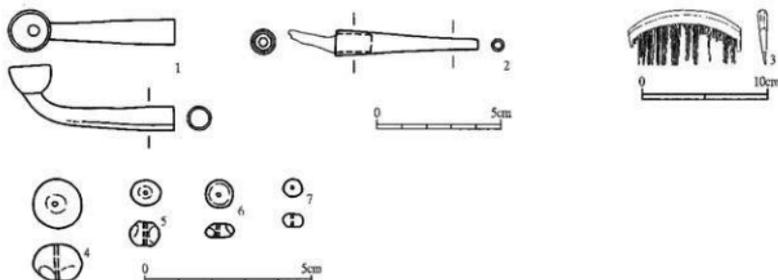
層位	色調	土質	炭化物・その他
1	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	新褐色砂質シルトブロック多量、炭化物少量

第196図 10E-SK12 平面・断面図

骨の鑑定では、性別は不明であるが成人以上と推定されている。

副葬品は寛永通寶5点と北宋銭1点、柳1点で、銭貨6点が腐化できた(表III、第202図1~6)。

10E-SK15(第201図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。10E-SX1と墓地の区画溝10E-SD1に切られている。棺は確認できなかったので土坑墓と推定される。墓坑は90×125cmの楕円形、残存する深さは45cmで、人骨は頭部を北



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 素材	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					高さ	幅	厚さ		
1	NS-104D	10E-SK11・棺内	銅製品・棒状	変形	5.7	太径17	小口径10	8g	111-7
2	NS-104E	10E-SK11・棺内	銅製品・棒状	変形	5.8	重口径0.5	小口径10	4g	内部に腐字残存
3	J-473	10E-SK11・棺内	木製品・棒	3/4	9.0	4.4	0.7		111-8 111-9
4	L-195	10E-SK11・棺内	木製品・数珠	変形	1.5	1.2			
5	L-195	10E-SK11・棺内	木製品・数珠	変形	0.9	0.8		他に、同様のものの変形が55点、破片が19点ある	111-10
6	L-195	10E-SK11・棺内	木製品・数珠	変形	0.8	0.4		他に、同様のものの変形が6点ある	
7	L-195	10E-SK11・棺内	木製品・数珠	変形	0.6	0.4		他に、同様のものの変形が5点ある	
8	L-236	10E-SK11	木製品・棺桶	底板のみ				写真のみ	111-11

第197図 10E-SK11出土遺物

にした西向きの横臥屈葬である。骨の鑑定では、男性的ではあるが断定できず、年齢は成人以上と推定されている。

副葬品は寛永通寶6点である(表111、第202図7~12)。

10E-SK16(第201図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。10E-SX1に切られている。行本を棺の代わりとしている。墓坑は80×120cmの長方形、残存する深さは45cmで、人骨は頭部を北にした西向きの横臥屈葬である。骨の鑑定では、成人以上であるが性別の判定は不明であった。

副葬品は寛永通寶6点である(表111、第202図13~18)。

10E-SK18(第194・195図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。棺は確認できなかったので土坑墓と推定される。墓坑は径65cmのやや歪んだ円形で、残存する深さは20cmである。骨はなく歯のみが遺存していた。鑑定では小児段階の骸骨と推定されている。

副葬品は銭貨6点であるが錆のため図化はできなかった(表111)。

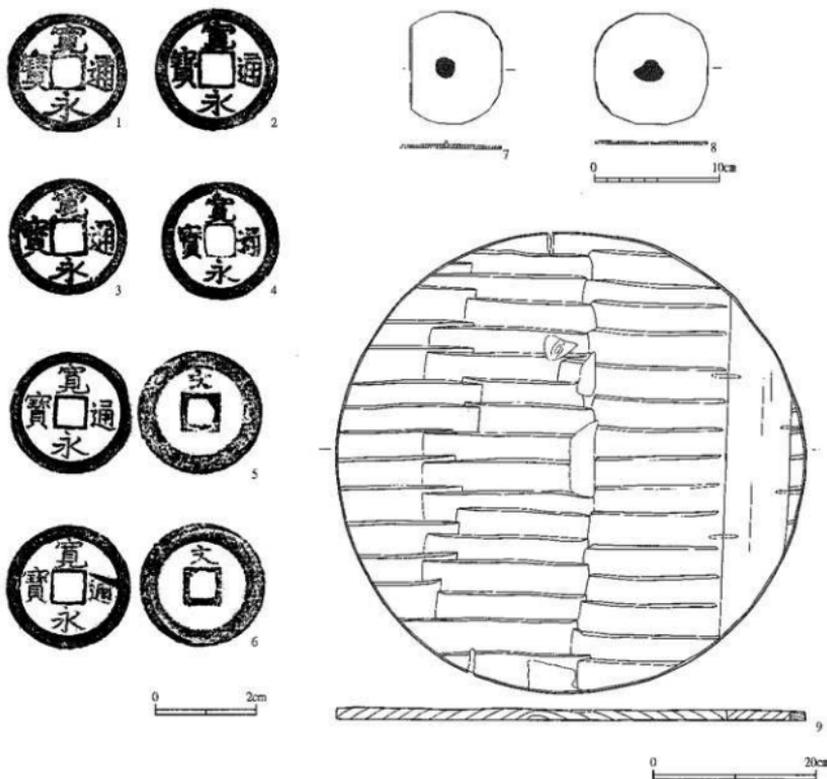
10E-SK22(第194・195図) 整地層下のⅢ層上面で確認した。10E-SK6・7・9に切られている。掘り方は径120~150cmの方形で、残存する深さは110cmである。棺は木桶で、蓋が内部に落ち込んでいる他はほぼ完形に近い。底径56cm、高さ65cmで、側板は22枚ある。蓋の上には草鞋が1足置かれていた。棺内には人骨が遺存し、床臥屈葬で北面していた可能性がある。骨の鑑定では、壮~熟年程度の女性とされている。

棺内の副葬品は寛永通寶6点、しゃもじ1点、木製の刀子1点である。掘り方からは箸2点が出土した。なお、掘り方底面には筵の残片が認められた。(表111、第199図)。

10E-SK23(第205図) 整地層下のⅢ層上面で確認したが、調査区の南壁際に位置するため部分的な調査に留まっている。上半部を10E-SX1に切られている。棺は確認できなかったので土坑墓と推定される。墓坑は東西75cm、残存する深さは13cmである。人骨は一部を確認できたのみで、骨の鑑定では成人と考えられるが性別は不明であった。

副葬品は寛永通寶6点、北宋銭1点、漆器椀1点がある(表111、第206図)。

10E-SK24(第194図) 壁地層上面で確認したが、調査区の南壁際に位置するため部分的な調査に留まっている。掘り方は径110cm前後で底面に木箱を確認したが、危険防止のためそれ以上の精査は行わなかった。

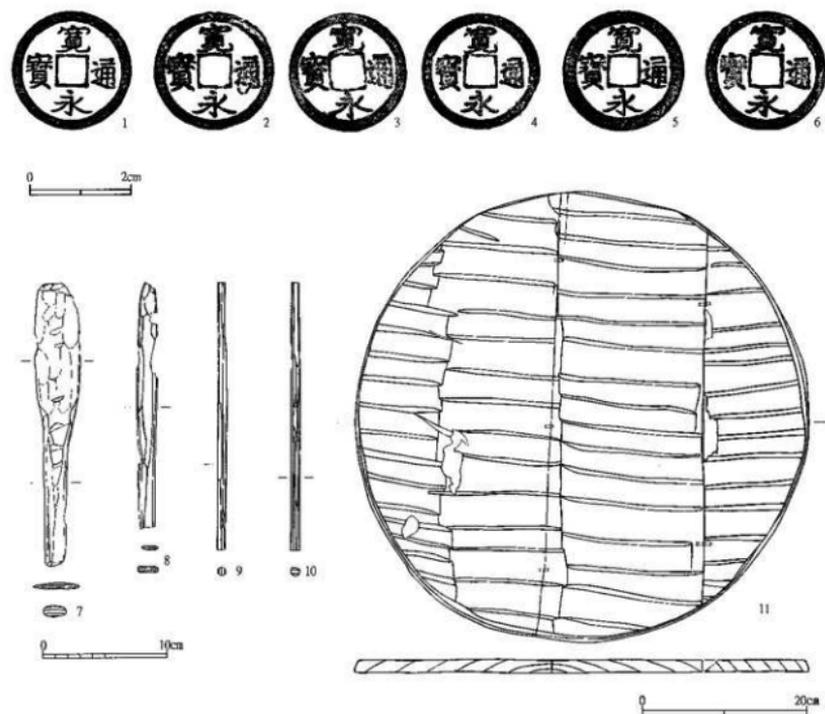


No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 銅種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図録	
					径	重量			
1	N-112	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.4	4.6g	寛永通寶(古寛永銭)・六通銭	111-12	
2	N-115	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.5g	寛永通寶(古寛永銭)・六通銭	111-15	
3	N-114	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.4	3.7g	寛永通寶(古寛永銭)・六通銭	111-14	
4	N-116	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.4	3.3g	寛永通寶(新寛永銭)・六通銭	111-15	
5	N-113	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.7g	寛永通寶(新寛永銭)・文銭、六通銭	111-16	
6	N-111	10E-SK13・棺内	銅製品・銭貨	完形	2.5	4.0g	寛永通寶(新寛永銭)・文銭、六通銭	111-17	
7	L-197	10E-SK13・掘り方	木製品・環釘?	底板のみ	9.6	0.3	多角形状の粗い円形、中心に穿孔し、遺留物あり	111-8	
8	L-196	10E-SK13・掘り方	木製品・環釘?	底板のみ	9.0	0.2	多角形状の粗い円形、中心に穿孔し、遺留物あり	111-9	
9	L-312	10E-SK13	木製品・棺椁	既板	57.4	1.5	既板、3枚を竹釘で結合	111-21	
10	L-312	10E-SK13	木製品・棺椁	側板20枚	長さ 56~67	幅 14.5~17.0	厚さ 0.8~1.2	写真のみ	111-20

第198図 10E-SK13出土遺物

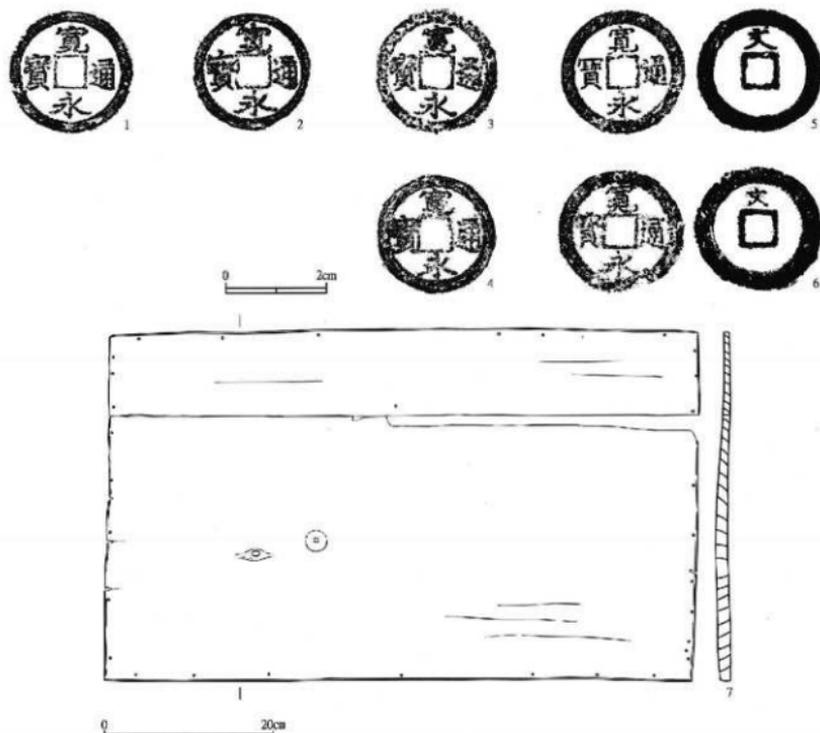
10E-SK25 (第201図) 整地層上面で確認した。南端部を10E-SX11に切られている。掘り方は長方形で70×85cm以上、深さ45cmである。棺は42×71cmの木棺で、深さは25cmと推定される。木箱の蓋は内部に落ち込んでおり、改葬された人骨が遺存していた。骨の鑑定では、成人であるが性別は不明であった。

棺内の副葬品は寛永通寶6点、煙管2点(雁首1・吸口1)、銅製ブローチ1点、数珠玉40点以上、櫛4点、拵1点で、棺外からは漆器碗1点が出土した(表111、第203・204図)。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 副葬	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					径	重量	厚さ		
1	Nb-132	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.4	3.8g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-19
2	Nb-128	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.4	2.9g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-20
3	Nb-129	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.4	3.3g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-21
4	Nb-130	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.3	3.6g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-22
5	Nb-127	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.4	3.2g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-23
6	Nb-131	10E-SK22・棺内	銅製品・銭貨	完全形	2.4	3.4g		寛永通寶(古寛永銭)、六造銭	112-24
7	L-200	10E-SK22・棺内	木製品・しゃもじ	ほぼ完全形	23.2	1.8~3.6	0.5~0.9		112-25
8	L-201	10E-SK22・棺内	木製品・刀子	完全形、刃部欠損	20.4+	1.6	0.2~0.9		112-26
9	L-198	10E-SK22・掘り方	木製品・箸	完全形	22.0	0.8	0.7		112-27
10	L-199	10E-SK22・掘り方	木製品・箸	完全形	22.0	0.8	0.7		112-28
11	L-315	10E-SK22	木製品・棺蓋	断破のみ	径55.0	厚1.8		底板、3枚を竹釘で結合	112-30
12	L-316	10E-SK22	木製品・棺蓋	断破22枚	(64~65)	4.5~12.5	0.7~1.6	写真のみ	112-29

第199図 10E-SK22出土遺物

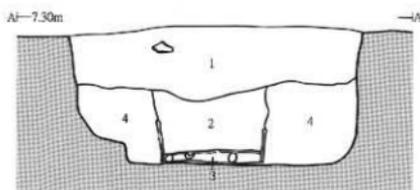
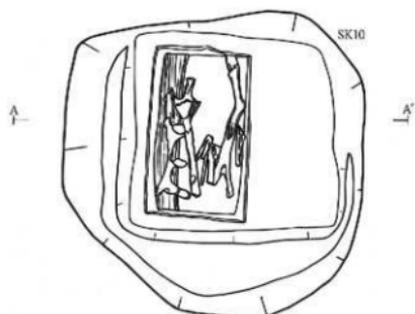


No	発掘No	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			類型・特徴	写真 図版
						径	厚さ	重量		
1	Nb-134	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.6g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	111-1	
2	Nb-135	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.1g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	111-2	
3	Nb-136	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.5g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	111-3	
4	Nb-138	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.8g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	111-4	
5	Nb-133	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.1g	寛永通寶(新寛永銭)、文銭、六道銭	111-5	
6	Nb-137	10E-SK10・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.3g	寛永通寶(新寛永銭)、文銭、六道銭	111-6	
7	L-315	10E-SK10	木製品・棺箱	蓋欠損	長さ	幅	厚さ	炭灰	側板2枚	無し
					70.5	42.4	1.3			
					70.5	12.6	1.0			
					39.6	7.5・8.7	0.9			
								側板2枚	無し	

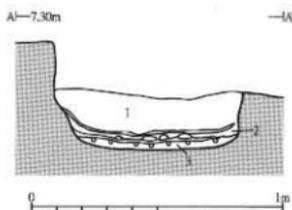
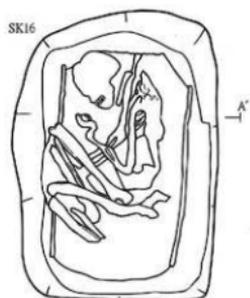
第200図 10E-SK10出土遺物

10E-SK11 確認状況

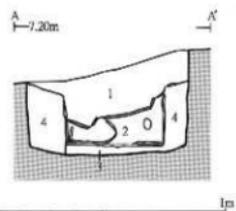
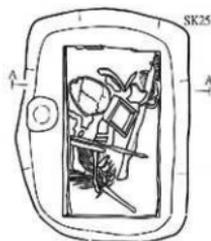
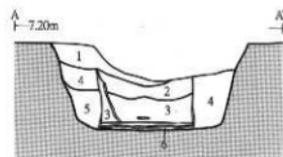
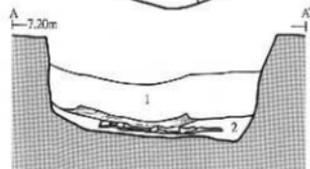
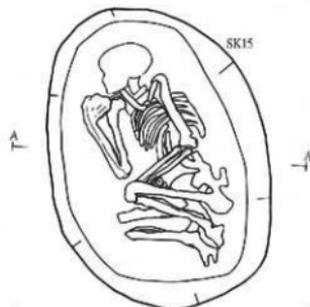




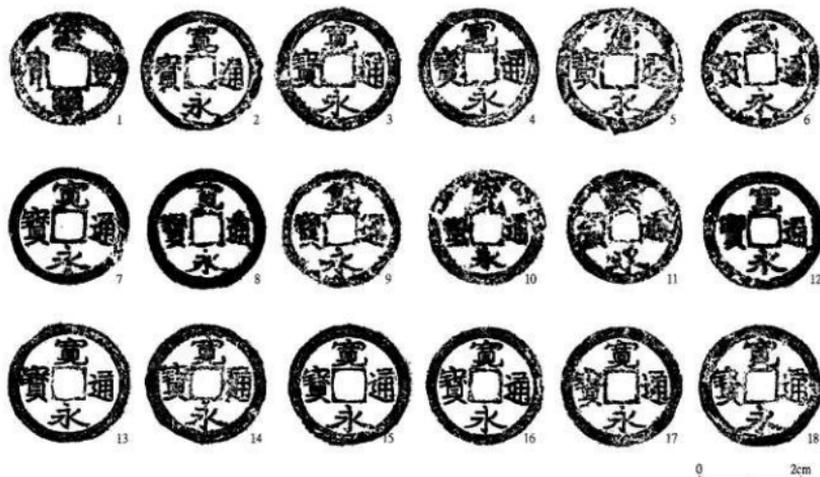
層位	色調	土質	遺入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒色シルトブロック多量、炭化物・燧少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	
3	10YR2/1 黒色	粘土	
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒色シルトブロック、炭化物少量



層位	色調	土質	遺入物・その他
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	砂ブロック少量
2	10YR2/1 黒色	粘土	
3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	



第201図
10E-SK10・14~16・25 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法 (cm)		調査・特徴	写真 図版
						径	重量		
1	Nb-117	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.3	2.5g	元龜通寶(北平・初期1028年)、六道銭	112-1	
2	Nb-122	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.5	3.5g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-2	
3	Nb-120	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.5	3.7g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-3	
4	Nb-118	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.5g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-4	
5	Nb-121	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.5	3.1g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-5	
6	Nb-119	10E-SK14・本箱内	銅製品・銭貨	定形	2.4	2.7g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-6	
7	Nb-100	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.7g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-7	
8	Nb-103	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.6g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-8	
9	Nb-98	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.2g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-9	
10	Nb-102	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	2.5g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-10	
11	Nb-99	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.2g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-11	
12	Nb-101	10E-SK15	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.2g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-12	
13	Nb-105	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.7g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-13	
14	Nb-110	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.9g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-14	
15	Nb-106	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.7g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-15	
16	Nb-108	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.4	4.0g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-16	
17	Nb-107	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.4	3.6g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-17	
18	Nb-109	10E-SK16	銅製品・銭貨	定形	2.5	3.2g	寛永通寶(古寛永銭)、六道銭	112-18	

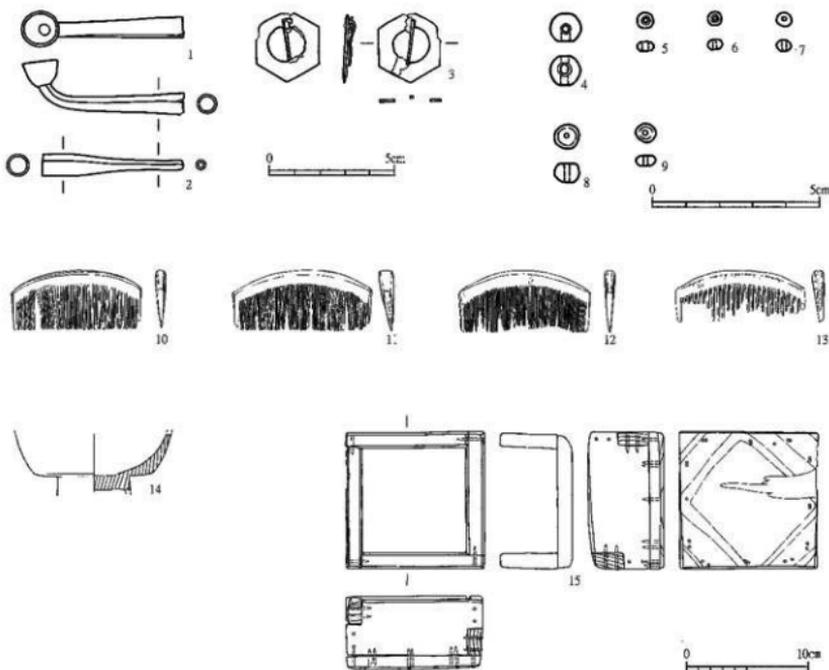
第202図 10E-SK14～16出土遺物

層位	色調	材質	顔人物・その他
SK15	1 10YR5/1 黒褐色	シルト	灰オリーブ色砂ブロック少量
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰オリーブ色砂ブロック少量
SK14	1 10YR5/2 黒褐色	シルト	炭化物少量
	2 10YR5/7 灰褐色	砂質シルト	
	3 2.5Y4/1 黄褐色	砂質シルト	
	4 2.5Y2/1 黄褐色	シルト	砂粒多量
	5 10YR5/3 黒褐色	シルト	
	6 10YR1.7/1	黒色 粘土	
SK25	1 10YR5/1 黒褐色	シルト	炭化物・砂粒少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	3 10YR2/1 黒色	粘土	
	4 10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物・砂粒少量

(第201図の土層註記表)

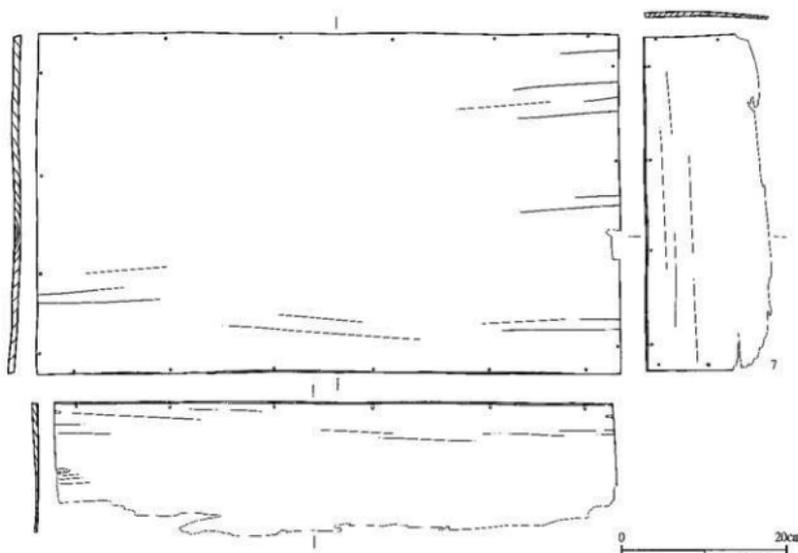
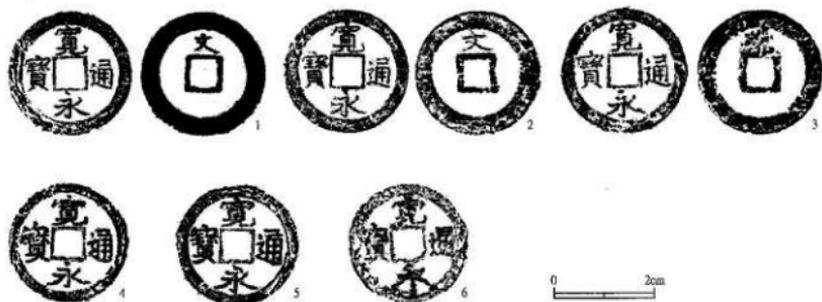
10E-SK29 10E-SX1の底面を確認した。木箱を確認したが、危険防止のためそれ以上の精査は行わなかった。

(4)その他の遺構 南壁際に10E-SX1がある。東西長30m、深さ30cmの大きな窪みでII層が堆積していた。土師器片や陶器片などが出土している(表111)。



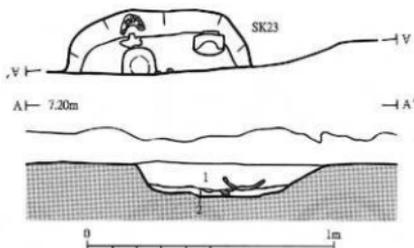
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Nb-167(2)	10E-SK25・木箱内	銅製品・鍍金環首	ほぼ完形	6.7	火黒径1.5	小口径0.9	(5g±)	113-9
2	Nb-167(2)	10E-SK25・木箱内	銅製品・鍍金環首	完形	5.9	黒口径0.6	小口径0.9	4g	113-10
3	Nb-168	10E-SK25・木箱内	銅製品・ブローチ	ほぼ完形	2.9	2.6	0.08	六角形、中心に径1.5cmの孔	113-11
4	ガ5	10E-SK25・木箱内	ガラス製品・数珠	完形	0.9	0.9	1.3g	半透明、断面からも穿孔	
5	ガ6	10E-SK25・木箱内	ガラス製品・数珠	完形	0.5	0.3	0.1g	半透明	
6	ガ7	10E-SK25・木箱内	ガラス製品・数珠	完形	0.4	0.3	0.1g	やや白濁	113-12-17
7	ガ8	10E-SK25・木箱内	ガラス製品・数珠	完形	0.5	0.4	0.1g	黄色がかかった半透明	
8	L-203	10E-SK25・木箱内	木製品・数珠	完形	0.8	0.6			
9	L-203	10E-SK25・木箱内	木製品・数珠	完形	0.6	0.3			
10	L-209	10E-SK25・木箱内	木製品・櫛	ほぼ完形	10.8	4.8	0.8		113-18
11	L-206	10E-SK25・木箱内	木製品・櫛	ほぼ完形	11.0	4.9	1.0		113-19
12	L-207	10E-SK25・木箱内	木製品・櫛	ほぼ完形	10.4	5.0	0.8		113-20
13	L-208	10E-SK25・木箱内	木製品・櫛	歯先欠損	10.3	4.2±	0.9		113-21
14	L-204	10E-SK25・掘り方	木製品・漆器椀	3/4	底径(6.0)			内外面赤漆、フタ内	113-22
15	L-205	10E-SK25・木箱内	木製品・拵	ほぼ完形	辺11.4	6.1		内法 辺8.8×深4.7、容積2台、木釘結合	113-23

第203図 10E-SK25出土遺物 (1)



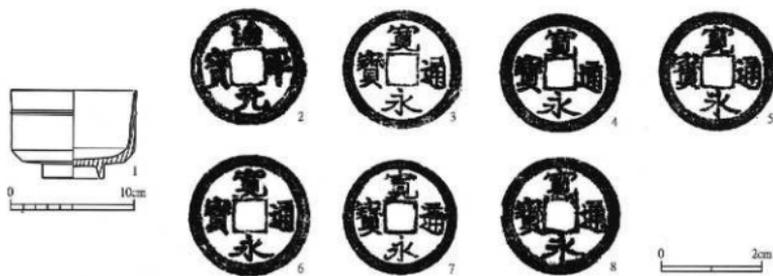
No.	発掘點	地区・遺構・層位	種別(産地)別種	遺存度	法量 (cm)		調査・特徴	写真 図版	
					径	重量			
1	Nb-169	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.9g	寛永通寶(新寛永銭)・文銭、六通銭	113-24	
2	Nb-170	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5	4.1g	寛永通寶(新寛永銭)・文銭、六通銭	113-25	
3	Nb-171	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.8g	寛永通寶(新寛永銭)・文銭、六通銭	113-26	
4	Nb-173	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.4	3.1g	寛永通寶(新寛永銭)・六通銭	113-27	
5	Nb-172	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.1g	寛永通寶(古寛永銭)・六通銭	113-28	
6	Nb-174	10E-SK25・木箱内	銅製品・銭貨	劣形	2.4	2.7g	寛永通寶(古寛永銭)・六通銭	113-29	
7	L-314	10E-SK25	木製品・棺箱	蓋欠損	長さ	幅	底板 銅板2枚(1枚は写真のみ) 銅板2枚(1枚は写真のみ)	113-30	
					21.0	41.8			1.0
					68.0・68.5	15.8・15.5			0.8
					41.0	15.4・15.0			0.8

第204図 10E-SK25出土遺物 (2)



第205図
10E-SK23 平面・断面図

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR2/1黒色	シルト	砂粒・炭化物少量
2	10YR2/1黒色	粘土	



No.	発見No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口徑	底径	器高		
1	L-202	10E-SK23	木製品・漆器類	36	10.2	5.0	7.2	内外面赤漆、ケヤキ	113-1	
2	Nb-160	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.3		2.8g	治平元寶(北条・初建1064年)、六通銭	113-2	
3	Nb-164	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.0g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-3	
4	Nb-165	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.1g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-4	
5	Nb-162	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.8g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-5	
7	Nb-161	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.6g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-6	
7	Nb-166	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.3		2.0g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-7	
8	Nb-163	10E-SK23	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.9g	寛永通寶(古寛永銭)、六通銭	113-8	

第206図 10E-SK23出土遺物



10E-SK22

(4)性格不明遺構

10E-SX1(第184図) 南西部に位置する不整形の落ち込みで、東西30m、南北7m以上ある。深さは15~25cmで、地積土は基本層Ⅱ層が入り込んでいた。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、近世の磁器など80点と多数の焼骨で、図化できたのは肥前産の筒茶碗1点である(第187図5)。

第2節 IVa層の遺構(1)～IVa3・4期

1. 遺構の概要

10区は城館中心部のやや北寄りを通北から60°西傾して横切る調査区である。城館の主軸方向は真北から約30°東傾しているため、調査区は城館の主軸と直交する方向となっている。城館の中心からは外れているが、中央の曲輪を含む東西両側の曲輪の北辺の掘りすべてが調査区にかかる。

10A区ではIVa3期に整備されたと考えられる城館の外堀SD1001が南北方向に走り、その東側には堀で区画された曲輪が10E区まで連続している。外堀以外で曲輪を区画する堀跡のうち南北方向のもの(10B区のSD1002、10C区のSD1003、10D区のSD1007)はIVa2期から同じ位置にあると指定され、これに対して東西方向のもの(10A～10B区のSD1008、10B～10C区のSD1006、10C～10D区のSD1004B・C、10E区のSD1015・SD1005A)はこの時期に新しく掘られたか、あるいは場所をずらして掘りなおされたものである。

各曲輪内では掘立柱建物跡、柱列跡、井戸跡、土坑などが検出されている。IVa4期は掘立柱建物跡22棟、柱列跡4条、IVa3期には外堀の西側も含めて掘立柱建物跡15棟、柱列跡14条が検出されている。建物方向はIVa3期には城館の主軸から若干東に振れて(真北からは32°～39°東傾)いるが、IVa4期は城館の主軸からは大きく東に傾いて(真北からは43°西傾～5°東傾)いる。井戸跡は時期を確定するのが困難であるが、この時期に伴う可能性があるものも含めると約10基ある。土坑も時期不明なものが大部分であるが、10A区のSD1001の西側と10B区のSD1006の南側に約30基が集中し、10C～10E区には10基程度が散在している。

2. 10A区～10B区西部の遺構と遺物

10A区～10B区西部にかけては城館の主軸方向の堀跡SD1001・1002とそれに直交する方向の堀跡SD1008があり、これらの堀に囲まれて曲輪が形成されている。SD1008の北側の曲輪の東西長は25～28mである。曲輪内部では堀の近くのIV層上に整地層(ブロック土)が認められたが、整地層上面で確認できた遺構は少なく、10A～SK2のみである。IVa層上面からは掘立柱建物跡7棟、柱列3条、土手1条、土坑数基が検出され、SD1001の西側で曲輪の外に相当する箇所でも掘立柱建物跡5棟、柱列3条、土手1条、土坑17基が検出されている。

(1)溝跡

SD1001(第207・210・212図) 10A区中央を横断する堀で、幅9.5～11.5mである。西側1/3は浅く平坦で深さは50cm程度であるが、この浅い部分の底面は溝の埋没後に利用された3a層水田の耕作土下面と一致することから、3a層水田の経営期に拡張された部分である可能性がある。東側2/3は一段深くなっており、断面形は浅い「U」字形で、深さは1.8mである。また、最深部の底面には幅0.5～1.0mで周囲よりもさらに10cm程度低い溝状の部分がある。堆積土は3期に大別できることから少なくとも2回の改修があったと考えられる。最終期の上層(第212図①・②層)は人為的に埋め戻されている。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器類を中心に約900点出土した(表107)。図化できたのは近世のものも含めた国産の陶磁器や瓦質土器、中国産の青磁・白磁、石製品、金属製品などである(第211・213図)。

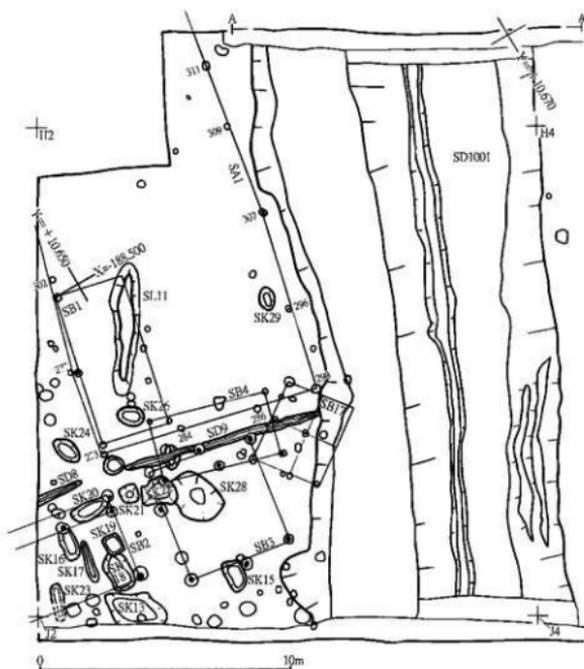
SD1002(第208図) 10B区を横断する堀で、東西方向のSD1006・1008と接続している。幅3.5～4.5m、深さ1.3mで、断面形は逆台形である。調査区北壁際の底面には幅60～70cmで周辺よりも20～30cm高い障壁状の高まりがある。また、底面にはSD1001同様に幅50～60cmの溝状の部分があり、周辺よりもさらに10～20cm程度低い。また60×190cmの楕円形で深さ50cmの土坑状の窪みが伴っている。この底面の溝はSD1002の上端がやや弧を描くのに対して直線的で、障壁状の高まりの東側を通過している。堆積土は自然堆積層であるが、断面図作成予定の調査区北壁が崩落したため断面図は掲載できなかった。

遺物はSD1001ほど多くはないが、土師器・須恵器・中世陶器類を中心に約360点出土した(表108)。図化できたの

は国産や中国産の陶磁器類、茶臼や石鉢などの石製品、下駄などの木製品である(第214~216図)。

木製品L-472(第216図1)は表裏から交互に方形の窪みが穿たれ、窪みの底面には小さな円孔が開けられている。用途は不明である。

SD1008(第208・209図) 10A区~10B区の南壁際にある堀で、東端でSD1002と接続している。幅3.0~3.5m、深さ1.5m、掘削時の長さは24.5mである。断面形は上部が浅い「U」字形だが、下部が逆台形のため途中に明瞭な段が付く。堆積上も段から下は自然堆積層であるが上層は人為的な埋め土であり、段の付近で分層できることから上半分は掘りなおされている可能性がある。堀の東西両側は南北の山輪間を結ぶ通路であったと考えられる。西端部とSD1001との間隔は当初1.2mしかないが最終的には西端部が2m程埋め立てられ



第207図 10A区西部 IVa層上面平面図 (IVa3・4期)

(第208図アミ点部分)、通路幅は3.5mに広げられている。東端はSD1002との間隔が2mで、北東隅から幅1m、深さ25cmの浅い溝が通路部分を横断してSD1002と接続しているが、通行は可能と考えられる。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器類を中心に約400点出土した(表107・108)。図化できたのは国産の陶器や中国産の磁器、茶臼や砥石などの石製品、折敷の破片、釘などの鉄製品などである(第217・218図)。

第218図5の火打石と推定される遺物は石英の縁辺部が打撃によって潰れているもので、断定はできないがその可能性が考えられる。

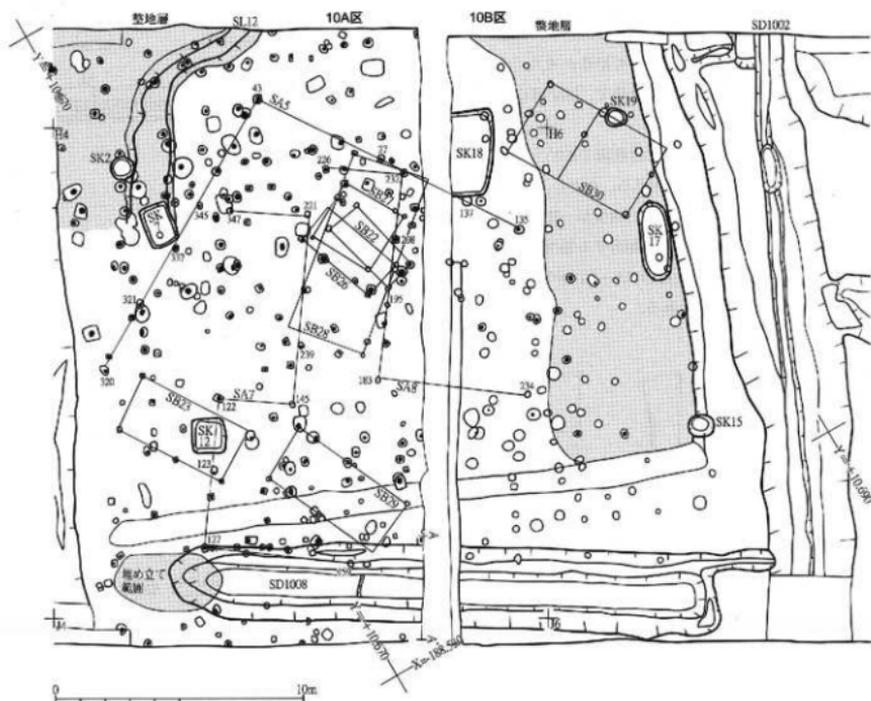
10A-SB8・9(第207図) SD1001の西側に位置する。10A-SA1の南辺から約1m離れ、SA1に沿って東西方向に走ることから、SA1と同じくIVa3期の遺構と考えられる。時期を限定できるような出土遺物はない。

(2)土手

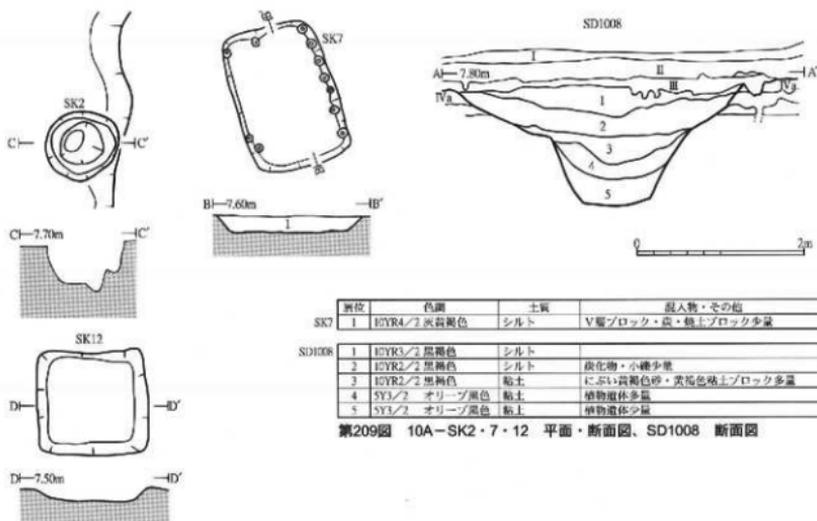
SD1001の西側で高さ10cm前後のS L 11、東側で高さ15cm前後のS L 12など小規模な土手を検出している。

(3)掘立柱建物跡・柱列跡

曲輪内部で確認された掘立柱建物跡・柱列跡のうち、城隍の主軸方向から大きく東に振れる(真北から14~40°西傾)掘立柱建物跡10A-SB22・23・26~29、10B-SB30と柱列跡10A-SA5がIVa4期に属すると考えられる。建物は重複しているので全てが同時期ではないが、曲輪の中央にやや規模の大きな10A-SB28が位置し、北東側の10B-SB30、南西側の10A-SB23・29を含めて全体として概ね均等な配置になっていることからこれらの4棟は同時期である可能性がある。なお、10A-SB28には10A-SA5が取り付く可能性があり、10A-SA5と10A-SB23・29で10A-SB28を囲

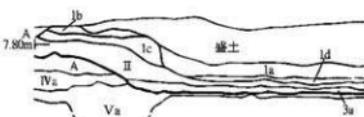


第208図 10A区東部～10B区西部 IVa層上面平面図 (IVa3・4期)



第209図 10A-SK2・7・12 平面・断面図、SD1008 断面図

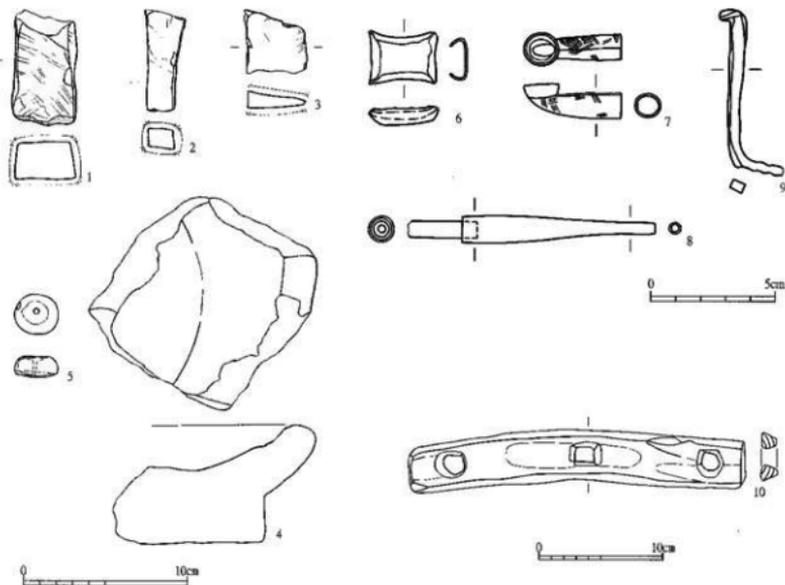
う配置とも見て取れる。中心となる10A-SB28は梁行1間で柱間3.2mの規模からすると厩の可能性が考えられる。10A-SB22・26・27はごく小規模な建物で、ほぼ同じ場所で建て替えられている。



第210図 SD1001 断面図(1)

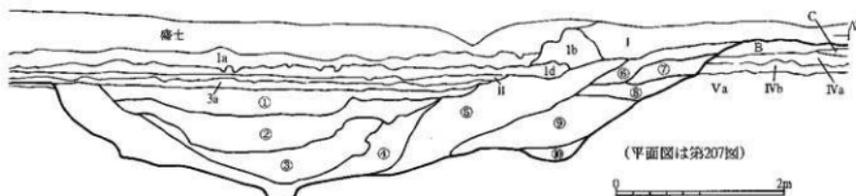
IVa3期の建物は曲輪内部では確認できず、並行する柱列跡2条(10A-SA7・8)のみである。ただし、10A-SA7北部の「コ」字状の部分は10A-SB28と規模が一致することから建物の一部である可能性がある。

SD1001の西側で曲輪の外に相当する箇所でも掘立柱建物跡5棟、柱列1条が検出されている。10A-SB1がIVa4期、10A-SB1~4とSB1を囲む10A-SA1がIVa3期と推定される。10A-SA1で囲まれる範囲は東西9.0m(30尺)、南北は不明であるが4m以上ある。



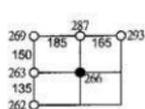
No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存状況	寸法(cm)			調整・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	K-55	10A-SD1001・下層	石製品・砥石	中央部のみ	6.9+	4.1	2.3	10g+, デイサイト	115-1
2	K-27	10A-SD1001・3a層	石製品・砥石	端部のみ	6.3+	2.5+	1.3	26g+, デイサイト質燧石	115-2
3	K-28	10A-SD1001・3a層	石製品・砥石	端部のみ	3.8+	3.9+	1.0	21g+, デイサイト質燧石	115-3
4	K-56	10A-SD1001・下層	石製品・茶臼下臼	1/6				69g+, 妻山岩	115-5
5	P-6	10A-SD1001・II層	土製品・土玉	ほぼ完形		径2.7	厚1.3	9g	115-4
6	Ns-42	10A-SD1001	銅製品・用途不明	ほぼ完形	2.6	1.7	0.7	2.4g	115-6
7	Ns-47	10A-SD1001・3a層	銅製品・燧石鑿窟	完形	3.9	水筒径4	小口径10	4g, 文様あり	115-7
8	Ns-43	10A-SD1001・下層	銅製品・燧石鑿窟	完形	7.8	水筒径4	小口径11	7.4g, 雄字の一部残存(径0.7cm)	115-8
9	Ns-86	10A-SD1001・中層	鉄製品・釘	9/10	7.9+	0.6	0.6	加曲, 端部径0.8cm, 5g	115-9
10	L-32	10A-SD1001・中層	木製品・板材	ほぼ完形	27.3	3.8	1.2	穿孔3箇所	115-10

第211図 SD1001出土遺物 (1)



層位	色調	土質	取人物・その他
Ia	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
Ib	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	(1層水田跡群)
Ic	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	(1層水田跡群)
Id	2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土	砂粒少量
I	10YR5/4 褐色	砂質シルト	
II	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
3a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	砂粒少量、(3a層水田跡)
A	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック・に 近い黄褐色シルトブロック多量、(埋地層)
B	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質粘土	に 近い黄褐色砂質シルトブロック少量、(埋地層)
C	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	(埋地層)
①	10YR5/3 に近い黄褐色	細砂	灰黄褐色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック多量、人為的な埋め土
②	2.5Y3/2 黒灰黄色 2.5Y5/2 暗灰黄色 5Y4/1 灰灰	粘土 粘土 細砂	人為的な埋め土 ブロックの存在
③	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色細砂ブロック少量
④	7.5Y4/2 灰オリーブ色 5Y2/2 オリーブ黒色 5Y3/2 オリーブ黒色	細砂 シルト質粘土 炭灰質粘土	取 集
⑤	2.5Y4/2 暗灰黄色 7.5Y5/1 灰色 2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト 細砂 粘土	
⑥	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	に 近い黄褐色シルトブロック・黒褐色粘土ブロック少量、砂粒少量
⑦	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	砂粒少量
⑧	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	炭化物少量
⑨	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	オリーブ黒色シルト質粘土ブロック・炭化物少量
⑩	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	炭化物少量

第212図 SD1001 断面図(2)



10A-SB17

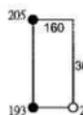
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
293	Va	38×9	37	?
287	Va	18×14	20	?
266	Va	21	19	10
269	Va	35	38	?
263	Vg	19	11	?
262	Va	24	25	?
規模	東西3.5m	南北2.85m		
柱間	東行1間	南行1間		
柱間	1.65m	1.85m	1.35m	1.50m
面積	10.2㎡	傾き	136° W	
備考	総柱、倉庫			

10A-SB22

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
196	Va	18×14	20	?
207	Va	18	11	?
219	Va	17	30	?
238	Va	28	22	14
規模	東西1.4m	南北3.3m		
柱間	東行1間	南行1間		
面積	4.6㎡	傾き	14° W	

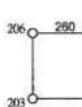
10A-SB23

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
116	Va	24	20	12
118	Va	19	10	?
119	Va	20	28	12
124	Va	17	20	10
25	IVa	40×?	35	?
規模	東西2.4m	南北4.7m		
柱間	東行1間	南行2間		
柱間	2.4m	2.05	2.65m	
面積	11.5㎡	傾き	133° W	



10A-SB26

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
193	Va	20×14	18	8
201	Va	19	12	?
205	Va	26×18	25	12
規模	東西1.6m	南北3.6m		
柱間	東行1間	南行1間		
面積	5.8㎡	傾き	20° W	



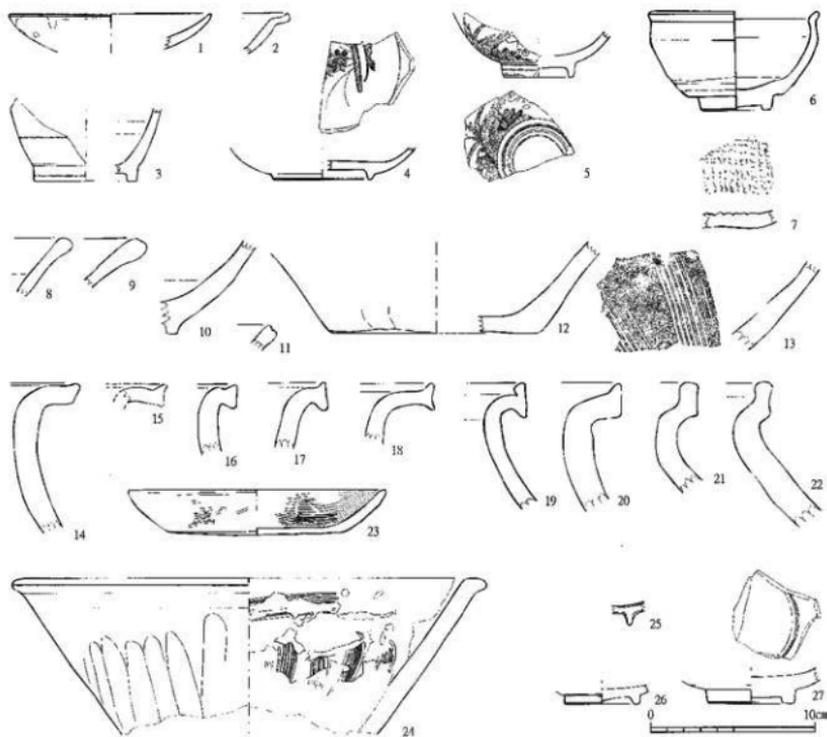
10A-SB27

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
203	Va	15	8	?
206	Va	13	11	?
224	Va	24	19	12
210	Va	12	23	?
規模	東西2.6m, 1間	南北2.7m, 1間		
面積	7.0㎡	傾き	30° W	

10A-SA5

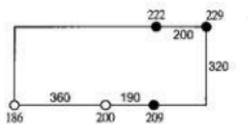
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
320	Va	18	40	8
321	Va	26	40	18
337	Va	32×26	26	13
345	Va	28×20	14	12
43	IVb	32×28	20	20
27	IVb	24	52	12
10B-137	IVb	34×30	23	9
10B-135	IVb	30	27	14
規模	東西12.1m (5間)	南北11.9m (4～5間)		
柱間	2.0～2.7m	2.5～3.8m		
傾き	60° E	33° W		

(図は第208図)



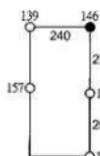
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(採地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	lc-146	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	土隔1/6					114-1
2	lc-145	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	口縁部小片					114-2
3	J-150	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	口縁部小片			(6.0)		114-4
4	J-149	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	底面1/3			(6.1)		114-5
5	J-188	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	口縁部小片			(4.3)		114-6
6	lc-150	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	口縁部小片					114-5
7	lc-159	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	皿	口縁部小片	10.4	4.3	6.2	大塚3期 灰釉、中層	114-7
8	lc-157	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	鉢	口縁部小片				ロク口調製、山形陶器系	114-8
9	lc-155	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	鉢	口縁部小片				ロク口調製、山形陶器系	114-9
10	lc-156	10A-SD:001・中層	陶器(唐津)	鉢	口縁部小片				ロク口調製、山形陶器系	114-10
11	lc-167	10A-SD:001・下層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調製	114-11
12	lc-165	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	片口鉢	底面1/5			(13.2)	外面ナデ、灰白色の自然釉、内面磨光	114-13
13	lc-168	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				外面ナデ、灰白色の自然釉、内面磨光	114-14
14	lc-163	10A-SD:001・下層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				口縁部ナデ、外面ナデ、底面ナデ、4式	114-15
15	lc-166	10A-SD:001・下層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	114-12
16	lc-143	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ、6型式	114-16
17	lc-164	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ、6型式	114-17
18	lc-144	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ、6型式	114-18
19	lc-531	10A-SD:001・上層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ、6型式	114-19
20	lc-161	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ロ・顔面ヨコナデ、体部ナデ、60型式	114-20
21	lc-158	10A-SD:001・中層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ロ・顔面ヨコナデ、体部ナデ	114-21
22	lc-162	10A-SD:001・下層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ヨコナデ	114-22
23	lc-162	10A-SD:001・下層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				ロ・顔面ヨコナデ、体部ナデ、外面黄褐色の自然釉	114-22
24	C-14	SD:001・丸層	土師器	・坏	1/3	(15.8)	(11.0)	2.9	口縁部ナデ、外面ナデ、底面ナデ、青灰ハツシガキ、黄色色釉	114-23
24	lb-9	10A-SD:001・下層	瓦質土器	・楕鉢	1/3	(28.8)			口縁部ナデ、体部外面ナデ 内面6本単位の縞目・縦熱による剥離状	114-24
25	J-163	10A-SD:001・下層	青磁(瀬戸系)	碗	底面小片				口縁部ナデ	114-25
26	J-11	10A-SD:001・中層	白磁(中国)	碗	底面1/3			(4.6)		114-26
27	J-40	10A-SD:001・中層	白磁(瀬戸系)	碗	底面1/2			(5.2)		114-27

第213図 SD1001出土遺物 (2)



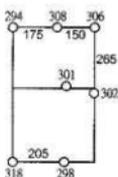
10A-SB28

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
186	Va	18×12	36	?
200	Va	24×18	13	?
209	Va	21	26	14
222	Va	23	35	9
229	Va	24	37	11
規模	東西2.6m	南北3.2m		
柱間	桁行(4間)	梁行1間		
柱間	(1.8)~2.0m	3.2m		
間幅	24.3m	横さ	40° W	



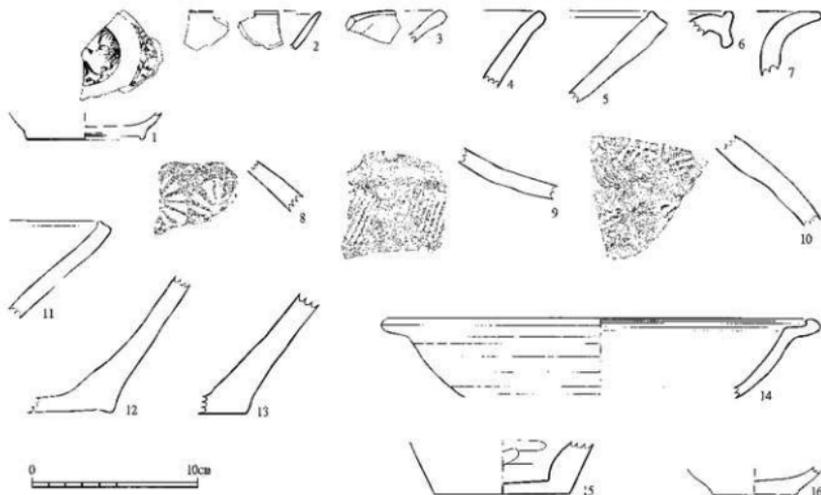
10A-SB29

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
139	Va	18	9	?
146	Va	58×52	41	20
176	Va	13	12	?
177	Va	19	26	?
187	Va	22×16	25	?
規模	東西2.4m	南北5.3m		
梁行間	桁行2間			
柱間	2.4m	2.6~2.7m		
間幅	12.7m	横さ	1.24° W	



10B-SB30

PNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
294	Va	30×20	20	?
308	Va	30×20	22	?
306	Va	22	20	?
302	Va	34×20	16	?
301	Va	19	15	?
298	Va	24×20	15	?
318	Va	26×22	?	?
規模	東西3.25m	南北5.5m		
梁行間	桁行2間			
柱間	1.2~2.1m	2.6~(3.0) m		
間幅	18.2m	横さ	30° W	
備考	P301は円柱切りの柱か?			

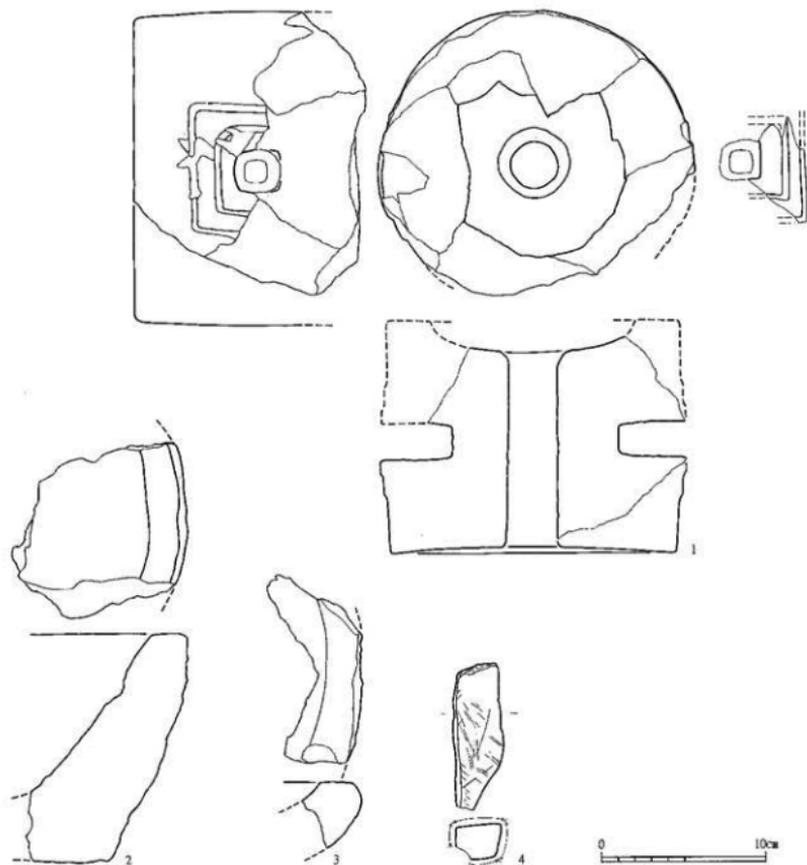


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法尺 (cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	J-45	10B-SD1002・I, II層	染付(肥前)	皿	底部1/3		(7.1)			116-22
2	I-158	10B-SD1002・下層	白磁(中国)	皿	口縁部小片				口先	116-23
3	Ic-195	10B-SD1002・I, II層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				口口口調整, 山茶碗底系	116-24
4	Ic-194	10B-SD1002・上層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				口口口調整, 山茶碗底系	116-25
5	Ic-198	10B-SD1002・上層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				11層ロウソク? 湾型? 灰白色の自然釉, 湾型? 7層式	116-26
6	Ic-191	10B-SD1002・I, II層	陶器	常滑	口縁部小片				ヨコナデ, 69型式	116-27
7	Ic-543	10B-SD1002・I, II層	陶器(常滑)	常滑	口縁部小片				ヨコナデ, 内面に灰色の自然釉	116-28
8	Ic-201	10B-SD1002・下層	陶器(常滑)	常滑	底部小片				ナデ, 菊花文押印	116-29
9	Ic-196	10B-SD1002・下層	陶器(常滑)	常滑	底部小片				ナデ, 菊花文押印, 内面磨減, 転用跡	116-30
10	Ic-302	10B-SD1002・下層	陶器(常滑)	常滑	底部小片				ナデ, 菊花文押印	116-31
11	Ic-200	10B-SD1002・上層	陶器(常滑)	常滑	口縁部小片				口口口(同転台) 調整, 内面磨減	116-32
12	Ic-199	10B-SD1002・上層	陶器(常滑)	常滑	口縁部小片				口口口(同転台) 調整, 内面磨減	116-33
13	Ic-193	10B-SD1002・I, II層	陶器(常滑)	常滑	口縁部小片				口口口(同転台) 調整	116-34
14	Ic-192	10B-SD1002・I, II層	陶器(古瀬戸)	新緑深帯	口縁部小片	(26.6)			灰釉, 中皿期	116-35
15	Ic-197	10B-SD1002・上層	陶器(古瀬戸)	梅瓶	底部1/4		(8.2)		灰釉, 中~皿期	116-36
16	Ic-16	10B-SD1002・I, II層	上野瓦	上野・小瓦	底部		5.0		口口口調整?, 磨減	116-37

第214図 SD1002出土遺物 (1)

(4)土坑

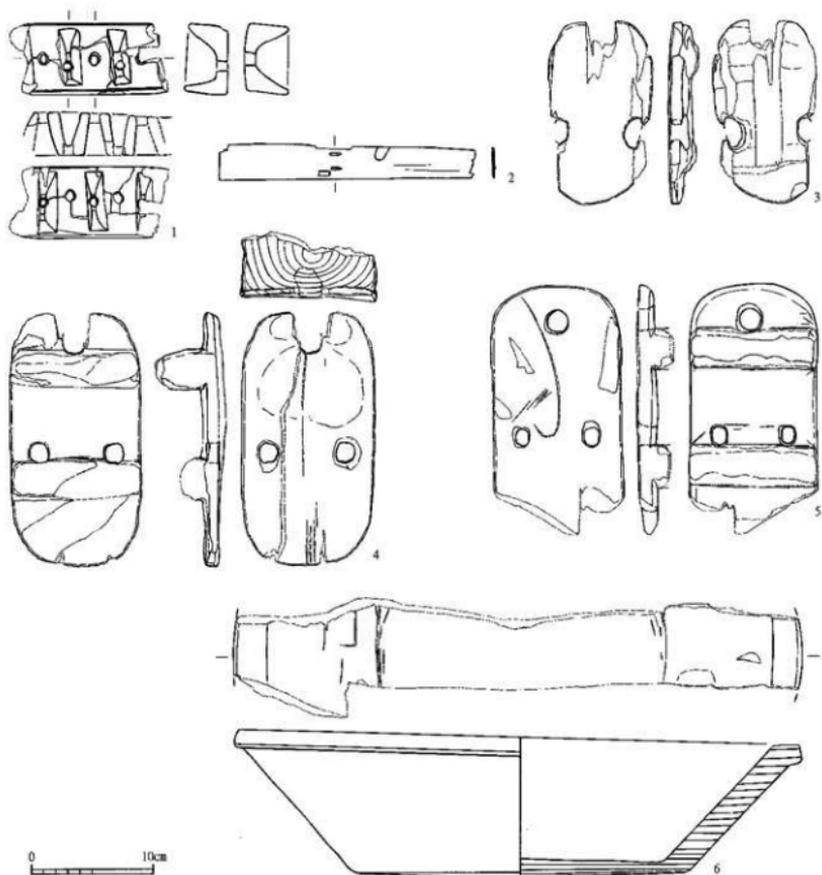
山輪内部では10A-SK2・7・12、10B-SK15・17～19が確認された。10A-SK2はIVa4期だが、他は時期を限定できない。SD1001の内側には10A-SK13～29がある(第219図)。この中で10A-SK14は規模が他と比べて大きく、10A-SB3の柱穴に切られていることと出土遺物からIVb層に伴う遺構として捉えている。そのほかの土坑は時期が限定できないためこの項で記載した。遺物は鉄製品が多く出土している(表107、第220図、註1)。城館内部のIVa3期の建



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)部種	遺存度	法長 (cm)		調整・特徴	写真 図録	
					口徑	底徑			
1	K-60	10B-SD1002・土層	石製品・赤白土白	2/3	17.5	13.5+	安山岩	117-1	
2	K-59	10B-SD1002・土層	石製品・石鉢	1/10		14.3	650mm+、安山岩	117-2	
3	K-57	10B-SD1002・土層	石製品・赤白土白	部分		4.0	170mm+、安山岩	117-3	
4	K-58	10B-SD1002・土層	石製品・灰石	端部のみ	長3.5	幅3.0	厚2.2	100mm+、デザイン・黄緑泥岩	117-4

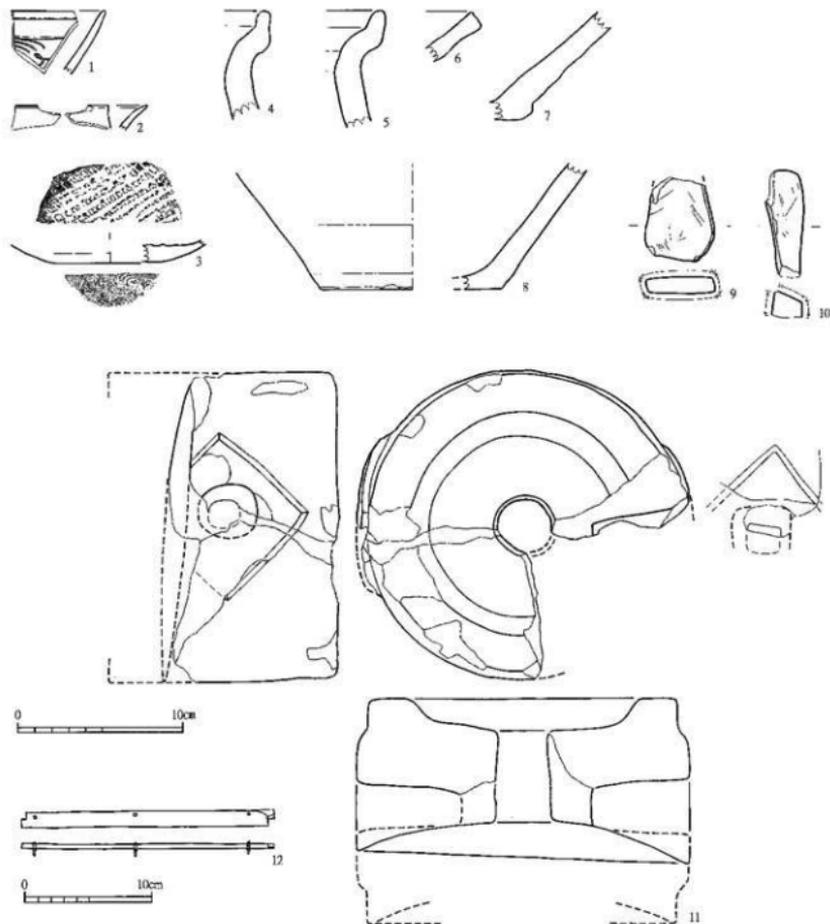
第215図 SD1002出土遺物 (2)

物は32～39°東傾しているのに対し、外堀SD1001の西側に位置する10A-SB1～4・10A-SA1は10～18°東傾するが、これはさらに西側に位置する第2次調査区におけるIVa3期の建物方向と一致している。このようにSD1001東側の城館内部とSD1001西側とはは建物方向の基準が異なっていたと考えられる。



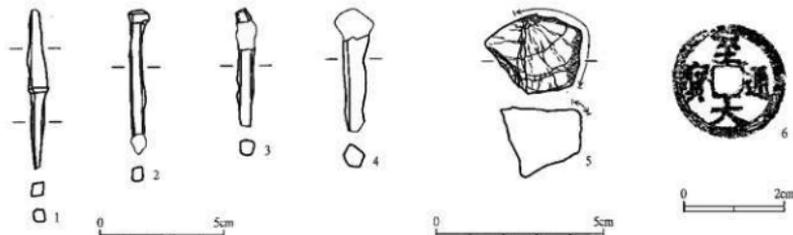
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地) 器種	遺存状況	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-472	10B-SD1002・上層	木製品・用途不明	部分	12.9+	5.9	3.6	角材、両面から交々に方彫の組みと円孔	117-5
2	L-37	10B-SD1002・下層	木製品・曲物	削板の一部分	20.8+	2.9	0.1	榫状固定	117-9
3	L-34	10B-SD1002・下層	木製品・連筒下駄	34C	15.0+	8.4	2.4		117-6
4	L-36	10B-SD1002・下層	木製品・連筒下駄	127号木影	20.9	10.6	高5.5		117-8
5	L-35	10B-SD1002・下層	木製品・連筒下駄	34C	20.6+	10.3	高3.0	左州	117-7
6	L-39	10B-SD1002・下層	木製品・刳物材	1/6	口縁 (46.2)	底縁 (26.8)	高さ 11.5		117-10

第216図 SD1002出土遺物 (3)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	J-38	10A-SD1008・西端埋土	灰磁(龍泉窯系) 碗	口縁部小片				劃花文	115-11
2	J-39	10A-SD1008・3層	白磁(中國) 碗小皿	口縁部小片				口差	115-12
3	Ic-160	10A-S2'08・西端埋土	陶器(古瀬戸) 脚皿	底部1/4		(6.4)		灰緑。中1~II期	115-16
4	Ic-154	10A-S2'08・西端埋土	陶器(在地) 甕	口縁部小片				口・頸部ヨコナデ	115-14
5	Ic-204	10B-S1'1008・3層	陶器(在地) 甕	口縁~体部片				口・頸部ヨコナデ	115-13
6	Ic-151	10A-SD1008・3層	陶器(在地・白石) 口鉢	口縁部小片				口クロ(白粉台) 調整	115-15
7	Ic-152	10A-SD1008・4~5層	陶器(在地・白石) 甕	底部小片				ナデ。内面に暗赤褐色の自然釉	115-17
8	Ic-153	10A-SD1008・西端埋土	陶器(在地・白石) 口鉢	底部1/8		(11.0)		口クロ(白粉台) 調整。内面磨光	115-18
9	K-93	10B-SD1008・4~5層	石炭系・磁石	底部のみ	長5.2	幅6.3	厚1.1	3層+。デイスайト	115-20
10	K-92	10A-SD1008・3層	石炭系・磁石	底部欠損	長6.6+	幅2.4	厚1.5	3層+。デイスайト	115-21
11	K-91	10B-SD1008・4~5層	石炭系・茶臼上f1	2/4	24	径(19.2~20.6)	10.3	安山岩。下部磨光	115-19
12	L-42	10B-SD1008・3層	木製品・切敷	断板のみ	長20.2	幅1.3	厚0.4	結合孔孔。木釘も残存	115-22

第217図 SD1008出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量(cm)			調査・特徴	写真図版
						長さ	幅	高さ		
1	Ns-89	10A-SD1008・4・溝	鉄製器具	鎌	中央部	6.5	0.8	0.7	9g	115-26
2	Ns-90	10A-SD1008・西側出土	鉄製器具	釘	頭～中央部	5.9	0.6	0.4	頭部偏0.8cm, 5g	115-23
3	Ns-87	10A-SD1008・1～2溝	鉄製器具	針	中央部	4.8	0.7	0.6	4g	115-24
4	Ns-88	10A-SD1008・3溝	鉄製器具	釘	中央部	5.0	0.9	0.9	8g	115-25
5	K-167	10A-SD1008・1～2溝	石製	石製石・火打石	近形	2.9	2.5	2.2	17g, 石質(顆状)	115-27
6	Ns-64	10B-SD1008・1～2溝	銅製	鏡・銭貨	完形	径2.3			重2.4g 天大遺貨(元・初継1310年)	115-28

第218図 SD1008出土遺物(2)

10A-SA1

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
302	Va	22×16	26	?
277	Vg	19	24	?
213	Vg	20	21	?
281	Va	24×20	20	?
286	Va	30×24	20	?
290	Va	29	33	?
296	Va	30×26	20	10
307	Va	34×24	18	10
309	Va	17	24	?
311	Va	28×24	30	?
規模	東西9.0m	南北13.9m+		
柱間	3間	4間+		
柱間	2.5～3.3m	2.6～4.1m		
傾き	78° W	12° E		
備考	1・3「J」字状, SB1全開釘			

(図は第207図4)

10A-SA7

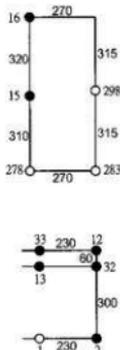
PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
347	Va	24×?	30	12
221	Va	15	15	?
299	Va	19	16	10
145	Va	20	14	?
122	Va	30×26	26	14
123	Va	28×?	16	12
127	Va	20	20	14
159	Va	23	12	?
規模	東西5.9m	南北13.8m		
柱間	3.0～3.2m	1.9～3.3m		
傾き	54° W	35° E		
備考	「J」字状・屈曲			

(図は第207図4)

10A-SA8

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
226	Va	24×?	34	11
232	Va	25	33	16
208	Vc	27	16	14
195	Va	16	8	?
183	Va	20×4	12	?
10B-234	Va	17	?	?
規模	東西9.2m	南北8.3m		
柱間	3.1m	2.6～3.1m		
傾き	30° E			
備考	2床屈曲			

(図は第207図)



10A-SB1

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
16	IVa	33	39	12
15	IVa	30	28	16
278	IVa	24	25	?
283	Va	16	12	?
298	Va	14×10	22	?
規模	東西2.7m	南北2.3m		
柱間	縦行2間	横行2間		
柱間	2.7m	3.1～3.2m		
面積	17.0m ²	傾き 12° E		

10A-SB2

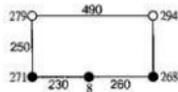
PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
1	IVa	56×46	57	?
2	IVa	58×52	42	28
32	IVb	44×40	42	16
13	IVa	50×42	32	20
12	IVa	49	51	18
33	IVb	48×30	26	12
規模	東西2.2m+	南北3.6m		
柱間	縦行2間+	横行1間・北側		
面積	10 ⁺ E	身長3.0m 開口0.6m		

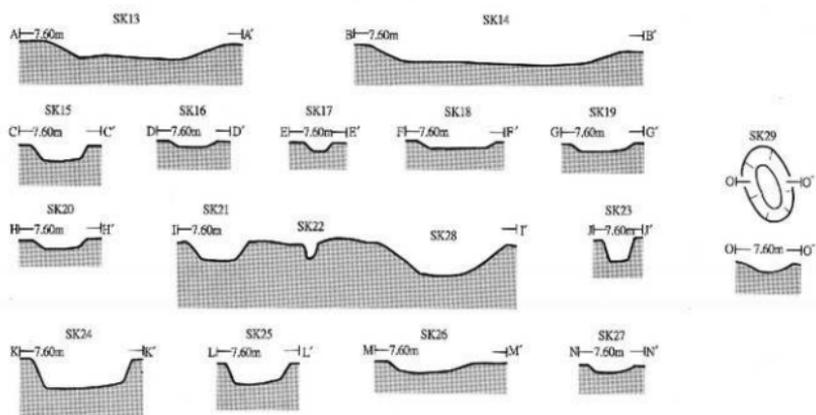
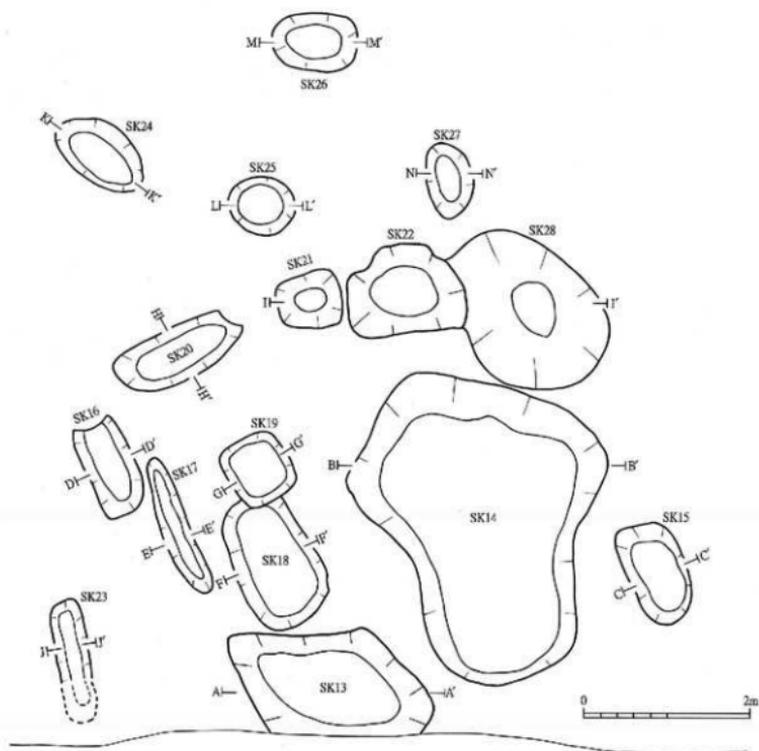
10A-SB3

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
3	IVa	60×54	59	17
4	IVa	54	57	?
11	IVa	60×50	26	8
10	IVa	40×34	59	?
17	IVa	45	40	18
7	IVa	45	27	22
6	IVa	39	40	20
5	IVa	48×47	46	10
規模	東西4.2m	南北4.7m		
柱間	縦行2間	横行3間		
柱間	2.0～2.2m	1.0～2.4m		
面積	19.7m ²	傾き 10° E		

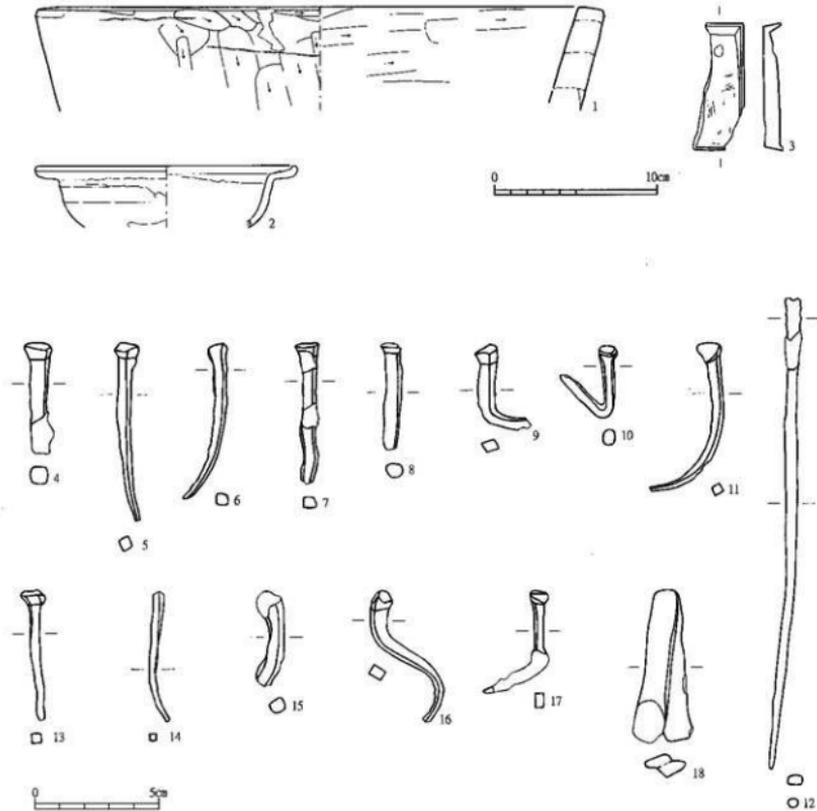
10A-SB4

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
271	Va	29	21	8
279	Va	17	30	?
294	Va	19	29	?
268	Va	30×20	28	11
8	IVa	40	48	20
規模	東西4.9m	南北2.5m		
柱間	縦行2間	横行2間		
柱間	2.3～2.6m	2.5m		
面積	12.3m ²	傾き 18° E		





第219圖 10A-SK13~29 平面・断面圖



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口縁部/刃	長さ	幅		
1	Th-8	10A-SK18	瓦質土器・鉢	口縁部/刃	(34.7)				口縁部磨き→ヘラケズリ→ナデ、白針磨き	116-1
2	Ic-142	10A-SK14	陶器(古瀬戸)底脚目皿	下部1/8	(16.0)				灰輪、中1～2期	116-2
3	K-49	10A-SK14	石製品・剣	端部のみ	8.0	3.2+	1.1	35g+	貫刺	116-3
4	Na-92	10A-SK13	鉄製品・釘	頭～中央部	4.5+	0.7	0.7	頭部幅1.0cm、4g+		116-4
5	Na-94	10A-SK14	鉄製品・釘	ほぼ完全形	7.7+	0.6	0.5	頭部幅0.8cm、6g+		116-5
6	Na-96	10A-SK14	鉄製品・釘	ほぼ完全形	6.4	0.5	0.4	頭部幅0.8cm、4g		116-6
7	Na-95	10A-SK14	鉄製品・釘	頭～中央部	5.7+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm、5g+		116-7
8	Na-93	10A-SK14	鉄製品・釘	9/10	4.3+	0.6	0.5	4g+		116-8
9	Na-98	10A-SK14	鉄製品・釘	頭～中央部	4.4+	0.7	0.6	頭部、4g+		116-9
10	Na-99	10A-SK14	鉄製品・釘	ほぼ完全形	5.0	0.6	0.5	頭部、頭部幅0.7cm、3g		116-10
11	Na-100	10A-SK14	鉄製品・釘	ほぼ完全形	7.3+	0.6	0.5	湾曲、頭部幅1.0cm、5g+		116-11
12	Ne-97	10A-SK14	鉄製品・砂羅車軸	中央～先端部	19.2+	6.02-0.6		15g+		116-18
13	Na-105	10A-SK15	鉄製品・釘	9/10	5.3+	0.4	0.4	頭部幅1.0cm、3g+		116-12
14	Na-103	10A-SK15	鉄製品・釘	中央部	5.3+	0.3	0.3	2g+		116-13
15	Na-101	10A-SK15	鉄製品・釘	中央部	5.9+	0.6	0.6	4g+		116-14
16	Na-104	10A-SK15	鉄製品・釘	中央部	6.8+	0.7	0.7	湾曲、6g+		116-15
17	Na-102	10A-SK15	鉄製品・釘	完全形	5.5	0.5	0.3	新曲、頭部幅0.7cm、4g		116-16
18	Na-106	10A-SK24	鉄製品・6本?	ほぼ完全形	6.2	1.4	0.4	15g		116-17

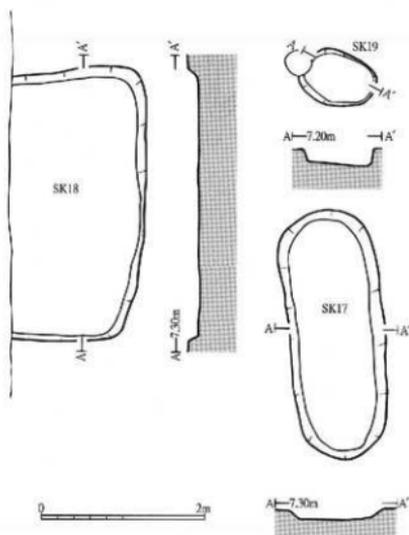
第220図 10A-SK13～15・18・24出土遺物

3. 10B区東部～10C区西部の遺構

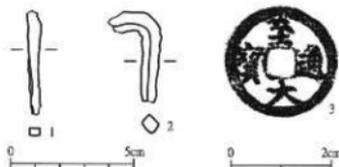
10B区～10C区にかけては城館主軸方向の堀跡SD1002・1003とこれらをつなぐ堀跡SD1006があり、これらの堀に囲まれて曲輪が形成されている。SD1006北側の曲輪は東西長55mであるが、井戸跡、土坑、土手などが数基確認されただけで遺構密度は希薄である。SD1006南側の曲輪は東西長34.5mで、溝跡1条、掘立柱建物跡6棟、柱列4条、井戸跡2基、土坑8基が検出された。

(1) 溝跡

SD1006 (第224・225図) SD1002と1003をつなぐ堀で、長さ38m、幅2.5～4.0mである。断面形は逆台形であり、堀のほぼ中央部に幅2.5mの障壁状の高まりがあり、ここから西側の堀の深さは1.0m、東側の深さは1.9mでこの部分を境にして東側が急に深くなっている。障壁状の高まり部分の深さは約70cmで、底面との比高差は西側で30cm、東側で1.2mである。西側のSD1002と東側のSD1003との接続部分にも幅1.0～2.5mで、底面からの比高差が40～45cmある障壁状の高まりが形成されており、この部分の堀幅もやや狭まっている。堆積土は自然堆積層であるが、2期に大別できることから少なくとも1回の改修があったと考えられる。



第221図 10B-SK17～19 平面・断面図



第222図 10A区ビット (10A-SB3) 出土遺物

No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別 (産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-107	10A-P4 (10A-SB3)	鉄製品・釘	中央部	4.2	0.6	0.3	2g=	116-19	
2	Na-108	10A-P11 (10A-SB3)	鉄製品・釘	中央部	4.34	0.8	0.2	屈曲、6g+	116-20	
3	Nb-50	10A-P5 (10A-SB3)	銅製品・鏡蓋	完部	径2.3			重3.3g [平大銅鏡(元・初唐)(310年)]	116-21	

遺物は破片で約200点出土したが半数以上は土師器・須恵器である。図化できたのは中世陶器、鉄鍋、漆器碗などの生活用品の他、板塔婆の枠や板碑形塔婆がある (表108・109、第227・228図)。

SD1003 (第223・225図) 城館中央の曲輪の西辺を画する堀で、11B区から北上し、10C区南境際で東に屈曲してその後再度北に延びる。幅は南北部分で3.0～3.8m、東西部分の幅は南側の肩が調査区外のため明確ではないが、4m程度と推定される。断面形は南北部分では上部が浅い「U」字形、下部が逆台形のため途中に段が付く。これはSD1008と類似した形態であり、SD1008同様に上部は再掘削されている可能性がある。一方、東西部分の断面形は逆台形である。深さは南北部分で1.3m、東西部分で1.0m、堆積土は自然堆積層である。

前述したようにSD1006との接続部分に障壁状の高まりがあるが、この他に東西部分の東側にも幅50～70cm、高さ10～15cmの小規模な高まりが2箇所設けられている。

南北部分(1112グリッド)の下層では堀の一部を埋め立てた環状の施設が検出された(第226図)。これは堀を横断して2列の杭列を打ち込み、その後杭列の間に木の枝を集めて芯とし、さらに拳大～人头大の礫を含むブロック土で埋め立てたもので、礫に混じって板碑(第232図6)も利用されていた。

遺物は破片約220点で、土師器、須恵器、土師質土器、国産の中世陶器や中国産の磁器、金属製品、石製品、木製品など約320点とウマの骨などが出土した(表109)。同化できたのは中世陶器、鬼瓦、茶臼や粉挽臼、漆器碗、曲物、しゃもじ、下駄などである(第229～232図)。城館の中心部に近いためかSD1001・1002・1006・1008などと比べて食膳具が目立つ。

第229図7の鬼瓦は西方約1kmに位置する東光寺遺跡との関連が考えられる。

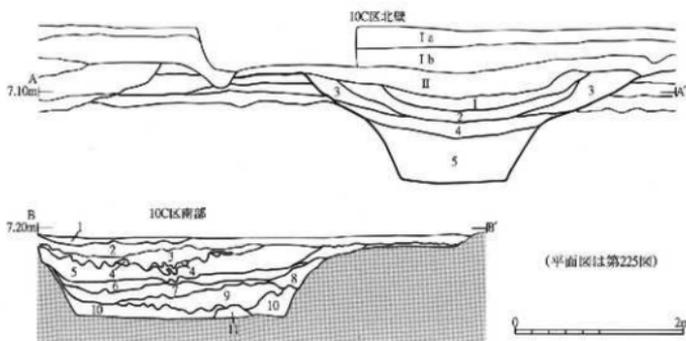
第230図1の開元通寶は文字が不鮮明なことと表面が平坦なこと、また薄く軽いことなどから模铸銭の可能性がある(註2)。

10B-SD1(第224図) 長さ5mほどの短い溝で浅い。ちょうど井戸跡が2基並ぶ側に位置するので、曲輪内部の区画溝の一部である可能性もある。

10C-SD39(第225図) SL13に沿って南北方向に走る。SL13構築に伴う溝と考えられる。

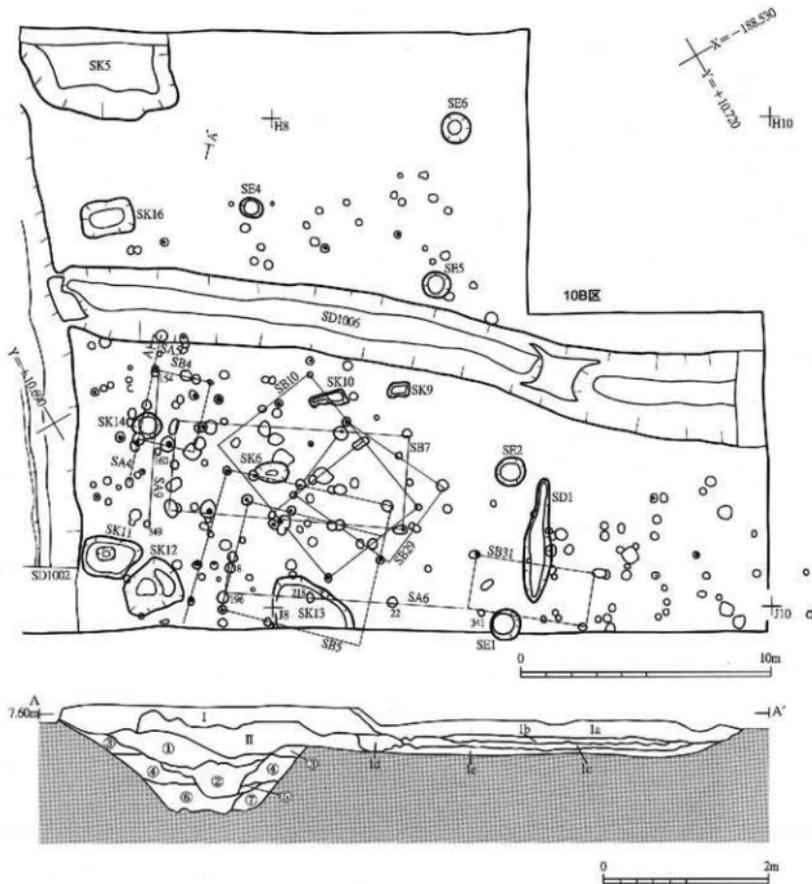
(2)土手

SL13 SD1006の北側の曲輪東部を「U」字形に囲んでいる。上面は削平されているため高さは10～30cmである。幅は西側が0.5～1.2mと狭いが、SD1003に沿った東側は2.5～6.5mある。なお、SD39を西端とすると北側の幅の狭い部



層位	色調	土質	埋入物・その他
10C区北壁			
1	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	小礫多量
2	10YR5/2 灰褐色	粘土	非砂礫量
3	10YR4/3 にぶい黒褐色	シルト	炭化物少量
4	10YR2/2 黒褐色	粘土	植物遺体多量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	炭化物・植物遺体少量
10C区南部			
1	2.5Y6/2 緑灰黄色	粘土	管状酸化鉄多量
2	2.5Y6/2 緑灰黄色	粘土	管状酸化鉄多量
3	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	にぶい黒褐色粘土ブロック少量
4	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
5	10YR4/1 黒褐色	鉄灰質粘土	互層
	10YR4/2 淡黄褐色	粘土	
6	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土(100g中に 2.5Y6/2 緑灰黄色 を4g含む)	
7	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒褐色管状シルトブロック・灰色粘土ブロック多量
8	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒褐色砂質シルトブロック少量
9	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
10	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
11	5Y4/1 灰色	砂質シルト	オリーブ黒色粘土ブロック多量

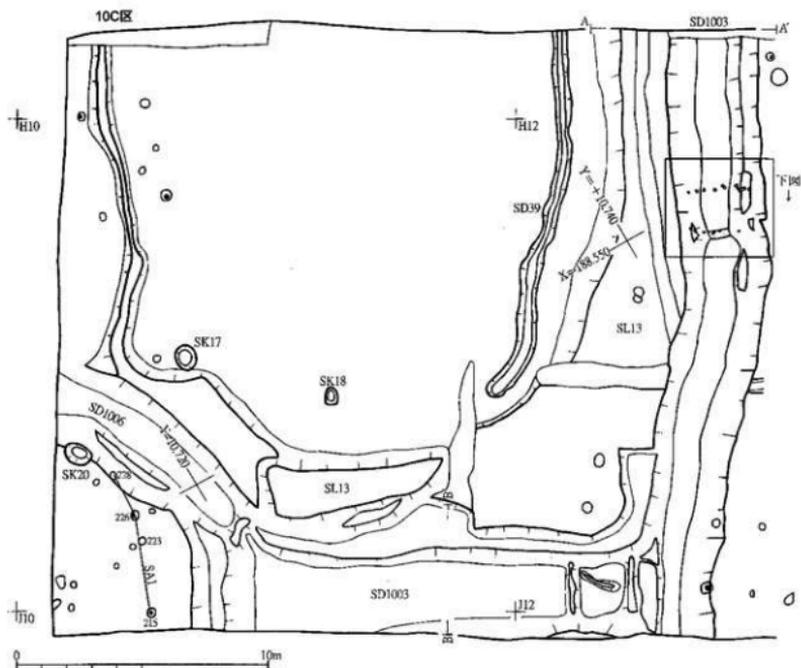
第223図 SD1003 断面図



SD1006

層位	色調	土質	埋入物・その他
I	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	
II	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	
Ia	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	砂粒少量
Ib	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	砂粒多量
Ic	2.5Y4/2 暗灰黄色 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土 粗砂	瓦片
Id	10YR4/2 灰褐色	粘土	
Ie	2.5Y2/2 灰褐色	粘土	オリーブ褐色細砂ブロック少量
①	10YR5/4 に近い黄褐色 2.5Y3/1 黄褐色	粗砂 シルト	瓦片
②	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土	
③	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	黒褐色粘土ブロック・に近い黄褐色粘土ブロック少量
④	2.5Y4/2 暗灰黄色 2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土 粗砂	瓦片
⑤	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	
⑥	2.5Y3/1 灰褐色	粘土	オリーブ褐色粘土を無状に混焼
⑦	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	灰色粘土質シルトブロック少量

第224図 10B区東部 IⅤa層上面平面図 (IⅤa3・4期)、SD1006 断面図



第225図 10C区西部 IVa層上面平面図 (IVa3・4期)

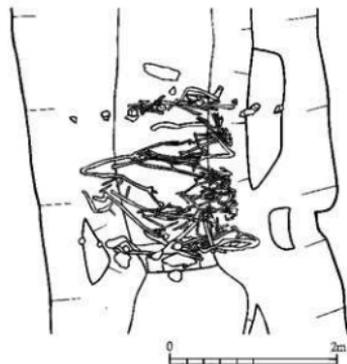
分も幅4mほどになり、「土塁」に近い規模と考える。

(3) 掘立柱建物跡・柱列跡

SD1006南側の曲輪で確認された遺構のうち、城館の主軸方向から大きく東に振れる10B-SB10・29とやや東に振れる10B-SB4・5、10B-SA4・5がIVa4期、SB4・5よりも東への振れが小さい10B-SB7・31、10B-SA6・9がIVa3期に属すると考えられる。

IVa4期の建物のうち方向が城館の主軸に近い10B-SB4・5、10B-SA4・5が古く、大きく振れる10B-SB10・29が新しいと推定される。10B-SB5は北と西に廂が付く、南にも付く可能性がある。10B-SB4はSB5と方向が揃えられている。曲輪の隅に位置し、SA4・5が取り付いてSD1006との間を塞いでいるなど防衛性が高い建物である。櫓の可能性もある。

IVa3期の10B-SB7はSD1006と方向を合わせて建てられている。南側と西側には10B-SA6とSA9が並び、10B-



第226図 SD1003 塚状施設平面図

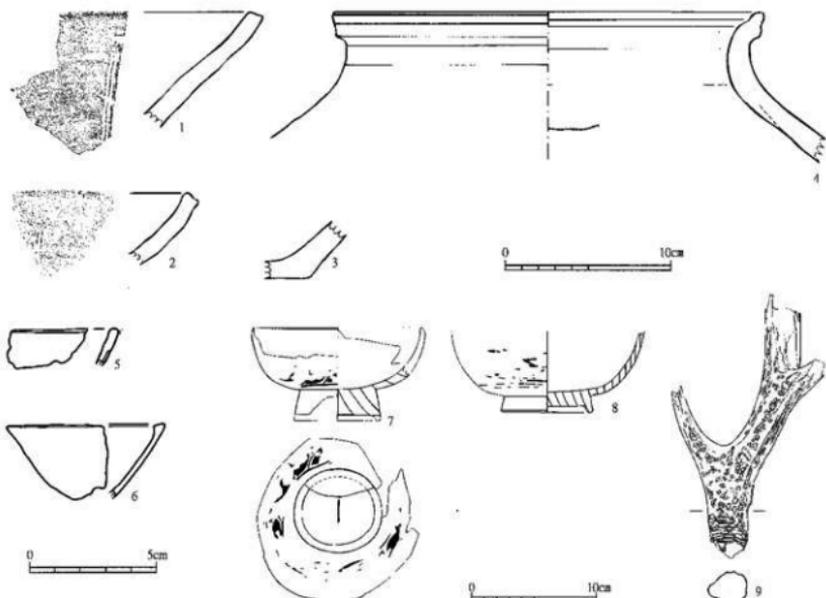
SB31がSA6に接続している。SB31はSA6とやや方向がずれているが、逆にSD1006の湾曲する部分の方向に合っているとも見て取れ、SD1006に沿った南北8~10m、東西20m以上が曲輪内の他の場所から区切られた空間となっている。

(4) 井戸跡

10B-SE1 (第233図) 10B区南壁際に位置する。IVa層上面で確認したが、IVa1~4期のうちの詳細な時期は不明である。径1.1~1.3m、深さ2.1mである。

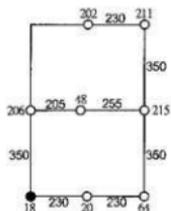
10B-SE2 (第233図) SE1の北に位置する。III層下部で確認したのでIV層の最終期であるIVa4期に伴うと推定される。径1.1~1.2m、深さ2.4mで、手桶が1点出土した(第235図1)。

10B-SE4~6 (第233図) SD1006の北側に位置する。この付近はVa層上面まで削平を受けていたため確認面もVa層上面で、このためIVb~IVa層のどの時期に伴うものか限定できない。3基とも浅く、深さは85~130cmである。SE4・5から曲物や折敷の破片が出土している(表108、第235図)。



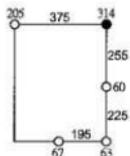
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)			観察・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	lc-219	10C-SD1006・I, II層	高麗(在産・白石)片口鉢	口縁部小片					口縁(回転台)調整、内面磨滅、唇口あり	118-2
2	lc-220	10C-SD1006・I, II層	高麗(在産・白石)片口鉢	口縁部小片					口縁(回転台)調整	118-1
3	lc-221	10C-SD1006	高麗(在産・白石)片口鉢	底部小片					口縁調整、内面磨滅	118-4
4	lc-203	10B-SD1006・II層	陶器(在産・白石)壺	上部1/6	(76.0)				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、口縁内面 へ体部外面よりブ黄色の自然釉	118-3
5	Ns-127	10B-SD1006	鉄製品・鋼	口縁部小片			1.6+	6g+		118-5
6	Ns-128	10B-SD1006・2~5層	鉄製品・鋼	口縁部小片			3.0+	9g+		118-6
7	L-40	10B-SD1006・6~7層	木製品・漆器桶	2/3	13.6	7.0	7.0		内面炭粉下地+透明漆+赤漆一赤漆 外面炭粉下地+透明漆+赤漆+漆、ブナ肌	118-7
8	L-41	10B-SD1006・6~7層	木製品・漆器桶	2/3		7.4			内面赤漆、外面黒色+赤漆文様、ブナ肌	118-8
9	Q-5	10B-SD1006	石瓦遺物・鹿角		長22.0+					118-9

第227図 SD1006出土遺物 (1)



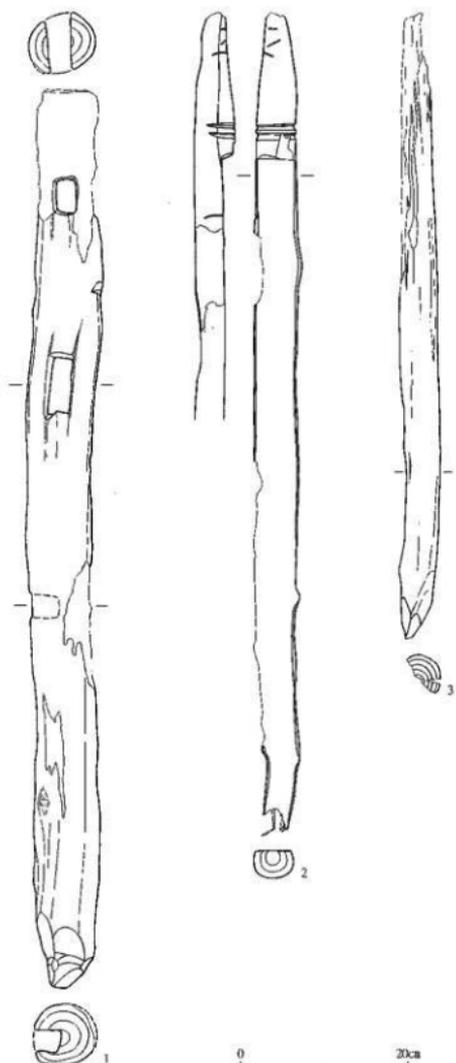
10B-SB10

Photo	棟号	大きさ	高さ	柱直径
202	Va	29	42	?
211	Va	20	17	?
215	Va	68×28	7	?
64	Va	25	27	?
20	IVa	40	26	?
18	IVa	30×26	63	12
206	Va	32	51	?
48	IVb	30	27	?
規模	東西4.6m	南北7.0m		
	東行2間	南行2間		
柱間	2.3m	3.5m		
面積	32.2㎡	傾き	9° W	
備考	開口切りあり			



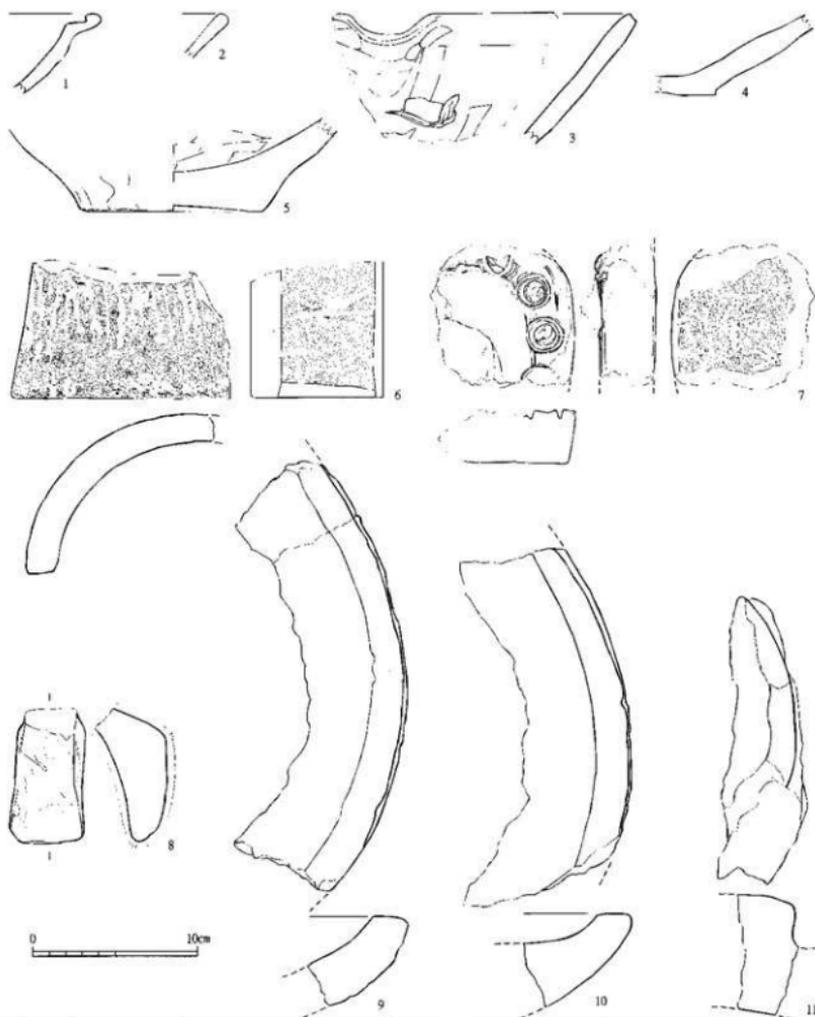
10B-SB29

Photo	棟号	大きさ	高さ	柱直径
60	Va	23	31	?
63	Va	29	9	?
67	Va	32×26	47	?
205	Va	24	34	?
314	Va	30	?	8
規模	東西3.75m	南北4.2m		
	東行1間	南行2間		
柱間	1.8～1.95m	2.25・2.55m		
面積	17.4㎡	傾き	24° W	



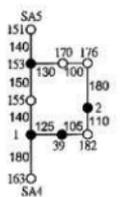
No.	登録No.	地区・遺構・部位	類別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-87	10C-SD1006・6～7層	木製品・板屋敷の枠	部分(柱1)		110.4	8.0		丸木、方形の穿孔2、方形の窪み1、クリ	118-10
2	L-86	10C-SD1006	木製品・板屋敷の枠	左端・左部欠損		101.0+	5.2	3.2	丸木、段肥板状・2本線型み、以下面取り、クリ	118-11
3	L-85	10C-SD1006	木製品・杭	頭部欠損		76.8+	5.2		丸木	118-12

第228図 SD1006出土遺物 (2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(所在地) 器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Ic-235	10C-SD1003・下層	陶器(古瀬戸)新焼灰皿	口縁~体部片				灰物、中室期	119-10
2	Ic-229	10C-SD1003・上層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				ロク口陶器、山家陶器系	119-11
3	Ic-228	10C-SD1003・上層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部1点				ロク口調整、内面に赤灰色の自然釉	119-13
4	Ic-227	10C-SD1003・上層	陶器(常滑)壺	底部1点				ナデ	119-14
5	Ic-230	10C-SD1003・上層	陶器(在来・白土)甕	底部1点		(11.1)		内面と底部外面ヘラナデ、体部外面ナデ	119-12
6	F-5	10C-SD1003・上層	瓦・丸瓦	1/10	長8.6+	幅13.1+	厚2.0	西表焼成、スリタシ、底面有付目、縁部ヘラナデ	120-1
7	F-6	10C-SD1003・中層	瓦・丸瓦	1/7	長8.9+	幅8.6+	厚3.4	縁面と部分付目縁、縁部底に黄緑する赤土の層(赤文)	120-2
8	K-66	10C-SD1003・中層	石製品・砥石	端部欠損	長8.3	幅4.6	厚3.7	10% \pm 、デコサイト	120-3
9	K-64	10C-SD1003・上層	石製品・茶臼下臼	1/8	(42.0)		5.5+	10% \pm 、SD1003-1層出土破片と疑合、安山岩	120-4
10	K-65	10C-SD1003・下層	石製品・茶臼下臼	1/8	(43.0)		5.8+	10% \pm 、安山岩	120-5
11	K-65	10C-SD1003・上層	石製品・茶臼下臼	部分			7.1+	6% \pm 、安山岩	120-6

第229回 SD1003出土遺物 (I)



10B-SB4

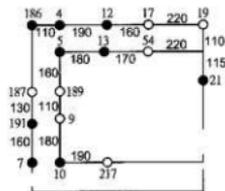
PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
1	IVa	51	41	13
155	Va	32	10	?
153	Va	30×28	36	8
170	Va	44×40	12	?
176	Va	20×16	9	?
2	IVa	34	52	12
182	Va	72×64	33	?
39	IVb	60	36	21
規模	東西2.3m、2間	南北2.9m、2間		
柱間	1.05~1.30m	1.4~1.5m		
面積	6.7㎡	幅さ	43° E	
備考	SA4・5が接続、構?			

10B-SA5

PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
151	Va	41	21	?
規模	東西1.4m	幅さ	43° E	

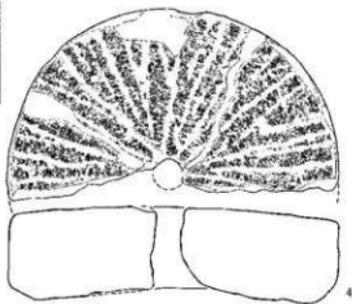
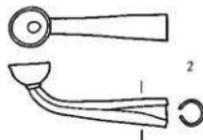
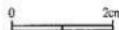
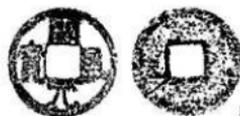
10B-SA4

PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
163	Va	32×28	9	?
規模	東西1.3m	幅さ	43° E	



10B-SB5

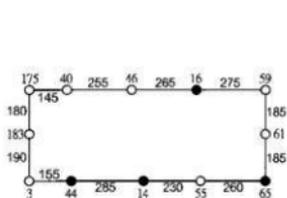
PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
7	IVa	29	34	14
191	Va	34×30	56	16
187	Va	20	21	?
186	Va	31	31	19
4	IVa	34	35	12
12	IVe	38	60	12
17	IVa	48×38	29	?
19	IVa	41	47	?
217	Va	27	10	?
10	IVa	30	45	10
9	IVa	40	50	?
189	Va	18	18	?
5	IVa	40	34	12
13	IVa	36×32	37	12
54	IVb	40×30	21	?
21	IVa	30	36	10
規模	東西6.8m	南北5.6m+		
	南行身台3間・西側	東行身台3間・北側		
柱間	身長1.6~2.2m	身長1.3~1.6m		
	幅1.1m	幅1.1m		
面積	38.1㎡+	幅さ	43° E	



5

No.	登録No.	地区・遺構・測位	類別(産地)	器種	遺存度	估量(cm)			調査・特徴	写真 図録
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-75	10C-SD1003・上層	銅製品・鏡背	光彫	径2.2	厚1.7g	枚師鏡(隋元通寶・唐・初誌621年)・真面平肌	120-9		
2	Nb-74	10C-SD1003・中層	銅製品・棒管煙簀	光彫	6.4	火厚径1.6 小口径1.0	7g	120-10		
3	Nb-75	10C-SD1003・中層	銅製品・煙管煙簀	光彫	8.5	径1径0.4 小口径0.9	5g	120-11		
4	K-61	10C-SD1003・下層	石製品・粉地白下白	1/2	径26.9	高8.0	10B-17・東陽出土破片と接合、安山岩	120-7		
5	K-62	10C-SD1003・上層	石製品・粉地白上白	1/7	径28.6	高9.7+	1760g+、物取り孔遺存、安山岩	120-8		

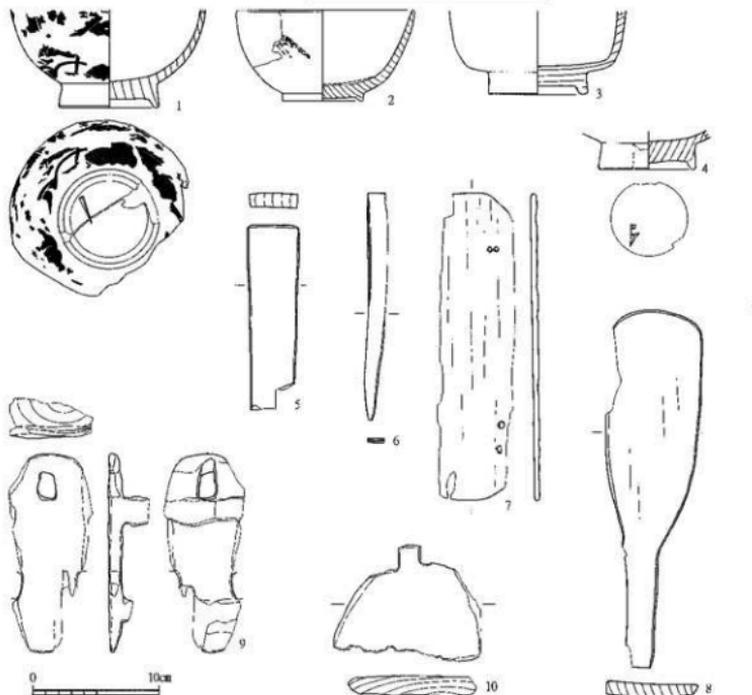
第230図 SD1003出土遺物 (2)



10B-SB7

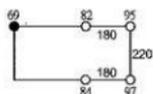
PtNo	確認層	大きさま	深さ	柱頭径
175	Va	88×32	50	?
40	IVb	54×50	59	?
46	IVb	52	43	?
16	IVa	57	43	14
59	Va	40×34	54	?
61	Va	26	27	?
65	Va	48×34	40	12
14	IVa	51	50	14
55	IVb	44×40	34	?
42	IVb	60×52	57	20
3	IVa	66×50	50	?
183	Va	32×28	?	?

規模 東西5.4m 南北3.7m
 桁行4間 梁行2間
 柱間 1.5m, 2.3~2.85m 梁行2間 1.8~1.9m
 面積 34.8㎡ 傾き 35°上
 備考 SA6・9が付属



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(座地) 品名	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	L-51	10C-SD1003・下層	木製品・漆器碗	34		8.0		内面赤漆、外面黒陶下地+透期油1本漆文様、ブナ属	120-12 カラー
2	L-50	10C-SD1003・下層	木製品・漆器桶	45	14.2	6.5	7.4	内面赤漆、外面黒漆+透期油、フナ属	120-13
3	L-54	10C-SD1003・下層	木製品・漆器碗	下部		8.0		内面赤漆、外面黒色、ブナ属	120-14
4	L-53	10C-SD1003・中層	木製品・漆器桶	底部		7.8		内面赤漆、外面黒色、ブナ属	120-15
5	L-75	10C-SD1003・上層	木製品・桶側板	部分		長さ	幅 厚さ		121-1
6	L-74	10C-SD1003・中層	木製品・板	ほぼ完成形		18.5	1.3	0.3	120-18
7	L-75	10C-SD1003・中層	木製品・曲物	完成形		22.4	9.0	0.5	121-2
8	L-71	10C-SD1003・中層	木製品・しゃもじ	ほぼ完成形		29.2	2.2~7.3	1.1	121-3
9	L-52	10C-SD1003・中層	木製品・漆器下駄	1/2		16.1	(6.4)	高(3.3)	120-16
10	L-72	10C-SD1003・上層	木製品・花巻トビ	断面のみ		幅11.7+	高さ2+	厚1.6	120-17
11	L-135	10C-SD1003・下層	木製品・杵?	ほぼ完成形		193.2	6.9		120-23

第231図 SD1003出土遺物 (3)



10B-SB31

PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕径
69	Va	34×28	41	?
82	Va	40×34	14	?
95	Va	60×32	26	?
97	Va	78	50	?
84	Va	19	30	?
規模	東西4.7m	南北2.2m		
柱間	1.3・2.9m	2.2m		
面積	10.3m ²	幅さ	39° B	

10B-SA6

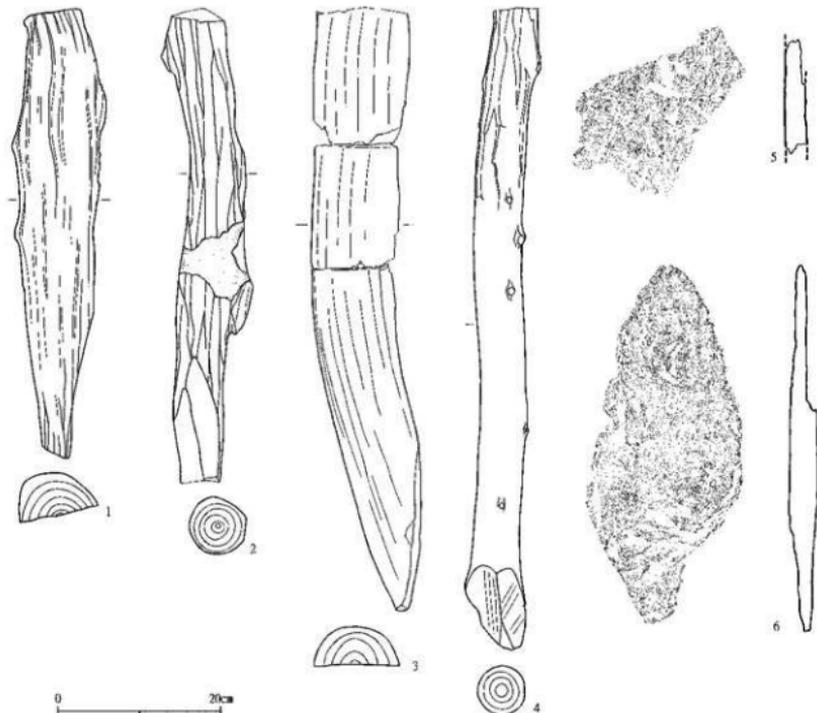
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕径
8	IVa	37	47	?
196	Va	39	40	?
218	Va	34×30	30	?
22	IVa	39	26	?
341	VI	30	17	?
規模	東西10.2m、3間	南北3.5m、1間		
柱間	3.3～3.6m	1.5m		
傾き	56° W	34° E		
備考	「L」字状に遺構、SB7に付属			

10B-SA9

PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕径
154	Va	25	14	?
160	Va	24	30	?
349	Vb	26	?	?
規模	南北6.0m、2間			
柱間	2.9～3.1m	幅さ	33° E	
備考	SB7に付属			

(図は第221図)

(図は第224図)

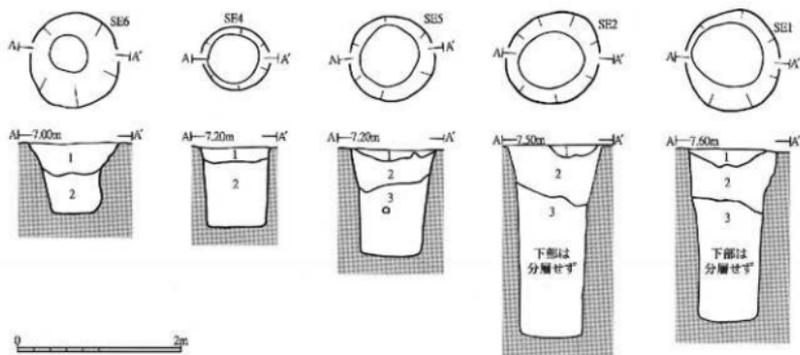


No.	発見地	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-76	10C-SD1003	木製糸・梳	通部欠損	55.0+	9.6	5.6	分割材、裏の梳材	120-19	
2	L-78	10C-SD1003	木製糸・梳	先端・通部欠損	57.6+	8.0		丸木、裏の梳材	120-20	
3	L-81	10C-SD1003	木製糸・梳	通部欠損	75.0+	10.6	4.6	分割材、裏の梳材	120-21	
4	L-77	10C-SD1003	木製糸・梳	通部欠損	80.0+	5.8		丸木、裏の梳材	120-22	
5	K-68	10C-SD1003・上層	石製糸・梳頭	部分	高さ18.6	21.6+	2.7	1110g土、耳留	121-2	
6	K-67	10C-SD1003	石製糸・梳頭	ほぼ完全形	高さ41.0	17.5	3.2	2400g、種子ラ、裏片、裏に土留めとして使用	121-5	

第232図 SD1003出土遺物 (4)

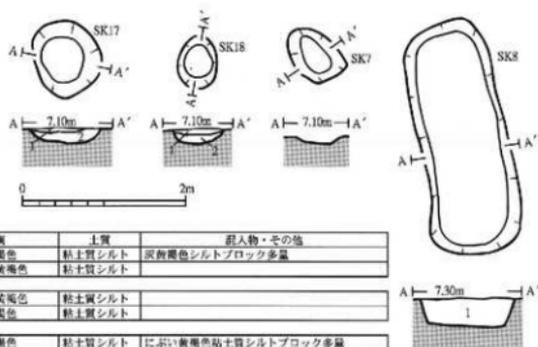
(5)土坑

10B-SK5 (第224図) 10B区北壁跡で、SD1002の東側に隣接している。IVa層上面で確認したが、IVa1~4期のうちの詳細な時期は不明である。東西長6.0mのやや歪んだ方形で、深さは1.5mである。堆積土は自然堆積層であるが、調査区北壁が崩落したため断面図は掲載できなかった。遺物は土師器・須恵器など破片18点とウマの骨等が出上している(表108)。



層位	色票	土質	遺人物・その他
SK6	1 2.5Y4/1 黄灰色	粘土	灰オリーブ色砂質シルトブロック多量
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗オリーブ灰色シルト質粘土ブロック少量
SK4	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	灰色粘土ブロック少量
SK5	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・にぶい黄褐色粘土ブロック多量
	3 5Y4/1 灰色	粘土	オリーブ褐色泥状質粘土を混じた黄褐色
SK2	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・灰褐色シルトブロック多量
	2 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック少量
	3 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色砂質シルト大ブロック・灰色粘土大ブロック・暗オリーブ灰色粘土大ブロック多量
SK1	1 10YR4/1 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック少量
	2 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土大ブロック・黒色粘土大ブロック多量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	

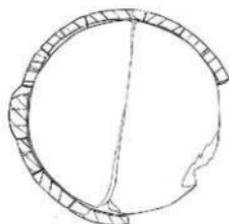
第233図 10B-SE1・2・4~6 平面・断面図



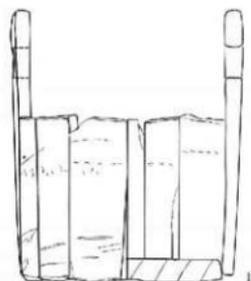
層位	色票	土質	遺人物・その他
SK17	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック多量
	2 10YR3/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
SK18	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
	2 7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	
SK8	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック多量

第234図 10C-SK7・8・17・18 平面・断面図

10B-SK6 (第236図) SD1006の南側にある。IVb層上面で確認したが、IVa層から掘り込まれていた可能性もあり、IVb～IVa層のうちの詳細な時期は不明である。80×125cmの楕円形で、深さは20cmである。



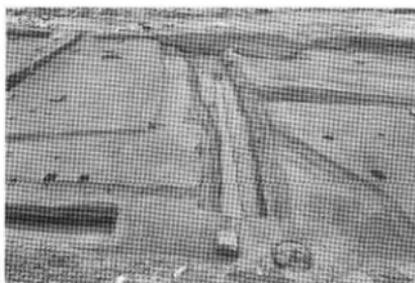
10B-SK9～14 (第236図) SD1006南側のVa層上面で確認したもので、IVb～IVa層のどの層に伴うものか限定できない。SK9は長方形、SK14は円形であるが他は不整形で、SK11～13は2.5m以上ある。遺物は土師器・須恵器が多いが、SK14から北宋銭が2点出土している(表108、第237図1・2)。



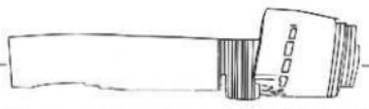
10C-SA1

P/Na	碑形層	大きさ	深さ	珠直径
215	Va	34×30	21	8
223	Va	25	22	?
226	Va	36×24	16	16
228	Va	30×?	?	?
規模	南北6.0m+			
柱間	1.1～3.0m			
傾き	NS～20°E			

(図は第225図)



SD1002
(10B区)



No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	厚高		
1	L-48	10B-SF2	木製品・手桶		2/3	17.8	16.5	22.5		119-1
2	L-49	10B-SF4	木製品・曲物		底板1/3	33.4		190.7	結合釘孔4	119-2
3	L-45	10B-SE4	木製品・折敷		蓋か底板1/3	25.8		190.3	結合孔2×3、椀皮結合と推定	119-3
4	L-46	10B-SE4	木製品・曲物		側板の一部	長30.5+	幅3.3	190.2	接し孔1	119-4
5	L-47	10B-SE5	木製品・曲物		側板の一部	長28.8+	幅2.1	190.1	椀皮接し	119-5

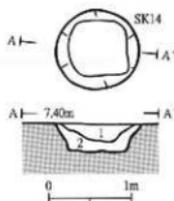
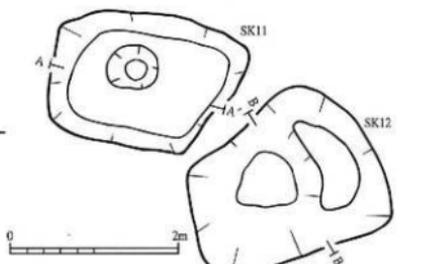
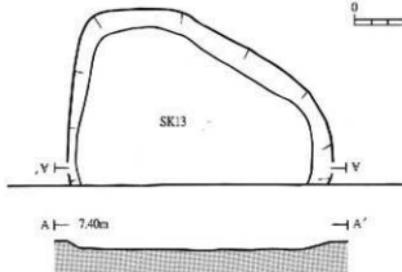
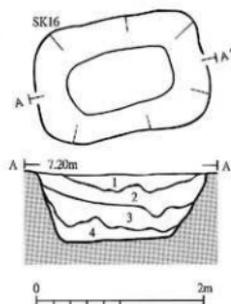
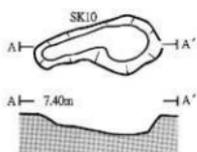
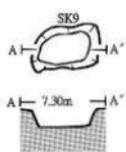
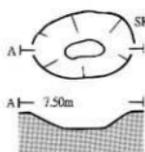
第235図 10B-SE2・4・5出土遺物

10B-SK16(第236図) SD1006北側のVa層上面で確認したもので、IVb~IVa層のどの層に伴うものか限定できない。大きさが1.4×2.1mの隅丸方形で、深さは85cmである。曲物などが出土している(表108、第237図3)。

10C-SK17・18・20(第225図) 10C区南西部のVa層上面で確認したもので、IVb~IVa層のどの層に伴うものか限定できない。

SK16

層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒色シルト・にぶい黄褐色粘土・灰黄色粘土ブロック多量
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土・暗灰黄色粘土ブロックを層状に積層
3	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	灰色粘土・黒色粘土ブロック少量
4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	

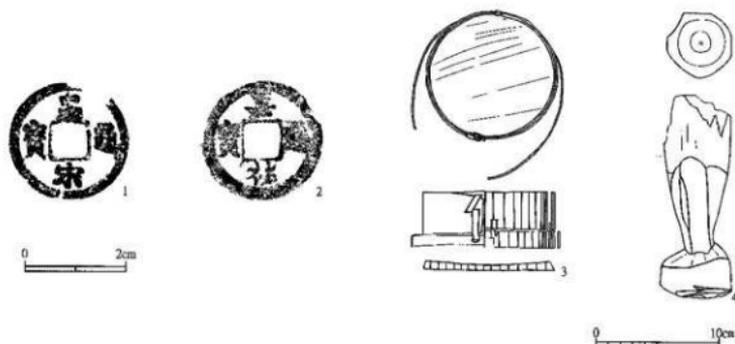


層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト・炭化物少量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	炭化物少量
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト多量・炭化物多量
2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗灰黄色砂質シルトブロック・オリーブ褐色粘土ブロック・炭化物少量
3	5Y4/1 灰色	粘土	黒色粘土ブロック・緑灰色シルトブロック少量
4	10GY4/1 暗緑灰色	シルト	オリーブ黒色粘土ブロック少量

SK14

層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量・炭化物少量
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロックを層状に積層

第236図 10B-SK6・9~14・16 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-63	10B-SK14	銅製品・鉄貨	ほぼ完全	径2.4		厚1.51	早木造貨(北宋・初編1039年)	119-6	
2	Nb-61	10B-SK14	銅製品・鉄貨	ほぼ完全	径2.5		厚1.7+	早木造貨(北宋・初編1056年)	119-7	
3	L-43	10B-SK16	木製品・曲物	割板+彫欠損 (0.5)				榫状遺し、底面に釘穴無し	119-8	
4	L-44	10B-SK17・2層	木製品・杖	基部のみ	16.4+	5.3			119-9	

第237図 10B-SK14・16・17出土遺物

4. 10C区東部～10D区西部の遺構

10C区～10D区にかけては城館の主軸方向の堀跡SD1003・1007とこれに直交する堀跡SD1004B・Cがあり、これらの堀に囲まれて曲輪が形成されている。なお、SD1003、1004B・C、1007はそれぞれ城館中央の曲輪の西辺・北辺・東辺の堀である。城館中央の曲輪は調査区が曲輪の縁辺なので遺構は少ないが、曲輪の隅に位置する槽状の建物跡や曲輪北辺の柱列跡、井戸跡などが確認されている。SD1004B・Cの北側の曲輪は東西48mの規模を持つ。曲輪の南部では古い堀であるSD1004Aが埋め立てられており、周辺には埋め立てに伴うと考えられる整地層が広がっている(第239図Aミ点部分)。整地層～IVa層上面では掘立柱建物跡12棟を始めとする遺構が検出され、規模の大きな建物が軒を連ねていた様子やその場で建て替えられている状況が明らかとなった。

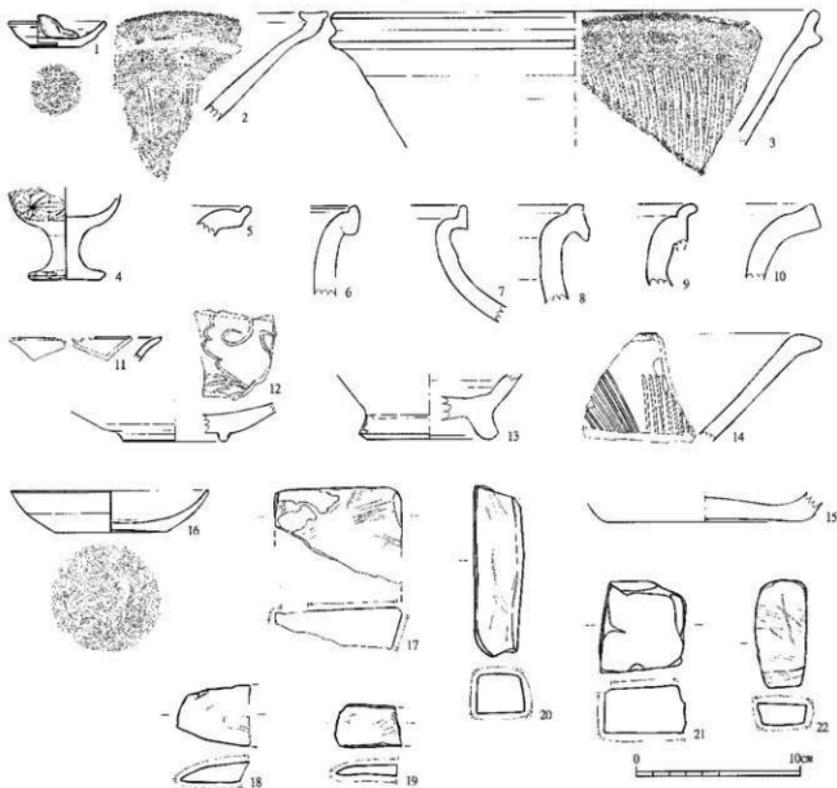
(1)溝跡

SD1004B・C(第239図) 溝が2本切り合っている。SD1004Bが古くIVa3期、SD1004CはSD1004Bの埋没後に新しく掘りなおしたもので、IVa4期と考えられる。

SD1004Cは11B区の拡張区からSD1003に沿って北に延びる。直角に2度曲がって枡形を形成し(第2分冊第7編参照)、10C区に入ってからさらに東に直角に曲がってSD1007に接続している。10C区の屈曲部がほぼ直角なため、東に向う直線部がSD1004Bよりもやや南に振れている。この結果、10C区から10D区に向うにつれてSD1004Bとは徐々に離れて南にずれている。東西部分の長さは41m、幅2.5～3.0m、断面形は浅い「U」字形で、深さは1.3～1.5mである。西側の屈曲部から15mの地点に幅40cm、高さ10cmの小規模な障壁状の高まりがある。堆積土は自然堆積層である。

SD1004Bは10C区では大部分がSD1004Cに切られている。10C区南壁から弧を描きながら東に曲がると考えられ、その後は直線的に延びる。東端部は2.4×2.6mの方形の十坑状に広がり、細い溝でSD1007と連結している。幅は1.3～1.7m、断面形は逆台形で深さは1.3～1.5mである。

SD1004BとSD1004Cの遺物は両者の重複関係を確認する以前は区分せず、「SD1004B・C」として取り上げている。このため遺物集計表についてもSD1004BとSD1004Cは分けていない。七師器・須恵器・土師質土器土類・中世陶器な



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法数 (cm)			測型・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	lc-265	10D-SD1004・I層	陶器(埴) 灯明皿	2/3	5.9	3.2	1.7	鉄線	121-8
2	lc-225	10C-SD1004・II層	陶器(埴) 漆鉢	11線~15線部片				内外面鉄線	121-7
3	lc-226	10C-SD1004・II層	陶器(埴) 漆鉢	口縁部1/8	(20.8)			内外面鉄線	121-6
4	J-52	10C-SD1004・I層	染付(肥前) 仏飯鉢	2/3		4.6			121-9
5	lc-515	10D-SD1004B・下層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	121-10
6	lc-222	10C-SD1004B・下層	陶器(常滑) 皿口皿?	口縁部小片				ヨコナデ	121-11
7	lc-269	10D-SD1004B・下層	陶器(常滑) 甕	11線~15線部片				ヨコナデヨコナデ、舟形口子、赤土塗装の白磁器、5型式	121-14
8	lc-270	10D-SD1004B・下層	陶器(常滑) 甕	口縁~15線部片				ヨコナデ、口C、Mに直線部の縦線と横線、白磁式	121-13
9	lc-224	10C-SD1004・II層	陶器(常滑) 甕	11線部小片				ヨコナデ、6a~7型式	121-12
10	lc-268	10D-SD1004・下層	陶器(八雲?) 甕	口縁部小片				ヨコナデ	121-15
11	J-65	10D-SD1004・編織面	白磁(中国) 碗口皿	口縁部小片				口亮	121-16
12	J-54	10C-SD1004・II層	青磁(奈良産) 貝か鉢	底部1/8	(6.4)			割花文、鼻付薄胎	121-18
13	J-67	10D-SD1004・編織面	白磁(中国) 四耳鉢	底部1/3	(8.4)				121-17
14	lb-15	10D-SD1004・I層	瓦質土器・漆鉢	11線部小片				ロケ口調整、ナデ、内面に鉄線の横線、口射少量	121-19
15	lb-18	10D-SD1004・編織面	瓦質土器・漆鉢	底部2/5	(12.0)			ナデ、内面鉄線・横線横線、口射少量	121-20
16	la-19	10C-SD1004B・II層	土師瓦土器・皿	2/5	(7.6)	6.8	3.6	ロケ口調整、回転糸切、口針痕	121-21
17	K-78	10C-SD1004・I、II層	石製品・砥石	端部のみ	5.8+	7.7	2.0+	120mm+、デイスイト製成砥石	122-1
18	K-81	10C-SD1004・II層	石製品・砥石	端部のみ	4.6+	3.8+	1.2	25mm、デイスイト製成砥石	122-5
19	K-82	10C-SD1004・I層	石製品・砥石	端部のみ	4.1+	2.7	0.8	14mm+、デイスイト製成砥石	122-6
20	K-80	10D-SD1004・編織面	石製品・砥石	中央部のみ	10.0+	4.0	2.5	15mm+、デイスイト製成砥石	122-2
21	K-77	10D-SD1004・I層	石製品・砥石	砥石定形	5.5	5.3	2.9	150mm、砂質砥石	122-3
22	K-79	10D-SD1004・I、II層	石製品・砥石	砥石定形	6.6	3.2	1.4	47mm、デイスイト	122-4

第238図 SD1004B・C出土遺物 (1)

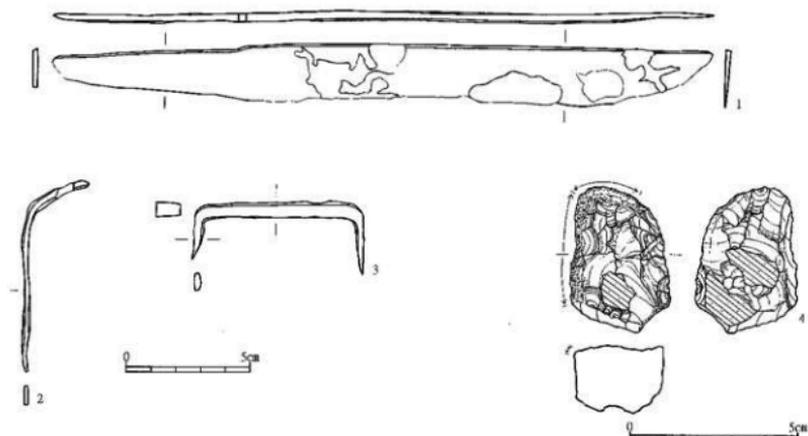
どの土器片や木製品など約320点とウマの骨などが出土した(表109・110)。図化できたのは近世も含めた陶磁器類、砥石や火打石などの石製品、短刀などの鉄製品、漆器桶や折敷などの木製品などの他、輪居などの建築材がある(第238・240~242図)。

L-129~132(第241図10~13)は折敷の側板であるが、L-129(10)の内面には切り込みが2箇所あり、L-130~132(11~13)は丁度切り込みの箇所で折れている。L-129の2箇所の切り込みの間隔と折れたL-130~132の長さは27cm前後でほぼ一致することから、これらは同一個体の可能性が高い。折敷の側板は折れずにつながったものがSD1005から出土していて(L-474, 第251図7)、これから復元すると折敷は一辺30cm程度の大きさで推定される。L-128(14)は桶の底板と推定される厚い板で、割れ口を補修した木釘と釘穴が残存していた。

SD1007(第239図) 城船中央の曲輪の東辺を画する堀である。11C区からまっすぐ北上し、10D区北壁際で北西方向に屈曲している。屈曲部で東西方向のSD1005Aと接続しているが、接続部分には障壁状の高まりがある。その南側でSD1015と接続し、さらにその南側ではSD1004Bに接続する細い溝が西に分岐している。幅は南部で3.5mあるが北に向かって徐々に狭くなり、北側では1.5m程になる。なお、北壁際は一度途切れるように極端に幅が狭くなる箇所がある。断面形は逆台形で、深さは1.0~1.1mと浅いが、周辺が3層水田によって約30cm削平されているので本来はもう少し深かったと考えられる。堆積土は自然堆積層である。

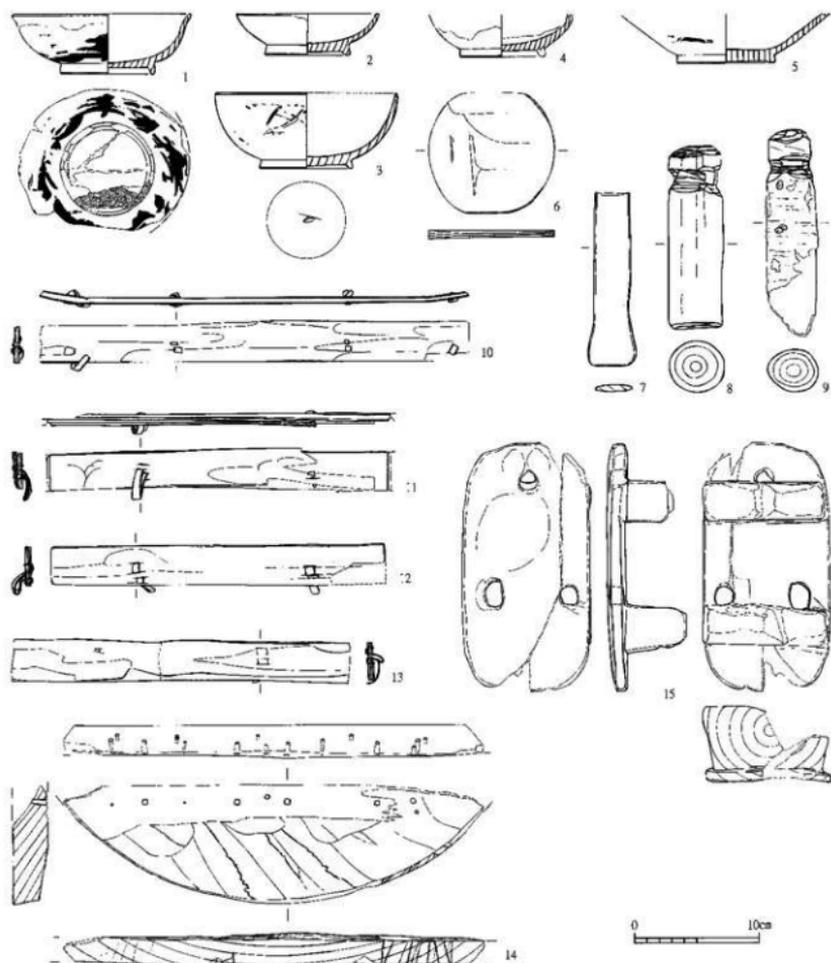
遺物は土師器・須恵器・瓦器・中世陶器などの土器類や漆器桶・鍋蓋などの木製品類が約90点とウマの歯や骨が出土した(表110, 第243図)。

Ic-257瀬美産壺(第243図2)は肩部外面に平行沈線と上下に向かい合う1本の円弧文を有するもので、所謂蓮瓣文の一種と考えられる。内外面をヘラミガキしたIb-14瓦器碗(4)も出土している。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-172	10D-SD1004B・上層	漆製品・短刀	ほぼ完形	26.5	2.4	0.4	刀身長18.8cm, 61g	122-8	
2	Na-146	10C-SD1004・I, II層	鉄製品・釘?	頭~中央部	9.0	0.8	0.2	板状, 8g+	122-10	
3	Na-147	10C-SD104・I, II層	漆製品・板	完形	6.9	0.7	1.0	30g	122-9	
4	K-83	10C-SD1004B,C下層	石製品・火打石	完形	4.5	3.1	2.1	34g, 玉磨	122-7	

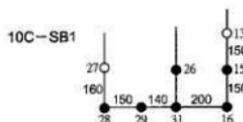
第240図 SD1004B・C出土遺物(2)



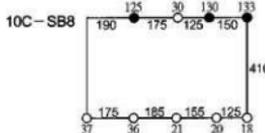
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地) 図釋	遺存状況	注量 (cm)			調整・特徴	写真 図版	
					11径	底径	高さ			
1	L-67	10C-SD1004C・上層	木製品・漆器碗	2/3	(14.0)	7.6	5.0	片断状で、内面黒粉下地→漆料薄→木肌残存。裏面に漆器痕 ブナ属	122-11	
2	L-65	10C-SD1004C・上層	木製品・漆器皿	4/5	11.4	6.8	3.5	漆の大部分が剥離、内外面に部分的に漆痕残存。ブナ属	122-13	
3	L-112	10D-SD1004B・上層	木製品・漆器碗	4/5	14.4	7.2	6.2	内面漆痕、外面黒色・木漆文庫。底縁口クハ高直。ブナ属	122-12	
4	L-66	10C-SD1004C・上層	木製品・漆器碗	下部		7.0		漆の大部分が剥離、外面の一部に漆痕残存。ブナ属	122-14	
5	L-55	10C-SD1004・上層	木製品	下部		8.0		内面漆痕剥離、外面黒色+漆文様	122-15	
6	L-127	10D-SD1004B・下層	木製品・蓋?	ほぼ完全形	10.2		厚0.7		122-16	
7	L-64	10C-SD1004C・上層	木製品・柄	1/2		長さ	幅	厚さ		
8	L-113	10D-SD1004C・下層	木製品・器具	ほぼ完全形	15.0	14.2+	2.9~4.0	0.5	蓋蓋?	123-3
9	L-14	10B-SD1004C・上層	木製品・器具	ほぼ完全形	15.9	4.5			柄部近くに納線付けの痕り	123-4
10	L-129	10D-SD1004C・下層	木製品・折敷	柄板1枚	34.5+	4.3			端部近くに納線付けの痕り	123-5
11	L-130	10D-SD1004C・下層	木製品・折敷	柄板1枚	27.5+	3.3	0.5		内縁部黒粉にV字形の凹み入。裏面等に漆痕残存	122-19
12	L-132	10D-SD1004C・下層	木製品・折敷	柄板1枚	26.9+	3.2	0.5~0.6		柄部部で破損。糊皮層に	122-20
13	L-131	10D-SD1004C・下層	木製品・折敷	柄板1枚	27.0+	3.3	0.5		端部部で破損。糊皮層に	122-21
14	L-128	10D-SD1004C・下層	木製品・柄?	柄板1枚	27.0+	3.4	0.5		柄部部で破損。糊皮層に	122-22
15	L-60	10C-SD1004B・下層	木製品・漆器下敷	ほぼ完全形	(45.0)		2.7		割れ口に補修用釘穴15、木釘残存	23-1
					20.3	10.3	高さ6.4		女用	123-2

第241図 SD1004B・C出土遺物(3)

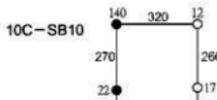
6の漆器椀は高台が厚い特徴を持つ(註3)。黒地に赤漆で鶴・草花・菱形などが描かれ、底部には「一」字が書かれている。



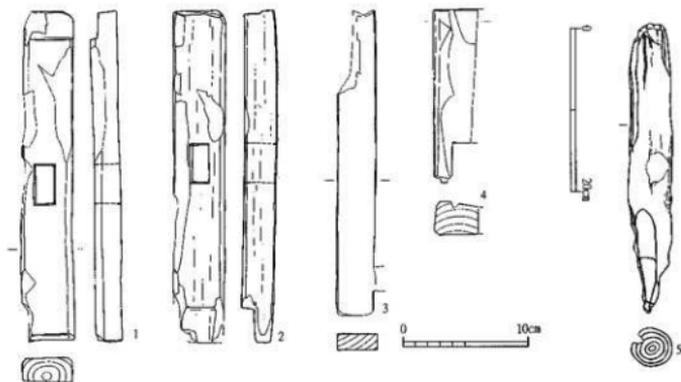
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
27	IVa	48×40	43	?
28	IVa	39	35	18
29	IVa	42	27	16
31	IVa	46×40	30	24
26	IVa	50	33	20
16	IVa	41	27	16
15	IVa	48×42	36	31
13	IVa	70×?	31	?
規模	東西4.9m, 5間	南北3.0m 1.2間+		
柱間	1.4~2.0m	1.5~1.6m		
面積			積さ	43° E
備考	P26は割什割りのピット			



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
125	Va	36×26	20	12
30	IVa	36×32	36	?
130	Va	36×30	31	12
133	Va	41	20	10
18	IVa	40	25	?
20	IVa	28	26	?
21	IVa	29	29	?
36	IVa	32	33	?
37	IVa	40×32	44	?
規模	東西5.4m	南北4.1m		
新行の間	進行の間			
柱間	1.25~1.9m	4.1m		
面積	26.2m		積さ	6° W

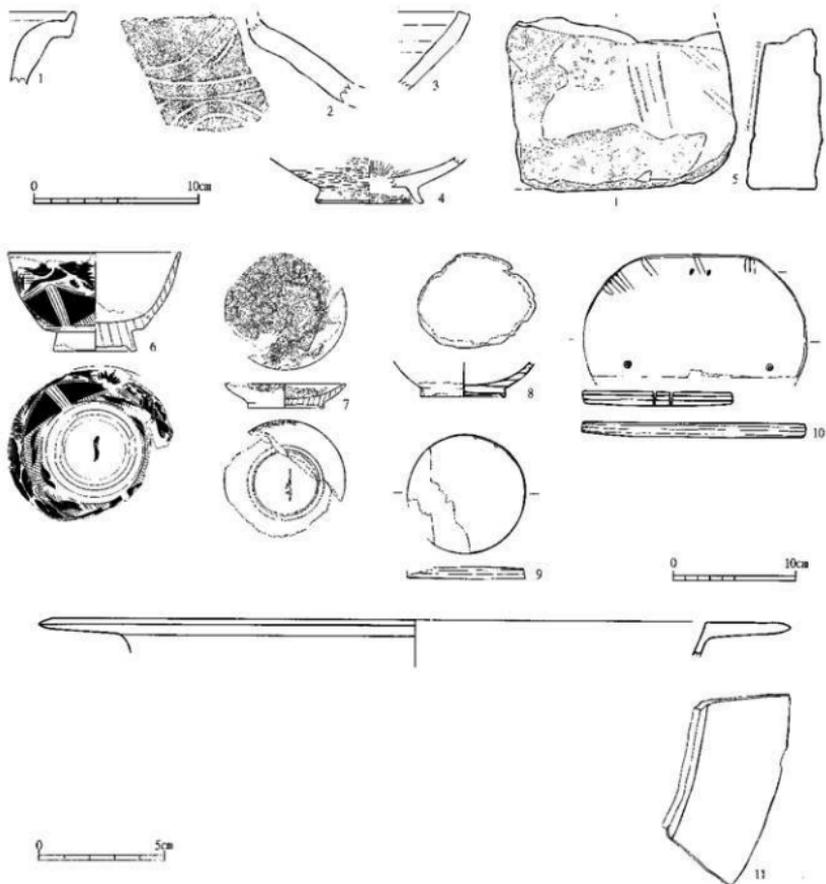


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
12	IVa	40×36	30	?
17	IVa	30	26	?
22	IVa	38×30	26	14
140	Va	40×36	24	26
規模	東西3.2m, 1間	南北2.7m+, 1間-		
柱間	3.7m	2.6~2.7m		
面積			積さ	22° W



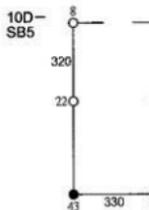
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-61	10C-SD1004B・C下層	木製品・板材	ほぼ完全	26.8	6.1	2.1	中央部に方形の穿孔	122-23	
2	L-62	10C-SD1004B・C上層	木製品・板材	ほぼ完全	27.1	4.1	2.6	中央部に方形の穿孔	122-24	
3	L-63	10C-SD1004B・C下層	木製品・板材	不明	24.8+	3.2	1.3		122-25	
4	L-79	10C-SD1004B・C下層	木製品・板材	部分	13.8+	3.6	2.7		122-18	
5	L-84	10C-SD1004	木製品・板	頸部欠損	35.4+	5.0		丸木	122-17	
6	L-136	10C-SD1004B・C上層	木製品・椀	ほぼ完全	180.5	14.3	5.5	高1層3.5, 下層1.0, 深約1.0	122-26	

第242図 SD1004B・C出土遺物 (4)



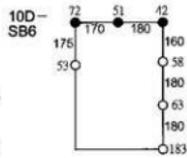
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					1径	底径	器高		
1	Ic-535	10D-SD1007・確認層	陶器(常滑) 甕	11縁~体部片				0・縁部コナシ、縁部子母灰オリブ色の透明釉、底式 層部外面に平行縦線・上下に円弧文・オ リーブ灰色の自然釉、内面ナゲ	123-6
2	Ic-257	10D-SD1007・下層	陶器(常滑) 甕	体部小片				口ケリ(明断付) 薄壁	123-7
3	Ic-256	10D-SD1007・上層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				口ケリ(明断付) 薄壁	123-8
4	Ic-14	10D-SD1007・上層	瓦類・筒	上部1/4	(6.4)			口ケリ(明断付) 薄壁	123-9
5	K-80	10D-SD1007・上層	石製品・砥石	輪郭のみ	長10.2+	幅13.3+	厚4.2	1190cm+, デイザイト質硬質岩	123-10
6	I-151	10D-SD1007・中間	木製品・漆器碗	1/2	(13.8)	6.6	8.2	内面刷粉下地+透明漆+赤漆、フナ属 外面刷粉下地+透明漆+赤漆文様(鶴・草 花・雲形など)、底径「一」文字	123-13 97-74
7	L-152	10D-SD1007・中間	木製品・漆器皿	4/5	(9.8)	6.2	2.1	内面刷粉下地+透明漆+赤漆+赤漆+透明漆 外面黒色、底径赤漆文字「一」、フナ属	123-14
8	L-153	10D-SD1007・中間	木製品・漆器碗	下部				内面刷粉下地+透明漆+赤漆+赤漆+透明漆 外面黒色、底径赤漆文字「一」、フナ属	123-15
9	L-155	10D-SD1007・最上層	木製品・曲物	底板2/3	径9.6		厚1.0	内面刷粉下地+透明漆+赤漆+赤漆+透明漆 外面黒色、底径赤漆文字「一」、フナ属	123-12
10	L-156	10D-SD1007・下層	木製品・漆器	2/3	径18.2		厚1.2	内面刷粉下地+透明漆+赤漆+赤漆+透明漆 外面黒色、底径赤漆文字「一」、フナ属	123-11
11	Ka-169	10D-SD1007	鉄製品・針	小片	径10.0			横門部の穿孔2(1組)、円形の穿孔2	123-16

第243図 SD1007出土遺物



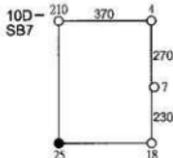
10D-SB5

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
8	IVa	40	25	?
22	IVa	36×30	25	?
43	IVa上 整地層	39	30	17
37	IVa	42×36	16	?
189	Va	25	19	?
規模	東西3.3m	南北2.0m		
柱間	3.1m	3.2～3.8m		
面積	23.1㎡	傾き 21° W		



10D-SB6

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
53	IVa上 整地層	22×18	19	?
72	*	39	19	14
51	*	60×40	25	12
42	*	40	33	16
58	*	40×36	36	?
63	*	35	34	?
183	Va	20	?	?
規模	東西3.5m	南北5.2m		
柱間	2.7～1.8m	1.6～1.8m		
面積	18.2㎡	傾き 22° W		



10D-SB8

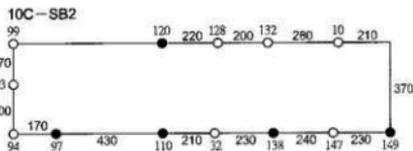
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
4	IVa	42×36	15	?
7	IVa	31	29	?
18	IVa	38×34	29	?
25	IVa	38×34	33	12
210	Va	35	31	?
規模	東西1.7m	南北1.0m		
柱間	3.7m	2.3～2.7m		
面積	18.5㎡	傾き 32° W		

10D-SB7

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
4	IVa	42×36	15	?
7	IVa	31	29	?
18	IVa	38×34	29	?
25	IVa	38×34	33	12
210	Va	35	31	?
規模	東西1.7m	南北1.0m		
柱間	3.7m	2.3～2.7m		
面積	18.5㎡	傾き 32° W		

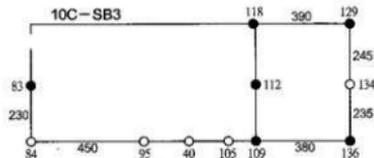
10D-SB8

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
65	IVa	24	25	10
13	IVa	33	26	?
44	IVa上 整地層	30×26	29	?
76	*	31	18	13
34	*	39	32	?
26	IVa	28	32	?
規模	東西6.3m	南北3.5m		
柱間	3.05～3.25m	2.6～2.9m		
面積	34.7㎡	傾き 5° E		



10C-SB2

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
94	Va	28×24	15	?
93	Va	25	26	?
99	Va	26	22	?
120	Va	44×26	33	26
128	Va	26	19	?
132	Va	28	36	?
10	IVa	24	27	?
149	Va	28	25	30
147	Va	51	22	?
138	Va	29	28	14
32	IVa	34×30	26	?
110	Va	21	17	18
97	Va	26×20	33	10
規模	東西15.1m	南北3.7m		
柱間	1.7～2.4m	1.7～2.0m		
面積	55.9㎡	傾き 34° E		
備考	SB4の副屋			



10C-SB3

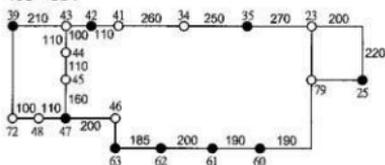
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
83	Va	22	30	12
84	Va	60×40	30	?
95	Va	72×64	16	?
40	IVa	40×34	35	?
105	Va	31	40	?
109	Va	30×42	35	21
136	Va	47	21	16
134	Va	38×32	25	?
129	Va	48×40	36	20
118	Va	36×7	40	20
112	Va	29	55	12
規模	東西12.8m	南北4.8m		
柱間	1.4～1.8・1.8・4.5m	2.35～2.45m		
面積	61.4㎡	傾き 36° E		
備考	P112は間仕切りの柱穴			

10C-SB14、10D-SB4～7 (第239図) 10C・10D区の整地層～IVa層上面で確認された小規模な溝である。

(2) 据立柱建物跡・柱列跡

北側の曲輪では城館の主軸方向から大きく東に振れる10C-SB8・10と10D-SB5～8、やや東に振れる10C-SB1がIVa4期の建物である。直視関係から3期の小期が想定され、建物方向からは10C-SB1→10C-SB10、10D-SB5～7→10C-SB8、10D-SB8の変遷が考えられる。

10C-SB4



10C-SB4

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
39	IVa上 敷地層	70×42	35	26
43	IVa	30	42	?
42	IVa	40	42	22
41	IVa	33	39	?
34	IVa	38	37	?
35	IVa	40×36	50	20
25	IVa	34×28	22	?
25	IVa	36×32	29	16
79	IVa	31	14	?
60	IVa上 敷地層	36	20	12
61	#	26	17	12
62	#	48×38	21	22
63	#	38	15	18
46	#	40×32	27	?
47	#	48×36	47	24
48	#	32	50	?
72	Va	30×26	46	?
44	IVa	32	39	?
45	IVa	30	42	?

東西14.0m 南北5.1m

身舎南行側・西側 身舎旅行側

東に張出し1間

身舎南側1.85~2.0m

柱間 身舎北側2.1~2.7m

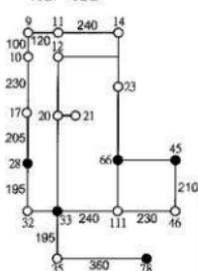
南・張出し2.0m

面積 59.4㎡ 傾き 34° E

主筋、P44は間仕切りの柱穴

備考 P42・48は出入りに関連する柱穴?

10D-SB2



10D-SA1

10D-SB2

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
9	IVa	41	23	?
10	IVa	32×26	25	?
17	IVa	40×36	30	?
28	IVa	43×40	32	14
32	IVa	44×38	28	?
33	IVa	38×32	32	?
12	IVa	45	24	?
20	IVa	46×40	29	?
33	IVa上 敷地層	48×44	24	16
111	IVb	39	20	?
46	IVa上 敷地層	54	27	?
45	#	36×48	28	14
66	#	38×34	21	17
23	IVa	48×40	35	?
14	IVa	40×30	26	?
21	IVa	34×30	28	?

規模

東西5.9m 南北7.3m

身舎南行側・西側 身舎旅行側・北側

東に張出し1間

身舎2.4m 身舎1.95~2.3m

柱間 2.1m 2.0m

張出し2.2m

面積 31.6㎡ 傾き 35° E

備考 SA1が付属、P2は間仕切りの柱穴

10D-SA1

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
35	IVa上 敷地層	35	27	?
78	#	38×28	30	14

規模 東西3.6m 1間 傾き 55° W

備考 SB2に付属

10C-SB5

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
175	Va	28×24	?	12
179	Va	29	?	13
178	Va	31	?	20
54	IVa	26×22	22	?

規模 東西3.0m、2間 南北2.5m、1間

柱間 1.45~1.55m 2.45m

面積 7.5㎡ 傾き 35° E

備考 傾き?

10C-SA2

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
42	IVa	24×20	46	?
50	IVa上 敷地層	32	38	12
88	Va	35	41	14
91	Va	34	28	?

規模 南北8.0m (4間+)

柱間 1.8~2.4m 傾き 35° E

備考 SB2・4に付属

(図は第239図)

10C-SA3

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
53	IVa	25	25	?
59	IVa	29	18	?
55	IVa	28	29	?
66	Va	27	?	?
161	Va	24	?	?

規模 東西8.0m+ 南北3.9m+

2間1 1間

柱間 3.8~4.2m 3.9m

傾き 58° W 22° E

備考 ㄱ字状、3D-SA3と連続する可能性

(図は第239図)

10C-SA4

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
136	Va	28×22	?	10
169	Va	30×22	?	7
51	IVa	22	29	?
159	Va	38×34	?	15
157	Va	22	?	6

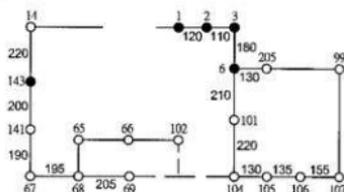
規模 東西12.2m (5間+)

柱間 2.3~2.8m 傾き 50° W

備考 10D SA5と連続する可能性

(図は第239図)

10D-SB1



10D-SB1

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱痕後
1	IVa	52×48	32	26
2	IVa	33	31	15
3	IVa	36×48	25	19
6	IVa	30	27	15
205	Va	29	16	?
99	IVb	39	30	?
107	IVb	42×36	53	?
106	IVb	26	24	?
105	IVb	18	31	?
104	IVb	51	36	?
101	IVb	51	32	?
102	IVb	42×? 11	?	?
10C-66	IVb	59	57	?
10C-65	IVb	54	51	?
10C-69	IVb	36	24	?
10C-68	IVb	38×44	23	?
10C-67	IVb	36×30	21	?
10C-141	IVb	42×36	29	?
10C-143	IVb	42×38	21	20
10C-14	IVb	60×54	31	?

規模 東西12.4m 南北12.1m

身舎南行側 身舎旅行側

東に張出し3間

柱間 身舎1.95~2.2m 身舎1.8~2.2m

張出し1.4~1.5m

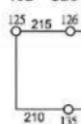
面積 68.1㎡ 傾き 34° E

備考 P102、10C-65・66は間仕切りの柱穴、P2は出入りに関連する柱穴

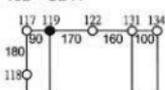
IVa4期はSD1003の東側約10mの幅で建物が無いが、これはIVa4期になって城館中央の曲輪に柵形が設置された結果、この部分が北へ向う主要通路となっていたためと考えられる。また同様に建物が無いSD1004Cの北側も通路として使用されていた可能性が高い。南北の曲輪はSD1003とSD1004B・C間の幅3~5mの通路で結ばれているが、この通路を穿いた形で10C-SB14がある。建物の位置からすると門跡の可能性があり、柱の配置が不均等なことから、簡単な構造で一時的な建物であった可能性がある。

IVa3期に属すると考えられるのは城館の主軸方向から若干東へ振れる建物群である。北側の曲輪では10C-SB2~4、10D-SB1・2などの大きな建物と付属する柱列10C-SA2、10D-SA1があり、重複関係や建物方向から10C-SB2・4とSA2が古く、10C-SB3と10D-SB1が新しいと考えられる。ただし、東側にある10D-SB2との関係は不明である。

10D-SB3



10D-SB11



10D-SB3

P/N	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
125	Va	50×46	25	?
126	Va	54×50	35	?
137	Va	56×50	22	?
81	IVa	52×44	17	15
135	Va	66×56	18	?
規模	東西6.5m	南北3.2m		
柱間	2.15m	3.2m		
面積	30.8㎡	傾き	35° E	

10D-SB11

P/N	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
118	Va	17	11	?
117	Va	17	19	?
119	Va	26	18	15
122	Va	29	43	?
131	Va	28×22	12	?
134	Va	32×28	21	?
規模	東西5.2m	南北1.8m+		
柱間	身長進行2間	桁行1間+		
面積	身長1.6~1.7m	1.8m		
備考	溝0.9~1.0m			
面積		傾き	37° E	

10D-SA3

P/N	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
121	Va	32×28	47	?
127	Va	26	44	?
138	Va	23	51	?
82	IVa	40×34	26	16
140	Va	31	?	?
141	Va	30×24	?	?
172	Va	20	?	?
規模	東西17.9m+	(1間=)		
柱間	2.3~2.7m	傾き	32° E	
備考	10C-SA3と連続?			

(図は第239図)

10D-SA4

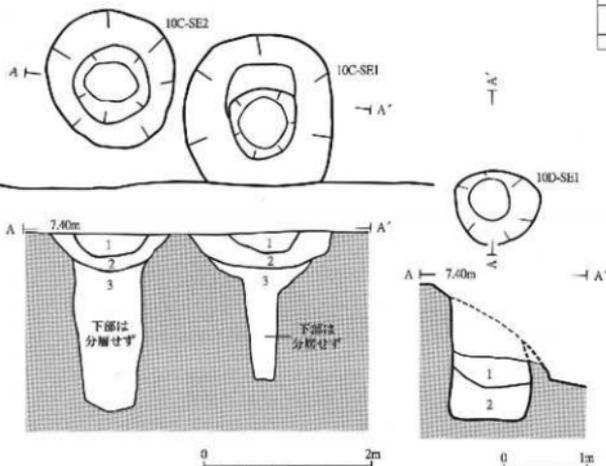
P/N	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
142	Va	13	21	?
143	Va	20	?	?
144	Va	26	30	12
149	Va	20	31	?
153	Va	38	25	23
157	Va	25×22	26	?
162	Va	24	22	10
164	Va	20	23	?
規模	東西3.6m, 3間	南北6.8m, 4間		
柱間	1.1~1.3m	1.2~2.3m		
傾き		傾き	35° E	
備考	[L]字に屈曲			

(図は第248図)

10D-SA5

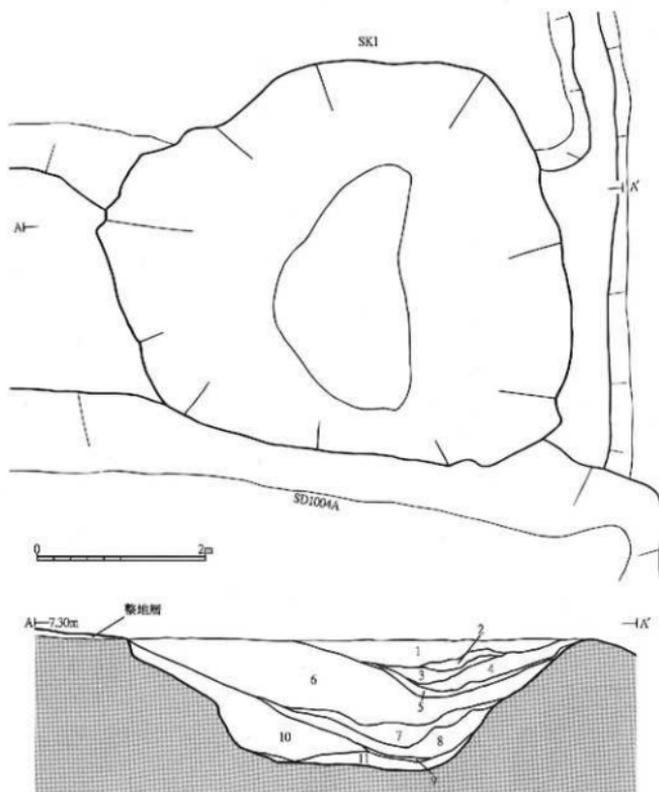
P/N	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
80	Va	19	8	?
83	Va	41	29	20
84	Va	27	20	?
規模	東西8.4m+	2間		
柱間	4.1~4.3m	傾き	58° W	
備考	10C-SA4と連続?			

(図は第239図)



層位	色調	土質	遺入物・その他
10C-SB2			
1	10YR3/1 暗褐色	粘土	ぶいれ質黒色粘土ブロック・黒褐色シルトブロック少量
2	10YR3/3 暗褐色 10YR3/4 にぶいれ質褐色 2.5Y3/1 黒褐色	粘土 粘土 粘土	ブロック間
3	2.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック少量、砂粒多量
10C-SB1			
1	10YR2/2 黒褐色	粘土	ぶいれ質褐色砂質シルト少量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・ぶいれ質褐色砂質シルト多量
3	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	黒色粘土ブロック・灰色砂質シルトブロック多量
10D-SB1			
1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色泥質黄粘土を混在に散見
2	5Y4/1 灰褐色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック多量

第244図 10C-SE1・2、10D-SB1 平面・断面図



層位	色相	土質	痕入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・黒褐色粘土ブロック少量、砂粒多量
2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	黒褐色粘土シルトブロック・砂粒多量
3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	黄褐色シルト質粘土ブロック数塊
5	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細砂	オリーブ黒色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック・砂粒多量
5	10YR2/2 黒褐色	粘土	植物遺体多量
6	5Y4/1 灰色	粘土	オリーブ黒色シルト質粘土・オリーブ黒色粘土・糖灰褐色粘土・灰色細砂ブロック多量
7	2.5Y2/1 黒色	粘土	灰色細砂ブロック・砂粒数塊
8	5Y4/1 灰色	シルト質粘土	黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック少量
9	10YR2/1 黒色	灰黄褐色粘土	植物遺体多量
10	2.5Y3/1 黄褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量
11	2.5Y3/1 黄褐色	粘土	瓦葺
	2.5Y2/1 黒色	粘土	

第245図 10D-SK1 平面・断面図

一方、城館中央部の曲輪では小規模な建物があリ、10C-SB5、10D-SB3から10D-SB11への変遷が想定されるが10C-SA3・4や10D-SA3・5などの柱列との関係は明確ではない。なお、10C-SB5は曲輪の隅に位置するので櫓の可能性が考えられる。

(3)井戸跡

10C-SE1 (第244図) 10C区南壁際に位置する。1.8×1.8m以上の楕円形で深さ1.8mである。堆積土はブロック土を主とし、人為的に埋め戻されたと考えられる。10C-SE2と共にIVa3～4期と考えられる。中世陶器片等2点が出土した(表109)。

10C-SE2 (第244図) 10C区南壁際、10C-SE1の西に隣接する。1.5×1.7mの楕円形で深さ2.2m、堆積土下層は自然堆積と考えられるが、上部は埋め戻されている。遺物は中世陶器片1点である(表109)。

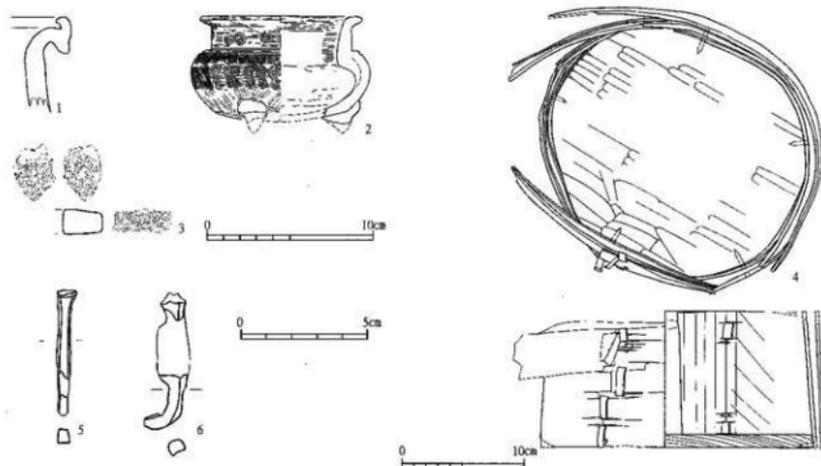
10D-SE1 (第244図) 10D区南部に位置し、SD1004Cに切られているのでIVa3期以前の遺構と考えられる。0.9×1.0mの楕円形で、深さは1.7mである。やや破損しているが完形に近い曲輪1点が出土している(表110、第246図4)。

(4)土坑

10C-SK4・6・7 (第239図) 10C区東部の北側の曲輪に位置する。3基共に大きさは80cm前後で浅く、出土遺物はない。SK4はIVa4期であるが、SK6・7の詳細な時期は不明である。

10C-SK8 (第239図) 10C区南壁際に位置する。1.1×3.0mの長方形で、深さ30cmである。出土遺物はない。

10D-SK1 (第245図) 北側の曲輪の東部にある。大きさは4.8～5.8mの不整形で、深さ1.6mである。堆積土は自然堆積層を主とするが、層の半ばに人為的な埋め戻も認められる。IVa期のうち詳細な時期は不明である。中世陶器や瓦質土器香炉の破片など約50点とウマの骨・歯、小動物の骨などが出土した(表110、第246図)。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地) 器種	遺存点	寸法 (cm)		調査・特徴	写真 図版
					口径	底径		
1	Ic-246	10D-SK1・溝縁面	陶器(常滑) 甕	口縁～体部片			口縁部ヨコナデ、外面灰白色の自然釉、6a型式	126-14
2	Ib-11	10D-SK1	瓦質土器・香炉	1/3	(9.8)	(7.2)	口縁部ヨコナデ、1線部と体部外面ヘラミガキ 墨文・数子文スタンプ、古直口縁部形多印を併用	126-15
3	P-9	10D-SK1	土製品・鈴鐺車	1/1	径(2.7)	厚1.6	11g+、表・裏・側面にスタンプ文(円形)	126-16
4	L-164	10D-SE1・下層	木製品・曲物	ほぼ完形	20.0～22.5	11.2	榎材製、木釘結合(釘は木釘も確認)、裏面に、歯輪ケビキ	126-13
5	Na-170	10D-P79	鉄製品・釘	頭～中央部	長さ 5.5	幅 0.6	厚部幅0.7cm、5g+	126-17
6	Na-171	10D-P94	鉄製品・釘	中央部	長さ 5.8	幅 0.8	断面、12g+	126-18

第246図 10D-SK1, SE1、ピット出土遺物

5. 10D区東部～10E区の遺構

城館の主軸方向の堀跡SD1007の東側には、SD1007に直交する堀跡SD1005A・DとSD1015がある。曲輪の東側の堀が認められないが、SD1007から55m（約半町）離れた10E区東部には城館の主軸方向の柱列跡10E-SA3があり、これが山輪東辺の堀に替わる櫓列跡と考えられる。10E区南東部にはこの櫓列に分断されるように方形あるいは「コ」字状に巡る溝跡10E-SD8（註4）があるが、この他に遺構は少なく、掘立柱建物跡3棟と柱列2条、非戸跡3基、土坑4基が確認されているのみである。

(1) 溝跡

SD1005A・D（第248・249図） SD1005はA・C・Dの溝3条が重複している。IVa2期と考えられるSD1005C（第3節226頁）が最も古く、次にSD1005Dがあり、SD1005AはSD1005Dの埋没後に新しく掘りなおしたもので、IVa4期と考えられる。なお、1005A・1005Dの大部分は一度調査区外に出てしまうので、10E区西部と東部のSD1005Bとのつながりは明確ではない。

SD1005Aは10D区北東部でSD1007と接続し、やや北側に膨らみながら東に延びる。幅2.0～2.5m、断面形は浅い「U」字形で、深さは1.5mである。西端部のSD1007との接続部には溝底面からの高さ約80cmの障壁状の高まりがある。堆積土は自然堆積層である。

SD1005DはSD1005Aのやや北側をほぼ並行して走るが、東側では大部分がSD1005Aに切られている。10D区北東部ではSD1007と並行し、SD1005Aと同じ障壁状の高まりの部分でSD1007と一部接続している。幅は2.0～2.5m、断面形は浅い「U」字形で深さは0.9mである。

SD1005A～D出土遺物は、一部を除いては区分せずに、「SD1005」として取り上げている。土師器・須恵器・土師質土器皿類・中世陶器などの土器片や木製品など約350点とウマの骨・骨、小動物の骨などが出土した。炭化できたのは陶磁器や瓦質土器などの土器類、硯石などの石製品、鉄製品、漆器椀・折敷・下駄・塔婆など多様な木製品等である（表110・111、第250～253図）。

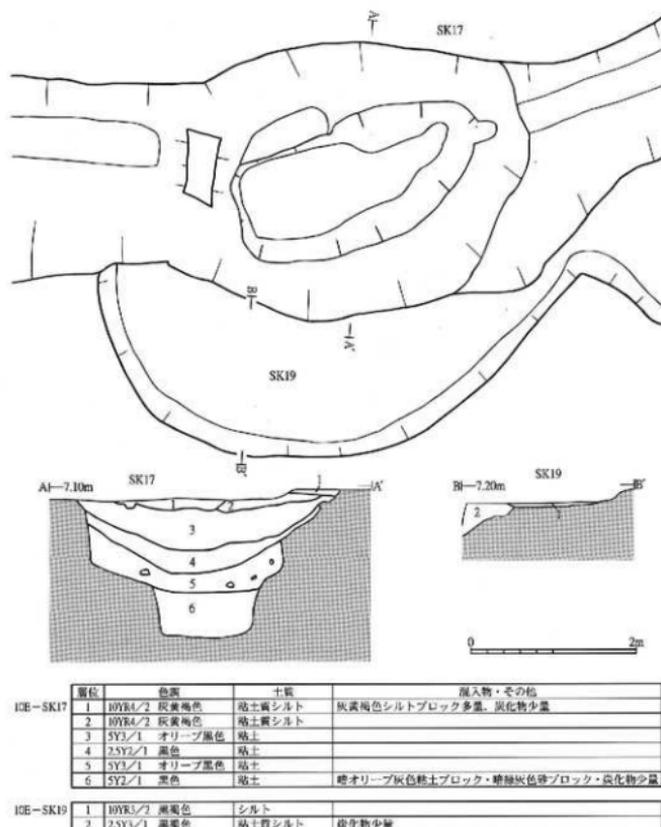
Ic-262（第250図5）は常滑産の広口壺と推定される破片で、肩部に凸帯が巡るものはこの1点だけが確認された（註5）。J-72青花皿（第250図13）はIVa2期のSD1005C（第279・281図）を埋めたブロック土から出土している。

木製品L-149・243・474折敷（第251図5～7）は大きさが異なっているが、それぞれ8寸・7寸・6寸の規格と考えられる。Na-188鉄鎌（11）はほとんど錆化が進んでいない良好な資料である。Na-180（12）は1～8区の水田跡から出土していると同様な農具の歯と推定される。

L-244塔婆（第253図1）には、墨は遺存していないが墨書の痕跡が確認された。塔婆表面が黒ずんでいるのに対して、逆に文字の部分の色調が他より薄く、なおかつわずかに盛り上がっている（註6）。ただし断片的なので判読はできなかった。L-137・138板塔婆枠（第253図3・4）は元々1本の丸木を半截して作ったものである。それぞれ3箇所に方形の貫通孔が開けられており、中央付近の二つの孔は同一方向であるが、頭部付近の孔は90°方向が異なっている。

SD1015（第248・249図） SD1005Aの南側を並行して走り、10D区でSD1007と接続している。IVa4期の遺物10E-SB2と重複するのでIVa4期よりは古いと推定される。また一方では、IVa2期には確実に機能していたと考えられる10E-SD8を分断する10E-SA3とも接続していることからIVa2期よりは新しく、概ねIVa3期頃の遺構と推定される。なお、SD1005との切り合いがないので、直接にSD1005との新旧関係は分らないが、SD1005がC・D→Aと変遷するうちの中間の時期であるSD1005Dと同じ頃と考えられる。

SD1015は10E区中央部に深さ1.7mの土坑状の掘り込みがあり、その部分は10E-SK17として区別しているが、本来はSD1015の一部である。この10E-SK17の西側には溝底面からの高さ約10cmの小規模な障壁状の高まりがあり、そこから西の溝幅は2.0～2.6m、深さ45～60cmで西に向かって徐々に浅くなっている。西端部のSD1007との接合部は長さ3mに

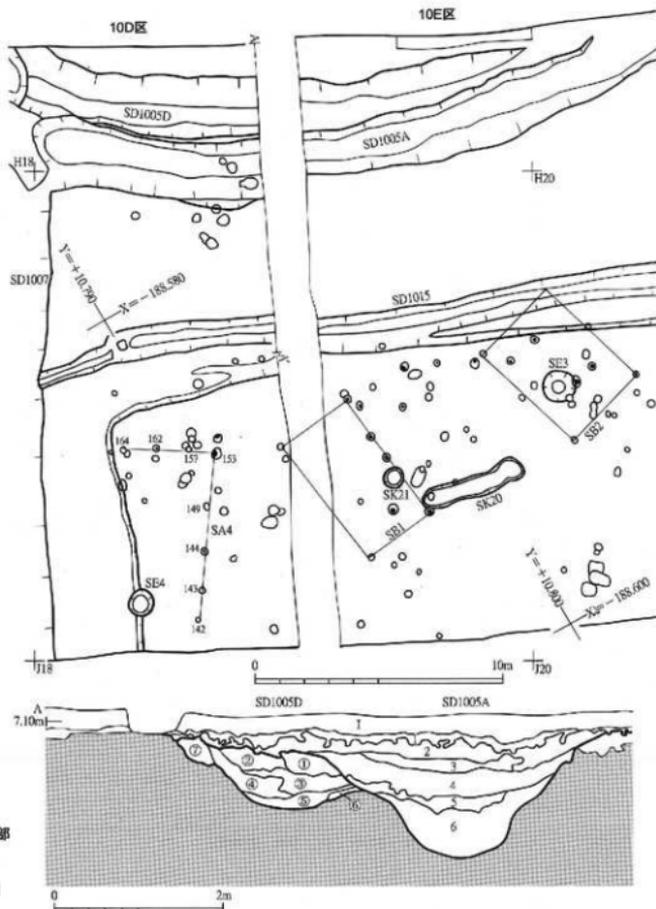


第247図 10E-SK17・19 平面・断面図

わたって幅60cm、深さ20cmの狭くて浅い部分となっている。一方10E-SK17の東側にも長さ3m、幅1.5m、深さ40～45cmの比較的狭くて浅い部分があり、そのさらに東側は幅2.5～3.0m、深さ0.9～1.0mで、幅広く深く直線的になっている。

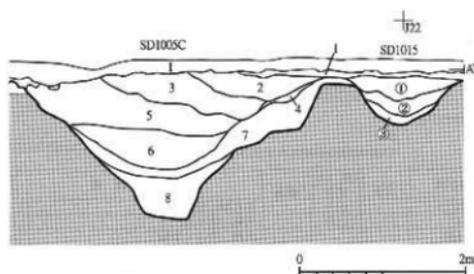
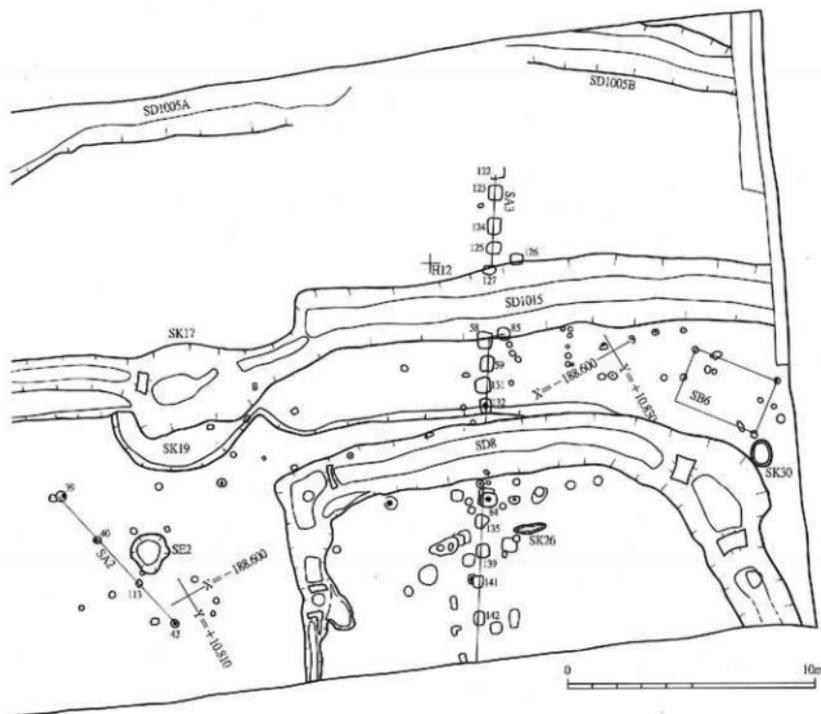
遺物は土師器・須恵器・土師質土器皿類・中世陶器などの土器片や木製品など約50点や焼骨などがあり、10E-SK17とした箇所からは人の頭骨も出土している。図化できたのは塔婆などの木製品が大部分で、他に陶器と板碑が各1点である(表111、第254～255図)。

塔婆は、杭状の塔婆と板塔婆がある。杭状の塔婆は頭部を一段高く削り残した板碑形塔婆で、2本の平行沈線をいれたL-307・311(第254図3・4)と平坦面を作り出しただけのL-304(第255図8)がある。板塔婆は頭部を五輪塔形に削り出したL-239(第255図7)と頭部が三角形のものがあり、後者には側面に抉りの入ったL-306(第255図6)、2本の平行沈線が入ったL-309(第255図5)、単に三角形を呈するL-308(第254図1)などがある。



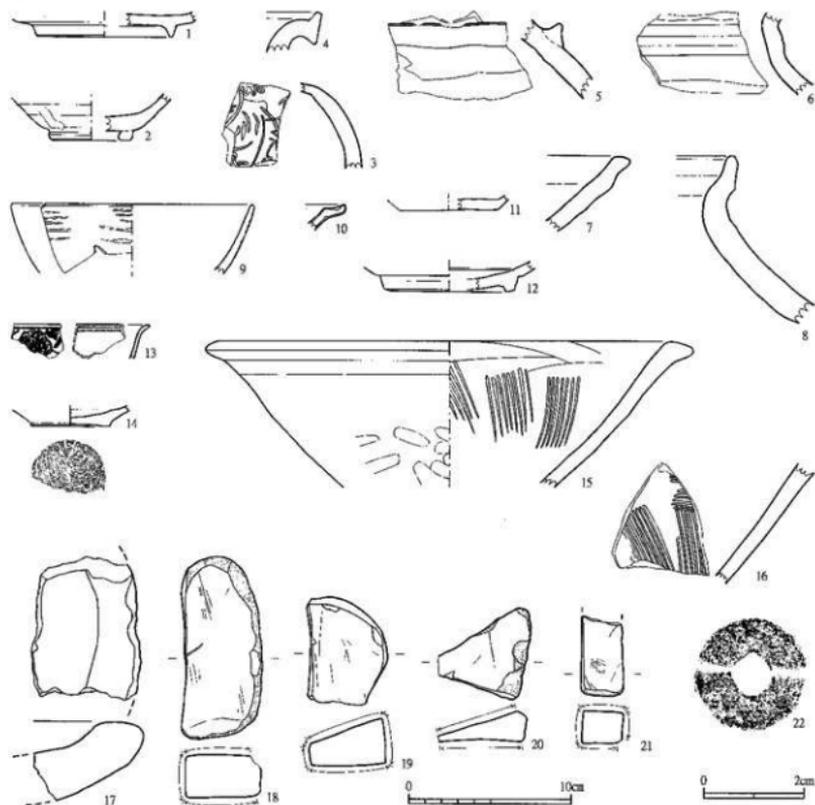
第248図
10D区東部～10E区西部
IVa層上面平面図
(IVa3・4期)
SD1005A・D 断面図

層位	色調	土質	埋入物・その他
SD1005D	① SY2/2	オリブ黒色 粘土	オリブ黒色粘土を層状に散見
	② SY3/1 2SY3/2	オリブ黒色 黒褐色 凝結色 粘土ブロック	
	③ SY2/2	オリブ黒色 粘土	にぶい黄色粘砂を層状に散見
	④ 1SY3/1 2SY3/2 SY2/2	オリブ黒色 粘土 オリブ黒色 凝結色 オリブ黒色 凝結色	互層
	⑤ SY3/2 SY3/1	オリブ黒色 粘土 オリブ黒色 粘土	層合
	⑥ 2SY3/2	オリブ黒色 粘土	オリブ黒色粘土ブロック少量、砂粒多量
	⑦ 2SY2/2	オリブ黒色 粘土	オリブ黒色粘土ブロック少量
	SD1005A	1 SY4/2	黄オリブ色 砂質シルト
2 SY2/2		オリブ黒色 粘土	砂粒多量
3 SY3/1 2SY3/2 SY3/3		オリブ黒色 黒褐色 凝結色 粘土 黄オリブ色 砂質シルト	互層
4 SY3/1		オリブ黒色 粘土	
5 SY2/2		オリブ黒色 粘土	オリブ黒色シルト砂子土層に少量、オリブ黒色粘土を層状に散見、木炭粒少量
6 2SY3/1 SY2/1		黒褐色 黒色	粘土 泥状黄粘土 互層



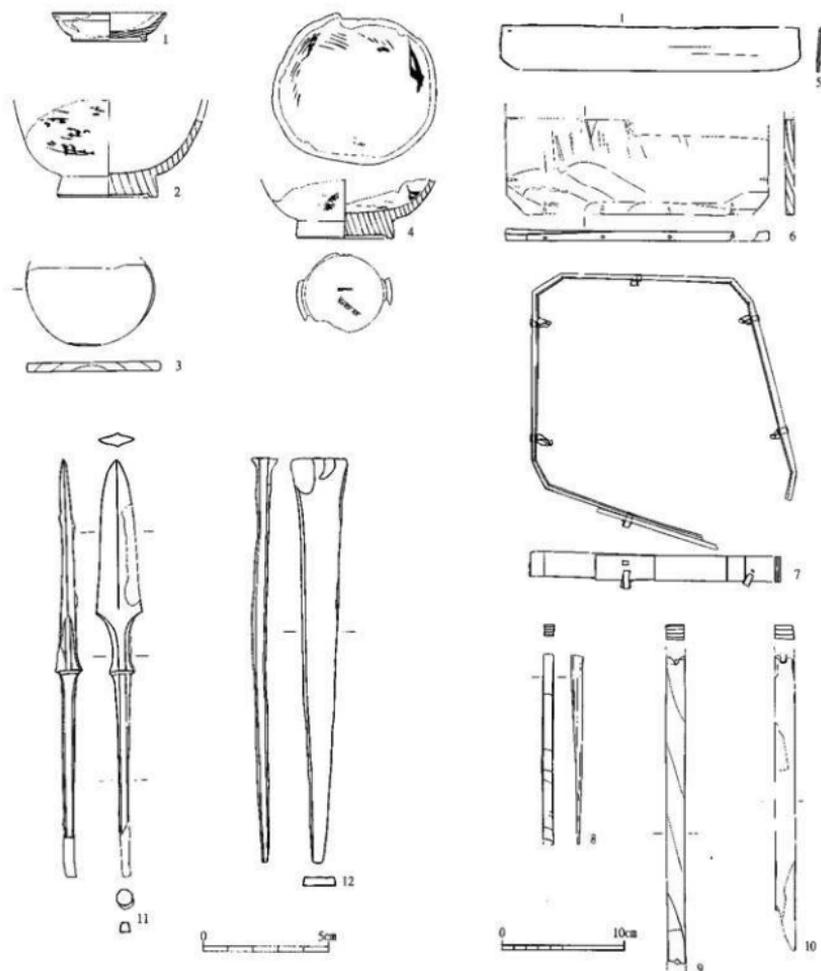
層位	色調	土質	埋入物・その他	
SD1005C	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	砂粒多量
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・黒色粘土ブロック少量
	3	2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土	黄褐色粘土ブロック・黄褐色粗砂ブロック・砂粒多量
	4	2.5Y5/3 黄褐色	粗砂	
	5	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	暗灰褐色砂質シルトブロック少量、砂粒多量
	6	10Y1/1 オリーブ黒色	粘土	灰オリーブ砂質シルトブロック少量、砂粒多量
	7	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	
	8	2.5Y4/1 緑オリーブ褐色	粘土	オリーブ褐色粗砂を層状に散在
SD1015	①	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、砂粒多量
	②	2.5Y3/2 黄褐色	粘土	互層
		2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	③	5Y3/1 オリーブ褐色	シルト質粘土	互層
5Y2/2 オリーブ黒色		粘土		

第249図 10E区東部 IVa層上面平面図 (IVa3・4期)、SD1005C・1015 断面図



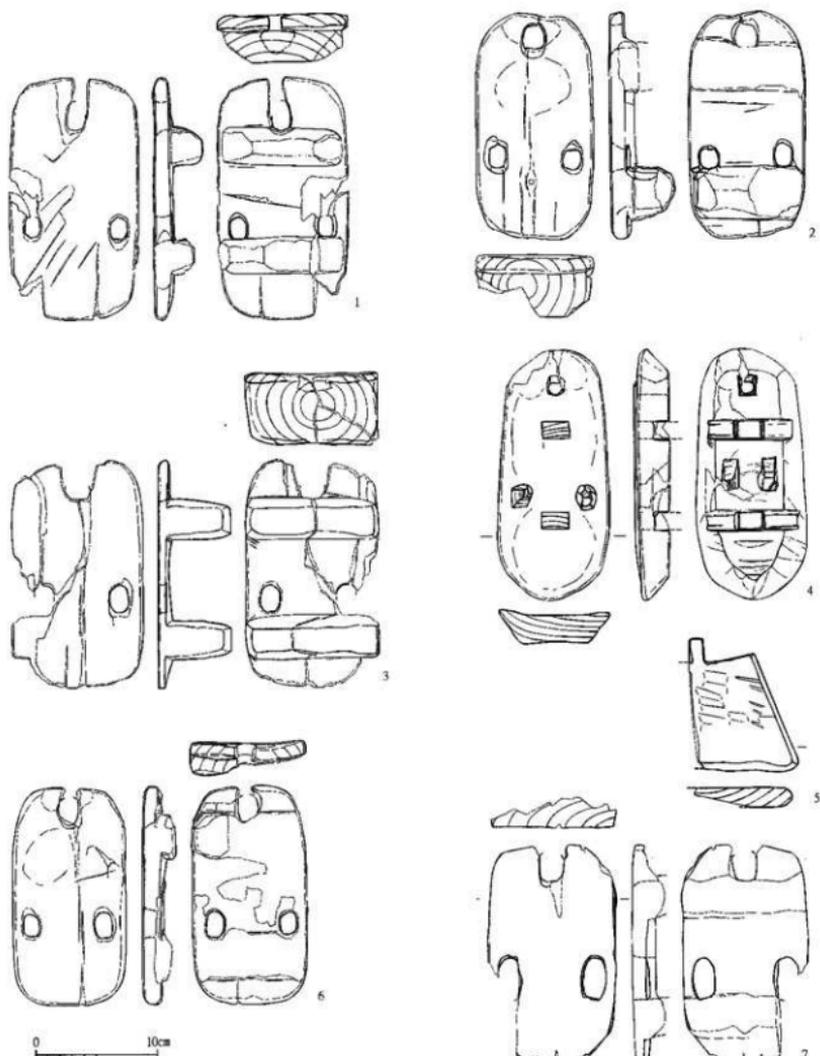
No.	発掘区	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)		調整・特徴	写真図像
						口径	底径		
1	Ic-565	10D-SD1005・上層	陶器(志野)中皿?	底部1/3			(8.4)	長石種、環線1~2期	124-1
2	Ic-265	10E-SD1005・上層	陶器(志野)中皿	底部1/3			(5.0)	灰釉、後1期	124-2
3	Ic-565	10E-SD1005・下層	陶器(志野)中皿?	底部小片				灰釉、後1期	124-3
4	Ic-523	10E-SD1005	陶器(志野)中皿	口縁部小片				3コマ型、60号式	124-4
5	Ic-262	10D-SD1005・上層	陶器(志野)中皿	底部小片				ナデ、環線外縁に凸部、ナデ印の自然痕、11号型?	124-5
6	Ic-261	10D-SD1005	陶器(志野)中皿	瓶+底部小片				環線ココナデ、体部ナデ、内面環線ナデ印の自然痕	124-6
7	Ic-260	10F-SD1005・上層	陶器(志野)中皿	口縁部小片				ロクロ(同転台)調整	124-7
8	Ic-272	10E-SD1005・下層	陶器(志野)中皿	口縁部小片				ロ・底部ココナデ、体部ナデ	124-8
9	Ic-64	10D-SD1005・上層	青磁(志野)中皿	口縁部1/6	(14.8)			口縁部に凸文ナデ	124-9
10	I-71	10D-SD1005・確認面	青磁(志野)中皿	口縁部小片					124-10
11	I-75	10E-SD1005・上層	白磁(中国)皿	底部1/3			(6.0)	口欠?	124-11
12	I-74	10E-SD1005・確認面	白磁(中国)皿	底部1/3			(8.0)		124-12
13	I-72	10D-SD1005・確認面	青花(中国)皿?	口縁部小片					124-13
14	Ia-27	10D-SD1005・確認面	土師質土器・皿?	下部2/3		4.9		ロクロ調整、回転先切	124-14
15	Ib-20	10E-SD1005・上層	瓦質土器・壺鉢	1/4	(30.0)			ロクロ調整+内面ナデ、内面に木炭灰×7層の黒目	124-15
16	Ib-16	10D-SD1005・上層	瓦質土器・壺鉢	体部小片				ナデ、内面に黒目	124-16
17	K-88	10D-SD1005・下層	石製品・茶臼下臼	部分	3.4+	6.0	高さ9+	28号で、志山製	124-17
18	K-84	10F-SD1005・上層	石製品・碓石	環線定部	11.2	4.1	2.7	28号、デイスイト質礫状碓石	124-18
19	K-87	10D-SD1005・下層	石製品・碓石	端部のみ	6.5+	4.8	2.8	135号土、デイスイト	124-19
20	K-86	10F-SD1005・下層	石製品・碓石	端部のみ	5.7+	5.7	2.0	61号土、デイスイト質礫状碓石	124-20
21	K-85	10D-SD1005・確認面	石製品・碓石	端部のみ	5.0+	2.7	2.0	4号土、デイスイト質礫状碓石	124-21
22	Nb-84	10E-SD1005・上層	銅製品・鍔	定部(折れ)	径2.3			無文鍔	124-22

第250図 SD1005出土遺物 (1)



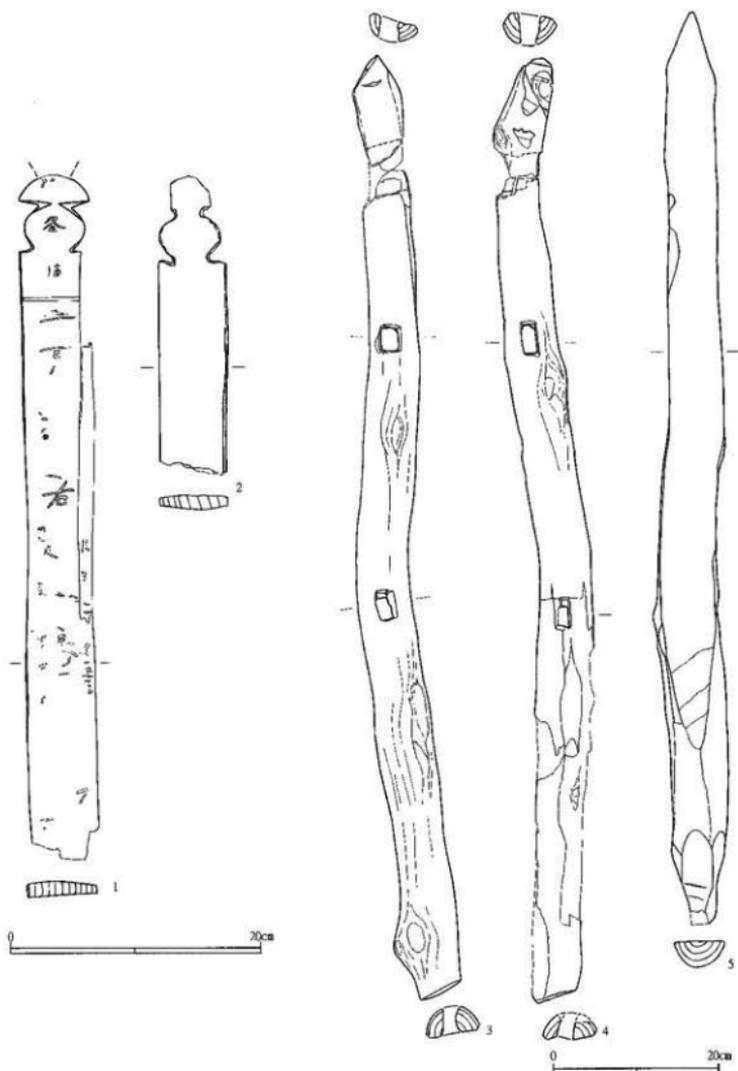
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版	
					口径	底径	器高			
1	L-143	10D-SD1005・最下層	木製品・漆器皿	2/3	9.2	6.0	2.1	内~外面体部灰粉下地+炭粉漆+透明漆+赤漆+透明漆 底面黒色。内面に漆状の付着物。フナ目 内面赤漆、外周黒色+赤漆文様(大部分剥落)。フナ目	124-23	
2	L-148	10E-SD1005・下層	木製品・漆器皿	1/2		8.0			124-24	
3	L-148	10D-SD1005・下層	木製品・曲物	底板2/3	10.3		0.8		125-1	
4	L-166	10E-SD1005・下層	木製品・漆器皿	1/3		8.0		内外黒褐色+赤漆文様。漆塗物のみ。外面削り面。フナ目	124-25	
5	L-149	10D-SD1005・上層	木製品・折敷	蓋? 1/8	17.4	6.6	0.3	結合孔1。規格8寸?	124-27	
6	L-243	10E-SD1005・下層	木製品・折敷	底板1/2	32.5		1.0	結合釘孔7個(1辺に4個)。規格7寸?	124-28	
7	L-474	10E-SD1005・下層	木製品・折敷	側板のみ	7.5×10.8	(12.1)	0.5	榫状結合。規格6寸?	124-26	
8	L-145	10D-SD1005・最下層	木製品・角材	?。両端欠損	15.9+		0.8	1.0	26-3	
9	L-147	10D-SD1005・下層	木製品・角材	?。両端欠損	25.6+		1.5	1.2	榑木釘による穿孔2箇所・孔間隔約25cm	26-6
10	L-146	10D-SD1005・下層	木製品・角材	?。両端欠損	34.1+		1.7	1.1	方形の穿孔の地盤	26-7
11	Na-188	10E-SD1005・下層	鉄製品・鏝	ほぼ完整	16.9	1.8	0.6	柳葉型式。身部長8.6cm。30g	26-1	
12	Na-180	10E-SD1005・上層	鉄製品・農具歯	ほぼ完整	16.4	2.3	0.6	57g+	26-2	

第251図 SD1005出土遺物 (2)



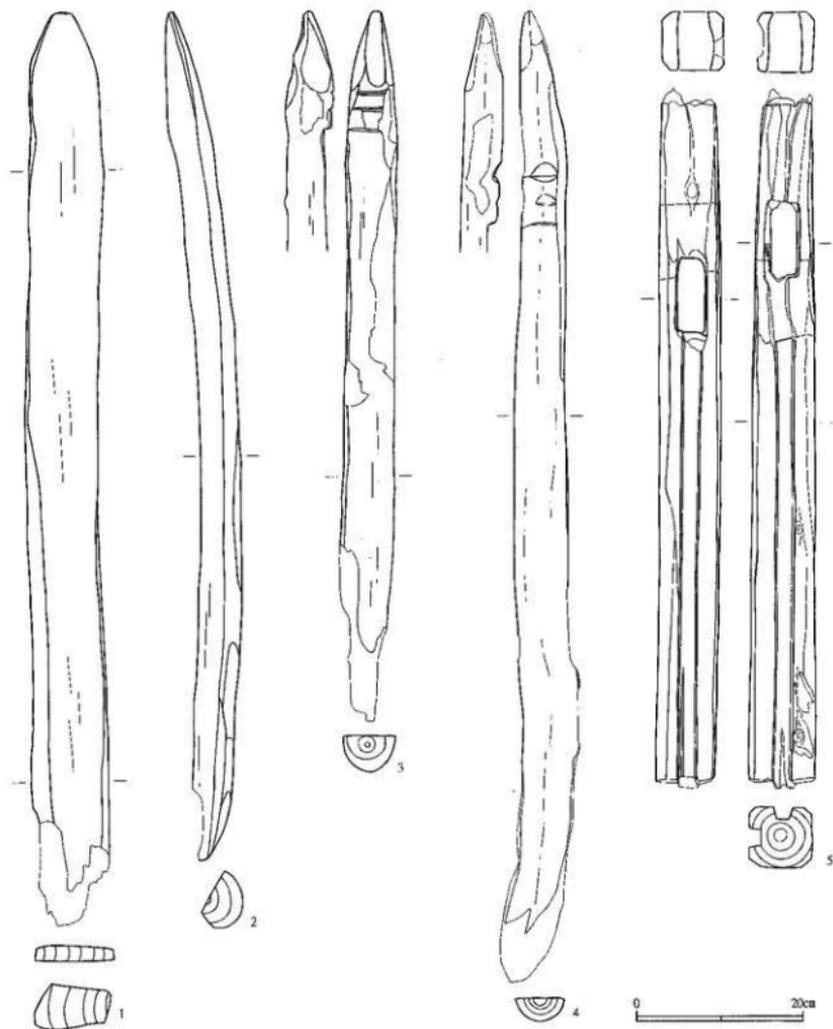
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	保存度	法属(cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-140	100-SD1005・最上層	木製品	連筒下駄	後面一部欠損	20.3	10.7	3.9-	左用	125-3
2	L-169	10E-SD1005・下層	木製品	連筒下駄	筒の一部欠損	29.0	9.7	5.3	右用	125-2
3	L-141	100-SD1005・下層	木製品	連筒下駄	45	19.2	10.9	6.0+	右用	125-5
4	L-142	100-SD1005・最上層	木製品	茶壺下駄	台部ほぼ完形	2.0	9.2	厚3.0	折れた茶壺基部残存	125-4
5	L-276	10E-SD1005・下層	木製品	茶壺下駄	茶壺1/2	幅9.2+	高11.1	厚1.7		125-6
6	L-170	10E-SD1005・下層	木製品	連筒下駄	筒の一部欠損	18.2	9.4	2.7		125-7
7	L-167	10E-SD1005・下層	木製品	連筒下駄	78	18.2	10.5	1.9+		125-8

第252図 SD1005出土遺物(3)



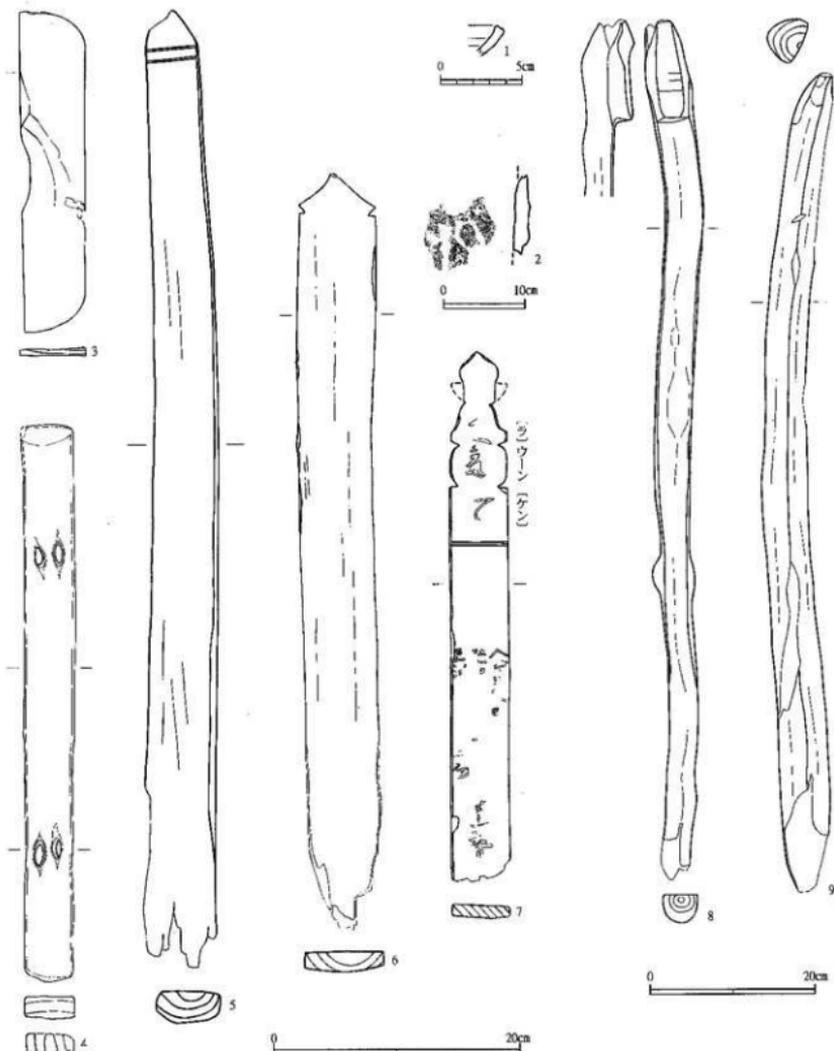
No.	発見No.	地区・遺構・層位	種別(現地)器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	収蔵 庫No.
					長さ	幅	厚さ		
1	L-264	10E-SD1005・下層	木製品・五輪形板漆塗	2/3	55.6	5.4	1.0	文字確認。ヒノキ	126-5
2	L-265	10F-SD1005・下層	木製品・五輪形板漆塗	上部1/3	24.2	5.3	1.3	ヒノキ科	126-4
3	L-137	10D-SD1005・下層	木製品・板状物の片	部分(柱1)	114.2	6.4	2.6	片側の厚み(断面)は2.5cm(厚みは遺文参照)。方形の穿孔(縁部)は縁部(縁部)は遺文参照。ヒノキ科	126-8
4	L-138	10D-SD1005・下層	木製品・板状物の片	部分(柱1)	114.2	6.8	2.8	方形の穿孔(縁部)は縁部(縁部)は遺文参照。ヒノキ科	126-9
5	L-139	10D-SD1005・下層	木製品・板状物の片	元形	110.4	6.2	3.2	丸木。断面は五角形。先端近くまで面取り	126-10

第253図 SD1005出土遺物(4)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 部種	遺存度	法属 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-308	SD1015	木製品・角形板状物	基部欠損	10.0+	9.4	4.5		127-2
2	L-305	SD1015・2層	木製品・板状形器蓋?	基部欠損	104.5+	4.9	2.3~3.7	分層材。頭部杭状	127-3
3	L-307	SD1015	木製品・板状形器蓋	上部2/3	87.0+	6.1	4.5	丸木。頭部杭状・2本編組分。以下直張り。クリ	127-5
4	L-311	SD1015・2層	木製品・板状形器蓋	基部欠損	9.2+	6.1	2.8	丸木。基部形蓋・2本編組(木製品)製分。以下直張り。クリ	127-4
5	L-310	SD1015・2層	木製品・杖材?	両端部欠損	85.0+	7.6	7.5	方形の穿孔1、2面に溝	127-8

第254図 SD1015出土遺物



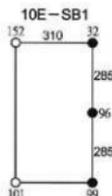
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	le-278	SD1015	陶器(古瀬戸)	器皿	口縁部小片				灰釉, 中1期	126-20
2	k-52	SD1015	石器	石製器・板押	小片		1.8		175g+, 痕跡	126-19
3	L-217	SD1015・3層	木製品	板材	丸形	26.2	5.5	0.7	一辺に痕跡の残り	127-10
4	L-238	SD1015・2層	木製品	板材	丸形	45.8	4.3	1.5~1.9	楕円形の穿孔2x2	127-9
5	L-309	SD1015・2層	木製品	板押形器	丸棒状	78.3+	5.2	2.6	分厚材, 断面杖状・2本纏束み, クリ	127-6
6	L-306	SD1015・2層	木製品	三角形板押	丸棒状	6.8+	6.4	1.7	断面断面に杖り	127-7
7	L-239	SD1015・3層	木製品	丸棒形板押	上部1/2	43.2+	4.6	1.0	水輪に梵字(ラ)ウー(ン)ケン(ト), 他に文字確認	127-1 197-1
8	L-304	10E-SK17・5層	木製品	板押形器	先端・高厚欠損	105.0+	2.0	3.4	丸木, 断面杖状, 以下面取り, クリ	127-12
9	L-303	10E-SK17・5層	木製品	板押形器	基部欠損	100.6+	5.8	4.2	丸木, 断面杖状, 以下面取り	127-11

第255図 SD1015, SK17出土遺物

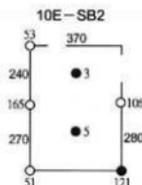
(2) 掘立柱建物跡・柱列跡

城館の主軸方向から大きく東に振れる10E-SB1・2・6と10E-SA2がIVa4期の建物と考えられる。城館の主軸方向から若干東へ振れる10D-SA4と10E-SA3はIVa3期に属すると考えられる。

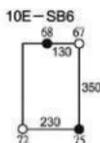
10E-SA3 (第249図) 北側をSD1005によって壊されているが長さ約20m分が残存している。掘り方の平面形が方形で、規模が一辺50cm前後と大きいこと、柱間隔が0.8~1.2mと狭いことが特徴である。確認面は5a層水田面であるが、これはこの付近では3a層直下で5a層となっているため、本来は5a層よりも上層の時期に伴うと考えられ、SD1015との接点ではSD1015の肩に沿って東方に開くように屈曲していることからSD1015と同時期に機能していたと考えられる。なお、10E-SD8との直接の切り合い関係は確認できなかった。防衛的意味合いが強い「権列跡」と考えられる。



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
32	IVb	26	14	12
96	IVb	21	13	12
99	IVb	30×24	23	20
101	IVb	19	9	?
152	Va	30	16	?
規模	東西3.1m	南北5.7m		
柱間	3.1m	2.85m		
面積	17.7㎡	傾き	8° W	



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
106	IVb	20	23	?
121	IVb	21	29	19
51	IVb	16	29	?
165	5b	21	?	?
53	IVb	19	14	?
3	IVa	31	28	15
5	IVa	35×30	21	20
規模	東西3.7m	南北5.1m		
柱間	3.7m	2.4~2.8m		
面積	18.9㎡	傾き	7° W	
備考	P3・5は間仕切りか礎柱			



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
68	5a	22	18	10
67	5a	20	13	?
75	5a	20	19	8
72	5a	24	29	?
規模	東西3.1m	南北1.5m		
柱間	1.0~1.3m	桁行1間?		
面積	8.1㎡	傾き	38° W	

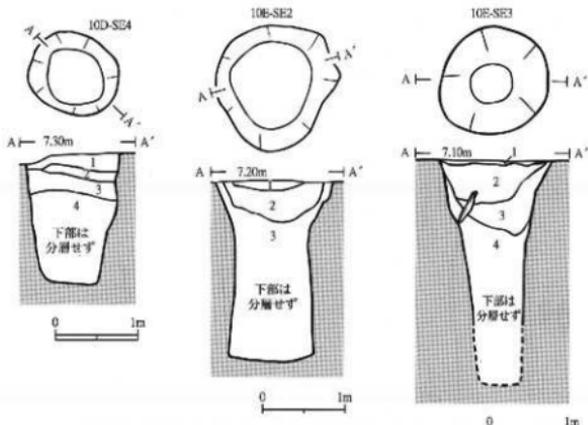
(3) 井戸跡

10D-SE4 (第256図) 10D区南東部に位置し、径1.0~1.1m、深さ1.6mである。

10E-SE2 (第256図) 10E-SA2の東側に位置する。径1.5mのやや歪んだ円形で、深さは2.25mである。刀子1点と桶の側板2点が出土した(表111、第257図)。

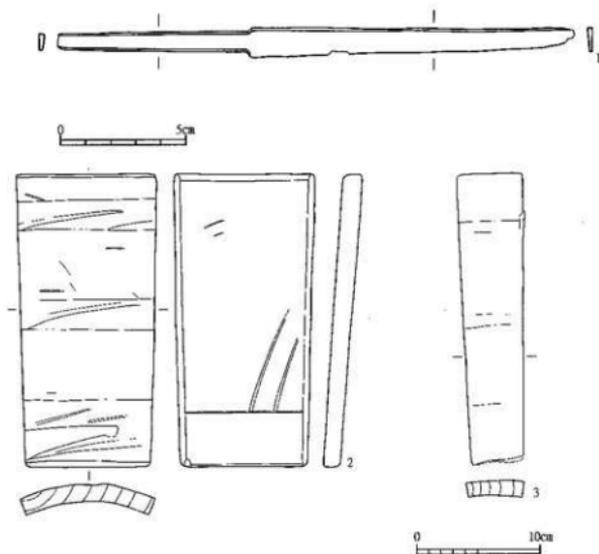
10E-SE3 (第256図) 10E区西部に位置する。底面が狭いために完掘はできなかった。径1.3×1.4m、深さ2.75mで、曲物の側板1点が出土している。

(4) 土坑 10E-SK20・21・26・30がある。いずれも浅く、性格は不明である。



層位	色調	土質	産入物・その他	
10D-SE4	1	10YR5/2 黒褐色	シルト	マンガン炭多量、小礫少量
	2	10YR6/1 黒灰色	シルト	炭化物時少量、マンガン炭少量
	3	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック少量、人為的な埋め土
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック少量、人為的な埋め土
10E-SE2	1	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物・マンガン炭・炭化物少量
	2	10YR2/1 黒色	粘土	黄褐色粘土ブロック・シルトブロック・炭化物多量
	3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黄褐色粘土ブロック・炭化物少量
10E-SE3	1	10YR6/2 黒褐色	シルト	砂質・炭化物少量
	2	2.5Y2/1 黒褐色	粘土	炭化物・小礫少量
	3	10YR7/1 黒色	腐植土	細かい植物遺体・炭化物・炭化物多量
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	植物遺体(炭・草・根)多量

第256図 10D-SE4、10E-SE2・3 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-187	10E-SH2	鉄製品・刀子	ほぼ完形	20.7+	1.2	0.2	17g+	127-15	
2	L-247	10E-SF2	木製壺・桶	側板1枚	24.1	11.4	1.6	板の裏面3枚	127-13	
3	L-248	10E-SB2・下層	木製壺・桶	側板1枚	23.0	5.3	1.3	板の裏面3枚	127-14	

第257図 10E-SB2出土遺物

- (註1) 10A-I2グリッドから出土している多数の鉄製品は、本来これらの土坑に伴う可能性もある。
- (註2) 嶋谷2003『模範銭の生産と普及』による。
- (註3) 『中出南遺跡』(太田：1994)によると、漆器柄の高台が高くて厚いものは16世紀以降に認められる。
- (註4) 10E-SD8はSA3によって分断されている可能性がある。このため、この時期にも残存していた可能性はあるが、主に機能していたのはIVa1~2期と考えられる。
- (註5) 肩部に凸帯が巡る広口壺は常滑室Ib期の「十三塚窯」に出土例があることから、Ib期の可能性がある。
- (註6) 原因は明らかではないが、墨によって木材の表面が紫外線や風雨などから保護された結果、墨のある部分の方がない部分よりも劣化の度合いが少なかったためではないかと考えられる。同様に文字の痕跡のみが確認された塔婆が10E-SD8から出土している(第284・296図写真図版197~201)。

10E-SA2

PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
39	IVb	41	23	15
40	IVb	29	18	14
113	IVb	24	11	?
43	IVb	30	20	14
規模 南北6.9m+、3間+				
柱間 2.3~2.5m				
傾斜 13° W				

10E-SA3

PINo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
122	5a	50×?	13	?
123	5a	60×50	41	?
124	5a	70×54	26	?
125	5a	50	21	?
127	5a	50×34	12	?
126	5a	56×50	30	?
85	5a	41	40	?
58	5a	64×56	31	?
59	5a	58	32	?
131	5a	55	26	?
132	5a	56×40	28	?
94	5a	56×44	23	18
135	5a	54×48	9	?
139	5a	50	19	?
141	5a	43	16	?
142	5a	54×40	15	?
規模 南北18.2m+、(11間+)				
柱間 0.8~1.2m				
傾斜 33° E				
備考 SD3に接続				

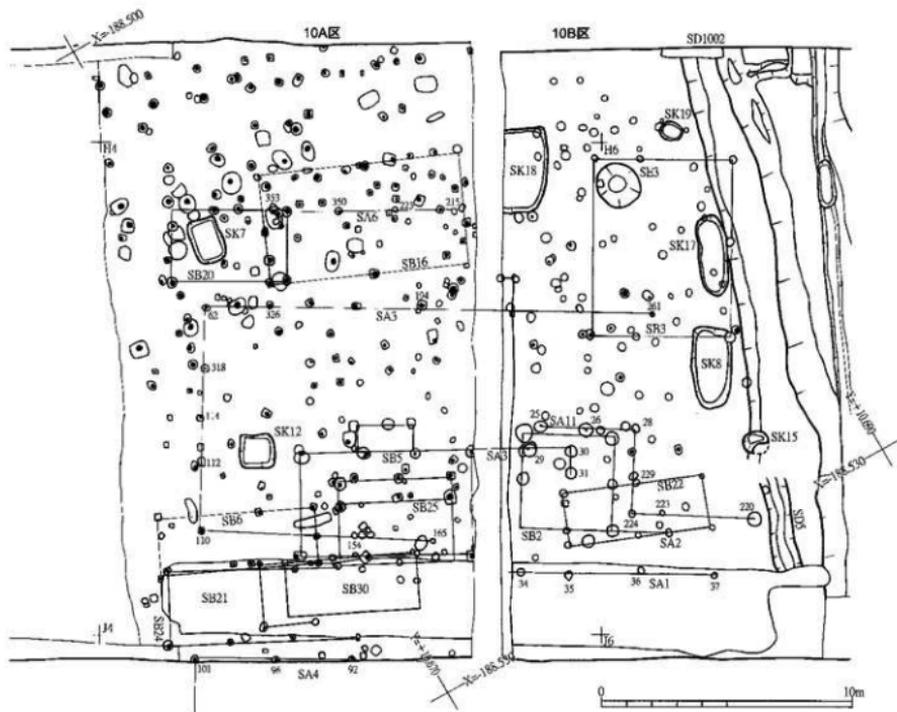
(図は第249図)

第3節 IVa層の遺構(2)―IVa1・2期

1. 遺構の概要

IVa2期は外堀が掘削される以前の城館に相当する。IVa2期の曲輪を形成する堀のうち南北方向の堀跡SD1002・1003・1007は東西方向のSD1004や1005のように複数の溝の切り合いが認められないため、IVa2期の段階から存在していたと断定はできないが、SD1003とSD1007については東西方向のSD1004AとSD1005Cの様相からこの時期から機能していた可能性が高いと考えられる。山輪内では掘立柱建物跡10棟、柱列跡7条、井戸跡、土坑などが検出されているが、井戸跡と土坑についてはこの時期に限定できるものは少ない。建物方向は真北から28~32°東傾して、城館の主軸と一致している。

IVa1期の区画溝は「堀」と呼べるほど溝の規模が大きくなく、IVa2~4期の城館とはやや異なっている。区画溝の位置もIVa2~4期の堀とは異なっており、IVa2期以降に踏襲はされていないので、区画は似ているものの基軸は全く別と考えられる。掘立柱建物跡15棟をはじめ、井戸跡、土坑などが検出されているが、井戸跡と土坑についてはIVa2期と同じくこの時期に限定できるものは少ない。建物の方向はIVa2期に比べてやや西傾(真北からは17~28°東傾)している。



第258図 10A区東部~10B区西部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)

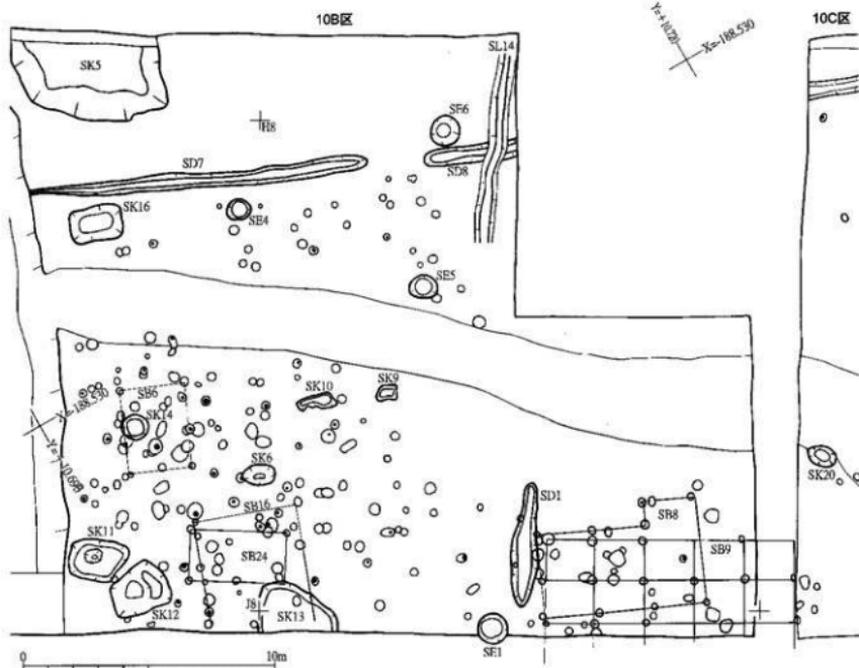
2. 10A区東部～10B区の遺構と遺物

前述したようにSD1002についてはこの時期に機能していたかどうか不明である。IVa-2期と考えられるのは掘立柱建物跡6棟、柱列5条で、井戸跡と土坑はIVa期中での時期限定が困難であるがSD1002の西側の整地層を除去したIV層上で新たに確認された10B-SE3はIVa2期、10B-SK8はIVb～IVa1・2期と推定される。IVa1期と考えられる遺構は東西方向の区画溝と掘立柱建物跡10棟で、井戸跡と土坑はIVa2期と同様に時期が限定できるものがない。

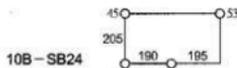
(1)溝跡

10B-SD5・7・8 (第258・259図) IVa1期の区画溝の可能性が高い。確認面はVa層上面であるが、堆積土がIV層に類似する黒色土であったのでIVa層上面から掘り込まれていた可能性が高い。10B-SD5は部分的に確認できたのみで、正確な方向は不明であるが、10B-SD7・8は真北から68°西傾している(22°東傾する軸に直交)。幅は10B-SD5の幅は1m前後、10B-SD7・8は50～60cm、深さは約10cmと浅いが、前述した理由で本来はもっと深かったと考えられる。なお、SD7とSD8の間は約2mの間隔があり、この部分は通路であった可能性がある。出土遺物は土師器・須恵器の破片20点である(表108)。

(2)土手 10B-SD8の上に小規模な土手SL14が作られている。

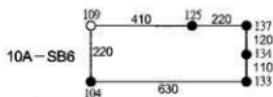


第259図 10B区東部 IVa層上面平面図(IVa1・2期)



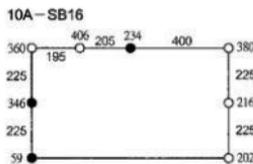
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
45	IVb	29	20	?
53	IVb	20	27	?
192	Va	20	19	?
194	Va	28×20	27	?

規模 東西3.9m 南北2.1m
 掘行間 掘行間
 柱間 1.9~1.95m 2.05m
 面積 8.2㎡ 傾き 32° E



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
104	Va	25	23	12
109	Va	36×32	22	?
125	Va	32	25	13
137	Va	27	17	16
134	Va	17	14	8
133	Va	29	16	16

規模 東西6.3m 南北2.3m
 掘行(3間) 掘行間
 柱間(2.0~2.2m) 1.1~1.2m
 面積 14.5㎡ 傾き 26° E



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
59	IVb	40×26	53	18
346	Va	28×20	40	18
360	Va	22	28	?
406	VI	28×20	17	?
234	Va	16	26	8
380	Va	30×?	30	?
216	Va	25	17	?
202	Va	21	30	?

規模 東西8.0m 南北4.5m
 掘行(4間) 掘行間
 柱間 1.95~2.05m 2.25m
 面積 36.0㎡ 傾き 24° E



0 5cm



0 2cm



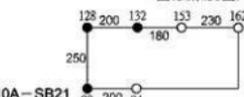
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
129	Va			
135	Va			
163	Va			
164	Va			

規模 東西5.2m 南北(2.2m)
 掘行(3間) 掘行(2間)
 柱間(1.05~1.9m) (1.1m)
 面積 (11.4㎡) 傾き 26° E



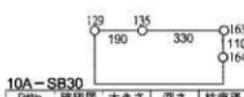
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
165	Va	18	12	?
154	Va	20	16	?
110	Va	23	20	14
112	Va	26×22	25	?
114	Va	22	18	8
318	Va	28×24	42	16
62	IVb	32	22	19
326	Va	27	17	12
194	Va	31	37	15
108, 361	Va	26	22	?

規模 東西1.9m(2間) 南北2.1m, 4間
 掘行(2.7~3.2m) 1.8~2.2m
 柱間 59° W 31° E
 面積 9.7㎡ 傾き 59° W (図は第258図)



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
94	Va	22	18	?
98	Va	31	28	14
128	Va	22	25	12
132	Va	18	9	8
153	Va	15	16	?
162	Va	20×16	8	?

規模 東西6.1m 南北2.5m
 掘行(3間) 掘行間
 柱間(1.8~2.3m) 2.5m
 面積 15.3㎡ 傾き 25° E



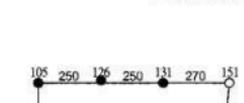
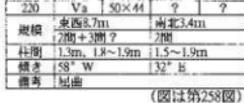
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
120	Va			
135	Va			
163	Va			
164	Va			

規模 東西5.2m 南北(2.2m)
 掘行(3間) 掘行(2間)
 柱間(1.05~1.9m) (1.1m)
 面積 (11.4㎡) 傾き 26° E



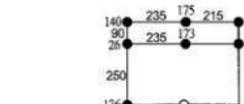
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
34	IVa	29	32	?
35	IVa	27	27	?
36	IVa	22	14	?
37	IVa	21	14	?

規模 東西7.7m+3間
 柱間 1.9~3.0m 傾き 60° W
 (図は第258図)



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
91	Va	22×?	5	18
95	Va	18×14	18	?
100	Va	20	17	12
106	Va	37	27	16
105	Va	23	21	10
126	Va	20	16	12
131	Va	20	15	10
151	Va	21	20	?

規模 東西7.4m 南北3.0m
 掘行3間 掘行間
 柱間 2.35~2.7m 3.0m
 面積 22.2㎡ 傾き 28° E

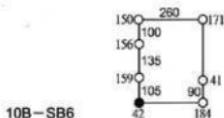


PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
160	Va	19	22	?
136	Va	25	16	11
26	IVa	41	54	22
140	Va	50×44	28	14
175	Va	36×32	29	12
179	Va	34×26	49	16
19	IVa	41	38	24
173	Va	36×30	38	14

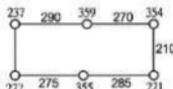
規模 東西4.4m 南北3.4m
 掘行2間 掘行間、北側
 柱間 2.15~2.35m 長さ2.5m・開口9m
 面積 15.3㎡ 傾き 28° E

No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-110	10A-P140 (SB25)	鉄製品・針	中央部		6.1±0.4	0.4	3g+	3g+	128-1
2	Nb-51	10A-P16c (SB30)	銅製品・鉄貨	中央部		18.2±3		重3.6g	3g+	128-2

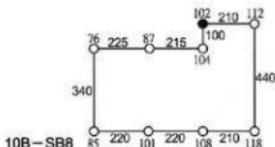
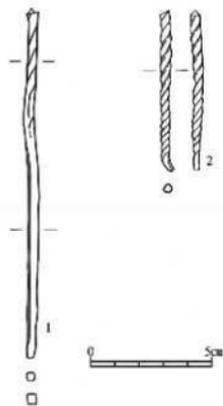
第260図 10A-SB25・30出土遺物



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
150	Va	28	14	?
171	Va	34×30	8	?
41	IVb	48	36	?
184	Va	28	?	?
42	IVb	24	42	12
159	Va	46×34	38	?
156	Va	42×28	13	?
規模	東西2.6m	南北3.4m		
柱間	梁行1間	桁行2間		
柱径	2.9m	1.9~1.35m		
面積	8.8㎡	積き	23° E	



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
227	Va	29	?	?
237	Va	31	?	?
359	VI	23	11	?
354	VI	20	10	?
221	Va	22	?	?
355	VI	26	?	?
規模	東西3.5m	南北2.1m		
柱間	梁行2間	桁行2間		
柱径	2.7~2.9m	2.1m		
面積	11.8㎡	積き	22° E	



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
76	Va	26	21	?
87	Va	29	41	?
104	Va	34	29	?
102	Va	36×30	40	10
112	Va	26	32	?
118	Va	24	35	?
108	Va	25	12	?
101	Va	27	35	?
85	Va	24	21	?
規模	東西6.5m	南北4.4m		
柱間	梁行2間	桁行1間		
柱径	2.1~2.25m	1.0m		
面積	24.2㎡	積き	24° E	



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
11	IVa	37	47	?
5	IVa	32	43	12
351	IVb	22	?	?
49	IVb	34	19	?
208	Va	39	37	?
219	Va	37	?	?
規模	東西4.1m	南北4.2m+		
柱間	梁行2間	桁行2間		
柱径	4.1m	1.8~2.4m		
面積	?	積き	20° E	

(4)井戸跡

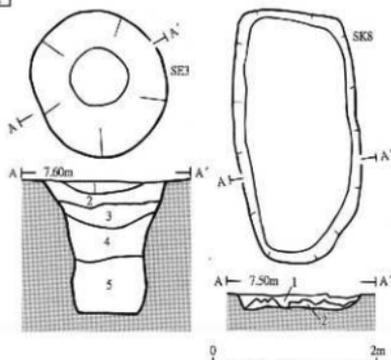
10B-SB3 (第261図) SD1002の

西側の整地層を除去したIV層上で確認された。1.6×1.8mの楕円形で深さは1.6mである。前述したような位置関係から10B-SB3の屋内にあった可能性がある。遺物は土師器、中世陶器片4点である。

(5)土坑

10B-SK8 (第261図) IVb層上面で確認されたが、IVb期ではなくIVa・

2期の遺構である可能性もある。1.5×3.1mの不整な長楕円形で、深さ約20cmである。堆積土に炭化物や焼土を多量に含んでおり、火箸と推定される鉄製品が2点出土している(表108、第262図)ことから火を扱う何らかの施設であると考えられる。



層位	色調	土質	混入物・その他
10B-SK3			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量・焼土粒微量
2	10YR3/1 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトブロック少量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	焼灰褐色粘土ブロック微量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・灰色細砂ブロック多量
5	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
10B-SK8			
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	炭化物混・粘土粒多量
2	10YR3/4 褐色	砂質シルト	暗褐色粘土ブロック多量

第261図 10B-SE3, SK8 平面・断面図

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真位置
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-125	10B-SK8・1層	鉄製品・火箸?	頭~中央部	14.6+	0.5	0.5	全体の平分近く残りの15g+	178-4
2	Na-126	10B-SK8・1層	鉄製品・火箸?	先端部のみ	6.7+	0.5	0.5	全体に散り、5g+	128-3

第262図 10B-SK8出土遺物

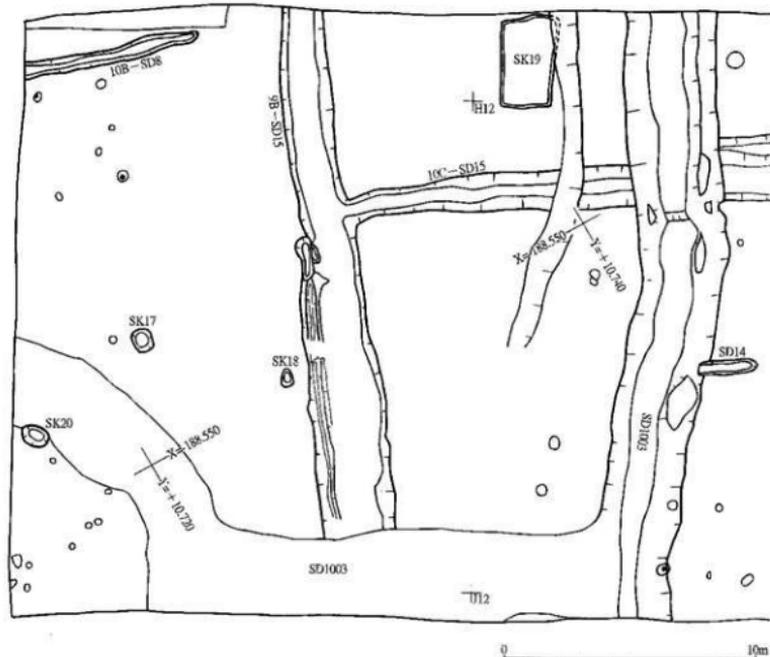
3. 10C区西部の遺構と遺物

SD1003についてはIVa2期から機能していた可能性が高いと考えられる。9B区から続く9B-SD15と10C-SD15はIVa1期と推定される。北西部には10B-SD8の延長部分が延びている。他に遺構は少なくとも10C-SD14と上坑4基のみであるが、大部分は時期が限定できない。

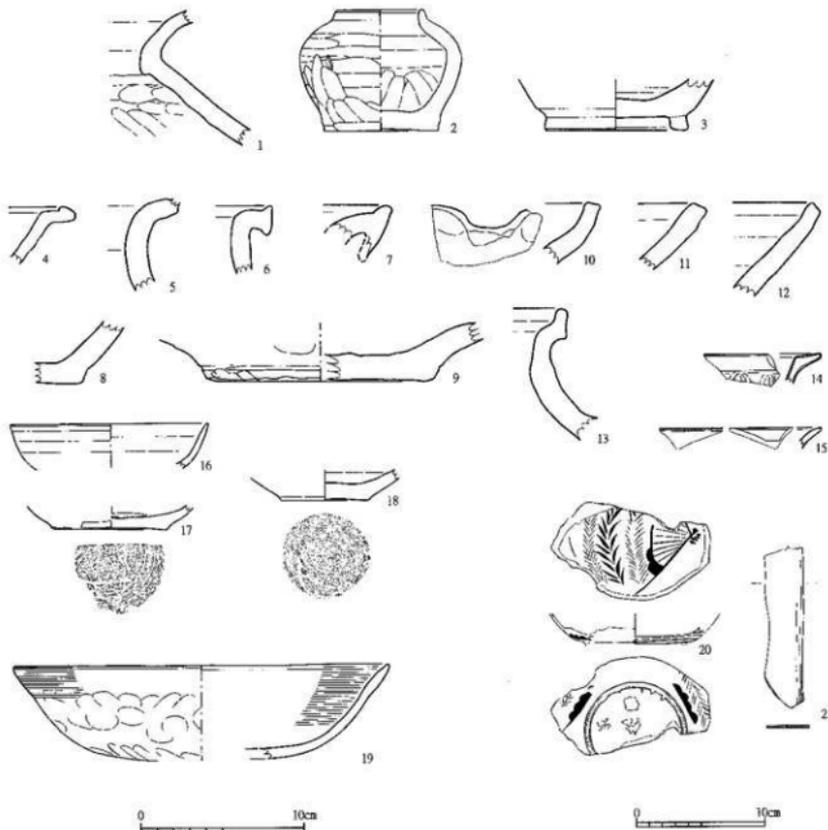
(1) 溝跡

9B-SD15 (第263図) 9B区で調査した9B-SD15の延長部分で、IVa1期の区画溝と推定される。10C-SD15と「T」字状に接続し、切り合いが認められなかったので同時に機能していたと考えられる。確認面はVa層上面であるが、堆積土がIV層に類似する黒色土であったのでIVa層中あるいは上面から掘り込まれていた可能性が高い。方向は真北から23°東傾し、幅は1.7~3.0m、深さは30~45cmである。出土遺物は土師器、須恵器、上師質土器、中世陶器等25点と木製品2点、およびウマの骨で、陶器と須恵器計3点が図化できた(表109、第264図1~3)。

10C-SD15 (第263・267・269図) 9B-SD15と「T」字状に接続する。確認面はIVa層中で、堆積土上層にはIVa層が流入していた。方向は真北から61°西傾して、概ね9B-SD15と直交する。長さは約54m、幅は9B-SD15との接続部分では狭く約1mであるが、東側では2.5~3.8mに広がっている。断面形は浅い「U」字形で深さは1.6mである。出土遺物は土器片200点以上とウマの骨であるが、土師器・須恵器・中世陶器が多い。常滑や在地産の陶器や上師質土器、漆器碗などが図化できた(表109・110、第264図4~21)。土師質土器Ia-25輪(19)は、①大型である点、②型押し成形で作られている点、③色調が灰白色である点などが他の土師質土器皿類と大きく異なっており、他の地方からの搬入品であると考えられる。



第263図 10C区西部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)

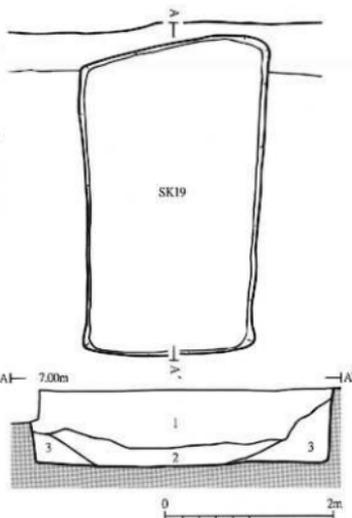


No.	器種No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	実寸 図版
					口径	底径	器高		
1	1c-210	10C (9B-SD15)	陶器(越前) 炊	口縁~体部に				縦方向に2条の化粧	128-5
2	1c-212	10C (9B-SD15)	陶器(在産) 小甕	1/3	(5.5)	(7.0)	7.5	ナデ、内面に蓮華の付着物	128-6
3	1c-109	10C (9B-SD15)	陶器(大戸) 瓶	底部のみ		8.5		ロク口調整	128-7
4	1c-226	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				灰釉、中層部	128-8
5	1c-223	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				口縁部コナデ、底部ナデ、一面に黄オリーブ色の自然釉	128-9
6	1c-218	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、内面調整、転写紙	128-10
7	1c-546	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	1/4身部小片				ヨコナデ、7割式	128-11
8	1c-217	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	底部小片				ナデ	128-12
9	1c-211	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 甕	底部小片	(13.9)			ナデ、内面に灰白色の自然釉	128-13
10	1c-213	10C-SD15・4層	陶器(在産・白石) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ(阿転台) 調整	128-15
11	1c-215	10C-SD15・4層	陶器(在産・白石) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ(阿転台) 調整	128-16
12	1c-216	10C-SD15・4層	陶器(在産) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ(阿転台) 調整、内面下半部焼	128-14
13	1c-214	10C-SD15・4層	陶器(在産・白石) 片口鉢	口縁部小片				ロ・底部コナデ、転写ナデ、外面に灰白色の自然釉	128-17
14	1c-56	10C-SD15・4層	陶器(常滑) 折縁豆	口縁部小片				転写文	128-22
15	1c-55	10C-SD15・3層	白磁(中国) 瓶	口縁部小片				口差	128-21
16	1c-21	10C-SD15・4層	土師質土器・甕	上部1/6	(12.0)			ロクロ調整、外面体部下端一部ナデ	128-18
17	1c-20	10C-SD15・4層	土師質土器・甕	下部1/6		(6.9)		ロクロ調整、回転系切一ナデ、足込小ナデ	128-19
18	1c-22	10C-SD15・4層	土師質土器・甕?	下部		5.2		ロクロ調整、回転系切、白粉量	128-20
19	1a-25	10C-SD15	土師質土器・甕	1/4	(22.8)		5.8	口縁部コナデ、体部ナデ・オサエ、形似し成形?、胎土粗良、灰白色	128-21
20	1c-69	10C-SD15	木製品・漆器類	底部		(8.0)		内外面炭粉下地+透明漆+赤漆文様(原)	128-23
21	1c-88	10C-SD15	木製品・板材	部分	長13.0+	幅3.1+	厚0.2	マツ目模様横突部底	128-24

第264図 9B-SD15、10C-SD15出土遺物

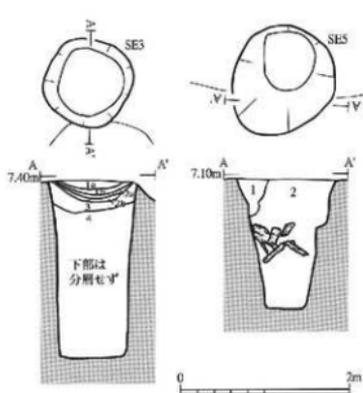
(2)土坑

10C-SK19 (第265図) 10C-SD39に切られ、東半部にはSL13の盛り土が覆っていた。10C-SD39やSL13はSD1003に伴ってIVa2期以降と考えられるので、10C-SK19はIVa1期と推定される。短軸2.0~2.2m、長軸3.8mの長方形で、深さは0.9m、壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は大部分がブロック土で、人為的に埋め戻されている。遺物は須恵器片1点とウマの骨が出土した(表109)。

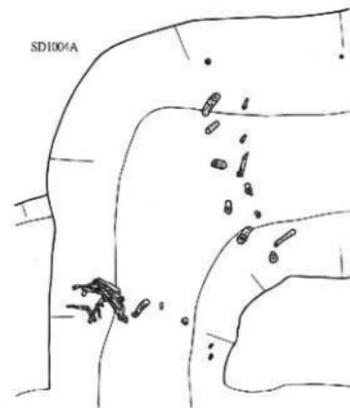


層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR1.7/1 黒色 10YR3/1 黒褐色 5Y4/1 黄オリーブ灰色	粘土質シルト 粘土質シルト 砂質シルト	ブロックの 深合
2	5Y4/1 黄オリーブ灰色	砂質シルト	
3	10YR1.7/1 黒色 10YR3/1 黒褐色 5Y4/1 黄オリーブ灰色	粘土質シルト 粘土質シルト 砂質シルト	木ブロック 土混合

第265図 10C-SK19 平面・断面図



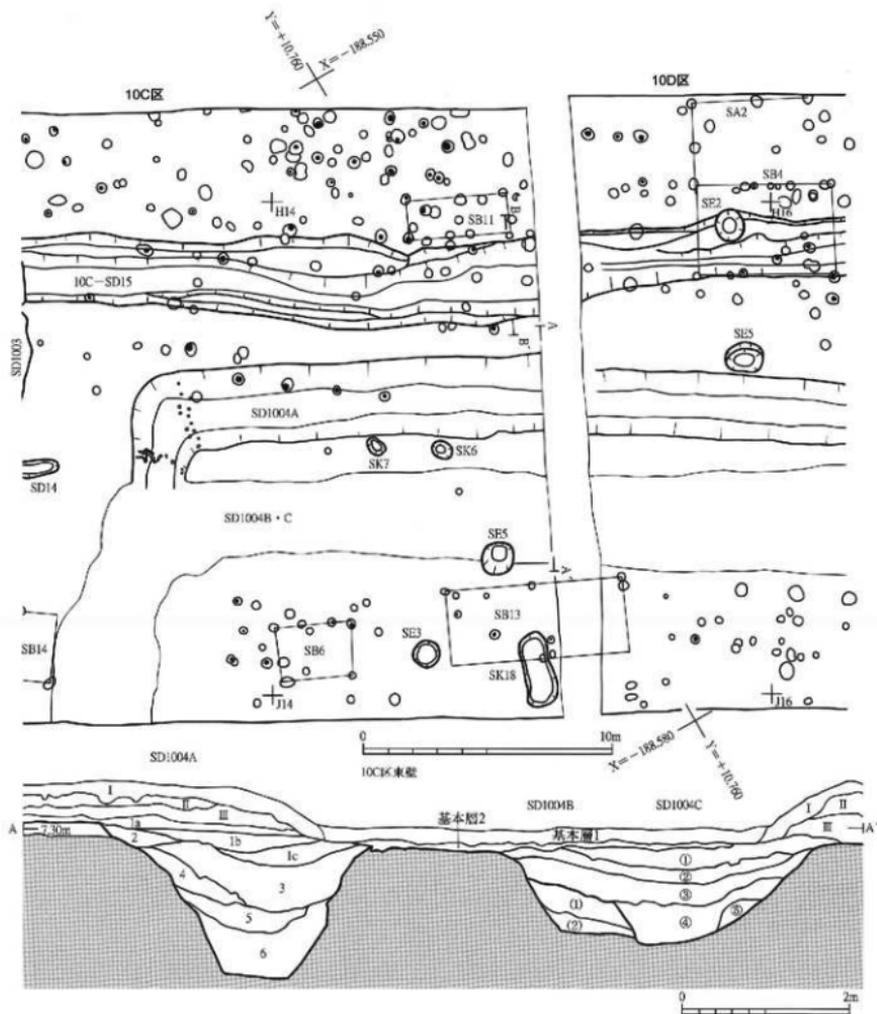
第266図
SD1004A 土留め施設平面図、
10C-SE3・5 平面・断面図



層位	色調	土質	埋入物・その他
10C-SE3	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト 砂粒・未炭粒少量
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト 砂粒少量
	2a	10YR3/2 黒褐色	粘土
	2b	10YR3/2 黒褐色	粘土
3	10YR2/2 黒褐色	粘土	砂粒少許
4	5Y3/1 オリーブ灰色	粘土	オリーブ灰色細砂・ブロック少量
10C-SE5	1	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト 褐色シルト・ブロック多量

4. 10C区東部～10D区の遺構と遺物

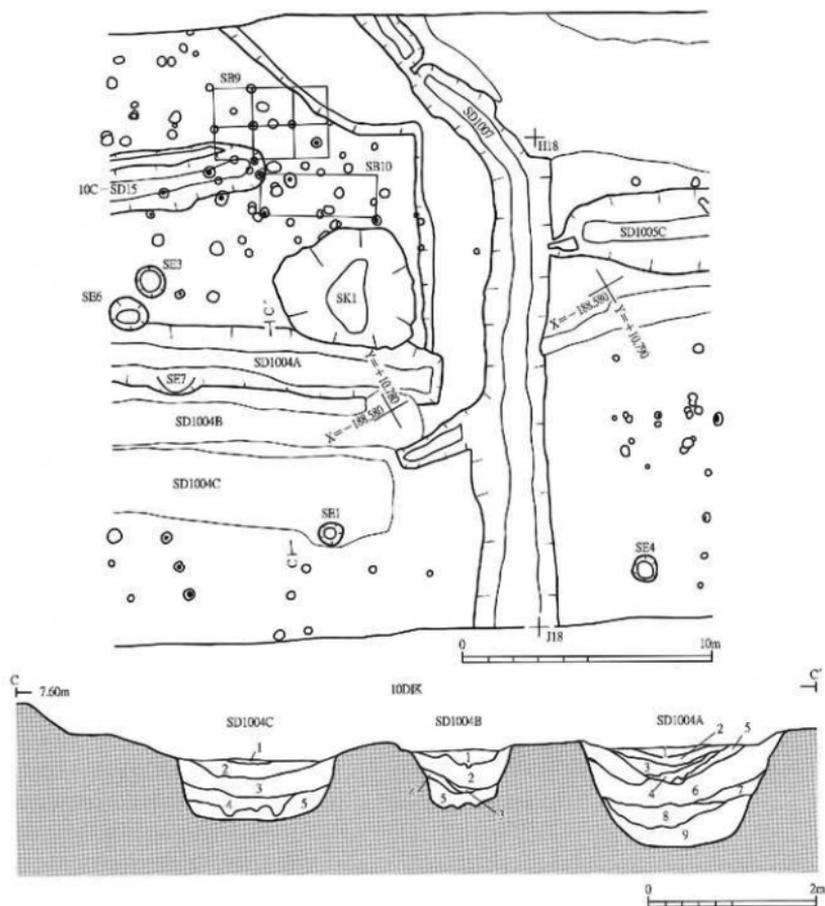
城館の主軸方向の堀であるSD1003・SD1007とそれに直交するSD1004AがIVa2期と考えられる。建物は10D区のSD1004北側の区画に3棟と柱列跡1条がある。IVa1期の区画溝は前述した10C-SD15で、10D区中央まで延びている。建物は区画溝をはさんで10C区に3棟ある。井戸跡は10C区では10C-SE3・5、10D区では前述した10D-SE1・4の他に10D-SE2・3・5～7がこの時期と推定されるが、より細かな時期の限定は困難である。



第267図 10C区東部～10D区西部 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、SD1004A～C 断面図

(1)溝跡

SD1004A (第267・268図) 東西長約42mの堀跡で、西端で南に屈曲してSD1004Cに切られている。切られている部分の南側の詳細は不明であるが、SD1004Bを越えた南側では認められなかった。西側のSD1003と東側のSD1007とは直接つながっておらず、それぞれ3.5mと1.5m間隔が開いている。幅は2.5~3.5m、断面形は逆台形で深さは1.9mである。堆積上の大部分は自然堆積層であるが、上部はブロック土で埋め戻されており、その際に周辺を同じ土で整地している (第239図)。



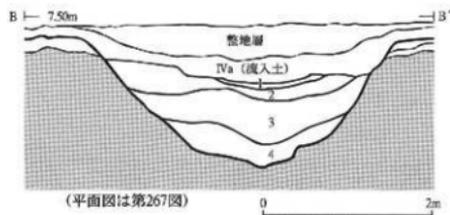
第268図 10D区 IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、SD1004A~C 断面図

SD1004 A・B・C (10C区A-A')

層位	色産	土質	混入物・その他
SD1004A	1a I0YR4/4 褐色	シルト	黒褐色粘土小ブロック・にぶい黄褐色砂質シルト小ブロック・砂粒少量
	1b I0YR2/2 黒褐色	粘土 砂質シルト	砂粒少量
	1c I0YR6/4 にぶい黄褐色	粘土 砂質シルト	黒褐色粘土小ブロック・にぶい黄褐色砂質シルト小ブロック少量、砂粒少量
	2 I0YR3/2 黒褐色	シルト	砂粒多量、IVa層の崩落土
	3 I0YR3/2 黒褐色 I0YR2/1 黒色 2.5Y2/1 黒色 5Y2/1 黒色	砂質シルト 泥炭質粘土 腐炭質粘土 粘土	互層
	4 5Y3/1 オリーブ黒色 5 Y3/1 オリーブ黒色	粘土	砂粒多量 暗オリーブ灰色粘土大ブロック少量、砂粒多量
SD1004C	① I0YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	砂粒多量
	② I0YR5/4 にぶい黄褐色 I0YR2/2 黒褐色 I0YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト 粘土 粘土	互層
	③ I0YR3/1 黒褐色	泥炭質粘土	にぶい黄褐色砂質ブロック少量
	④ 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土小ブロック・オリーブ灰色砂質シルト小ブロック少量
	⑤ 2.5Y4/1 暗オリーブ灰色	粘土	
	SD1004B	(1) 5Y3/1 オリーブ黒色 7.5Y4/1 灰色 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト 砂質シルト 粘土
(2) 5Y2/1 黒色		泥炭質粘土	暗オリーブ色粘土大ブロック・オリーブ黒色粘土大ブロック少量

SD1004 A・B・C (10D区C-C')

層位	色産	土質	混入物・その他
SD1004C	1 I0YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・砂粒少量
	2 I0YR6/3 にぶい黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・植物遺体多量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	泥炭質粘土	
	4 7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	
	5 7.5Y4/1 灰色	細砂	黒褐色粘土ブロック・灰色粘土ブロック多量
SD1004B	1 I0YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	暗黄褐色粘土ブロック多量、黒褐色粘土ブロック・砂粒少量
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	泥炭質粘土	
	3 5Y2/1 黒色	粘土	
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	砂粒少量
	5 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	緑灰色シルトブロック少量
SD1004A	1 I0YR1/2 灰黄褐色	粘土	明黄褐色砂質シルトブロック・砂粒少量
	2 I0YR2/2 黒褐色	腐炭質粘土	植物遺体多量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・オリーブ黒色粘土ブロック少量
	4 I0YR3/1 黒色	泥炭質粘土	植物遺体多量
	5 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	暗オリーブ灰色シルトブロック・明黄褐色砂質シルトブロック少量
	6 5Y3/1 オリーブ黒色 2.5Y2/1 黒色	粘土 泥炭質粘土	互層
	7 2.5Y3/1 黒褐色	泥炭質粘土	砂粒多量
	8 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	9 5Y2/1 黒色	粘土	オリーブ黒色シルトブロック少量



(平面図は第267図)

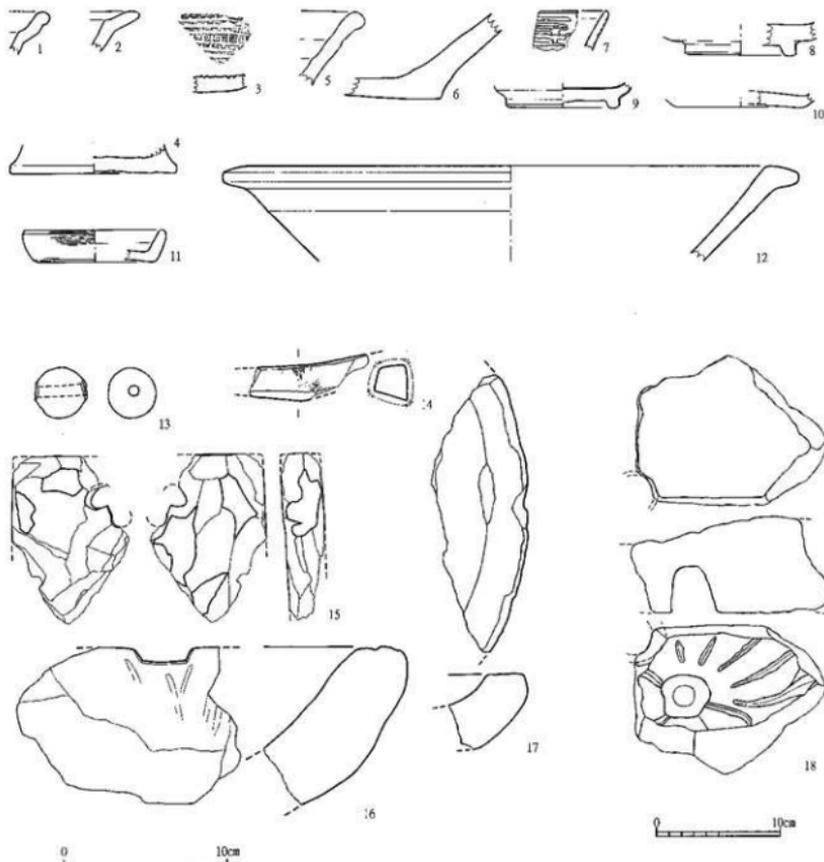
層位	色産	土質	混入物・その他
1	I0YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック多量
2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	小粒多量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	砂質シルトを層状に微量
4	I0YR3/1 黒色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロック微量、植物遺体少量

第269図 10C-SD15 断面図

なお、西端側近くとSD1004Cに近い箇所には杭列が打ち込まれ、杭列の間には葦などが充填されていた。SD1004Aの堆積土が流出しないようにした土留めの施設と推定され、SD1004BかSD1004Cの段階に伴うと考えられる。

遺物は陶器や土師質土器などの土器類や石製品・金属製品・木製品など約250点が出土したが(表109・110)、木製品の数が比較的多い。図化できたのは約60点である(第270～276図)。

土師質土器 Ia-23皿(第270図11)は内外面にヘラミガキを施され、赤色顔料が付着



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(岸地) 附種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図録
					口径	底径	器高		
1	ic-233	10C-SD100A・中層	陶器(赤瀬戸)片鉢受皿	口縁部小片				灰釉、中I期	129-6
2	ic-267	10D-SD100A・中層	陶器(古瀬戸)片鉢受皿	口縁部小片				灰釉、中IV期	129-7
3	ic-264	10D-SD100A・中層	陶器(古瀬戸) 細皿	底部小片				灰釉、後期	129-8
4	ic-238	10C-SD100A・下層	陶器(古瀬戸) 瓶子	底部1/3		(10.2)		灰釉、中I期?	129-10
5	ic-266	10D-SD100A・下層	陶器(東海) 鉢	口縁部小片				ロク口割縁、山岳陶器系	129-9
6	ic-271	10D-SD100A・下層	陶器(在地・白石) 甕	底部1/10				外面ナデ、内面ヘタナデ	129-15
7	1-58	10C-SD100A・中層	青磁(櫻葉系) 碗	口縁部小片				口縁部に重文書	129-11
8	J-69	10D-SD100A・中層	青磁(櫻葉系) 碗	底部1/6	(6.6)			農村産物	129-12
9	J-156	10C-SD100A・埋家	青磁(櫻葉系) 碗	底部1/6	(6.6)				129-13
10	J-66	10D-SD100A・上層	白磁(中国) 皿	底部1/4	(7.8)			口縁?	129-14
11	la-23	10C-SD100A・下層	土師黄土器・小皿	1/8	(8.6)	(7.0)	2.0	ロク口割縁、白外赤内ヘタナデ、内面に赤色刷毛付文書	129-16
12	ls-17	10D-SD100A・上層	瓦質土器・漆鉢	口縁部1/6	(35.2)			ロク口割縁、内面黒釉・刷毛	129-17
13	P-8	10D-SD100A・上層	土器品・土壺	完形	長さ 幅	3.2 厚さ		2層	129-18
14	K-75	10D-SD100A・中層	石製品・砥石	中央部のみ	7.3+	2.9	2.1	45g+、デイスait質凝灰岩	130-3
15	K-74	10D-SD100A・下層	石製品・礫石	1/3	10.4+	7.1+	2.6	23g+、礫石片岩(滑石片岩?)	130-5
16	K-73	10D-SD100A・中層	石製品・石鉢	口縁部小片			9.6+	800g+、安山岩	130-8
17	K-71	10D-SD100A・中層	石製品・茶白下白	部分	径(36.0)		4.71	410g+、安山岩	130-9
18	K-72	10D-SD100A・中層	石製品・粉焼(上)口	1/7	15.4+	12.3+	厚さ 1.8	15.5g+、物配り孔存在、安山岩	130-7

第270図 SD1004A出土遺物 (1)

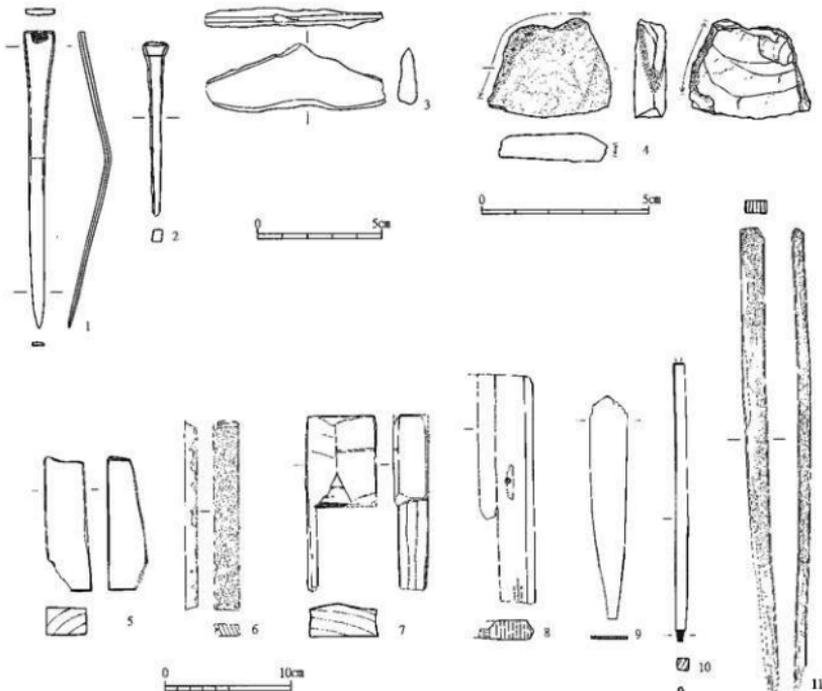
していたことから紅皿として使用されたものと考えられる。石製品にはK-74温石(15)やK-73石鉢(16)などがある。

漆器類・皿は12点図化できたが(第272図1~12)、I-58(8)を除いて高台が低いのが特徴である。この他の木製品は横蹄や銅の蓋、曲物(第273図)、下駄(第275~276図)などがある。

10C-SD15 前述したように9B-SD15と「T」字状に接する溝である。10D区中央で途切れている。

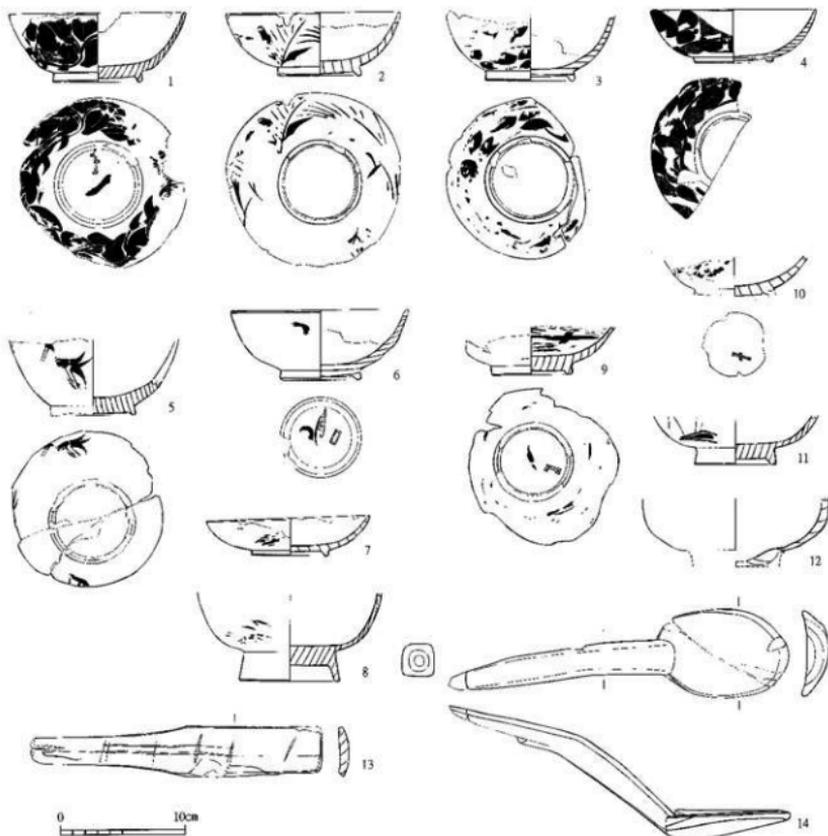
(2)掘立柱建物跡・柱列

城館の主軸方向と一致する(真北から28~32°東傾)するものがIVA2期と考えられ、10D-SB4・9・10がある。なお、10D-SB4には10D-SA2が取り付けると考えられる。城館の主軸方向から西へ振れる(真北からは25~26°東傾)ものはIVA1期に属すると考えられ、10C-SB6・11・13がある。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(原地)	器種	遺存状況	質量 (cm)			製法・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-81	10D-SD100A・中層	銅製品・簪		45	12.1	1.2	0.2	11g+	130-1
2	Nb-148	10C-SD100A・埋戻土	鉄製品・釘		45	7.1+	0.6	0.5	断面幅1.0cm、0.0m+	130-2
3	Nb-149	10C-SD100A・中層	鉄製品・火打金	中央部	7.2+	7.2+	2.5	0.3~0.7	23g+	130-4
4	K-76	10D-SD100A・下層	石製品・火打石	尖形	?	3.1	3.8	0.9	16g、石蒸	130-6
5	L-16	10D-SD100A・中層	木製品・角材	?	11.0	3.4	1.8~2.1			130-10
6	L-122(0)	10D-SD100A・上層	木製品・板材	?	15.2	2.0	1.0	断面状の溝縁部塗付痕、発泡剤?の痕跡部に斜切面		130-11
7	L-115	10D-SD100A・中層	木製品・板材	部分	14.2+	5.7	2.7			130-12
8	L-121	10D-SD100A・中層	木製品・板材	部分	18.8	4.4+	1.6	円形の穿孔1		130-13
9	L-125	10D-SD100A・中層	木製品・木簡?	ほぼ完形	18.3	3.0	0.2	断面・角部		130-14
10	L-123	10D-SD100A・中層	木製品・角材	端部欠損	22.8+	1.1	1.0	両端部を円柱状に削り出し		130-16
11	L-122(2)	10D-SD100A・上層	木製品・角材	端部欠損	37.9+	1.1~2.0	1.0			130-17

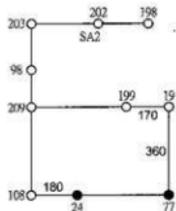
第271図 SD1004A出土遺物 (2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	造寸度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 掲載
					口径	底径	胎高		
1	L-109	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	4/5	14.2	7.2	5.7	内面赤漆、フナ属、外面炭粉下地+透明漆+赤漆文様(西条)。底面赤漆文様。1)胎高 内面炭粉下地+透明漆+赤漆、フナ属、外面炭粉下地+透明漆+増長漆、當地赤漆(後平?)	131-1 カ7-1
2	L-93	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	7/8	14.2	6.8	5.2	内面炭粉下地+透明漆+赤漆、フナ属、外面炭粉下地+透明漆+赤漆	131-2
3	L-99	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	下部		7.0		内面炭粉下地+透明漆+赤漆 外面炭粉下地+透明漆+赤漆文様、フナ属	131-3 カ7-2
4	L-103	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	1/2	(13.2)	(5.6)	4.4	内面炭粉下地+透明漆+赤漆、フナ属 下地+透明漆+赤漆文様(西条)、フナ属	131-4 カ7-5
5	L-104	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	3/4		6.8		内面炭粉下地+増長漆、外底炭粉下地+赤漆、フナ属	131-5
6	L-96	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	3/4	(14.2)	6.6	5.7	内面赤漆、外面炭粉下地+透明漆+赤漆文様、底面に方形の刻み、フナ属	131-6
7	L-102	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	3/4	(13.1)	6.2	3.3	内面赤漆、外面黒色+赤漆文様、フナ属	131-7
8	L-58	10C-SD1004A・下層	木製品・漆器碗	下部		8.7		内面赤漆、外面黒色+赤漆文様、フナ属	131-11
9	L-105	10D-SD1004A・下層	木製品・漆器碗	下部		6.4		内面赤漆+赤漆文様(西条)、底面-文字の彫り、フナ属	131-8
10	L-101	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	体部下半		(6.4)		内面赤漆、外面黒色+赤漆文様(大部分彫り)、底面に十字の刻み、フナ属	131-9
11	L-56	10C-SD1004A・埋戻土	木製品・漆器碗	下部		6.8		内面赤漆、外面黒色+赤漆文様(大部分彫り)、フナ属	131-10
12	L-106	10D-SD1004A・中層	木製品・漆器碗	上部				内面赤漆、外面黒色+赤漆文様(大部分彫り)、フナ属	131-12
13	L-124	10D-SD1004A・下層	木製品・しゃもじ?	13)短方形	23.3	2.3~4.2	0.4~0.8		133-6
14	L-107	10D-SD1004A・中層	木製品・杓子	柄の端部欠損	27.4	7.3	2.5		130-9

第272図 SD1004A出土遺物 (3)

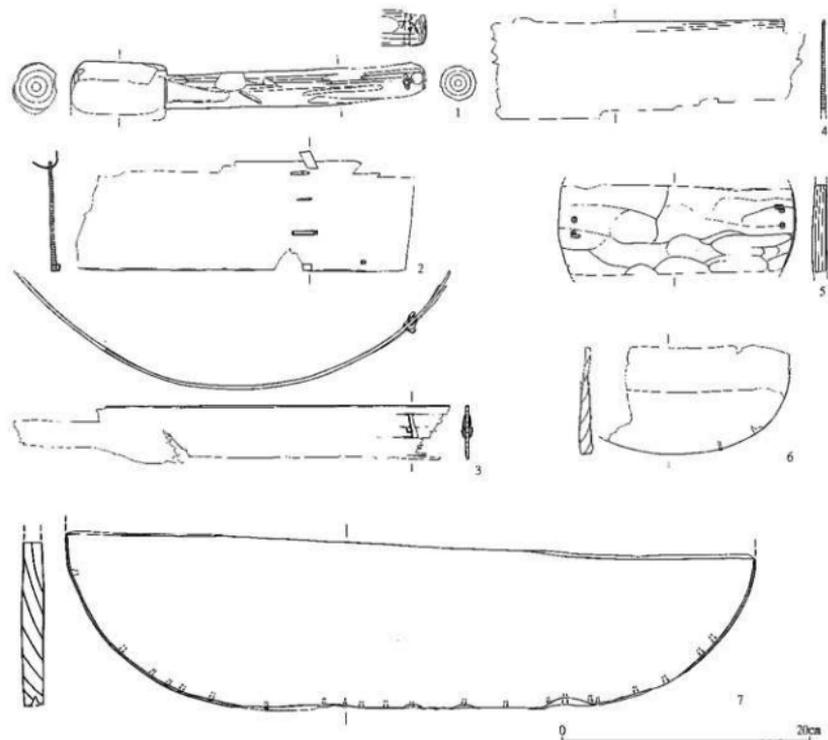
10D-SB4



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
209	Va	38×34	28	?
199	Va	32	25	?
19	IVa	30	26	?
77	IVa上 埋地層	40×36	24	1.5
24	IVa	28	31	1.2
106	IVb	28	30	?
規模		東西5.5m	南北2.6m	
柱間		折付(3間)	梁行(間)	
柱間		1.7~1.9m	2.6m	
間隔		19.8m	柱径 28* 1	

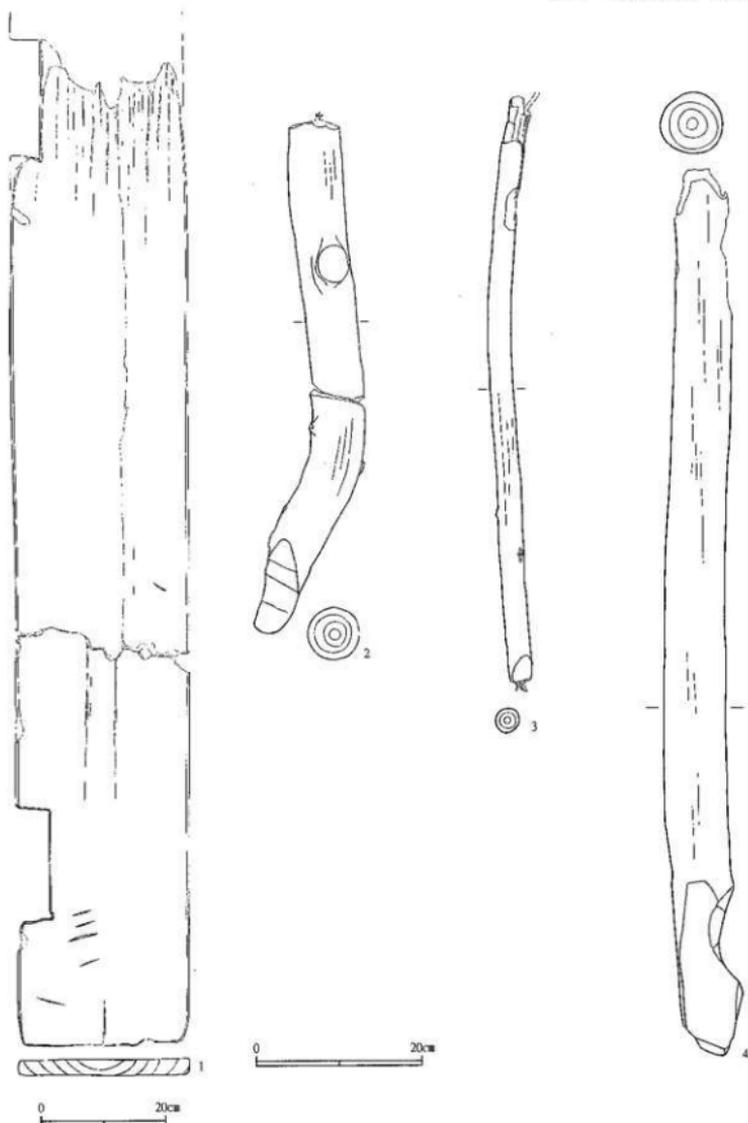
10D-SA2

PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
98	IVb	41	35	?
203	Va	44×30	22	?
202	Va	40×36	28	?
198	Va	42×7	21	?
規模		東西4.7m, 2間	南北1.8m, 1間	
柱間		2.1~2.6m	1.8m	
間隔		62* W	28* E	



No	登録No	地区・遺構・層位	類別(産地) 器種	遺存度	径寸 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-26	10D-SD1004A・中層	木製品・横縁	取部一部欠損	26.7	3.0~4.3		納端部に内形穿孔1	133-5
2	L-94	10D-SD1004A・中層	木製品・曲物	側板の一部	26.4+	9.0	0.4	横皮織じ、結合釘孔:	133-2
3	L-95	10D-SD1004A・下層	木製品・曲物	側板の一部	35.2+	4.8+	0.3	横皮織じ	133-3
4	L-80	10C-SD1004A・下層	木製品・曲物	側板の一部	25.4+	6.8+	0.4		133-1
5	L-117	10D-SD1004A・中層	木製品・船首	1/3	(19.2)		1.2	円形の穿孔2×2、孔縁に横皮残存	130-18
6	L-119	10D-SD1004A・中層	木製品・曲物	底板1/4	(26.0)		1.1	結合釘孔1	130-15
7	L-120	10D-SD1004A・中層	木製品・曲物	底板1/4	辺×4.8		1.8	穿孔方形?、結合釘穴2、木釘21残存(5mm角)	133-7

第273図 SD1004A出土遺物 (4)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図取
						長さ	幅	厚さ		
1	L-133	10D-SD1004A	木製品・板材	部分欠損?	62.0	27.4	2.7	側面に方形の抉り	133-8	
2	L-83	10C-SD1004A	木製品・柄	頭部欠損	63.0+	6.2		丸木	133-10	
3	L-83	10C-SD1004A	木製品・柄	頭部欠損	73.1+	2.8		丸木	133-1	
4	L-134	10D-SD1004A・中層	木製品・柄?	頭部欠損	108.8+	7.6		丸木	133-9	
5	L-111	10D-SD1004A・中層	炭灰点・縄	部分				写真のみ	133-4	

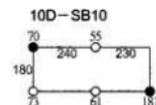
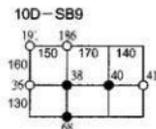
第274図 SD1004A出土遺物 (5)

(3)井戸跡

10C-SE3 (第266図) 10C区南部に位置し、径1.0~1.1m、深さ2.2mである。IVa・2期と推定される。瓦質火鉢や曲物などが出土し、5点が図化できた(表109、第278図)。

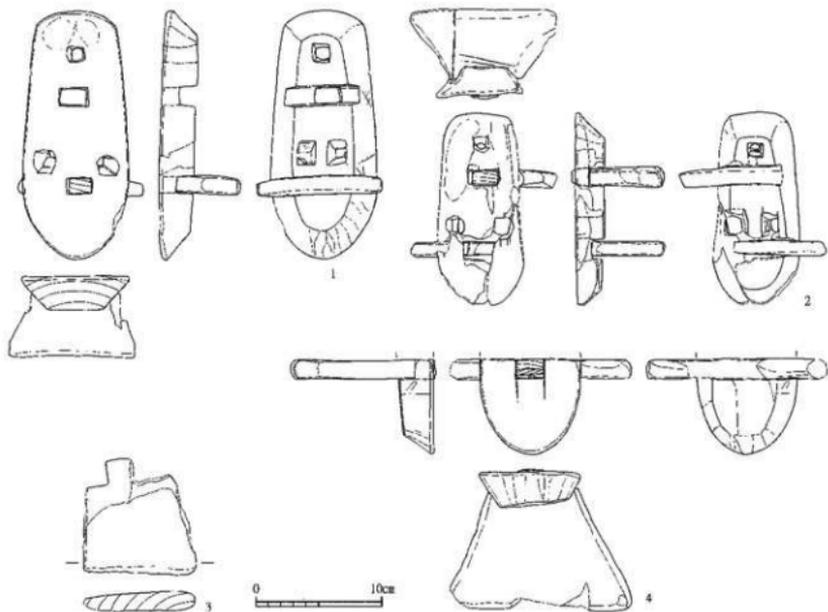
10C-SE5 (第266図) 10C区南部に位置し、SD1004Cに上部を切られている。IVb~IVa・2期と推定される。大きさが不明瞭であるが1.2×1.5m前後の楕円形と推定される。深さは1.6mである。遺物は在地産の中世陶器片1点が出土した。

10D-SE2 (第277図) 10D区北西部のIVa層中で確認した。10C-SD15を切っているので



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
191	Va	25	23	?
186	Va	26	19	?
36	IVa	25	31	?
38	IVa	34	27	12
40	IVa	28	16	17
41	IVa上 整地前	17	8	?
68	*	26	23	12
規模		東西4.6m	南北2.9m	
柱間		桁行3間	梁行2間	
柱間		1.4~1.7m	1.3~1.6m	
面積		3.3㎡	積さ 29°E	
備考		総柱・倉庫		

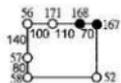
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱礎径
70	IVa上 整地層	34×28	20	15
55	*	30×26	19	?
73	*	35	17	?
61	*	34×24	19	?
181	5a	36×30	?	11
規模		東西4.7m	南北1.8m	
柱間		桁行2間	梁行1間	
柱間		2.3~2.4m	1.6m	
面積		8.5㎡	積さ 32°E	



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存状況	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-57	10C-SD1004A	木製品・茶碗下駄	台之後背	26.7+	8.4	6.5	茶碗幅10.0	132-1
2	L-118	10D-SD1004A・中層	木製品・茶碗下駄	脚の一部分	15.7	6.8	7.4		132-2
3	L-118	10D-SD1004A・中層	木製品・茶碗下駄	茶碗の3/4	40.0+	10.5+	厚1.6		132-3
4	L-59	10C-SD1004A・中層	木製品・茶碗下駄	1/3	7.8+	14.5	11.5	茶碗幅14.5	132-4

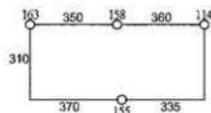
第275図 SD1004A出土遺物 (6)

10C-SB6



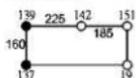
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
56	IVa	30×26	27	?
171	Va	30	?	?
168	Va	32×28	?	22
167	Va	32×28	?	14
52	IVa	28	22	?
56	IVa	48×36	23	?
57	IVa	40×34	28	?
規模	東西2.9m	南北2.2m		
柱間	柱行3間			
柱間	0.7~1.1m			
面積	6.2㎡			
面積	傾き 25° E			

10C-SB13

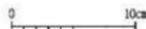
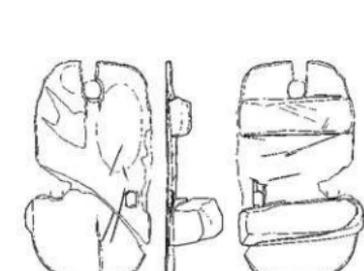
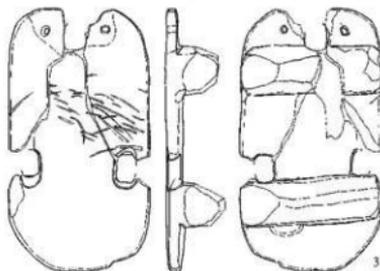
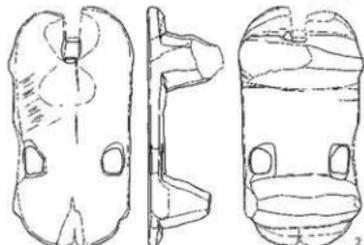
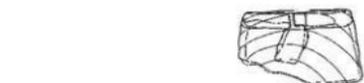
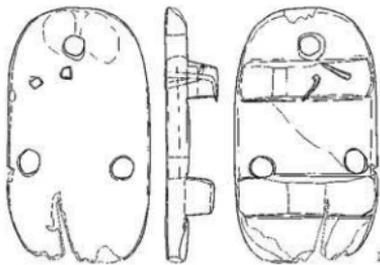


PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
155	Va	30×26	?	?
163	Va	30×26	?	?
155	Va	28×28	?	?
110-II	Va	30	28	?
規模	東西2.1m	南北3.1m		
柱間	柱行2間			
柱間	3.5~3.7m			
面積	22.0㎡			
面積	傾き 25° E			

10C-SB11



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
19	IVa	24	27	?
137	Va	40×32	29	18
139	Va	38	20	18
142	Va	43	22	?
151	Va	29	18	?
規模	東西4.1m	南北1.6m		
柱間	柱行2間			
柱間	1.85~2.25m			
面積	6.6㎡			
面積	傾き 25° E			



No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)	器種	遺存度	積算 (cm)			調整・特徴	写真 図位
						高さ	幅	幅さ		
1	L-100	10D-SD1004A・下層	木製品・漆塗下駄	ほぼ完形	20.7+	11.5	4.2+	鉄釘2本で前面補修	132-5	
2	L-98	10C-SD1004A	木製品・漆塗下駄	ほぼ完形	19.5	10.1	6.1	左用	132-6	
3	L-97	10D-SD1004A・中層	木製品・漆塗下駄	4/5	2.3	11.4	高さ4.8	前面内側に補修孔・木釘残存、右用	132-7	
4	L-110	10D-SD1004A・中層	木製品・漆塗下駄	4/5	7.6	10.0	高さ(4.5)		132-8	

第276図 SD1004A出土遺物 (7)

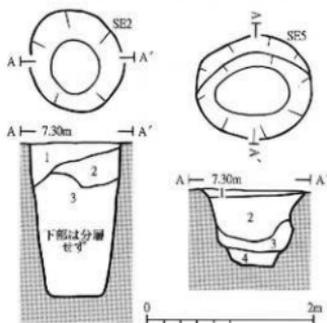
IVa2期と推定され、位置関係から10D-SB4の屋内にあった可能性がある。径1.1×1.3mの楕円形で、深さは1.4mである。土師質土器皿が1点出土した。

10D-SE3 (第277図) 10D区中央部のIVa層中で確認した。IVa1・2期と推定される。径1.1~1.2m、深さ1.3mである。遺物は出土しなかった。

10D-SE5 (第277図) 10D区西部のVa層上面で確認した。IVb~IVa1期と推定される。径1.3~1.4m、深さ0.9mである。遺物は出土しなかった。

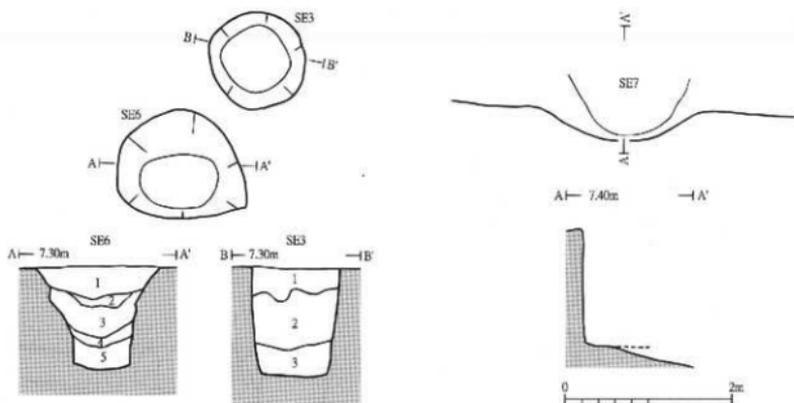
10D-SE6 (第277図) 10D区中央部のVa層上面で確認した。SD1004Aに切られている。IVb~IVa1期と推定される。径1.7m前後で、深さ1.3mである。遺物は出土しなかった。

10D-SE7 (第277図) 10D区中央部のVa層上面で確認した。SD1004Aに大部分を切られており、南壁だけが残存していた。IVb~IVa1期と推定される。深さ1.5mで、遺物は常滑産の甕の破片1点である。



層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・木炭碎屑
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	増オリブ灰色磁砂ブロック・黒褐色粘土ブロック少
3	5Y2/1 オリーブ黒色	粘土	増緑灰色磁砂ブロック・黒褐色粘土ブロック・黄灰色粘土ブロック多量

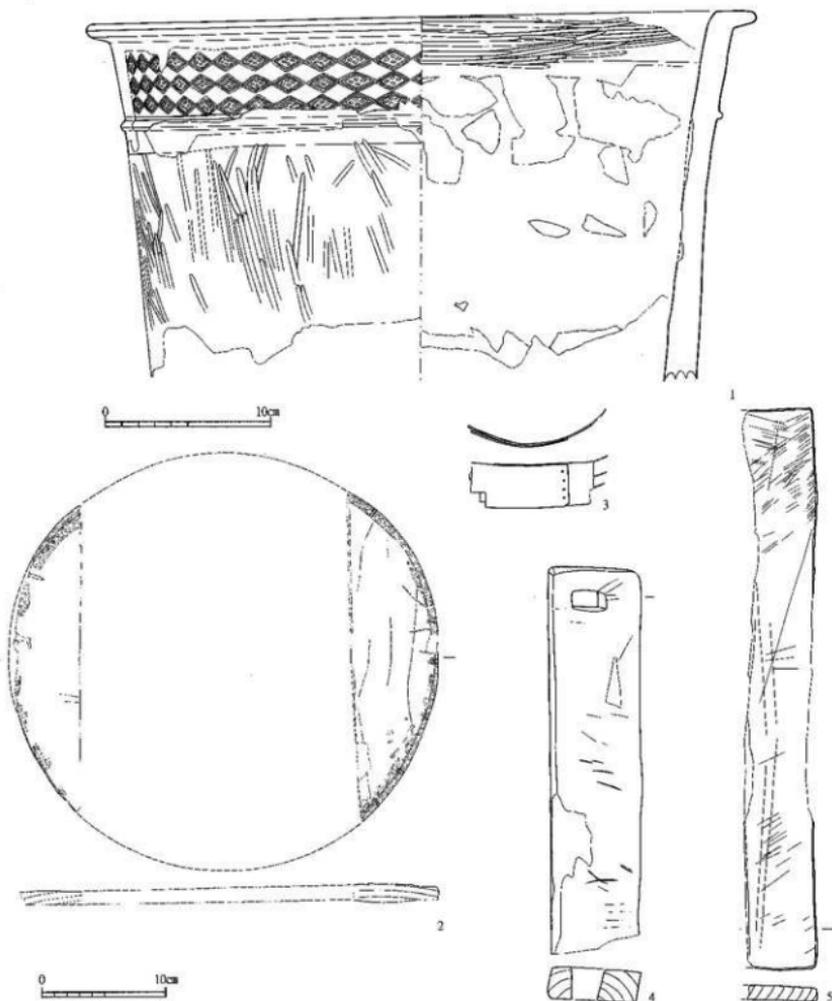
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	砂粒少
2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	灰色粘土ブロック少
3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリブ黒色磁砂ブロック少
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	砂粒・植物遺体多量



層位	色調	土質	混入物・その他
1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	砂粒多量
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
3	2.5Y2/1 黒色	粘土	黒色泥炭質粘土・オリブ黒色粘土多量中に磁器
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	互層
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色粘土ブロック少

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	オリブ黒色粘土ブロック少量、砂粒少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリブ黒色磁砂ブロック・緑褐色磁砂ブロック・オリブ黒色粘土ブロック多量
3	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	互層
3	2.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	

第277図 10D-SE2・3・5~7 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Ts-10	10C-SE3・下層	瓦質土器・火鉢	上部3/4	(40.5)			外周ツバ・ヘラミゴキ大1.1身部と胴部に凸帯・凸帯間に透孔5ヶ所。自然アデーコ産土ヘラミゴキ・産地にともなう変色あり	129-1
2	L-90	10C-SE3	木製品・曲物	底板1/3	径(34.5)		厚1.5	側面に横材貫、斜角釘孔11	129-3
3	L-70	10C-SH3	木製品・曲物	側板の一部	長さ 11.2+	幅 3.5	厚さ 0.2	横皮縦じ	129-2
4	L-92	10C-SE3・下層	木製品・板材	胴部破損	31.5+	7.5	2.6	方形の穿孔1	129-4
5	L-91	10C-SE3・下層	木製品・板板?	不明	45.9	(-5.8)	1.2	表面に刀物傷多数	129-5

第278図 10C-SE3出土遺物

5. 10D区東部～10E区の遺構と遺物

この区域の遺構は少なく、城館の軸に直交するSD1005Cと10E区南東部の10E-SB8、竪立柱建物跡3棟や竪立柱建物跡になる可能性がある柱列跡1条、井戸跡1基などが認められたのみである。ただ、10E-SB8からは信仰に係わる大量の木製品が出土しており、SB8の周辺は通常の生活空間とは異なった「場」であったと考えられる。

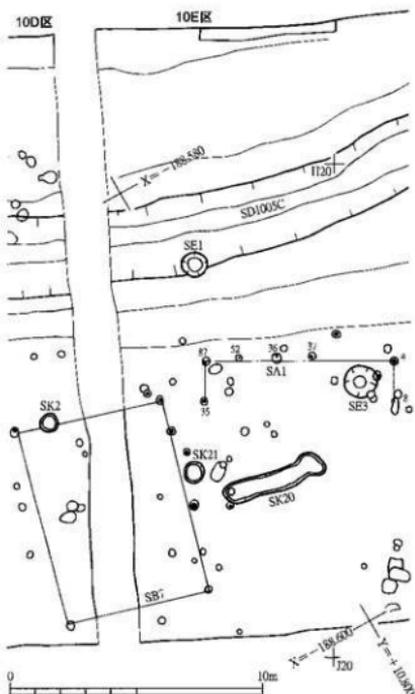
(1) 溝跡

SD1005C(第279・281図) SD1005CはSD1005A・C・Dの溝が3本切り合っている中で最も古く、IVa2期と考えられる。10D区北東部でSD1007と接続し、やや北側に膨らみながら東に延びる。幅2.5～3.5m、断面形は逆台形で、深さは1.8mである。両端部のSD1007との接続部には溝底面からの高さ約80cmの障壁状の高まりがある。なお、障壁状の高まりは10E区東端近くにも認められる。10D区東壁における断面観察では2回ほど改修された様子が窺える。堆積上の下層は自然堆積層であるが、上部は人為的に埋め戻されていた。

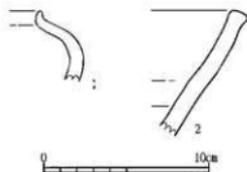
なお、SD1005A・Dの項で述べたように、SD1005A～Dの出土物の大部分は区分せずに取り上げている。このためSD1005Cとして図化できたのは中世陶器2点のみである。

10E-SB8(第281図) 10E区南東部にあり、「コ」字状に屈曲している。南部は調査区外に出てしまうため内容は不明であるが方形に巡っている可能性もある。溝で面された部分は東西17mである。溝の大部分は幅2.0～3.5m、深さ1.1m前後であるが、西側では極端に狭く・浅くなり、幅70～90cm、深さ50cm程となっている。また底面の数箇所では障壁状の高まりが認められた。SD1005Cが10E-SB8を意識するように北側に湾曲していることから10E-SB8はSD1005Cと同じIVa2期の遺構と考えられる。ただし、SB8の北辺がIVa-1期と考えられる10E-SB4の方向と一致しているため、IVa1期から機能していた可能性もある。

遺物は土師器・須恵器・土師質土器・陶器などの土器類や石製品・金属製品など約150点、木製品が180点の他、人の頭骨や馬の歯なども出土している(表111)。図化できたのは各種の塔婆類やこけら経などの信仰に係る木製品を中心に約150点である(第282～302図)。第282図は瓦質内耳鏡や青磁壺、茶臼や金属製品などで、このうちの銭貨はこの付近に集中する近世墓から混入した可能性もある。第283図は漆器柄や用途不明の材である。

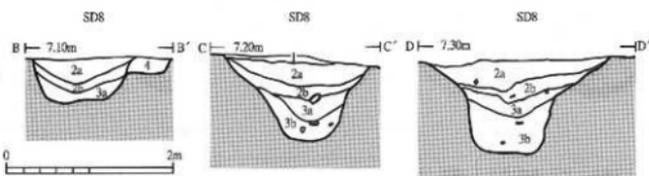
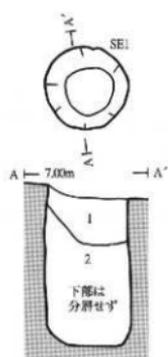
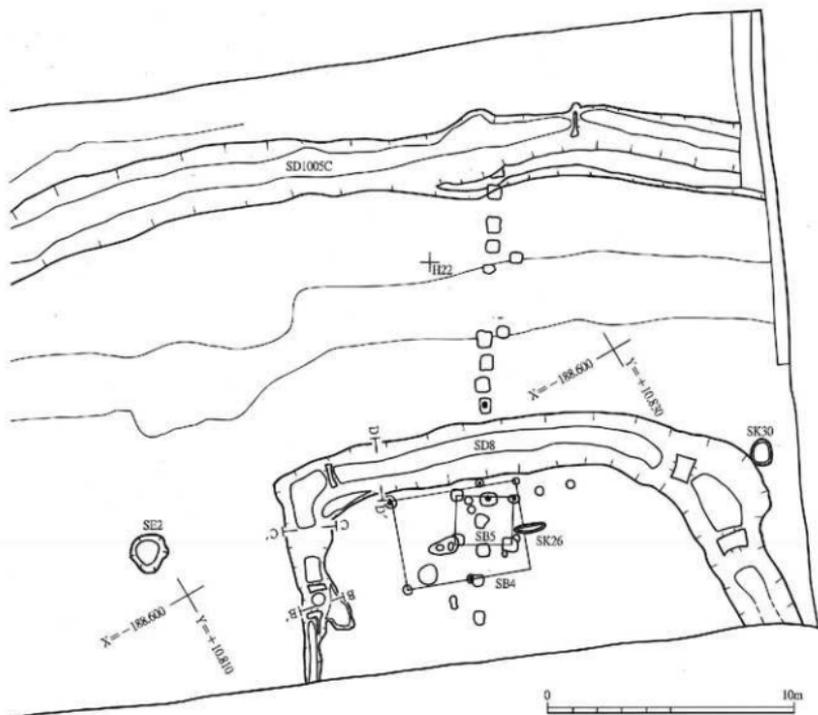


第279図 10D区東部～10E区西部
IVa層上面平面図 (Na1・2期)



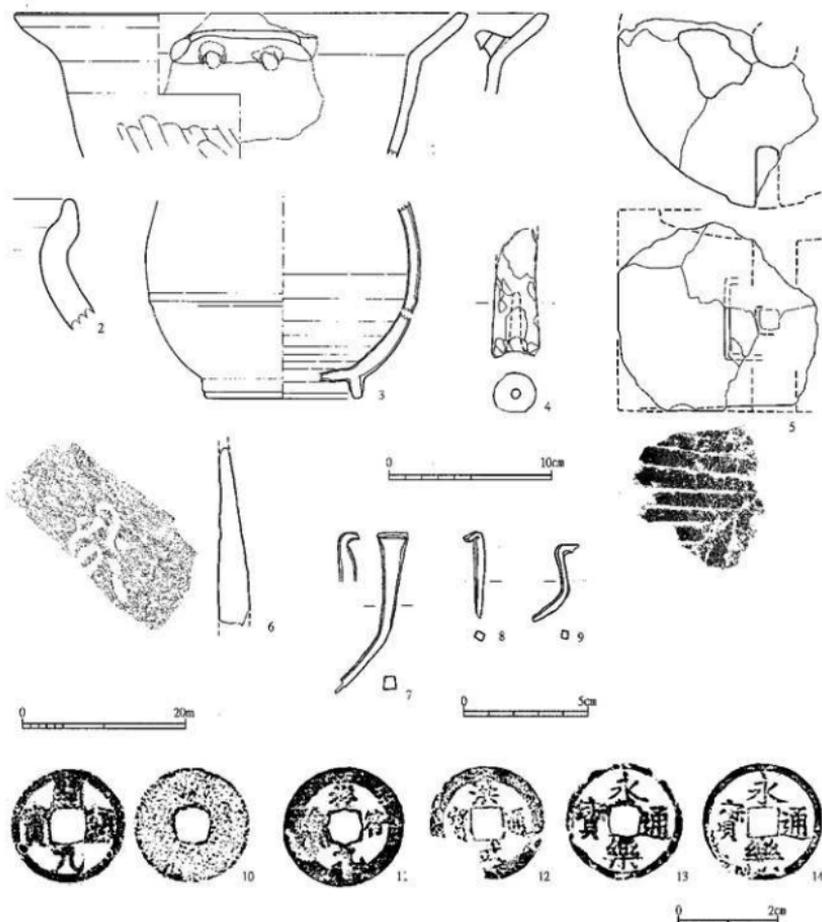
No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(塚地)	器種	遺存状況	流量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	ic-274	10E-SD1005C-下層	陶器(在地)	小壺	口縁+体部片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ	126-11
2	ic-273	10E-SD1005C-下層	陶器(在地)	片口	口縁+体部片				ワタリ(回転台) 陶器	126-12

第280図 SD1005C出土遺物



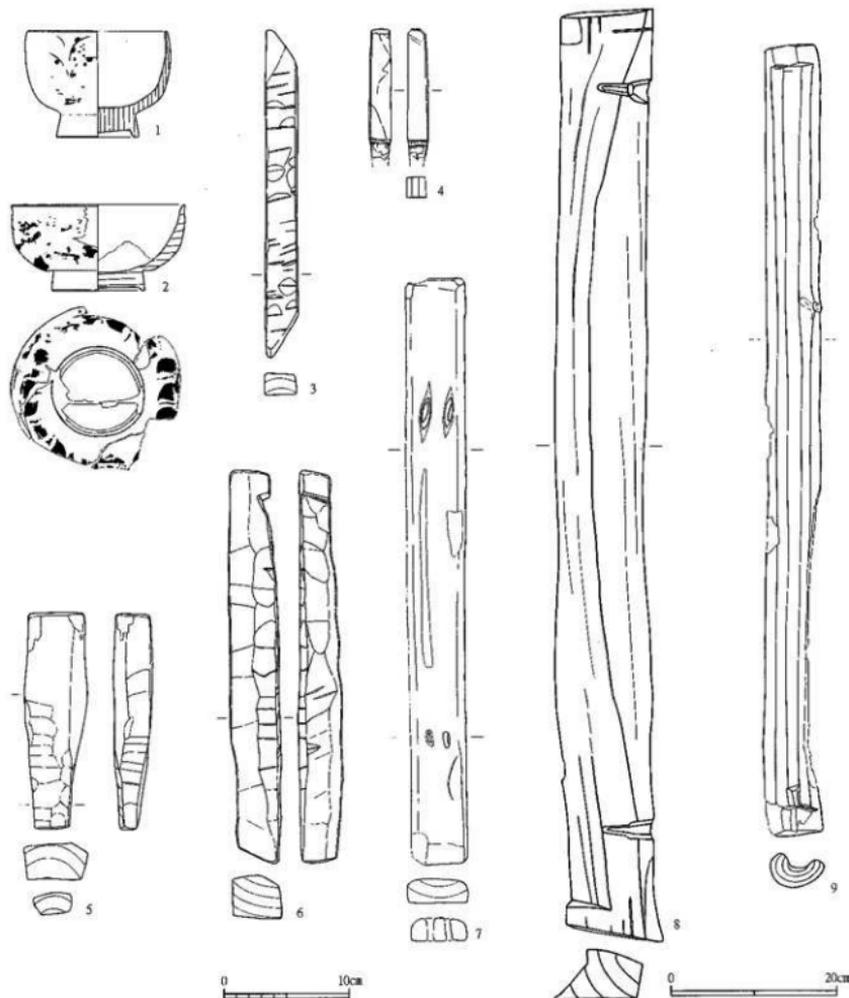
測位	色層	土質	加入物・その他
10E-SE1	1 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	オリーブ灰色砂粒・黒色粘土ブロック多量、人為的な埋土
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ灰色砂ブロック少量
10E-SD8	1 10YR3/2 暗褐色	シルト	マンガン多量、小塵・炭化物少量
	2a 2.5Y3/1 暗褐色	シルト粘粘土	マンガン・鏝・炭化物・焼骨片少量
	2b 2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物・酸化鉄・植物遺体少量、焼骨片微量
	3a 10YR3/1 黒色	粘土	緑灰色粘土ブロック・植物遺体・炭化物少量
	3b 2.5Y2/1 黒色	粘土	植物遺体・炭化物・砂粒少量、焼骨片微量
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	酸化鉄・小塵少量

第281図 10E区東部IVa層上面平面図 (IVa1・2期)、10E-SE1 平面・断面図、10E-SD8 断面図



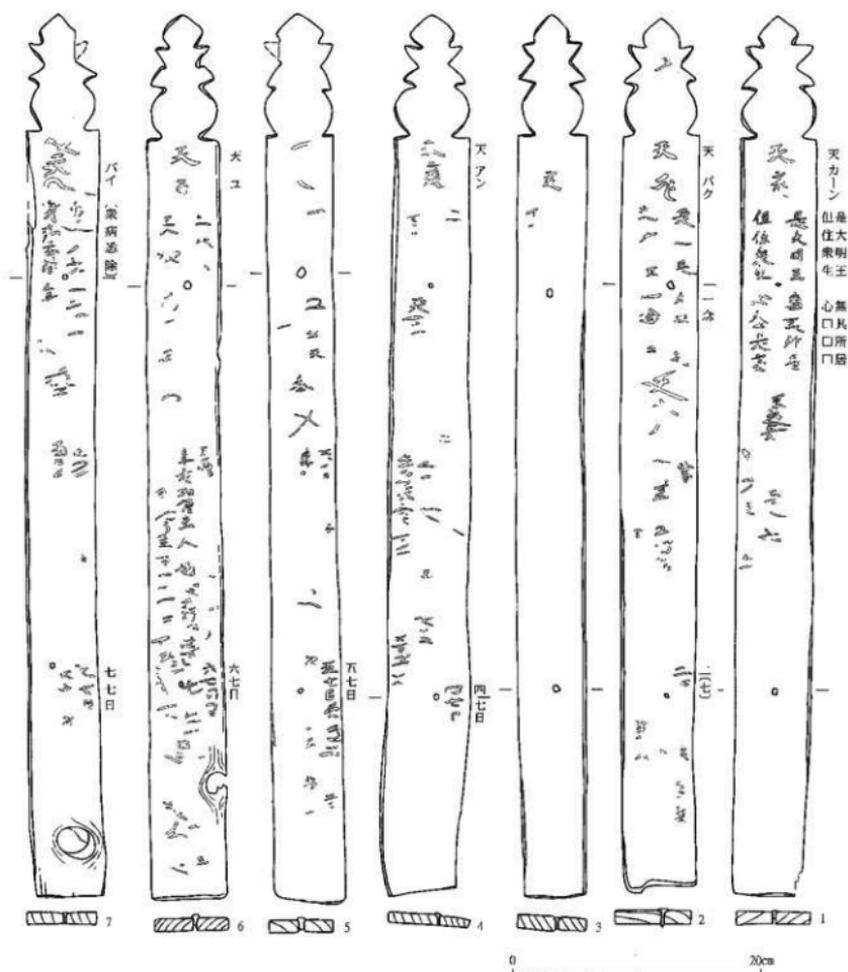
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			測径・特徴	写真 図版
					口径 (26.0)	底径	柄高		
1	7b-19	10E-SD8	瓦質土器・西耳罐	上部1/6					134-2
2	1c-275	10E-SD8・2層	陶器(在地・白土)甕	11線~体部片				口・頸部コナナテ, 体部ナテ	134-1
3	1-77	10E-SD8	青磁(甌原産系) 甕	底~体部1/8	(9.6)			兼付蓋胎	134-3
4	P-11	10E-SD8・1層	土製品・用途不明	部分	長さ 8.0+	幅 2.6	厚さ 1.7	5g+, 円柱状, 中心部に貫通しない穴(径0.6cm)	134-4
5	K-53	10E-SD8・1層	石製品・茶臼上臼	1/4	径(19.0)			146g+, 安山岩	134-7
6	K-94	10E-SD8・1層	石製品・板碑	部分	高さ 23.5+	23.6+	4.4	169g+, 鎌倉時代一ケノ, 頁岩	134-8
7	Na-177	10E-SD8	鉄製品・釘	踵~中央部	7.2+	0.5	0.5	扁形, 頭部幅1.2cm, 8g+	134-9
8	Nc-178	10E-SD8・3層	鉄製品・釘	中央部	3.5+	0.4	0.4	頭部1.1cm, 物産資料館蔵の釘, 2g+	134-10
9	Nc-179	10E-SD8・3層	鉄製品・釘	中央部	3.5+	0.4	0.3	如前, 頭部1.1cm, 物産資料館蔵の釘, 2g+	134-11
10	Ns-80	10E-SD8	銅製品・銭貨	完全形	2.3	2.3		楊務銭(開元通寶, 唐・初緯62年), 裏面平削	134-12
11	Ns-83	10E-SD8	銅製品・銭貨	完全形	2.4	2.4	3.0	祥符元寶(北宋・初緯1006年)	134-15
12	Nb-95	10E-SD8・1層	銅製品・銭貨	4/5	2.4	2.9	2.9	洪武通寶(明・初緯1368年)	134-14
13	Nb-96	10E-SD8	銅製品・銭貨	完全形	2.4	2.4	3.2	永樂通寶(明・初緯1408年)	134-15
14	Nb-97	10E-SD8	銅製品・銭貨	完全形	2.4	2.4	3.1	永樂通寶(明・初緯1408年)	134-16

第282図 10E-SD8出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	保存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	L-172	10E-SD8・3層	木製品・漆器碗	ほぼ完形	11.2	6.6	8.8	内面炭粉下地+透明漆+赤漆、外面炭粉 下地+透明漆+赤漆文様(草花)、ブナ皮	134-5 カラー⑩
2	L-171	10E-SD8・3層	木製品・漆器碗	2/3	14.0	7.4	7.0	内面炭粉下地+透明漆+赤漆・透明漆、ブナ皮、外面炭 粉下地+透明漆+赤漆文様(赤毛栗?・刺唐草らしい)	134-6
3	L-214	10E-SD8・3層	木製品・角材	完形	長さ	幅	厚さ	両端部を三角形に削り出し	134-10
4	L-173	10E-SD8・3層	木製品・角材	口、端部欠損	25.7	2.6	1.8		134-17
5	L-229	10E-SD8・3層	木製品・角材	ほぼ完形	10.7	1.7	1.6	一方端が細い	134-18
6	L-217	10E-SD8・3層	木製品・角材	完形?	17.7	5.1	3.0		134-20
7	L-213	10E-SD8・3層	木製品・角材	完形?	32.3	3.3~4.0	2.5~3.5	端部近くに三角形の抉り	134-22
8	L-258	10E-SD8・3層	木製品・角材	完形	47.0	4.6~4.9	2.1	横断面の穿孔2×2	134-22
9	L-258	10E-SD8・3層	木製品・角材	ほぼ完形	75.0	7.0	4.0		134-21
10	L-290	10E-SD8・3層	木製品・棒状不明	ほぼ完形	96.4	6.3	2.4~3.8	溝状の窪み	134-23

第283図 10E-SD8出土遺物 (2)

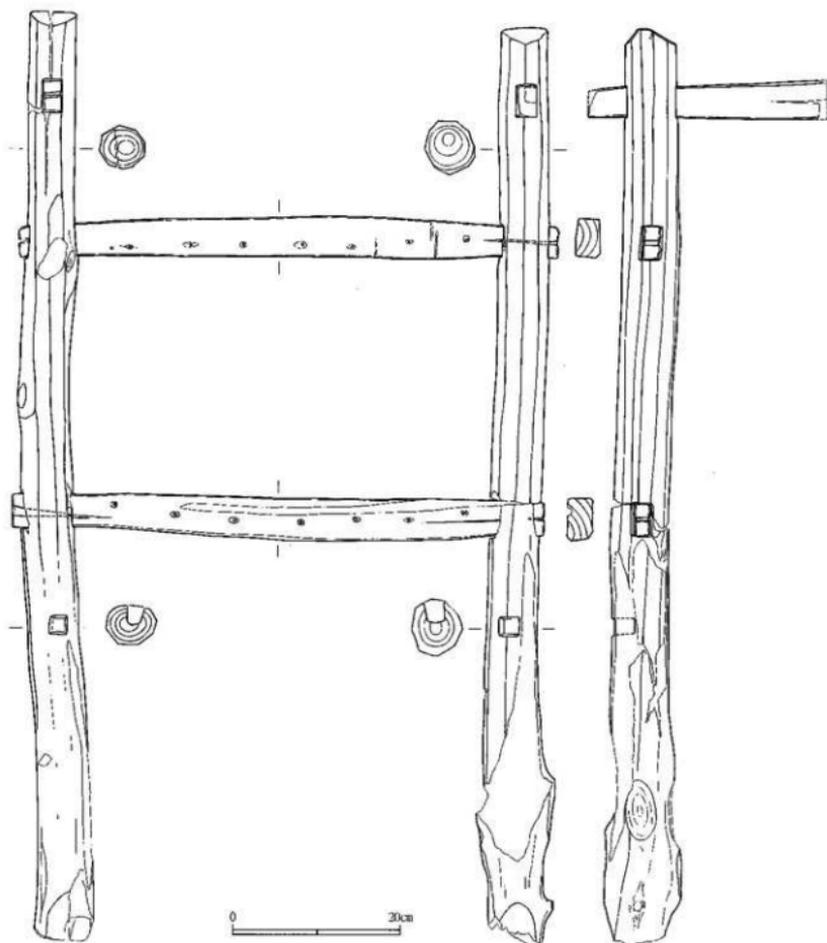


No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-271	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	完形	72.1	6.2	1.1	1枚目、墨書痕跡多数、毛ミ属	135-1, 200-2
2	L-274	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	完形	71.8	6.2	1.1	2枚目、墨書痕跡多数「七七」?、毛ミ属	135-2, 200-1
3	L-272	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	完形	72.0	5.6	1.4	3枚目、墨書痕跡有、毛ミ属	135-3, 199-2
4	L-277	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	完形	72.0	6.6	1.0	4枚目、墨書痕跡有「四七」?、毛ミ属	135-4, 199-1
5	L-275	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	ほぼ完形	72.4	5.2	1.0	5枚目、墨書痕跡有「五七」?、毛ミ属	135-5, 198-2
6	L-273	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	完形	72.0	6.0	1.0	6枚目、墨書痕跡多数「六七」?、毛ミ属	135-6, 198-1
7	L-276	10E-SD8・2層	木製品	五輪形板状物	ほぼ完形	72.0	5.8	1.1	7枚目、墨書痕跡多数「七七」?、毛ミ属	135-7, 197-4

第284図 10E-SD8出土遺物 (3)

板塔婆

L-271~277板塔婆7枚(第284図)は、L-386棒(第285図)に鉄釘で打ち付けられた状態で出土したが(写真51-5~8)、
杵・鉄釘共に劣化していたため、取り上げの際には別々に取り上げている。杵も組み合わせた状態では取り上げられなかつ

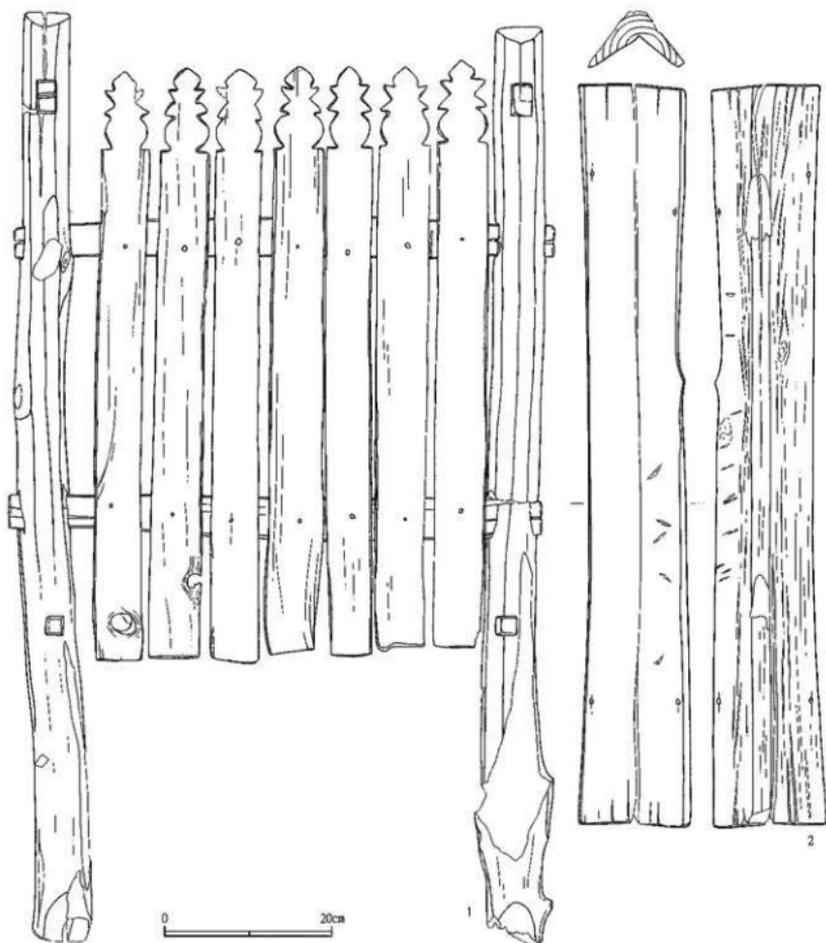


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 総種	遺存状況	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-386	.0E-SD8・2期	木製品・板塔婆の杵 (柱2、横木2)	前面? (柱2、横木2)	114.5	5.2~6.3		柱部分、方面の釘、2箇所に1方向、断面は長方形、杵の 柱部分、方面の釘、2箇所に1方向、断面は長方形に凸凹	137-2
					113.0	5.8~6.7			
					65.2	5.0	3.0		
					64.4	5.3	3.0		

第285図 10E-SD8出土遺物 (4)

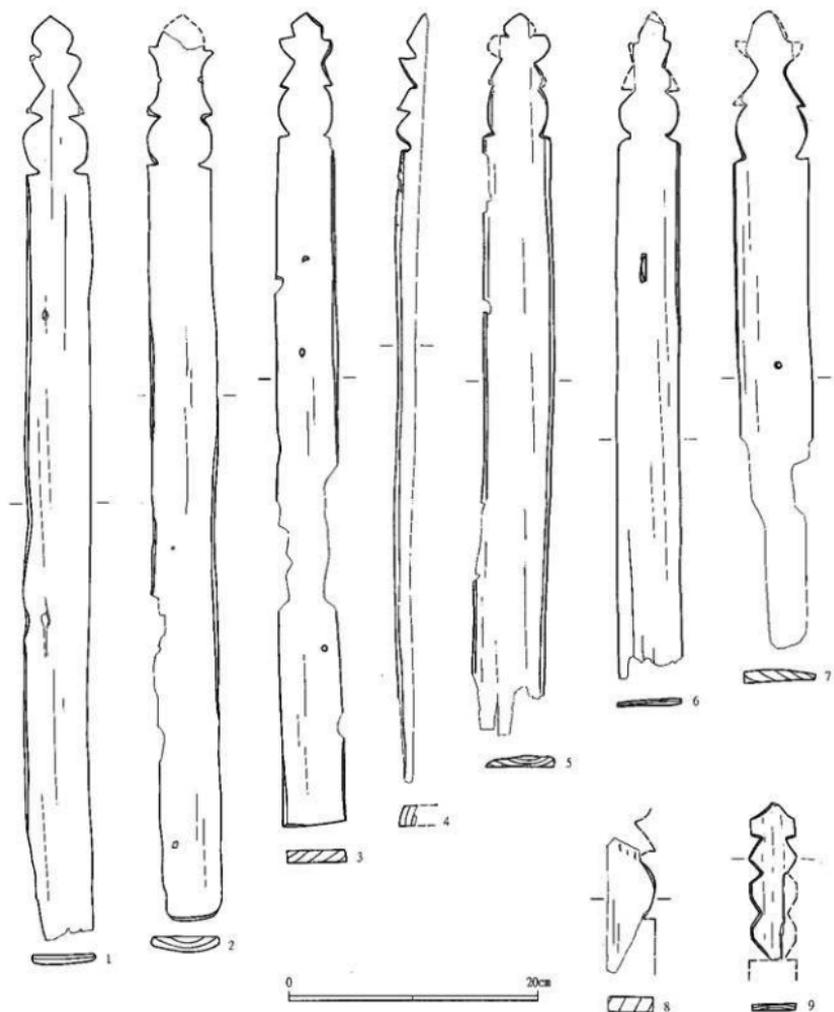
ため分解して取り上げ、保存処理を行っている。なお、本来の出土状況を図上復元したのが第286図1である。

板塔婆は頭部を五輪塔形に削り出したもので、長さは約72cmである。7枚ともに塔婆の表面が黒ずんでいるのに対して、逆に文字の部分の色調が他より薄く、なおかつわずかに盛り上がっているなどSD1005A～D出上の板塔婆と



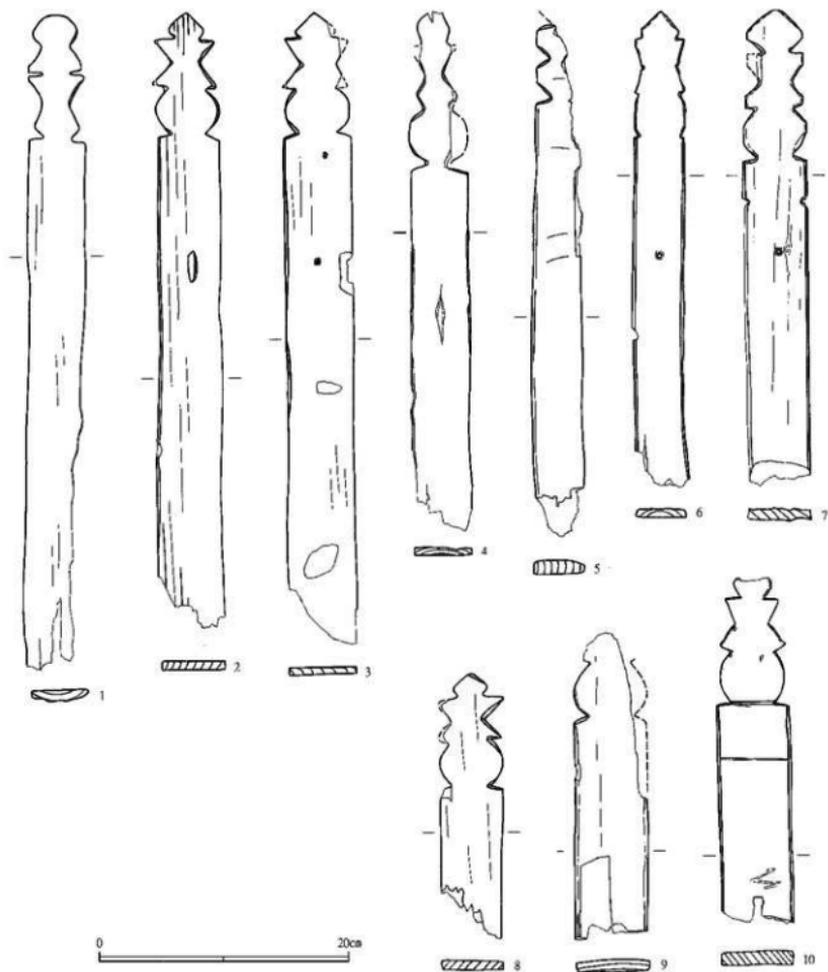
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1		10E-SD8・2層	木製品・板塔婆と枠				出土時の復元図		
2	1-259	10E-SD8・3層	木製品・板塔婆の枠	推定腐蝕部分	91.0	13.7	高さ8.0 釘孔2	137-1	

第286図 10E-SD8出土遺物 (5)



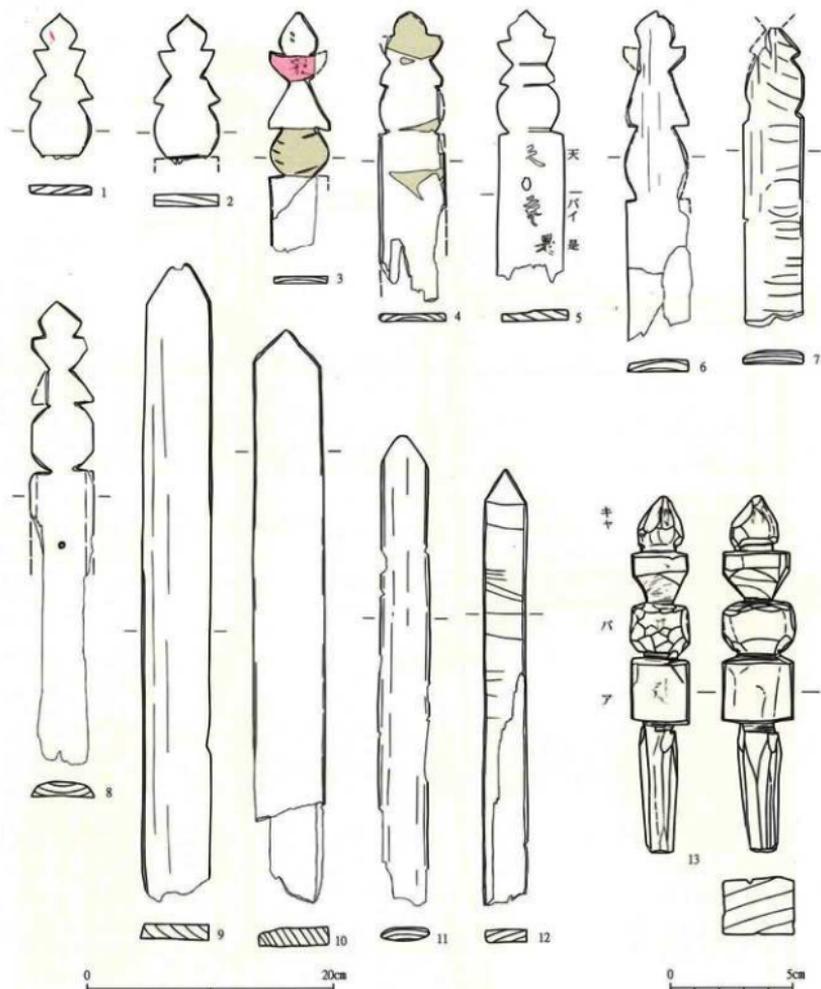
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-283	10E-SD8・2層	木製品・五輪形板厚盤	ほぼ完全	76.0+	5.0	0.6	クリ	136-1
2	L-282	10E-SD8・2層	木製品・五輪形板厚盤	先端部欠損	72.4+	5.6	0.7~1.2	黒輪と木輪を浅い切込みで区別、クリ	136-2
3	L-263	10E-SD8・2層	木製品・五輪形板厚盤	4/5	66.4+	4.8	1.0	釘孔2、モミ炭	136-3
4	L-216	10E-SD8・3層	木製品・五輪形板厚盤	1/2	62.8+	1.7+	1.7	モミ炭	136-4
5	L-278	10E-SD8・2層	木製品・五輪形板厚盤	上部4/5	59.0+	5.6	0.9	木輪と木輪の削りこみが少ない	136-5
6	L-266	10E-SD8・2層	木製品・五輪形板厚盤	上部2/5	54.0+	5.0	0.4	釘孔1、モミ炭	136-6
7	L-222	10E-SD8・3層	木製品・五輪形板厚盤	上部2/3	52.3+	6.0	1.0	釘孔1残存、クリ	136-7
8	L-176	10E-SD8・3層	木製品・五輪形板厚盤	水輪部小片	11.0+	3.6+	1.3	マツ炭板厚盤裏面	136-8
9	L-175	10E-SD8・3層	木製品・五輪形板厚盤	断面のみ	13.1+	5.6	0.5	クリ	136-12

第287図 10E-SD8出土遺物 (6)



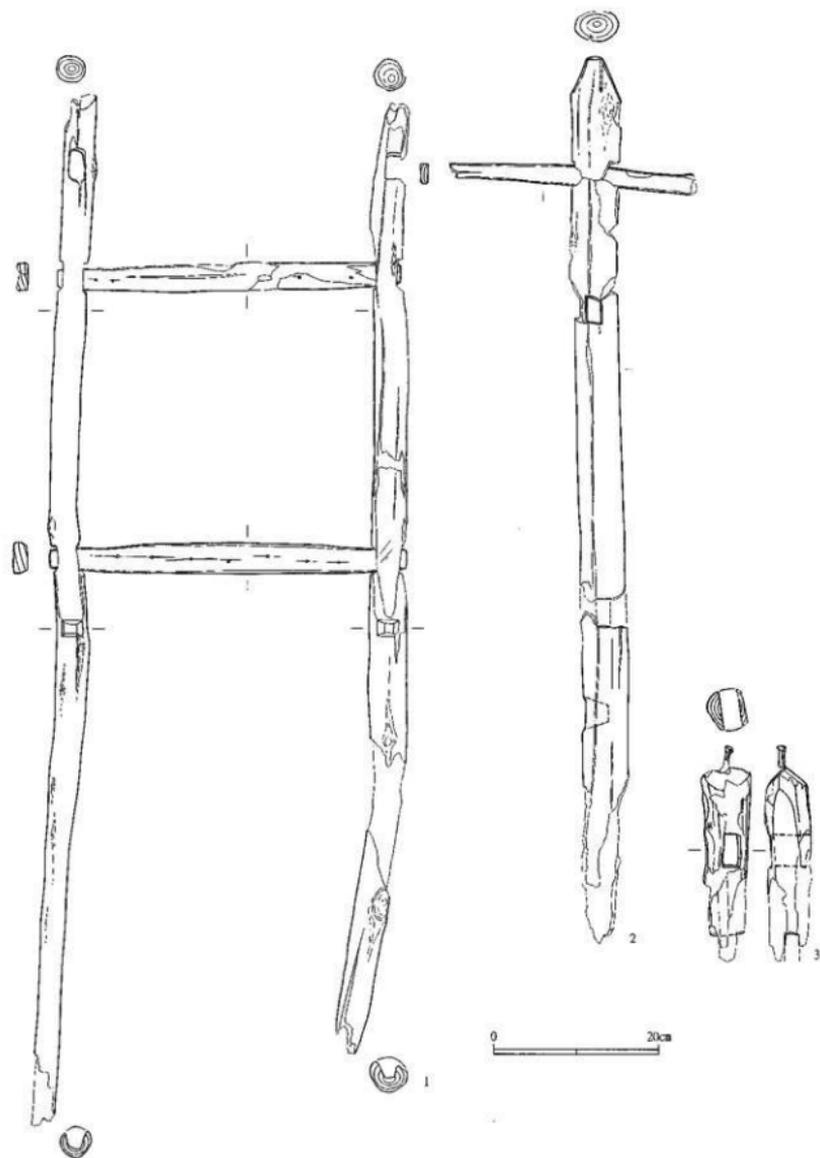
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地) 出所	遺存度	法線 (cm)		調整・特徴	写真 図版
					長さ	厚さ		
1	L-279	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部3/4	53.8+	4.7	0.6~1.0	尾輪と火輪の形態が他と違、クリ	136-8
2	L-265	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部2/3	53.0+	5.2	0.8	釘孔1、モミ属	136-9
3	L-267	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部2/3	51.8+	5.7	0.7	釘孔1、モミ属	136-10
4	L-260	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 1/2	42.6+	4.5	0.6	クリ	136-16
5	L-227	10E-SD8・3層	木製品・五輪塔形板槌茎 1/2	42.2+	4.0	1.1	クリ	136-17
6	L-281	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部1/2	39.2+	4.1	0.6	削り込みが少なく輪郭が不明瞭、ヤマウルシ	136-18
7	L-219	10F-SD8・1層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部1/2	39.2+	2.9	1.0	釘孔1存在、スギ	136-19
8	L-212	10E-SD8・2層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部1/3	21.6+	5.0	0.8	モミ属	136-13
9	L-218	10E-SD8・3層	木製品・五輪塔形板槌茎 1/3	25.5+	5.9	1.2	クリ	136-14
10	L-240	10E-SD8・3層	木製品・五輪塔形板槌茎 上部1/3	28.2+	5.0	1.3	釘孔1文字確認	136-15 197-3

第268図 10E-SD8出土遺物 (7)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-224	10E-SD8・3層	木製品・五輪帯形板葺葺	頭部のみ	12.0+	5.2	0.8	空輪の一部に赤色塗料付着。スギまたはヒノ科	135-9, カラー-19	
2	L-223	10E-SD8・3層	木製品・五輪帯形板葺葺	頭部のみ	12.3+	5.3	1.0	水輪の一部に赤色塗料付着。スギ	135-10	
3	L-230	10E-SD8・3b層	木製品・五輪帯形板葺葺	頭部のみ	19.8+	4.8	0.6	風輪に赤色塗料・水輪に黒色塗料	135-11, カラー-18	
4	L-284	10E-SD8・2層	木製品・五輪帯形板葺葺	上部1/3	23.8+	5.4	0.6	帯状の墨痕、クリ	135-12	
5	L-210	10E-SD8	木製品・五輪帯形板葺葺	上部1/3	22.6+	5.2	0.8	墨痕「天パイ是、モミ属	135-13, 197-2	
6	L-211	10E-SD8	木製品・五輪帯形板葺葺	上部1/3	27.2+	5.0	1.0	クリ	135-14	
7	L-220	10E-SD8・3層	木製品・五輪帯形板葺葺	1/3	24.6+	4.8	1.1	クリ	135-15	
8	L-264	10E-SD8・2層	木製品・五輪帯形板葺葺	上部1/2	39.0+	4.6	1.3	釘孔1, クリ	135-16	
9	L-228	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	上部1/2	52.2+	5.6	1.3		140-13	
10	L-226	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	上部1/2	47.2+	5.8	1.5		140-14	
11	L-280	10E-SD8・2層	木製品・三角形板葺葺	上部1/2	38.8+	3.9	1.0		140-15	
12	L-225	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	上部1/3	35.8+	3.4	1.3		140-16	
13	L-174	10E-SD8・3層	木製品・五輪帯	完形	高14.5	幅2.4~2.9		火輪がない。西面に文字。スギ科またはヒノ科	135-8, カラー-20	

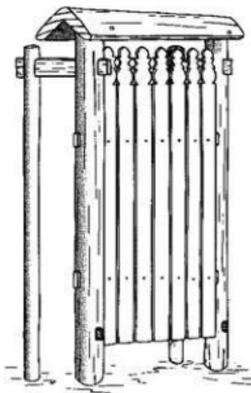
第289図 10E-SD8出土遺物 (8)



第290図 10E-SD6出土遺物 (9)

同様に、墨は遺存していないが墨書の痕跡が残っていた（写真図版197～201）。この墨書痕跡はごくわずかな盛り上がりのため、文字の存在は確認できても判読まで可能なものは少ない。頭部の空輪～水輪の部分の文字はほとんど判別できなかったが、地輪の部分にはほぼ全面に墨書がなされている。文字は部分的に判読できたのみで、内容は不明であるが、L-275・273(5・6)の塔婆の右下に「五七門」「六七日」とあり、L-274・277・276(2・4・7)にも不明瞭ながらも「七」「四七日」「七七日」とあるので、死者の没後七日ごとの泊善供養のためのものであると考えられる(註1)。

L-386杵(第285図)は高さ約114cm、幅65cmで、頭部を△角形に加工した2本の丸木を柱とし、間に貫板のように板材を差し込んでいる。この板材は小口に木片を打ち込んで柱に固定してあった。また、柱の上部には横木用の孔とは直交方向に別な貫通孔があり、長さ28cmの別な板材が組み込んであった。下部にも貫通しない方形の穴があるがこの用途は不明である。なお、近くから断面形が「く」字状で長さ91cmの材L-259が出土しているが(第286図2)、このL-259の「く」字状の凹みとL-386柱頭部の三角形の形状が一致すること、対になった小さな円形の貫通孔が2組認められ、釘が2点残存していたことから、柱の頭部に釘で固定されていた墨根のような部材と推定される。以上を総合して復元したのが第291図である(註2)。



第291図 板塔婆・杵の復元図

なお、同様な板塔婆の杵はこの他にも出土している。L-269(第290図1)は板塔婆が失われ、基部も一部欠損しているが(写真52-1・2)ほぼ完形である。残存高126cm、幅43cmで、L-386に比べて幅が狭く、2/3ほどである。L-268・215(第290図2・3)は柱部分のみである。写真52-3は別個体であるが、遺存状態が悪いため図化はできなかった。これには板塔婆が伴っていたが取り上げの際に他の板塔婆と混在してしまっている。

頭部を五輪塔形に削り出した板塔婆はL-271～277の7点の他にも多数ある(第287～289図)。このうち文字が確認できたのはごく一部である(第289図3・5)。頭部の形状は様々で、L-271～277の7点のように比較的整った形態のもの他に、風輪と火輪を間の縦い切込によって区別したL-282(第287図2)、同じく風輪と火輪を間の縦い切込によって区別しているが風輪と火輪の形が逆になっているL-279(第288図1)、削り込みが少なく輪郭がはっきりしないL-281(第288図6)などがある。なお、3点のみであるが彩色されたものがL-223・224・230である(第289図1～3)。L-223・224はそれぞれ空輪と水輪にわずかに赤色顔料が認められる程度であったが、L-230は顔料がよく残存しており、風輪が赤色、水輪が黒色に塗り分けられている(註3)。

頭部を三角形に削り出した板塔婆は、整った板材に整形したL-225・226・228・280(第289図9～12)、L-256・257(第296図5・6)と、加工が粗く比較的厚みがあるL-249・252～254・261(第295図1～5)の2種類がある。前者のうち、墨書の痕跡が認められたものがL-256・257(第296図5・6)で、L-256は複数の横線を描いて「武蔵型板碑」風にした特異なものである。L-257は「キリーク」らしい文字と阿弥陀如来の要文から十三仏信仰に係る第三年日の塔婆と考えられる。

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(座地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-269	10E-SD6・2層	木製品・板塔婆の杵	部分 (柱1、横木2)	126.4	4.0		柱部分、方形の穿孔3(2箇所同一方向、1箇所は直交方向)の遺存あり。2、1。 柱部分、方形の穿孔3(2箇所同一方向、1箇所は直交方向)の遺存あり。2、1。 上の横木、釘穴2残存 下の横木、釘穴2残存	137-3
					115.4	4.8			
					41.7	3.4	1.4		
					43.3	3.9	1.8		
2	L-268	10E-SD8・2層	木製品・板塔婆の杵	部分 (柱1、横木1)	108.8	5.8		柱部分、方形の穿孔3(2箇所同一方向、1箇所は直交方向)の遺存あり。2、1。 横木の一部	138-1
					30.2	2.0	1.1		
3	L-255	10E-SD8・3層	木製品・板塔婆の杵?	柱の頭部	26.0	6.0	5.5	方形の穿孔1箇所、縦線を「無形に削り出し」、断面に遺存あり	138-2



第292図 10E-SD8出土遺物 00

五輪塔

L-174は立体形式の五輪塔であるが、実際は火輪がなく四輪塔である(第289図13)。地輪の下は細い円柱状に整形されていて、台に差し込んで使用されたと考えられる。四面に梵字が墨書されているが墨の遺存状態はあまりよくなく、わずかに1面で空輪・木輪・地輪にそれぞれ「キヤ」「バ」「ア」が認められた。

板碑形塔婆

丸木の側面に平坦面を削り出し、頭部を一段高く削り残して先端をとがらせ、平坦面に二本の平行沈線を入れて板碑形に作ったL-241・242・255・270・285・288・291・292・296・299~301(第292・293図1~7)と頭部の削り出しがなく半截した杭状のL-221・250・251・262・286・287・289・293~295・297・298(第293図8・9・第294図・第296図1~4)がある。

後者には平行沈線が入ったものも認められる(L-221・289、第293図8・9)。下部が腐食したものが大部分であるので直接地面に挿して使用したと考えられる。なお、平坦面に文字が書かれていた可能性が高いが、痕跡は認められなかった。

こけら経

小破片を含めて60点出土した。掲載したのは墨書が確認できた52点と墨書は確認できなかったが経木自身の遺存状態が比較的良好であった5点の計57点で(第297図~302図)、この他の3点は小片で墨痕も確認できなかったため掲載はしなかった。こけら経の内訳は、「血盆経」(註4)41点、「転女身成佛功德経」(註5)7点、經典が不明なもの12点である。なお、経文は縦書きなので第302図(250頁)から第297図(245頁)までページを逆にレイアウトしている。

経木は薄いため遺存状況は良くなく、欠損しているものが多い。すべて細身のもので、切込みなどは認められない。頭部の形状は、形が分かるものの大部分は三角形であるが、L-370(第302図6)のみは方形である。下端部は方形である。長さが判明しているものは28~29cm前後であるが、その他完形でないものも30cmを超えないと推定される(註6)。幅は1.1~2.7cmであるが2.0cm前後のものが多い。厚さは0.6~2.0mmであるが1.5mmをこえるものは57点中わずか6点であり、大部分は1.0mm前後である。写経面はL-370(第302図6)が両面写経であるが、残りはすべて片面写経である。

L-318・369・385・327(第302図1~4)は「血盆経」の題字である。題字は経文の前後にあり、出土したものが本末前と後のどちらのものであったのか判別できないため、ここではすべて経文の前に並べた。第302図5~10、第301~299図は「血盆経」の経文で、経文の順に沿って並べてあるが、経文が重複するものが多数ある。また、複数の筆跡が認められることや経木1枚の字数にばらつきが認められることなどから、こけら経は複数組が混在していると考えられる。

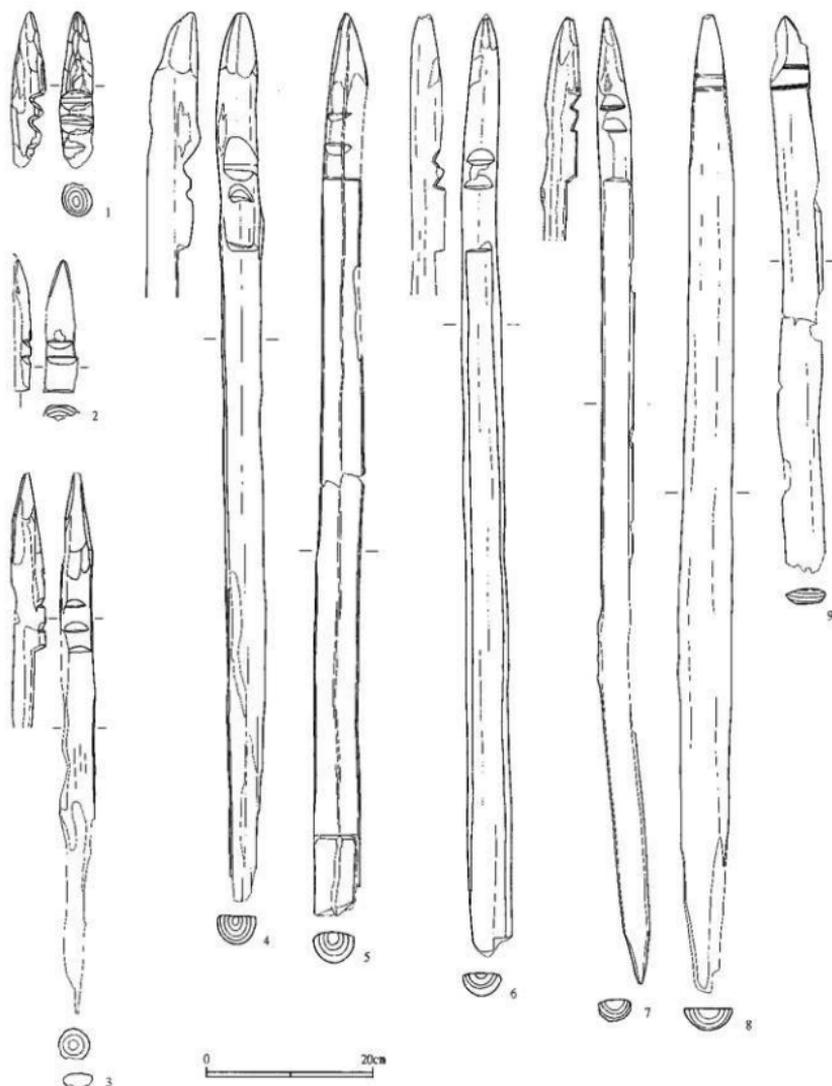
L-384(第298図1)は「転女身成佛功德経」の題字、L-317・334・339・345・348・381(第298図2~6、第297図3)はその経文である。

L-330・331・344・355(第298図7・8、第297図1・2)の教典は不明である。なお、こけら経の詳細については「第7編 総括」の項で述べる。

(2)掘立柱建物跡・柱列跡 城館の主軸方向と一致する10E-SB5と10E-SA1がIVa2期、城館の主軸方向から西に振れる(真北からは17~20°東傾)10E-SB4・7がIVa1期と推定される。10E-SB4・5は10E-SB8に囲まれる内部に位置すること、周辺の基本層中から焼骨片が多数出土していることなどから納骨堂などの宗教的な施設である可能性が考えられる。

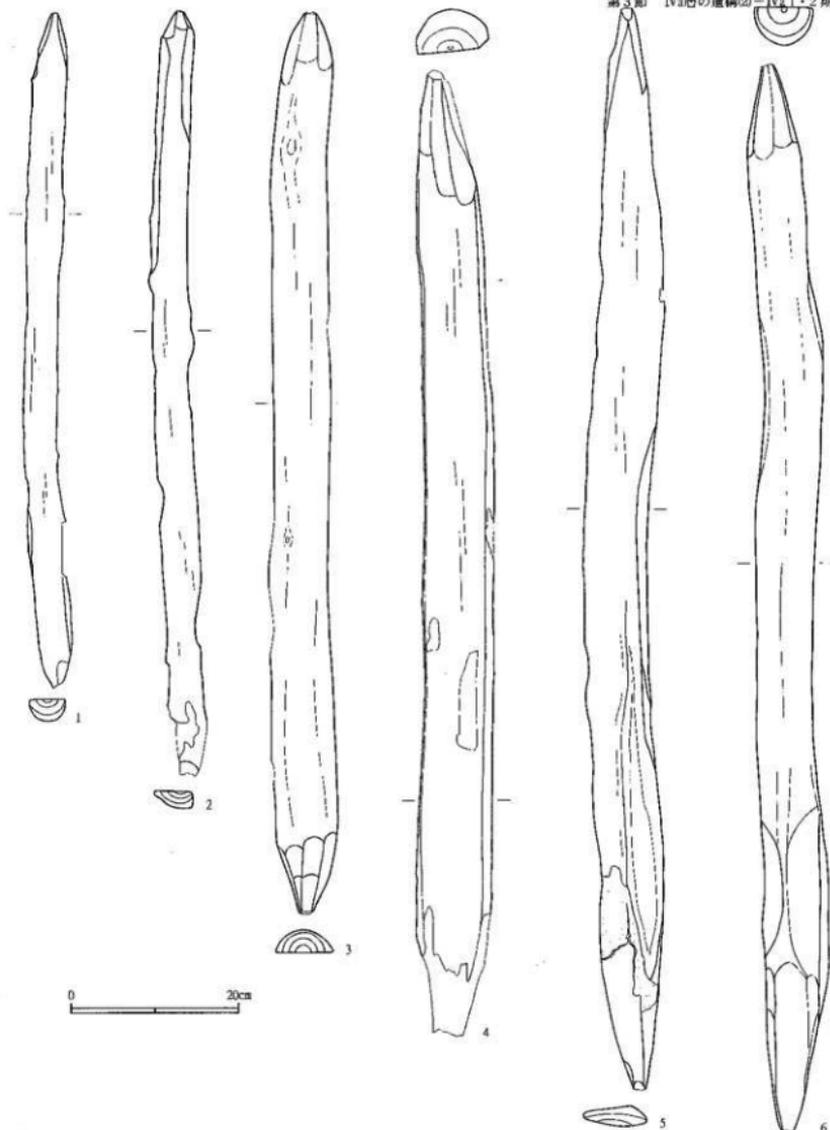
(3)井戸跡 10E区西部でSD10Q5Cに切られて10E-SF1がある。径1.0m、深さ2.0mで、在地産の中世陶器片が1点出土した。

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(厚地) 品類	遺存状況	寸法 (mm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-292	10E-SD6・3層	木製品・板碑形塔婆	先端部欠損	136.4+	4.8	4.0	丸木、表面磨光・2線(底左側)刻み、口・面削り	138-3
2	L-270	10E-SD6・2層	木製品・板碑形塔婆	基部欠損	133.4+	7.0	2.3	分割材、基部杭状・2本線刻み、クリ	138-4
3	L-299	10E-SD6・2層	木製品・板碑形塔婆	先端部欠損	128.5+	6.3	4.2	丸木、基部杭状・2線(底左側)刻み、口・面削り、クリ	138-5
4	L-300	10E-SD6・3層	木製品・板碑形塔婆	先端・基部欠損	124.2+	5.5	3.7	丸木、基部杭状・2線(底左側)刻み、口・面削り、クリ	138-6
5	L-296	10E-SD6・3層	木製品・板碑形塔婆	基部欠損	117.8+	7.0	4.0	丸木、基部杭状・2線(底左側)刻み、口・面削り、クリ	138-7



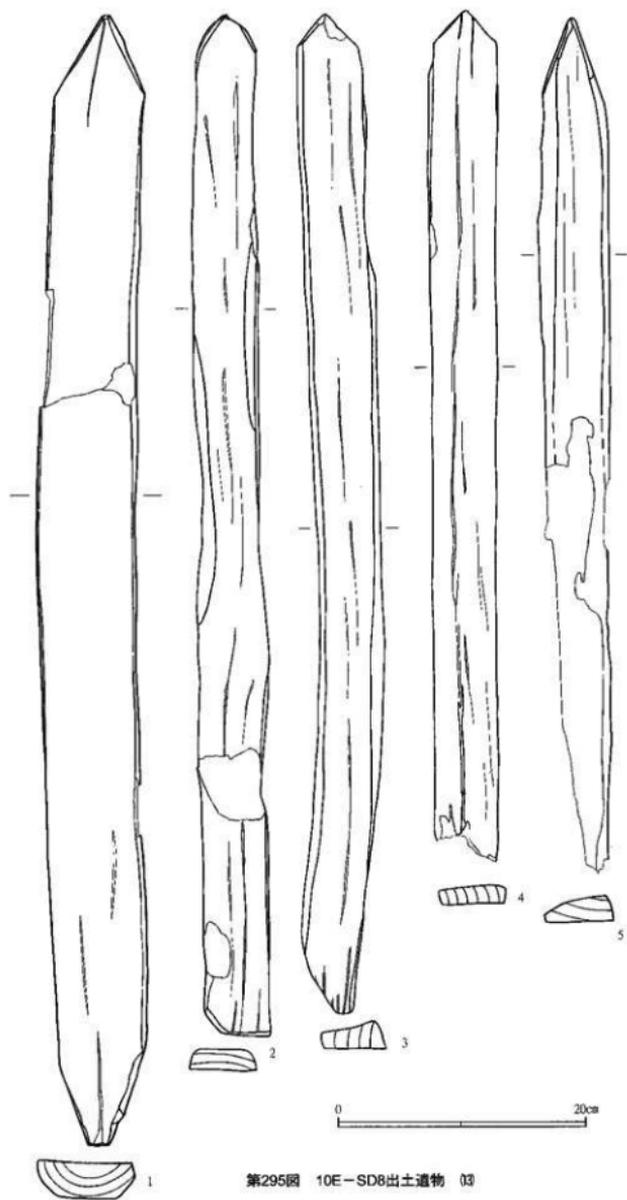
No.	発跡No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚点		
1	L-241	10E-SD8・3層	木製品・板障形箭鏃	破断のみ	19.0+	3.6	4.0	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り	138-9
2	L-242	10E-SD8・3層	木製品・板障形箭鏃	破断のみ	16.4+	3.4	2.4	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、シノ本線	138-10
3	L-285	10E-SD8・2層	木製品・板障形箭鏃	上部1/2	65.3	3.6	2.3	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り、クワ	138-8
4	L-301	10E-SD8・2層	木製品・板障形箭鏃	基部欠損	39.0+	4.6	3.8	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り、クワ	139-1
5	L-255	10E-SD8	木製品・板障形箭鏃	4/5	21.0	4.2	3.8	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り、クワ	139-2
6	L-291	10E-SD8・3層	木製品・板障形箭鏃	基部欠損	116.0+	4.7	2.8	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り、クワ	139-3
7	L-288	10E-SD8・2層	木製品・板障形箭鏃	ほぼ完全	120.5	4.0	2.8	丸木、基部残欠・2本線(木葉形)刻み、以下面成り、クワ	139-4
8	L-289	10E-SD8・2層	木製品・板障形箭鏃	基部欠損	120.4+	5.7	2.6	分割材、基部残欠・2本線刻み、クワ	139-5
9	L-221	10E-SD8・3層	木製品・板障形箭鏃	上部1/2	68.3+	4.8	1.8	板材、基部残欠・2本線刻み、クワ	138-11

第293図 10E-SD8出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 附稱	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-267	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	完形	82.6	4.3	2.5	分割材、頭部帆状	129-6
2	L-262	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	？、頭部欠損	94.4+	4.6	2.0	分割材	132-7
3	L-286	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	完形	110.5	7.0	2.8	分割材、頭部帆状	139-8
4	L-295	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	基部欠損	118.8+	8.7	5.1	分割材、頭部帆状	130-9
5	L-293	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	ほぼ完形	133.8	7.6	2.8	丸木、頭部三角形、以下先端近くまで面取り	136-10
6	L-294	10E-SD8・2層	木製品・板鏃形遺物?	ほぼ完形	133.0	7.0	4.7	分割材、頭部帆状	140-1

第294図 10E-SD8出土遺物 (7)



第295図 10E-SD8出土遺物 03

No.	登録No.	地区・遺構・階位	構別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-253	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	完形	93.0	8.1	3.0	分割財、須渚と先渚部三角形	140-8
2	L-252	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	完形	84.0	5.2	1.6	分割財、須渚三角形	140-9
3	L-249	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	ほぼ完形	82.4	5.2	2.0	分割財、須渚三角形	140-10
4	L-254	10E-SD8・3層	木製品・三角形板葺葺	上部欠	70.7+	5.2	1.6	分割財、須渚三角形	140-11
5	L-261	10E-SD8・2層	木製品・三角形板葺葺	上部欠	70.6+	6.0	2.0	分割財、須渚三角形	140-12



(註1) 地輪の上部には漢字の「天」があり、その下には種字として1枚目がカーン(不動明王)、2枚目がバク(釈迦如来)、4枚目がアン(賢賀菩薩)、6枚目がユ(弥勒菩薩)、7枚目がパイ(薬師如来)で十三仏信仰に伴う本尊仏と一致する。また1枚目の種字の下の「是大明王…」は不動明王の説明文の要文である。

(註2) 後方の細い柱は確認されていない。
(註3) 彩色された板塔婆は「春日権現験記絵」に認められるが、ここでは上から緑・青・赤・白・茶色となっており、塗り分けは一致しない。

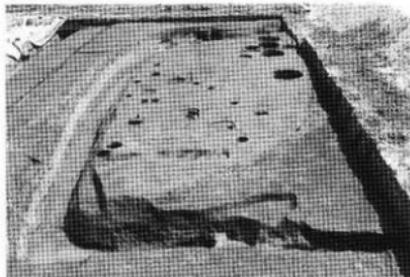
(註4) 「血盆経」は10世紀に中国で成立した疑経であると推測されている。日本に伝来した時期は不明であるが、遅くとも15世紀前半までには伝来し、受容されていたと考えられている(牧野・高遠:1996)。

(註5) 題字は「転女身成佛功德経」となっているが経文は東京国立博物館蔵の「転女成佛経」の内容と一致するので(元興寺文化財研究所:1994)、「転女身成佛功德経」は「転女成佛経」と同じ経典を意味する可能性が高い。

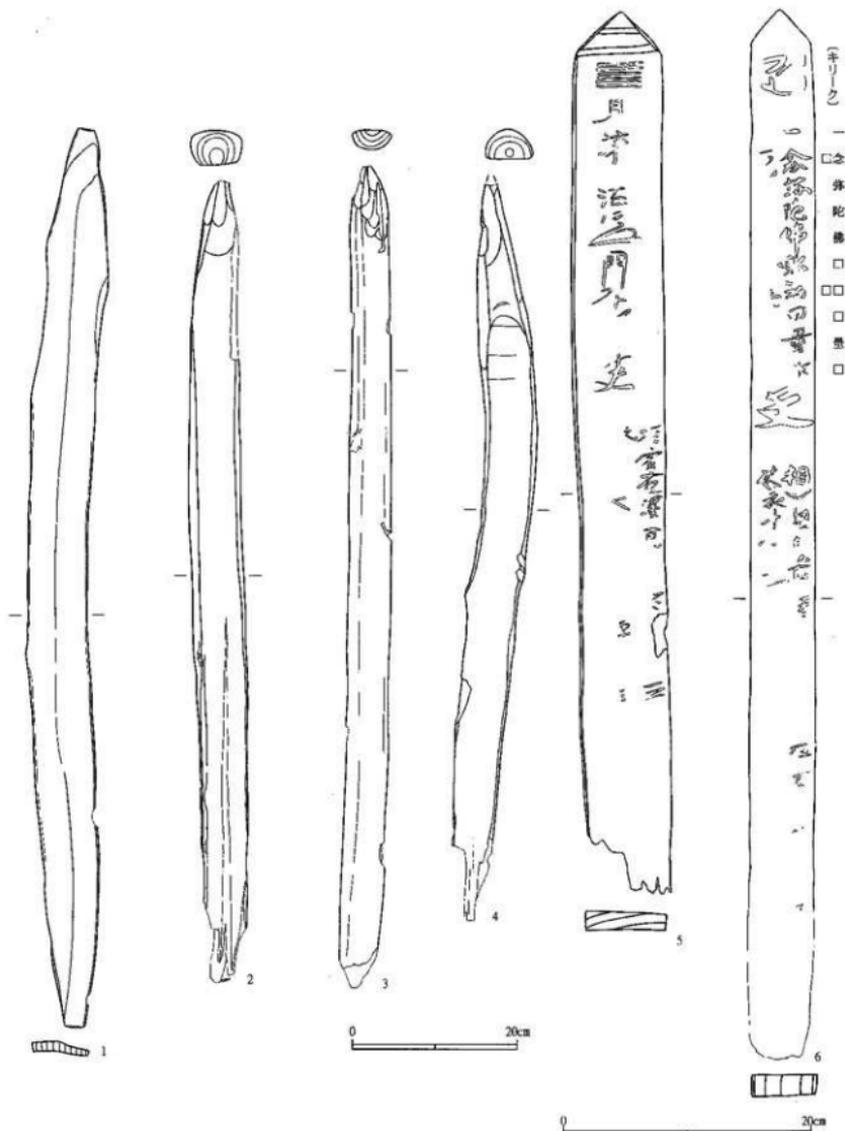
(註6) 文字のない空白部分の長さなども含めて類推した。



(平面図は第27図)

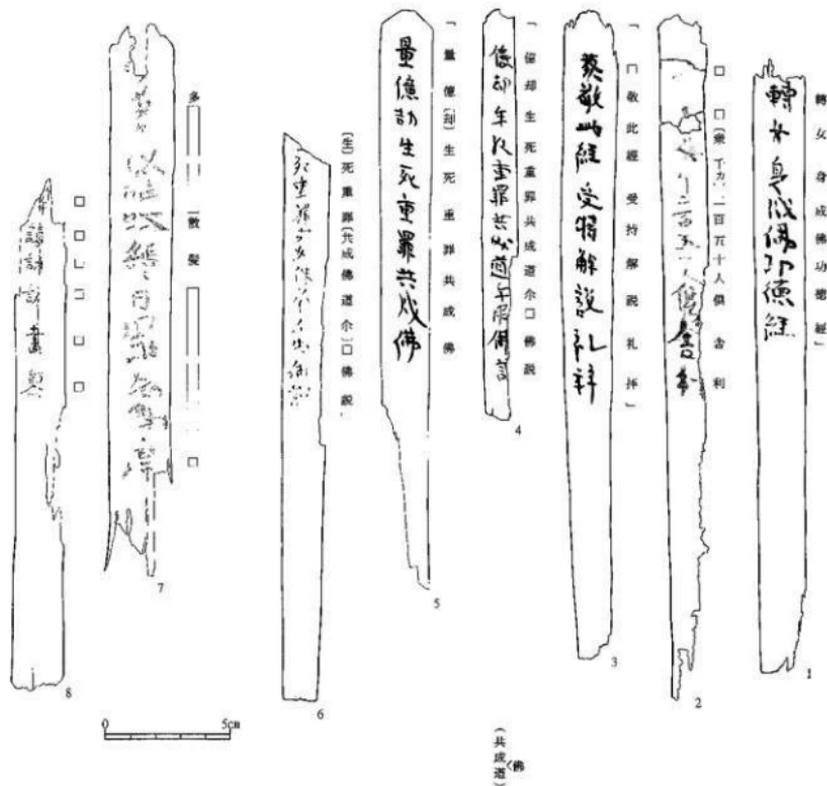


10E-SD8



No	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法(cm)			調査・特徴	写真 図録
						長さ	幅	厚さ		
1	L-206	10E-SD8・3層	木製品	板状形帯巻?	ほぼ完形	159.0	7.0	1.2	縦材、面部朽状	140-2
2	L-250	10E-SD8・3層	木製品	板状形帯巻?	?、端部欠損	98.5+	6.2	4.3	丸木、面部朽状、以下面取付	140-3
3	L-207	10E-SD8・3層	木製品	板状形帯巻?	ほぼ完形	111.0	6.8	2.4	分断材、面部朽状	140-4
4	L-251	10E-SD8・3層	木製品	板状形帯巻?	?、端部欠損	90.2+	5.8	3.6	丸木、面部朽状、以下面取付	140-5
5	L-256	10E-SD8・3層	木製品	三角形板帯巻	上部4/5	71.4+	6.6	1.4	側面取付多数、断面に横方向の墨線、裏面型板跡付	140-6 201-1
6	L-257	10E-SD8・3層	木製品	三角形板帯巻	ほぼ完形	85.6+	5.2	1.6	側面取付多数、一念弁陀佛・・・	140-7 201-2

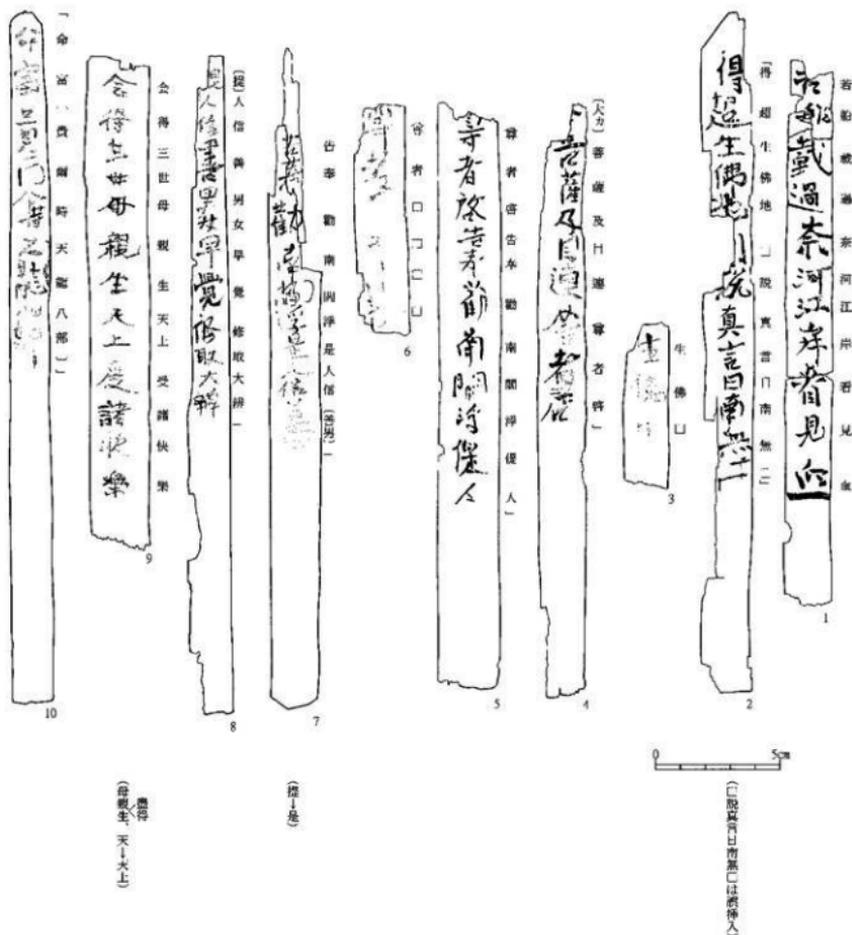
第296図 10E-SD8出土遺物 04



(共成造)佛

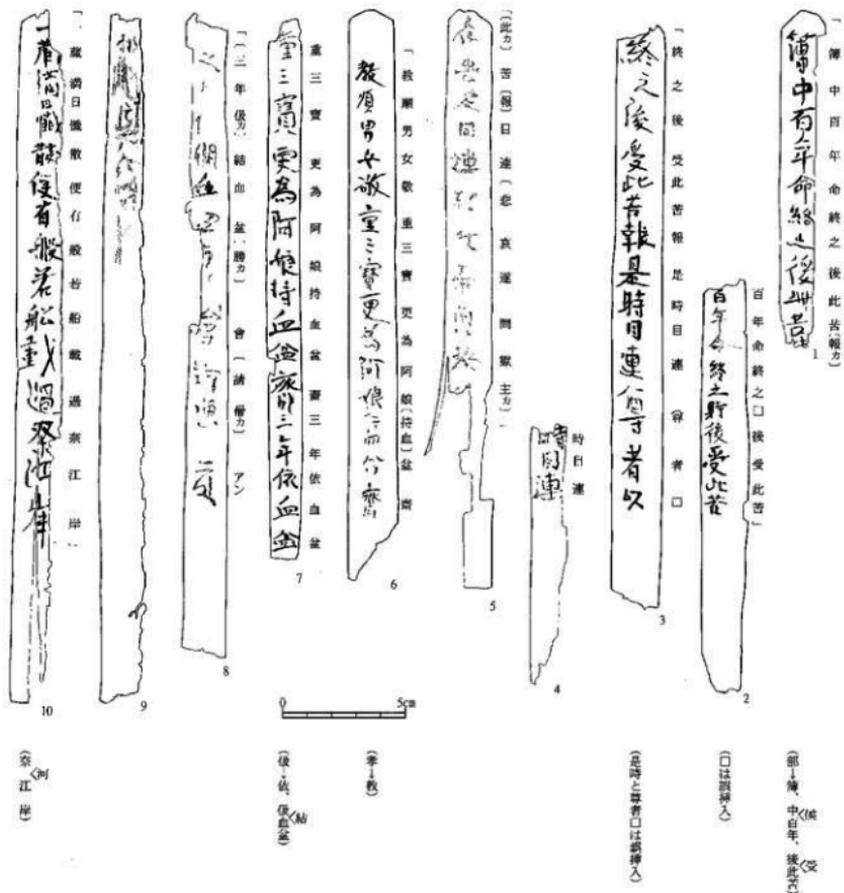
No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	寸法(cm)			刻銘・特徴	写真 図版	カウ 図版
						長さ	幅	厚さ			
1	L-384	10E-SD8・3b層	木製品	柿蔕	中央部	25.1-	1.9~2.1	0.16	転女身成佛功德経・経題、墨書8文字	143-13	62
2	L-345	10E-SD8・3層	木製品	柿蔕	3/4	28.1+	1.9	0.06	転女身成佛功德経、墨書11~12文字、墨色が薄く不明瞭	143-14	63
3	L-317	10E-SD8・3層	木製品	柿蔕	ほぼ完全形	26.5+	1.5~2.2	0.08	転女身成佛功德経、墨書10文字	144-1	64
4	L-348	10E-SD8・3層	木製品	柿蔕	2/3	16.6+	1.3~1.5	0.12	転女身成佛功德経、墨書13文字	144-2	66
5	L-381	10E-SD8・3b層	木製品	柿蔕	3/4	23.8+	1.9~2.1	0.13	転女身成佛功德経、墨書10文字	144-3	67
6	L-339	10F-SD8・2層	木製品	柿蔕	3/4	23.3+	1.8	0.09	転女身成佛功德経、墨書12文字、行中央~行末	144-4	68
7	L-344	10E-SD8・3層	木製品	柿蔕	3/4	22.6+	2.5	0.09	血盆経?、墨書11文字?、墨色が薄く不明瞭	144-5	69
8	L-330	10E-SD8	木製品	柿蔕	2/3	20.8+	2.0	0.12	経目不明、墨書6文字、行中央~行末	144-6	70

第298図 10E-SD8出土遺物 (9-柿蔕) (5)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(當地)器種	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写本 国版	カシ 一版
					長さ	幅	厚さ			
1	L-363	10E-SD8・3a層	木製品・楕円	3/1	22.1+	1.9	0.10	血塗様、墨書11文字、行中央～行末	143-3	52
2	L-341	10E-SD8・3層	木製品・楕円	4/5	23.6	1.9~2.1	0.09	血塗様、墨書13文字	143-4	53
3	L-326	10E-SD8・3層	木製品・楕円	1/5	6.7+	1.8	0.10	血塗様、行中央?	143-5	54
4	L-350	10E-SD8・3層	木製品・楕円	2/3	24.1+	1.9	0.06	血塗様、墨書9文字、行中央～行末	143-6	55
5	L-368	10E-SD8・3a層	木製品・楕円	3/4	23.6+	2.5	0.12	血塗様、墨書11文字、行中央～行末	143-7	56
6	L-364	10E-SD8・3a層	木製品・楕円	1/3	9.8+	2.1	0.17	血塗様、墨書2文字以上、墨痕が薄く不明瞭	143-8	57
7	L-328	10E-SD8	木製品・楕円	3/4	26.9+	2.0	0.15	血塗様、墨書10文字	143-9	58
8	L-371	10E-SD8・3a層	木製品・楕円	破損欠損	26.8+	1.3~1.7	0.13	血塗様、墨書12文字、行頭欠損?	143-10	59
9	L-351	10E-SD8・3層	木製品・楕円	2/3	19.8	2.3~2.5	0.08	血塗様、墨書15文字、行頭欠損?	143-11	60
10	L-353	10E-SD8・3層	木製品・楕円	劣形	28.1	1.3~1.7	0.13	血塗様、墨書9文字、墨痕が薄く不明瞭	143-12	61

第299図 10E-SD8出土遺物 (08-楕円) (4)



(茶江岸)
 (部一城、中百年、後此苦)
 (口は誤挿入)
 (是時日連口は誤挿入)
 (季一教)
 (後三依血益)

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存状況	寸法(cm)			調整・特徴	写真図版	カウ・四 層
					長さ	幅	厚さ			
1	T-365	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	1/2	13.6+	1.8	0.07	血益経、墨書11文字、行部一行中央	142-7	42
2	L-360	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	3/5	16.6+	1.6~1.9	0.10	血益経、墨書10文字、行中央一行末	142-8	43
3	L-337	10E-SD8・2層	木製品・柿経	3/4	23.6+	2.0	0.16	血益経、墨書15文字	142-9	44
4	L-380	10E-SD8・3b層	木製品・柿経	絶分	10.7+	1.5+	0.08	血益経、墨書3文字、行末	142-10	45
5	L-329	10E-SD8	木製品・柿経	3/4	23.5+	1.8	0.10	血益経、墨書1文字、行復一行中央、墨蹟が濃く不明瞭	142-11	46
6	L-359	10E-SD8・3層	木製品・柿経	3/4	23.0+	2.0	0.10	血益経、墨書16文字	142-12	47
7	L-347	10E-SD8・3層	木製品・柿経	3/4	22.0	1.1~1.4	0.08	血益経、墨書16文字、行末欠損?	142-13	48
8	L-346	10E-SD8・3層	木製品・柿経	中央部	26.4+	1.7	0.12	血益経、墨書1文字、行末は死字、墨蹟が濃く不明瞭	142-14	49
9	L-343	10E-SD8・3層	木製品・柿経	断部欠損	28.0+	1.8	0.16	経典不明、墨蹟が濃く不明瞭	143-1	50
10	L-338	10E-SD8・2層	木製品・柿経	4/5	28.2	1.8	0.09	血益経、墨書16文字	143-2	51

第300図 10E-SD8出土遺物 (07-柿経) (3)



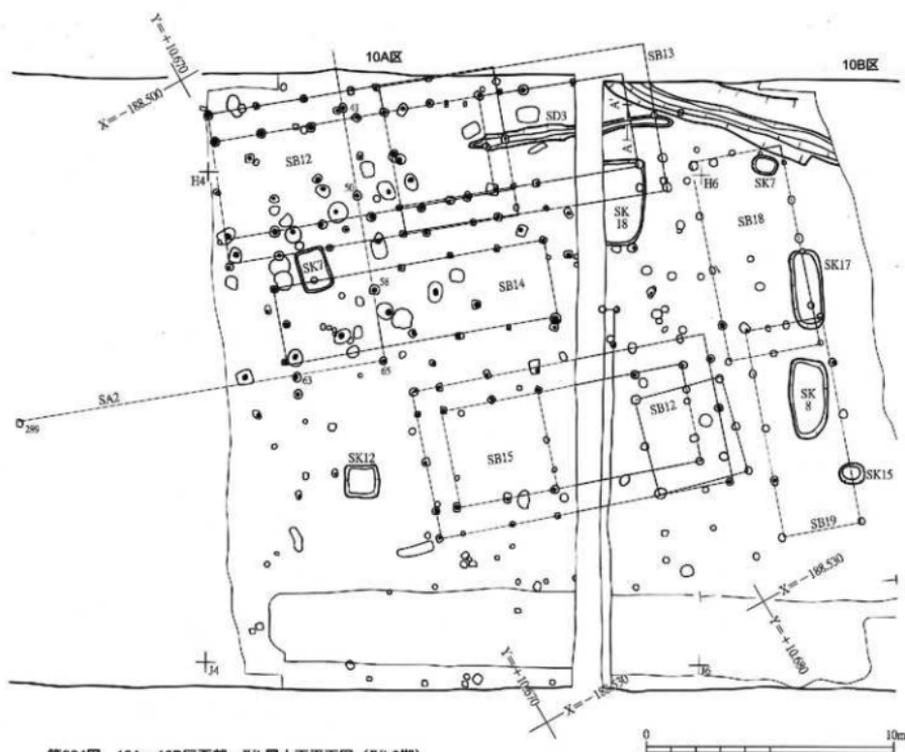
(左) 鐵槌 (右) 鐵槌

(三十一) 見十箇は鐵の印也

(百目) H B

No.	登録No.	地K・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法属 (cm)			調整・特徴	写真図版	カッパ図版
						長さ	幅	厚さ			
1	L-318	10E-SD8・1層	木製品・柿経	楕円形	ほぼ完全	29.2+	1.8~2.0	0.12	血盆経・経端、墨書4文字、行頭4文字不明跡	141-1	21
2	L-369	10E-SD8・3b層	木製品・柿経	55		16.9+	1.6	0.10	血盆経・経端、墨書2文字	141-2	22
3	L-385	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	部分		4.9	2.0	0.06	血盆経?、経端と推定、墨書2文字、行頭の迹	141-3	23
4	L-327	10E-SD8・3層	木製品・柿経	15		6.3+	2.0	0.12	血盆経・経端、出書3文字、行末と推定	141-4	24
5	L-362	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	35		18.4	1.6	0.11	血盆経、墨書12文字	141-5	25
6	L-370	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	22.5	部分	27.9	2.0	0.10	血盆経?、出書3文字、墨書4文字、行頭の迹	141-6	26
7	L-325	10E-SD8・3層	木製品・柿経	35		17.6+	1.6	0.08	血盆経、墨書11文字、行中央へ行末	141-7	27
8	L-367	10E-SD8・3a層	木製品・柿経	35		18.2+	2.5~2.7	0.16	血盆経、墨書13文字、行頭へ行中央	141-8	28
9	L-357	10E-SD8・3層	木製品・柿経	25		13.7+	2.3	0.11	血盆経、墨書4文字、行中央?	141-9	29
10	L-352	10E-SD8・3層	木製品・柿経	23		24.5+	1.5~1.8	0.12	血盆経、墨書13文字	141-10	30

第302図 10E-SD8出土遺物 (09) - 柿経 (1)

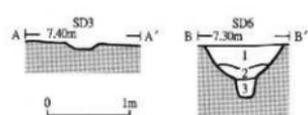


第304図 10A～10B区西部 IVb層上面平面図 (IVb2期)

ものと14～21°東に振れるものに分けられる。柱穴の重複がほとんど認められないため時期の限定がしにくい、IV a期の城館の建物群は時期が新しくなるにつれて東への振れが大きくなっていくので、IVb期の建物も同様に変遷すると仮定すると、東への振れが大きい建物群 (14～21°東傾) がIVb2期と推定される。なお、溝跡や井戸跡、土坑などは時期が限定できるものは少ない。

2. 10A区東部～10B区の遺構と遺物

IVb2期と考えられるのは掘立柱建物跡8棟、柱列1条、溝跡2条である。井戸跡と土坑については時期限定が困難で、既にIVa3・4期の項で記述している。



10B-SD6

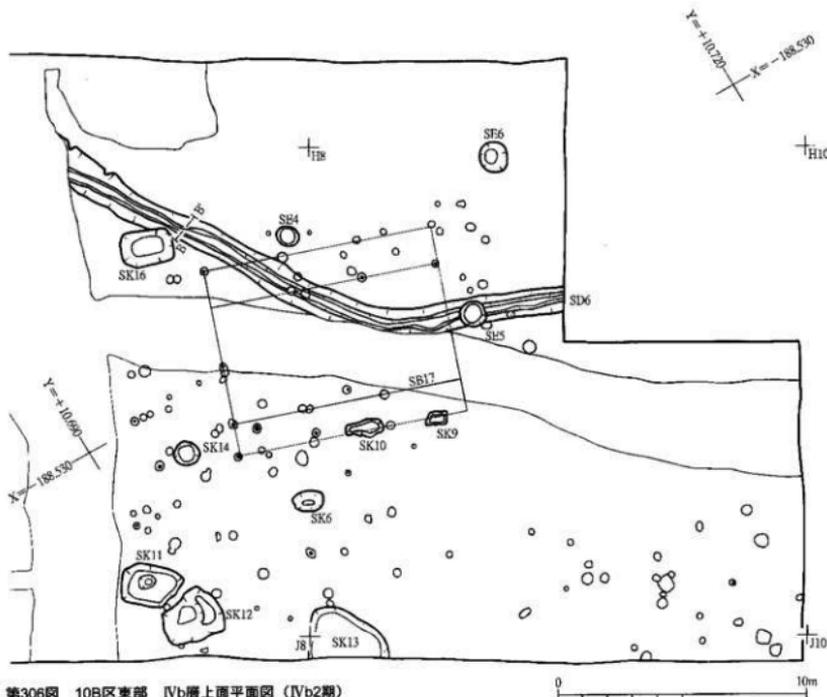
層位	色調	土質	副人物・その他
1	0YR3/2 茶褐色	粘土	焼化顔瓦多量
2	5Y2/1 オリーブ黒色	粘土	灰色シルトブロック・黒色粘土ブロック微量
3	5Y2/1 オリーブ黒色	粘土	灰色シルトブロック微量

第305図 10B-SD3・6 断面図

(1) 溝跡

10B-SD3 (第304・305図) 10A区北東部～10B区北西部にかけてのIVb層上面で部分的に確認した。残存する深さは約10cmで、土器片が数点出土した(表108)。10A-SB12・13などと重複しているので全く同時期ではないが、方向が概ね同じなのでこの頃の区画溝である可能性がある。

10B-SD6 (第304～306図) Va層上面で確認し



第306図 10B区東部 IVb層上面平面図 (IVb2期)

た溝で、10B区北西隅から若干蛇行しながら南東に延び、10C区で10C-SD18に接続する(第307図)。確認できた長さは約60m、幅0.8~1.4mで、堆積土は自然堆積層である。断面形は上部が浅い「U」字形であるが下部が幅の狭い箱形で全く異なっていることから、上半部は掘り直されていると考えられる。掘立柱建物跡群よりも古い区画溝と推定される。遺物は土器片が10数点出土したがこのうち常滑産の甕1点が図化できた(表108、第313図3)。

(2) 掘立柱建物跡・柱列跡

10A-SB12~15、10A-SA2、10B-SB12・17~19がある。10B-SB12は主軸方向が真北から14°東に振れるが、それ以外はほとんど同じ方向を示し、真北から18~21°東に振れる建物群である。

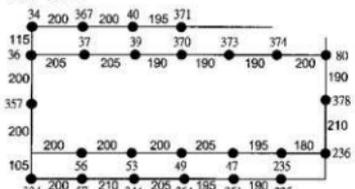
規模が大きいの南北二面廂の10A-SB12、10B-SB17、北・東・南三面廂の10A-SB13、四面廂の10A-SB15の4棟で、面積は70㎡以上ある。これらに隣接して10A-SB14、10B-SB18・19などの細長い建物が3棟ある。10B-SB12は最も小さい。

附付きの建物は「母屋」や「副屋」のような中心的な建物で、細長い建物は「廂」と考えられる。なお、建物同士の間隔は1回のみであるので建替えも1回であった可能性があるが、新旧関係が不明なため具体的な建物配置については数種類の組み合わせの可能性があり、断定はできない。

3. 10C区~10D区西部の遺構と遺物

IVa2期と考えられる建物は少なく、掘立柱建物跡2棟のみである。一方で溝跡はこの付近に集中していて11条が

10A-SB12



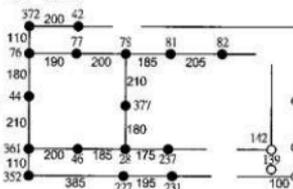
PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直徑
34	IVb	34	31	20
367	Va	21	26	12
40	IVb	30	25	22
371	Va	28×20	28	10
36	IVb	34	43	25
37	IVc	40×34	47	28
39	IVb	32	47	24
370	Va	36×32	35	16
373	Va	48×28	30	10
374	Va	26×7	28	8
80	IVb	21	16	10
378	Va	30×28	24	12
235	Va	20	20	10
235	Va	36×30	32	20
47	IVb	30×26	40	15
49	IVb	33	41	16
53	IVb	35	40	22
56	IVb	38	50	18
357	Va	30×26	10	10
225	Va	26	30	11
351	Va	25	36	10
354	Va	38×28	36	12
344	Va	30×26	38	11
57	IVb	40×34	42	17
334	Va	30×24	23	16
規模		東西1.8m	南北6.2m	
柱間		縦(4箇)		縦(4箇)
柱間		1.9~2.1m		身高1.9~2.1m
面積		73.2㎡		積高1.20*E
備考		P49・235・344に接続		

10A-SB14



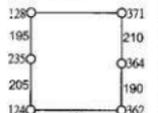
PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直徑
335	Va	28×22	24	15
71	IVb	24	25	?
348	Va	23	40	12
349	Va	21	33	14
220	Va	26×20	32	14
217	Va	26	26	12
199	Va	40	57	20
192	Va	24×14	37	8
191	Vc	30×22	35	14
322	Va	22	40	?
51	IVb	32×26	40	19
規模		東西1.1m	南北3.2m	
柱間		縦(6箇)		縦(2箇)
柱間		1.7~2.0m		1.5~1.7m
面積		35.5㎡		積高1.20*E
備考		同?		

10A-SB13



PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直徑
372	Va	21	31	12
42	IVc	30	30	20
10B-309	Va	27	22	?
10B-143	IVb	30	40	?
10B-295	Va	32	37	?
10B-139	IVb	29	39	?
231	Va	16	34	10
227	Va	30×30	25	10
352	Va	23	30	12
76	IVb	29	41	14
77	IVb	32×28	40	14
78	IVb	34×30	57	16
81	IVb	35	38	18
82	IVb	30×14	40	14
10B-142	IVb	30	53	?
237	Va	25	26	12
28	IVb	50×42	42	14
46	IVb	40×34	49	12
361	Va	28×24	31	12
44	IVb	34	46	16
377	Va	30×24	22	11
縦横		東西0.8m	南北6.1m	
柱間		身高縦(5箇)		身高縦(2箇)
柱間		縦(1.7~2.05m)		縦(1.8~2.1m)
面積		65.9㎡		積高1.21*E
備考		母屋?、P37は間仕切り		

10B-SB12



PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直徑
128	IVb	32	35	?
371	VI	31	19	?
364	VI	32×26	15	?
362	VI	30	8	?
124	IVb	47	36	?
235	Va	30	?	?
規模		東西3.7m	南北4.0m	
柱間		3.65m		1.9~2.1m
面積		14.6㎡		積高1.14*E

確認されている。井戸跡はVa層上面や9B-SD15(IVa期)の底面で確認された3基がIVb層に伴う可能性がある。土坑については時期限定が困難で、既にIVa3・4期の項で記述している。

(1)溝跡

溝跡は蛇行・湾曲するものや部分的に確認したものが多いが、中でも10B区から続く、10B-SD6とそれに接続する10C-SD18・42・21、10D区から続く10D-SD12などは比較規模が大きく、長く建びるので、区画溝の可能性がある。

10C-SD18・42(第307図)「く」字状に屈曲す

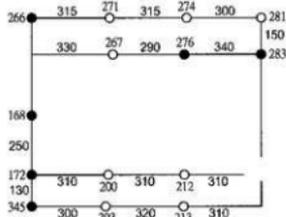
る北東部をSD42、南東部をSD18とした。幅0.7~1.5m、深さ25~50cmで、SD42の底面には土坑状の部分がある。遺物は土師器・須恵器を中心に20点出土し、土坑状の部分から出土したヘラ状の木製品・89が固化した(第313図14)。

10C-SD21(第307・308図) 10C区南部で10C-SD18に接続している。幅0.7~1.2m、深さ30~40cmである。

10D-SD12(第308・310・314図) 10C区から10E区まで続く溝で、10D区西部では幅80cm、深さ40cm程度であるが、10D区東部から10E区では幅1.5m前後に広がっている。なお、10E区ではSD12A(新期)とSD12B(古期)の重複が認められた。遺物は土師器土器など約30点の破片が出土し、K-51磁石が固化した(表110、第313図9)。

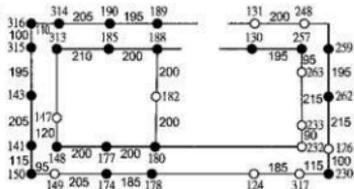
(2)掘立柱建物跡・柱列跡 10C区北西部に10C-SB12、北部に10C-SB9がある。主軸方向は10B-SB12に近い。

10B-SB17



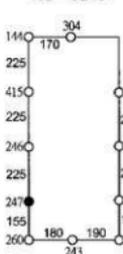
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
266	Va	31	45	10
271	Va	42×38	30	?
274	Va	30	44	?
281	Va	27	42	?
267	Va	33	24	?
276	Va	36	50	12
283	Va	29	31	8
188	Va	52×30	40	10
172	Va	42×34	47	14
200	Va	30×26	59	?
212	Va	38×34	67	?
345	Vb	32	?	14
205	Va	35	?	?
213	Va	33	32	?
規模		東西9.3m	南北7.7m	
柱間		身舎奥行2間		
柱間		2.9～3.4m		
柱間		身舎2.4～2.5m		
柱間		廊1.3～1.5m		
面積		71.6㎡		
備考		傾き 19° E		

10A-SB15



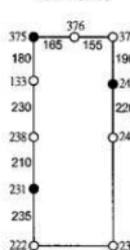
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
316	Va	30	36	10
314	Va	24×20	16	12
190	Va	32×24	?	10
189	Va	50×36	35	14
10B-131	IVb	32×28	30	?
10B-248	Va	30×22	73	?
10B-259	Va	24	40	13
10B-262	Va	34×30	33	20
10B-126	IVb	28	51	?
10B-230	Va	29	?	10
10B-117	Va	24×18	54	?
10B-124	IVb	47	36	?
178	Va	24×18	20	10
174	Va	21	25	12
149	Va	16	27	?
150	Va	26×22	27	12
141	Va	30×26	35	14
143	Va	33	35	14
315	Va	30	24	10
313	Va	26×9	52	16
185	Va	25	32	12
188	Va	25	34	12
10B-130	IVb	30	?	12
10B-257	Va	29	20	18
10B-263	Va	28×24	16	?
10B-233	Va	36×30	?	?
10B-232	Va	30	?	?
180	Va	29	30	16
177	Va	38×30	38	14
168	Va	32×28	32	15
167	Va	21	19	?
182	Va	26×18	8	?
規模		東西12.0m	南北6.2m	
柱間		身舎奥行3間		
柱間		東・西間		
柱間		身舎1.95～2.1m		
柱間		身舎0.9～1.7m		
柱間		廊1.0～1.1m		
柱間		廊1.0～1.1m		
面積		73.8㎡		
備考		傾き 18° E		
備考		P182は間仕切り、P177・313に礎版		

10B-SB18



PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
144	IVb	34×28	54	?
304	Va	25	20	?
299	Va	30	13	?
311	Va	24	23	?
312	Va	26	45	?
242	Va	25	30	?
243	Va	26	?	?
260	Va	35	36	?
247	Va	37	28	20
246	Va	34	34	?
415	VI	32	16	?
規模		東西3.7m	南北3.3m	
柱間		身舎奥行3間		
柱間		南廊		
柱間		1.7～1.9m		
柱間		身舎2.2～2.25m		
柱間		廊.55～1.65m		
面積		30.7㎡		
備考		傾き 18° E		

10B-SB19

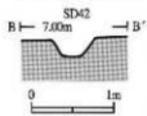
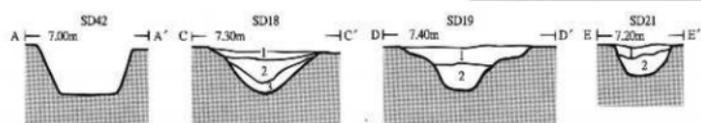
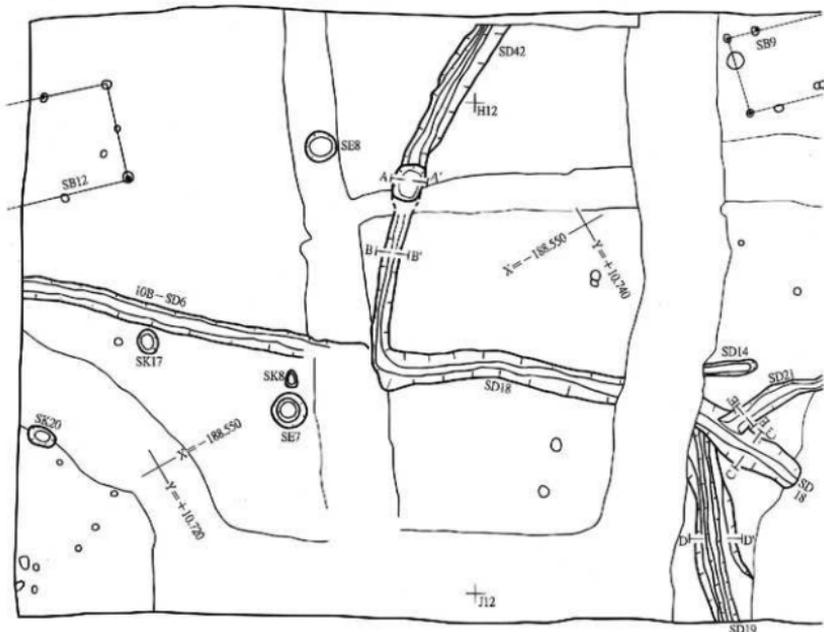


PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
375	VI	40×34	18	?
376	VI	32×26	29	?
378	VI	36	26	?
241	Va	36×32	35	12
240	Va	32	41	?
236	Va	27	?	?
222	Va	30×26	?	?
231	Va	31	?	14
238	Va	30	?	?
133	IVb	30×26	40	?
規模		東西3.2m	南北5.6m	
柱間		身舎奥行3間		
柱間		北廊		
柱間		1.55～1.65m		
柱間		身舎2.1～2.35m		
柱間		廊1.8m		
面積		27.5㎡		
備考		傾き 19° E		

10A-SA2

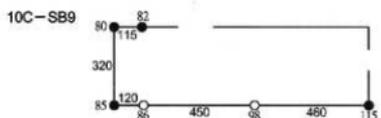
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
41	IVb	35	40	22
50	IVb	34×30	25	18
58	IVb	39	25	20
65	IVb	31	28	16
63	IVb	36×30	52	20
289	Va	26×20	22	?
規模		東西15.0m	南北10.5m+	
柱間		(3間+)		
柱間		3.7～5.8m		
柱間		3.0～3.9m		
柱間		傾き 20° E		
備考		屈曲		

(図は第304図)

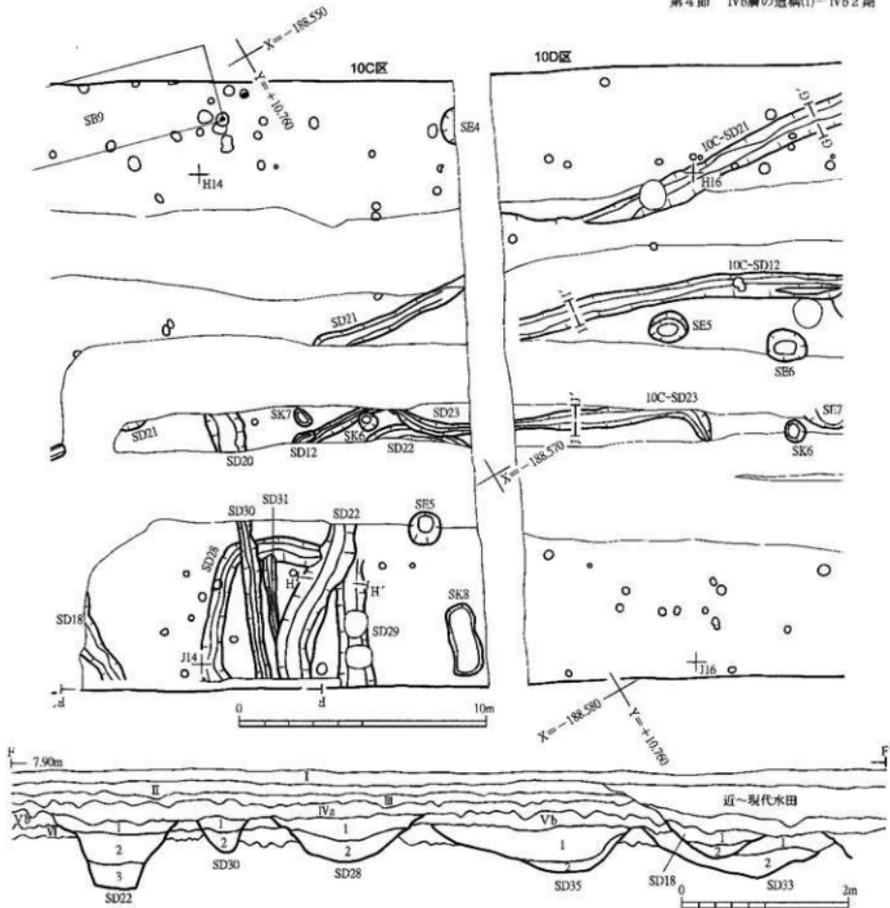


層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/3 灰赤い微褐色	シルト	小礫・マンガン塊多量
2	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	酸化物質少量
3	5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	下部に砂粒多量
1	10YR4/3 灰赤い微褐色	シルト	マンガン塊多量
2	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロック少量
1	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック少量、酸化鉄塊多量
2	10Y4/1 灰色	砂質シルト	褐色粘土質シルトを層状に含む

第307図 10C区西部 IVb層上面平面図 (IVb2期)、
10C-SD18・19・21・42 断面図



PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
82	Va	35	27	20
80	Va	27	35	10
85	Va	24	37	11
86	Va	32×26	27	?
98	Va	40×36	32	?
115	Va	50×42	29	14
規模	東西10.3m	南北3.2m		
柱間	身舎軒行間・西側	梁行間		
	身舎4.5~4.6m	3.2m		
	間1.15~1.2m			
面積	33.0㎡	傾き	15° E	

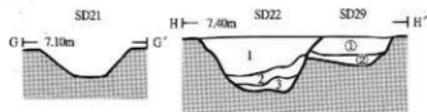


第308図 10C区東部~10D区西部
IVb層上面平面図 (IVb2期)。
10C-SD18・22・28・30・33・35 断面図

(3)井戸跡

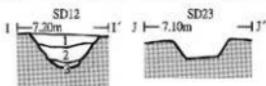
10C-SE4(第309図) 10C区北東部のVa層上面で確認しているが、大部分は調査区境のベルトの下になっている。大きさは径1.5m、深さは80cm以上である。遺物は出土しなかった。

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	
2	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック微量
3	5C3/5 2 オリーブ灰色	砂質シルト	緑灰色粘土質シルトブロック多量
10C-SD20			
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量
2	7.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	
10C-SD28			
1	10YR4/2 黄褐色	シルト	マンガン無多量
2	2.5C4/1 黄オリーブ灰色	粘土質シルト	砂粒を層状に混入
10C-SD35			
1	10Y4/3 暗緑灰色	砂質シルト	
2	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	灰白色砂質シルトを層状に少量
10C-SD18			
1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	
2	10Y4/1 灰色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを層状に少量
10C-SD33			
1	7.5Y4/1 暗緑灰色	砂質シルト	
2	10Y4/1 灰色	砂質シルト	



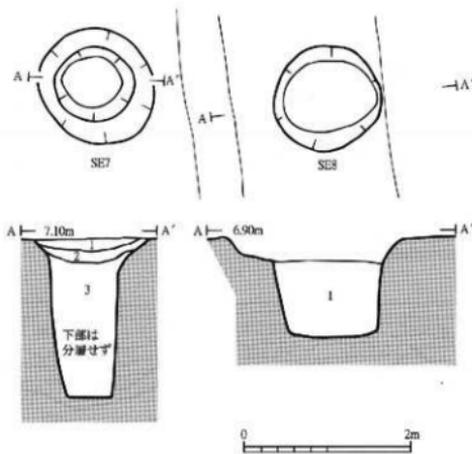
10C-SD22	層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量	
2	5GY4/1 黄オリーブ灰色	砂質シルト		
3	5GY4/1 黄オリーブ灰色	粘土質シルト	緑灰色砂質シルトブロック多量	

10C-SD29	層位	色調	土質	混入物・その他
①	10YR3/1 灰色	シルト	マンガン塊多量	
②	7.5Y4/1 灰色	シルト	オリーブ灰色シルトブロック多量	



(平面図は第308図)

10C-SD12	層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	砂粒少量	
2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	黄褐色粘土質シルトブロック少量	
3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	緑灰色砂粒ブロック多量	

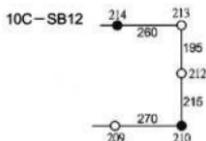


10C-SE7	層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄多量	
2	10YR4/1 黒褐色	粘土質シルト		
3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック少量	

10C-SE8	層位	色調	土質	混入物・その他
1	5Y3/1	オリーブ褐色	粘土質シルト	

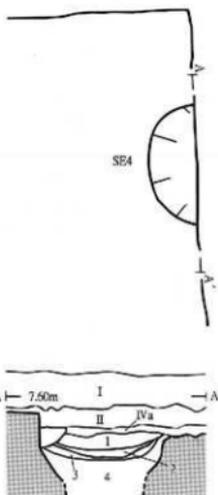
10C-SE4	層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量	
2	10Y3/1 黒色	シルト	炭化物多量	
3	2.5Y3/4 黄褐色	砂質シルト		
4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	緑灰色砂質シルトブロック多量	

第309図 10C-SD12・21～23・29 断面図
10C-SE4・7・8、10D-SK6 平面・断面図



PthNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
209	Va	35×32	18	?
210	Va	41	27	18
212	Va	22	15	?
213	Va	33	21	?
214	Va	31	30	14

屋根 東西2.7m+ 南北4.1m
桁行2間+ 梁行2間
柱間 2.6~2.7m 1.95~2.15m
面積 約 16㎡ F



10D-SK6	層位	色調	土質	混入物・その他
1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	砂粒多量	
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土		

10C-SE7 (第309図) 10C区西部のVa層上面で確認している。上部は径1.4mあるが下部は径0.8mと狭い。深さは2.0mである。遺物は出土しなかった。

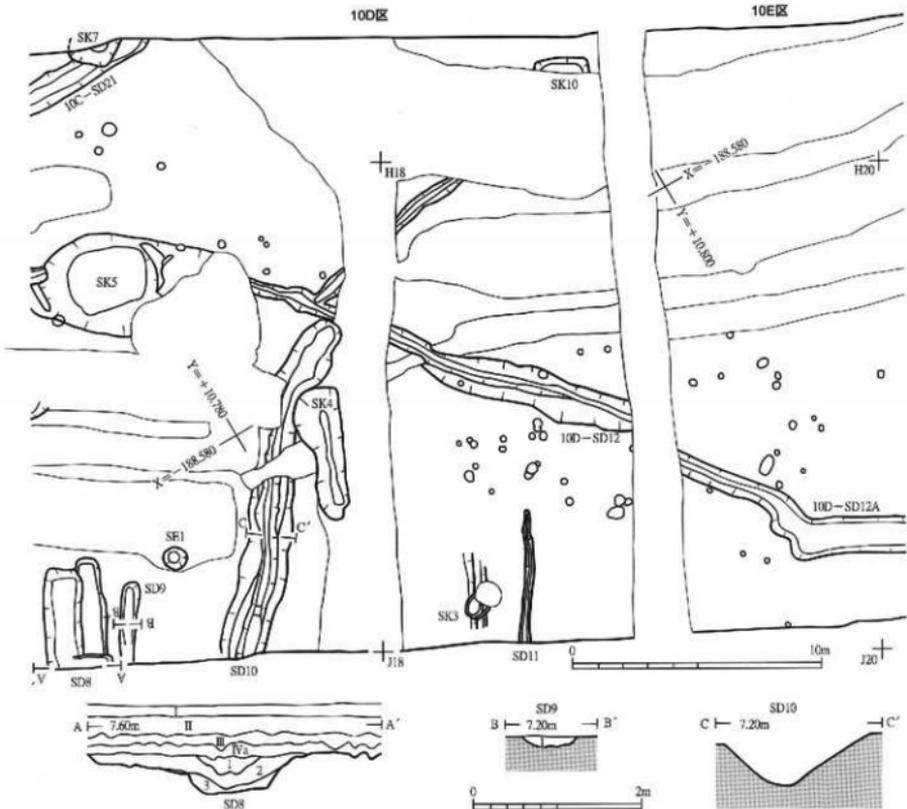
10C-SE8 (第309図) 9B-SD15 (IVa1期) の底面で確認された。深さ1.2mと浅い。土師器・中世陶器片4点とウマの骨が出土している。

4. 10D区東部～10E区西部の遺構と遺物

掘立柱建物跡はなく、溝跡と井戸跡、土坑のみである。なお、井戸跡10D-SE11はIVa3・4の項で既に述べた。

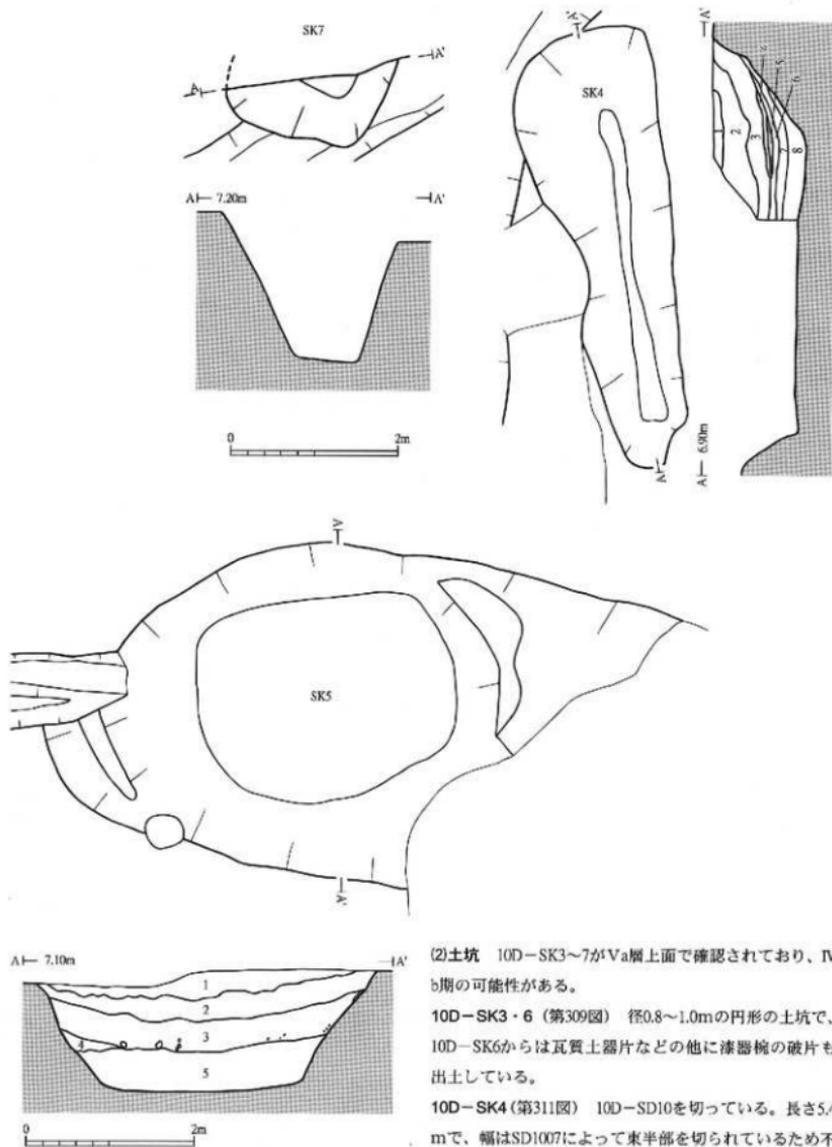
(1) 溝跡

10D-SD12と直交する10D-SD10は幅が2m近くあり、区画溝の可能性がある。10D-SD8・9・11は部分的であり、性格は不明である。



第310図
10D区東部～10E区西部
IVb層上面平面図(IVb2期)、
10D-SD8～10 断面図

層位	色調	土質	混入物・その他	
10D-SD8 1	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量、マンガン少量	
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・マンガン灰・炭化物少量	
3	10Y4/1 灰色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック多量、炭化物少量	
10D-SD9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン灰多量、炭化物少量



第311図 10D-SK4・5・7 平面・断面図

(2)土坑 10D-SK3~7がVa層上面で確認されており、IV期の可能性がある。

10D-SK3・6 (第309図) 径0.8~1.0mの円形の土坑で、10D-SK6からは瓦質土器片などの他に漆器椀の破片も出土している。

10D-SK4 (第311図) 10D-SD10を切っている。長さ5.4mで、幅はSD1007によって東半部を切られているため不明瞭であるが、残存部で1.7m以上あり、本来は2.0~2.5m

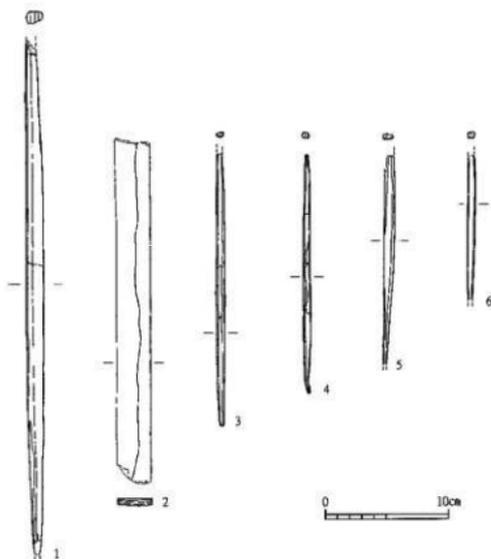
層位	色調	土質	遺人物・その他
10D-SK4	1 2.5Y3/2 黒褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・灰白黄色砂質シルトブロック少量
	2 2.5Y6/4 灰白色	粗砂	
	2.5Y6/4 灰白色	砂質シルト	
	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	ブロックの混入 人為的な埋土
	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	
	2.5Y6/2 黒褐色	粘土	
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	4 5Y2/1 黒色	泥炭質粘土	
	5 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	6 5Y2/1 黒色	泥炭質粘土	
	7 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	8 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリーブ黒色粗砂ブロック少量

層位	色調	土質	遺人物・その他
10D-SK5	1 10YR2/2 黒褐色	粘土	
	2 10YR1/1 黒色	泥炭質粘土	互層
	5Y4/1 灰色	粘土	
	10Y5/1 灰色	シルト質粘土	
	3 7.5Y4/2 暗灰青色	泥炭質粘土	黒褐色粘土ブロック少量、下層に灰白色火山灰ブロック微量
	4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	5 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	灰オリーブ色粗砂ブロック・オリーブ黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック少量

ほどであったと推定される。深さは1.1mで、堆積土下層は自然堆積層であるが上部は人為的に埋め戻されていた。遺物は土師質土器片等の他、箸などの木製品も出土している(表110、第312図)。

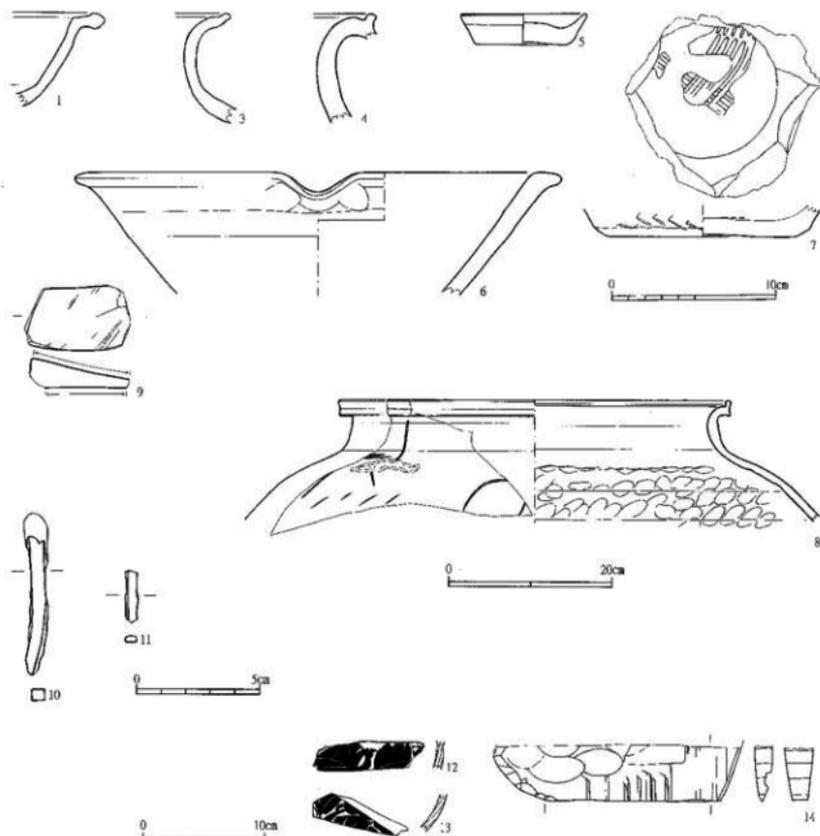
10D-SK5(第311図) 10D区中央で10D-SD12と接続しているが、重複関係は認められなかったので両者は同時に機能していたと考えられる。平面形は楕円形で、東部を10D-SK1によって切られているので長軸長は明確ではないが推定で約8m、短軸長は4.0mである。深さは1.5mで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器・瓦質土器等の破片や鉄滓などが11点出土している(表110)。

10D-SK7(第311図) 10D区北壁際にあるため全容は不明だが、一辺2m程度の方形と考えられる。10C-SD21を切っている。深さは約1.8mと深い。瓦質土器片が2点出土したが、図化はできなかった。



No	登録No	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-157	10D-SK4・4~6層	木製品・箸	端部欠損	42.2+	1.4	1.0		145-15	
2	L-163	10D-SK4・4~6層	木製品・榧材	両端部欠損	28.4+	2.7	0.6		145-14	
3	L-158	10D-SK4・4~6層	木製品・箸	端部欠損	22.4+	0.8	0.4		145-13	
4	L-159	10D-SK4・4~6層	木製品・箸	完形	19.6	0.6	0.5		145-12	
5	L-160	10D-SK4・4~6層	木製品・箸	中央部	17.1+	0.8	0.4		145-11	
6	L-161	10D-SK4・4~6層	木製品・箸	中央部	11.8+	0.7	0.6		145-10	

第312図 10D-SK4出土遺物

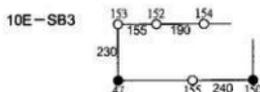


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(素材) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ic-141	30A-SB12 (P57)	陶器(占部戸)新緑深紅	口縁~体部片				脱輪、中直期	145-1
2	K-48	10A-F412	石製品・組織?	小片				厚片のみ	146-7
3	Ic-205	10B-SD6	陶器(常滑)甕	口縁~体部片				口・唇部ヨコナデ、体部ナデ、2~3型式	145-2
4	Ic-536	10C-SD22	陶器(常滑)甕	11線~体部片				口・唇部ヨコナデ、体部ナデ・外面にぶらり赤褐色の自然釉、6a型式	145-5
5	Ic-24	10C-SD22	土師質土甕・小皿	宋形	7.8	5.7	2.0	口は口調整、同輪系切、白針跡無	145-4
6	Ib-13	10D-SK6	瓦質土甕・片口鉢	上部1/6	(29.8)			口は口調整、内面互れと刺障が激しい	145-7
7	Ib-12	10D-SK7	瓦質土甕・片口鉢	底部		[11.0]		外面ナデ・メナデ、内面滑り・数ヶ所高が深い	146-1
8	Ic-245	10C-SD22	陶器(常滑)甕	上部1/10	(47.7)			11線部ヨコナデ、体部ナデ・メナデ、外面底オリーブ色の自然釉、6a型式	145-3
9	K-51	10F-10D-SD12	石製品・風石	端部のみ	長さ 6.0+	幅 3.8	厚さ 1.7	5/6+、デイサイト	145-18
10	Na-109	10A-P46	鉄製品・釘	中央~先端部	6.7+	0.5	0.5	4g+	145-16
11	Na-129	10B-P235	鉄製品・釘	中央部	2.7+	0.4	4.0	4g+	145-17
12	L-165①	10D-SK6・下層	木製品・漆器輪	体部小片				内面赤漆、外面黒色・赤漆文様、カッタ	145-8、 カラ-β
13	L-165②	10D-SK6・下層	木製品・漆器輪	体部小片				内面赤漆、外面黒色・赤漆文様、カッタ	145-9、 カラ-β
14	Ic-89	10C-SD22土質部分	木製品・ヘジ	不明	20.0+	4.2+	2.3		145-6

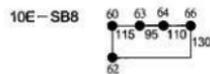
第313図 Ivb2期の遺構出土遺物

5. 10E区東部の遺構と遺物

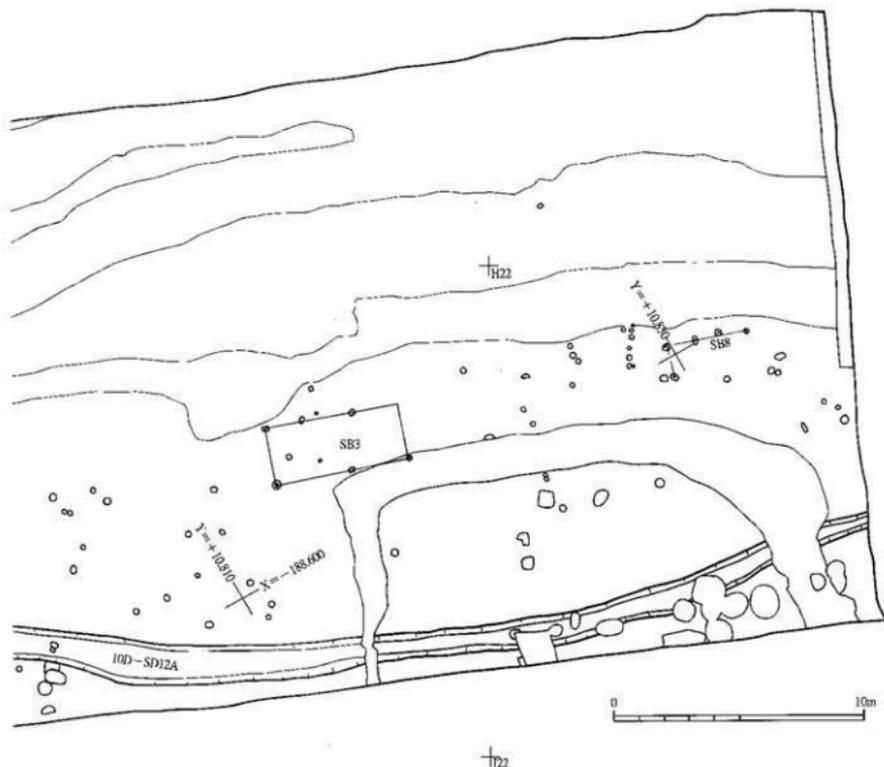
10D-SD12Aが南壁際に位置し、東壁まで延びている。中央部にはごく小規模な掘立柱建物跡2棟(10E-SB3・8)が分布するのみで、他に遺構はない。



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
47	IVb	32	33	20
153	5a	20×16	15	?
152	5a	21	19	?
154	5a	18	20	?
150	5a	18	12	11
155	5a	20	16	?
規模	東西5.4m	南北2.3m		
	桁行1間	梁行1間		
柱間	1.55～2.4m	2.3m		
面積	12.4㎡	傾き	19° E	



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
62	5a	25	17	8
60	5a	28×24	22	14
63	5a	26×20	30	6
64	5a	21	18	10
66	5a	18	17	8
規模	東西3.2m	南北1.3m		
	桁行3間	梁行1間		
柱間	0.95～1.15m	1.3m		
面積	4.2㎡	傾き	18° E	



第314図 10E区東部 IVb層上面平面図(IVb2期)

第5節 IVb層の遺構(2)—IVb1期

1. 遺構の概要

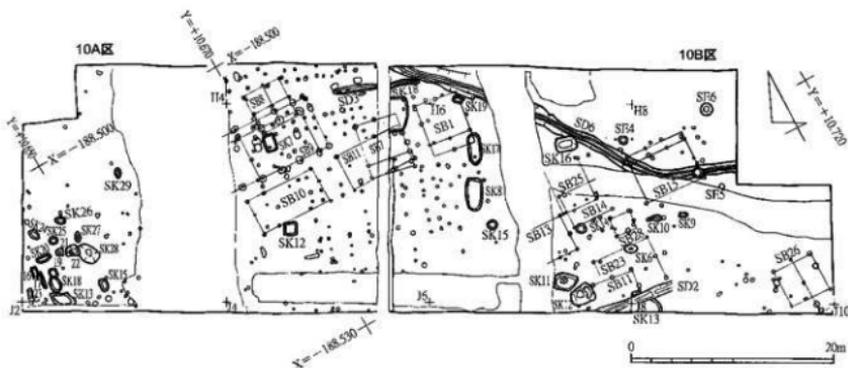
IVb1期の遺構分布はIVb2期のそれと似ている。掘立柱建物跡は10A～10B区、溝跡は10C～10D区に集中している。なお、溝跡・井戸跡・土坑などは時期の限定ができない。掘立柱建物跡はIVb2期より真北方向からの振れが小さく、1～11°東傾している。

2. 10A区東部～10C区西部の遺構と遺物

IVb1期と考えられるのは掘立柱建物跡15棟で、溝跡1条（10B～SD2）もこの時期の可能性もある。その他の溝・井戸跡・土坑については時期限定が困難で、既に述べた。

(1)溝跡

10B～SD2（第318図）10B区南部のIVb層上面で部分的に確認した。方向が掘立柱建物跡群と一致するのでこの時期の区画溝の可能性もある。幅90cm、深さ30cmである。土師器や土師質土器などの破片が出土しており2点が岡化できた（表108、第320図1・2）。



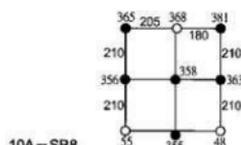
第315図

10A～10B区 IVb層上面平面図 (IVb1期)



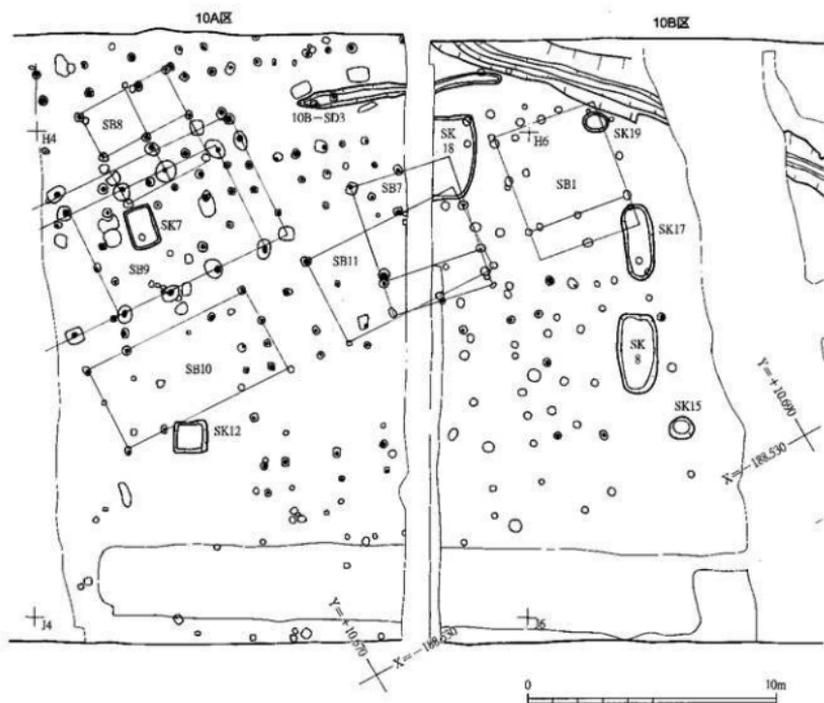
10A-SB7

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
228	Va	46×34	37	16
233	Va	28×24	33	16
10B-138	Va	40×34	46	14
10B-136	IVb	30	40	8
10B-251	Va	26×27	18	9
198	Va	39	34	17
10B-254	Va	19	34	?
10B-256	Va	26×22	30	11
197	Va	34×25	38	?
規模	東西4.2m	南北5.6m		
柱間	2間	身舎2間・雨廊		
柱間	2.1m	身舎1.95～2.20m		
面積	23.5㎡	幅1.45m		
		傾斜 11° E		

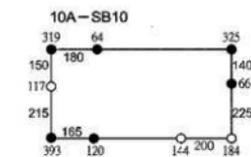


10A-SB8

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
365	Va	33	35	10
368	Va	22×16	13	9
381	Va	34×30	50	12
356	Va	36×24	31	14
358	Va	36×28	16	17
363	Va	27	38	14
55	IVb	30	21	9
355	Va	24	39	14
48	IVb	30	18	9
規模	東西3.9m	南北4.2m		
柱間	2間	2間		
柱間	1.8～2.05m	2.1m		
面積	16.2㎡	傾斜 2° E		
備考	掘柱、倉庫			



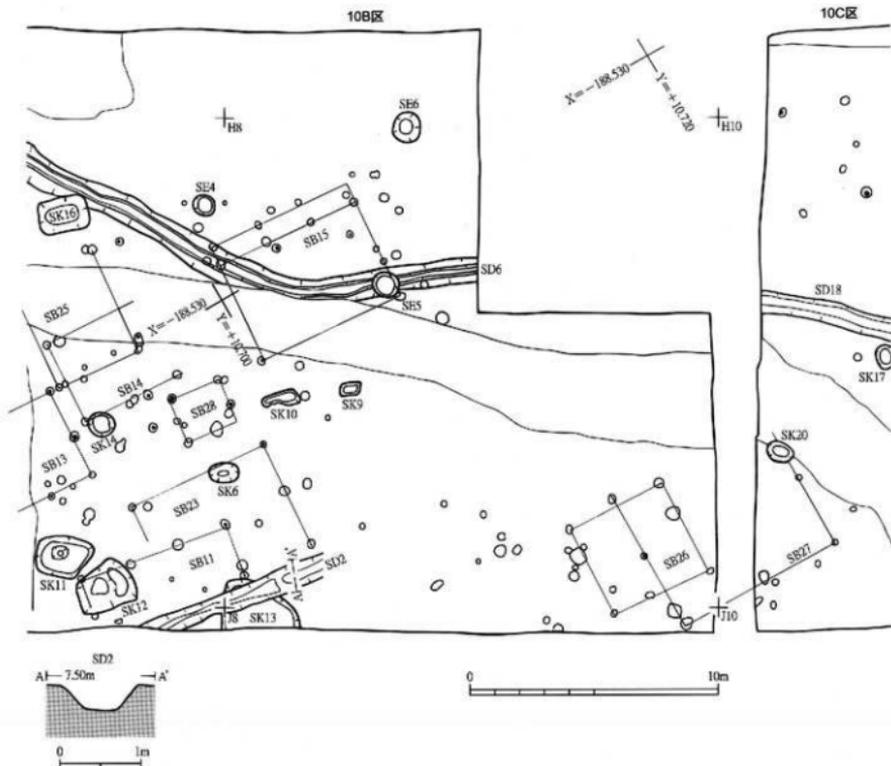
第317図 10A区東部~10B区西部 IVb層上面平面図 (IVb1期)



PNo	確認層	大きさ	深さ	柱高様
319	V _E	26	40	15
64	IVb	34	17	20
325	V _E	27	13	15
66	IVb	29	56	24
184	V _E	20	16	?
144	V _E	22	13	?
120	V _E	28×22	15	3
393	VI	30	19	17
117	V _E	18	9	?
規模	東西7.2m	南北3.7m		
	桁行(4間)	梁行(2間)		
柱間	1.65~2.0m	1.5m・2.15m		
面積	26.3㎡	積高 3° E		
備考	疑?			

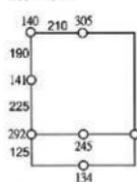


PNo	確認層	大きさ	深さ	柱高様
204	V _A	31	24	18
213	V _A	28×24	34	14
10B-419	VI	39	14	?
10B-421	VI	26	10	?
10B-255	V _A	27	20	?
187	V _A	12	12	?
規模	東西6.7m	南北3.7m		
	桁行(3間)	梁行(2間)		
柱間	2.1~2.35m	1.8~1.9m		
面積	24.5㎡	傾き 13° E		
備考	疑?			



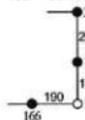
第318図 10B区東部～10C区西部 IVb層上面平面図 (IVb1期)、10B-SD2断面図

10B-SB1



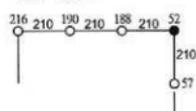
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
305	Va	25	31	?
140	IVb	24	26	?
141	IVb	32	32	?
292	Va	26	40	?
245	Va	30×26	30	?
297	Va	33	31	?
134	IVb	34×30	46	?
規模		東西4.2m	南北5.4m	
柱間		2間 身舎2間・雨棚		
柱間		2.1m	身舎1.90~2.25m	
面積		雨1.25m		
面積		22.7㎡ 傾き 9° E		

10B-SB13

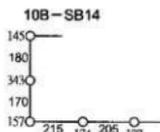


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
342	Vb	25	?	10
158	Va	37	28	15
162	Va	23	32	?
166	Va	24	26	12
規模		東西?	南北3.8m	
柱間		1.9m (傘行) 2間		
面積		1.7m × 2.05m		
面積		傾き 3° E		

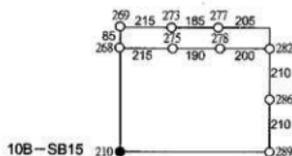
10B-SB11



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
216	Va	30	10	?
190	Va	35	40	?
188	Va	38×34	60	?
52	IVb	40×30	37	13
57	IVb			
規模		東西6.3m、3間	南北2.1m、2間+	
柱間		2.1m		
面積		傾き 10° E		

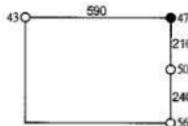


PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
145	Va	30×26	19	?
343	Vb	24×20	?	?
157	Va	31	13	?
174	Va	36×26	10	?
177	Va	29	20	?
規模	東西4.3m+	南北3.5m		
	桁行2間+	梁行2間		
柱間	2.05~2.15m	1.7~1.8m		
面積		傾き	3° E	



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
269	Va	23	30	?
273	Va	30×24	40	?
277	Va	29	41	?
268	Va	35	25	?
275	Va	33	40	?
278	Va	30	26	?
282	Va	30	26	?
286	Va	24	21	?
289	Va	34×30	30	?
210	Va	40×32	54	13
規模	東西6.1m	南北5.1m		
	桁行3間	身舎梁行2間・北端		
柱間	1.85~2.15m	身舎2.1m 廊0.85m		
面積	31.0㎡	傾き	5° E	

10B-SB23



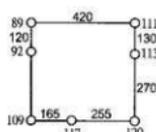
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
43	Vb	34×?	36	?
47	Vb	22	8	23
50	Vb	30×?	34	?
56	Vb	32×28	36	?
規模	東西5.9m	南北4.5m		
		梁行2間		
柱間		2.1~2.4m		
面積	26.6㎡	傾き	5° S	

10B-SB25



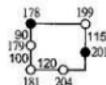
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
147	Va	25	28	?
169	Va	38×20	12	?
265	Va	27	26	?
規模	東西3.0m	南北4.5m+		
	梁行1間?	桁行?		
面積		傾き	5° E	

10B-SB26



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
89	Va	27	42	?
111	Va	39	30	?
113	Va	60×54	20	?
120	Va	22×?	18	?
117	Va	32×28	26	?
109	Va	26	25	?
92	Va	60	13	?
規模	東西4.2m	南北4.0m		
	桁行2間	梁行2間		
柱間	1.65m・2.55m	1.3m・2.7m		
面積	16.8㎡	傾き	3° E	

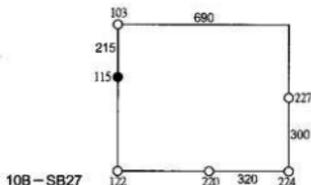
10B-SB28



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
178	Va	31	31	3
179	Va	25	11	?
181	Va	40×30	46	?
204	Va	60×44	20	?
201	Va	29	45	12
199	Va	30×26	28	?
規模	東西2.2m、2間	南北1.9m、2間		
柱間	1.0~1.2m	0.9~1.0m		
面積	4.2㎡	傾き	7° E	

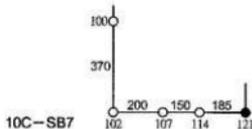
3. 10C区西部の遺構と遺物

IVb1期と考えられるのは掘立柱建物跡1棟(10C-SB7)のみである。10C-SB7は主軸方向が真北から2°西傾するのでIVb1期の中でも古い時期と推定される。その他の溝跡・井戸跡・土坑については時期限定が困難であることは既に述べたとおりである。



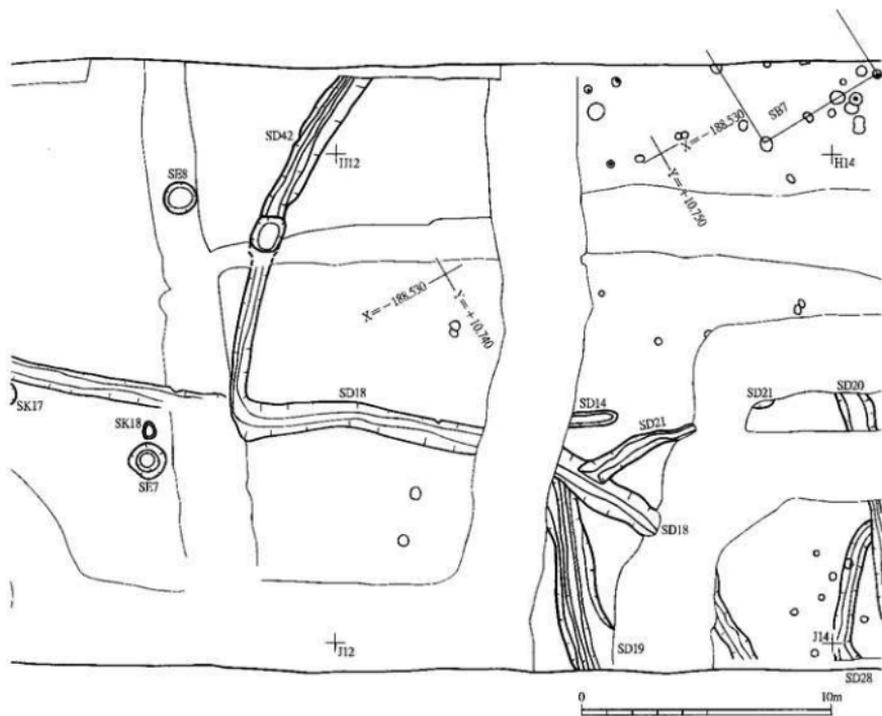
10B-SB27

PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
103	Va	38×32	26	?
115	Va	23	41	10
122	Va	50×44	28	?
10C-220	Va	30×40	18	?
10C-224	Va	22	21	?
10C-227	Va	26	25	?
規模	東西6.0m	南北6.0m		
	桁行2間?	梁行2間?		
柱間		2.15m		
面積	41.4㎡	傾き	1° E	

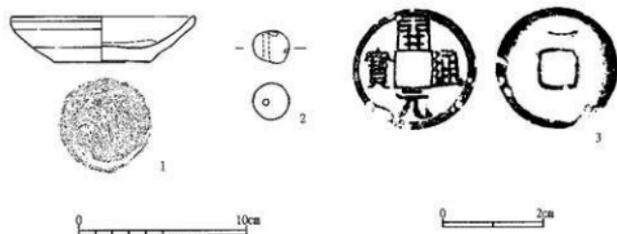


10C-SB7

PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
100	Va	40×?	24	?
102	Va	62×46	25	?
107	Va	36×30	38	?
114	Va	55	21	?
121	Va	33	44	25
規模	東西5.4m、3間	南北3.7m±、1間+		
柱間	1.5~2.0m	3.7m		
面積		傾き	2° W	



第319図 10C区 IVb層上面平面図 (IVb1期)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)		調査・特徴	写真 図版	
						口徑	底徑			
1	IV-17	10C-SD2	土製	土器	4/5	11径 (10.4)	底径 (5.8)	2.8	口ケ口縁部、回転糸切、白針刺量	146-3
2	P-7	10B-SD2	土製	土器	完形	径2.2	厚2.0	10㎎		146-2
3	IV-62	10B-192	銅製	銅貨	ほぼ完形	径2.5	厚2.3+		開元通寶(西・初年(621年)、背文字「一」)	146-4

第320図 IVb1期の遺構出土遺物

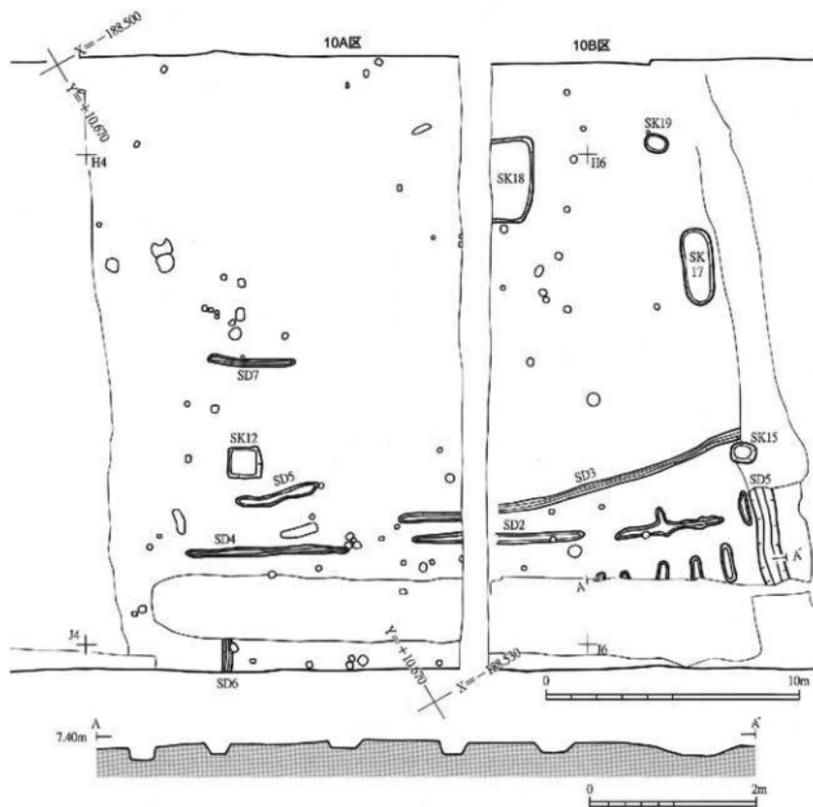
区の6a層上面では多数の小溝が検出されている。なお、Va層上面で確認された土坑のうち重複関係や遺物などからIVa～IVb層に伴うと判断できた遺構については前節までで記述しているため平面図からも除外している。

2. 10A区～10B区西部の遺構と遺物

(1) 溝跡

10A区東部から10B区西部で小規模な溝跡群が検出されている。10A-SD4～7、10B-SD2・3とその南側に並列している南北方向の溝跡群がそれで、幅30cm、深さ10cm 前後で、堆積土は基本層IVb層である。分布が集中することからIVb層段階の畑に係わる耕作痕と推定される。

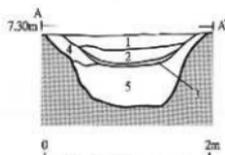
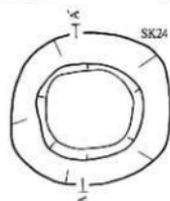
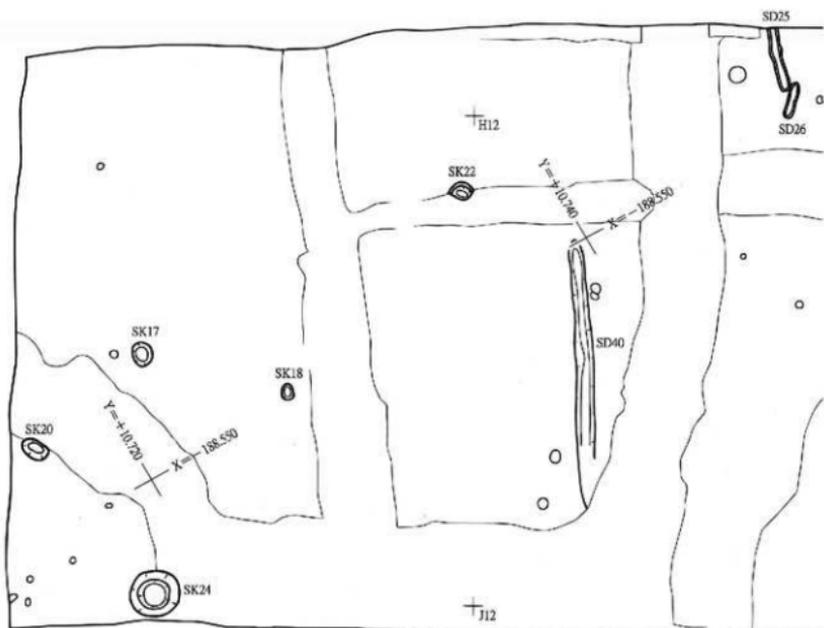
遺物は、10A区の溝からはほとんど出土しなかったが、10B-SD2・3・5からは土師器・須恵器・土師質土器・中世陶器片などが約50点出土している（表107）。



第322図 10A区東部～10B区西部 Va層上面平面図、小溝群断面図

(2)土坑

IVa～IVb層の時期に限定できなかったものが、10A区西部に11基（10A-SK15・17・19・21・24・26・29）、10A区東部～10B区西部に5基（10A-SK12、10B-SK15・17～19）ある。なお、詳細図は第2節で記載している。



層位	色面	土質	混入物・その他
1	10YR5/3 ぶい黄褐色	シルト	産物破片多量
2	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	緑灰色粘土質シルトブロック少量
3	10GY6/1 緑灰色	粘土質シルト	
4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	下部に灰色粘土質シルト多量

第323図 10C区西部 Va層上面平面図、10C-SK24 平面・断面図

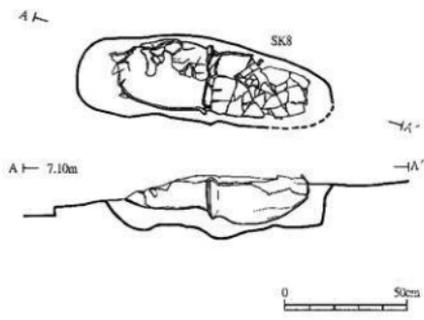
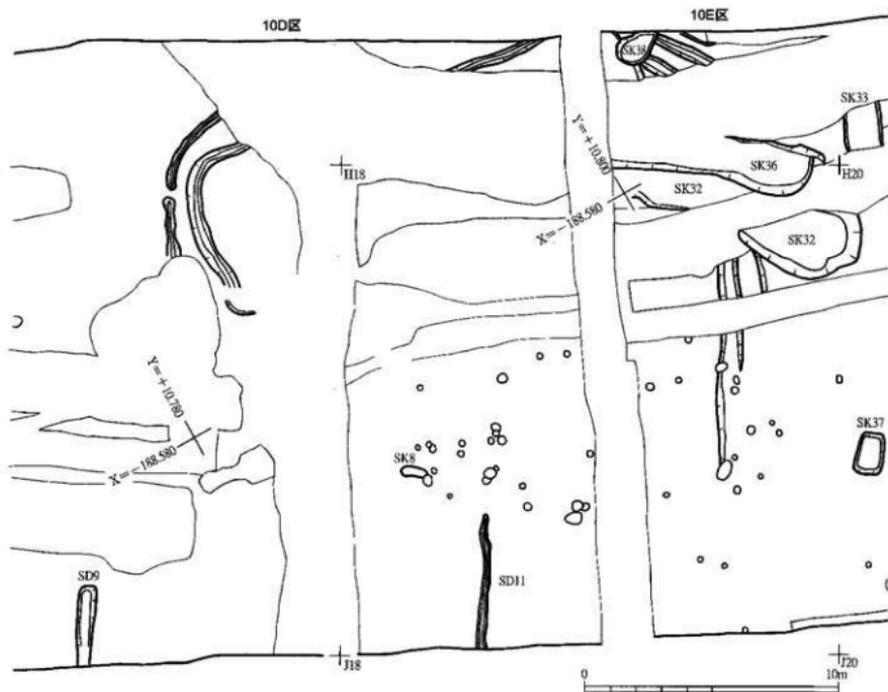
3. 10B区東部～10D区西部の遺構と遺物

(1)溝跡

10B区に10B-SD4・9、10C区に10C-SD24～27・40が散在している。10C-SD40は幅80cmで比較的規模の大きな溝であるが、その他は幅約40cmと狭い。

(2)土坑

IVa～IVb層の時期に限定できなかったものが、10B区東部の10B-SK13、10C区の10C-SK6・7・17・18・22・24である。10C-SK24は径約2mのやや角ばった



第324図 10D区東部～10E区西部 Va層上面平面図
10D-SK8 平面・断面図

円形で、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。なお、10C-SK24以外の詳細図は第2節ですでに記載している。

4. 10D区東部～10E区の遺構と遺物

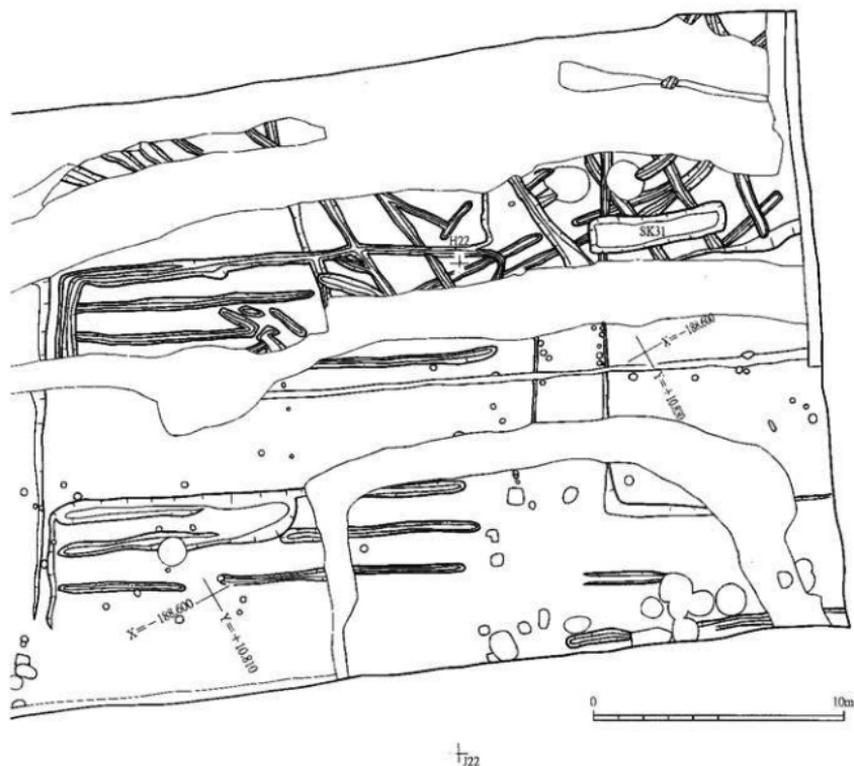
(1) 溝跡

10D区は10A～10C区同様に小規模な溝跡が散在する程度であるが、10E区の6a層上面では幅30～80cm、深さ10～15cmの小溝群が並行して認められた。堆積土は直上の5b層である。方向は真北方向を中心とする一群と真北から約25°東傾する一群があって重複しているが、新旧関係を明らかにすることはできなかった。5b層に係わる耕作痕

と推定され、この付近の5b層は畑であったと考えられる。

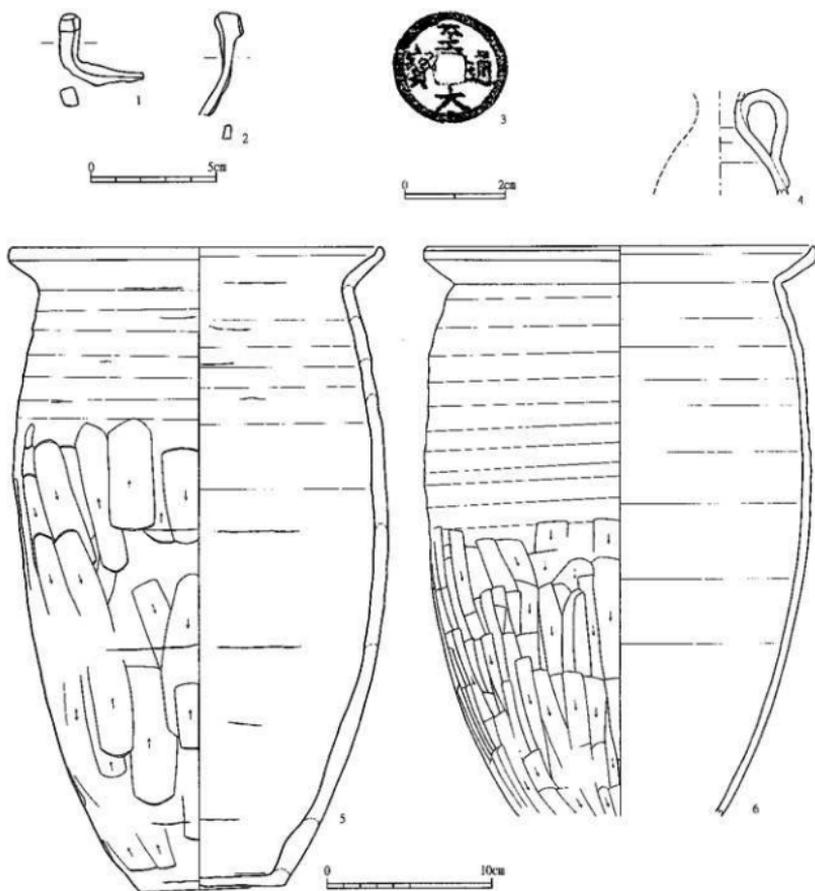
(2) 土坑

10D-SK8 (第324図) 10D区南東部にある合口甕棺である。ロクロ調整の土師器甕(第326図) 2個体を合わせたもので、土圧のために潰れた状態で確認された。内部からの出土遺物はない。掘り方は幅35cm、長さ1.1mの長筒円形である。



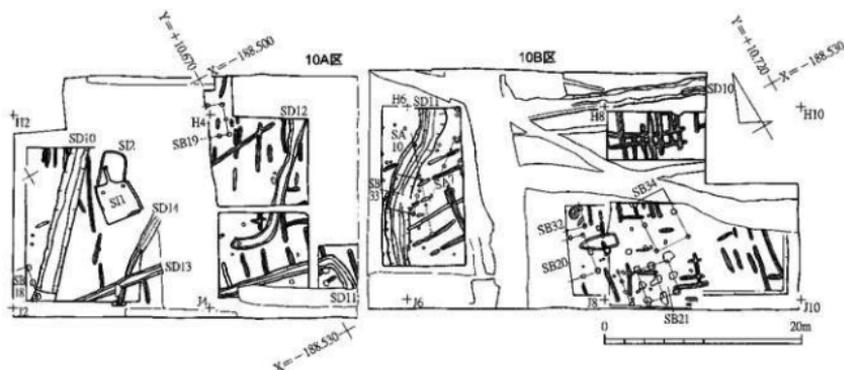
第325図 10E区東部 6a層上面平面図

10E区西部には10E-SK32・33・36～38が集中しているが、10E-SK32・36は長さ10m前後もある大規模なものである。10E区東部の10E-SK31は幅1.2m、長さ5.5mの長方形で、真北から約25°東傾する小溝群と同じ方向を向く。これらは遺物もほとんどなく、性格も不明である。



No.	発露No.	地層・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	高さ		
1	Na-91	10A-P412	鉄製品・釘	9/10	4.3+	0.8	0.8	削面, 5g+	146-6
2	Na-130	10B-P207	鉄製品・釘	頸~中央部	4.3+	0.7	0.5	削面幅1.0cm, 5g+	146-8
3	Nb-49	10A-P254	銅製品・銭貨	完形	径2.3		厚3.6μ	平大司買(元・初辨1310年)	146-5
4	lc-240	10C-SB6	灰陶器・小瓶	腰部小片				10世紀前半	146-9
5	D-9	10D-SK8(台口裏面)	土師器・甕	口縁欠形	22.5	8.7	39.9	口縁口縁縁, 体部外面下半ヘラケズリ	146-10
6	D-10	10D-SK8(台口裏面)	土師器・甕	3/5	23.8			口縁口縁縁, 体部外面下半ヘラケズリ	146-11

第326図 Va層の遺構出土遺物



第327図 10A～10B区 Vb層・Vc層・VI層上面平面図

第7節 Vb層・Vc層・VI層の遺構

1. 遺構の概要

Vb層上面で確認できた遺構は10B-SD11と10D-SD14がある。なお、Vb層上面の平面精査では小溝群は確認できなかったが、断面観察ではVa層が直下のVb層をかなり攪拌している様子が確認できたことからVa層も畑の耕作土と推定される(註1)。

Vc～VI層上面では溝跡、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などの他に多数の小溝群を確認しており、小溝群の存在から直上のVb層は畑の耕作土と推定される。遺構プランはVb層によってかなり乱されているものが多い。

なお、10A～10B区における遺構の確認状況とVb層畑耕作土の関係(10A-SIIで後述する)、および遺構の重複関係からすると、Vc～VI層上面で確認された溝跡・竪穴住居跡・掘立柱建物跡などの遺構群は、本来はVb層の畑以前に存在した新しい遺構群と、Vc～VI層上面から掘り込まれた古い遺構群に分けられる可能性がある。この場合、真北に近い(10°前後東傾)遺構群が新しく、真北から大きく東傾する遺構群が古いと考えられる。

また、10D区南東部では、部分的ではあるがVb層上面における畑の畝の高まりと、その直下のVc層上面における耕作痕である小溝の両方を確認している。

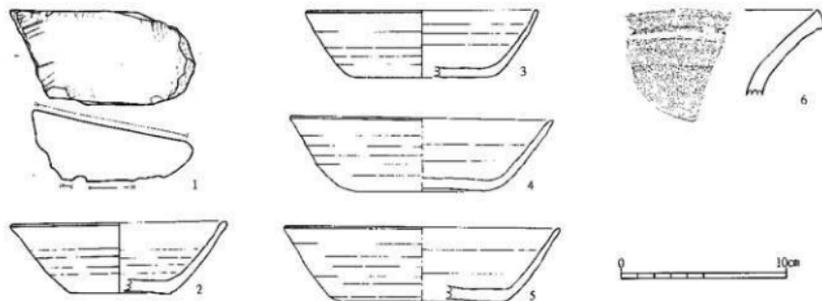
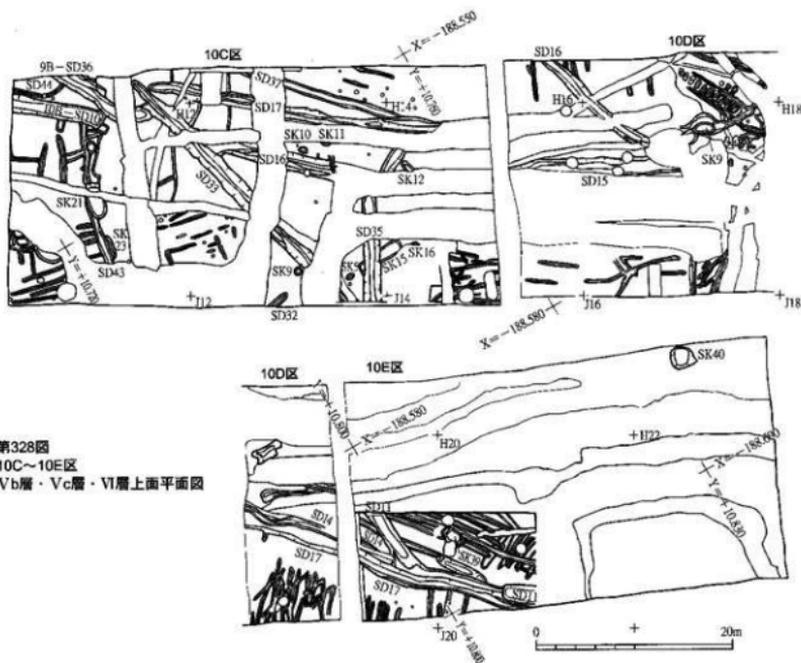
2. 10A～10B区西部の遺構と遺物

(1) 溝跡

10A-SD10 (第330図) 10A区西部に位置し、北東～南西方向に直線的に延びる。10A-SB18に切られている。VI層上面で確認したが、断面観察でもVI層上面から掘り込まれていることが確認できた。幅約2m、深さ50cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片が3点出土している。

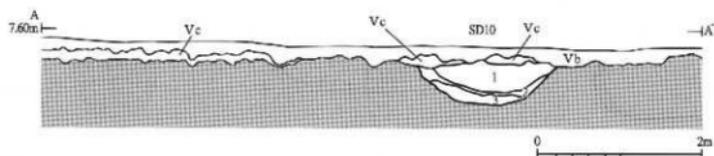
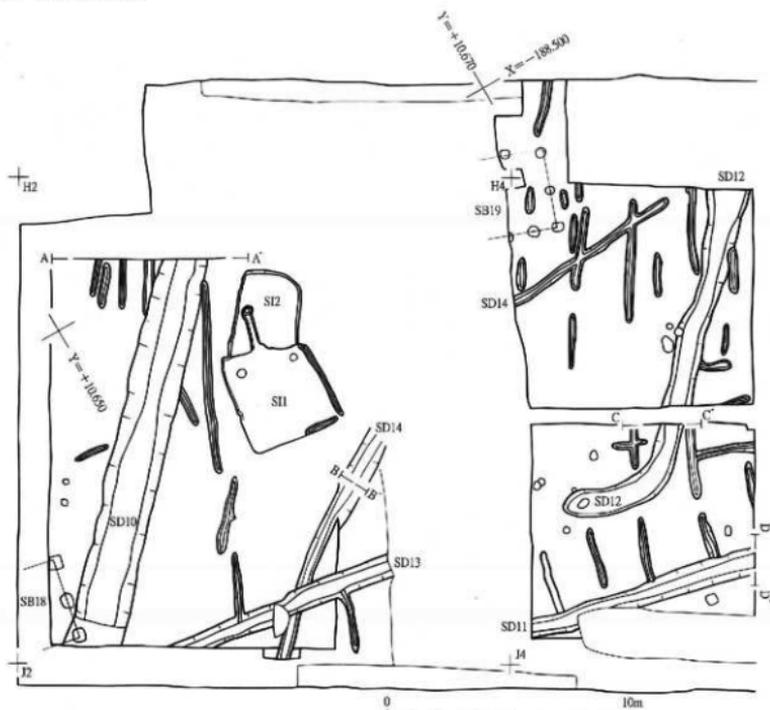
10A-SD11 (第330図) 10A区南部に位置し、東西方向に延びるが10A区南東部で南に屈曲する。VI層上面で確認したが、断面観察によってVc層上面(Vb層畑によって攪拌されているとすればVb層上面)から掘り込まれていることが確認できた。幅1.2m、深さ50cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片が1点出土している。

10A-SD12 (第330図) 10A区東部に位置し、北東～南西方向に延びるが南部で西に屈曲する。VI層上面で確認したが、断面観察でもVI層上面から掘り込まれていることが確認できた。幅0.8～1.2m、深さ15cmで、堆積土は単層である。遺物は出土しなかった。



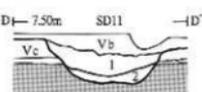
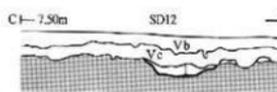
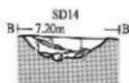
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
						口径	底径	器高		
1	K-50	10A-SD14	石製品・磁石	端のみ	長9.7+	幅5.5	厚3.8	345g+, デイサイト	146-12	
2	E-37	10E-SD11	須器器・杯	2/3	13.2	6.2	4.4	ロタロ調製, 口縁未切, 底径に墨書(和読不能)	146-13	
3	E-33	10B-SD11	須器器・杯	1/2	14.2	8.2	4.1	ロタロ調製, 底部切離法不明一回転ヘラケズリ, 口縁未切, 底径に墨書(和読不能)	146-14	
4	B-35	10B-SD11	須器器・杯	1/4	(16.0)	(8.0)	4.5	ロタロ調製, 底部切離法不明一回転ヘラケズリ, +部ナシ, 底径に墨書(和読不能)	146-15	
5	E-34	10B-SD11	須器器・杯	1/4	(16.8)	(9.8)	4.5	コタロ調製, 底径不明, ナデ底, 口縁切	146-16	
6	E-38	10B-P335	須器器・螺	1	輪部小片			ロタロ調製	146-17	

第329図 Vb層・Vc層・VI層の遺構出土遺物

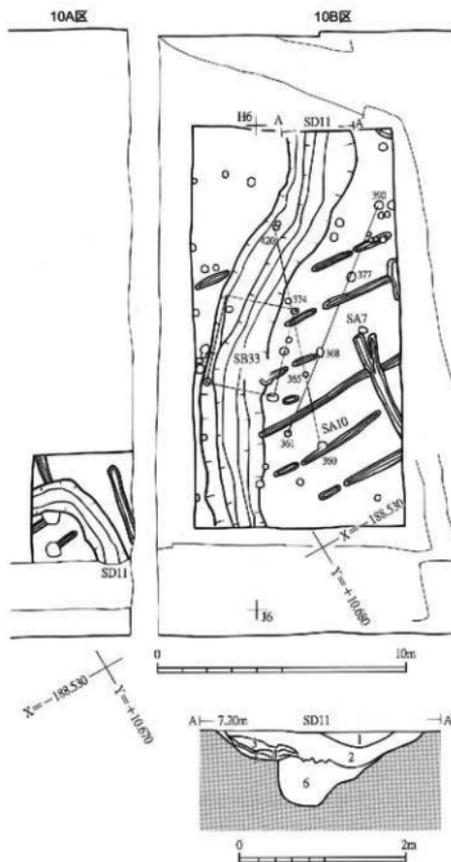


SD10

層位	色澤	土質	混入物・その他
1	10YR4/3 に近い黄褐色	粗砂	混入物・その他
2	7.5CY/1 暗緑灰色	砂質シルト	に深い黄褐色砂鉄シルトブロック少量
3	7.5CY/1 暗緑灰色	砂質シルト	黒色輪上ブロック少量



第330図 10A区 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、10A-SD10~12・14 断面図



10A-SD13 (第330図) 10A区南部を東西方向に延びる溝跡で、VI層上面で確認している。10A-SD14を切っている。幅80cm、深さ12cmである。遺物は出土しなかった。

10A-SD14 (第330図) 10A区中央のVI層上面で確認した溝跡で、北部では東西方向だが南部では南西方向に湾曲して延びている。10A-SD13に切られている。幅は南部では1.1mあるが、北部では確認面が本来の掘り込み面よりも低かったせいか40cm程度である。深さは30cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片が1点と砥石が1点(第329図1)出土している。

10B-SD11 (第331図) Vb層上面で確認した溝跡である。10B区西部に位置し、北東～南西方向に蛇行しながら延びる。幅2.6m、深さ90cmで、堆積土は自然堆積層であるが、断面観察からは一度掘り直されていると考えられる。遺物は土師器・須恵器片が約140点出土し、須恵器坏4点が図化できた(第329図2～5)。

小溝群 Vc層が遺存する箇所ではVc層上面、Vc層が遺存しない箇所では直下のVI層上面で確認している。10A区では南北方向、10B区西部では東西方向のものが多く、両者の新旧関係は不明である。幅30～40cm、深さ約5cm、堆積土はVb層を主とする単層で、Vc層やVI層の小ブロックを含んでいる。溝の間隔は1.5～2mのものが多い。Vb層細の耕作に伴う耕作痕と考えられる。

(2) 竪穴住居跡・竪穴遺構

10A-SI1 (第332図) 10A区中央部に位置する竪穴住居跡である。Vb層上面で色調の異なる箇所が認められたため、遺構が存在するらしいことは分かったが、プランは不明瞭であった。このためVb層を掘り下げながら精査を行ったが最終的にプランを確定できたのはVc層上面

層位	色調	土質	混入物・その他
1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	暗灰黄色粘土質シルト/ブロック少量
2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック微量
3	2.5Y5/2 暗黄褐色	シルト質粘土	灰白色火山灰小ブロック微量
4		火山灰	灰白色火山灰、暗灰黄色シルト質粘土を層状に少量
5	7.5Y4/1 灰色	粘土	灰白色火山灰小ブロック微量
6	5Y4/1 灰色	粘土	灰白色火山灰ブロック・灰オリーブ色シルトブロック微量

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/3 暗褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック微量、炭化穀粒少量
2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	管状炭化穀少量
3	10YR7/4 褐色	粘土	管状炭化穀少量
4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗砂	暗褐色粘土ブロック微量
5	10YR6/2 灰黄褐色	粘土	

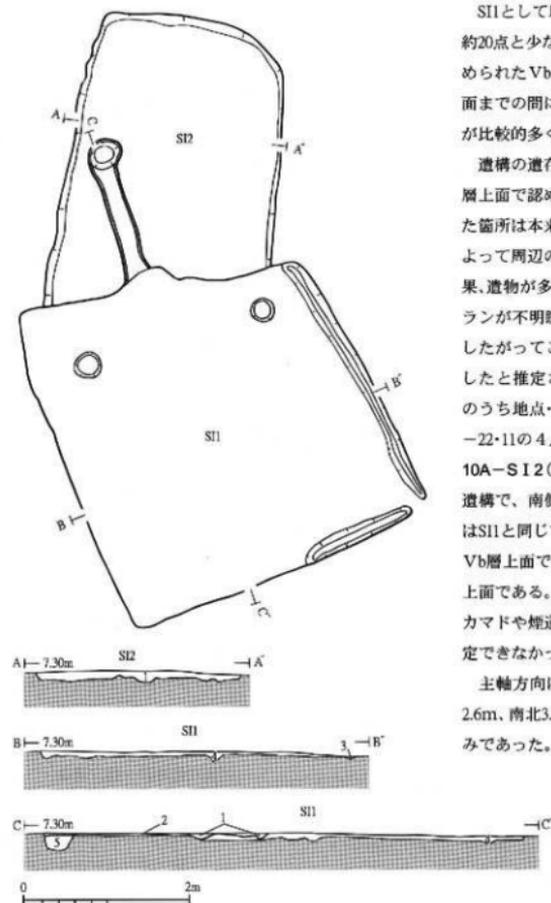
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR5/2 灰黄褐色	粗砂	
2	5Y4/1 黄オリーブ灰色	砂質シルト	

第331図 10A区東部～10B区西部 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、10B-SD11 断面図

である。この段階で遺存していたのは掘り方のみであった。

主軸方向は真北から9°東に傾き、大きさは東西3.8m、南北4.2mである。北側に長さ1.7mの煙道が認められ、先端部には煙出し用のピットが認められた。支柱穴は北辺側に2基認められ、掘り方の径30cm、深さ12~15cmであるが、柱痕跡は確認できなかった。



S12	層位	色調	土質	遺入物・その他	
1	EYR4/3	にぶい黄褐色	細砂	にぶい黄褐色粘土ブロック散見	
S11	1	EYR6/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物少量
2	EYR3/3	暗褐色	シルト質粘土	炭化物散見、煙道堆積土	
3	EYR3/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	炭素堆積土	
4	EYR6/3	にぶい黄褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量、割り方埋め土	

第332図 10A-S11-2 平面・断面図

S11として取り上げた遺物は土師器片・須恵器片が約20点と少ないが、遺構プランが不明瞭ながらも認められたVb層上面からプランが確定できたVc層上面までの間にはほぼ完形の土師器環を含む大きな破片が比較的多く出土している。

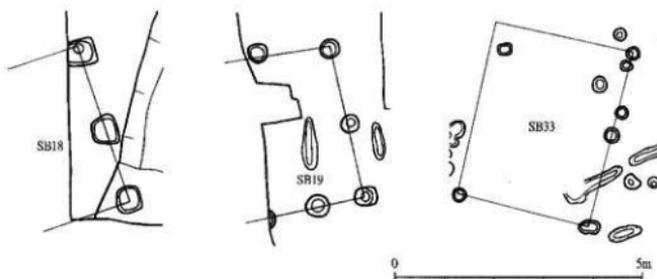
遺構の遺存状況と遺物の出土状況からすると、Vb層上面で認められた色調が異なる土器が多く出土した箇所は本来遺構の堆積上であり、Vb層畑の耕作によって周辺の基本層と共にその場所で攪拌された結果、遺物が多く認められるのにもかかわらず遺構プランが不明瞭になったのではないかと考えられる。したがってこの住居跡はVb層畑の経営以前に存在したと推定され、この付近のV層中の遺物(第342図のうち地点・層位を10A-H2・V層としたC-13・11、E-22・11の4点)もS11の遺物である可能性がある。

10A-S12(第332図) 10A区中央部に位置する竪穴遺構で、南側を10A-S11に切られている。確認状況はS11と同じで、不明瞭な遺構プランを確認したのはVb層上面であるが、はっきり確定できたのはVc層上面である。S11同様掘り方のみが残存しているが、カマドや煙道が確認できなかったため住居跡とは断定できなかった。

主軸方向は真北から38°東に傾き、大きさは東西2.6m、南北3.7m以上である。遺物は土師器片4点のみであった。

(3) 掘立柱建物跡・柱列跡

掘立柱建物跡は、10A区南西部に10A-SB18、北部に10A-SB19、10B区西部に10B-SB33がある。いずれもVc~VI層上面で確認したもので、1間×2間か2間×3間程度の小規模な建物と推定される。10A-SB18は主軸方向が10A-S11や10A-SD11・13に近く、10B-SB33は主軸方向が10A-S12や10A-SD10・14に



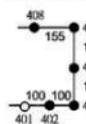
第333図 10A-SB18・19、10B-SB33 平面図

10A-SB18



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
384	VI	54×7	31	20
385	VI	40×52	31	19
386	VI	54×48	35	13
規模	東西?	南北3.3m、2階		
柱間	?	1.6~1.7m		
面積	横き 11° E			

10A-SB19



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
401	VI	36×7	6	?
402	VI	45	22	14
403	VI	46×36	34	18
404	VI	37	21	14
407	VI	38	25	14
408	VI	39	24	14
規模	東西2.0m+、2階+	南北3.2m、2階		
柱間	1.0~1.55m	1.55~1.65m		
面積	横き 120° E			

10B-SB33



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
430	VI	28	31	?
365	VI	42×24	17	?
369	VI	32	13	9
373	VI	28	17	10
規模	東西2.8m~、1階+	南北3.6m、2階		
柱間	?	1.7~1.9m		
面積	横き 43° E			

近い。前述したように10A-SB18が新しく、10B-SB33が古い可能性がある。

柱列跡は10B区西部で部分的なものも2条確認しているが、これらも掘立柱建物同様に方向から2時期に分けられる可能性があり、真北に近いSA10が新しく、大きく東傾するSA7が古いと考えられる。

3. 10B区東部~10C区西部の遺構と遺物

(1) 溝跡

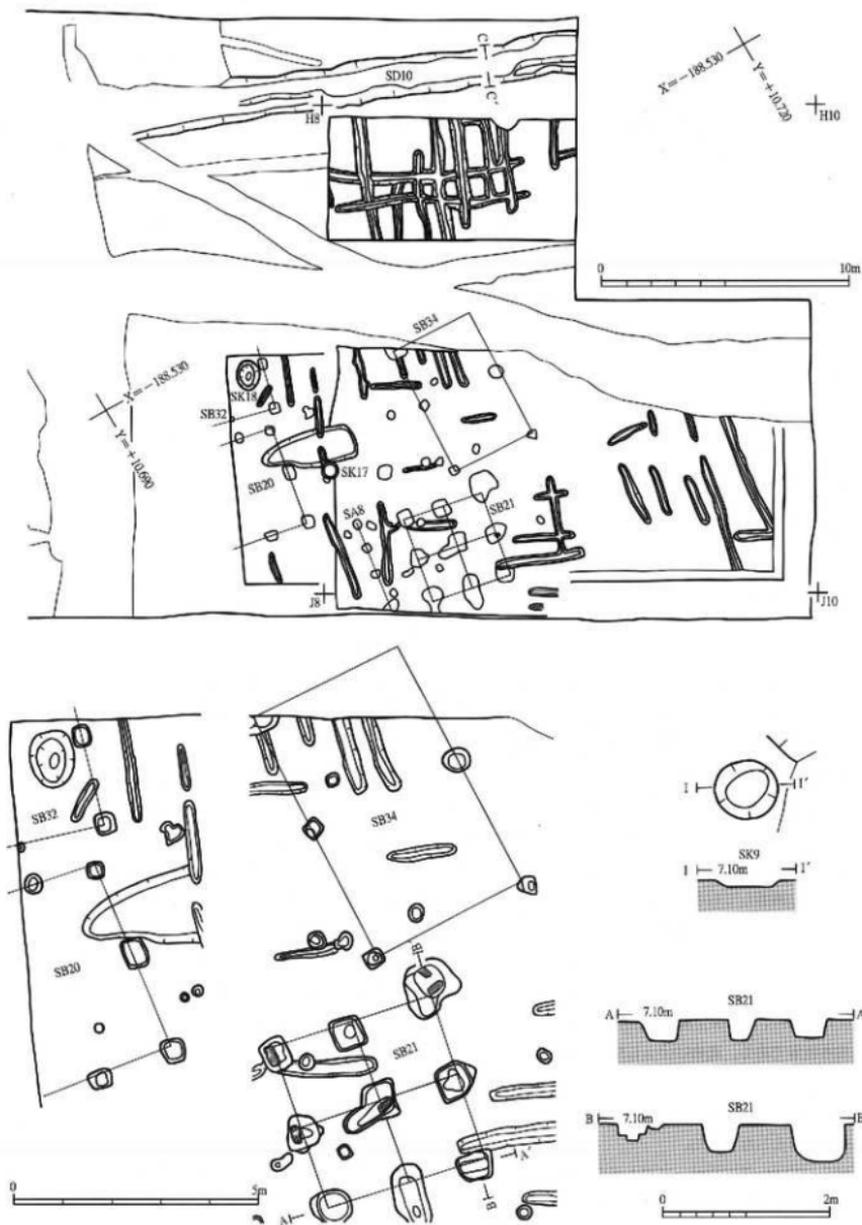
9B-SD34・36 (第335図) 10C区北壁から南東方向に延びる溝跡であるが、10C-SD33の手前で途切れている。9B-SD34とSD36の延長部分と考えられる。遺物は9B-SD36から土師器片・須恵器片などが出土している。

10B-SD10 (第335図) Vb~Vc層上面で確認した溝跡である。10B~10C区北部を東西方向に走り、10C区では南東方向に湾曲している。10C-SD42と重複しているが、新旧関係は不明である。幅1.5~1.6m、深さ40cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片などが出土したのみである。

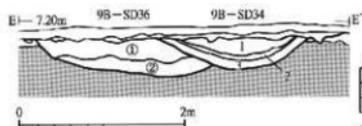
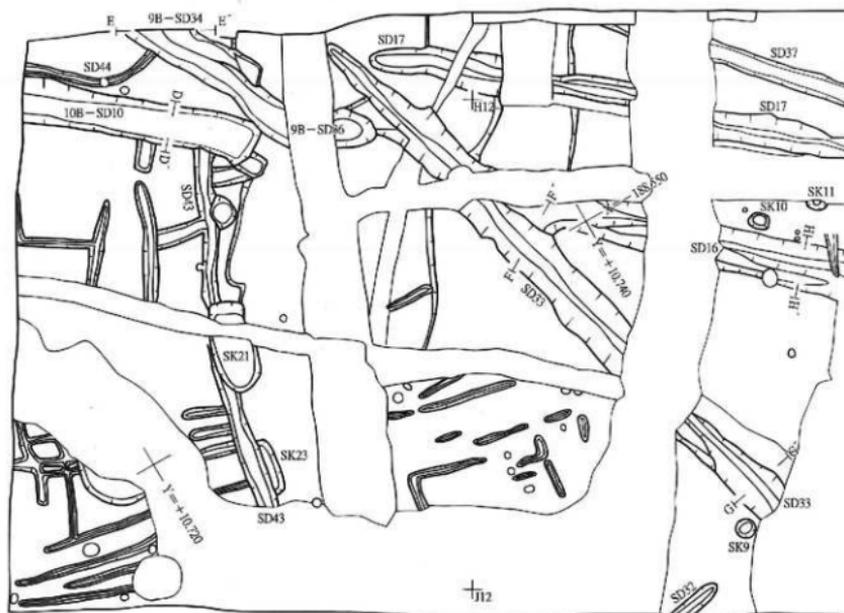
10C-SD16 (第335・336図) Vc~VI層上面で確認した溝跡である。10C区中央部を北西~南東方向に走る。西端部で10C-SD33と接しているが、断面観察でも重複関係が認められなかったので両者は同時に存在していた可能性が高い。なお、これより東側はSD1004に切られているため確認できなかった。幅約2.1m、深さ65cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

10C-SD17 (第335・337図) Vc~VI層上面で確認した溝跡である。10C区北部の10C-SD33のすぐ東側から北西~南東方向に走る。東端部で10C-SD37と重複しているが、新旧関係は不明である。幅1.1~1.7m、深さ45cmである。遺物は出土しなかった。

10C-SD32 (第335図) VI層上面の南壁際で部分的に確認できたのみで、小溝群の一部である可能性がある。

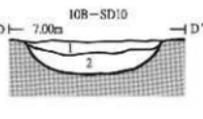
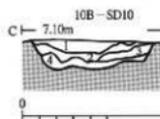


第334図 10B区東部 Vb層・Vc層・Vd層上面平面図、10B-SB20・21・32・34、10C-SK9 平面・断面図



層位	色調	土質	遺人物・その他
①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
②	10YR4/2 灰黄褐色	粒砂	

9B-SD34			
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR7/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色火山灰を細粒に少量
3	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト小ブロック少量

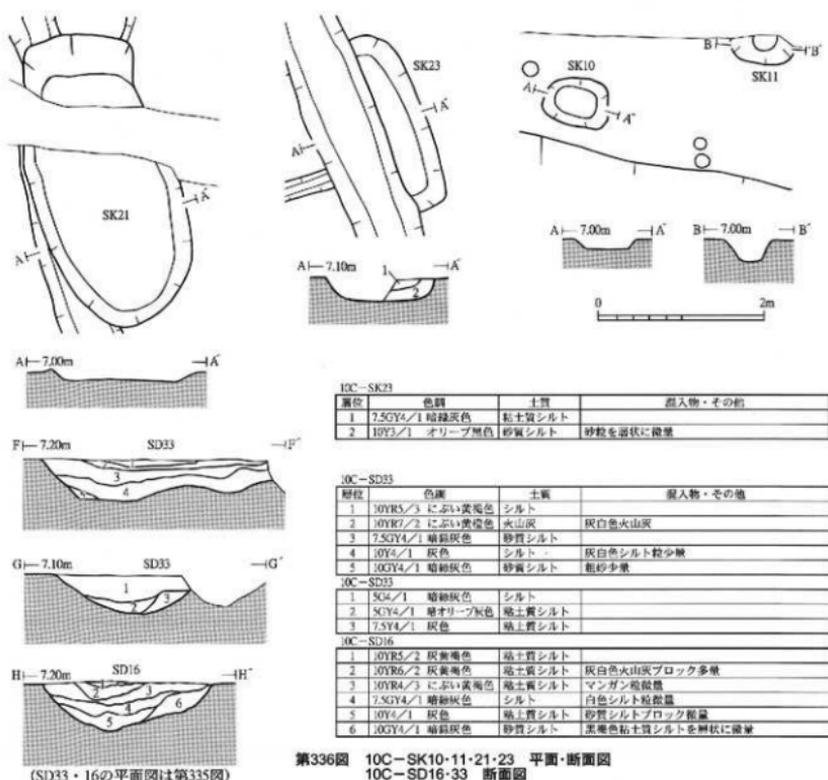


層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	
2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・灰白色火山灰ブロック少量
3	2.5Y5/2 暗黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・灰白色火山灰ブロック少量
4	2.5Y4/2 暗黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック多量

第335図 10C区西部 Vb層・Vc層・VI層上面平面図、9B-SD34・36、10B-SD10 断面図

10C-SD33 (第335・336図) VI層上面で確認した溝跡で、10C区北部から南壁まで北東～南東方向に直線的に延び、前述したように同時期と考えられる10C-SD16と接している。幅約2m、深さ50cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片・須恵器など約30点が出土している。

10C-SD37 (第335・337図) VI層上面で確認した溝跡で、北壁から南東方向に延び、10C-SD17と重複している。



第336図 10C-SK10-11-21-23 平面・断面図
10C-SD16-33 断面図

幅約80cm、深さ10cmで、堆積土はVb層に類似している。遺物は出土しなかった。

10C-SD43 (第335図) VI層上面で確認した溝跡で、南北方向に延びる。10C-SK23を切り、10C-SK21と10B-SD10に切られている。なお、小溝群とも重複しているが新旧関係は不明である。幅約80cm、深さ15~20cmで、堆積土はVb層に類似している。遺物は出土しなかった。

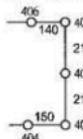
10C-SD44 (第335図) 10C区北西部で部分的に確認したのみで、小溝群の一部である可能性がある。

小溝群 Vc層が遺存する箇所ではVc上面、Vc層が遺存しない箇所では直下のVI層上面で確認している。東西・南北方向のものが認められるが、両者の新旧関係は不明である。幅30~40cm、深さ約5cm、堆積土はVb層を主とする単層で、Vc層やVI層の小ブロックを含んでいる。溝の間隔は1.0~1.5mのものが多い。Vb層畑の耕作に伴う耕作痕と考えられる。

(2)掘立柱建物跡

10B区で10B-SB20・21・32・34の4棟が認められた。確認面はVI層上面であるが、前述したように本来はVb層上面からの掘りこみと推定される。方向は真北から3°~14°東傾している。10B-SB21は2間×2間の総柱の建物であるが、掘り方の規模が大きく、礎石も遺存していた。その他の建物は1間×2間または2間×3間程度の小規模な

10B-SB20



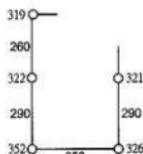
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
406	VI	42×38	40	?
407	VI	36	36	?
405	VI	60×48	35	?
401	VI	49	30	?
404	VI	48×38	32	?
規模	東西1.5m+、(3間+)		南北4.2m、2間	
柱間	1.4~1.5m			2.1m
面積				横さ 10° E

10B-SB32



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
411	VI	16×9	5	?
410	VI	42	37	?
412	VI	44×36	26	?
規模	東西1.8m+、1間+		南北1.9m+、1間+	
柱間	1.8m		1.9m	
面積				横さ 114° E

10B-SB34

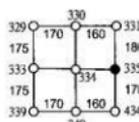


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
319	VI	25	47	?
322	VI	37	37	?
352	VI	34	32	?
326	VI	38×26	45	?
321	VI	58×48	33	?
規模	東西3.5m、1間		南北5.5m、2間	
柱間	3.5m			2.6~2.9m
面積	19.3㎡+			横さ 3° E

10B-SA7

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
361	VI	23	8	?
368	VI	38×22	21	?
377	VI	34	26	?
590	VI	39	32	?
規模	東西10.1m+、(3間+)			
柱間	3.3~3.5m			横さ 51° E

10B-SB21



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
329	VI	68×54	46	?
330	VI	68×64	56	?
331	VI	110×86	75	?
333	VI	70×64	61	?
334	VI	140×42	42	?
335	VI	82×70	58	22
339	VI	90×70	40	?
340	VI	150×66	51	?
434	VI	70×9	35	?
規模	東西3.3m、2間		南北3.5m、2間	
柱間	1.6~1.7m		1.7~1.8m	
面積	11.6㎡			横さ 131° E
備考	掘土・倉庫			

10B-SA8

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
395	VI	34×30	30	?
328	VI	32	31	?
332	VI	36×30	27	?
338	VI	42×9	34	?
規模	南北3.7m+、(3間+)			
柱間	1.1~1.5m		横さ 9° E	

(平面図は第334図)

10B-SA10

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
360	VI	39×7	14	?
365	VI	25	9	?
374	VI	26	17	?
420	VI	20	12	?
規模	南北0.3m+、(3間+)			
柱間	3.1m		横さ 18° E	

建物と推定される。

(3)土坑

10B-SK17・18 (第334図) 10B区南東部にある径70~120cmの円形・楕円形の土坑で、深さはSK17が60cm、SK18が30cm、堆積土はVI層に類似した単層である。遺物はSK17から須恵器片などが出土している。

10C-SK9・10・11 (第336図) 10B区中央部にある径60~90cmの円形・楕円形の土坑で、VI層上面で確認した。深さ10~25cm、堆積土はVb層に類似した単層である。

10C-SK21 (第336図) VI層上面で確認した土坑で、10C-SD43を切っている。大きさ3.8×1.8mの楕円形で、深さは10cm、堆積土はVc層に類似した単層である。

10C-SK23 (第336図) 10C-SK21の南側のVI層上面で確認した土坑で、10C-SD43に切られている。長軸2.3mの長方形が楕円形と考えられる。深さは30cmで、堆積土は自然堆積層である。

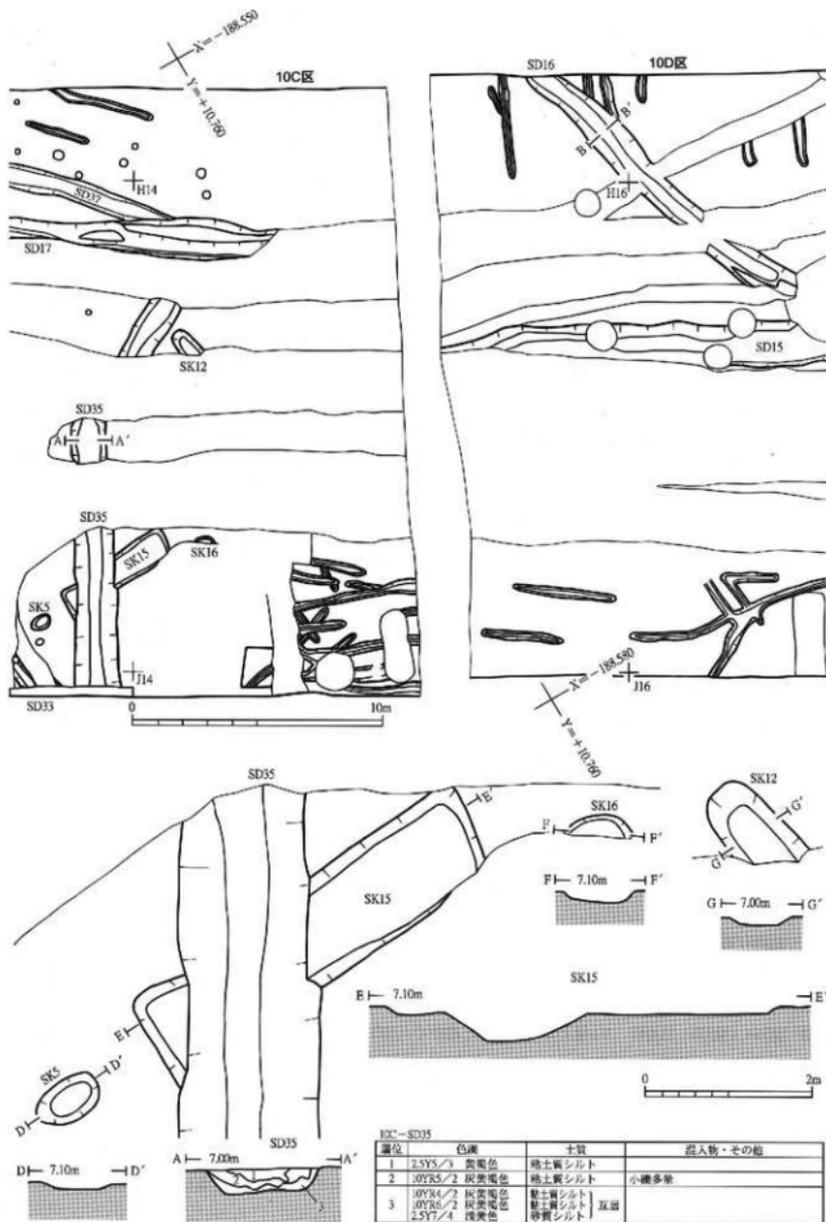
4. 10C区東部~10D区の遺構と遺物

(1)溝跡

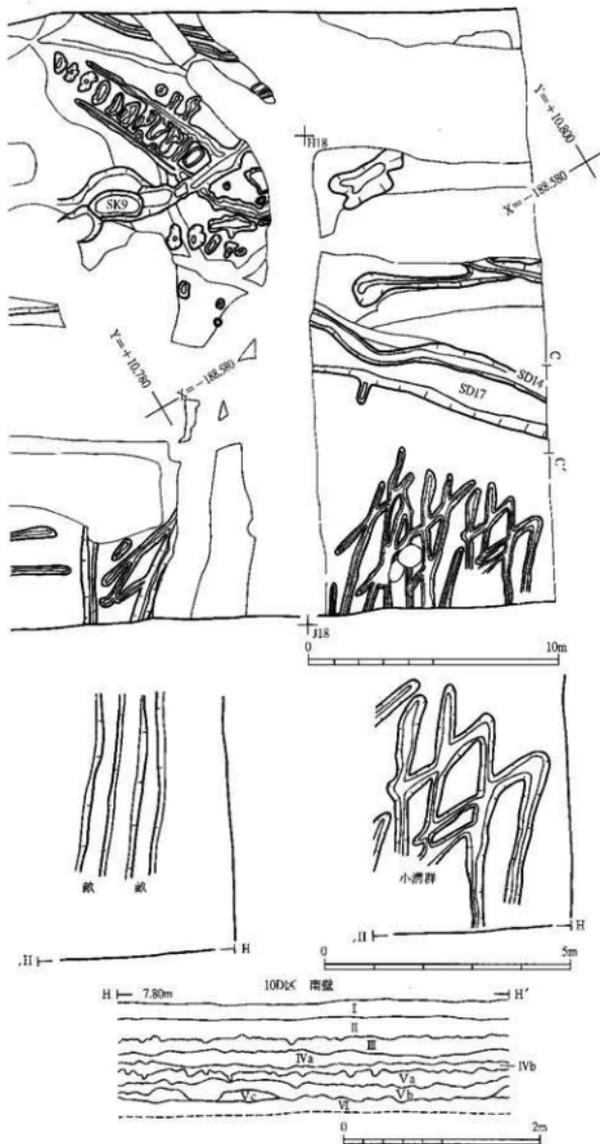
10C-SD35 (第337図) VI層上面で確認した溝跡で、10C区南壁から北東方向に延びて10C-SD17に向っているが、北端部は10C-SD15に切られているので10C-SD17との関連は不明である。幅1.4~1.7m、深さ55cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

10D-SD14 (第338・339図) Vb層上面で確認した溝跡で、10D区東部から10E区南部に向ってやや蛇行しながら延びているが、10D-SD12などに切られているため部分的に確認できたのみである。平面で確認できた幅は70cm程であるが、断面観察では上半が広がる形態をしているので(第339図)、実際は1.5m程であった可能性がある。深さは約50cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片・須恵器片等が数点出土したのみである。

10D-SD15 (第337図) 10D区西部のVI層上面で確認した溝跡で、北西から南東方向に延びているが、SD1004Aや10D-SK5などに切られているため部分的に遺存するのみである。幅約1.8m、深さ30cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片・須恵器片などが約30点出土した。



第337図 10C区東部～10D区西部 Vc層-VI層上面平面図、10C-SD35,SK5-12・15・16 平面・断面図



第338図 10D区東部 Vc層・VI層上面平面図

10D-SD16 (第337・339図)

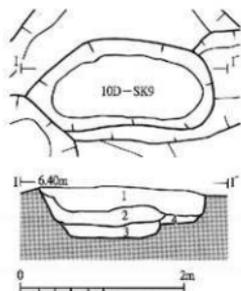
10D区北西部のVI層上面で確認した溝跡で、10D区北壁から南東方向に向かっては、10D-SK5に切られているため、その東側は不明である。幅1.5m、深さ65cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片、須恵器片、中世陶器片などが5点出土しているが、中世陶器片は混入と考えられる。

10D-SD17 (第338・339図)

VI層上面で確認した溝跡で、10D区東部から10E区南部に向ってやや蛇行しながら延びているが、北側の肩を10D-SD14に切られている。幅は1.5m程と推定され、深さは約30cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

小溝群 Vc層が遺存する箇所ではVc層上面、Vc層が遺存しない箇所では直下のVI層上面で確認している。方向は、南北方向、北西～南東方向、北東～南西方向などが認められるが、これらの新旧関係は不明である。幅30～40cm、深さ約5cm、堆積土はVb層を主とする単層で、Vc層やVI層の小ブロックを含んでいる。溝の間隔は1.0～1.5mのものが多い。Vb層の耕作に伴う耕作痕と考えられる。

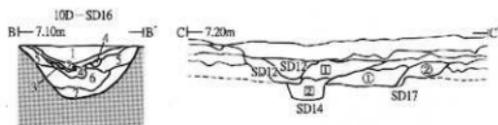
なお、10D区北東部では北西～南東方向に並行する2条の小溝と、その間を埋めるように並んだ長楕円形の窪みを



10D-SK9

層位	色調	土質	混入物・その他
1	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック・灰オリーブ黒層砂ブロック少量
2	5Y3/2 オリーブ黒色 5GY4/1 黄オリーブ灰色	粘土 堆砂	オリーブ黒色灰泥質粘土・黄オリーブ灰色堆砂ブロック少量
3	5Y3/2 オリーブ黒色 5Y2/2 オリーブ黒色 5GY4/1 黄オリーブ灰色	粘土 粘土 堆砂	ブロックの混入
4	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック少量

第339図 10D-SK9 平面・断面図、10D-SD12・14・16・17 断面図



層位	色調	土質	混入物・その他	
10D-SD16	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土	黒褐色粘土少量
	2	5GY4/1 黄オリーブ灰色	シルト	灰白色火山灰多量
	3	7.5Y4/1 灰色	粘土	
	4		火山灰	灰白色火山灰
	5	7.5GY3/1 暗緑灰色	シルト質粘土	砂礫多量
	6	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
	7	7.5GY4/1 暗緑灰色	堆砂	オリーブ黒色粘土ブロック少量
10D-SD14	II	2.5Y5/2 暗黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・灰白色火山灰ブロック少量
	III	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	
10D-SD17	①	7.5Y4/1 灰色	シルト質粘土	
	②	5GY4/1 暗緑灰色	砂質シルト	

(平面図は第337・338図)

確認している。形態は異なるが堆積土は小溝群と同様であるので、これらもVb層畑の耕作に伴う耕作痕と考えられる(註2)。

畝と小溝群 10D区南東部では、部分的ではあるがVb層上面で畑の畝と考えられる盛り上がりや2条確認した。方向は北東～南西方向で、幅50～60cm、高さ2～3cmで、畝間の間隔は30～40cmである(第338図左下)。この直下のVI層上面では小溝群を確認しているが、畝の方向や位置とは一致していない(第338図右下)。

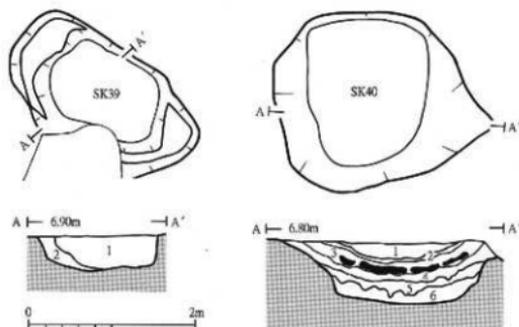
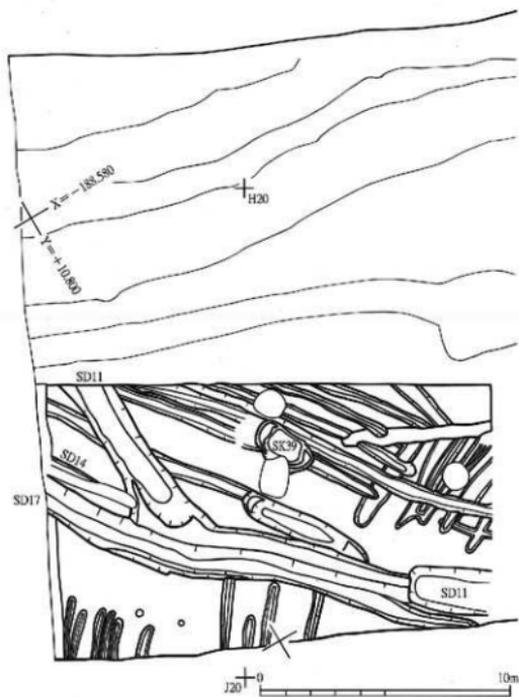
(2)土坑

10C-SK5・16 (第337図) 10C区南部に位置する。10C-SK5は80×50cmの楕円形で、10C-SK16は10C-SD28に切られているが同じ楕円形と考えられる。深さは10～15cmと浅く、堆積土は単層である。遺物は出土しなかった。

10C-SK12 (第337図) 10C区東部に位置する。SD1004Aに切られているが、長軸1.2m以上、短軸80cmの楕円形と推定される。深さは10cmと浅く、堆積土は単層である。遺物は出土しなかった。

10C-SK15 (第337図) 10C区南部に位置し、10C-SD35に切られている。4.7×1.2mの大きな長方形であるが、深さは10～15cmと浅く、堆積土は単層である。遺物は出土しなかった。

10D-SK9 (第339図) 10D区東部に位置し、小溝群に切られている。2.3×1.1mの楕円形で、深さは60cm、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。



5. 10E区の遺構と遺物

(1) 溝跡

10E-SD11 (第340図) 10E区西部に位置する南北方向の溝跡で、10D-SD14と接続している。10D-SD14と同じくVb層上面の溝である。なお、この面の10E区の調査は南部に限定したので、北部の状況は不明である。幅1.6m、深さ70cmで、堆積土は自然堆積層である。ウマの歯が出土している。

小溝群 他の調査区と同様に、Vc～VI層上面で小溝群を確認している。方向は北西～南東方向と北東～南西方向であるが、両者の新旧関係は不明である。Vb層畑の耕作に伴う耕作痕と考えられる。

(2) 土坑

10E-SK39 (第340図) 10E区西部に位置する。2.6×1.5mの不整形円形で、深さは40cm、大部分が人為的に埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

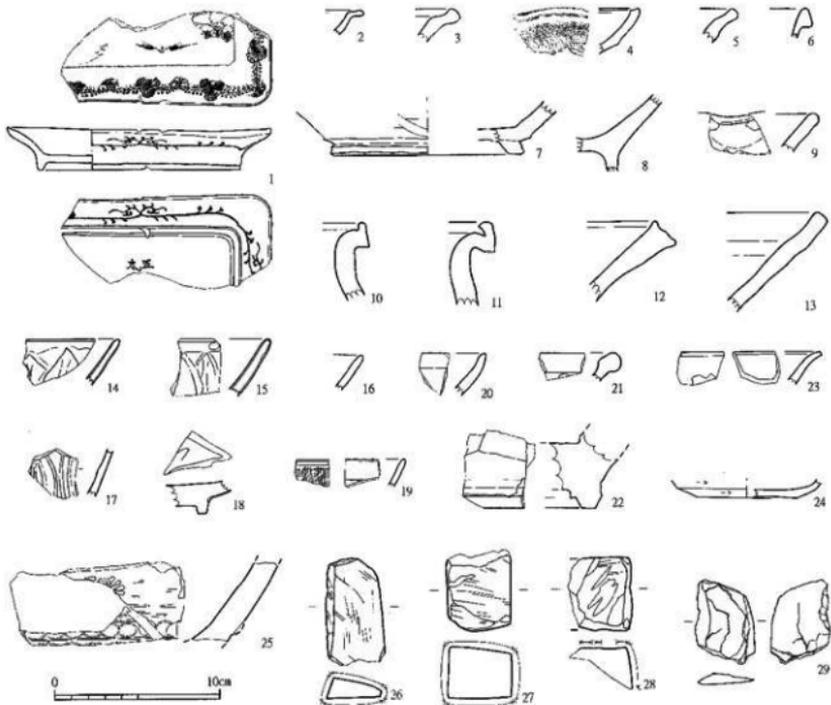
10E-SK40 (第340図) 10E区北東部に位置する。2.7×2.3mの不整形で、深さは80cm、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

(註1) 西隣の第2次調査区ではVa層とVb層共に層上面で小溝群を確認している。

(註2) 類似した形態のものを9D区VI層上面でも確認している (第173図)。

第340図
10E区西部 Vc層・VI層上面平面図
10E-SK39・40 平面・断面図

層位	色調	土質	埋入物・その他
10E-SK39	1 10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	褐色粘土・オリーブ灰色シルト質粘土ブロック多量
	2 10Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
10E-SK40	1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土	砂礫多量
	2 2.5Y2/1 黒色	粘土	
	3 2.5Y6/2 暗灰青色	粘土	下部に灰白色火山灰多量
	4 2.5Y6/1 黄灰色	粘土	灰黄色粘土・紫色粘土を層状に堆積
	5 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	砂礫多量状に堆積
	6 2.5Y3/1 黒褐色	砂	黒褐色粘土を密状に堆積



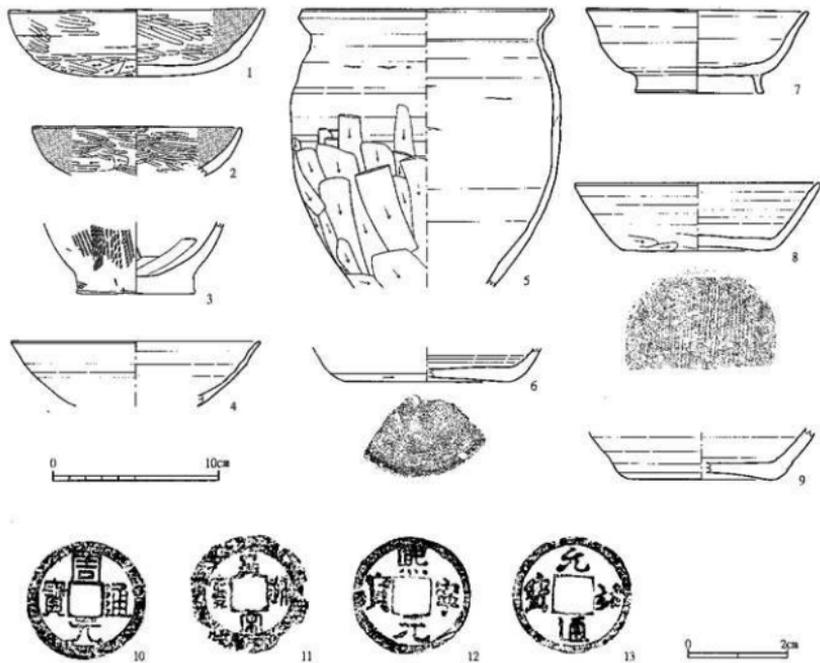
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	耐高		
1	J-32	10A-I層	染付(肥前)角皿	1/4	(15.7)	(12.1)	2.6		101-1
2	lc-561	10A-I 5・III層	陶器(古瀬戸)折縁小皿	口縁~体部小片				灰緑, 中I~II期	101-2
3	lc-131	10A-II 4・III層	陶器(古瀬戸)折縁受皿	口縁部小片				灰緑, 中早期	101-3
4	lc-132	10A-I 4・III層	陶器(古瀬戸)卸皿	口縁部小片				灰緑, 後I期	101-4
5	lc-138	10A-II 4・IVa層	陶器(古瀬戸)折縁受皿	口縁部小片				灰緑, 中早期	101-5
6	lc-137	10A-II 4・IVa層	陶器(古瀬戸)卸皿	口縁部小片				灰緑, 中I~II期	101-6
7	lc-135	10A-H 2・IVa層	陶器(東海)鉢	底部小片		(11.2)		ロクロ製, 赤褐色, 陶器(肥前)へナズリ, 7区東部, 山形器系	101-7
8	lc-136	10A-I 2・IVa層	陶器(東海)鉢	底部小片				ロクロ製, 内面灰緑, 山形器系	101-8
9	lc-544	10A-I 2・III層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片				ロクロ製	101-9
10	lc-128	10A-I 4・III層	陶器(常滑)蓋	口縁部小片				ココナデ, S型式	101-10
11	lc-133	10A-I 5・IVa層	陶器(常滑)蓋	口縁部小片				ココナデ, 60型式	101-11
12	lc-134	10A-I 2・IVa層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片				口縁部ロクロ, 体部ナデ, 8型式?	101-12
13	lc-130	10A-II 4・III層	陶器(肥前)白石片口鉢	口縁部小片				ロクロ(御転台)調整	101-13
14	J-57	10A-II 4・III層	青磁(肥前)茶碗	口縁部小片				編織弁文	101-14
15	I-162	10A-II 5・V層	青磁(福島)茶碗	口縁部小片				鎌倉弁文	101-15
16	J-34	10A-II 4・III層	青磁(肥前)茶碗	口縁部小片				鮮花文?	101-16
17	J-151	10A-I 5・III層	青磁(備前)茶碗	体部小片				短弁文	101-20
18	J-152	10A-I 5・IVa層	青磁(肥前)茶碗	底部小片					101-21
19	J-159	10A-I 4.5・II層	青磁(同安楽系?)碗	口縁部小片				梅文	101-22
20	lc-139	10A-II 2・III層	陶器(中国)天目碗	口縁部小片				黒釉	101-17
21	lc-140	10A-H 5・IVa層	陶器(中国)碗	口縁部小片				緑釉	101-18
22	J-33	10A-G 4・III層	白磁(中国)四耳碗	底部小片					101-23
23	J-35	10A-I 4・III層	白磁(中国)四耳碗	口縁部小片				口縁	101-19
24	J-36	10A-G 5・IVa層	白磁(中国)碗	底部小片		(6.0)			101-24
25	lb-7	10A-I 3・III, IV層	瓦質土器・火鉢	体部小片				赤褐色, 土器(肥前)へナズリ(用器)付文(調子), 内面ナデ	101-25
26	K-29	10A-I 4・III層	石製鉢・灰石	中心部のみ	6.6+	3.5	1.5	3層ナデサイト質緑灰岩	101-26
27	K-32	10A-II 4・III層	石製鉢・灰石	端部のみ	4.8+	3.8	3.0	105%ナ・デサイト	101-27
28	K-30	10A-II 4・III層	石製鉢・灰石	端部のみ	3.9+	4.5	2.9+	50%ナ・デサイト質緑灰岩	101-28
29	K-33	10A-I 2・IV層	石製鉢・灰岩?	小片	5.2	3.6+	0.7+	120%ナ・デサイト質緑灰岩(緑化石片器?)	101-30
30	K-31	10A-I 4・IV層	石製鉢・灰岩?	小片				写真のみ	101-29

第341図 10A区 基本層出土遺物 (1)

2. 基本層からの出土遺物

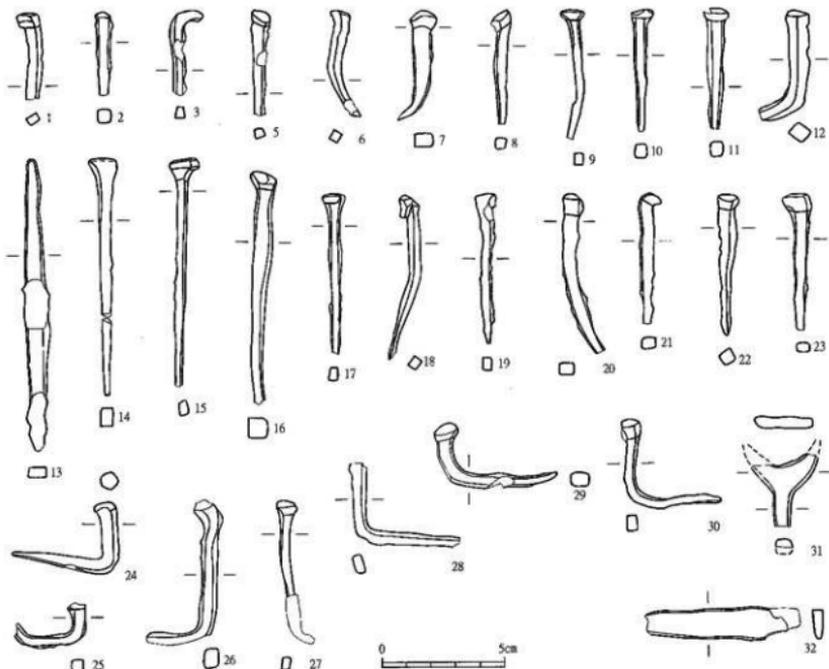
基本層中からの出土遺物のうち図化できたものは約300点(第341~354図)である。

第341図は10A区の陶器・磁器・瓦質土器と石製品である。常滑産甕・龍泉窯系青磁蓮弁文碗・白磁口禿皿など13世紀代のものが多い。なお、J-159青磁碗(19)は同安窯系、Ib-7(25)は外面に菊花文や円形貼付文が施された瓦質の火鉢である。なお、Ic-137古瀬戸四耳壺(6)、中国福建地方の製品と推定されるIc-140緑輪盤(21)、J-33白磁四耳壺



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	C-13	10A-H2・V層	土師器・坏	緑輝完形		16.2	—	4.1	外面に斜い線・平波地瓦風、口縁~体部口コナ デ~ヘラミガキ、底部手持ヘラケズリ~ヘラミ ガキ、内面ヘラミガキ・黒色肌理、白針刺盤	101-31
2	C-11	10A-H2・V層	土師器・坏	1/5	(12.6)				口縁~体部外面ヘラケズリ・ヘラミガキ・黒色 肌理、内面ヘラミガキ・黒色肌理、白針刺盤	101-32
3	C-12	10A-I2・V層	土師器・甕	底部4/5			7.2		外面ハケム、内面ヘラミガキ、白針刺盤	101-33
4	D-81	10A-M7・IV層	赤土器・坏	1/4	(14.8)				口縁口調整	101-34
5	D-8	10A-H4・V層	土師器・甕	1/4	(15.0)				口縁口調整、体部外面下半ヘラケズリ	101-35
6	B-20	10A-I4・V層	須恵器・坏	底部1/4		(10.0)			口縁口調整、底部切跡不明、底~体部 下半回転ヘラケズリ、白針刺盤	101-36
7	E-22	10A-H2・V層	須恵器・高台杯	3/4		13.4	7.8	5.1	口縁口調整、行違台	101-37
8	B-21	10A-H2・V層	須恵器・坏	1/3		14.8	9.2	4.2	口縁口調整、静止率切~底筋周辺~体部下半 手持ヘラケズリ、白針刺盤、底径/口径0.68	101-38
9	B-19	10A-H4・V層	須恵器・坏	底部1/2				(8.8)	口縁口調整、静止率切~肩辺手持ヘラケ ズリ、体部下半一帯ナデ	101-39
10	Nb-41	10A-南溝	銅製品・銭貨	完全形				2.4	重量	101-40
11	Nb-46	10A-南溝	銅製品・銭貨	ほぼ完全形				2.4	重量	101-41
12	Nb-48	10A-I2・III層	銅製品・銭貨	ほぼ完全形				2.4	2.3g + 同宗遺寶(北宋・初建1039年)	101-41
13	Nb-45	10A-南溝	銅製品・銭貨	完全形				2.4	2.8g 同宗遺寶(北宋・初建1068年)	101-42
				完全形				2.4	2.7g 元祐遺寶(北宋・初建1086年)	101-43

第342図 10A区 基本層出土遺物 (2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	埋存度	法長 (cm)			調査・特徴	写真図版
						高さ	幅	厚さ		
1	Na-74	10A-12・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.5+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 4g+	102-1	
2	Na-82	10A-H2・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.4+	0.6	0.5	3g+	102-2	
3	Na-59	10A-II層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.5+	0.7	0.5	頭部幅1.0cm, 4g+	102-3	
4		10A-12・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部				写真のみ	102-4	
5	Na-62	10A-12・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.4	0.4	0.4	頭部幅0.7cm, 5g+	102-5	
6	Na-68	10A-12・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	4.5	0.6	0.5	頭部幅0.8cm, 6g	102-6	
7	Na-52	10A-樹漏	鉄製品・釘	9/10	4.8+	0.8	0.6	屈曲, 頭部幅1.0cm, 5g+	102-7	
8	Na-66	10A-12・IV層	鉄製品・釘	9/10	4.7+	0.5	0.5	頭部幅0.8cm, 4g+	102-8	
9	Na-75	10A-12・IV層	鉄製品・釘	4/5	5.3+	0.5	0.4	頭部幅0.9cm, 4g+	102-9	
10	Na-67	10A-13・Ⅲ・IV層	鉄製品・釘	9/10	5.0+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 4g+	102-10	
11	Na-40	10A-14.5・II層	鉄製品・釘	4/5	4.9+	0.7	0.6	頭部幅1.0cm, 7g+	102-11	
12	Na-49	10A-15・V層	鉄製品・釘	頭～中央部	5.3+	0.9	0.8	屈曲, 6g+	102-12	
13	Na-53	10A-樹漏	鉄製品・釘?	頭部欠損	11.9+	0.8	0.5	2g+	102-13	
14	Na-69	10A-12・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	9.7	0.7	0.5	頭部幅1.1cm, 11g	102-14	
15	Na-61	10A-12・IV層	鉄製品・釘	9/10	9.3+	0.6	0.4	頭部幅1.2cm, 7g+	102-15	
16	Na-44	10A-12・Ⅲ層	鉄製品・釘	頭～中央部	9.5+	0.8	0.4	頭部幅1.1cm, 16g+	102-16	
17	Na-72	10A-12・IV層	鉄製品・釘	9/10	6.6+	0.6	0.4	頭部幅0.9cm, 5g+	102-17	
18	Na-58	10A-II層	鉄製品・釘	頭～中央部	6.4+	0.5	0.4	5g+	102-18	
19	Na-55	10A-12・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	6.1	0.5	0.4	頭部幅0.9cm, 5g	102-19	
20	Na-58	10A-12・IV層	鉄製品・釘	9/10	5.5+	0.6	0.5	頭部幅0.8cm, 5g+	102-20	
21	Na-67	10A-12・IV層	鉄製品・釘	4/5	5.3+	0.6	0.4	頭部幅0.7cm, 4g+	102-21	
22	Na-65	10A-12・IV層	鉄製品・釘	完全形	5.8	0.7	0.5	頭部幅0.8cm, 5g	102-22	
23	Na-70	10A-12・IV層	鉄製品・釘	4/5	5.6+	0.5	0.4	頭部幅1.1cm, 5g+	102-23	
24	Na-51	10A-樹漏	鉄製品・釘	ほぼ完全形	6.5	0.7	0.6	屈曲, 頭部幅0.9cm, 6g	102-24	
25	Na-76	10A-12・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.0+	0.5	0.5	厚さ 2g+	102-25	
26	Na-62	10A-QH4.5・Ⅲ層	鉄製品・釘(小)	中央部	5.9+	0.8	0.6	11g+	102-26	
27	Na-64	10A-12・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	5.2+	0.5	0.4	頭部幅0.8cm, 5g+	102-27	
28	Na-77	10A-13・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.3+	0.8	0.5	屈曲, 8g+	102-28	
29	Na-57	10A-12・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	5.2	0.8	0.6	頭部幅1.0cm, 6g	102-29	
30	Na-54	10A-12・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	6.8	0.6	0.4	厚さ, 頭部幅0.8cm, 5g	102-30	
31	Na-41	10A-QH4.5・Ⅲ層	鉄製品・釵	先端・茎欠損	3.0+	2.3	0.6	釵式, 4g+	102-31	
32	Na-64	10A-H2・IV層	鉄製品・刀子	中央部	6.3+	1.2	0.4	10g+	102-32	

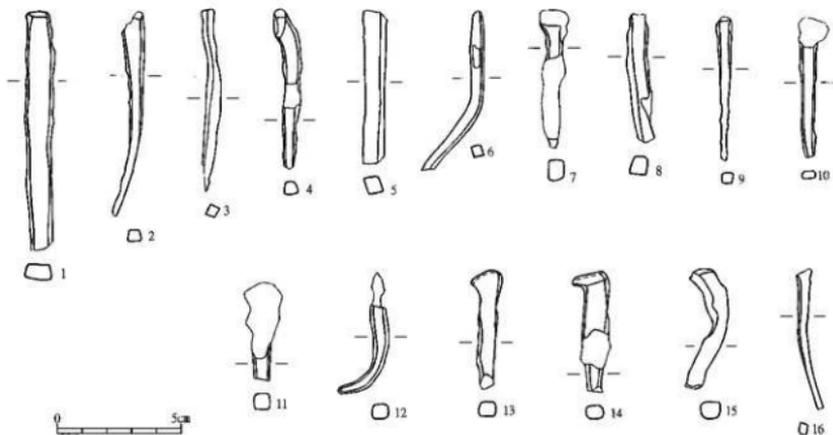
第343図 10A区 基本層出土遺物 (3)

(22)などがH,I,G-4・5グリッドから出土している。この付近にはIVb-2期の有力な建物である10A-SB12・13・15が位置しているのでこれらの建物との関連性が考えられる。

第342図は10A区の上師器・須恵器・金属製品(銭貨)であるが、前節で述べたように上師器・須恵器の一部は10A-SI 1の出土遺物に含まれる可能性がある。銭貨は北宋銭など4点である(Nb-44~46・48、10~13)。

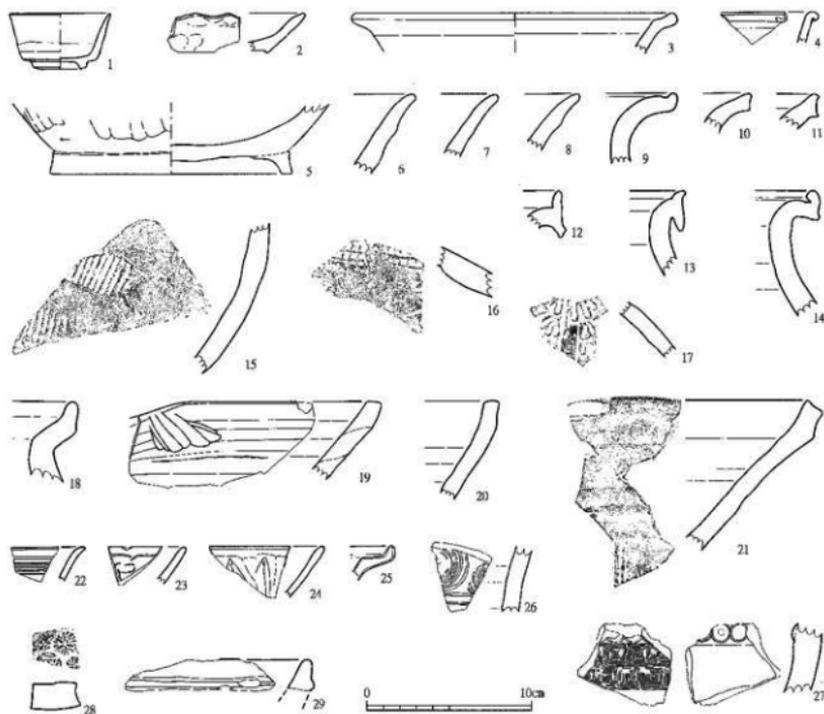
第343・344図は10A区の鉄製品であるがその大部分が釘で、出土地点・層位はI2グリッドのIV層に集中している。I2グリッドで検出された10A-SK14・15からも多くの鉄釘が出土しているので、それらとの関連性が考えられるが、鉄釘が集中する原因については確定できない。

第345図は10B区の陶器・磁器・瓦質土器・石製品である。陶器は常滑産の片口鉢と甕が多いが、Ic-538(4)は玉縁口縁蓋と考えられる。Ic-174(17)は肩部に劃文が施されている。J-44(26)は中国産の青白磁梅瓶で、H-5グリッドからの出土である。前述した10A区の遺物と同様にIVb-2期の建物との関連性が考えられる。石製品K-37(28)は複数の花卉が彫刻されており、土師質土器や瓦質土器などの施文の際に使用されたスタンプ状のものである可能性がある。K-38(29)は滑石製の石鍋と考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	大きさ (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-81	10A-15・IV層	鉄製品	釘?	腰~中央部	9.7+	1.1	0.6	20g+	102-33
2	Na-73	10A-12・IV層	鉄製品	釘	中央部	8.3+	0.6	0.5	6g+	102-34
3	Na-45	10A-12・IV層	鉄製品	釘	腰~中央部	7.4+	0.6	0.5	5g+	102-35
4	Na-63	10A-12・IV層	鉄製品	釘	9/10	6.5+	0.6	0.5	頭部幅1.2cm、6g+	102-36
5	Na-85	10A-H5・IV層	鉄製品	釘	中央部	6.3+	0.8	0.7	12g+	102-37
6	Na-46	10A-13・III・IV層	鉄製品	釘	中央部	7.2+	0.6	0.5	屈曲、7g+	102-38
7	Na-50	10A・側溝	鉄製品	釘	9/10	5.6	1.0	0.6	頭部幅1.1cm、10g+	102-39
8	Na-80	10A-15・IV層	鉄製品	釘	中央部	5.2+	0.8	0.8	7g+	102-40
9	Na-83	10A-H4・IV層	鉄製品	釘	中央部	5.9+	0.5	0.4	3g+	102-42
10	Na-60	10A-12・IV層	鉄製品	釘	中央部	5.7+	0.6	0.3	6g+	102-41
11	Na-48	10A-15・V層	鉄製品	釘	腰~中央部	4.0+	0.7	0.7	8g+	102-43
12	Na-59	10A-12・IV層	鉄製品	釘	中央~先端部	5.6+	0.7	0.6	3g+	102-44
13	Na-79	10A-H4・IV層	鉄製品	釘	腰~中央部	4.8+	0.7	0.6	頭部幅1.2cm、6g+	102-45
14	Na-56	10A-12・IV層	鉄製品	釘	腰~中央部	4.9	1.0	0.6	頭部幅1.3cm、9g+	102-46
15	Na-78	10A-12・IV層	鉄製品	釘	腰~中央部	5.3+	0.8	0.7	頭部、7g+	102-47
16	Na-71	10A-12・IV層	鉄製品	釘	4/5	5.7+	0.5	0.4	3g+	102-48

第344図 10A区 基本層出土遺物 (4)

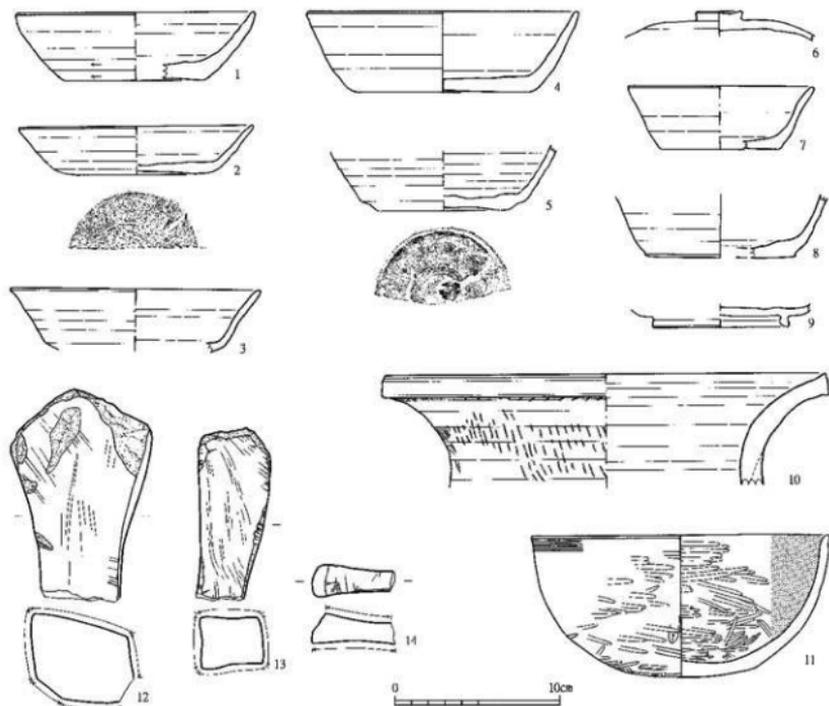


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	10-189	10B-16・I層	陶器(大塚相馬)小杯	1/2	(6.1)	(3.2)	3.5		102-49
2	10-188	10B-19・II層	陶器(東戸・米原)梅花模印	11線部小片				大塚3後期	102-50
3	10-190	10B-16・II層	陶器(古瀬戸)折縁深皿	口縁部1/5	(19.9)			灰釉、中皿期	102-51
4	10-538	10B-115・II層	陶器(常滑)玉縁口縁盆	口縁部小片				ヨコナデ、内面に灰オリーブ色の目紋	102-52
5	10-173	10B-III・IV層	陶器(常滑)鉢	底部1/5			(14.6)	クワコノナデ、内面に灰オリーブ色の目紋	102-53
6	10-181	10B-17・IVa層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片				ロクロ模造	102-54
7	10-180	10B-17・IVa層	陶器(常滑)片口鉢	11線部小片				ロクロ模造	102-55
8	10-526	10B-II層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ、4型式	102-56
9	10-172	10B-17・II層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ、内面に灰オリーブ色の目紋、4型式	102-57
10	10-178	10B-18・IVa層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	102-58
11	10-179	10B-15・IVa層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ、6型式	102-59
12	10-177	10B-19・IVa層	陶器(常滑)甕	11線部小片				ヨコナデ、7型式	102-60
13	10-176	10B-G6・IVa層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ、7型式	103-1
14	10-175	10B-H18・IVa層	陶器(常滑)甕	11線・体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	103-2
15	10-183	10B-H6・IVa層	陶器(常滑)甕	体部小片				ナデ、葉状押印	103-3
16	10-182	10B-116・IVa層	陶器(常滑)甕	体部小片				ナデ、格子状押印	103-4
17	10-174	10B-18・IVa層	陶器(常滑)甕	体部小片				ナデ、刺花文	103-5
18	10-169	10B-II層	陶器(在産)甕	口縁部小片				ロ・頸部ヨコナデ	103-6
19	10-184	10B-18・IVa層	陶器(在産)甕	11線部小片				ロクロ(回転台)陶器	103-7
20	10-171	10B-18・II層	陶器(在産)甕	口縁・体部片				ロクロ(回転台)陶器	103-8
21	10-185	10B-18・IVa層	陶器(在産)甕	口縁・体部片				ロクロ(回転台)陶器	103-9
22	10-165	10B-5.6・IVa層	青磁(常滑)甕	口縁部小片					103-10
23	10-142	10B-18・IVa層	青磁(常滑)甕	口縁部小片				刺花文	103-11
24	10-143	10B-18・IVa層	青磁(常滑)甕	口縁部小片				刺花文	103-12
25	10-164	10B-18.9・IVa層	青磁(常滑)甕	口縁部小片					103-13
26	10-144	10B-15・II層	青白磁(小塚)甕	体部小片				湯文	103-14
27	10-50	10B-18・IVa層	瓦器(土師)火鉢	体部小片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	103-15
28	K-37	10B-15・IV層	石製品・用途不明	小片	長2.9ト	幅3.0ト	厚1.6ト	(Fig.1)、スタンプ痕、裏面(厚みからなる)	103-16
29	K-38	10B-19・Sa層	石製品・石鏝	口縁部小片			高さ2.0ト	(40cm+)、精細片岩	103-17

第345図 10B区 基本層出土遺物 (1)

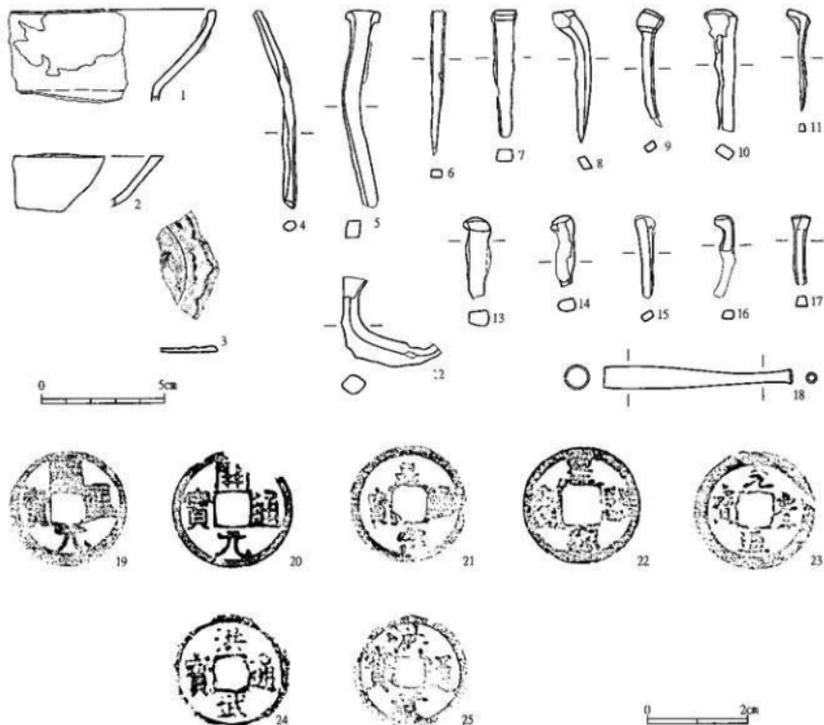
第346図は10B区の土師器・須恵器・石製品（既行）である。土師器や須恵器はVa層とVb層中から出土しているが、Va層とVb層は畑の耕作土であるので、下層から巻き上げられたものと考えられる。

第347図は10B区の金属製品で、10A区同様に釘が多いが、1・2の鉄鍋、3の八稜鏡の破片なども出土している。銭貨は唐銭・北宋銭・明銭など7点である（19～25）。



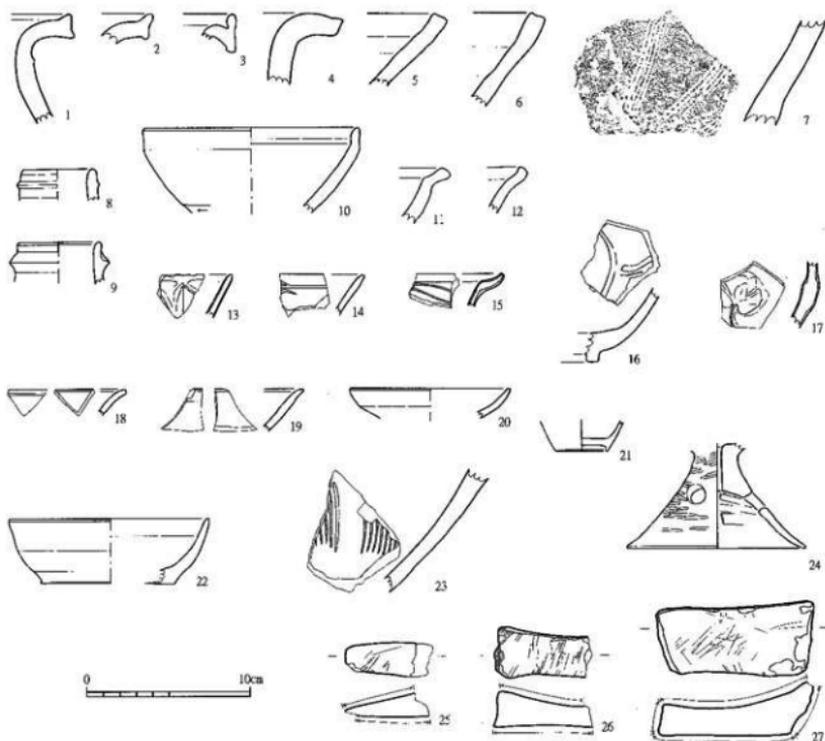
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	質量(cm)			調査・特徴	参考図版
						口径	底径	縁高		
1	B-26	10B-17・Va層	須恵器	杯	1/3	(4.4)	(8.4)	4.2	ロク口調整、底部切離法不明、底部～体部下面回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-18
2	E-32	10B-19・IVa層	須恵器	杯	1/3	(4.0)	(7.1)	3.0	ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-19
3	B-24	10B-19・Vb層	須恵器	杯	上部1/2	(15.0)			ロク口調整	103-20
4	E-27	10B-19・Va層	須恵器	杯	1/2	(16.4)		10.5	ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-21
5	B-28	10B-17・Va層	須恵器	杯	1/4			(7.8)	ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-22
6	E-31	10B-18・V層	須恵器	茶	1/2				ロク口調整、白針微塵	103-24
7	E-25	10B-17・V層	須恵器	杯	1/4	(11.2)		(7.2)	ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-25
8	E-23	10B-17.8・Va層	須恵器	杯	下部1/2	(9.0)			ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-26
9	E-30	10B-16.8・V層	須恵器	高台杯	底部1/2			(8.7)	ロク口調整、底部切離法不明、回転ヘラケズリ、底径/口径0.58	103-27
10	B-29	10B-19・Va層	須恵器	茶	11線部1/4	(27.0)			ロク口調整、外面タタキ痕、白針微塵	103-23
11	C-15	10B-17・Vb層	土師器	碗	3/5	(17.8)		8.7	口縁外面ヨリナデヘラミガキ、鼻部ヘラケズリヘラミガキ、底部ヘラケズリ、體ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、黒色塗膜、白針少量	104-1
12	K-36	10B-15・西層	石製品	砥石	端部のみ	長12.8+	幅8.5	厚4.8	795g-、砂着	104-2
13	K-70	10B-18・V層	石製品	砥石	端部欠損	長10.2+	幅4.0	厚3.0	275g-、デイスait	104-3
14	K-54	10B-II層	石製品	砥石	端部のみ	長5.0+	幅2.0	厚1.3	275g-、デイスait	104-4

第346図 10B区 基本層出土遺物 (2)



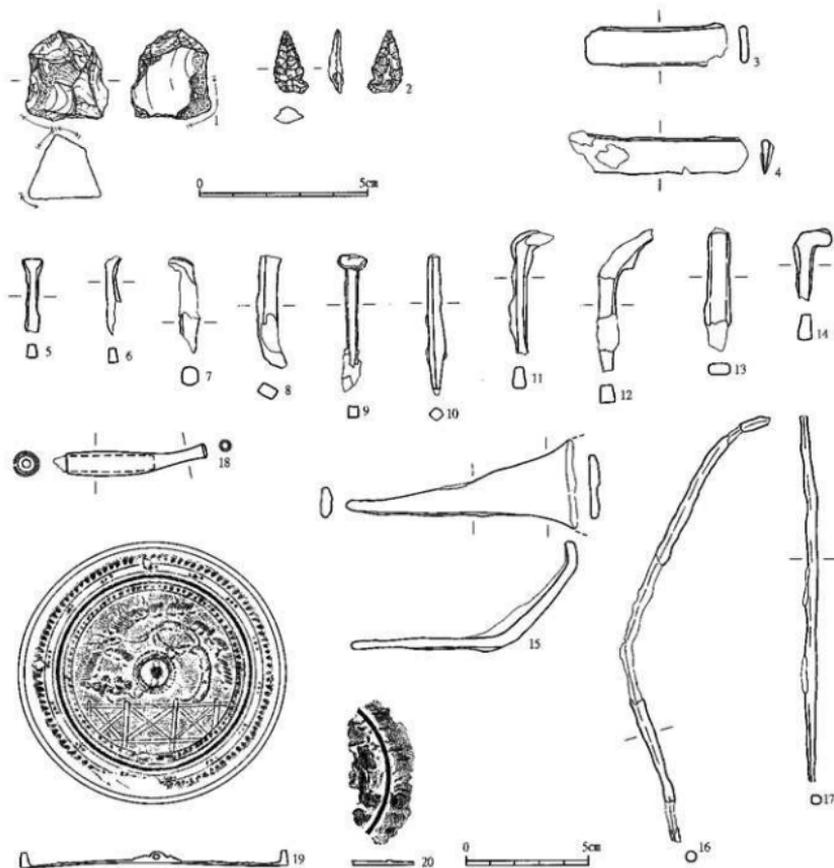
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	Na-113	10B-19・IV層	鉄製品・鏃	口縁部小片			4.0-	37g+	104-5	
2	Na-122	10B-18・IV層	鉄製品・鏃	口縁部小片			2.2+	15g+	104-6	
3	Nb-59	10B-IV層	銅製品・釘	1区	径(7.8)		径0.2	5r上, 八稜状	104-21	
4	Na-2	10B-C6・I層	鉄製品・釘?	鏃部欠損	長さ	径			104-7	
5	Na-124	10B-IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	8.1+	0.5	0.4	6g-1	104-8	
6	Na-112	10B-18・V層	鉄製品・釘	中央部	8.2+	1.2	0.8	頭部幅1.4cm, 35g+	104-9	
7	Na-114	10B-15b・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	5.9+	0.5	0.4	7g+	104-10	
8	Na-1	10B-C6・IV層	鉄製品・釘	鏃部欠損	5.2+	0.8	0.7	頭部幅1.0cm, 7g+	104-11	
9	Na-120	10B-18・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	5.5	0.5	0.3	頭部幅0.9cm, 4g+	104-12	
10	Na-117	10B-IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	4.9+	0.6	0.5	頭部幅1.0cm, 5g+	104-13	
11	Na-121	10B-15・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	4.9+	0.8	0.6	頭部幅1.3cm, 10g+	104-14	
14	Na-118	10B-18・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	4.2+	0.4	0.3	頭部幅1.0cm, 3g+	104-14	
12	Na-111	10B-17・III層	鉄製品・釘	中央部	6.0+	1.5	1.1	傾曲, 11g-	104-20	
13	Na-115	10B-C5・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	3.3+	0.9	0.8	頭部幅1.1cm, 6g+	104-15	
14	Na-118	10B-18・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	3.0+	0.8	0.7	頭部幅0.9cm, 5g+	104-16	
15	Na-123	10B-18・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.4+	0.6	0.4	2g+	104-17	
16	Na-119	10B-19・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	3.2+	0.6	0.6	頭部幅0.7cm, 5g-	104-18	
17	Na-116	10B-18・IV層	鉄製品・釘	鏃~中央部	2.8+	0.4	0.4	頭部幅0.8cm, 3g+	104-19	
18	Nb-52	10B-I層	銅製品・輝鍍装口	法法亮形	7.7		径0.6	小口径0.7g	104-22	
19	Nb-54	10B-A15・II層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.3	開元通寶(唐・初建621年)	104-23	
20	Nb-55	10B-17・III層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.4	開元通寶(唐・初建621年)	104-24	
21	Nb-57	10B-19・II層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.3	皇宋通寶(北宋・初建1039年)	104-25	
22	Nb-54	10B-17・III層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.7	皇宋通寶(北宋・初建1039年)	104-26	
23	Nb-58	10B-19・5a層	銅製品・銭貨	完全形	2.5		2.3	元亨通寶(北宋・初建1078年)	104-27	
24	Nb-53	10B-II層	銅製品・銭貨	法法亮形	2.3		2.7	洪武通寶(明・初建1368年)	104-28	
25	No-60	10B-C8・IV層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.2	洪武通寶(明・初建1368年)	104-29	

第347図 10B区 基本層出土遺物(3)



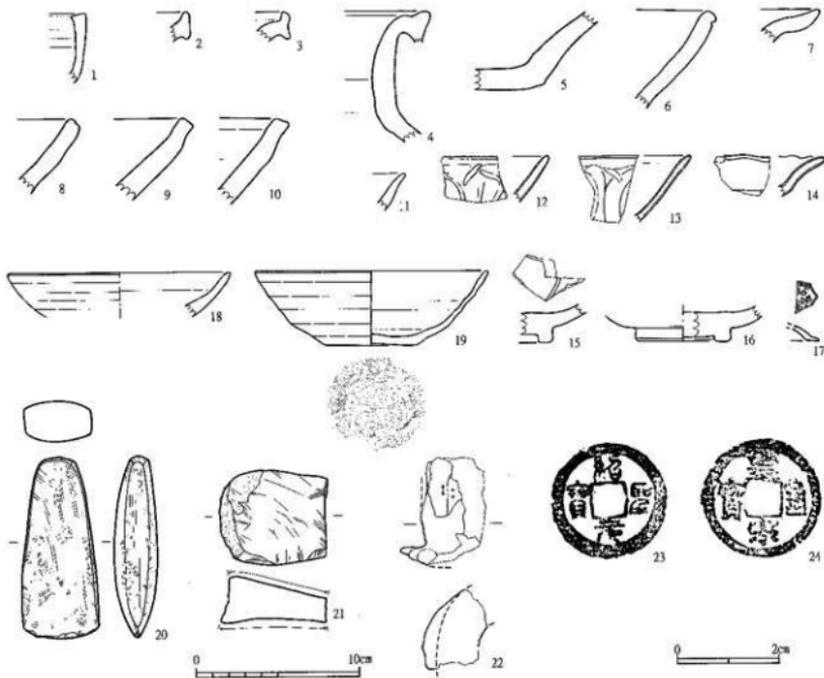
No.	登録No.	地区・遺跡・層位	類別(原地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	1c-209	10C-114・Ⅲ層	陶器(常滑)甕	口縁~体部片				口・肩部ヨコナデ, 体部ナデ, 5型式	104-30	
2	1c-539	10C-114・Ⅳ層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 5型式	104-31	
3	1c-537	10C-114・Ⅳ層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 6a型式	104-32	
4	1c-207	10C-Ⅱ層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 体部外面に黄褐色の白粉繪	104-33	
5	1c-208	10C-H14・Ⅳa層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				クロロ(山転台)調整	104-35	
6	1c-206	10C-H11・10・Ⅰ,Ⅱ層	陶器(在地・白石)片口鉢	口縁部小片				クロロ(山転台)調整	104-36	
7	1c-241	10C-H11・4b層	陶器(在地)片口鉢	体部小片				クロロ調整(内面に赤(?)色の層目・黄斑)	104-34	
8	1c-232	10C-113,14・4b層	陶器(青瀬戸)地皿	口縁部小片				灰地, 中皿~耳輪	104-38	
9	1c-555	10C-Ⅱ層	陶器(古瀬戸)地皿	口縁部1/4	(4.7)			灰地, 中皿~耳輪	104-39	
10	1c-231	10C-Ⅱ層	陶器(瀬戸)天目碗	1/5	(13.2)			灰地, 接合部	104-37	
11	1c-239	10C-114・Ⅳa層	陶器(古瀬戸)新緑深皿	口縁部小片				灰地, 中皿層	104-40	
12	1c-234	10C-112・Ⅲ層	陶器(古瀬戸)新緑深皿	口縁部小片				灰地, 中皿層	104-41	
13	J-46	10C-G114・Ⅱ層	青磁(盛泉堂系)甕	口縁部小片				調整片文	105-3	
14	J-57	10C-H12・4b層	青磁(盛泉堂系)甕	口縁部小片				刺花文	105-4	
15	J-47	10C-110・Ⅳ層	青磁(盛泉堂系)深鉢	口縁部小片				調整片文	105-6	
16	J-49	10C-Ⅳa層	青磁(盛泉堂系)甕	底縁~体部片				刺花文	105-1	
17	J-48	10C-112・Ⅳ層	青磁(盛泉堂系)深鉢	体部小片				牡丹葉文	105-2	
18	J-59	10C-110・4b層	白磁(中国)碗口皿	口縁部小片				口赤	105-5	
19	J-50	10C-H13・Ⅳa層	白磁(中国)碗	口縁部小片				口赤	105-7	
20	J-53	10C-112・Ⅴ層	白磁(中国)碗	口縁部1/7	(9.6)				105-8	
21	J-51	10C-Ⅳa層	白磁(中国)小杯	底部1/2		3.0			105-9	
22	1a-18	10C-114・Ⅴ層	土師土器・甕	1/4	(12.0)	(7.8)	4.0	クロロ調整, 糸切	105-11	
23	B-46	10C-G113,14・Ⅱ層	瓦葺土器・筒鉢	体部小片				外面ナデ, 内面黄斑・開口	105-10	
24	C-16	10C-H16・Ⅴ層	土師土器・筒鉢	調整3/5		(10.8)		外面ヘタミ方子, 内面ヘラナデ	105-12	
25	K-40	10C-Ⅱ層	石炭系・硃石	調整のみ	長さ2+	幅2.2	厚1.5	デイスait質硬灰岩	105-13	
26	K-41	10C-G.H14・Ⅲ層	石炭系・硃石	調整のみ	長さ0.1	幅3.1	厚2.2	5%+, デイスait質硬灰岩	105-14	
27	K-42	10C-G.H14・Ⅳ層	石炭系・硃石	調整のみ	長さ0.5	幅4.6	厚2.5	16%, デイスait質硬灰岩	105-15	

第348図 10C区 基本層出土遺物 (1)



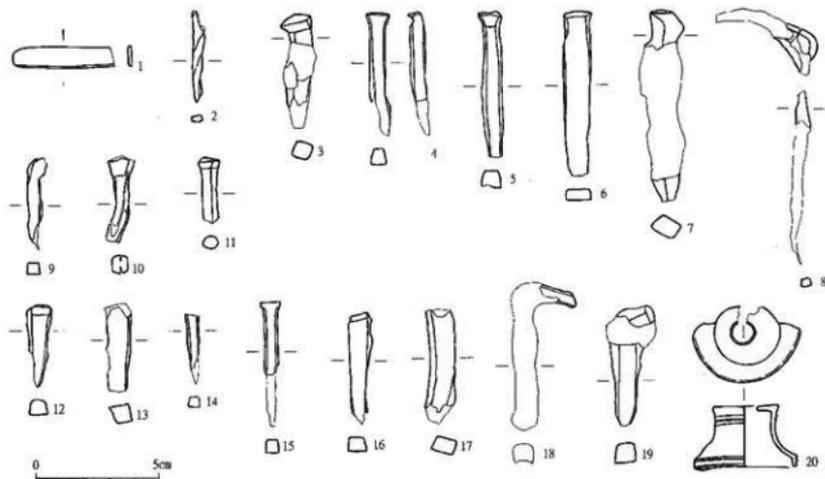
No.	登録No.	地区・遺物・層位	種別(産地)	器種	遺存度	度量 (cm)			調整・特徴	写真 図録
						長さ	幅	厚さ		
1	K-43	10C-IIH4・IVa層	石器品	火打石	完形	2.8	2.5	2.0	16g. 碧玉質材	105-34
2	K-39	10C-新溝	石器品	石錐・石鏃	基部端部欠損	1.95	(+1.05)	0.45	0.5g. I. 碧玉	105-35
3	Na-137	10C-GH13,14・III層	鉄製品	刀子	差	5.7+	1.5	0.4	16g+ 鋼	105-26
4	Na-133	10C-GH14・IVa層	鉄製品	刀子	中央部	7.2+	1.5	0.4	12g+	105-27
5	Na-135	10C-I層	鉄製品	釘	頭~中央部	2.9+	0.6	0.5	鋼部幅0.7cm, 3g+	105-16
6	Na-141	10C-GH13・III層	鉄製品	釘	中央部	3.3+	0.7	0.5	3g+	105-17
7	Na-138	10C-GH14・III層	鉄製品	釘	中央部	3.9+	0.8	0.8	5g+	105-18
8	Na-145	10C-II層	鉄製品	釘	中央部	4.6+	0.8	0.7	7g+	105-19
9	Na-143	10C-I 12・III層	鉄製品	釘	頭~中央部	5.6+	0.5	0.4	鋼部幅1.1cm, 8g+	105-20
10	Na-139	10C-GH14・III層	鉄製品	釘	中央部	5.8+	0.6	0.6	5g+	105-21
11	Na-142	10C-GH14・III層	鉄製品	釘	中央部	5.0+	0.9	0.8	7g+	105-22
12	Na-132	10C-H13・IVa層	鉄製品	釘	中央部	5.6+	0.8	0.8	13g+	105-23
13	Na-134	10C-I 14・IV層	鉄製品	釘	中央部	5.0+	1.0	0.8	6g+	105-24
14	Na-131	10C-H13・IVa層	鉄製品	釘	頭~中央部	2.9+	1.0	0.6	鋼部幅1.4cm, 7g+	105-25
15	Na-136	10C-II層	鉄製品	鏃	基部欠損	9.3+	(+3.7)		32g+	105-28
16	Na-144	10C-I 12・III層	鉄製品	新鍔車軸	頭~中央部	19.4+	0.6	0.5	17g+	105-29
17	Na-140	10C-GH13・III層	鉄製品	新鍔車軸	中央部	14.9+	0.5	0.5	11g+	105-30
18	Nb-76	10C-II層	銅製品	煙管吸口	形	5.7	吸口径0.6	弁径0.3	8g. 内部に鏢字残存	105-31
19	Nb-77	10C-I 14・IV層	銅製品	鏡	ほぼ完形	径10.6	厚0.1	周縁径0.6	周縁幅0.3cm, 102g. 組かけ用孔2×2. 竹柄・双鼻. 松. 脱埋式鏡目録	105-32
20	Nb-67	10C-I 14・III層	銅製品	鏡	ほぼ	径(9.6)	厚0.2	11g		105-33

第349図 10C区 基本層出土遺物 (2)



No.	登録No.	地区・遺構・階位	類別(産地)	器種	遺存度	法器 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-253	10D-I層	陶器(作?)	香炉	口縁~体部片					106-1
2	Ic-250	10D-G.H15・Ⅲ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ヨコナデ, 3型式	106-2
3	Ic-249	10D-I 18・Ⅲ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ヨコナデ, 5型式	106-3
4	Ic-255	10D-H17・Ⅴ層	陶器(常滑)	甕	口縁~体部片				ロ・楕形ヨコナデ, 体部ナデ, 内外面に灰オリーブ色の自然釉, 6a型式	706-4
5	Ic-247	10D-I 15,16・Ⅲ層	陶器(常滑)	鉢	底部分				ナデ	106-6
6	Ic-251	10D-G.H17・Ⅲ層	陶器(常滑)	片鉢	口縁~体部片				ロク口調整, 内面灰白色の自然釉	106-5
7	Ic-259	10D-H15・Ⅳ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ヨコナデ, 内外面灰オリーブ色の自然釉	106-7
8	Ic-258	10D-I 16,17・Ⅳ層	陶器(在来・白石)	片鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	106-8
9	Ic-248	ND-G.H16,17・豊地層	陶器(在来・白石)	片鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	106-9
10	Ic-252	10D-I 18・Ⅳ層	陶器(在来・白石)	片鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	106-10
11	J-68	10D-I 18・Ⅳ層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片					706-11
12	T-61	10D-I層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-12
13	J-62	10D-G.H15・Ⅲ層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-13
14	J-63	10D-II層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-14
15	J-50	10D-I 15,16・Ⅲ層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-15
16	J-70	10D-G17・Ⅴ層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-16
17	T-166	10D-G.H15,16・Ⅲ層	青磁(常滑系)	甕	口縁部小片				胎文	106-17
18	Ic-26	10D-G.H15,16・Ⅳ層	土師器(常滑)	甕	口縁部小片				胎文	106-18
19	T-41	10D-H16・Ⅴ層	土師器(常滑)	甕	口縁部小片				胎文	106-19
20	K-44	10D-G.H15・Ⅲ層	石鏡・青銅石斧	石鏡					23cm, デイサイト質鏡灰層	106-22
21	K-45	10D-G.H15・Ⅲ層	石鏡・磁石	石鏡					164cm+, デイサイト	106-23
22	P-10	10D-I 17・Ⅳ層	銅製品・羽	銅製品					92g!	106-24
23	Nb-78	10D-G.H17・豊地層	銅製品・銭	銭					2.3g, 紹聖元寶(北宋・初鑄1094年)	106-20
24	Nb-79	10D-G.H17・豊地層	銅製品・銭	銭					2.3g, 皇寧通寶(北宋・初鑄1099年)	106-21

第351図 10D区 基本層出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地) 附種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-165	10D-118・IV層	鉄製品・刀子	末	4.1+	0.8	0.2	3g+	106-25
2	Na-153	10D-118・III層	鉄製品・火箸?	頭~中央部	3.7+	0.5	0.4	全体に捻り, 3g+	106-26
3	Na-159	10D-115,16・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.7+	1.0	0.9	頭部幅1.2cm, 10g+	106-27
4	Na-152	10D-GH17・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.9+	0.7	0.7	頭部幅1.0cm, 7g+	106-78
5	Na-150	10D-GH15・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.9+	0.8	0.8	頭部幅0.9cm, 7g+	106-79
6	Na-156	10D-GH15・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.7+	1.1	0.5	19g+	106-30
7	Na-160	10D-115,16・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	7.9+	1.2	1.0	29g+	106-31
8	Na-157	10D-GH15・III層	鉄製品・釘	中央部	10.8+	1.2	1.1	10g+	106-32
9	Na16300	3D-GH16(7)・III層	鉄製品・釘	中央部	3.7+	0.6	0.5	2g+	106-33
10	Na1632	3D-GH16(7)・III層	鉄製品・釘	中央部	3.5+	0.8	0.7	2g+	106-34
11	Na-162	10D-GH16・IVb層	鉄製品・釘	頭~中央部	2.7+	0.6	0.6	頭部幅1.0cm, 2g+	106-35
12	Na-151	10D-GH16・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.4+	0.8	0.7	頭部幅1.0cm, 4g+	106-36
13	Na-158	10D-GH16・III層	鉄製品・釘	中央部	3.6+	1.0	0.9	5g+	106-37
14	Na-161	10D-GH15・IVb層	鉄製品・釘	中央部	2.9+	0.5	0.4	1g+	106-38
15	Na-164	10D-115~17・IVa層	鉄製品・釘	中央部	5.1+	0.6	0.6	5g+	106-39
16	Na-154	10D-116・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.7+	0.8	0.6	頭部幅0.9cm, 7g+	106-40
17	Na-155	10D-GH15・III層	鉄製品・釘	中央部	4.7+	1.0	0.9	12g+	106-41
18	Na-166	10D-GH16・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.0+	1.0	1.0	総曲, 12g+	106-42
19	Na-167	10D-118・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.9+	0.9	0.8	頭部幅2.0cm, 15g+	106-43
20	Nb-80	10D・III層	銅製品・花瓶(飯食器)	台径約34 上口径26 下口径15	43	2.5	2.2	22g+	106-44

第352図 10D区 基本層出土遺物 (2)

第351・352図は10D区の遺物で、青磁は蓮弁文碗のような13世紀代のもの他に、J-70(第351図16)のように高台の幅が広く臺付が鐘胎となっている14世紀代と推定されるものも含まれている。鉄製品は釘が大部分であるがNa-153(第352図2)は捻りが増えられており、火箸と推定される。Nb-80(第352図20)は卍字形花瓶が飯食器の脚台と推定される。

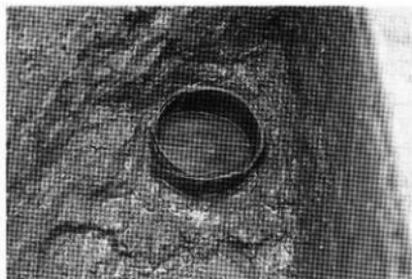
第353・354図は10E区の遺物である。青磁はJ-79・78(第353図1・2)の錆蓮弁文碗や、J-80・84(4・5)のように軸が厚く高台幅が狭い碗があり、J-83・82(7・8)の白磁口壳皿と共に13世紀後半頃と考えられる遺物が多い。瓦質の火鉢1b-21・23(18・19)は、それぞれ雷文・亀甲文のスタンプ文様が連続して施されているが、底部は1b-22(20)のような脚付であると考えられる。Na-173(第354図4)は破片であるが火打金と考えられる。なお、銭貨で寛永通寶が多いのは近世墓の遺物が混入しているためと考えられる。

第4章 10区の調査

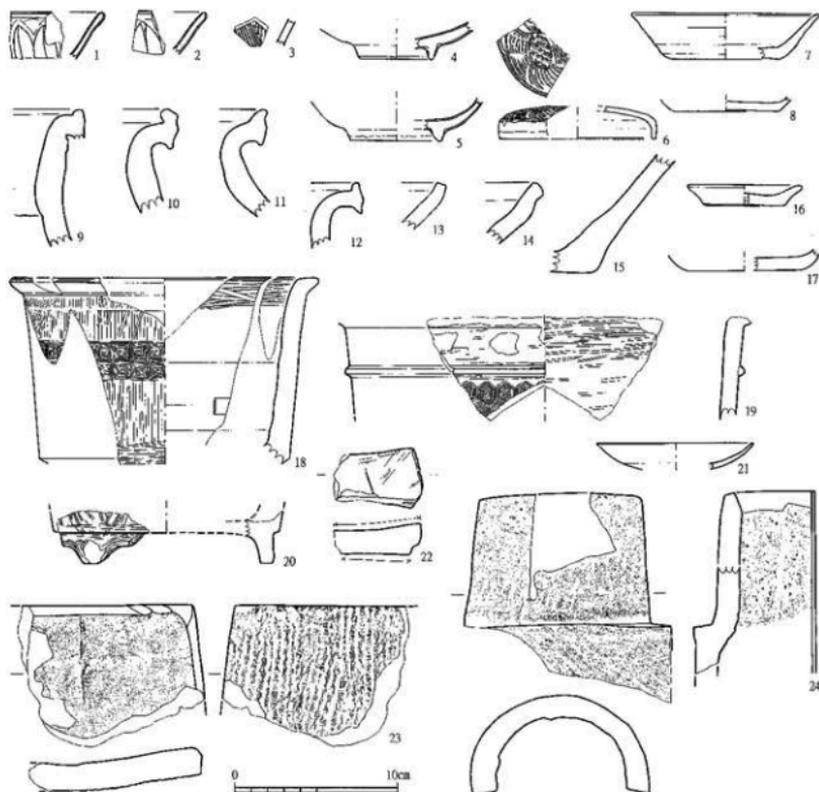
第8節 10区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

層位・遺物	土層部	区画	浮城土層 埋藏	土師器土層		瓦器 土器	常滑		陸奥		東海		在期	瀬戸	中国産 陶磁器	その他 土器・ 陶磁器	瓦	金属製品		石製品	木製品	土製品	鉄片	その他	
				区画	船		鉢	甕	甕	甕	甕	甕						甕	甕						甕
I・浮城	35	13		17		1	1	20	2	5	2	1	33			8	11					1		粘土 器多	
重層	20	14		4				11	1	1	1	1	19			8								4 漆器	
埋藏層	8	3		4				1		1			4			1								5 漆器、瓦器	
浮城層	65	34		65	5		1	30	1	4	3	3	70	3	3	4	12								
浮城層	33	2		14	1			20		4			6		3										
V層	7	4						19	2	3	2		16		4									4 粘土、馬の骨	
SaH	52	25		16																					
SaH	4	1						1																	
埋藏	4		1																						
SD:006	18	17		10	3	3		42	3	3	1	3	42		5	磁器陶器1	1	2	2	4	12	1	4	磁器多、瓦器 多、土器 陶器	
SD:015	2	5	3			1		5		1			6	2		弥生土器1	2			1	11				
SD1				1											1				2				1		
SD2	5	5				1		2					2					1							
SD4													4												
SD5	2																								
S06	1							1											1	2				2	
S07	7	1																							
S08	18	13	1	10	2	3		20	2	2	1	2	34	1	5			1	9	11	4	100	4	7	馬の歯 馬の歯 馬の骨 漆器
SD:1																									
SD:2																									
SD1														1								1			
SD2																									
SD3																			1			2			
SD4																									
SD5																									
SK1								1																	
SK4								1																	
SK5								1																	
SK6	1			4				1																	
SK7	1																								
SK8	1	1		3				2																	
SK9	2																								
SK10	3																								
SK11	1																								
SK12	3																								
SK13																									
SK14																									
SK15																									
SK16								1																	
SK17	1			1				3					1												
SK18																									
SK19	2	3		7				1	1				2									1		漆片	
SK20	1																								
SK22	3	1																							
SK23																									
SK25																									
SK26																									
SK28	1																								
SK32	1																								
SK37								1																	
S41	15	9		30	3	2		10	1	1		1	17		1									4 漆器多	
S42	1																								
S44								2																	
SK3																									
SK4	4	3																							
水の桶内	4	2																							
埋藏	317	165	2	165	19	11	2	242	12	26	11	10	217	3	25	8	22	30	132	16	394	6	31		
埋藏層 (60)	1,040	3,095	26	375	369	626		9,395	666	1,114		12,633	80											1,501	

表111 10区遺物集計表

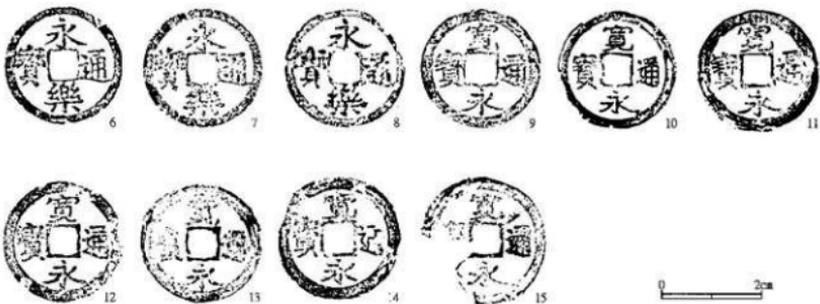
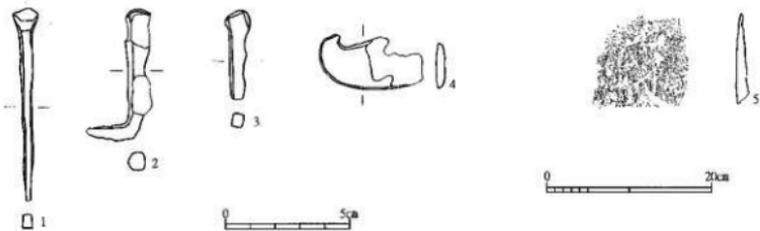


10D-SE1 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	法容 (cm)			調整・特徴	参考図版
						口径	底径	器高		
1	J-79	10E-H1 19・IV層	青磁(銀葉系)	碗	口縁部小片				短溝弁文	107-1
2	J-78	10E-I 22・IV ^a ~5a層	青磁(銀葉系)	碗	口縁部小片				短溝弁文	107-2
3	J-154	10E-I 21・5a層	青磁(同安曇系?)	碗	体部小片				短溝弁文	107-3
4	J-80	10E-I 19・IV層	青磁(銀葉系)	碗	底部1/8		(4.4)		巻付縁筋	107-4
5	J-84	10E-II層	青磁(銀葉系)	碗	底部1/8		(5.6)		巻付縁筋	107-5
6	J-81	10E-H1 19・IVb層	青白磁(中国)	合子	1/8	(9.5)				107-6
7	J-83	10E-I 21・5a層	白磁(中国)	皿	1/5	(11.4)	(7.0)	2.8	口突?	107-7
8	J-82	10E-I層	白磁(中国)	皿	底縁1/4		(6.4)		口突?	107-8
9	lc-276	10E-I 22・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁~体部片				11・胴部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	107-9
10	lc-277	10E-I層不詳	陶器(常滑)	甕	口縁~体部片				口~胴部ヨコナデ、体部ナデ、内面自然釉、6a型式	107-10
11	lc-282	10E-H1 19・層不明	陶器(常滑)	甕	口縁~体部片				11・胴部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	107-12
12	lc-540	10E-I 22・IV層	陶器(常滑)	甕	11身~体部片				口・胴部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	107-11
13	lc-281	10E-I 22・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				口クロ(同転白)調整	107-13
14	lc-280	10E-I 21・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				口クロ(同転白)調整	107-14
15	lc-279	10E-I 22・IV層	陶器(常滑)	甕	底部1/10				ナデ	107-15
16	la-28	10E-I 22・IV層	土師質土器	小皿	1/4	(7.0)	(5.0)	1.3	口クロ調整、同転糸切	107-16
17	la-29	10E-I 19・IV層	土師質土器	皿	底部1/4		(6.8)		口クロ調整、同転糸切、内面ナデ	107-17
18	lb-21	10E-I 23・整地層	瓦質土器	火鉢	上部1/8	(18.4)			5E-SDR出土破片と接合、口内面ナデ・口縁部外面ヘラミガキ、体部1/4位に書文スタンプ、体部内面ナデ・刷付けされた律次皮彫残存	107-18
19	lb-23	10E-G1I 23・II層	瓦質土器	火鉢	体部小片				内外面ヘラミガキ、外面に凸線・書文スタンプ	107-19
20	lb-22	10E-I 22・整地層	瓦質土器	火鉢	胴部		(13.5)		外面ヘラミガキ、内面ナデ	107-20
21	D-79	10E-I 21・6a層	赤絵土器	小皿	1/4	(9.6)			口クロ調整、内面刷金	107-21
22	K-47	10E-H12・IV層	石製品	砥石	端部のみ	5.4-	3.7	1.9	(51g)・、デイスイト	107-22
23	G-2	10E-I 19・V層	瓦・平瓦	部分		8.5+	10.6+	厚1.7	古瀬川河原産(1/3)小片調整ナデ調整(1/2)デ	107-23
24	F-5	10E-I 19(20)・V層	瓦・平瓦	部分		12.7+	12.5+	厚1.4	古瀬川河原産(1/3)小片調整ナデ調整(1/2)デ	107-24

第353図 10E区 基本層出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-176	10E-I 20・IV層	鉄製品・釘	9/10	7.8+	0.6	0.4	頭部幅1.0cm、(9g+)	107-25	
2	Nb-175	10E-I 19・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	6.8+	0.8	0.8	頭部、(10g+)	107-26	
3	Nb-174	10E-I 120・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.6+	0.7	0.6	頭部幅1.0cm、(5g+)	107-27	
4	Nb-173	10E-II Ⅱ層	鉄製品・火打金	端部のみ	4.2+	1.9	0.3	(9g+)	107-28	
5	K-46	10E-II層	石製品・板碑	小片	11.3+	11.9+	1.6	(250g+)、種子「カン」ワ、瀬川貫貫岩	108-1	
6	Nb-85	10E-II層	銅製品・銭貨	完全形	2.5		2.8g	永徳通寶(明・初建1408年)	107-29	
7	Nb-86	10E-II層	銅製品・銭貨	完全形	2.5		2.6g	永徳通寶(明・初建1408年)	107-30	
8	Nb-94	10E-I 22・II層	銅製品・銭貨	ほぼ完全形	2.4		1.6g+	永徳通寶(明・初建1408年)	107-31	
9	Nb-93	10E-I 22・II層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		3.4g	寛永通寶(古寛永銭)	107-32	
10	Nb-92	10E-I 22・II層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.8g	寛永通寶(古寛永銭)	107-33	
11	Nb-88	10E-II層	銅製品・銭貨	完全形	2.5		3.2g	寛永通寶(古寛永銭)	107-34	
12	Nb-91	10E-I 22・II層	銅製品・銭貨	ほぼ完全形	2.5		3.0g+	寛永通寶(古寛永銭)	107-35	
13	Nb-87	10E-II層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		3.6g	寛永通寶(古寛永銭)	107-36	
14	Nb-90	10E-II層	銅製品・銭貨	完全形	2.5		3.6g	寛永通寶(古寛永銭)	107-37	
15	Nb-89	10E-II層	銅製品・銭貨	4/5	2.4		2.4g+	寛永通寶(古寛永銭)	107-38	

第354図 10E区 基本層出土遺物 (2)

(註1) 集計表の「常滑」「瀬川」「東海」「在地」産の他、「その他土器・陶磁器」の中の須恵系陶器1点を含む。

(註2) 産地不明の須恵系陶器1点を含む。

(註3) 久保智康：1999による。擬漢式鏡1類は14世紀初頃ごろに出現するとされている。

仙台市文化財調査報告書第281集

洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第1分冊 本文 編(1)

2005年3月

発行 **仙台市教育委員会**

仙台市青葉区湯分町三丁目7-1

文化財課 022 (214) 8893~4

印刷 **株式会社 建設プレス**

仙台市青葉区新立三丁目2-10

TEL. 022 (302) 0177

